

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第622集

しん でん  
新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査

2014

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
（公財）岩手県文化振興事業団

# 新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査



## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県遠野市綾織町の東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）に関連して平成23・24年度に発掘調査を実施した、新田Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査で本遺跡は、縄文時代前期中葉～晩期後半に集落が営まれていたことが明らかとなりました。特に西区の縄文時代前期中葉～晩期後半に埋没した沢跡から得られた情報は、岩手県における低湿地遺跡を考える上で貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、遠野市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成26年2月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 池田 克典

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県遠野市綾織町下綾織 31 地割 147-1 地内ほかに所在する新田Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 今回の調査は、東北横断自動車道釜石秋田線(遠野～東和間)の施行に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の指導・調整のもとに、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受け、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡コードは MF53-0391 である。
- 4 野外調査及び室内整理期間、遺跡略号、調査担当者は次の通りである。

	年度	略号	期間	面積	担当者
野外調査	H23	SDⅡ-11	2011.10.04～12.07	921㎡	北田 勲・高木 晃
	H24	SDⅡ-12	2012.04.10～08.30	3,225㎡	北田 勲・高木 晃・巴 亜子・野中裕貴
室内整理	H23	SDⅡ-11	2011.11.01～2012.03.31	-	北田 勲
	H24	SDⅡ-12	2012.05.07～2013.03.31	-	北田 勲・高木 晃・巴 亜子・野中裕貴

- 5 本報告書の作成は、北田・高木・巴・野中が本文原稿・遺構図化、北田が遺物図化を行い、各々に文責を記した。またⅠ調査に至る経過は国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、Ⅱ-2遺跡周辺の地形・地質を岩手県立大学吉木岳哉氏、Ⅵ自然科学的分析は1を株式会社加速器分析研究所、2～4を古代の森研究舎、5をパリノ・サーヴェイ株式会社が行った。全体の編集は北田が行った。
- 6 業務委託は以下の通りである。

	委託先	委託内容
(1)	(株)栄組	表土除去・排土処理等
(2)	(株)イチイ土木コンサルタント	座標原点の測量
(3)	東邦航空(株)	航空写真撮影
(4)	(株)加速器分析研究所	放射性炭素年代測定
(5)	古代の森研究舎	種実・樹種同定、花粉分析
(6)	パリノ・サーヴェイ(株)	昆虫同定
(7)	花崗岩研究会	石器類石材同定
(8)	(株)ラング	石器・土製品実測・トレース、遺構断面図トレース、等高線図

- 7 本書では以下の地形図・地質図を使用した。
  - ・「1/25,000 地形図 小友」、「1/50,000 地形図 大迫・土淵・人首・遠野」(国土地理院)
  - ・「地形分類図 遠野」『土地分類基本調査 遠野』(岩手県)
- 8 野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関・方々から御指導・ご助言・ご協力をいただいた(敬称略・五十音順)。  
荒川隆史(新潟県教育庁)、岡村道雄(奥松島縄文村歴史資料館)、上條信彦(弘前大学)、黒田篤史(遠野市教育委員会)、小林克(秋田県埋蔵文化財センター)、小向裕明(遠野市教育委員会)、齋藤邦雄(岩手県立博物館)、関根達人(弘前大学)、名久井文明(一芦舎)、羽柴直人(岩手県立博物館)、松本建速(東海大学)、三ツ井朋子((財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)
- 9 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 調査成果の一部については、平成23年度調査概報(岩埋文第603集)、平成24年度調査概報(第620集)、所報わらびて、現地説明会資料等に発表してきたが、本書の記載内容が優先するものである。

## 凡 例

### 1 遺構図の用例は次の通りである（凡例図参照）。





















- (1) 遺構実測図の縮尺は竪穴住居跡の平面・断面図 1/60、炉平面・断面図 1/40、土坑・柱穴状ピット平面・断面図 1/50 で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。
- (2) 推定線は破線で表した。また、遺構同士の切り合いは線種を変えて表現した。
- (3) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構堆積土などにアラビア数字を使用した。
- (4) 土層色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。
- (5) 遺構図中の「P」は土器、「S」は磔を表している。

### 2 遺物実測図の用例は次の通りである（凡例図参照）。

- (1) 遺物実測図の縮尺は土器 1/3、石器・土製品・石製品 2/3 など表した。
- (2) 土器のうち、須恵器は断面を黒色とした。黒色処理は内外面にスクリーントーンで示した。

### 3 写真図版の用例は次の通りである。

- (1) 遺構写真図版については、基本的に平面及び断面写真をセットとし掲載した。
- (2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じているが、紙数の制約上やむを得ず変えているものがある。

遺構使用トーン凡例				遺物使用トーン凡例				
	Ⅱa層	K30%		Ⅳ層	K50%		敲打痕	
	Ⅱb層	K40%		炭化物層	K80%		節理	
	Ⅱb1層	K40%		焼土層	K20%		付着物	K70%
	Ⅱb2層	K20%		黄褐色ブロック範囲	K10%		磨痕	K30%
	Ⅱb3層	K30%		堅果類範囲	K30%			
	Ⅱb4層	K50%		砂磔層				
	Ⅱb5層	K70%		To-Cu火山灰層				
	Ⅲ層	K10%		磔				

# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地・環境	1
1	遺跡の位置	1
2	遺跡周辺の地形・地質	3
(1)	地質概要	3
(2)	地形	3
(3)	新田Ⅱ遺跡の地形	6
3	調査区内の堆積状況	7
(1)	調査区の現況と試掘	7
(2)	調査区の基本層序	12
4	歴史的環境・過去の調査	14
III	調査・整理の方法	18
1	野外調査方法	18
(1)	調査方法	18
(2)	野外調査経過	18
2	整理方法	20
(1)	遺構の整理	20
(2)	遺物の整理	20
(3)	遺物写真撮影	20
(4)	整理経過	21
3	広報活動	21
IV	検出遺構	27
1	全体概要	27
2	東区	27
(1)	概要	27
(2)	SI07 竪穴住居跡	28
(3)	SK101 土坑	29
(4)	北西部小ピット群	29
(5)	北西部遺物包含層	30
3	西区	30
(1)	概要	30
(2)	NR06 沢跡及び関連遺構	31
(3)	NR07 沢跡及び関連遺構	32

(4) NR05 沢跡及び関連遺構 .....	32
(5) NR04 沢跡及び関連遺構 .....	33
(6) NR03 沢跡及び関連遺構 .....	34
(7) NR02 沢跡及び関連遺構 .....	36
(8) NR01 沢跡及び関連遺構 .....	36
(9) SR03 土器集積遺構 .....	37
(10) 溝        跡 .....	37
V 出土遺物 .....	61
1 縄文時代 .....	61
(1) 縄文土器 .....	61
(2) 土製品 .....	68
(3) 石器 .....	69
(4) 石製品 .....	73
(5) 木製品 .....	73
(6) 昆虫 .....	73
(7) 動物遺存体 .....	73
(8) 植物遺存体 .....	73
2 平安時代及び平安時代以降 .....	77
VI 自然科学的分析 .....	245
1 放射性炭素年代測定 .....	245
2 花粉分析 .....	257
3 種実同定 .....	269
4 樹種同定 .....	289
5 昆虫同定 .....	295
VII 調査のまとめ .....	298
1 西区流路の変遷について .....	298
2 西区土器集積遺構について .....	299
3 出土堅果類について .....	300
4 総括 .....	301
報告書抄録 .....	409

## 図版目次

### 凡例図

第 1 図	遺跡位置図	2	第 36 図	西区・剥片出土分布図	80
第 2 図	地形地質図 (1)	8	第 37 図	西区・堅果類出土分布図 (1)	81
第 3 図	地形地質図 (2)	9	第 38 図	西区・堅果類出土分布図 (2)	82
第 4 図	地形地質図 (3)	10	第 39 図	西区・堅果類出土分布図 (3)	83
第 5 図	地形地質図 (4)	11	第 40 図	東区・SI07・遺構外	84
第 6 図	基本層序模式図	12	第 41 図	西区・SR01・SR02・SR03 (1)	85
第 7 図	周辺の遺跡図	15	第 42 図	西区・SR03 (2)	86
第 8 図	調査区全体図	22	第 43 図	西区・SR03 (3)・P101・1D区	87
第 9 図	東区全体図	23	第 44 図	西区・1E区・2A区 (1)	88
第 10 図	西区全体図	24	第 45 図	西区・2A区 (2)・2B区 (1)	89
第 11 図	西区等高線図	25	第 46 図	西区・2B区 (2)	90
第 12 図	西区平安時代以降全体図	26	第 47 図	西区・2B区 (3)	91
第 13 図	東区・SI07 堅穴住居跡 (1)	42	第 48 図	西区・2B区 (4)	92
第 14 図	東区・SI07 堅穴住居跡 (2)	43	第 49 図	西区・2B区 (5)	93
第 15 図	東区・SK101 土坑、37G 区包含層、 北西部ピット	44	第 50 図	西区・2B区 (6)	94
第 16 図	西区・セクション位置図 セクション A	45	第 51 図	西区・2B区 (7)	95
第 17 図	西区・セクション B~D	46	第 52 図	西区・2C区 (1)	96
第 18 図	西区・セクション E (1)	47	第 53 図	西区・2C区 (2)	97
第 19 図	西区・セクション E (2)・F・G	48	第 54 図	西区・2C区 (3)・2D区 (1)	98
第 20 図	西区・セクション H	49	第 55 図	西区・2D区 (2)	99
第 21 図	西区・セクション I・J・K	50	第 56 図	西区・2E区・2F区	100
第 22 図	西区・セクション L・M・N	51	第 57 図	西区・2G区・3A区 (1)	101
第 23 図	西区・セクション O・P	52	第 58 図	西区・3A区 (2)	102
第 24 図	西区・セクション Q・R・S	53	第 59 図	西区・3A区 (3)	103
第 25 図	西区・層位分布図	54	第 60 図	西区・3A区 (4)・3B区 (1)	104
第 26 図	西区・NR06・07・05 沢跡関連遺構	55	第 61 図	西区・3B区 (2)	105
第 27 図	西区・NR04 沢跡関連遺構	56	第 62 図	西区・3B区 (3)	106
第 28 図	西区・NR03 沢跡関連遺構	57	第 63 図	西区・3B区 (4)	107
第 29 図	西区・SR03 土器集積遺構	58	第 64 図	西区・3B区 (5)	108
第 30 図	西区・P101・102 ピット	58	第 65 図	西区・3B区 (6)	109
第 31 図	西区・SD01・03・09・10 溝跡	59	第 66 図	西区・3B区 (7)	110
第 32 図	西区・SD02・04・06~08 溝跡	60	第 67 図	西区・3B区 (8)	111
第 33 図	堅果類の部位名称	74	第 68 図	西区・3B区 (9)	112
第 34 図	西区・土器出土量分布図	78	第 69 図	西区・3B区 (10)	113
第 35 図	西区・土器時期別分布図	79	第 70 図	西区・3B区 (11)	114
			第 71 図	西区・3B区 (12)	115
			第 72 図	西区・3B区 (13)	116

第 73 図	西区・3 B 区 (14) ……………	117	第 107 図	西区・6 C 区・6 D 区 (1) ……………	151
第 74 図	西区・3 B 区 (15) ……………	118	第 108 図	西区・6 D 区 (2) ……………	152
第 75 図	西区・3 B 区 (16) ……………	119	第 109 図	西区・6 D 区 (3)・6 E 区・ 6 F 区・7 C 区・7 D 区 ……………	153
第 76 図	西区・3 B 区 (17) ……………	120	第 110 図	ミニチュア土器・底部圧痕 (1) ……………	154
第 77 図	西区・3 B 区 (18) ……………	121	第 111 図	底部圧痕 (2) ……………	155
第 78 図	西区・3 B 区 (19) ……………	122	第 112 図	底部圧痕 (3) ……………	156
第 79 図	西区・3 B 区 (20) ……………	123	第 113 図	底部圧痕 (4) ……………	157
第 80 図	西区・3 B 区 (21) ……………	124	第 114 図	出土土製品 (1) ……………	158
第 81 図	西区・3 B 区 (22) ……………	125	第 115 図	出土土製品 (2) ……………	159
第 82 図	西区・3 B 区 (23) ……………	126	第 116 図	出土土製品 (3) ……………	160
第 83 図	西区・3 B 区 (24) ……………	127	第 117 図	出土土製品 (4) ……………	161
第 84 図	西区・3 B 区 (25)・3 C 区 (1) ……	128	第 118 図	出土土製品 (5) ……………	162
第 85 図	西区・3 C 区 (2) ……………	129	第 119 図	出土石器 (1) ……………	163
第 86 図	西区・3 C 区 (3) ……………	130	第 120 図	出土石器 (2) ……………	164
第 87 図	西区・3 C 区 (4) ……………	131	第 121 図	出土石器 (3) ……………	165
第 88 図	西区・3 C 区 (5) ……………	132	第 122 図	出土石器 (4) ……………	166
第 89 図	西区・3 C 区 (6)・3 D 区 (1) ……	133	第 123 図	出土石器 (5) ……………	167
第 90 図	西区・3 D 区 (2) ……………	134	第 124 図	出土石器 (6) ……………	168
第 91 図	西区・3 D 区 (3) ……………	135	第 125 図	出土石器 (7) ……………	169
第 92 図	西区・3 D 区 (4)・3 E 区・F 区・ 3 G 区 (1) ……………	136	第 126 図	出土石器 (8) ……………	170
第 93 図	西区・3 G 区 (2)・ 4 A 区・4 B 区 (1) ……………	137	第 127 図	出土石器 (9) ……………	171
第 94 図	西区・4 B 区 (2) ……………	138	第 128 図	出土石器 (10) ……………	172
第 95 図	西区・4 B 区 (3) ……………	139	第 129 図	出土石器 (11) ……………	173
第 96 図	西区・4 B 区 (4)・4 C 区 (1) ……	140	第 130 図	出土石器 (12) ……………	174
第 97 図	西区・4 C 区 (2) ……………	141	第 131 図	出土石器 (13) ……………	175
第 98 図	西区・4 C 区 (3) ……………	142	第 132 図	出土石器 (14) ……………	176
第 99 図	西区・4 C 区 (4) ……………	143	第 133 図	出土石器 (15) ……………	177
第 100 図	西区・4 C 区 (5) ……………	144	第 134 図	出土石器 (16) ……………	178
第 101 図	西区・4 C 区 (6) ……………	145	第 135 図	出土石製品 ……………	179
第 102 図	西区・4 D 区 ……………	146	第 136 図	平安時代の土器 (1) ……………	180
第 103 図	西区・4 E 区・4 F 区・4 G 区・ 5 B 区 (1) ……………	147	第 137 図	平安時代の土器 (2) ……………	181
第 104 図	西区・5 B 区 (2) ……………	148	第 138 図	古新田沢の変遷模式図 ……………	298
第 105 図	西区・5 B 区 (3)・5 C 区 (1) ……	149			
第 106 図	西区・5 C 区 (2)・5 D~G 区 ……	150			



## 表 目 次

第 1 表 周辺の遺跡……………16・17	第 21 表 楔形石器観察表……………225
第 2-1 表 縄文土器観察表……………182	第 22 表 接合資料観察表……………226
第 2-2 表 縄文土器（ミニチュア）観察表……………214	第 23 表 石核観察表……………227
第 3 表 土器底部観察表……………216	第 24 表 剥片チップ観察表……………227
第 4 表 土偶観察表……………219	第 25 表 石斧類観察表……………227
第 5 表 土製垂飾観察表……………219	第 26 表 礫器類観察表……………227
第 6 表 土製耳飾観察表……………220	第 27 表 敲磨器類観察表……………228
第 7 表 土版観察表……………220	第 28 表 台石類観察表……………228
第 8 表 球状土製品観察表……………220	第 29 表 石製品観察表……………228
第 9 表 土錘観察表……………220	第 30 表 木製品観察表……………228
第 10 表 土器片利用円盤状土製品観察表……………221	第 31 表 平安時代の土器観察表……………229
第 11 表 焼成粘土塊観察表……………222	第 32 表 昆虫観察表……………231
第 12 表 不明土製品観察表……………222	第 33 表 焼骨観察表……………231
第 13 表 尖頭器観察表……………223	第 34 表 樹木サンプル観察表……………231
第 14 表 石鏃観察表……………223	第 35 表 オニグルミ観察表……………232
第 15 表 石錐観察表……………223	第 36 表 クリ観察表……………236
第 16 表 石匙観察表……………224	第 37 表 トチノキ観察表……………238
第 17 表 篋状石器観察表……………224	第 38 表 その他種実観察表……………242
第 18 表 スクレイパー類観察表……………224	第 39 表 植物葉観察表……………244
第 19 表 二次加工ある剥片観察表……………224	第 40 表 サルノコシカケ観察表……………244
第 20 表 微細剝離痕ある剥片観察表……………225	

## 写真図版目次

写真図版 1 航空写真・調査区近景……………305	写真図版 16 西区・セクション J・K……………320
写真図版 2 西区・晩期沢跡堆積状況……………306	写真図版 17 西区・セクション L・M・N・O……………321
写真図版 3 西区・晩期沢跡堅果類出土状況……………307	写真図版 18 西区・セクション P・Q……………322
写真図版 4 西区・SR03 土器集積遺構……………308	写真図版 19 西区・セクション R・S……………323
写真図版 5 東区・SI07 竪穴住居跡……………309	写真図版 20 西区・NR06・07・05 沢跡関連遺構（1）……………324
写真図版 6 東区・SI07 竪穴住居跡……………310	写真図版 21 西区・NR06・07・05 沢跡関連遺構（2）……………325
写真図版 7 東区・SK101 土坑・37G 包含層・ 小ピット群……………311	写真図版 22 西区・NR05・07・06 沢跡地山面……………326
写真図版 8 東区・現道部分状況……………312	写真図版 23 西区・NR04 沢跡関連遺構（1）……………327
写真図版 9 西区・航空写真・調査区全景……………313	写真図版 24 西区・NR04 沢跡関連遺構（2）……………328
写真図版 10 西区・セクション A・B……………314	写真図版 25 西区・NR04 沢跡関連遺構（3）……………329
写真図版 11 西区・セクション B・C……………315	写真図版 26 西区・NR04 沢跡関連遺構（4）……………330
写真図版 12 西区・セクション D・E……………316	写真図版 27 西区・NR03 沢跡関連遺構（1）……………331
写真図版 13 西区・セクション E……………317	写真図版 28 西区・NR03 沢跡関連遺構（2）……………332
写真図版 14 西区・セクション F・G……………318	写真図版 29 西区・NR03 沢跡関連遺構（3）……………333
写真図版 15 西区・セクション H・I……………319	



写真図版 30	西区・NR01・02 沢跡関連遺構（1）……………334	写真図版 69	西区・3D区（1）……………373
写真図版 31	西区・NR01・02 沢跡関連遺構（2）……………335	写真図版 70	西区・3D区（2）・ 3E区・3F区……………374
写真図版 32	西区・SR03 土器集積遺構……………336	写真図版 71	西区・3G区・ 4A区・4B区（1）……………375
写真図版 33	西区・SD01・02 溝跡……………337	写真図版 72	西区・4B区（2）……………376
写真図版 34	西区・SD03・04・10 溝跡……………338	写真図版 73	西区・4B区（3）・4C区（1）…377
写真図版 35	西区・SD06～09 溝跡……………339	写真図版 74	西区・4C区（2）……………378
写真図版 36	西区・作業風景など……………340	写真図版 75	西区・4C区（3）……………379
写真図版 37	東区・SI07・遺構外出土遺物 西区・SR01・SR02 出土遺物……………341	写真図版 76	西区・4C区（4）……………380
写真図版 38	西区・SR03（1）……………342	写真図版 77	西区・4C区（5）・ 4D～F区・5B区（1）……………381
写真図版 39	西区・SR03（2）・P101・ 1D区・1E区・2A区（1）……………343	写真図版 78	西区・5B区（2）……………382
写真図版 40	西区・2A区（2）・2B区（1）…344	写真図版 79	西区・5B区（3）・5C区（1）…383
写真図版 41	西区・2B区（2）……………345	写真図版 80	西区・5C区（2）・ 5D～G区・6C区（1）……………384
写真図版 42	西区・2B区（3）……………346	写真図版 81	西区・6C区（2）・6D区（1）…385
写真図版 43	西区・2B区（4）……………347	写真図版 82	西区・6D区（2）・6E区・6F区・ 7C区・7D区……………386
写真図版 44	西区・2B区（5）……………348	写真図版 83	西区・ミニチュア土器、 出土土製品（1）……………387
写真図版 45	西区・2B区（6）・2C区（1）…349	写真図版 84	出土土製品（2）……………388
写真図版 46	西区・2C区（2）・2D区（1）…350	写真図版 85	出土土製品（3）……………389
写真図版 47	西区・2D区（2）……………351	写真図版 86	出土石器（1）……………390
写真図版 48	西区・2E～G区・3A区（1）…352	写真図版 87	出土石器（2）……………391
写真図版 49	西区・3A区（2）……………353	写真図版 88	出土石器（3）……………392
写真図版 50	西区・3A区（3）……………354	写真図版 89	出土石器（4）……………393
写真図版 51	西区・3A区（4）・3B区（1）…355	写真図版 90	出土石器（5）……………394
写真図版 52	西区・3B区（2）……………356	写真図版 91	出土石器（6）……………395
写真図版 53	西区・3B区（3）……………357	写真図版 92	出土石器（7）……………396
写真図版 54	西区・3B区（4）……………358	写真図版 93	出土石器（8）……………397
写真図版 55	西区・3B区（5）……………359	写真図版 94	出土石器（9）……………398
写真図版 56	西区・3B区（6）……………360	写真図版 95	出土石器（10）・ 出土土製品・出土木製品……………399
写真図版 57	西区・3B区（7）……………361	写真図版 96	平安時代の土器……………400
写真図版 58	西区・3B区（8）……………362	写真図版 97	昆虫試料・焼骨試料（1）……………401
写真図版 59	西区・3B区（9）……………363	写真図版 98	焼骨試料（2）・樹木試料（1）…402
写真図版 60	西区・3B区（10）……………364	写真図版 99	樹木試料（2）・堅果類（1）…403
写真図版 61	西区・3B区（11）……………365	写真図版 100	堅果類（2）……………404
写真図版 62	西区・3B区（12）……………366	写真図版 101	堅果類（3）……………405
写真図版 63	西区・3B区（13）……………367	写真図版 102	堅果類（4）……………406
写真図版 64	西区・3B区（14）……………368	写真図版 103	堅果類（5）・植物葉（1）……………407
写真図版 65	西区・3B区（15）・3C区（1）…369	写真図版 104	植物葉（2）・菌類……………408
写真図版 66	西区・3C区（2）……………370		
写真図版 67	西区・3C区（3）……………371		
写真図版 68	西区・3C区（4）……………372		

## I 調査に至る経過

「新田Ⅱ遺跡」は、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

東北横断自動車道は、釜石市を起点として、遠野市、奥州市を經由し、花巻市にて東北縦貫自動車道に合流し、さらに北上市にて分岐し、西和賀町、横手市、大仙市を經由して秋田市に至る総延長211kmの高規格幹線道路である。

本路線は、釜石港、大船渡港といった重要港湾や観光資源豊富な陸中海岸国立公園を有する三陸地方拠点都市地域と、先端技術産業の集積が著しい北上中部地方拠点都市地域等の岩手県内と秋田県を結び、周辺地域のみならず岩手・秋田両県全域の産業・経済発展を担うこと並びに緊急時における代替・迂回路等のネットワーク機能の強化を目的に平成10年度に遠野～宮守間で整備計画、宮守～東和間では施行命令が、平成15年度には直轄で整備することが決定し、平成24年11月には宮守～東和（23.7km）が供用している。

当事業の施行に係わる埋蔵文化財の取扱いについては、岩手河川国道事務所から平成22年11月1日付け国東整岩二工第77号「道路事業における埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成22年11月11日から12日にかけて試掘調査を実施し、工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成22年11月24日付け教生第1015号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答してきた。

その結果を踏まえて国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所は、岩手県教育委員会の調整を受けて、平成24年4月9日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所)

## II 遺跡の立地・環境

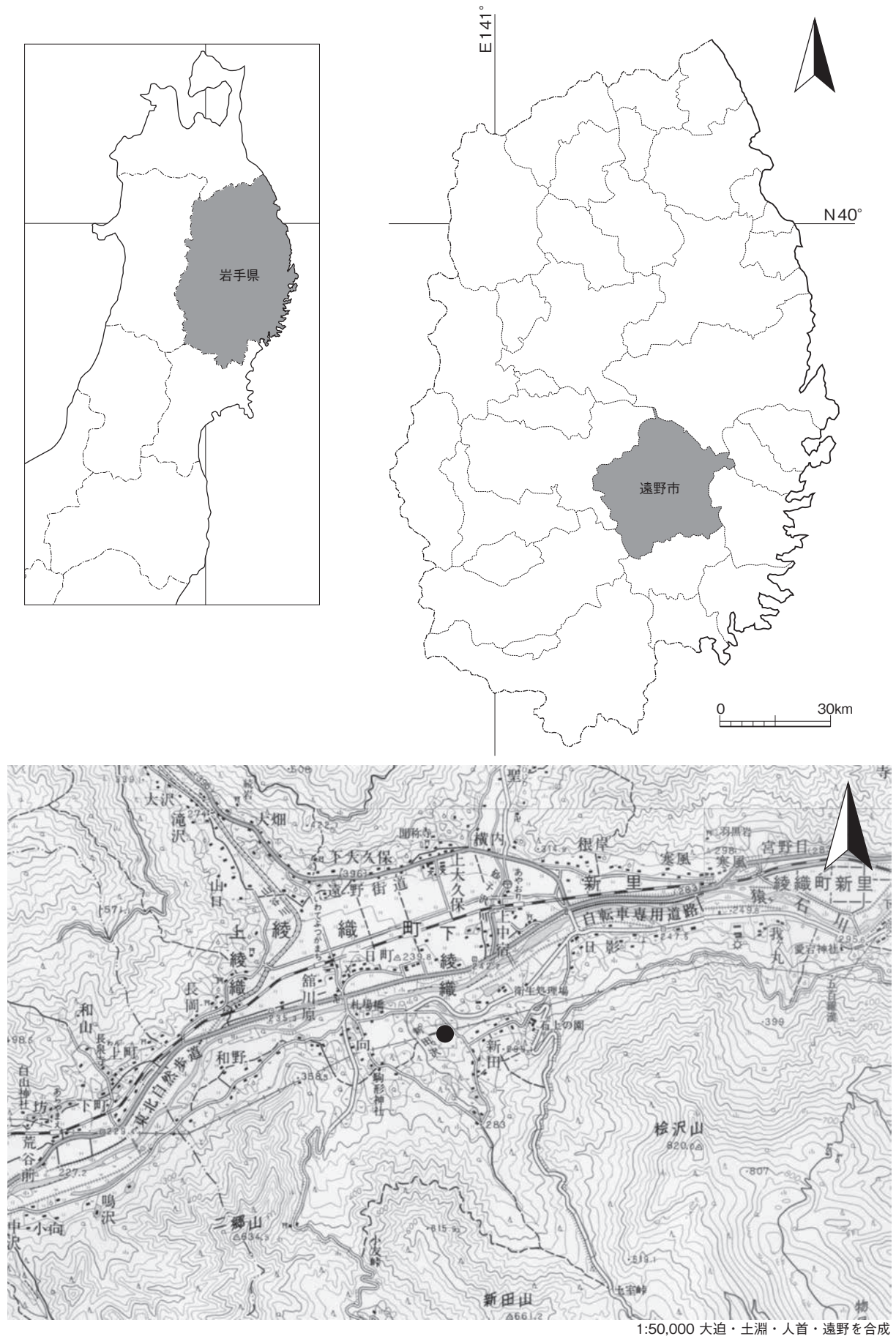
### 1 遺跡の位置

新田Ⅱ遺跡は岩手県遠野市綾織町下綾織31地割147-1地内ほかに所在し、国土地理院発行50,000分の1地形図NJ-54-14-9（一関9号）「人首」の図幅に含まれ、北緯39度19分03秒、東経141度27分56秒付近に位置する。

本遺跡は、JR釜石線岩手二日町駅から南東約1.3kmに位置し、猿ヶ石川左岸の河岸段丘上及び新田沢によって開削された谷底平野に立地している。現況は道路・水田で、標高は242～262m前後である。

遺跡の所在する遠野市は、北上高地の中南部に位置し、北は宮古市川井、南は奥州市江刺区・住田町、東は上閉伊郡大槌町・釜石市、西は花巻市東和町の4市2町と接した東西、南北ともに約38km、総面積は825.6km<sup>2</sup>である。標高1,917mの早池峰山を最高峰に、標高300～700mの高原群が周囲を取り囲んでいる。市域の中央に遠野盆地があり、中心市街地が形成されている。また、北上川の支流である猿ヶ石川は、早瀬川、小友川、宮守川、達曾部川など大小多くの河川を合流しながら西流しており、これらの河川沿いを中心に耕地と集落が営まれている。土地利用は山林が51.2%と最も多く、田畑8.6%が次いでいる。

1 遺跡の位置



第1図 遺跡位置図



主な産業は農林業で、米を中心に、野菜、ホップや葉たばこなどの高原作物、畜産が複合経営されており、日本一の乗用馬生産地として知られている。

遠野市は、「平成の大合併」により、平成17年10月1日に宮守村と合併している。

人口は29,875人(平成24年3月1日現在)で、岩手県全体の2.3%を占めている(2011 遠野市勢要覧・遠野市HPから引用転載)。

## 2 遺跡周辺の地形・地質

### (1) 地 質 概 要

新田Ⅱ遺跡は、遠野市街地から西へ約4km、遠野市綾織町下綾織の新田集落に位置する。新田集落は猿ヶ石川の左岸(南岸)に形成された河成段丘面および山麓緩斜面に立地し、それらの地形面を開析して流れる新田沢の谷底低地から新田Ⅱ遺跡が見出された。

新田沢流域の地質は白亜紀の花崗岩類からなる(第2-1図)。これらの花崗岩類は著しく風化しており、道路法面や溪岸の露頭では、岩石全体が完全に風化したマサ、あるいは、マサの中にコアストーンが浮いている状態で観察される。猿ヶ石川から見て新田集落よりも下流側(西側)に位置する二郷山の斜面には、主に泥岩からなるペルム系の堆積岩類が分布する。この斜面下方から伸びる緩斜面が新田Ⅱ遺跡周辺の段丘面・緩斜面に地形的に連続しているように見えるが、猿ヶ石川の流下方向や緩斜面の広がり具合から見て、二郷山の斜面に由来するペルム系の礫が新田Ⅱ遺跡に流入することは考えにくい(第2-2図)。また、宮守周辺などの北上山地南西縁部の小起伏地には、花崗岩などの基盤岩を覆って鮮新統の砂礫層が分布することが知られている(阿子島・宮城1976)。しかし、新田沢流域のなかで最も鮮新統が分布する可能性が高そうな土室峠においても花崗岩(マサ)以外の地質は確認されず、付近の溪床でも花崗岩以外の礫が見つからないことから、新田沢流域に鮮新統は分布していないと考えられる。

このような流域地質のため、新田沢の上～中流域の谷底堆積物はすべて花崗岩由来の砂礫層によって構成されている。一方、新田沢の下流域は猿ヶ石川の河成段丘を開析している。猿ヶ石川の流域には、花崗岩類の他に、泥岩・砂岩・礫岩・石灰岩などからなる中古生界の堆積岩が分布する。そのため、猿ヶ石川の現河床や河成段丘礫層は多くの岩種の礫からなる。このような地質・地形状況を反映して、新田沢下流域の谷底堆積物は段丘礫層に由来する各種岩質の円～亜円礫によって構成されるのに対して、上～中流域の谷底は花崗岩礫のみによって構成され、礫種構成・礫径に明らかな差異がある。

### (2) 地 形

新田集落周辺の地形分類図を第2-2図に示す。この地域の地形は、【山地斜面】、【山麓緩斜面】、【河成面】の大きく3つに分けられる。山麓緩斜面はさらに2面に分けられ、河成面は2面の【河成段丘面】と【沖積面】に分類される。以下では、<1>で各地形面の形態的特徴を記述し、<2>で形成時期を考察する。

#### <1> 地形区分

##### 【山地斜面】

第2-2図の等高線にも表れているように、花崗岩分布域と二郷山周辺のペルム系堆積岩分布域では、山地斜面の傾斜や形状が異なる。

花崗岩分布域の場合、山地斜面の傾斜は20～40°程度で、頻繁に流水に洗われる溪岸を除くと全体的に滑らかな形態を呈する。土室峠などの分水界近くの緩傾斜地では、花崗岩は完全にマサ化し、コアストーンも稀である。これに対して、傾斜30°以上の山地斜面中腹部では、風化した花崗岩から洗い出されたコアストーンやトアが点在し、山地斜面下部では上方の斜面から移動してきたコアストーン起源の花崗岩巨礫が累重している。遠野の観光名所の一つである五百羅漢は、このような斜面中腹～下部のトアやコアストーンに像を刻んだものである。

#### 【山麓緩斜面】

山地斜面の下方に、山地斜面から漸移するように山麓緩斜面が広がる。谷型の山地斜面の下方では扇状地状を呈することもある。山麓緩斜面（扇状地状の緩斜面の場合もある）と山地斜面が形態的に滑らかに連続することから、山麓緩斜面を形成したプロセスは土石流のような激しい物質移動ではなく、山地斜面を滑らかにした地形形成プロセスと同じであった可能性が高い。

山麓緩斜面は、周囲の地形面との比高から、少なくとも【高位緩斜面】と【低位緩斜面】の2面に細分できる。2面の山麓緩斜面は、後述する2面の河成段丘面と密接な関係を持つ。高位緩斜面は河成段丘のL1面と形態的に連続し、低位緩斜面は河成段丘のL2面群と形態的に連続する。L1面構成層と高位緩斜面構成層、L2面群構成層と低位緩斜面構成層の堆積時期の前後関係を示す露頭は確認できていないが、地形的連続性から見て、それぞれ同時期の堆積物と考えられる。

#### 【河成段丘面】

河成段丘面は、高位の【L1面】と低位の【L2面群】に区分できる。L1面は高位緩斜面と形態的に連続しており、両地形面の境界は特定できない。第2図2では、比較的平坦なものをL1面に、傾斜のあるものを高位緩斜面に分類している。L2面群は一見すると緩斜面に見えることが多いが、そのような場合でも猿ヶ石川が運搬した円・亜円礫が観察されることから、小さな段差で区切られた多数の段丘面の集合体と考えられる。

新田集落付近では、L1面は標高260m前後に分布する。新田Ⅱ遺跡付近の新田沢両岸にはL1面が広く残されており、新田沢右岸の綾織新田遺跡の立地する平坦地もL1面に分類される。新田Ⅱ遺跡の脇、新田沢左岸の崖に現れたL1面構成層を第3-1図に示す。L1面構成層は、円・亜円礫を主とする厚さ約1mの砂礫層と、その上位の厚さ約1mの砂質層からなり、それらを覆って厚さ約1mの土壌が堆積する。ここでのL1面構成層の最大礫径は約50cmで、径10～20cmの礫が目立つ。L1面構成層を大規模な露頭で観察できていないが、第3-1図の露頭で観察された礫は現在の猿ヶ石川の河床礫よりも径が大きいように見える。

L2面群は、新田集落付近では標高約250mから約235mにかけて、猿ヶ石川側に傾く緩斜面のように分布する。L2面群は新田沢に沿っても形成されている。新田沢沿いのLoc.1では、谷底とL2面との間に約6m、L2面と高位緩斜面との間に約10mの比高がある（第3-2図）。したがって、高位緩斜面形成後（L1面形成後）からL2面形成期までの間に、この場所では新田沢が10m以上下刻したことが分かる。

#### 【沖積面】

猿ヶ石川沿いに広がる平坦な水田や、岩手二日町駅周辺の集落が乗る面である。本報告では、L2面よりも新しい河成面はすべて沖積面に分類した。新田集落付近では標高約240mで、L2面群の最低位の面との比高は10mもない。猿ヶ石川の両岸のL2面の傾斜からみて、沖積面が埋谷によって形成されたとは考えにくく、侵食性の河成面と考えられる。

## < 2 > 地形編年

遠野地域の河成段丘面・山麓緩斜面に関する先行研究として、菅原・高橋（1974）がある。本報告のL2面群が菅原・高橋（1974）の遠野段丘Ⅱに対比されるが、緩斜面の地形区分は本報告と大きく異なるため対比できない。菅原・高橋（1974）では地形面の形成時期に関して具体的な資料が示されていないことから、以下の考察では菅原・高橋（1974）に言及しない。

北海道から九州に至るまで、河川の中～上流域に最終氷期の河成段丘面が見られる場合には、段丘面は大きく2群に区分されることが一般的であり、上位の段丘面はほぼ1段、下位は複数の段丘面によって構成されることが多い。これは本地域の段丘区分、L1面とL2面群にも当てはまる。他地域では、上位の段丘面の形成時期が最終氷期前半の亜氷期、下位の段丘面群の形成時期が最終氷期後半の亜氷期であることが確認されている。これを新田集落付近の河成段丘に当てはめると、L1面が最終氷期前半の亜氷期に形成されて約6万年前に離水した段丘面であり、L2面群は最終氷期後半の亜氷期に形成されて（最低位の面が）約1.2万年前に離水した段丘面ということになる。

山麓緩斜面についても、高位緩斜面がL1面形成期すなわち最終氷期前半の亜氷期に、低位緩斜面がL2面群形成期すなわち最終氷期後半の亜氷期にそれぞれ形成されたと考えられる。いずれも寒冷的な気候の時期であり、激しい凍結融解作用を伴う周氷河性物質移動によって、斜面からゆっくりと岩礫が移動・堆積することで形成された。花崗岩分布域ではマサ化によって表層物質が移動しやすかったため、他の地質分布域よりも平滑な斜面形が作られたと考えられる。

高位緩斜面と低位緩斜面の形成時期の違いは、礫の間を充填するマトリクスや表層土壌の厚さの違いに表れている。Loc. 1右岸のL2面構成層は礫間が充填されておらず、すぐ上流側の低位緩斜面では地表に巨礫が点在し、巨礫による凹凸を表土が埋めきれていない（第4-1図）。これに対して、Loc. 1左岸の高位緩斜面では地表から頭を出している礫は少なく、高位緩斜面とL1面との漸移帯にあたるLoc. 2では、巨礫を覆って最大1.5mの厚さの褐色ローム層が観察される。

また、高位緩斜面堆積物を切るLoc. 3の露頭では、完全に風化した基盤のマサを覆って高位緩斜面を構成する花崗岩の巨礫が堆積している（第4-1図）。高位緩斜面の花崗岩巨礫は芯まで風化し、ショベルカーによってきれいに切断できる。この高位緩斜面の下方にはL2面群があり、両地形面の間には段丘崖があるが、この段差は低位緩斜面の堆積物によって埋められている。低位緩斜面を構成する巨礫は風化が十分に進んでいないため、ショベルカーで削ってもきれいな切断面にはならない（第4-2図）。

清掃センター南側のL1面構成層については、杉山（2008）による報告がある。杉山（2008）はこの面を新田段丘と呼び、段丘構成層の一部について花粉分析を行った結果から、新田段丘構成層の堆積時期を最終間氷期から最終氷期にかけてと結論づけた。この研究は遠野高校のクラブ活動として行われたものであり、提示データを見たところでは分析精度は低いと推測されるが、推定時期については本報告と同じである。

杉山（2008）は、猿ヶ石川の対岸の上綾織の山谷川沿いにみられる地形面を松崎段丘と呼び、新田段丘よりも下位に位置づけた。そして、山谷川沿いに露出した泥炭層から採取された木片について、以下の3点の14C年代を報告している。

Gak - 19759 : 31,710 ± 980 yr BP

Gak - 19760 : > 38,400 yr BP

Gak - 19761 : 39,050 ± 2,610 yr BP \*1

\*1 元の報告書では「Gek - 19759, 19760, 19761」となっているが、「Gak -」の誤植とみられるので、ここでは「Gak -」として表記する。

試料採取地点の位置や柱状図が示されていないため詳細は不明であるが、露頭写真を見た感じでは、本報告のL2面群または低位緩斜面の構成層の下部に対比されると推測される。約4～3万年前に泥炭層が堆積する湿地的環境であったことになるので、松崎段丘の最終的な離水は約3万年前よりも後であった可能性が高い。これは、L2面群の形成時期を最終氷期後半の亜氷期とした本報告の推定に矛盾しない。

また、杉山（2008）は二日町集落の立地する平坦面を綾織段丘と呼び、猿ヶ石川河川敷の河成面と区別した。そして、綾織段丘構成層から  $1,710 \pm 80$  yr BP (Gak - 19536) の14C年代を報告し、綾織段丘の形成時期を約3,000～2,000年前と推測した。二日町集落の立地する面が地形学的に離水していると言えるのかは微妙なところであるが、少なくともL2面とは完全に異なる時期の地形面である。

### (3) 新田Ⅱ遺跡の地形

第5-1図に新田沢に沿う地形縦断形、第5-2図に新田Ⅱ遺跡を横断する新田沢の地形横断形を示す。

縦断形をみると、新田沢の上流域の河床縦断形はL1面（橙色）の縦断形に滑らかに連続しており、L1面形成期の河床縦断形の名残をとどめていることが分かる。したがって、上流域の地形は約6万年前にはほぼ完成しており、その後の亜間氷期（酸素同位体ステージ3）に気候が温暖湿潤化した際には、新田沢の下流域のみで下刻が進んだ。最終氷期後半の亜氷期になって気候が再び寒冷乾燥化すると、新田沢は一時的に下刻をやめ、侵食基準面となる猿ヶ石川の河床低下にあわせながらL2面（黄緑色）を形成した。後氷期（酸素同位体ステージ1；約1.2万年前以降）になって気候が温暖湿潤化すると、新田沢は再び下刻を開始し、現在の河床縦断形が完成した。

横断形は、図の右側が新田沢右岸、左側が新田沢左岸である。新田Ⅱ遺跡の両岸ともにL1面（橙色）である。両岸でL1面の高さが違うように見えるが、形成時期が古いこと、背後から山麓緩斜面の影響を受けていること、地形断面が必ずしもL1面形成当時の地形的に同等な位置を通過していないこと、左岸側のL1面はL1面の先端部を切る断面であること等が原因であり、同一地形面の標高の差に大きな問題はない。

新田Ⅱ遺跡付近でのL1面構成層は、花崗岩の他に泥岩・礫岩・石灰岩などを含む円・亜円礫からなり、かつての猿ヶ石川が運んだ礫に由来する。このような円・亜円礫は、第2図2と第5図6の★より下流側の谷底で見つけることができる。第2-2図のL1面では、★の北側にだけ猿ヶ石川起源の礫が分布している可能性が高い。それより南側のL1面は、支流である新田沢が形成したL1面であろう。L1面構成層は、新田Ⅱ遺跡西側（新田沢左岸）では最大でも2m程度の厚さであり、その下位には完全に風化したマサが露出する。現在の谷底堆積物の下位も、岩盤ではなくマサであることが新田Ⅱ遺跡で確認されている。

Loc. 1やLoc. 3でも、著しく風化したマサの上を、風化程度の弱い花崗岩礫が覆っている。したがって、これらの礫層が堆積する以前から、花崗岩はすでにマサ化し、軟らかな状態であったことになる。三河高原においてマサ形成に必要な時間を検討した木宮（1981）はマサの形成時期を鮮新世初期から更新世中期と推定し、阿武隈山地における遠藤・木宮（1987）は中期中新世から前期更新世にかけてと推定した。本地域における花崗岩の風化状況、斜面上部から山麓緩斜面に至る風化花崗岩の露出状況等はこれらの研究の報告通りであることから、新田沢の谷底にみられるマサも百万年スケールの時間をかけて形成されたものと考えられる。



マサのような侵食抵抗性ゼロの地質の上を硬い礫が覆う状況では、河川の流路は谷底平野の縁を流れる傾向がある。すなわち、新田沢がL1面を下刻すると、新田沢の谷底には軟らかい基盤（マサ）の上に侵食抵抗性の強い礫層が覆うことになる。すると、流水が最も侵食しやすい場所はマサが露出する谷底平野の縁になるため、流路は側方へ側方へと移動していく。局地的な侵食基準面である猿ヶ石川の河床高度が安定すると支流である新田沢も下刻を停止するが、新田沢はその河床縦断形を変化させることなく、軟らかい側壁を削りながら流路位置を側方へと移動させ続ける。結果的に、第5図7のように、新田II遺跡付近の新田沢は東側（右岸）の谷壁斜面が形成時期が古くて緩やかであるのに対して、侵食を受けて頻繁に崩壊している西側（左岸）は急斜面をなす。そして、谷底には新田沢が運べないL1面由来の大きな円・亜円礫が点在することになる。

新田II遺跡から掘り出された多くの礫には、新田沢上流から運ばれてきた硬くて大きな花崗岩礫は見られない。第2-2図、第5-1図の★のすぐ上流側の谷底には、大きな径の礫はほとんど見られない。これらの事実は、現在の新田沢には大径礫を運搬する能力がないことを示唆しており、新田II遺跡周辺の谷底を覆う大きな円・亜円礫はL1面が開析された際にその場に残積された礫であることを示唆する。それらの円・亜円礫を覆っている、マサ起源の鉱物粒子を多く含む細粒堆積物が、新田沢が運んだ堆積物である。

（岩手県立大学 吉木岳哉）

阿子島 功・宮城豊彦（1976）：北上山地南西縁盆地群の侵蝕小起伏面．東北地理，vol.28，pp.48-56.

菅原 啓・高橋節子（1974）：遠野盆地の緩斜面と段丘の成因について．東北地理，vol.26，pp.11-21.

杉山了三（2008）：遠野盆地の研究を指導して．平成20年度岩手県教育研究発表会資料．25p.

### 3 調査区内の堆積状況

#### (1) 調査区の現況と試掘

調査区の現況は道路、水田である。東区と西区で、地形に違いがあるため、分けて記載する。

東区の現況は、市道向新田線の舗装道路である。市道は南北に走っており、周囲より1m程盛土して作られている。隣接する東側は平成21年度に当センターが調査を行った箇所、調査時点では埋め戻されて更地となっている。西側は近年に土取りもしくは牧草地造成のために広範囲に及ぶ削平を受けており、本来は北東向きの緩斜面地形であると見られるが、現況はほぼ平坦になっている。調査区は、現在の路盤以前にも現在より道幅の狭い未舗装の道路が存在した形跡があり、二度の道路工事とそれに伴う上水道やU字排水溝、電柱工事などで著しく攪乱されている。

西区の現況は水田・道路で、現新田沢沿いの平坦地に作られている。この箇所は、新田II遺跡範囲の西端で、西側に隣接する深沢野I遺跡の東端に位置しており、桧沢山（標高820m）と新田山（標高661.2m）の地形裾部に挟まれた谷底平野である。現新田沢上流の南側には、深沢野II遺跡が存在する。平成12年度に遠野市教育委員会によって試掘調査が行われた際の報告によれば、「現況は休耕田。新田沢の氾濫原で山側（長さ10m程）に層厚20cmほど黒褐色砂質土の堆積が認められ、下層境界部付近には局部的に十和田a火山灰が確認されたが、トレンチ川側では流失しており黒褐色砂質土層は存在しない。他所は灰色～灰白色砂質土が攪乱状態で層厚70～80cm程堆積し、以下は花崗岩風化砂層および土砂利層となっている。遺物はコンテナで2箱出土しているが、殆どが摩滅した縄文土器小細片で、黒褐色～灰色砂質土層から混在した状態で出土したものである。文様などから時期の確認できる遺物は縄文時代中期末、平安時代の土器若干量である。」としている。



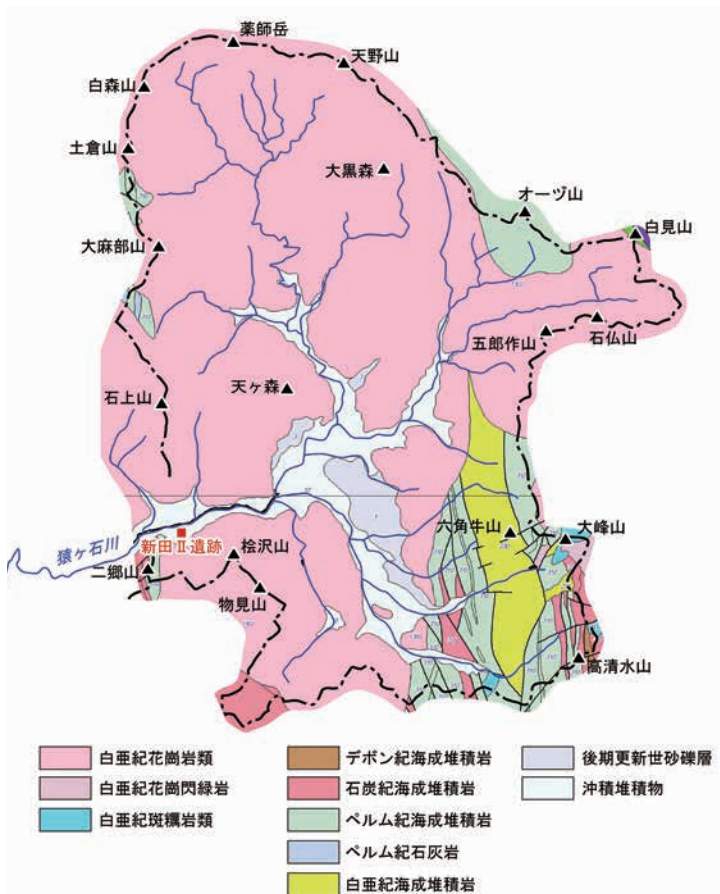


図2-1 猿ヶ石川流域の地質  
産業技術総合研究所地質調査総合センターのシームレス地質図に加筆し作成した。一点鎖線は新田Ⅱ遺跡付近での猿ヶ石川の流域界を示す。

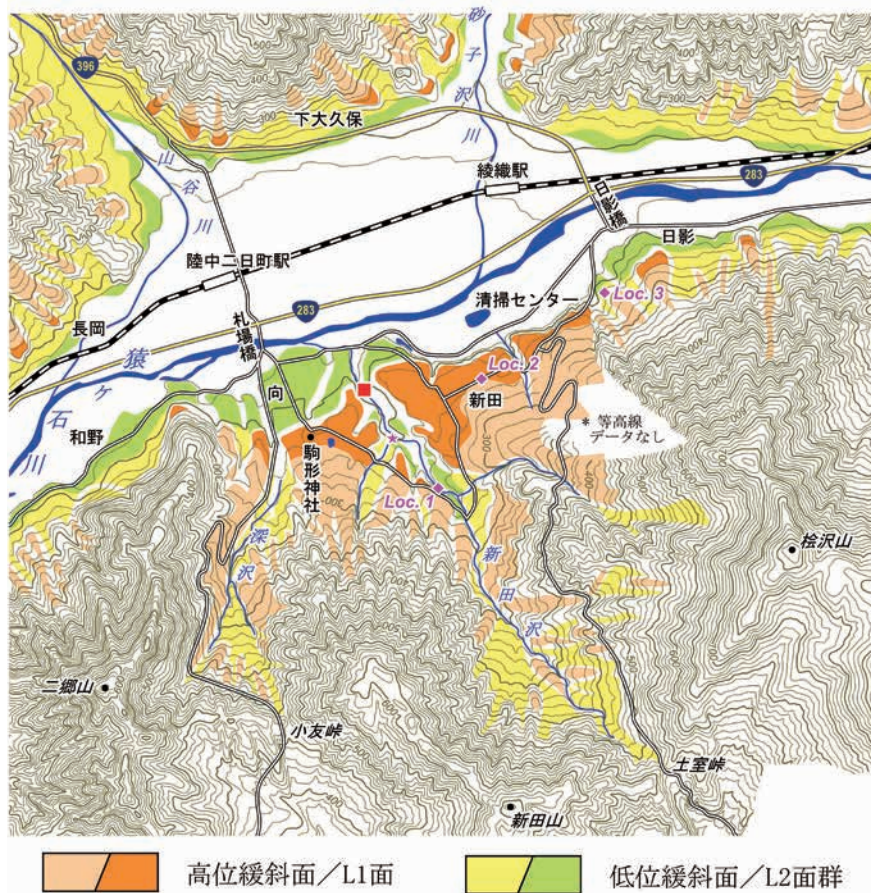


図2-2 新田Ⅱ遺跡周辺の地形分類図  
■は新田Ⅱ遺跡の位置を示す。  
◆は地点番号、★は新田沢谷底で確認された円礫の分布上限を示す。  
地形分類は空中写真判読にもとづく。山地斜面と沖積面は示していない。  
等高線図の等高線間隔は10m。岩手県統合型地理情報システム（通称「いわてデジタルマップ」）の森林基本図の等高線をトレースして作成した。



図3-1 L1面構成層を示す露頭（新田II遺跡の脇）

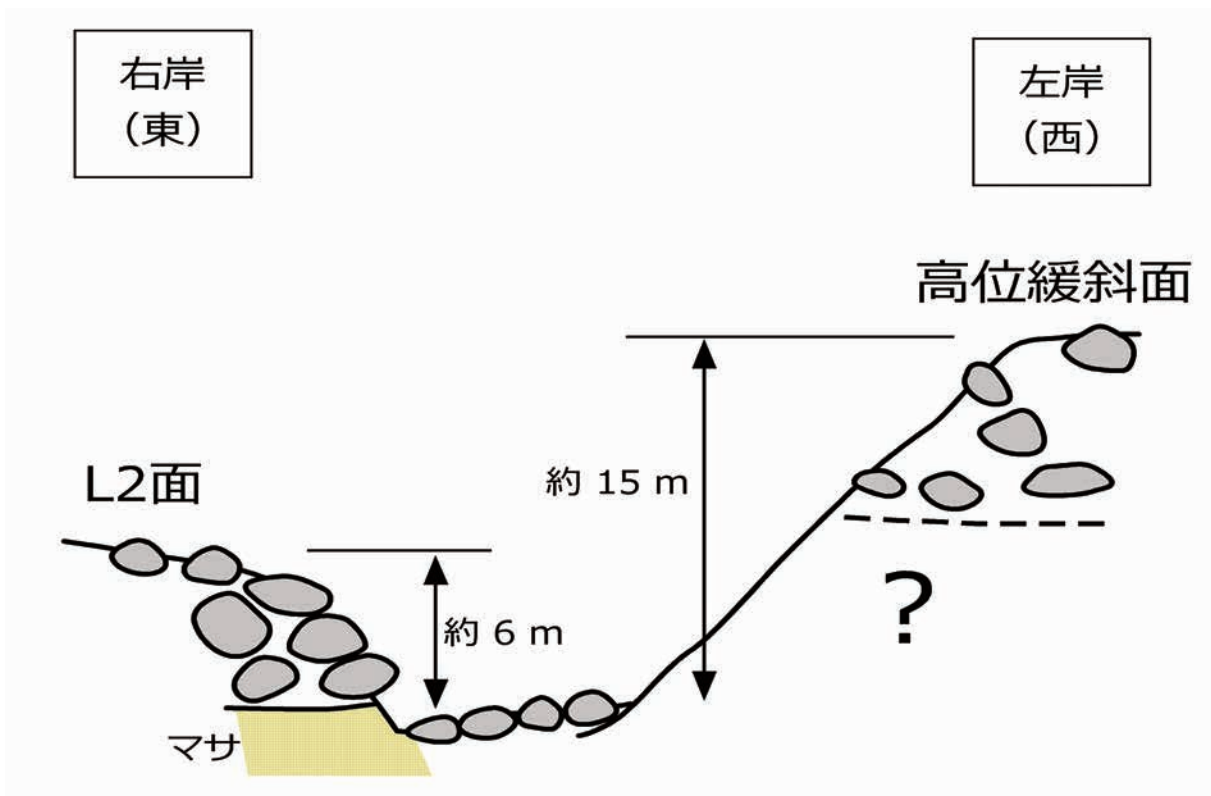
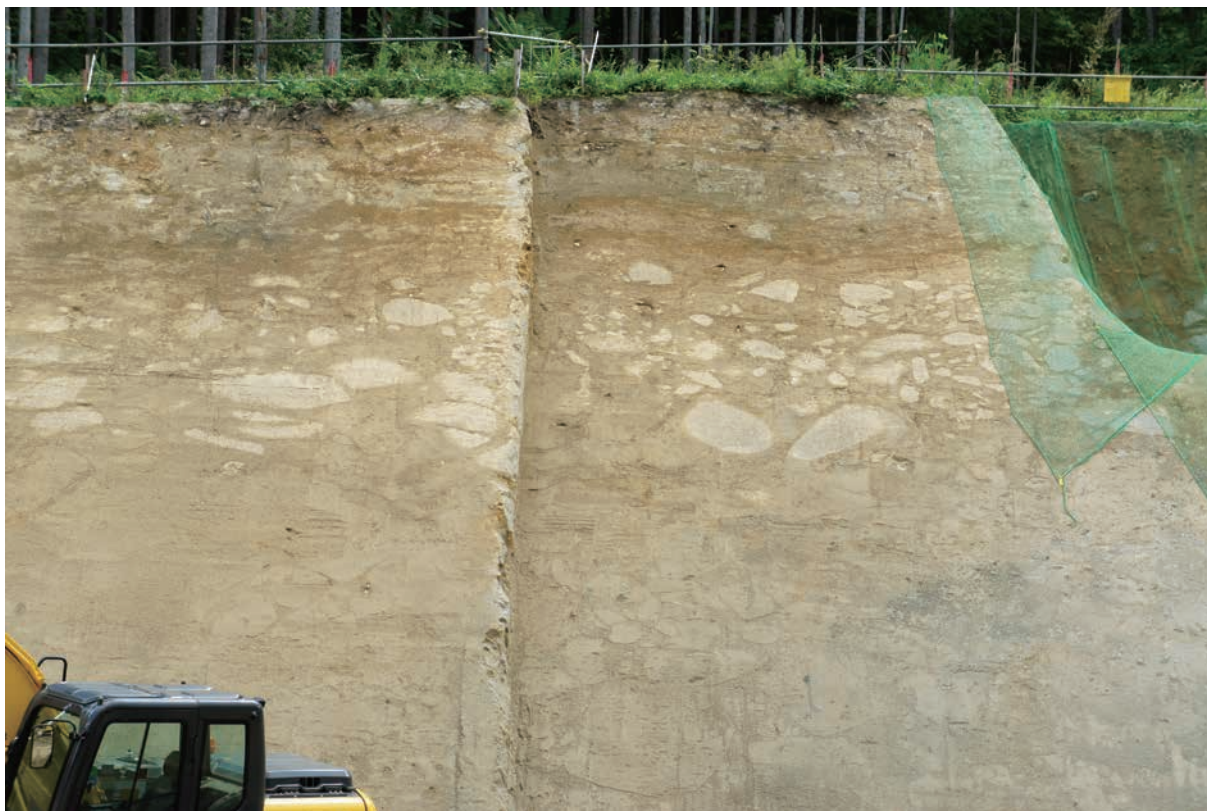


図3-2 新田沢のL2面と高位緩斜面堆積物 (Loc. 1)  
 周辺の谷底と露頭で観察された結果を統合して、模式的に表現した。





【図4-1】 高位緩斜面堆積物の露頭。

花崗岩礫は完全に風化して軟らかくなっているため、マトリクスのローム層とともに真っ平らに切断されている。堆積物下位の基盤（花崗岩）は完全に風化したマサになっている。



【図4-2】 高位緩斜面堆積物を切る斜面（高位緩斜面/L2面間の段丘崖）を覆う、低位緩斜面堆積物の露頭。写真右の露頭面に現れた花崗岩礫は芯まで風化しておらず、礫の切断面が凸凹している。

Loc. 3で観察された花崗岩礫の風化程度の比較

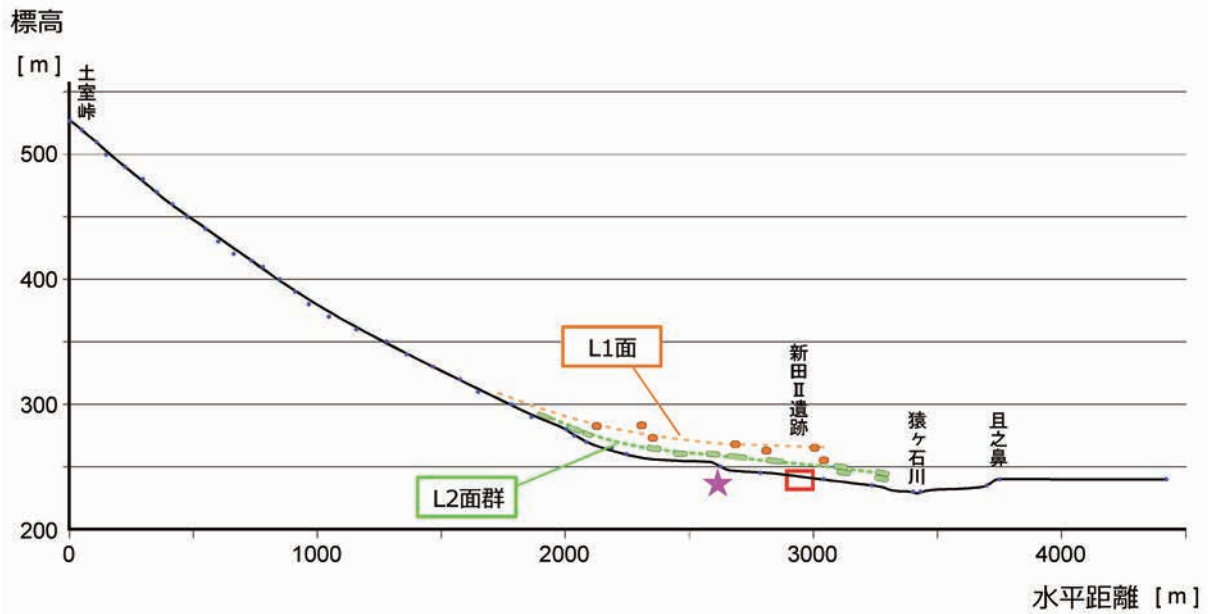


図5-1 新田沢に沿う地形縦断形

森林基本図の等高線に基づいて作成した。測線は、土室峠～新田沢～新田II遺跡の地形縦断形をそのまま北方向へ延長し、猿ヶ石川を横断するように設定した。★は、谷底に円礫が観察された上流端の位置を示す。

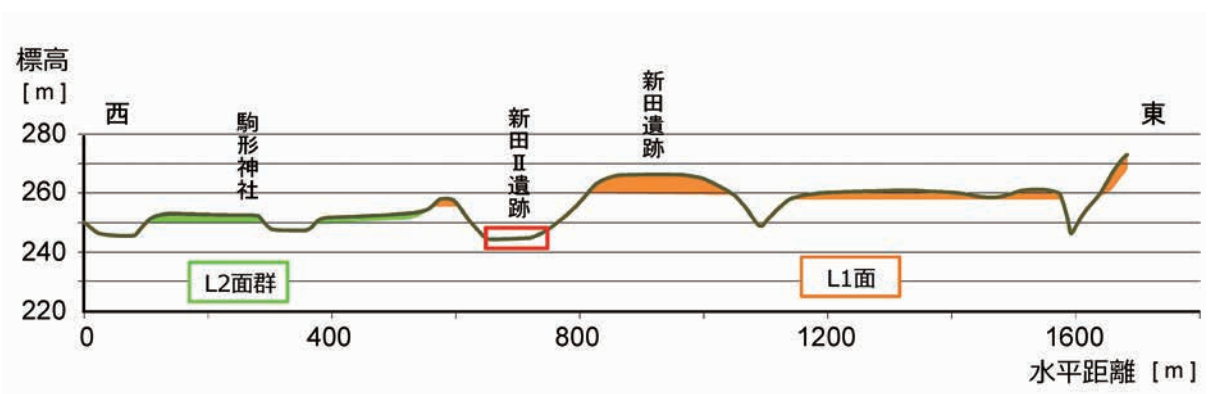


図5-2 新田II遺跡を通る新田沢の地形横断形

森林基本図の等高線に基づいて作成した。

第5図 地形地質図(4)

(2) 調査区の基本層序

本遺跡の基本層序は以下の通りである。西区と東区では前述したように、堆積状況が異なるため、各々の基本層序を示した(第6図参照)。

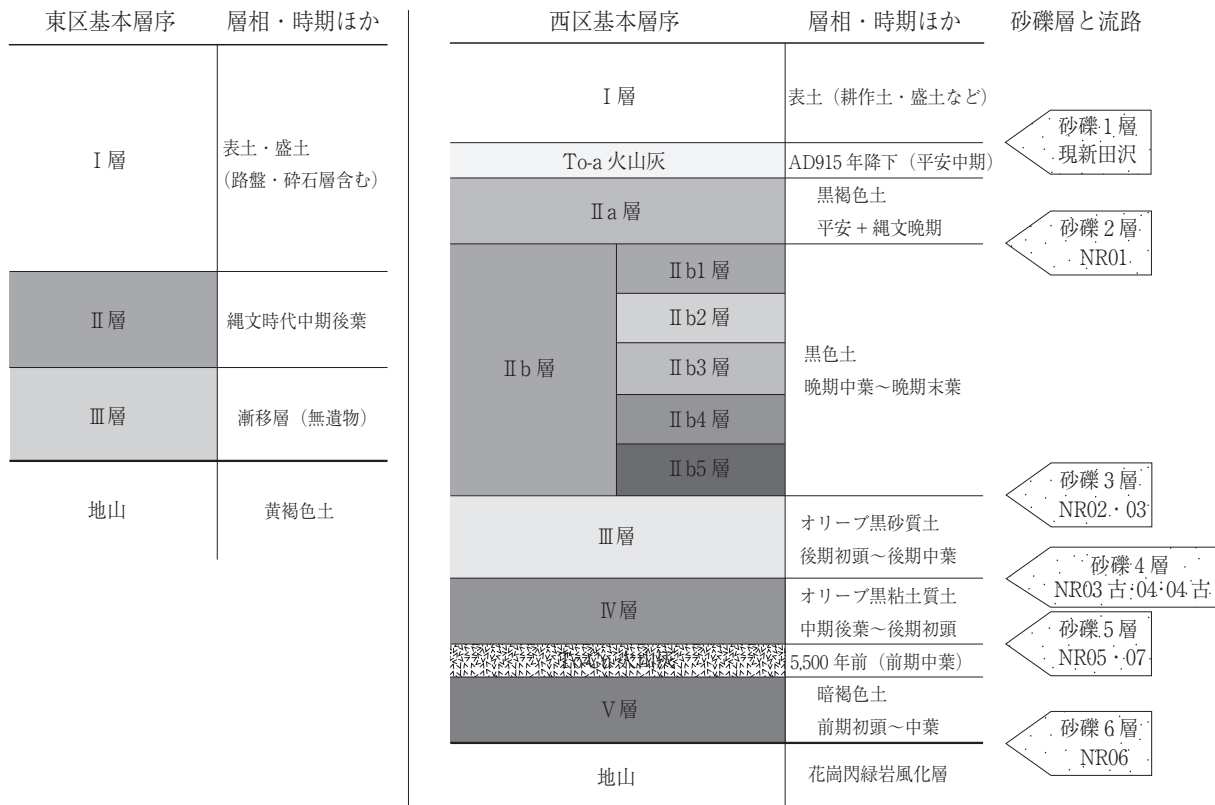
<西区>

I層	表土(耕作土・盛土)	60～80cm
II a層	黒褐色土	0～20cm (縄文時代晩期後半～平安時代)
II b層	黒色土	0～100cm (縄文時代晩期後半包含層)
III層	オリーブ黒砂質土	0～50cm (縄文時代後期中葉～晩期前半包含層)
IV層	オリーブ黒粘土質土	0～30cm (縄文時代中期後葉～後期初頭包含層)
V層	暗褐色土	0～20cm (縄文時代前期初頭～中葉包含層)
VI層	砂礫層	30～80cm (各流路の河川堆積層)
VII層	花崗閃緑岩風化層	層厚不明 (地山)

<東区>

I層	表土・盛土(路盤・碎石層含む)	約100cm
II層	黒色土	0～20cm (縄文時代中期後葉包含層)
III層	暗褐色土	0～20cm (漸移層)
IV層	黄褐色土	層厚不明 (地山)

西区I層は現代の水田耕作土、水田造成時の盛土を主体としており、西区南水田では水田耕作土が層厚20cm、南水田北側ではその下位に水田盛土が層厚40cm程度認められる。西区北水田には盛土は確認されず、現代の水田耕作土が層厚20cmあるが、その下位に旧水田と考えられる耕作土層が層厚20cm堆積している。この層位は現水田区画となる以前に耕作されていた水田と考えられ、中世～近世の可能性はある。



第6図 基本層序模式図



西区Ⅱ層は黒褐色～黒色土を主体とする層位で、Ⅱ a層とⅡ b層の2細分される。Ⅱ a層は黒褐色土で構成され、層厚 10～15cmで2～4 B・2～4 C・3～4 D区の約 800㎡に広がる。本層位中からは縄文時代の遺物のほかに、平安時代の須恵器や土師器片も出土していることから、平安時代以降に攪拌された耕作土層の可能性もある。これは元来、縄文時代に堆積したⅡ b層が後世の耕作により攪乱されたものと考えられる。また、2 E区付近では十和田 a火山灰 (T o - a テフラ) が認められ、約 915 年前の平安時代中期には埋没していたことが分かる。Ⅱ b層は黒色土で構成され、層厚 20～40cmで部分的にⅡ b1～Ⅱ b5層に5細分される。Ⅱ b層は2～5 B・2～5 C・2～4 D区の約 800㎡に広がる。細分が可能なのは2～3 B区に確認された縄文時代晩期後半埋没沢の NR02・03 沢跡である。

西区Ⅲ層はオリブ黒砂質土を主体とする層位で、層厚 10～30cmで西区中央から東半を中心に広がる。縄文時代後期中葉～晩期前半の遺物包含層である。主に NR03～04 沢跡期に堆積した層位で、沢跡右岸までに堆積することが確認され、該期沢跡に落ち込む。

西区Ⅳ層はオリブ黒粘土質土を主体とする層位で、層厚 30cmで西区東半を中心に広がる。縄文中期後葉～後期初頭の遺物包含層である。西区中央に至ると河川堆積層の下部となり、地下水位が高いことから、泥炭質となる場合が多い。5 C～D・6 D区では検出面が高く、表土直下で確認される。主に NR07～05 沢跡期に堆積した層位で、NR04 沢跡下部にも一部確認される。

西区Ⅴ層は暗褐色土を主体とする層位で、層厚 20cm程度、西区東端の一部にのみ堆積する。本層位上部には、十和田中振火山灰 (T o - C u テフラ) が堆積しており、テフラ降下時期の縄文時代前期 (約 5,500 年前) と本層出土遺物から比定される。

西区Ⅵ層は花崗閃緑岩を起源とする砂礫層で、河床付近に堆積している。径 10～50cm大の亜角礫や亜円礫を多量に含んでおり、段丘礫層が開析された際にその場に残積して形成された河川堆積層と考えられる。堆積した時期により、縄文時代の各時期の摩滅した土器片やその他の遺物を包含している。

西区Ⅶ層は花崗閃緑岩風化層の地山で、層厚は不明である。西区全域で確認され、この層位以下には遺物は含まれない。

東区は西区よりも 20 m程度標高が高く、猿ヶ石川によって形成された河岸段丘である。西区とは様相を異にし、全体にシルト質土を呈する。今回の調査区は現道部ということもあり、旧地形がほぼ失われているが、隣接する東区西側の旧地形残存部 (小山) や平成 21 年度調査区では元来の堆積層が確認できる。

東区Ⅰ層は表土・盛土である。旧地形を覆う表土は小山部分に残存しており、層厚 30cm程度の黒色土で構成される。現道部と平成 21 年度調査区の大部分は、近現代の造成や道路工事により削平されており、盛土や碎石層の直下にⅣ層地山が検出された。現道部はさらに 60cm厚の碎石層などで高く作られている。

東区Ⅱ層は黒色土主体で構成される。層厚は 20cm程度で、縄文時代中期後葉の土器片が出土している。東区西側の旧地形残存部ではプライマリーな状態で認められるが、現道部及び平成 21 年度調査区付近は削平されている。今回の調査中に調査区外の現道東側において、水道管移設工事が行われたが、この際にはⅡ層黒色土が確認されており、縄文時代中期後葉の遺物を多く包含していた。元地形が残存している東側などでは、遺物包含層が良好に保たれていると考えられる。

東区Ⅲ層は暗褐色土を主体とする漸移層である。層厚は、西側残存部で 10～15cm程度あり、平成 21 年度調査区の北端でも確認されている。無遺物層であり、遺構も確認されなかった。平成 21 年度調査から、本層位上面が遺構検出面と考えられる。

東区Ⅳ層は黄褐色土を主体とし、地山層と捉えられる。Ⅲ層同様に本層位以下では遺構・遺物ともに確認されない。最終遺構検出面である。

## 4 歴史的環境・過去の調査

岩手県遺跡台帳（平成23年3月31日）によると、遠野市には486箇所の遺跡が登録されている。このうち、計85箇所を第7図に掲載した。

遠野市内には多数の遺跡が存在しており、特に河川沿いの地域に多く集中していることが確認されている。遺跡の種類では、散布地がその多くを占める。猿ヶ石川によって開析された流域部分は、段丘面と沖積地の2つの地形に大きく分けられており、この地形の違いによって遺跡の時代も異なる。猿ヶ石川ならびにその支流によって形成された丘陵地や扇状地の段丘、微高地には縄文時代の遺跡の大半が立地するのに対し、猿ヶ石川流域の沖積地には古代の遺跡が立地している。本節では、新田Ⅱ遺跡に関する近年の調査経緯や周辺遺跡の歴史的環境について述べていくこととする。

新田Ⅱ遺跡に関する近年の調査では、遠野市教育委員会が平成10年～12年に発掘調査を行った際に、遺跡東側の標高が最も高い部分から縄文時代前期前葉～中葉に属する住居跡18棟、中期に属する住居跡2棟、古代に属する住居跡1棟を検出している。縄文時代前期前葉の大形竪穴住居からなる拠点集落跡では国内最古級であるということ、また、全国でも出土例の少ない大木3式土器がまとめて出土しているということで注目を集め、平成14年12月19日に国史跡に指定され、綾織新田遺跡として世間に広く知れ渡った。綾織新田遺跡も元は同じ新田Ⅱ遺跡という登録名称で登録がなされていたのである。

また、平成21年には、当センターが調査を行った際に、遺跡東側中段から竪穴住居や掘立柱建物を伴う縄文時代中期中葉～後葉に属する環状集落を検出している。集落の規模は比較的大きく、当時の集落形態を知る上では欠かせない重要な手がかりとなっている。

今回の調査では、遺跡の西側谷底部分の調査を行い、新田沢の前期初頭～現代に至るまでの大きく分けて7時期に亘る流路変遷と縄文人の暮らしとの関わりについて迫る資料を得ることができた。

今回の調査で見つかった遺物や遺構は、縄文時代後期～晩期が主体である。遠野市内に所在する縄文時代の遺跡は、早期から晩期まで幅広く見られるが、本遺跡と同時期の後・晩期に属する遺跡が比較的多い。また、古代の遺跡と複合になっているケースも多く見受けられる。近年、遠野市内で発掘調査された遺跡で、縄文時代後期に該当する代表的な遺跡には、平成9年に発掘調査の行われた甲子遺跡（近世遺構も検出）が挙げられる。竪穴住居や掘立柱建物などが検出されている。縄文時代晩期に該当する代表的な遺跡には、平成15～16年に発掘調査の行われた栃洞遺跡（近世遺構も検出）が挙げられる。竪穴住居跡や炉跡などが検出されている。縄文時代以外では、数は少ないながらも旧石器時代や弥生時代、猿ヶ石川流域の沖積地に多く見られる古代、城館跡などが含まれる中世の遺跡が存在している。

その他に発掘調査がなされた近隣の遺跡には、寒風遺跡（縄文・古代・近世、昭和56年）、高瀬Ⅰ遺跡（縄文・古代・近世、昭和63年）、逢田遺跡（古代、昭和63年）、高瀬Ⅱ遺跡（古代、平成元年）、本宿遺跡（古代、平成3～4年）、寒風Ⅰ遺跡（縄文、平成8年）、権現前遺跡（縄文、平成12年）、篠館跡（中世、平成10～11年）、栃洞Ⅱ遺跡（縄文、平成14年）、平倉観音遺跡（縄文、平成14年）、九重沢遺跡（縄文、平成14年）、中土淵遺跡（縄文、平成14年）、夫婦石袖高野遺跡（縄文、平成15年）などが挙げられる。（野中）





第7図 周辺の遺跡



第1表 周辺の遺跡

No	遺跡名	遺跡コード	種別	時代	所在地	備考
1	新田Ⅱ	MF53-0391	散布地	縄文・平安	綾織町下綾織字新田	H14 国史跡「綾織新田遺跡」・ H21・23～24 本調査
2	新田	MF53-1305	散布地	縄文	綾織町下綾織字新田	
3	胡四王元屋敷	MF53-0269	散布地		綾織町下綾織字新田	
4	深沢野Ⅰ	MF53-0276	集落跡	縄文	綾織町下綾織字深沢野古館	
5	深沢野Ⅱ	MF53-1355	散布地		綾織町下綾織字深沢野	
6	深沢野Ⅲ	MF53-1219	散布地		綾織町下綾織字深沢野	
7	向	MF53-0196	散布地	縄文	綾織町下綾織字四王	
8	向Ⅱ	MF53-1203	散布地		綾織町下綾織字胡四王	
9	向Ⅲ	MF53-1206	散布地		綾織町下綾織字向	
10	熊野沢	MF54-0012	散布地		綾織町新里字熊野沢	
11	日影	MF44-2049	散布地		綾織町新里字日影	
12	西風館	MF54-0121	城館跡	中世	綾織町新里字日影	
13	新里間木野	MF54-0213	散布地	縄文・古代	綾織町新里字間木野 30 地割、 字上宮ノ目	
14	新里新滝	MF54-0225	散布地	縄文	綾織町新里字間木野 31 地割	
15	新里愛宕裏	MF54-0227	集落跡	縄文	綾織町新里字間木野 31 地割	
16	新里五器洗場	MF54-0206	散布地	縄文	綾織町新里字間木野 30 地割	
17	宮野目Ⅰ	MF44-2200	散布地	縄文	綾織町新里字宮野目	
18	宮野目Ⅱ	MF44-2139	散布地	縄文	綾織町新里字宮野目	
19	寒風Ⅰ	MF44-2146	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
20	寒風Ⅱ	MF44-2121	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
21	寒風Ⅲ	MF44-2124	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
22	寒風Ⅳ	MF44-2116	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
23	寒風Ⅴ	MF44-2137	散布地	縄文	綾織町新里字寒風	
24	来迎前Ⅰ	MF44-2021	散布地	古代	綾織町新里字来迎前	
25	来迎前Ⅱ	MF44-2023	散布地	古代	綾織町新里字来迎前	
26	来迎前Ⅲ	MF44-2020	散布地	古代	綾織町新里字来迎前	
27	来迎前Ⅳ	MF44-2032	散布地	古代	綾織町新里字来迎前	
28	西門館(ミサザキ館)	MF43-2319	城館跡	中世	綾織町ミサザキ	
29	ミサザキ蝦夷岩	MF44-1036	洞穴	縄文	綾織町ミサザキ字聖	
30	砂子沢Ⅰ	MF43-1335	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字砂子沢古堂	
31	砂子沢Ⅱ	MF43-1358	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字砂子沢ドウメ	
32	聖	MF44-1030	散布地・城館跡	中世	綾織町ミサザキ字聖	
33	横内Ⅰ	MF43-1393	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字横内	
34	横内Ⅱ	MF43-1382	散布地	縄文	綾織町ミサザキ字横内	
35	大久保	MF43-2310	散布地	縄文・平安	綾織町ミサザキ字大久保 11 地割	
36	大久保Ⅱ	MF43-2217	散布地	古代	綾織町上大久保	H 4 新規
37	大久保Ⅲ	MF43-2232	散布地	古代	綾織町上大久保	H 4 新規
38	田中	MF43-2127	散布地	縄文	綾織町上綾織字田中	範囲拡大
39	上綾織続石	MF43-1173	祭祀跡		綾織町上綾織字続石	
40	巫子塚	MF53-0226	散布地	縄文	綾織町下綾織字二日町	
41	谷地(上野)館	MF53-0139	城館跡	中世	綾織町下綾織字館川原	
42	鱒沢館	MF53-0113	散布地・城館跡		綾織町上綾織字長岡	
43	長岡	MF53-0059	散布地		綾織町上綾織字長岡	
44	山谷川	MF42-0342	散布地		綾織町上綾織字小峠	

No	遺跡名	遺跡コード	種別	時代	所在地	備考
45	十王堂	MF53-1110	散布地		綾織町下綾織字和野	
46	境田	MF53-0083	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 14 地割	H 19 分布調査・範囲修正
47	鱒沢館（上町館）	MF53-1001	城館跡	中世	宮守町上鱒沢 15 地割 13 番地	S 59 城館調査、 H 19 分布調査・場所修正
48	和山	MF52-0386	散布地	縄文・平安	宮守町上鱒沢 16 地割	H 19 分布調査・範囲修正
49	幅長峰	MF52-1318	散布地	縄文	宮守町上鱒沢	H 19 分布調査・範囲修正
50	荒谷館	MF52-1347	城館跡	中世	宮守町上鱒沢 18 地割	S 59 城館調査、 H 19 分布調査
51	山手	MF53-1032	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 12 地割、13 地割	H 19 分布調査・新規
52	荒谷前	MF52-1348	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 18 地割	H 19 分布調査・場所修正
53	荒谷前Ⅱ	MF52-2321	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 23 地割	H 19 分布調査・新規
54	下町	MF53-1041	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 20 地割	H 9 新規、 H 19 分布調査・範囲修正
55	下町Ⅱ	MF53-1054	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 11 地割	H 19 分布調査・新規
56	下町Ⅲ	MF53-1071	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 21 地割	H 19 分布調査・新規
57	下町Ⅳ	MF53-1080	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 21 地割	H 19 分布調査・新規
58	鳴沢	MF53-2031	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 9 地割	H 19 分布調査・新規
59	鳴沢Ⅱ	MF53-2020	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 9 地割	H 19 分布調査・新規
60	鳴沢Ⅲ	MF53-1095	散布地	平安	宮守町上鱒沢 10 地割	H 19 分布調査・新規
61	鳴沢館	MF53-2047	城館跡	中世	宮守町上鱒沢 9 地割 51 番地	S 59 城館調査、 H 19 分布調査・場所修正
62	船渡	MF52-2353	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 5 地割、 6 地割、7 地割	H 19 分布調査・新規
63	船渡Ⅱ	MF52-2342	散布地	縄文	宮守町上鱒沢 5 字割	H 19 分布調査・新規
64	小友土室Ⅰ	MF64-0094	散布地	縄文	小友町字土室	
65	小友土室Ⅱ	MF64-0093	散布地		小友町字土室	
66	小友土室Ⅲ	MF64-0087	散布地	縄文	小友町字土室	
67	小友柴橋蝦夷穴	MF63-0194	散布地		小友町字柴橋第 41 地割	
68	小友鳴沢Ⅰ	MF63-1116	散布地		小友町字柴橋第 41 地割	
69	小友鳴沢Ⅱ	MF63-1136	散布地		小友町字柴橋第 41 地割	
70	小友鳴沢蝦夷穴	MF63-0199	散布地		小友町字柴橋第 41 地割	
71	イノガシラ蝦夷塚	MF63-0240	散布地		小友町字十三坊第 43 地割	
72	小友十三坊Ⅰ	MF63-0283	散布地		小友町字十三坊第 43 地割	
73	小友十三坊Ⅱ	MF63-0271	祭祀跡		小友町字十三坊第 43 地割	
74	鷹鳥屋館	MF63-0269	城館跡	中世	小友町字鷹鳥屋	
75	小友西塔	MF63-0291	散布地		小友町字十三坊第 13 地割	
76	小友三枚橋	MF63-0267	散布地		小友町字十三坊第 43 地割	
77	高館	MF63-0351	城館跡	中世	小友町字十三坊	
78	小友鷹鳥屋	MF63-0299	散布地	縄文	小友町字鷹鳥屋	
79	小友桑畑	MF63-1096	散布地		小友町字桑畑第 39 地割	
80	藤倉館（篠倉館）	MF63-2076	城館跡	中世	小友町字山谷	
81	奥友館（小友館）	MF72-0326	城館跡	中世	小友町字小友	
82	及川館	MF72-0313	城館跡		小友町字小友	壊滅
83	小友館内	MF62-2387	城館跡		小友町字太田第 16 地割	
84	小友南館	MF62-2359	散布地・城館跡	中世	小友町字太田第 34 地割	
85	槻館	MF62-2398	城館跡	中世	小友町字太田	

### Ⅲ 調査・整理の方法

#### 1 野外調査方法

##### (1) 調査方法

調査方法については二分法で行い、堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。西区の流路については、可能な限りグリッドラインに沿ってトレンチ掘削を行い、土層を確認しながら大グリッド・層位ごとに精査を行った。

この際、土層の堆積状況、遺物の出土状況、遺構や流路の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。実測は、平面図はCUBIC社製遺構実測ソフト「遺構くん」を用いて光波トランシットによる測量を行い、微細図・断面図は手取りで図化した。

遺跡・遺構・現場出土遺物の写真撮影については、キヤノンEOS 5D（デジタルカメラ・1,200万画素）と中判マミヤ6×4.5cm（モノクローム）を使用した。また、平成24年8月22日には調査区域全体の航空写真撮影を実施した。

遺構実測図の縮尺は1/20を基本としたが、竪穴住居跡炉や焼土・微細図は1/10、その他の遺構や土層断面なども種類や規模により1/50、1/100などの縮尺を用いて遺構実測図（第一原図）を作成した。なお調査の進行上、土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみ留めた遺構もある。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位を記した。包含層など遺構外遺物は、出土地点・基本層位（または近接するセクション層位）を記入して取り上げた。

##### (2) 野外調査経過

<平成23年度>

調査の進行上、新田沢側を西区、平成21年度調査区隣接地（現道部分）を東区として設定した。

10月4日から調査を開始した。調査区開始前の立会では、西区より東区を優先して調査を進める工程で、10月中旬以降に現道切替工事を行い、11月から調査着手の予定であった。しかし、現道切替工事が11月後半にずれ込んだため、当初予定を変更し、西区を先行することで作業を進めた。

10月4～12日（延べ5日間）で、人力による西区試掘を実施した。2×2mのトレンチ17箇所を設定し掘削した結果、新田沢側のトレンチでは現代～中世と思われる水田耕作土40～50cmの下に、十和田aテフラ（以下、To-a）と炭化物を混入する黒褐色砂質シルトが確認され、下位層に褐灰粘土層と砂層が交互にラミナ堆積していることが分かった。また、地下水位が深さ80～100cmの位置にあるため、砂層主体となる最下位層は確認できなかった。新田沢下流のトレンチに至ると、最近の水田耕作土が40cm、中世～近世と思われる水田耕作土が20cm、砂質シルト及び細砂層40cmを挟んでTo-a・炭化物を含む黒褐色砂質シルト20cmで、これより下層はラミナ堆積となる。この時点で、ラミナ層中の地表140cmから縄文晩期中葉の土器片が出土した。調査区中央のトレンチでは、地表から120cmの箇所より縄文後期初頭の土器片とともに多量の堅果類が出土した。これにより、縄文後期及び晩期の沢跡が広範囲に拡がっていることが確認され、大部分が攪乱されずに層位的な堆積状況を保っていることが分かった。10月14日には当初積算以上の遺物量と、水面下の包含層調査となることが予想されることから、県生涯学習文化課と当センターによる現地協議を行った。10月6～17日、20～24日（延べ10日間）に重機による西区表土除去を実施。表土除去と並行しながら、10月13～19・25～27日にかけて、西区トレンチ掘削を実施した（延べ8日間）。10月20～31日（延べ7日間）に西区メインベルト南側（3D・4D区）の包含層精査。10月31日～11月11日まで2B・3B区

Ⅱ a～b層精査、10月31日～11月16日まで2B区Ⅱ a～b層精査、10月31日～11月22日まで3B区Ⅱ a～b層精査、11月9～14日まで4B区Ⅱ a～b層精査、11月21～29日まで5A・B区Ⅱ a～b層精査を行った。

東区の現道切替工事及び水道管移設が11月22日に終了し、11月24～28日に重機による表土除去を行った。11月29～30日に検出、12月1～7日に遺構精査を行った。また、隣接する37G区の事業用地内に元地形が一部残存しており、並行してこの箇所調査を行っている。

11月29日は西区東側事業用地内の拡張を重機により行い、11月30日は借地していた西区排土場の水田の復旧作業を実施している。

12月2日、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、県生涯学習文化課、当センターの三者による終了確認を行った。

本調査と並行して、県生涯学習文化課の依頼で、綾織新田遺跡隣接地について試掘調査を実施した。11月1日に重機による表土除去、11月1～2日に検出、11月21日に検出遺構精査を行った。加えて、現道切替工事に伴う水道管移設の立会を11月21・22日に実施している。

12月7日に器材を搬出し平成23年度の調査を終了、撤収した。

作業日数は42日間。湧水のほか、後半は降雪に悩まされたが、荒天による現場閉鎖は2日間のみであった。

<平成24年度>

4月10日から調査を開始した。4月10～13日に前年度養生の撤去と崩落したトレンチ等の復旧作業を行った。4月16日以降、大グリッドごとに西側から各沢跡の精査を進めた。これは多量の排土や巨礫を効率良く排出するためと、常時多量の湧水があるため作業範囲を限定することで排水範囲を狭めるためである。大グリッド境の断面は、必要に応じて断面実測を行い、流路の堆積と新旧関係を把握するように努めた。流路は概ね東から西に向かって移動しながら堆積しているため、新→旧と作業を進めたことになる。5月17日に古代の森研究舎吉川昌伸氏による花粉分析サンプルの直接採取（1回目）を実施。5月23日に現地協議を行い、新田沢沿いの市道部分に沢跡が延び、遺物が出土することから、300㎡を追加した。これに伴い、7月31日までの調査期間を8月10日まで延長し、市道の切り直し道路を作るため調査区西半を6月末に引き渡すこととした。各時期の沢底には砂礫層が50cm以上堆積しており、この中にも遺物を混在することから、本来の河底を露出させるのに苦戦する。6月11日、野外作業員を増員し45名体制。6月19日、遠野テレビ取材。6月24日13時半から現地説明会を行い、一般の方124名に参加して頂いた。6月28日に部分終了確認を行い、調査区西半1,115㎡の引き渡しを7月6日に完了した。また、包含層が市道部分南側にも延びることが分かり、さらに160㎡を追加した。これにより、調査期間を8月末に延長することに決まった。市道部分にも包含層が延びることが分かったため、現新田沢西側の深沢野Ⅰ遺跡範囲について、県生涯学習文化課が斜面部の試掘調査を行い、7月9～12日に調査が行われた。7月最終週、西区東側に晩期末葉の一括廃棄土器を確認。7月31日に古代の森研究舎吉川氏による花粉分析サンプルの直接採取（2回目）を実施。8月1～3日、市道部分の表土除去。8月10日、西区東半の調査の目処が付き、市道部分の調査に着手。8月22日航空写真撮影を実施。8月27～30日に埋め戻し・排土場としていた借地箇所の復旧作業を行った。8月29日、終了確認。8月30日に器材を撤収し、平成24年度の調査を終了、撤収した。作業日数は87日間。荒天による現場閉鎖は4日間と、梅雨時期を挟んだが天候に恵まれた。



## 2 整理方法

### (1) 遺構の整理

遺構実測ソフトで図化してきた遺構図データを元に、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が平面図を作成した。断面図は、担当調査員が第二原図を作成し、株式会社ラングにトレース図化を業務委託した。平面図及び断面図のレイアウトなどは調査員が行った。

遺構図版はまず区域ごとに分け、東区は遺構順、西区は遺構→流路関連順で掲載した。遺構名は現場段階で命名しており、登録抹消となった場合は欠番としている。なお、東区については、平成21年度調査と調査区が隣接しているため、可能な限り遺構名もこれに倣っている。

### (2) 遺物の整理

遺物は種類ごとに大別し、掲載遺物・要観察遺物を選別した上で登録番号を付けた。

本報告書掲載にあたっては、これらに掲載番号を付し、図版番号・写真図版番号も合わせて記載している。観察表の（ ）内数値は残存値、< >内数値は推定値である。

土器は水洗乾燥後、収納袋ごとに破片数及び重量計測を行った。次に註記、遺構及び地点・層位ごとに仕分けを行い、接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録、写真撮影、実測、拓影、トレース、版組の手順で行った。土器は大形の深鉢形土器が大半で、全形を復元できたものは限られる。破片資料は、特徴的な文様があるものを中心に抽出し、各時期を代表するものを優先して掲載した。形状が想定できるものについては観察表に残存率を示した(完形を100%とし、5%刻みで表したもの)。土器底部資料は、編組圧痕が確認できるものについて種別に分類し、拓本のみを掲載した。

石器は、水洗・註記を行った後、担当調査員が全点を観察し、各器種の代表的な形状を抽出した。実測にあたっては整理期間が限られるため、株式会社ラングに業務委託し、レーザー計測によるPEAKIT図を作成し、図化した。これにより整理作業を圧縮したため、より多くの資料を掲載できた。

土製品・石製品は出土量が限られるため、出土資料の大半を掲載した。実測にあたっては石器と同様に株式会社ラングに業務委託した。

木製品は、確認できた資料が1点のみであったが、調査時からかなり脆弱な状態であったため、保存処理を優先した。しかし、保存処理で形状が大きく変わったため、実測はせずに写真撮影のみ行って、掲載した。

動物遺存体は水洗後に選別を行い、全点を掲載したが、担当調査員の観察から同定に耐えられない細片が大半だったため、同定は行わず、写真掲載に留めた。

植物遺存体は、堅果類・葉・樹木に分けられる。堅果類・葉は、現場で土壌ごと取り上げてきたものが小コンテナ62箱以上(土のう30袋程度)あったため、まず土壌洗浄を行い、1ミリと5ミリメッシュのフルイを使用して分けた。その後、堅果類をトチノキ・クリ・オニグルミ・それ以外で抽出し、選別を行った。葉は形状が保たれているものについて抽出した。樹木は洗浄後に、加工の有無などを確認し、樹種同定サンプルを抽出した。堅果類などの詳細な選別法については小項目を参照されたい。なお、選別後は詳細な観察・同定のため、古代の森研究舎に業務委託している。

### (3) 遺物写真撮影

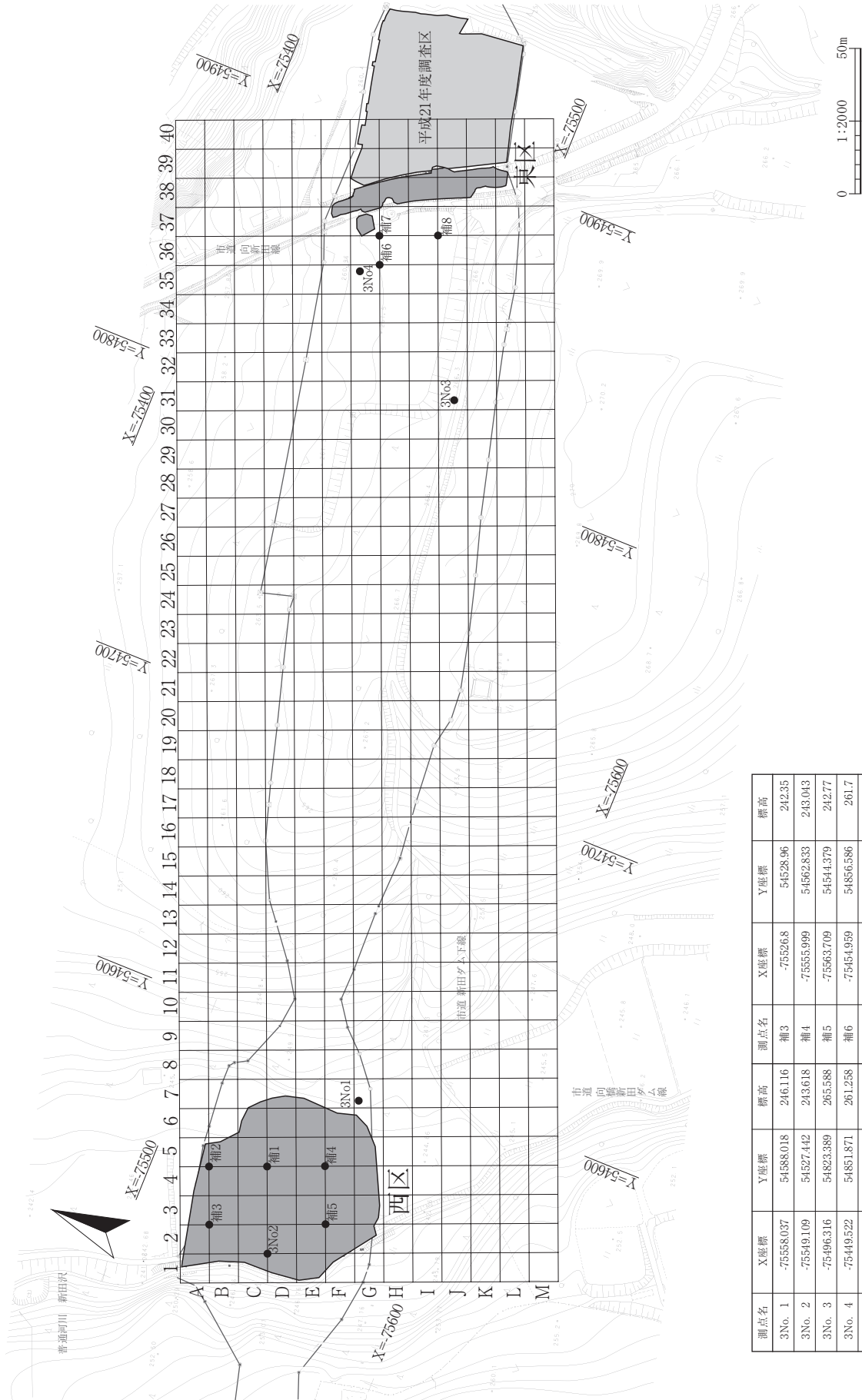
遺物写真は、当センター写場にて写真技師が撮影を行った。撮影にはデジタルカメラ（EOS 1 ds）を使用した。

### (4) 整理経過

平成 23 年 11 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日（3～5 名体制）、平成 24 年 5 月 7 日～平成 25 年 3 月 31 日（4～10 名体制）で室内整理作業を行った。このうち、平成 24 年 5～8 月までの 4 ヶ月間は現場作業と並行して行い（調査員は現場のため不在）、主に遺物水洗・計量・注記などを行った。土器接合作業は年度ごとに行い、前年度に選抜した資料についてのみ、翌年度に再度照らし合わせた。その上で、登録する資料を選択し、実測・トレース等を行った。木質遺物・堅果類は、水洗後に種類別に仕分けを行い、計量や破損部分の確認などを行った。主要な堅果類以外は、分析を外部委託している。

## 3 広報活動

- ・調査概報 『平成 23 年度発掘調査報告書』岩埋文第 603 集 2012 年 3 月発行
- ・調査概報 『平成 24 年度発掘調査報告書』岩埋文第 620 集 2013 年 3 月発行
- ・岩手県立埋蔵文化財センター所報 『わらびて』127 号 2013 年 2 月 28 日発行
- ・第 15 回遺跡報告会 報告・資料 2013 年 2 月 16 日
- ・平成 24 年度現地説明会資料 2012 年 6 月 23 日



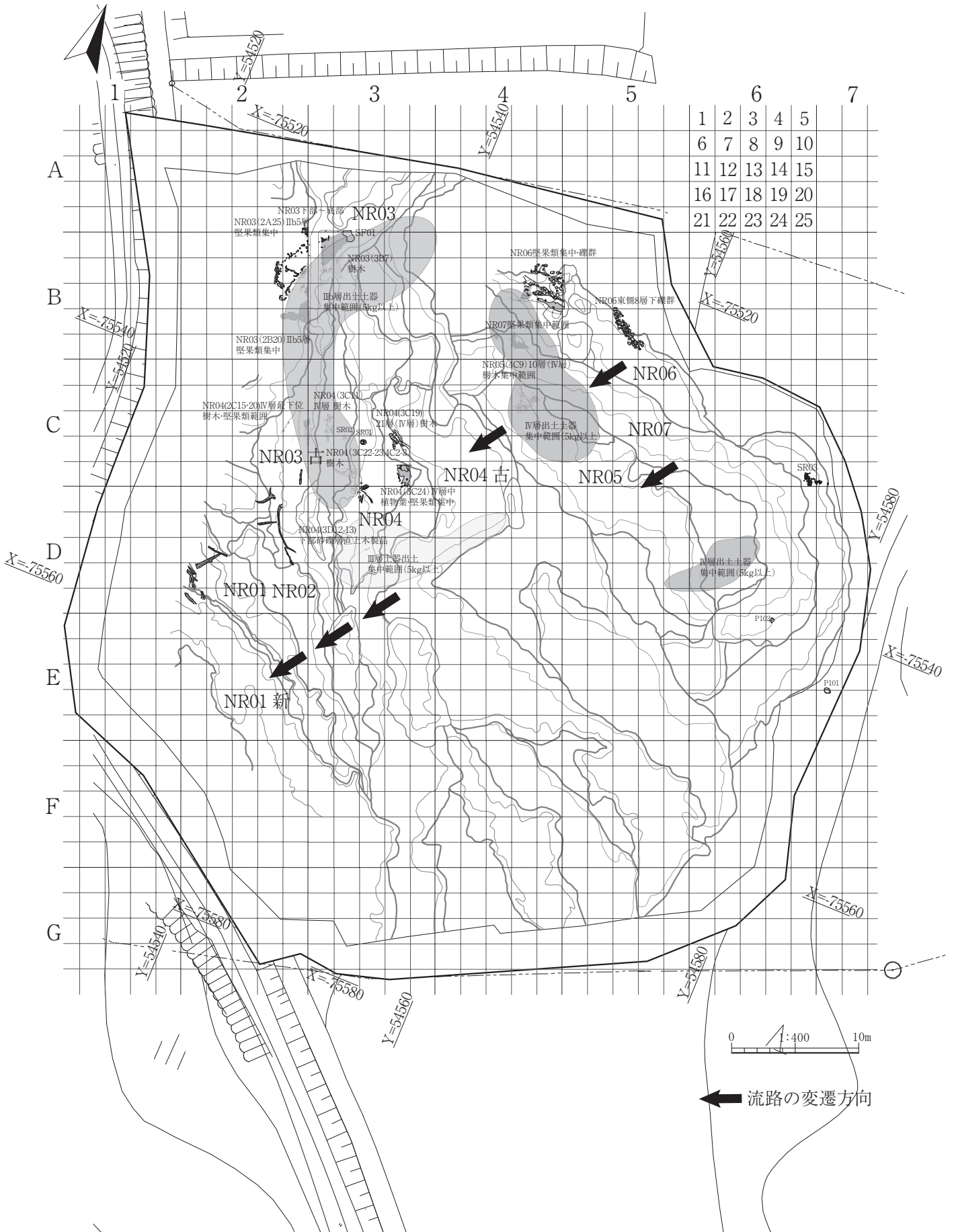
測点名	X座標	Y座標	標高	測点名	X座標	Y座標	標高
3No. 1	-75558.037	54588.018	246.116	補3	-75526.8	54528.96	242.35
3No. 2	-75549.109	54527.442	243.618	補4	-75555.999	54562.833	243.043
3No. 3	-75496.316	54823.389	265.588	補5	-75563.709	54544.379	242.77
3No. 4	-75449.522	54851.871	261.258	補6	-75454.959	54856.586	261.7
補1	-75537.545	54555.124	243.006	補7	-75451.104	54865.813	261.812
補2	-75519.091	54517.414	242.738	補8	-75469.559	54873.523	262.156

第8図 調査区全体図

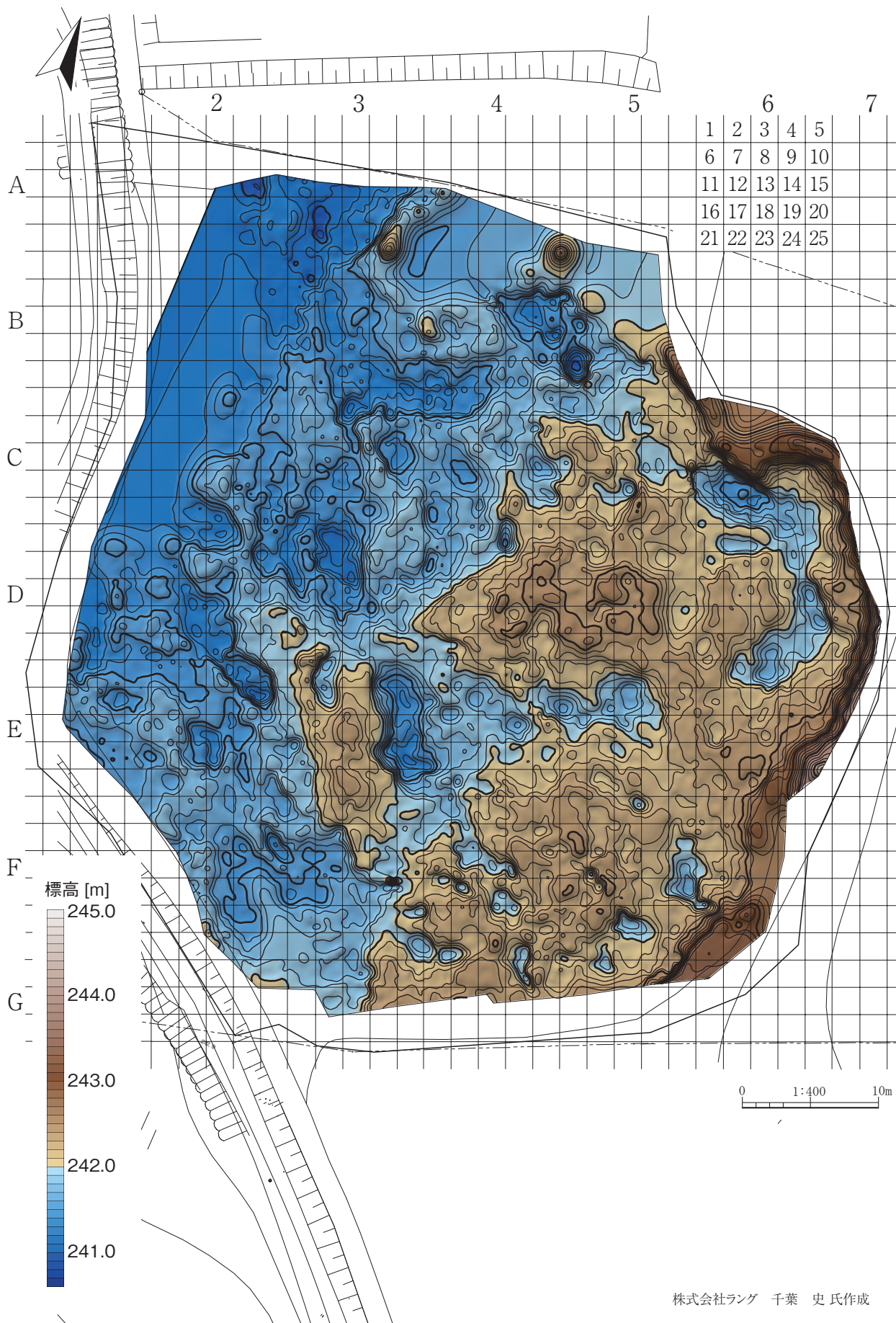


第9図 東区全体図

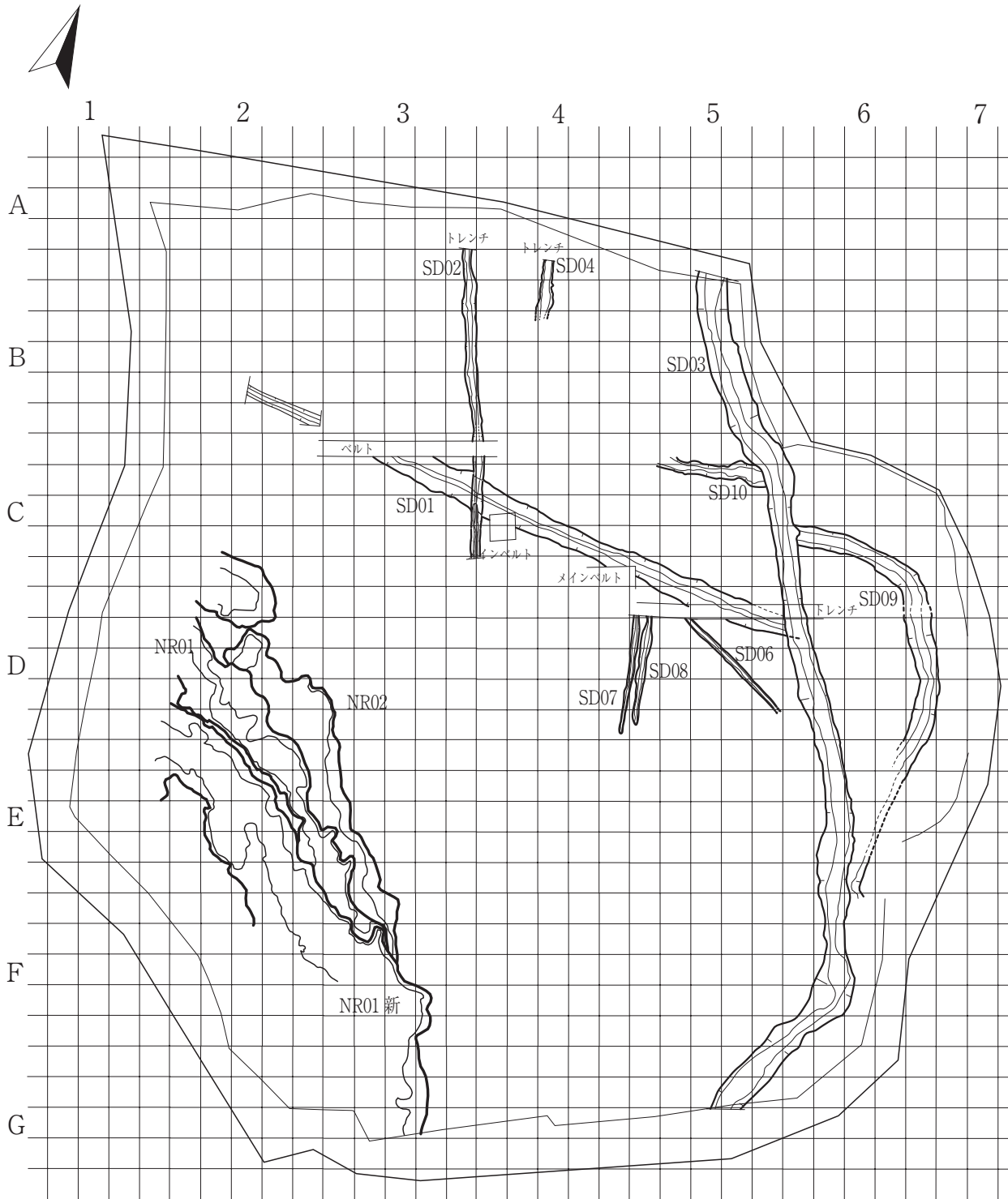




第10図 西区全体図



第11図 西区・等高線図



第 12 図 西区・平安時代以降全体図



## Ⅳ 検 出 遺 構

### 1 全 体 概 要

今回の調査区は、平成 21 年度調査区の西側に隣接する市道向新田線路線内 921㎡と現新田沢沿いの平坦部 3,225㎡が対象範囲である。これらの調査区について、前者を「東区」、後者を「西区」と呼称することとした。各々の調査区は直線距離で約 300 m 離れており、同一遺跡内であるが東区は縄文時代中期中葉～後葉主体、西区は縄文時代後期初頭～晩期末葉主体と基本層序・検出遺構・出土遺物が異なる。

検出した遺構は、東区が竪穴住居跡 1 棟・土坑 1 基・ピット 11 個、西区が沢跡 7 期・土器設置遺構 2 基・土器集積遺構 1 基・堅果類集中範囲多数・礫群 2 基・焼土遺構 1 基・ピット 2 個・溝跡 9 条である。

各々の遺構ごと、沢跡とそれに関連する遺構ごとに記載する。

### 2 東 区

#### (1) 概 要

東区は、平成 21 年度に当センターが発掘調査を実施した区域の西側に隣接する市道向新田線路線敷範囲内が対象である。前回の調査（岩埋文 2011）で縄文中期後葉に比定される竪穴住居跡 1 棟（S I 0 7 住居跡）が現道部分まで延びていることが確認されたことにより、今回の本調査範囲に組み込まれた。南北約 70 m、東西約 10 m の細長い調査範囲となる。なお現道の北西側、現況牧草地については、平成 22 年度に実施された試掘調査の結果から一帯が大きく削平を受けていることが確認され本調査の必要なしと判断されているが、1 箇所のみ樹木の切株部分が削平を受けず旧地表面以下が残存している部分があり、これも今回の本調査範囲に含めている（第 15 図 37G 区包含層）。

南西側に隣接する市道向新田線の北側については今回の調査期間内に同時並行で県教育委員会による試掘調査が行われ、時代不明の溝 1 条、攪乱の可能性もある土坑 1 基が検出された。出土遺物はない。

現道部分では舗装面下位の盛土碎石が最大 130cm 程の厚さで残っており、これを重機で除去し地山粘土層を露出させたところ、想定される縄文時代遺物包含層レベルより数十 cm 程度下位まで道路敷設に伴う削平が及んでいることが判明し、辛うじて残存している遺構の検出、精査を行った。なお調査範囲西側は道路側溝の U 字溝埋設に伴う削平が更に深く及んでいることから実際の掘削は行っていない。また調査区内にある電話電柱 2 本については調査着手前の移転が完了していなかったため、アンカー部分も含めて掘削範囲から除外した。上述のように削平が深く及んでいたため、現道部分において精査対象とした遺構は平成 21 年度調査区にまたがる S I 0 7 住居跡の西半、S K 1 0 1 土坑 1 基のみである。

北西部 37G 区包含層（小山地点）は切株の周囲が削平を受けず塚状に高まりとして残っていた東西約 6 m、南北 5 m 程の楕円形の範囲について表土下位の縄文土器片をやや多く含む黒色土を 2 層として掘り下げ、出土遺物は小グリッド単位で取り上げた。2 層下位は 3 層漸移層を経て 4 層地山褐色粘土層となるが、この 4 層上面で小径のピットを 11 基検出し記録している。以下、個別の遺構毎に記載する。

## (2) S I O 7 竪穴住居跡

遺構（第13・14図、写真図版5・6）

調査区北東部の北西に下がる緩斜面に位置する長楕円形の竪穴住居跡である。平成21年度調査において精査を行ったS I O 7住居跡の西半部分であることは確実であるため、今回もS I O 7の遺構名を用いる。

東半との境界にはコンクリート製のU字溝が埋設され、更に西半の中央付近は水道管理設溝が横断する。合わせて西半全体が道路敷設の削平を受けており、本住居跡の北側は床面が残存せず深めの柱穴のみ検出した。ただし、規則的な炉や柱穴の配置から竪穴輪郭線の概略位置を推定することは可能で、第13図に外周の破線で示した。北東端近くではS K 4 7土坑と重複するが、前回調査では本住居跡が新しいとの所見が記されている。

形状は南北壁が概ね平行する長楕円形ないし長方形で、中軸線方位はN-73°-E付近である。東半部分も含め全体として見た時の規模は長軸方向で東端から西端まで12.8m、南北方向の横幅は中央部の最も広くなると思われる部分で4.2m、開口部の面積は約45㎡程になると予想される。西半部分の南壁立ち上がりは最大で7cm程度の残存に過ぎず、埋土も断片的にしか確認できないため土層断面記録は省略している。褐色粘土層に設けられた床面は比較的堅く締まり、多少の凹凸がある。

住居中軸線上に炉が直列する。東半で炉F 1・炉F 2（以下炉1・炉2とする）が検出されていたが、今回は更に炉3・炉4を確認し、合計4基の炉がほぼ1直線上に並ぶ状態である。

このうち西半を精査した炉2は角礫・亜角礫を楕円形に組んだ石囲炉で、中央が浅く凹み比較的強い焼成面が形成される。南側には焼成面外周に沿って15cm程の楕円形のピットがあり、設置した炉石が移動した痕跡とみられる。また焼成面上に黄褐色粘土のブロックが見られたが、これは一切焼成を受けていない粘土であり炉の機能停止後に移動したものと考えられる。

炉3は炉2から約2m離れた地床炉である。周囲が削平されているため北東側は焼成部分の正確な範囲や付属ピット等が確認できなかったおそれがある。中央部の焼成は強く、その周囲には焦土化した範囲が認められる。南側では楕円形のピットが複数並び一部は溝状を呈しており、本来は石囲炉であった可能性がある。

炉4は更に2m離れた位置にある地床炉で楕円形の浅い凹み底面に強い焼成面が形成される。ここでは炉石を設置したような痕跡はなく本来の地床炉と判断される。焼成面直上の1層には炭化物が含まれるが、細片、脆弱につきサンプリングは行っていない。

柱穴は西半において10基、また前回調査時に一部が精査されていた2基を含め12基を検出した。現場で登録した柱穴名はP 1～P 12である。なお、東半では前回調査時にP 1～P 43が登録されているが、このうち7基については平面図に記録がなく所在不明である。また断面図と平面図とで柱穴名称の食い違い等も見られるため、36基について登録し直し新たに西半、東半合わせてP 1～P 46、合計46基の柱穴に整理した。今回調査のP 1～12については半裁して断面の観察を行っているが柱痕跡等は不明瞭であったため断面実測記録を省略した。

柱穴の規模は開口部径が最大で50cm台、深さは60cm以下であり飛び抜けて大きな柱穴は見られないが、他より一回り大きく深いものが複数存在する。第14図左下は深さ40cm以上、同じく30cm以上40cm未満を抜き出したもので、住居中軸線を挟み壁際に直線的に配列している状況である。これらを結び柱間2m～2.5m程度を目安とした配列の推定ライン（A・B案）を図示した。西半では攪乱を受けて柱穴位置が不確実な部分を含むものの、主柱穴配置が新旧の2段階に分離できる可能性が高い。

A案ではP 7 - X - P 3 - P 14、P 11 - P 10 - X - P 41の8基を使用した。柱間は平均2.5m

である。P 14・41 以東に P 13・16 をあてることもできるが両者は深さ 11～18cm と浅いためこの案では使用していない。ここでは炉 2・3・4 がいずれも 4 本の主柱穴に囲まれた空間の中央に位置するため、これら 3 基の炉が A 案柱穴配置と関連する可能性が高いと見られる。また住居中軸線上に並ぶ炉の中間地点に深さのある P 5・20 がある。P 5 は P 10 と南側の X を結ぶ梁の中間、P 20 は P 14 と P 41 を結ぶ梁の中間にあたり、これらも A 案の配置を構成する柱穴の一部ではないかと考えられる。

B 案では P 2 - P 1 - P 9 - P 15 - P 28、X - P 4 - P 43 - P 39 - X の 10 基を使用した。柱間は 2.1～2.8 m とややばらつきがある。柱間平均値は 2.4 m 程度。各柱穴を結ぶラインは A 案よりもわずかに南にずれる位置にある。竪穴全体に対する配置はバランスが良いものの想定される梁の直下に炉 3・4 が位置しており炉 2～4 は B 案柱穴配置と関連しないと思われる。一方、炉 1 については P 15・P 28・P 39 に囲まれる範囲の中央部にあり、B 案との関連がうかがわれる。

東半では竪穴外部に複数の柱穴が散在する（P 17・19・25～27・29・32・33・46）。外周から離れている P 26・46 では約 1 m 程度離れている位置にあるが、本住居跡の周囲では他に単独で検出された柱穴状ピットが分布しない。本住居跡に伴う垂木尻等の痕跡として捉えておく。

#### 遺物（第 40 図、写真図版 37）

今回の調査範囲にあたる住居跡西半では、埋土、柱穴内堆積土中等から少量の縄文土器片、石器類が出土している。土器は概ね大木 8 b 式相当に比定されるものである。

S I O 7 住居跡は 2 回にわたる調査の結果、大木 8 b 式段階の長方形（長楕円形）大形住居跡であることが判明した。主柱穴配置から 2 時期の建て替えが想定される。4 基の炉は中軸線上に配列されいずれも強い熱変色が見られる。ただし炉 1 と炉 2～4 では柱穴との位置関係から時期差を持つ可能性がある。

### （3）SK101 土坑

#### 遺構（第 15 図、写真図版 7）

現道部分調査区のはほぼ中央で検出された円形の土坑である。地山粘土層が相当程度削平された検出面であるため本来の深さは捉えられていない。形状は上面観円形で南西部は水道管理設溝に切られるがほぼ全体の状況が判明する。

埋土の最上部 1 層は縮まりのやや弱い暗褐色土で構成されるが下部の 2・3 層では外観は地山粘土層と顕著な差はなく、縮まりがやや弱いという程度である。しかし精査過程では、壁面・底面に接する部分において非常に堅く縮まった地山粘土層から埋土 3 層が「肌分かれ」する状況が顕著であり、検出した壁面・底面は正確である。壁面は凹凸をもって直立気味に立ち上がるが上方はやや外に開く。底面は緩く傾斜し中央に円形の副穴を伴う。土坑全体の規模は長径が 1.55 m、深さは 65cm。副穴は径 20cm、深さ 32cm で下に向かってすぼまる断面形状である。

本土坑からの出土遺物は皆無で遺構の年代観も不明であるが、隣接する調査区には縄文中期後葉の集落が広がっておりその外縁に近い位置から見ると本土坑も縄文中期後葉の可能性がある。

### （4）北西部小ピット群

#### 遺構（第 15 図、写真図版 7）

既述の北西部飛び地・37G 区（小山地点）において、塚状の高まりとして残っていた遺物包含層下位で検出した全 11 基の小径のピット群である。P 1～P 11 の名称で登録した。検出面は地山褐色粘

土質シルト層上面であり、ピット埋土は黒色土～黒褐色土を主体とする。締まりが弱いものが多く何らかの掘り込み痕跡であることは間違いないが、必ずしも全てが人為的なピットとは言い切れない。中には木根や小動物の巣穴などの自然現象に伴うものが含まれているおそれがある。

形状は円形や楕円形で開口部径が40cm～15cm程度、深さは10～15cm程のものが多く最大でも20cmである。位置関係を見るとP1～4がほぼ1直線上に並ぶため、何らかの関連があつて建物を構成していた可能性も考えられるが確証を得ない。時期については上位がプライマリーな縄文中期後葉の遺物包含層によって覆われているため、これらのピット群も縄文中期以前と想定されるが特定することは困難である。

### (5) 北西部遺物包含層

遺構 (第15図、写真図版7)

前述の北西部飛び地に残存していた面積30㎡弱の縄文時代中期後葉遺物包含層である。遺物はほぼ全てが計2層に包含される。1層は黒色土主体の表土、2層は黒色土主体の遺物包含層である。分布は37G18グリッド北西隅を中心としてほぼ満遍ないが、総量は少量に留まる。

遺物 (第40図、写真図版37)

土器は16～26の11点を掲載した。いずれも深鉢で、縄文時代中期中葉～後葉の大木8b式相当に比定される。

なお、この地点から北東側の調査区外において工事用仮設道路建設に伴い地表面を一部掘り下げた場所があり、掘削に立会したところ非常に多量の縄文中期後葉土器片が包含される黒色土が確認された。本地点の2層黒色土とほぼ同相の黒色土であり、遺物包含層の主体が今回の調査区より北側で良好に残存しているものと思われる。

(高木、一部北田加筆)

## 3 西 区

### (1) 概 要

西区は、現新田沢東側に広がる平坦地で、水田部分と市道向橋新田ダム線として利用されていた範囲が対象である。平成12年度に遠野市教育委員会が行った試掘調査によって、縄文時代中期末や平安時代の遺物が確認された地点である。現新田沢の西側は丘陵となり、深沢野I遺跡が位置している。

西区は近年まで、水田耕作以外の土地利用はされていなかったため、表土層より下層は攪乱の影響を受けずに良好な状態で残存していた。ただし、II a層より上層は平安時代以降の水田耕作の影響を多分に受けている。平安時代の水田については、設定したセクションなどの断面では確認できたが、後世の耕作により平面で捉えることは出来なかった。To-aテフラを上部に堆積するNR02沢跡が3E～F区で確認していることから、これよりも東側3～5グリッドライン周辺に作られていたのではないかと考えられる。これら、耕作に関係すると考えられる溝跡も9条見つかっている。

縄文時代前期中葉～現代までの沢跡が確認され、大きく7時期に変遷していることが分かった。流路は主に、東斜面裾部から西側の現新田沢の位置まで東から西に移行しているのが確認された。人間活動は縄文時代前期中葉～晩期末葉に頻繁となり、NR07～03沢跡までの5時期の沢岸が作業場・捨て場として利用されており、特に晩期後半のNR03沢跡では多量の土器・石器の他に、堅果類の集中域が認められた。また、東斜面裾部の6C25～7C21からは晩期末葉の大洞A1式相当の土器群が集積して出土しており、出土状況から何らかの儀礼的行為が想定される。



今回の調査で、縄文時代の遺物包含層が現新田沢まで続いていることが確認されたことから、県生涯学習文化課による対岸の深沢野 I 遺跡東斜面部分の試掘が行われたところ、晩期後半の遺構・遺物が出土した。これを受けて、今回の調査期間中に本調査が行われ、NR03 沢跡と同時期の大洞 C 2 式期の竪穴住居跡 1 棟が認められた。以下、流路ごとに関連する遺構を記載する。

## (2) NR06 沢跡及び関連遺構

遺構 (第 10・11・26 図、写真図版 18～22)

西区東端部分の 4B・5B～C・6C～F・7C～E グリッドに位置する。東斜面裾部に沿うように東西に曲がっている約 52 m に亘って確認された流路跡である。深度は II a 層上面から - 1.15 m、II b 層上面から - 90cm、底面標高は各セクションの最深部がセクション Q で 241.95 m、セクション R で 242.22 m、セクション S で 241.97 m と、南から北に向かって徐々に下がる。

堆積土は、セクション Q が計 8 層、セクション R が計 13 層、セクション S が計 12 層で構成される。セクション Q は、7・8 層が沢存続時期の初期堆積土 (河底砂礫層)、6 層が IV 層起源のオリーブ黒色粘土、5 層が III 層起源のにおい黄褐色砂、3・4 層が II b 層起源の黒褐色砂質土、1・2 層が II a 層起源の黒褐色土である。1 層と 2 層の境界には T o - a テフラが認められ、1 層の攪拌や巻き上げ状況から水田耕作が行われていたと見られる。堆積土中には平安時代中期の遺物が含まれることから、この時期の耕作痕跡と考えられる。セクション R は、13 層が沢存続時期の初期堆積土 (河底砂礫層)、12 層が 9 層以前の斜面崩落土、8～11 層が IV 層起源の黒褐色粘土質土主体、5～7 層が III 層起源のにおい黄褐色砂主体、2～4 層が II b 層起源の黒色砂質土主体、1 層が II a 層起源の黒褐色砂質土である。全体に水成堆積土と斜面崩落土で構成され、東斜面から離れるに従って水平堆積となる。セクション S は、12 層が沢存続時期の初期堆積土 (河底砂礫層)、9～11 層が T o - C u テフラ降下以前の斜面崩落土、8 層が T o - C u テフラ二次堆積層、5～7 層が IV 層起源の黒褐色土主体で粘土質と砂質の互層、4 層が III 層起源のにおい黄褐色砂、2・3 層が II b 層起源の黒色土主体、1 層が II a 層起源の黒褐色砂質土である。今回の調査区で唯一 T o - C u テフラの堆積が確認され、本流路が縄文時代前期に比定されることが確認された。

4B10 付近と 5B13・23 付近の 2 箇所から、礫群が確認された。当初は、岸辺に流入した礫が自然堤防上に自然堆積したものと考えたが、礫の集中状況や大きさが周辺の礫と異なるため遺構として精査を行った。これらはセクション G を設定したベルト (5B 区 NS 断面) を挟んで検出しており、本来は一連の遺構と考えられる。セクション G からは 11 層上面に形成されており、NR06 沢の流れが NR07・05 沢に移行し始めた頃の NR06 沢右岸に構築されたと考えられる。規模は、長さ約 13 m、幅は 0.6～1 m の範囲である。4B10 付近では、コの字状に 10～40cm 大の垂角礫を並べているが、5B13・23 付近では 10～40cm 大の垂角礫を重ねるように直線的に並べてある。4B15 付近は、右岸から崩れた礫が沢底部分に入り込んでいる。

4B14・15 からは、NR06 沢底に堅果類が集中して確認された。検出した礫群からは南に 1 m の箇所があり、近接している。集中範囲は 3 箇所あり、1.1 m × 0.7 m、1.8 m × 0.5 m、2.25 m × 0.6 m の不整形の範囲である。この範囲から、オニグルミ・トチノキの殻が多量に確認されている。NR06 沢の流路が NR07・05 沢に移行し始め、流れが停滞した時期に形成されたと考えられる。

7E16 と 6E4 からそれぞれ、P101 ピットと P102 ピットが確認された。規模・形状は、P101 が 58 × 40cm の楕円形で深さ 20cm、P102 が 36 × 30cm の方形で深さ 21cm である。いずれも同質の黒褐色土が堆積している。P101 堆積土から、胎土に植物質繊維を多量に含む土器片が出土しており、T o - C



u テフラ降下以前の縄文前期初頭～前葉に位置付けられる。

沢跡の存続時期は、T o - C u テフラ堆積後からIV層起源土が堆積してNR07 沢跡に流路が移行する前期初頭～中期後葉までと捉えられる。

### (3) NR07 沢跡及び関連遺構

遺構 (第10・11・26 図、写真図版18～22)

西区東端付近の4 B～C・5 C・6 C～E グリッドに位置する。NR06 沢跡の東側に沿うように位置しており、東斜面の張り出しに沿うように東西にカーブする約50 mに亘って確認された流路跡である。深度は、II a 層上面から-1.6 m、II b 層上面から-1.5 m、II c 層上面から-1.3 m、II d 層上面から-1.15 m、底面標高は各セクションの最深部がセクションEで241.27 m、セクションGで242.05 m、セクションJで241.85 m、セクションQで241.95 mとなり、セクションGでやや高いものの概ね南から北に向かって下がる。

堆積土は、セクションEが計12層、セクションGが計3層、セクションJが計22層、セクションQが計8層で構成される。セクションEは、(11)層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、(6)～(12)がIV層起源の黒色土と細砂・砂質土の互層、(4)・(5)・(13)層がIII層起源の黒褐色土、(2)・(3)層がII b 層起源の黒色土、(1)層がII a 層起源の黒褐色土である。(6')層には多量の炭化物粒とともに後期初頭遺物が混入する。セクションGは、14・15層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、7層がIV層起源の黒褐色土である。沢存続時期は短く、NR05 沢とほぼ同時存在した状況が断面観察から分かる。セクションJは、22層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、18～21層がIV層起源のオリーブ黒色砂質土主体、14～17層がIII層起源のオリーブ黒色土主体、8～13層がII b 層起源の黒褐色砂質土主体、7層がII a 層起源の黒色土、6層が攪乱土、1～5層がSD09 溝跡堆積土である。堆積は、NR06 沢跡とほぼ同一箇所であり連続する時期であるため、NR06 から07への移行が各断面に観察される。

4B23～24・IV層下部で、河底砂礫層上部に堅果類が集中して廃棄されている範囲を確認した。35×30cmと1.5×1.2 mの不整形の範囲で、20～30cm大の亜角礫が並べられている。流れを堰き止めるように置かれていることから、作業のために人為的に設置された可能性がある。種類はトチノキが大半であり、668.5 g出土した。細片が多く、人為的な皮剥き作業の残渣と考えられる。

沢跡の存続時期は、NR06 沢跡埋没後からIII層起源土が本流路を覆う中期後葉～後期初頭までと捉えられる。

### (4) NR05 沢跡及び関連遺構

遺構 (第10・11・26 図、写真図版12～15・20～22)

西区東側の3 B～C・4 B～C・5 C～D グリッドに位置する。NR07 沢跡の西隣、NR04 沢跡の東隣に位置し、南東から北西方向に走る約32 mに亘って確認された流路跡である。深度は、II a 層上面から-95cm、II b 層上面から-90cm、III層上面から-80cm、IV層上面から-60cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションEで241.87 m、セクションGで241.68 m、セクションIで242.1 mとなり、セクションEでやや高いものの概ね南東から北西に向かって下がる。

堆積土は、セクションEが計11層、セクションGが計10層、セクションIが計8層で構成される。セクションEは、(11)層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、(6)～(9)層がIV層起源の黒色土主体、(4)・(5)層がIII層起源の黒褐色土主体、(2)・(3)層がII b 層起源の黒色土、(1)

層がⅡ a 層起源の黒褐色土である。下位層は水成堆積層、(5) 層以上は各時期の開けた沢岸であったと見られる。セクション G は、9・10 層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、7・8 層がⅣ層起源の黒褐色土主体、3～6 層がⅢ層起源の灰黄褐色砂質土主体、2 層がⅡ b 層起源の黒色土、1 層がⅡ a 層起源の黒色土である。7・8 層には多量の植物遺体が含まれており、水流が弱まった淀みに人為的廃棄が行われたと見られる。セクション I は、12・13 層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、9～11 層がⅣ層起源の黒色～暗オリーブ灰色主体、8 層がⅢ層起源の黒褐色土、6・7 層がⅡ a 層起源の黒色土主体である。1～5 層は SD03 溝跡堆積土。12・13 層の河底砂礫層が 5D3～6D1 グリッド付近で厚く堆積しているため、検出面ですでにⅣ層起源土が露出している。

4C9・10 層（Ⅳ層下部）から、沢内部に自然に形成された凹みに堅果類及び樹木が淀んで堆積している箇所を確認した。堅果類は、2.25cm×1.65cm の不整形の範囲に集中して出土した。種類は、トチノキ殻が 254.3 g、オニグルミ殻が 177.8 g 認められる。これらを取り除いた下部には、オニグルミやケンボナシ属の枝が集中して見つかった。伐採痕など人為的痕跡を確認したが認められなかったため、凹みに自然堆積したものと判断した。水流が停滞した時期に形成されたものと考えられる。

沢跡の存続時期は、NR07 沢跡埋没後からⅢ層起源土が流路を覆う中期後葉～後期初頭までと捉えられる。

### (5) NR04 沢跡及び関連遺構

遺構（第 10・11・27 図、写真図版 12・13・15・17・23～26）

西区中央の 3 A～G・4 A～G・5 D～G グリッドに位置する。NR05 沢跡の西隣、NR03 沢跡の東隣に位置し、南東から北西方向に調査区中央を縦断する約 60 m に亘って確認された流路跡である。NR04 沢跡は流域が大きく蛇行した時期であり、東側が NR04 古、西側が NR04 と捉えられる。深度はⅡ a 層上面から -1.8 m、Ⅱ b 層上面から -1.7 m、Ⅲ層上面から -1.35 m、Ⅳ層上面から -90cm、底面標高は各セクションの最深部がセクション E で 241.05 m、セクション H で 241.08 m、セクション L で 241.95 m となり、セクション E で南東から北西に向かって大きく下がる。

堆積土は、セクション E が計 18 層、セクション H が計 15 層、セクション L が計 15 層で構成される。セクション E は、32～35 層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、19～26 層がⅣ層起源のオリーブ黒色土主体、15・16・18 層がⅢ層起源のオリーブ黒色～灰色土主体、9・17 層がⅡ b 層起源の黒色土主体、8 層がⅡ a 層起源の黒褐色土である。Ⅳ層中の 22 層及び 19 層に縄文時代後期初頭の岸辺が認められ、多量の炭化物が覆っていることから何らかの人間活動が行われていることを示している。セクション H は、35 層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、33・34 層がⅣ層起源の黒色土主体、26～29 層がⅢ層起源のオリーブ黒色砂質土主体、19～25 層がⅡ b 層起源の黒色土主体、4 層がⅡ a 層起源の黒褐色土である。29 層が堆積する直前に NR04 古沢跡の沢岸が認められる。セクション L は、20 層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、16～19 層が砂礫堆積層、15 層がⅣ層起源の黒色土、10～14 層は砂堆積層、7～9 層がⅢ層起源のオリーブ黒色土主体、6 層がⅡ b 層起源の黒褐色土である。著しい流路の変化により、前時期に堆積した沢岸を破壊しているため複雑な堆積状況となっている。

本沢跡は、流路の蛇行により沢跡の線形を大きく変化させており、沢岸や淀みには流木が多く確認された（第 27 図）。また、3C24・Ⅳ層中からは堅果類や植物葉の集中範囲も認められる。このうち、3D12・13 河底砂礫層上面から木製品 1 点を確認した（第 27 図右上）。長さは 1.8 m で、先が二又に分かれる形状をしており、先端には炭化した痕跡が確認できる。当初は漁具や櫂を想定していたが、取

り上げ後の検討の結果、建築部材の一部ではないかとの結論を得た。詳細は出土遺物の項目で記載する。

3C17及び3C18からは隣り合った箇所に2基の土器設置遺構を確認した(第27図左上)。SR01は倒立して設置した土器がほぼ完形で出土した(27)。堆積の状況から、土器埋設遺構のように土坑を掘削した上で埋設しているのではなく、沢岸の柔らかい砂地に差し込んで固定したものと考えられる。内部の土壌については、設置後に水流などの影響で斜めになり、土壌が入り込んだものと考えられる。SR02も同様の設置方法だったと考えられるが、深鉢が破損して崩れたものと考えられる(28)。2個体はほぼ同一の器形で、縄文時代後期前～中葉に比定される。いずれも、内容物を確認したが何も認められなかった。

沢跡の存続時期は、NR05沢跡埋没後からⅢ層起源土が流路を覆うまでの後期初頭～後期中葉までと捉えられる。

### (6) NR03沢跡及び関連遺構

遺構(第10・11・16～18・20・28図、写真図版10～12・15・27～29)

西区西側の2A～D・3A～Eグリッドに位置する。NR04沢跡の西隣、NR02沢跡の東隣に位置し、南南東から北北西方向に走る約46mに亘って確認された流路跡である。NR03沢跡は、ほぼ直線的な形状の東側NR03古と3A～Bグリッドで南南東から北方向に流路を変化させる西側NR03の2区分される。深度はⅡa層上面から-1.1m、Ⅱb層上面から-97cm、Ⅲ層上面から-55cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションAで241.07m、セクションEで241.35m、セクションHで241.25mとなり、概ね南東から北西に向かって下がる。

堆積土は、セクションAが計8層、セクションB～Cが計45層、セクションDが計10層、セクションEが計11層、セクションHが計13層で構成される。セクションAは、22層が沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、20・21層がⅢ層起源の灰黄褐色砂質土主体、16～19層がⅡb層起源の黒色土主体、10層が暗褐色のⅡa層起源の暗褐色土である。10層中には、T o - aテフラを含んでおり、該期の耕作土層と考えられる。セクションB～Cは、44層が砂礫4層で沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、45層が砂礫5層でこれも沢存続時期の初期堆積土(河底砂礫層)、43層がNR04沢跡堆積土、39～42層が沢底堆積層でセクションC東側のみ堆積、38層がⅡb5層でⅡb層最下部の暗褐色砂質土、36・37層が黄褐色砂主体のラミナ堆積層、33～35層が炭化物集中層、32層が廃棄焼土層、31層がⅡb4層で晩期遺物・炭化物を多量に含む層、30層は灰黄褐色砂質土の均質層(人為の可能性あり)、24～29層は細砂～粗砂の河川堆積層、23層は木片を含む黒褐色泥炭質層、21・22層は細砂の河川堆積層、20層はⅡb5層でⅡb層最下部の黒褐色泥炭質層、19層は20層の上部にある泥炭質と砂の互層、18層は堅果類・木片を含む黒褐色泥炭質層、17層が木片を含むオリーブ黒色細砂層、16層が炭化物を含む灰黄褐色砂質土、13～15層は晩期遺物を多量に含むⅡb4層、12層はⅡb4層上面が焼土化しているにぶい赤褐色砂質土、9～11層はⅡb3層で堅果類・木片を多量に含む、8・8'層は晩期遺物・炭化物を多量に含むⅡb2層、3～7層が晩期遺物を多量に含むⅡb1層、1・2層がⅡa層で後世の耕作によるⅡb1層攪拌層である。Ⅱb層は、上層から1～5層が確認され、河川によるラミナ堆積を挟みながら短期間に形成されている。セクションBはNR03沢跡を流路方向に縦断した断面である。セクションDは、その南側に位置する断面で、セクションBの南に続くセクションである。10層は砂礫4層でNR04沢跡の河底砂礫層、4～9層はNR03沢跡のⅢ層堆積層、3層はセクションB・13層に続くⅡb4層で晩期遺物を多量に含む層、1・2層はその後に堆積したⅡb1層相当である。NR03



沢跡の流路はセクションDの西側に存在するため、沢岸の堆積が確認できた。セクションEは、28～31層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、13・14層がⅢ層起源のオリーブ黒色土、9～12層がⅡb層起源の黒色土主体である。11層は炭化物層の中に晩期遺物が多量に含まれ、人為的廃棄層である。セクションHは、砂礫3層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、9～19層がⅡb層起源のオリーブ黒色土主体、4層がⅡa層起源の黒褐色土である。流路の変化により、前時期に堆積した沢岸を破壊しているため、下部は遺物の混在が著しく複雑な堆積状況となっている。

本沢跡からは、多量の晩期遺物とともに炭化物の広がりや広範囲に広がる焼土、沢岸に並べられた礫群、堅果類の集中廃棄範囲が確認された（第28図）。NR03沢跡が利用され始めたのは、Ⅱb5層が堆積し始めた頃と考えられる。

礫群は、2B5・2B10を中心に検出しており、NR03沢跡の左岸に構築されたと考えられる。規模は、4.2×2.5mの長方形で、南から1.5mで間仕切りされており、「日」形を呈する。NR03沢跡の流路方向が南から北に向かっており、これに沿うように作られている。礫は10～40cm大の垂角礫を使用しており、細砂～粗砂が堆積した沢岸に直接設置されている。どのような機能を果たしていたかは不明である。

粘土焼土ブロックは、3B6～7を中心に検出しており、NR03沢跡の右岸に形成された遺構である。規模は、約3×1.2mの長い不整形で、南半はセクションBベルト内部まで広がっている。NR03沢跡の流路方向に沿うように作られており、礫群とは沢跡を挟んで対岸になる。セクションB・12層に確認された断面から、周囲に存在しない粘土層の上面がにぶい赤褐色に弱変成している。12層は、Ⅱb4層の上面に形成されており、Ⅱb3層の9～11層より下層で、Ⅱb4層の13～15層と同一もしくは上層に確認されている。粘土焼土ブロックは、ちょうど沢岸から流路へと下がる斜面部に確認されており、人為的に貼り付けられた粘土の上面で燃焼させた形跡がある。沢岸での作業のためか不明であるが、周囲にない粘土を貼り付けた上で燃焼行為を行っていることから、祭祀的な意味があるかもしれない。

また、3B2からはSF01焼土遺構を確認した。SF01はⅡb2層上面に形成されており、規模は1.36以上×1.0mの不整形を呈している。燃焼面は赤褐色に強変成しており、検出時は焼土の上面を炭化物が覆っていたことから、現地性焼土と考えられる。

NR03沢跡右岸を中心に、晩期遺物を多量に確認した。種類は、土器・土製品・石器・石製品である。なかでも、土器は最も多量に出土しており、大半が大洞C2式相当の深鉢形土器である。主に煮炊きに使用されたと考えられる深鉢が多量に出土したことは、堅果類のあく抜き作業や皮剥き作業に直接関わる遺物であり、生活に直結するものと考えられる。分布状況については、V（1）縄文土器を参照されたい。

石器製作時に産出したチップの集積を、NR03沢跡左岸の2B15・Ⅱb2層で確認した。集積は、30cm四方の範囲にまとまっており、厚さ5～10cm以内に密集している。出土したチップの総数は8,188点（202.8g）である。内訳は、1241珪質頁岩が336点（8.9g）、1238頁岩が1,231点（16.6g）、1239頁岩が1,439点（30.7g）、1240頁岩が834点（27.1g）、1242頁岩が554点（19.8g）、1243頁岩が127点（1.1g）、1244頁岩が3,677点（98.6g）と珪質頁岩1種類と頁岩6種類の計7種類の石材が用いられている。付近からは、トチノキ集中域やクルミ集中域が確認されており、これらと同様に人為的に廃棄されたと考えられる。チップはまとまって出土していることから、袋状の入れ物に入っていた可能性もある。

堅果類の集中廃棄範囲は、NR03沢跡に多数確認された。第28図に示したトチノキやクルミの集中



範囲はいずれも沢跡下部～底部のⅡ b5層分布状況である。2B15～20の間にはトチノキ集中域とクルミ集中域がそれぞれ分かれて確認されており、殻剥き作業によって産出された各堅果類を時間差を持って廃棄したものと理解される。図はⅡ b5層堆積時の状況であるがⅡ b3・Ⅱ b4層からも多数確認されており、土器や石器のみならず、堅果類などを廃棄する場所（モノ送りの場）であったと考えられる。

沢跡の存続時期は、NR04 沢跡埋没後から NR02 沢跡に流路が移行するまでの後期中葉以降から晩期後半までと捉えられる。

### (7) NR02 沢跡及び関連遺構

遺構（第10・11・16・18・22 図、写真図版10・12・17・30・31）

西区西側の2A～B・2D～E・3D～Eグリッドに位置する。NR03 沢跡の西隣、NR01 沢跡の東隣に位置し、南東から北西方向に走り、1C～Dで南から北方向に変わる約26mに亘って確認された流路跡である。深度はⅡ a層上面から-50cm、底面標高は各セクションの最深部がセクションAで240.62m、セクションEで241.50m、セクションHで241.40mとなり、セクションEからAに向かって急に下がる。

堆積土は、セクションAが計6層、セクションEが計5層、セクションMが計4層、セクションNが計3層で構成される。セクションAは、15層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、11～14層が河川堆積層、10層がⅡ a層起源の暗褐色土である。10層中にはT o - aテフラを含んでおり、該期の耕作土層と考えられる。セクションEは、27層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、7層がⅡ b層起源の黒色砂質土、4～6層がNR02 沢跡河川堆積層である。NR03 からNR02 に流路が移行した際に、河底にはすでにⅡ b層が流入し堆積しており、そこに河川堆積したものである。セクションMは、7層が初期堆積土（河底砂礫層）、4・5層が河川堆積層、3層がⅡ a層起源の黒色土である。5層には植物質が多数含まれる。セクションNは、3層が初期堆積土（河底砂礫層）、2層が流木を多量に含む粗砂層、1層がⅡ a層起源の黒色砂質土である。

本流路内には、多量の流木が確認された。特に、2D区や3F区など流路方向が変わる地点には密集して出土している。3F区からは10mを超えるトネリコ属の大木が横たわって認められた。これらは、いずれもT o - aテフラを上部に堆積していることから、平安時代中期以前の堆積と見られる。

3F区検出面では、河川堆積層上面にT o - aテフラが筋状に堆積しているのを確認している（写真図版30）。

沢跡の存続時期は、NR03 沢跡埋没後から NR01 沢跡に流路が移行するまでの晩期後半以降からT o - aテフラが降下するまでの平安時代中期までと捉えられる。

### (8) NR01 沢跡及び関連遺構

遺構（第10・11・16・18・22 図、写真図版10・12・17・30・31）

西区西側の2A～F・3E～Gグリッドに位置する。NR02 沢跡の西隣、現新田沢の東隣に位置し、南東から北西方向に走り、1C～Dで南から北方向に変わる約30m以上に亘って確認された流路跡である。北側は現新田沢とほぼ同じ流路を辿るため、底面形状からは判別出来ない。南側に確認された底面形状からは、東側のNR01と現新田沢の1時期前にあたるNR01 新に区分できる。深度は南端で表土から-1.85m、中央で、底面標高は各セクションの最深部がセクションOで241.40m、セクションPで241.90mとなり、セクションPからOに向かって下がる。

堆積土は、セクションOが計11層、セクションPが計18層で構成される。セクションOは、11層が沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、セクションPは、18層が砂礫2層で沢存続時期の初期堆積土（河底砂礫層）、4～14層が河川堆積層、3層が黒色砂質土で近代～近世の水田畦畔盛土層、2層が黒褐色土で木製樋が設置されており、畦畔外側に作られた近代～近世の水路跡、1層は黒褐色土で現代の耕作土である。大半が河川による細砂～粗砂の水成堆積層と捉えられる。

沢跡の存続時期は、NR02 沢跡埋没後から現新田沢に流路が移行するまでの平安時代中期から近世・近代までと捉えられる。

### (9) S R O 3 土器集積遺構

遺構（第29図、写真図版32）

西区東端の6C25～7C21 グリッド・II b層上面に位置する。セクションQ・3層上面黒褐色土及びセクションJ・8層上面黒色土に確認された一括出土土器群である。当初は、土坑墓に伴う遺物の広がりをも想定していたが、下部に遺構プランが確認されなかった。その場で割れた土器が大半で、すべて原位置を留めていると考えられる。集積された段階では破損しておらず、完形土器を並べたと考えられる。集積は1.5×1.2mの範囲にあり、不整形を呈する。約10°西に傾斜しており、その影響で下方にやや流れている。

遺物（第41～43図、写真図版38・39）

計20点出土した。29～30深鉢、31～39鉢、40台付浅鉢、41～48壺と様々な器種が認められる。48壺と鉢が入れ子状態で確認されるなど出土状況にも特徴がある。

晩期後葉の大洞A1式相当の土器群である。周囲に同時期の遺物が確認されていないことから、何らかの理由で集積された土器群と考えられる。精製土器の出土割合が高く、小形に規格的斉一性を有した壺・鉢で構成され、儀礼的な行為の痕跡の可能性はある。

### (10) 溝跡（SD05は欠番）

#### SD01 溝跡

遺構（第31図、写真図版33）

西区北側部分のX = -75533～-75538、Y = 54527～54563付近、2B・3B～C・4C・5C～D・6Dグリッドに位置する。I層表土を除去したII a層上面で、東西方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。

平面形は東西方向に延び、ほぼ直線的である。西側は調査区外に延び、東側はSD03溝跡に接し途切れている。SD03溝跡とは、SD03の壁面観察から本遺構が新期となると見られる。規模は、長さ38.5m以上、開口部幅2.0m、底部幅0.5mである。断面形はU～V字形で、中央部は大きく開く形状となる。走向はN 87°Wである。深さは、セクションBで46cm、底面レベルは西端で242.232m、中央で242.354m、東端で242.632mとなり、西に向かって徐々に下がる。

堆積土は、セクションA・Bから単一層で構成される。黒褐色土主体で、細砂を計5枚挟むラミナ堆積が認められる。

遺物（第136図、写真図版96）

遺構内3C区部分の堆積土から、土師器坏の底部1点が出土した。1272坏は、ロクロ成形の内面黒色であり、底面にはヘラケズリ調整が認められる。その他に、縄文土器が多く出土しているが、包含層を掘り込んでいるための堆積時の混入であろう。

堆積土中から平安時代の遺物が出土していることから、該期またはそれ以降と捉えられる。水田耕作に伴う水路跡と考えられる。

### SD02 溝跡

遺構（第32図、写真図版33）

西区北側中央部分のX = -75522 ~ -75539、Y = 54536 ~ 54546 付近、3A~C・4B~Cグリッドに位置する。I層表土を除去したII a層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。本遺構の東側4mの位置にあり、同じく北西から南東方向に延びるSD04溝跡とは並列している。

平面形は北西から南東方向に延び、ほぼ直線的である。北西側は調査区外に延び、南東側はメインベルトを挟んで確認できなくなる。南側でSD01溝跡と重複するが、本遺構が新期である。規模は、長さ21m以上、開口部幅87cm、底部幅42cmである。断面形はU字~皿形、南東側は底面がやや狭く、ほぼ垂直に立ち上がるが、全体に見ると緩やかに外傾する。走向はN 25°Wである。深さはセクションEから23cm、底面レベルは北西端で242.310m、中央で242.436m、南東端で242.564mと、北西に向かって徐々に下がる。

堆積土は、セクションEから黒色土の単一層で構成される。

遺物は、包含層を掘り込んでいるため縄文時代の遺物が出土しているが、その他の時期を特定できる遺物は認められない。SD04溝跡とは約4m離れてほぼ並行に並んでおり、形状・規模から同時存在と見られる。何らかの耕作に使用する水路の可能性はある。

### SD03 溝跡

遺構（第31図、写真図版34）

西区東側のX = -75517 ~ -75566、Y = 54551 ~ 54579 付近、5A~B・5F~G・6C~Gグリッドに位置する。I層表土を除去したII a層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。SD01・SD09・SD10の各溝跡と重複しており、同時存在もしくは本遺構が新期の可能性がある。

平面形は北西から南東方向に延び、ほぼ直線的で6Fグリッドから南は地形に応じて南方向に曲がる。規模は、長さ58m以上（調査区外へ延びる）、開口部幅2.0m、底部幅1.45mである。断面形は箱形または逆台形を呈し、底面は平坦に作られている。走向はN 34°Wである。深さは北西端で95cm、またセクションIから85cm、底面レベルは北西端で242.044m、セクションIで242.22m、南東端で242.806mと、北西に向かって徐々に下がる。

溝の側壁の一部に、石組みが作られているのを確認した。石組みが確認されたのは、5B区の両側壁5.5m、6D区の西側壁4.7m、6E区の西側壁2mである。いずれも30~70cm大の巨礫を使用しており、2~3段重ねている箇所も認められる。側壁の崩落防止に築いた土留めを目的としたものと考えられる。

堆積土は北西端断面から黒褐色土主体の10層、セクションIから黒褐色土主体の4層で構成される。北西端断面は、10層が溝構築時の初期堆積層、4~9層が使用後の水成堆積層、1~3層が斜面からの崩落などによる最終堆積層である。水成堆積層のうち、5層及び7層にはT o - aテフラに類似する火山灰と見られる堆積が認められる。また、溝跡の堆積土ではないが11層は耕作などによる攪乱層（II a層）、12~18層はNR06沢跡の河川堆積層である。セクションIは2~5層がSD03堆

積土である。5層は使用時からの水成堆積層、4層は9層起源の流入層、3層は褐色粗砂主体の崩落土層、2層は最終堆積層となる。使用後の5層より上位に10～20cm大の大礫が混入しており、土留めに使用していた側壁石組みが崩落して流入したものと考えられる。

遺物（第136図、写真図版96）

堆積土中から、多量の縄文時代の遺物とともに平安時代の遺物が少量出土した。1273～1275の3点は6C区や6E～F区から出土した土師器である。1273と1274はロクロ成形の坏で、1273は体部下半にヘラケズリ調整、1274は底面にヘラケズリ調整が認められる。1275は長胴甕の口縁部破片で、同時期と見られる。

遺物から得られる下限年代は平安時代中期だが、北西端断面及びセクションIでは土師器を含むII a層を切っていることから、これよりも新しい平安時代以降と幅広く捉えられる。

### SD04溝跡

遺構（第32図、写真図版34）

西区北側中央部分のX = -75520～-75523、Y = 54541～54544付近、4A～Bグリッドに位置する。I層表土を除去したII a層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。前述したが、本遺構の西側4mにあるSD02溝跡は並列関係にある。遺構南半については、遺物包含層精査を先行して行ったため、破壊してしまった。

平面形は北西から南東方向に延び、ほぼ直線的であったと考えられる。北西側は調査区外に延び、南西側は少なくともSD02溝跡と同じ位は延長していたと思われる。規模は、長さ3.6m以上、開口部幅61～97cm、底部幅35～56cmである。断面形は皿形で、外傾しながら緩やかに立ち上がる。走向はN19°Wである。深さはセクションAから16cm、底面レベルは北西端で242.528m、南東端で242.520mとほぼ平坦であるが、南半が残存していれば、北西に向かって下ると思われる。

堆積土はセクションAから黒褐色主体の単一層で構成される。SD02堆積土とほぼ同一と考えられる。

遺物はSD02と同様に、時期を特定できるものは出土していない。SD02溝跡と同じく耕作に使用する水路の可能性が指摘される。

### SD06溝跡

遺構（第32図、写真図版35）

西区中央東側部分のX = -75538～-75541、Y = 54559～54566付近、5Dグリッドに位置する。I層表土を除去後のIV層上面で、西北西から東南東方向に延びる溝状の黒褐色プランとして検出した。西北西側はメインレンチによって消失、東南東はレベルが低くなり、確認できなくなる。

平面形は、西北西から東南東方向に延び、ほぼ直線的であると考えられる。規模は、長さ8.2m以上、開口部幅25～45cm、底部幅13～24cmである。断面形はU字形で、底面から緩やかに立ち上がる。走向はN68°Wである。深さはセクションAから22cm、底面レベルは西北西端で242.856m、中央で242.888m、東南東端で242.964mと東南東に向かってやや下がる。

堆積土はセクションAから黒褐色主体の単一層で構成される。部分的に細砂を混入しているが、自然堆積である。

遺物は時期を特定できるものは出土していないが、隣接するSD07・08溝跡と同時存在の耕作に使用する水路の可能性はある。



### SD07・08溝跡

#### 遺構（第32図、写真図版35）

西区中央東側部分のX = -75539 ~ -75546、Y = 54555 ~ 54559 付近、4・5 Dグリッドに位置する。I層表土を除去後のV層上面で、北西から南東方向に延びる溝状の2本の黒褐色プランとして検出した。北西側はメインレンチによって消失、南東は浅くなり、確認できなくなる。

平面形は、北西から南東方向に延び、いずれもほぼ直線的である。規模は、SD07は長さ7.7 m以上、開口部幅22 ~ 46cm、底部幅9 ~ 18cmである。断面形はU字形で、底面から急に立ち上がる。走向はN 15° Wである。深さはセクションAから27cm、底面レベルは北西端で242.728 m、中央で242.768 m、南東端で242.720 mである。SD08は長さ7.1 m以上、開口部幅28 ~ 70cm、底部幅10 ~ 25cmである。断面形はU字~皿形で、外傾しながら緩やかに立ち上がる。走向は、SD07と並列し、N 15° Wである。深さはセクションAから23cm、底面レベルは北西端で242.674 m、中央で242.738 m、南東端で242.818 mである。SD07はほぼ平坦であるが、SD08は南東に向かってやや下がる。

堆積土はセクションAから、いずれも黒褐色の単一層で構成される。両遺構ともに同時に埋没した可能性が高い。

遺物は時期を特定できるものは出土していないが、隣接するSD06溝跡と同時存在の耕作に使用する水路の可能性はある。

### SD09溝跡

#### 遺構（第32図、写真図版35）

西区東端のX = -75528 ~ -75543、Y = 54563 ~ 54576 付近、6 C~Eグリッドに位置する。I層表土を除去後のII a層上面で、西から南方向に山裾を曲がる溝状の2本の黒色プランとして検出した。両端は、すでに精査済みのSD03溝跡に接しており、これによって区切られている。また、セクションQでは平安時代の遺物を含む1層黒褐色土を切っている。

平面形は、西から南方向に延び、6 B区 of 山裾が張り出しているのに合わせて、東端をなぞるようにカーブしている。規模は、長さ28.8 m、開口部幅1.2 m、底部幅60cmである。断面形はU字形で、底面から緩やかに立ち上がる。走向はN 29° W~N 90° Wである。深さは断面Aで18cm、断面Bで44 cm、断面Cで54cm、底面レベルは断面Aで242.2 m、断面Bで242.7 m、断面Cで242.45 mである。カーブ付近がやや高いが、概ね南から西に向かって下がる。

堆積土は断面Aで3層、断面Bで4層、断面Cで3層の黒色土主体で構成される。断面Aは、1・3層が使用による水成堆積層、2層は斜面流入層。断面Bは、3・4層が水成堆積層、2層と3層の一部が斜面流入層、1層がII b層起源土流入層。断面Cは、3層が水成堆積層、1・2層がII a層起源土流入層である。

#### 遺物（第136図、写真図版96）

堆積土中から、多量の縄文時代の遺物とともに平安時代の遺物が少量出土した。1276 ~ 1280の5点は6 C・D区から出土した土師器と須恵器である。1276はロクロ成形の土師器長胴甕で、体部下半から底にかけてヘラケズリ調整が見られる。1277 ~ 1280は須恵器大甕で同一個体の可能性がある。

遺物から得られる下限年代は平安時代中期だが、セクションJで土師器を含むII a層を切っていることから、平安時代もしくはそれ以降と幅広く捉えられる。耕作に関連する水路跡であろう。

### SD10 溝跡

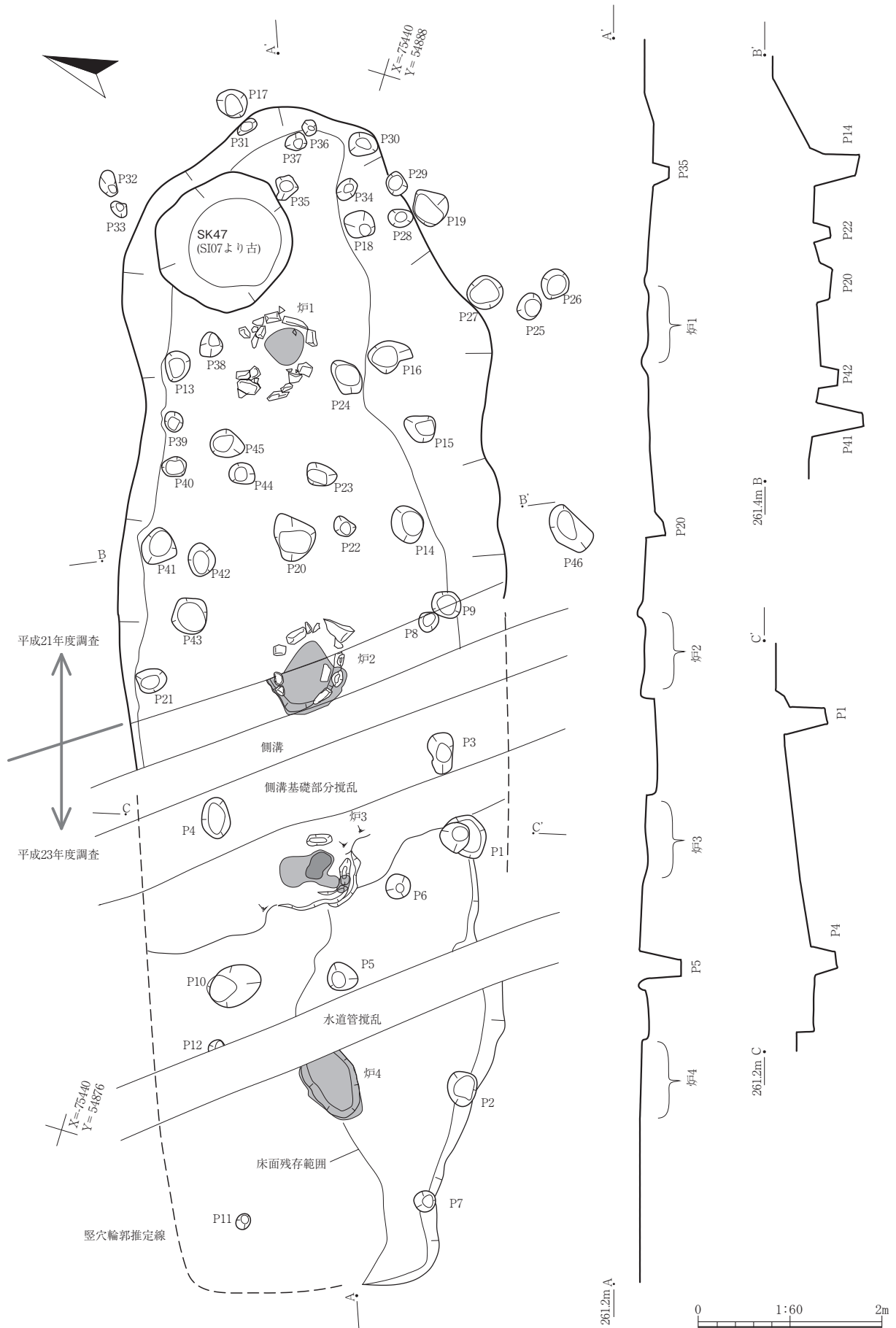
遺構（第 32 図、写真図版 35）

西区東側部分の X = -75527 ~ -75529、Y = 54553 ~ 54560、5 C グリッドに位置する。I 層表土を除去後の II a 層上面で、西から東方向に延びる溝状の黒色プランとして検出した。東側は SD03 溝跡によって区切られているが、その先は延びないため同時存在の可能性がある。

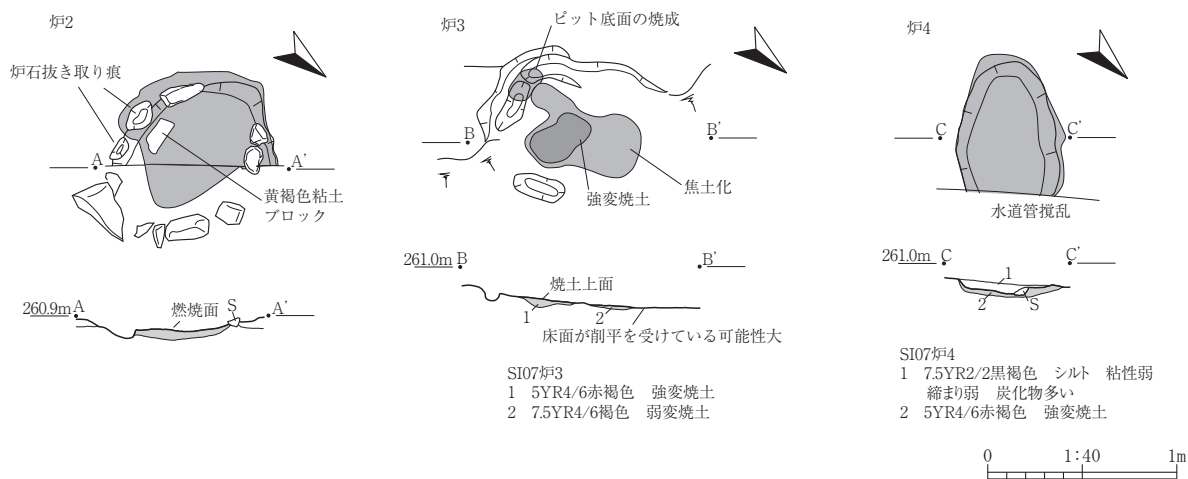
平面形は西から東方向に延び、ほぼ直線である。規模は、SD07 は長さ 7.2 m、開口部幅 75cm、底部幅 30cm である。断面形は U 字形で、底面から緩やかに立ち上がる。走向は W 13° S である。深さは 18cm、底面レベルは西端 242.658 m、東端 242.622 m とほぼ平坦だが西方向に向かってやや下がる。

堆積土は、黒色の単一層で構成される。下部に粘土層が薄く認められ、使用時の水成堆積層と見られる。

遺物は時期を特定できるものは出土していないが、近接する SD09 溝跡との関連が考えられ、耕作に使用する水路の可能性はある。

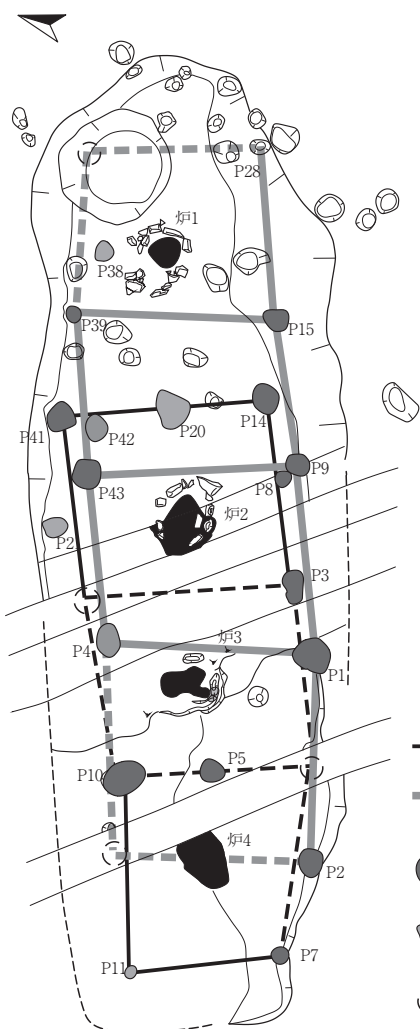
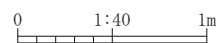


第13図 東区・SI07 堅穴住居跡 (1)



SI07炉3  
 1 5YR4/6赤褐色 強変焼土  
 2 7.5YR4/6褐色 弱変焼土

SI07炉4  
 1 7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱  
 締まり弱 炭化物多い  
 2 5YR4/6赤褐色 強変焼土



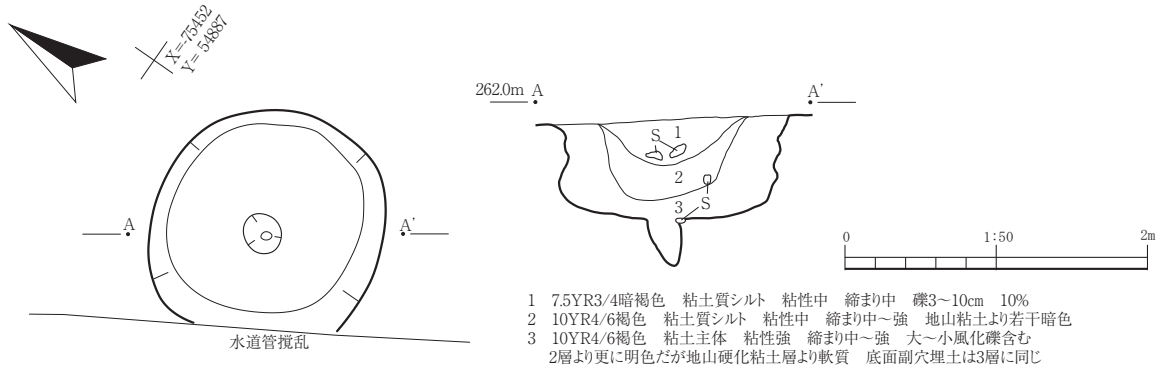
主柱穴配置推定図(S=1/100)

柱穴一覧表

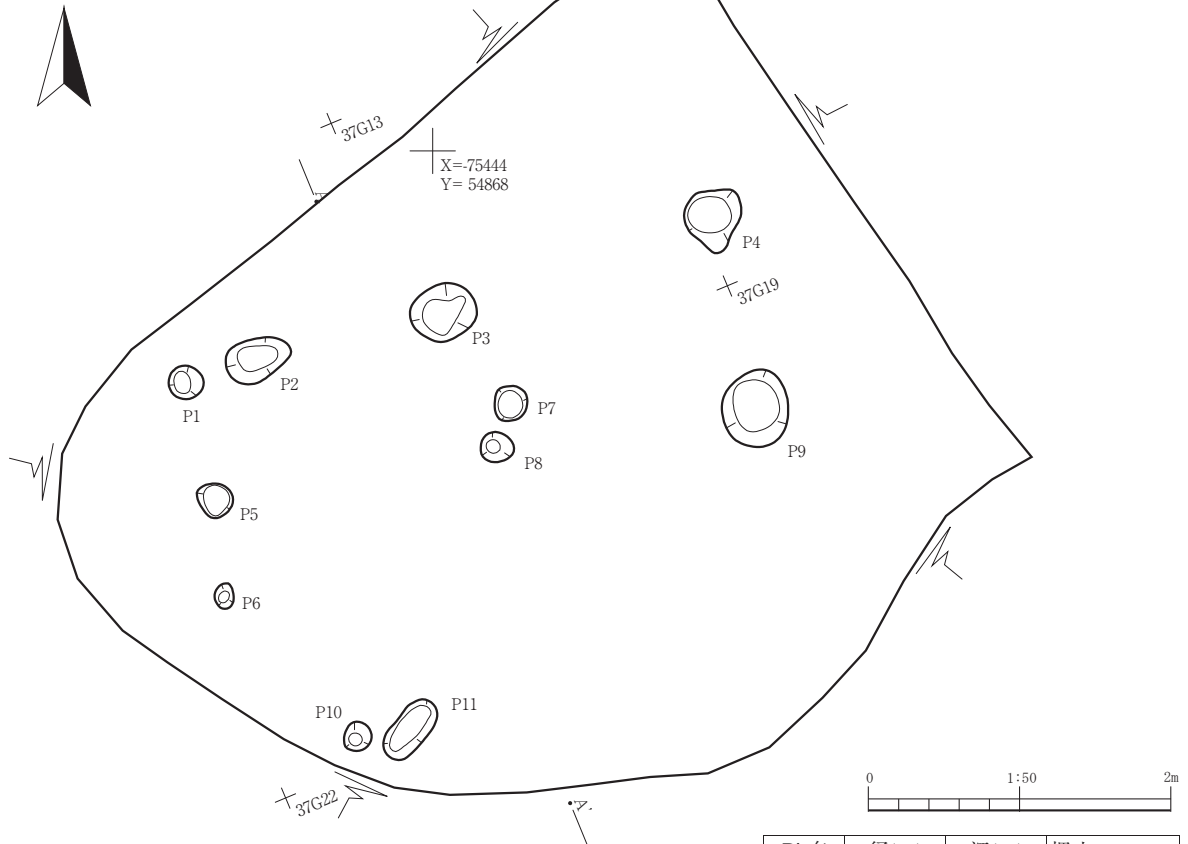
Pit名	長径 cm	深 cm	特徴	旧報告 Pit名	Pit名	長径 cm	深 cm	旧報告 Pit名
P1	48	60	円筒形 炭化物・礫含む		P13	32	18	P1
P2	38	50	円筒形 埋土中位から磨石出土		P14	43	53	P4
P3	45	47	楕円形 炭化物・礫含む		P15	35	58	P5
P4	46	31	楕円形 炭化物・焼土粒含む		P16	47	11	P6
P5	34	51	炭化物多い 底面に焼土ブロックあり		P17	33	15	P8
P6	25	15	浅い 断面形楕円形		P18	32	19	P9
P7	22	33	土層記録なし		P19	42	16	P10
P8	24	51	H21年度調査	P12	P20	57	25	P39
P9	33	44	東半H21年度調査	P11	P21	34	27	P38
P10	58	54	30kg程の礫が直立して埋まっている		P22	25	20	P13
P11	17	29	土層記録なし		P23	34	17	P15
P12	20	35	西半水道管攪乱に切られる		P24	44	18	P16
					P25	28	16	P17
					P26	33	13	P18
					P27	40	14	P19
					P28	26	28	P20
					P29	25	6	P21
					P30	32	14	P22
					P31	24	11	P24
					P32	29	12	P26
					P33	22	19	P27
					P34	25	9	P28
					P35	28	24	P29
					P36	18	13	P30
					P37	22	6	P31
					P38	27	29	P32
					P39	22	48	P33
					P40	28	11	P34
					P41	42	57	P35
					P42	37	31	P36
					P43	42	51	P37
					P44	30	16	P40
					P45	38	5	P41
					P46	55	27	P43



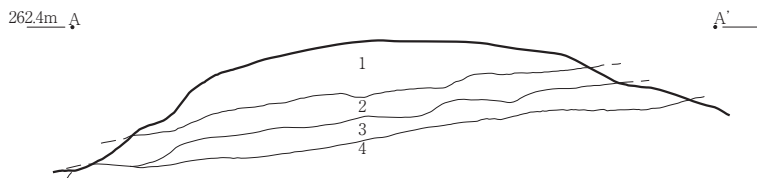
東区 SK101 土坑



東区 北西部ピット群



東区 小山

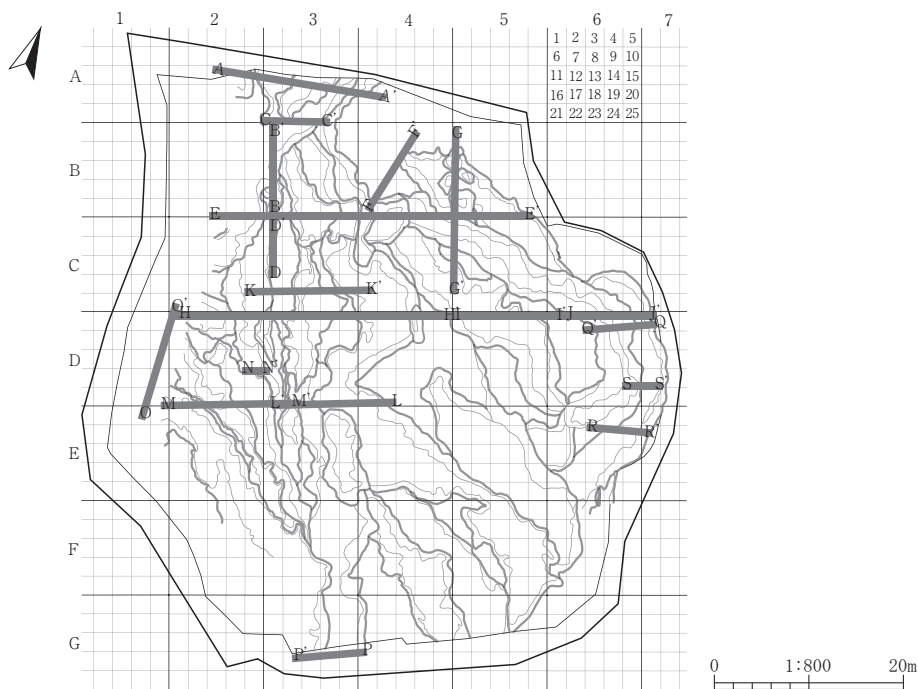


東区小山

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 縮まり弱 表土  
 2 7.5YR1.7/1黒色 シルト 粘性弱 縮まり弱~中 遺物(大木8b式土器片)含む  
 3 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 縮まり中 漸移層 遺物なし  
 4 10YR4/6褐色 粘土質シルト 粘性中 縮まり強 中小礫含む

Pit名	径(cm)	深(cm)	埋土
P1	20	10	黒色土
P2	40×25	10	黒色土
P3	40×30	20	黒褐色土
P4	40×30	15	黒色土
P5	20	5	黒褐色土
P6	15×10	16	黒色土
P7	15	10	黒褐色土
P8	15	10	黒褐色土
P9	40	15	黒褐色土
P10	15	10	黒色土
P11	40×20	5	黒褐色土

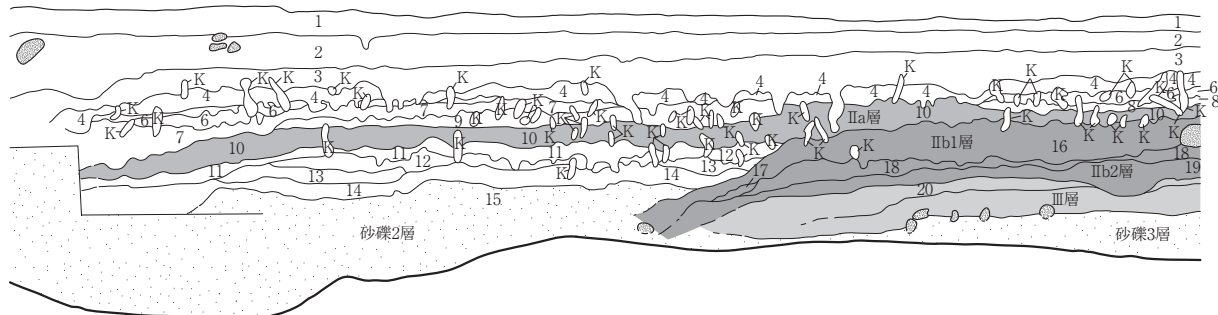
第15図 東区・SK101土坑、37G区包含層、北西部ピット群



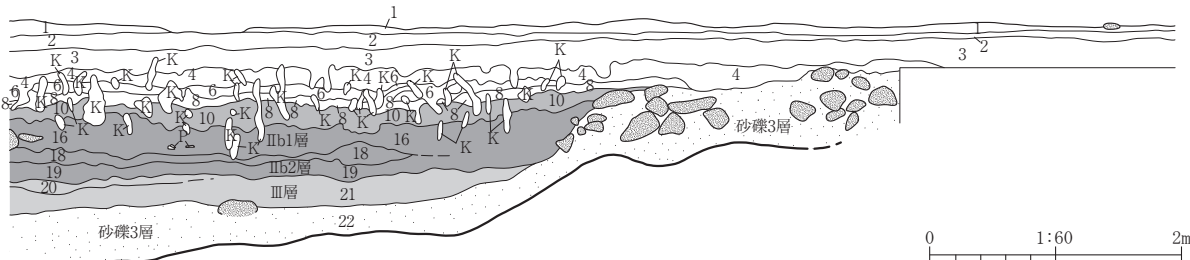
セクションA(北端トレンチ)

セクション位置図

243.3m A | 2A14 | 2A15 | 3A11 | 3A10



243.3m ■ | 3A18 | 3A19 | 3A20 | 4A15 | 4A16 A'



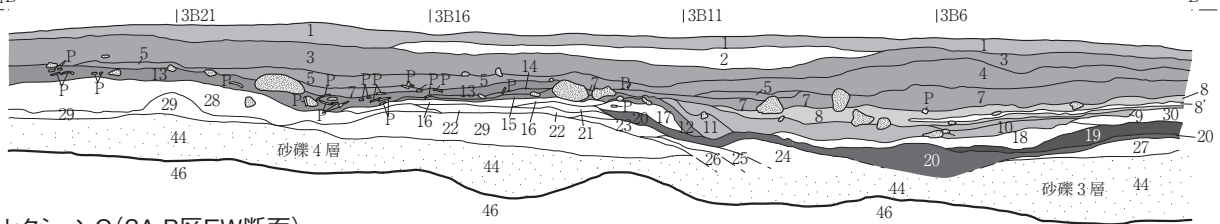
セクションA(北端トレンチ)

- 1 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 現代耕作土 Ia層
  - 2 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱~中 現代の前の耕作土 下面が平坦 1・3層より暗色
  - 3 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 締まり弱~中 近世以前(?)の耕作土 2層より砂混入少し 均等
  - 4 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 これも恐らく耕作土 3層より暗色
  - 5 7.5YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 炭化物含
  - 6 2.5Y6/1黄灰色 細砂 粘性無し 締まり弱~中 ラミナ状水成堆積
  - 7 10YR5/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 攪拌状の構造見える
  - 8 7.5YR5/2黒色 シルト 粘性弱 締まり中 細砂含 IIb層に類似する
  - 9 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱
  - 10 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 均質 IIa層 この中にT o - aブロック含
  - 11 10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性無し 締まり弱 ラミナ構造見える
  - 12 10YR2/3黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 ラミナ
  - 13 2.5Y6/1黄灰色 細砂~粗砂 粘性無し 締まり弱 6層砂層に類似
  - 14 10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 均質
  - 15 10YR4/2灰黄褐色 粗砂~礫 粘性無し 締まり弱 水成堆積 砂礫2層
  - 16 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり弱~中 細砂含 下部に炭化物含 遺物多 末端ではIIb2層(19層)と区別困難 IIb1層
  - 17 7.5YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり中 やや泥炭質
  - 18 10YR3/2黒褐色 細砂~砂質シルト 粘性弱 締まり中 遺物少 IIb1(17層)とIIb2(19層)を分割する砂層
  - 19 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり弱~中 下部はラミナ状、炭化物含 遺物は16層より少ない IIb2層
  - 20 10YR4/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 ラミナ状水成堆積 III層
  - 21 2.5Y3/2黒褐色粘土質シルトと細砂、粗砂互層状 粘性無し~弱 締まり弱 遺物少ない 水成堆積 III層
  - 22 15層とはほぼ同じ 砂礫3層
- 11~15層はNR02に堆積した砂層、砂質シルト層

第16図 セクション位置図・西区セクションA

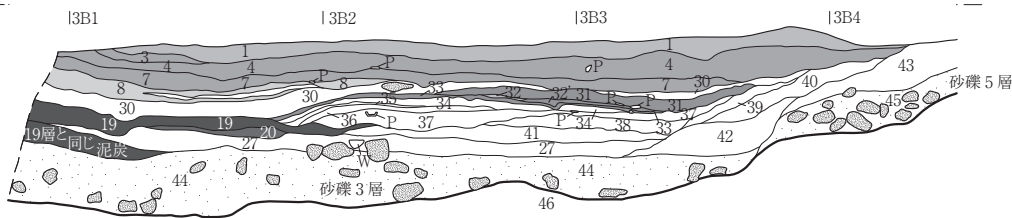
セクションB(2-3B区境NS断面)

242.7mB



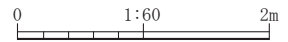
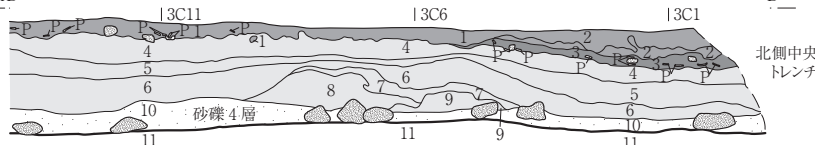
セクションC(3A-B区EW断面)

242.7mC



セクションD(3C区NS断面)

242.7mD

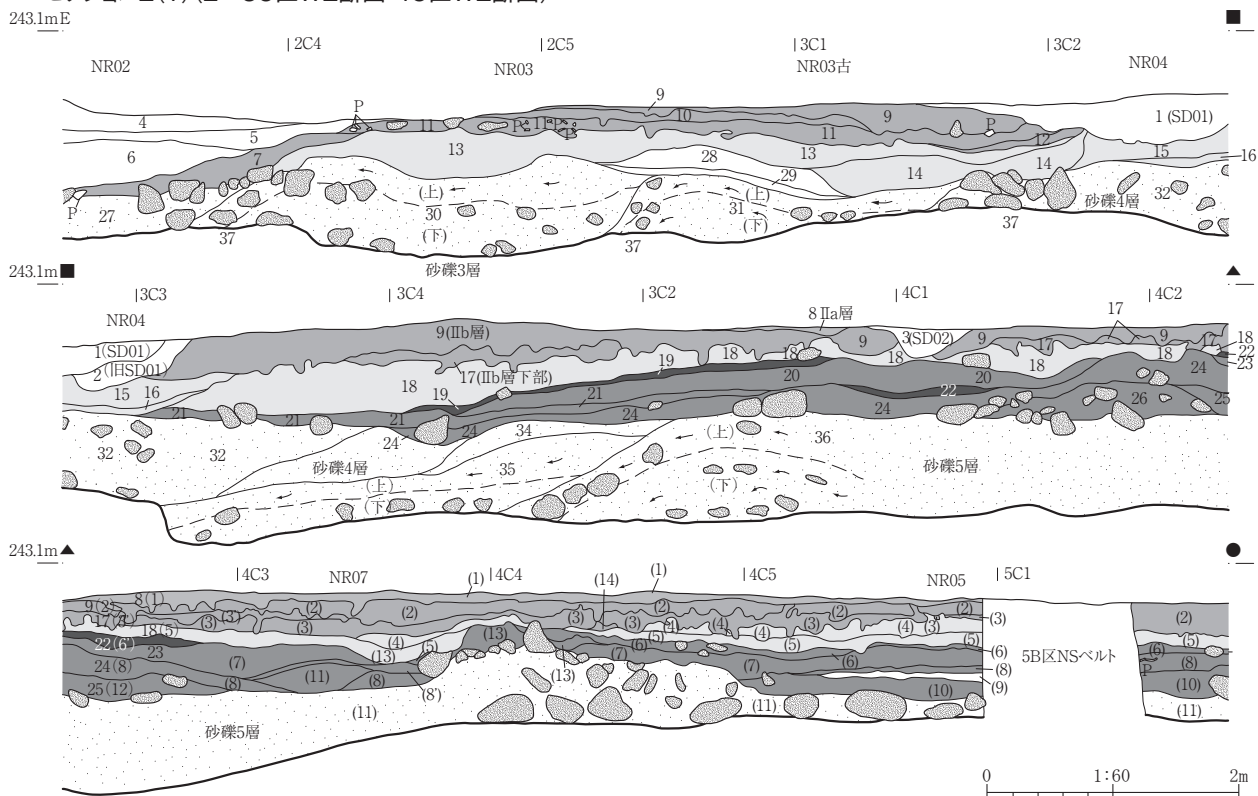


セクションB(2-3B区境NS断面)・セクションC(3A-B区EW断面)

- 1 7.5YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 IIa層相当
  - 2 10YR4/1褐灰色 細砂 粘性無し 締まり弱 IIa層下部砂層
  - 3 7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 IIb1層上部
  - 4 7.5YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 IIb1層下部
  - 5 10YR4/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 部分的にラミナ状 炭化物含 IIb1層下部
  - 6 10YR4/2灰黄褐色 細砂 5層の続き
  - 7 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 IIb1層下部
  - 8 7.5YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性弱 締まり中 遺物集中 礫含 炭化物多 IIb2層
  - 9 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂~細砂 8層中に薄く介在
  - 10 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 IIb3層上部
  - 11 5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱~中 締まり中 均質、泥炭質気味 IIb3層 木片、堅果類含
  - 12 7.5YR1/7/1黒色 砂質シルト 粘性中 締まり中 均質 焼土粒含 IIb3層の一部
  - 13 10YR4/4にぶい赤褐色 砂質シルト 焼土層 上面が焼けている 粘性弱 締まり中 下半は焼成及んでいない 褐色 IIb4層上面(4層分布の北西端)
  - 14 7.5YR2/2黒褐色~7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 遺物集中 1m四方で13号袋10袋 IIb4層
  - 15 10YR4/6褐色~10YR5/6黄褐色 砂質シルト 粘性弱~中 締まり中 焼成は受けていない IIb4層の一部
  - 16 7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 13層とほぼ同一 IIb4層
  - 17 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 部分的にラミナ状 炭化物含
  - 18 5Y3/2オリーブ黒色 細砂 粘性無し 締まり中 木片含
  - 19 7.5YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 細砂ラミナブロック含 木片含 堅果類含
  - 20 7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質とラミナ砂の互層
  - 21 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 細砂ラミナブロック含 木片含 IIb5層
  - 22 10YR3/2黒褐色 細砂 粘性無し 締まり中 下部に炭化物含 ラミナ状
  - 23 10YR4/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 ラミナ状 底面に薄く腐植土
  - 24 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 泥炭質 細砂ラミナブロック含 木片含 20層と同相
  - 25 10YR4/2灰黄褐色 粗砂・礫ラミナブロック 粘性無し 締まり中 径1~10mm
  - 26 2.5Y3/2黒褐色 粗砂 ラミナブロック
  - 27 10YR3/3暗褐色 細砂 ラミナブロック
  - 28 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂~礫 ラミナブロック 泥炭質層介在
  - 29 10YR4/1褐灰色 細砂~粗砂 ラミナブロック
  - 30 10YR4/4褐色 粗砂~細砂 ラミナブロックの集積 部分的に酸化して橙色
  - 31 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 均質 5・16層と同
  - 32 7.5YR2/1~1.7/1黒色 シルト 粘性弱 締まり弱 炭化物多 下面に薄く暗褐色砂質シルト層が介在して32・33層と層界となる IIb4層
  - 33 5YR4/6赤褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 比較的均質 焼土ブロック層
  - 34 7.5YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 均質 焼成受けず 14層と同相
  - 35 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 部分的にラミナ状砂ブロックあり
  - 36 10YR4/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱
  - 37 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物集中 33層と同相
  - 38 10YR5/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 ラミナ状
  - 39 10YR4/2灰黄褐色 細砂と砂質シルト互層 粘性弱 締まり中 ラミナ状
  - 40 7.5YR3/3暗褐色 砂質シルトと細砂・泥炭質ラミナ互層 粘性弱 締まり中 木質残存 IIb5層
  - 41 10YR5/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中
  - 42 7.5YR2/2暗褐色 シルト 粘性弱 締まり中 炭化物含 40層出土はすべて晩期 IV層(NR05)の可能性なし 40層上面がNR03の河床ではない
  - 43 10YR5/3にぶい黄褐色 粗砂~礫 粘性無し 締まり中 水成堆積
  - 44 7.5YR2/1黒色 40層に近い やや暗色 粘性弱 締まり中 炭化物含
  - 45 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 NR04埋土か?
  - 46 巨礫と粗砂の堆積層
  - 47 巨礫集中
  - 48 地山(花崗閃緑岩風化層)
  - 49 31~35層 IIb4層
- セクションD(3C区NS断面)
- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 IIb層
  - 2 10YR2/1黒色シルトと10YR6/2灰黄褐色細砂の混合 粘性やや弱 IIb層下部
  - 3 10YR1/7/1黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まりやや弱 炭化物粒(5~10mm)5%混入 5~10cm大の亜角砂礫少量 晩期多量大洞C2式捨て場層
  - 4 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 炭化物粒(5mm)1~2%混入
  - 5 10YR2/1黒色粘土質シルトと10YR3/1黒褐色細砂の互層(4枚くらい) 粘性やや弱 締まりやや弱 下部は粘質が強くなり、10YR1/7/1黒色粘土質となる。上部に炭化物粒(5mm)1%混入
  - 6 10YR3/1黒褐色砂質シルトと10YR5/1褐灰色細砂の互層(5枚くらい) 粘性弱 締まりやや弱 炭化物粒(5mm)1%散在。下部は砂分多い。
  - 7 10YR4/1褐灰 細~粗砂 粘性無し 締まり中
  - 8 10YR6/8明黄褐 粗砂 粘性無し 締まりやや弱
  - 9 5Y2/1黒色シルトと10YR6/1褐灰色細砂の互層 粘性中 締まりやや弱 河川下部の溜まり
  - 10 10YR6/4にぶい黄橙 粗砂 粘性無し 締まり中 締まり中 10~30cm大の亜角礫多量 NR03河川堆積層
  - 11 地山(花崗閃緑岩風化層)
  - 12 1~3層 NR02が自然流路の際に東岸に形成された捨て場(3層)とその後には堆積した包含層(1・2層)
  - 13 4~10層 NR03が自然流路の際の堆積層

第17図 西区セクションB~D

セクションE(1) (2~3C区WE断面・4C区WE断面)



セクションE (2~3C区WE断面)

- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 SD01
- 2 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 I(HSD01)堆積層
- 3 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 炭化物粒 (5mm) 少量 SD02
- 4 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 5 10Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 6 10Y3/2オリーブ黒色 細砂 粘性無し 締まりやや弱
- 7 10Y2/1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱
- 8 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 II a層 (平安以降の耕作土層か) もとは9層だった。
- 9 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まりやや弱 II b層
- 10 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 炭化物粒 (5mm) 少量
- 11 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まり中 炭化物層とも言えるくらい多量 晩期遺物多量包含 捨て場層
- 12 10Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まりやや弱 炭化物粒 (5mm) 少量
- 13 10Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
- 14 10Y3/1オリーブ黒色砂質シルトと10Y5/1灰細砂の互層
- 15 7.5Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱 締まり中
- 16 2.5GY3/1暗オリーブ灰色 シルト 粘性中 締まりやや弱
- 17 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 II b層下部 (III層の上に堆積したII b層が混じっている。)
- 18 7.5Y4/2灰オリーブ 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 19 7.5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中炭化物粒 (5mm) 多量
- 20 7.5Y4/2灰オリーブ色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 下部は粗砂となる。
- 21 7.5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 22 炭化物層 間に細砂を挟んで2cm厚が2層ある。
- 23 7.5Y3/2オリーブ黒色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 24 7.5Y5/2灰オリーブ色 細砂 粘性無し 締まりやや弱
- 25 10Y4/1灰 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中
- 26 7.5Y4/3暗オリーブ色 粗砂 粘性無し 締まり中 NR07堆積層
- 27 7.5Y7/1灰白色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱~中 下部に20~50cm大の亜角礫多量 NR02河川堆積層
- 28 10YR5/1褐色 細砂 粘性無し 締まり中 NR35 (03と04の間の流路)の河川堆積層上部
- 29 10YR3/1黒褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 同上
- 30 10YR4/6褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱~中 20cm大の亜角礫上部に多く、下部は砂分多い NR35 (03と04の間の流路)の河川堆積層下部
- 31 10YR5/8黄褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱~中 10cm大の亜角礫中心に多量。たまに30cm大もあり
- 32 10YR3/2黒褐色 細砂 (下部は粗砂) 粘性無し 締まりやや弱~中 10~30cm大の亜角礫中心に多量混入 下部には60cm大もあり。 NR04下部河川堆積層
- NR04は、水流が強くと、大半が砂礫層で堆積した。
- 33 10YR5/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 32と35層の間層 NR04河川堆積層
- 34 10YR3/1黒褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 NR04肩部分に堆積
- 35 10YR4/6褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~20cm大の亜角礫多量 NR04河川堆積層下部
- 36 10YR4/6褐色 粗砂と細砂の互層 粘性無し 締まりやや弱 上部は10cm大の亜角礫と細砂中心だが、下部は、10cm~30cm大の亜角礫が堆積 (たまに60cm大もあり)
- NR05もしくは07河川堆積層

セクションE (4C区WE断面)

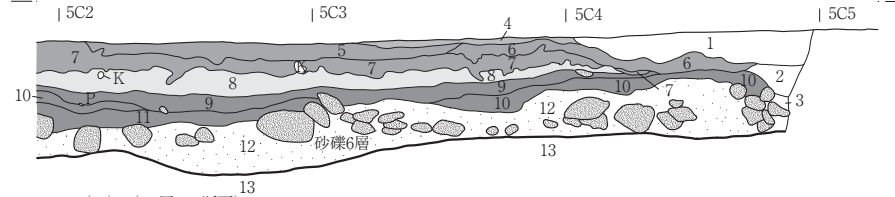
- (番号) で表示
- (1) 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 II a層
- (2) 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 II b層上位
- (3) 10YR2/1黒色シルト+10YR7/3に黄橙細砂の混合 粘性弱 締まりやや弱 II b層下位
- (3) 10YR2/1黒色シルト+10YR7/3に黄橙細砂の混合で黒が多い。3層に似る。
- (4) 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 酸化鉄多 III層上位
- (5) 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 酸化鉄多 III層下位
- (6) 7.5Y2/1黒色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 炭化物中量 IV層上位 後期初頭遺物混
- (6) 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 炭化物中量 IV層
- (7) 7.5Y4/1灰 細砂 粘性無し 締まりやや弱 IV層中の間層
- (8) 2.5GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 IV層中位 後期初頭遺物混
- (8) 7.5Y4/1灰色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 IV層中位
- (9) 7.5Y3/1オリーブ黒色 細砂 粘性無し 締まりやや弱
- (10) 2.5GY2/1黒色 粘土質シルト 粘性中 締まりやや弱 植物質多量 炭化物中量 IV層下位 河川堆積土下位層 後期初頭遺物混
- (11) 10YR6/8明黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり弱 ラミナ堆積
- (12) 2.5GY5/1オリーブ灰色 粗砂 粘性無し 締まり弱 ラミナ堆積
- (13) 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 5層と類似III層とII b層の混合
- (11)~(12)層 河川堆積最下層 (巨礫多量混) 20~50cm大の亜角礫

第18図 西区セクションE(1)



セクションE(2) (5C区WE断面)

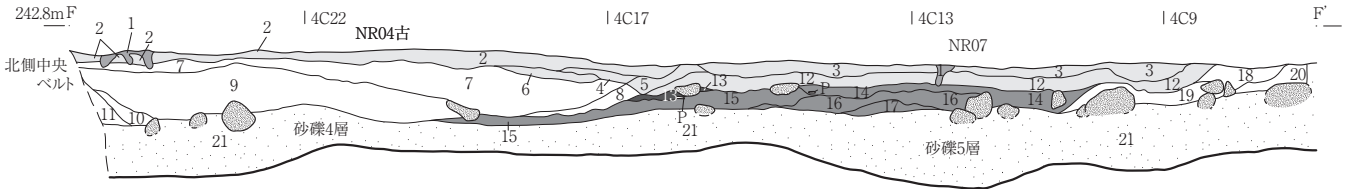
243.1m ●



セクションE(2) (5C区WE断面)

- 1 10Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性中 締まり中 下部に粗砂(径5mm以下)を層厚3cm程度堆積 攪乱層
- 2 10Y3/6褐色~10YR5/6黄褐色 粗砂(径5mm以下)水成堆積4枚 SD03堆積土
- 3 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締まり中 水成堆積 4層崩落土 SD03堆積土
- 4 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 IIa層
- 5 10YR2/2黒褐色シルト+10YR2/3黒褐色シルトの混合 ほぼ4層と同じIIb層上部
- 6 10YR2/2黒褐色シルト 粘性中 締まり中 IIb層上部 SD03との境界で層位逆転→崩落のためか
- 7 2.5GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性中 締まり中 IIb層下部
- 8 10Y4/2暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 III層
- 9 10Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり中 IV層上部
- 10 7.5Y4/1灰色 細砂 粘性弱 締まり中 IV層
- 11 7.5Y2/1黒色 粘土質シルトに細砂を混合 粘性中 締まり中 炭化物(径5mm)2% IV層下部
- 12 7.5Y5/1灰色や7.5Y5/2オリーブ色などの粗砂層 大~巨礫多数 地山崩れや河川堆積による河底層 砂礫6層
- 13 10YR8/2灰白色+10YR7/8黄褐色 粘土 花崗閃緑岩起源の地山層

セクションF(4B区NS断面)

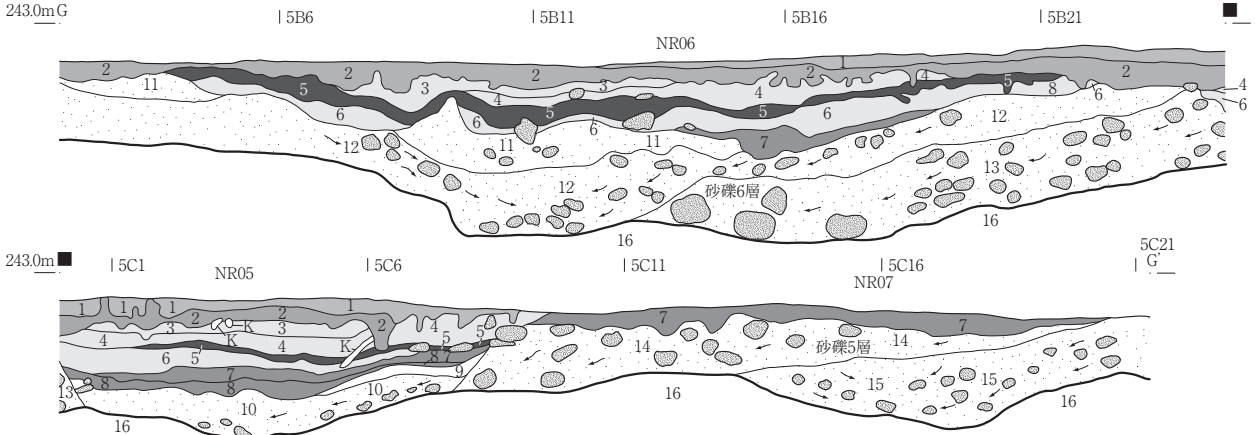


セクションF(4B区NS断面)

- 1 7.5Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIb層下部
- 2 7.5Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 III層
- 3 7.5Y4/3暗オリーブ色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 III層
- 4 10YR3/4暗褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 III層くずれ
- 5 10YR5/3にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 III層くずれ
- 6 10YR4/3にぶい黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 III層くずれ
- 7 10YR5/3にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 水成堆積6枚くらい 河川堆積層
- 8 10YR6/8明黄褐色 粘土 粘性やや強 締まり中 花崗閃緑岩起源(地山)の粘土層 やや砂質含む
- 9 10YR5/1褐灰色 細砂 粘性無し 締まり中 河川堆積層 炭化物径1mm1~2%
- 10 10YR4/1褐灰色 細砂 粘性無し 締まり中 炭化物径1mm2%
- 11 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 砂礫層か
- 12 10YR5/6黄褐色~10YR5/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 III層
- 13 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 炭化物径3mm2%
- 14 10YR4/1褐灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 IV層
- 15 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 IV層
- 16 10YR5/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱
- 17 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱~中 締まり中 IV層下部→NR06堅果類集中層
- 18 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中
- 19 2.5Y3/1黒褐色 砂質シルト 粘性無し~やや弱 締まり中
- 20 2.5Y5/6黄褐色 粗砂+粘土 粘性中 締まり中 花崗閃緑岩起源(地山)くずれ
- 21 2.5Y5/3黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり弱 20~50cm大の亜角礫多量 河川堆積層

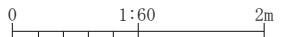
セクションG(5B区NS断面)

243.0m G



セクションG(5B区NS断面)

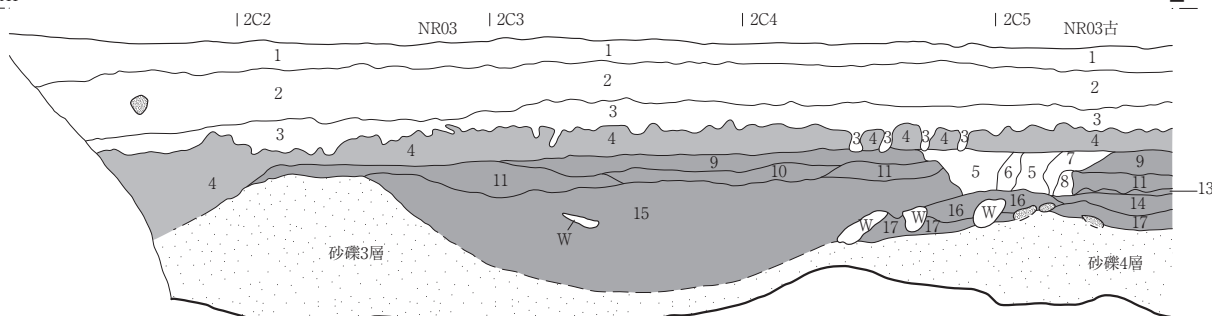
- 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIa層
- 2 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱~中 IIb層
- 3 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 鉄分多く、酸化著しい III層
- 4 10YR4/1褐灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱~中 炭化物粒(φ5mm)1~2%散在 III層
- 5 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 炭化物粒(φ5mm)多量 炭化物層
- 6 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 III層
- 7 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 締まりやや弱 が上部にあり、下部はラミナ堆積で、10YR6/2灰黄褐色 細砂が堆積層中には、植物遺体(樹木枝、トチ・クルミなど堅果類)が大量に含まれる IV層
- 8 10YR1.7/1黒色 粘土質シルト(泥炭層) 粘性中 締まりやや弱 堅果類など植物遺体多量 IV層下部
- 9 10YR6/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱
- 10 10YR5/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~20cm大の亜角礫が南から北に向かって堆積 NR05河底層
- 11 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 下部に10cm大の亜角礫が散在
- 12 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~20cm大の亜角礫が南から北に向かって流入し、堆積 北から南に堆積する礫は20~30cm大とやや大きい
- 13 10YR3/2黒褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 南側の高い部分は、10~20cm大の亜角礫 初期流入の北側下部には、30~40cm下の巨礫が南から北に向かって堆積 NR06の初期堆積層(河底層)
- 14 10YR4/2灰黄褐色 細~中砂 粘性無し 締まりやや弱~中 20~30cm大の亜角礫が南から北に向かって流入し、堆積
- 15 10YR4/4褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10cm大の亜角礫が南から北に向かって流入し、堆積 NR07初期堆積層(河底層)
- 16 花崗閃緑岩風化層(マサ土) 地山



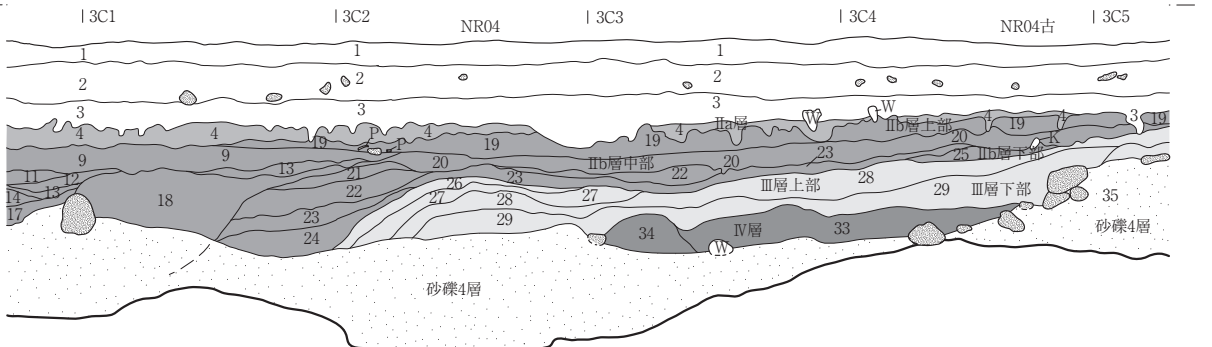
第19図 西区セクションE(2)・F・G

セクションH(中央トレンチ断面)

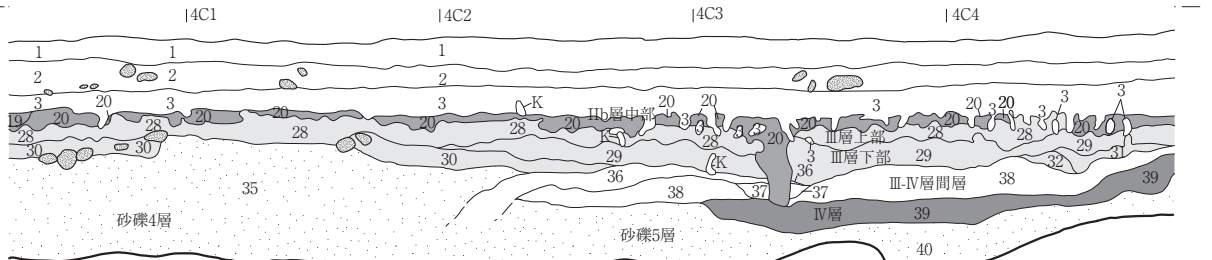
243.8mH



243.8m



243.8m



243.8m



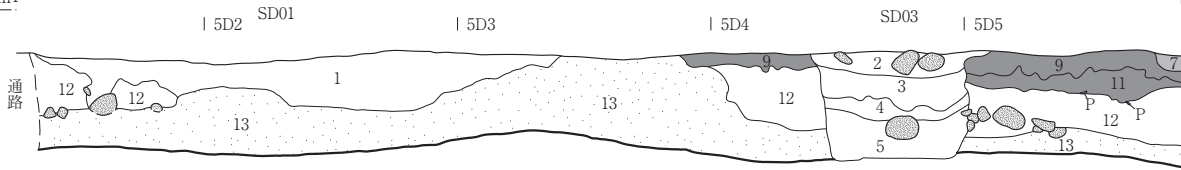
セクションH(中央トレンチ断面)

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 草など植物多数 現耕作土(表土) Ia層
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや強 水田盛土 Ib層
- 3 5Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 旧耕作土 近代~現代の水田耕作土か
- 4 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 旧耕作土 古代~近世含む水田耕作土か
- 5 7.5GY3/1暗緑灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 倒木痕か、もしくは溝埋土の可能性もあり
- 6 7.5GY4/1暗緑灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 倒木痕か、もしくは溝埋土の可能性もあり
- 7 7.5GY3/1暗緑灰色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 倒木痕か、もしくは溝埋土の可能性もあり
- 8 2.5GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 倒木痕か、もしくは溝埋土の可能性もあり
- 9 10Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIb層と類似
- 10 7.5Y4/2灰オリーブ色や7.5Y4/3暗オリーブ色の粗砂層 上部は粒径が小さく、下部は大きい(径2~5mm) 新しい沢の河川堆積層
- 11 10Y4/1灰色~3/1オリーブ黒色 細砂層(径1mm前後)・炭化物(径5mm)1% NR03堆積層
- 12 7.5Y3/1オリーブ黒色 細砂層(径1mm前後)・炭化物(径5mm)1% NR03堆積層
- 13 10Y3/1オリーブ黒色 やや砂質の細砂層(径1mm前後)・炭化物(径5mm)3% NR03堆積層
- 14 5GY4/1暗オリーブ灰色 細砂層(径1mm前後)・上部に炭化物(径3~5mm)やや多い NR03堆積層
- 15 7.5Y4/2灰オリーブ色~7.5Y4/3暗オリーブ色の粗砂層(径5mm前後)
- 16 2.5GY2/1黒色砂質シルトと2.5GY8/1灰白色細砂の互層(各3枚位)、この層内に倒木含む。淀みか。
- 17 2.5GY6/1オリーブ灰色 細砂層 粘性弱 締まりやや弱
- 18 5GY5/1オリーブ灰色~5GY4/1暗オリーブ灰色 粗砂層(径3~5mm)
- 19 10YR2/1黒色シルト 粘性中 締まり中 IIb層上部
- 20 10YR2/1黒色シルトと10YR2/2黒色シルトの中間 粘性中 締まり中 やや砂質 IIb層中部
- 21 10Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱~中 締まり中 IIb層中部に類似
- 22 10Y4/1灰色 細砂層 粘性弱 締まり中
- 23 10Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性中 締まり中 IIb層中部
- 24 10Y2/1黒色 やや粘土質シルト(部分的に砂混) 粘性中~やや強 締まり中 23層の水面下淀みか
- 25 10Y2/1黒色シルト 粘性中 締まり中 IIb層下部
- 26 7.5Y3/2オリーブ黒色 細砂層 粘性無し 締まり中
- 27 7.5Y4/2灰オリーブ色 粗砂層 粘性無し 締まり中
- 28 10Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 III層上部
- 29 10Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 III層下部
- 30 7.5Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 III層下部
- 31 7.5Y3/2オリーブ黒色 細砂層 粘性無し 締まり中 III層下部
- 32 7.5Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性中 締まり中 III層下部
- 33 5GY2/1緑黒色 やや粘土質シルト(部分的に砂質) 粘性中~やや強 締まり中 炭化物(径5mm)3%、生材・堅果類多量出土 IV層
- 34 N2/0黒色 粘土質シルト 粘性やや強 締まり中 炭化物(径5mm)2%・植物質(茅など)多量・IV層下部
- 35 7.5Y4/2灰オリーブ色 粗砂層 粘性無し 締まり中 上部には、10~20cm大の角礫が多量 砂礫4層
- 36 10Y4/1灰色 細砂層 粘性無し 締まり中 III-IV層間層
- 37 10Y3/1オリーブ黒色 細砂層 粘性無し 締まり中 一部、同色シルト質土混入 III-IV層間層
- 38 7.5Y4/2オリーブ灰色 粗砂層 粘性無し 締まり中 III-IV層間層
- 39 10Y3/2オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まり中 IV層
- 40 35層と類似 砂礫5層

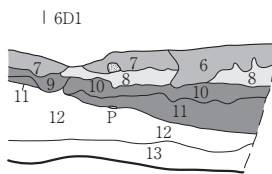
第20図 西区セクションH

セクションI(中央トレンチ東側)

243.4m I



243.4m I'

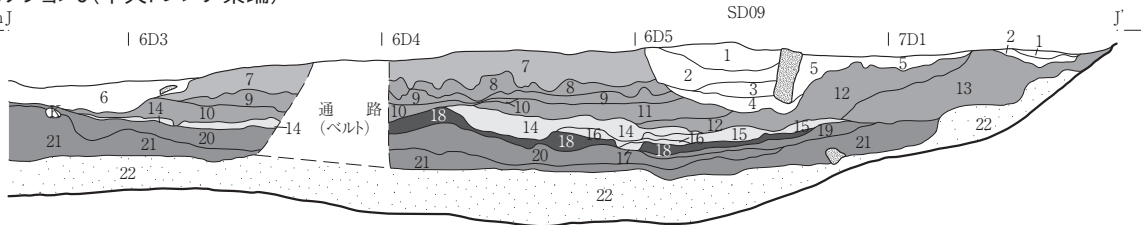


セクション I (中央トレンチ東側)

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト やや砂混 粘性中 締まり中 SD01堆積土
- 2 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 締まりやや弱 SD03堆積土
- 3 10YR3/3暗褐色 粗砂(径5mm以下) 粘性弱 締まり中 SD03堆積土
- 4 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中～やや強 締まり中 9層など崩落土か SD03堆積土
- 5 10YR6/3にぶい黄褐色粘土質シルトと細砂の互層 水成堆積 SD03堆積土
- 6 2.5GY2/1黒色 シルト 粘性中～やや強 締まり中 土師器など混入 東側沢跡最上層 IIa層
- 7 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まりやや弱 IIa層
- 8 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性中 締まり中 III層
- 9 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 IV層
- 10 2.5GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性中 締まり中 IV層
- 11 2.5GY3/1暗オリーブ灰色 砂質シルト 粘性強 締まり中 炭化物(径1~2mm) 1~2% IV層下部
- 12 10YR3/4暗褐色 細砂(径1mm) 上部砂層
- 13 7.5Y5/1灰色や7.5Y5/2灰オリーブ色などの粗砂層 大~巨礫多数 地山崩れや河川堆積による河底層 砂礫5層

セクションJ(中央トレンチ東端)

243.4m J

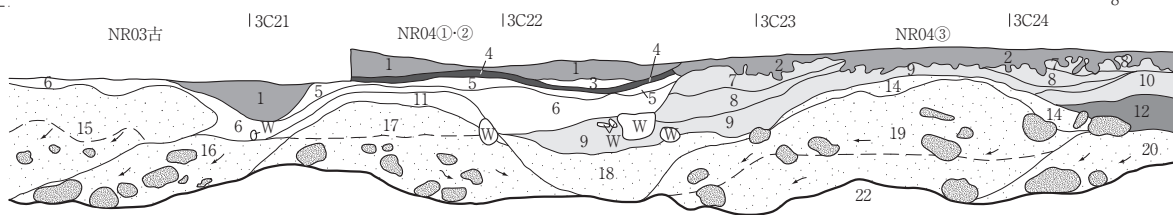


セクション J (中央トレンチ東端)

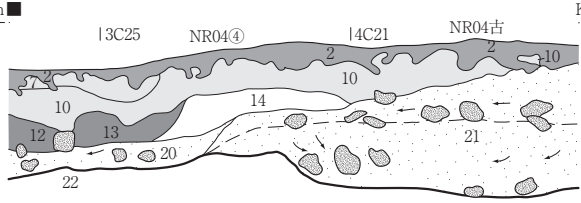
- 1 10YR3/4暗褐色~10YR5/6黄褐色 細砂 粘性無し 締まり無し 水成堆積
- 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中
- 3 10YR2/3黒褐色 細砂 粘性無し 締まり中
- 4 10YR2/3黒褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 溝底面堆積土 礫は土止め石
- 5 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中 礫据え方
- 6 10YR2/2黒褐色シルト+10YR4/4褐色シルト 粘性中 締まりやや弱 攪乱土
- 7 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 土師器含む IIa層
- 8 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 後期土器も混入 IIb層
- 9 10YR3/2黒褐色 細砂 粘性やや弱 締まり中 IIb層
- 10 10Y2/2黒褐色 砂質 粘性やや弱 締まり中 IIb層
- 11 10YR2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 9層との境界が10YR1.7/1黒色シルトで1~2cm堆積 IIb層
- 12 2.5GM2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 IIb層
- 13 7.5Y3/1オリーブ黒色 やや砂質 粘性やや弱 締まり中 IIb層
- 14 10Y3/1オリーブ黒色 シルト 粘性中 締まり中 やや砂質 III層
- 15 10YR2/1黒色 シルト やや砂質 粘性中 締まり中 III層
- 16 10Y3/1オリーブ黒色 砂質 粘性やや弱 締まりやや弱 III層
- 17 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 III層
- 18 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 炭化物層
- 19 10YR2/3黒褐色 砂質 粘性やや弱 締まり中 IV層
- 20 10Y3/1オリーブ黒色 砂質 粘性やや弱 締まり中 上部酸化鉄化 IV層
- 21 5Y3/2オリーブ黒色 砂質 粘性やや弱 締まり中 鉄分多 IV層
- 22 5Y4/3暗オリーブ色 粗砂 粘性無し 締まり無し 20~50cm大の巨礫多 砂礫5~6層 1~5層 SD09堆積土

セクションK(3~4C区WE断面)

242.9m K

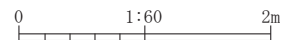


242.9m K'



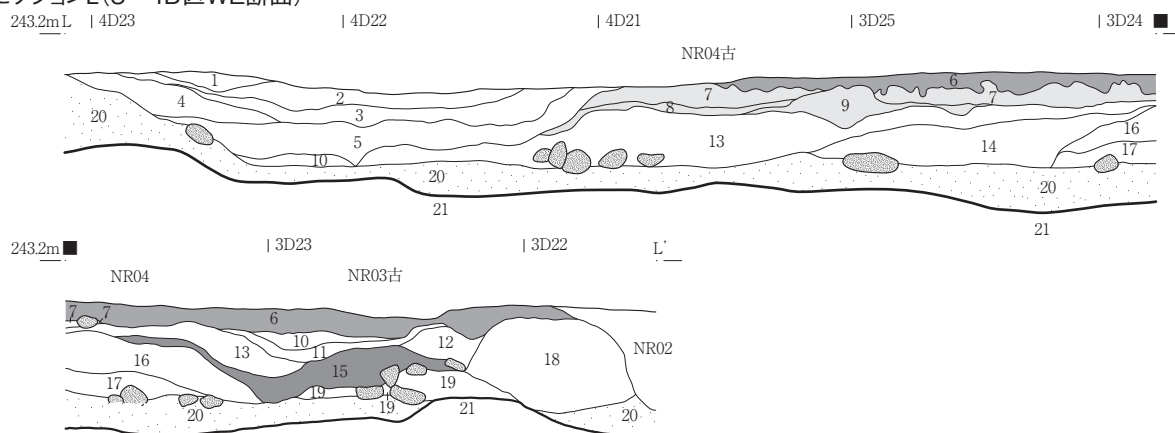
セクション K (3~4C区WE断面)

- 1 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 IIb層流入層
- 2 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まり中 IIb層
- 3 10YR3/2黒褐色 粗砂 粘性無し 締まり中
- 4 2.5GM2/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 炭化物粒(5mm) 中量 炭化物層
- 5 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱~弱 締まりやや弱 下部には粗砂がブロックで堆積
- 6 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 炭化物粒(5mm) 少量 中位に粗砂ブロック堆積
- 7 10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 III層
- 8 10Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 細砂が数枚堆積 III層
- 9 10Y3/1オリーブ黒色 細砂 粘性無し 締まりやや弱~中 III層
- 10 10YR4/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱~中 III層
- 11 10Y3/1オリーブ黒色 細砂 粘性無し 締まり中
- 12 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 締まり中 トチ・クルミ多量 植物多量 IV層
- 13 10Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 IV層
- 14 10Y4/1灰 細砂 粘性無し 締まり中
- 15 7.5Y4/3暗オリーブ色 粗砂 粘性無し 締まり中 20~50cm大の巨礫多量 上部はやや水平に堆積、下部は砂分が多く10cm以下の礫が西向きに堆積 NR02・砂礫3層
- 16 20~30cm大の礫が西向きに堆積した後、10cm大の礫を含む粗砂が西向きに堆積 NR03古・砂礫4層
- 17 上部は砂が水平に堆積、下部は20cm 大の礫が東向きに堆積 NR03古とNR04の境界
- 18 粗砂中心に堆積 NR04①砂礫4層
- 19 上部は細砂が水平に堆積、下部は10cm以下の礫堆積後、20~30cm大の礫が西向きに堆積 NR04②砂礫4層
- 20 10cm以下の礫堆積後、40~50cm大の礫が西向きに堆積 NR04③砂礫4層
- 21 上部は20cm大の礫が水平に堆積後、下部は10cm大の礫を中心に西及び東から堆積 NR04古・砂礫4層
- 22 花崗閃緑岩風化層(地山)



第21図 西区セクションI・J・K

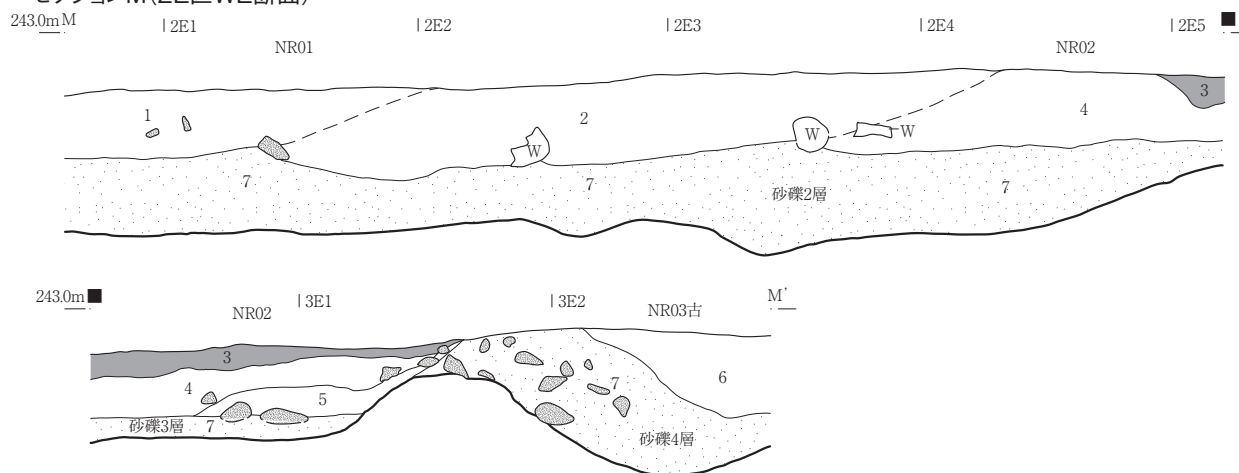
セクションL (3~4D区WE断面)



セクションL (3~4D区WE断面)

- |   |   |
|---|---|
| 1 10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 縮まりやや弱 攪乱土                | 13 10YR6/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 縮まり中 4枚程度に細砂・粗砂の互層 (各層5cm厚)            |
| 2 10YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 縮まりやや弱 III層に類似         | 14 10YR5/6黄褐色 粗砂 粘性無し 縮まり中 5~10cm大の亜角礫が下部に水平堆積 (3層程度) 上部は粗砂主体 |
| 3 2.5Y3/1黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 縮まりやや弱 III層に類似       | 15 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 縮まりやや弱 IV層                             |
| 4 5Y2/1黒色 粘土質シルト 粘性中 縮まり中 IV層上部に類似 5層より植物質少ない | 16 10YR4/1褐灰色 細砂 粘性無し 縮まり中                                    |
| 5 10YR1.7/1黒色 粘土質シルト 粘性中 縮まり中 IV層に類似 植物質多量    | 17 10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 縮まり中 炭化物少量                          |
| 6 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 縮まり中 IIb層上部            | 18 10YR4/4褐色 粗砂 粘性無し 縮まりやや弱 10~30cm大の亜角礫多量 NR03古堆積層           |
| 7 10Y3/1オリブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 縮まり中                | 19 10YR6/1褐灰色 粗砂 粘性無し 縮まり中 10~20cm大の亜角礫多量 NR03古堆積層            |
| 8 7.5Y3/1オリブ黒色 粘土質シルト 粘性中 縮まりやや弱              | 20 10YR6/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 縮まり中 20~50cm大の亜角礫多量                    |
| 9 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 縮まり中 部分的に粗砂層となる        | 21 花崗閃緑岩風化層 (地山)  |
| 10 5YR4/6赤褐色 中砂 粘性無し 縮まり弱                     |   |
| 11 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱-中 縮まり中                 |   |
| 12 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性 縮まりやや弱                 |   |

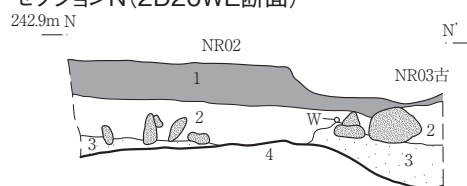
セクションM (2E区WE断面)



セクションM (2E区WE断面)

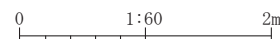
- |   |
|---|
| 1 7.5Y3/1オリブ黒色 シルト 粘性やや弱 粗砂との互層 中程に20cm大の亜角礫混入                    |
| 2 10YR6/2灰黄褐色粗砂と10YR3/1黒褐色シルトのラミナ層 (4枚程度) 下部に径20cmの自然木を検出 流木とみられる |
| 3 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 縮まりやや弱 IIa層に類似                              |
| 4 10YR7/2にぶい黄橙色 粗砂 粘性無し 縮まり弱                                      |
| 5 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 下部に径25cmの自然木を検出 植物質多量 流木とみられる              |
| 6 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 以下 IIb~IV層あり NR04堆積土                       |
| 7 10YR6/8明黄褐色 粗砂 10~30cm大の亜角礫多量 河川堆積による下部砂礫層                      |
| 8 10YR7/2にぶい黄橙色 花崗閃緑岩風化層 地山                                       |
- ※ 層位検討したところ、現場時点と1~4層の堆積方向に違いがある

セクションN (2D20E断面)



セクションN (2D20E断面)

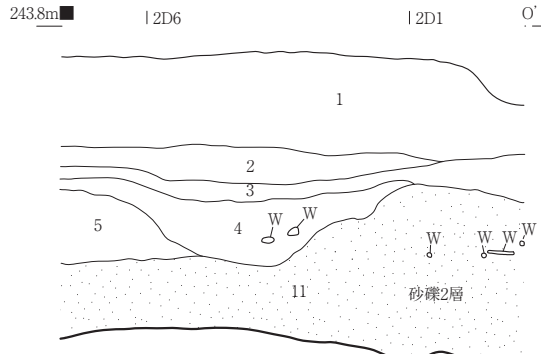
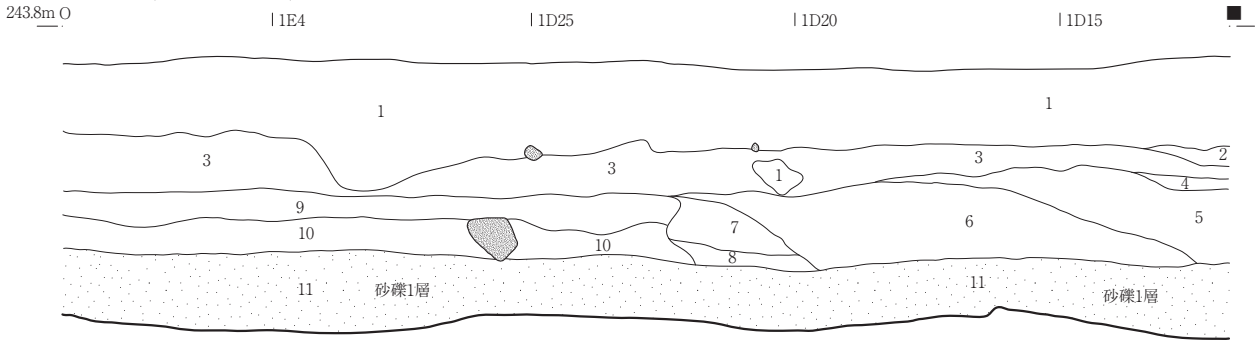
- |   |
|---|
| 1 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性やや弱 縮まりやや弱 IIa層                                       |
| 2 10YR6/4にぶい黄橙 粗砂 粘性無し 縮まり中 10~30cm大の大礫多量 NR02堆積層 流木多量出土 下位に大洞C2式遺物部分的に包含 |
| 3 大~巨礫を含む粗砂層 砂礫2層   |
| 4 花崗閃緑岩風化層 (地山)   |



第22図 西区セクションL・M・N

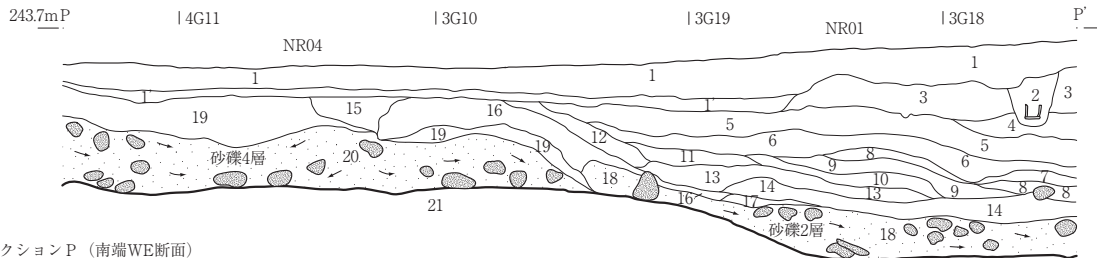


セクションO(西端NS断面)

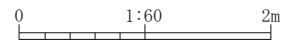


- セクションO(西端NS断面)
- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 粗砂ブロック中量混入 表土(現代の耕作土・盛土) 1a層
  - 2 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 粗砂ブロック少量混入 盛土 1b層
  - 3 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 締まり中 旧表土(平安~中世の耕作層でもあるか)
  - 4 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱~中 締まりやや弱 下に流水多量 泥質化 NR01堆積層
  - 5 10Y3/1オリブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 下に流水・柴多量 泥質化 NR01堆積層
  - 6 7.5Y3/2オリブ黒色シルトと2.5Y7/1灰白色の細砂のラミナ層 粘性やや弱 締まりやや弱 NR01堆積層
  - 7 2.5Y3/1黒褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 NR01堆積層
  - 8 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 泥質化 流水多量 NR01堆積層
  - 9 7.5Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 NR01堆積層
  - 10 10Y2/1黒色 シルト 粘性中 締まりやや弱 植物質多量 NR01堆積層
  - 11 10YR4/6褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 NR01砂礫層→北側はNR02砂礫層から変化  
1層→表土(耕作土・盛土) 1a層  
2層→盛土(初期) 1b層  
3層→旧表土  
4~10層→NR01堆積土

セクションP(南端WE断面)

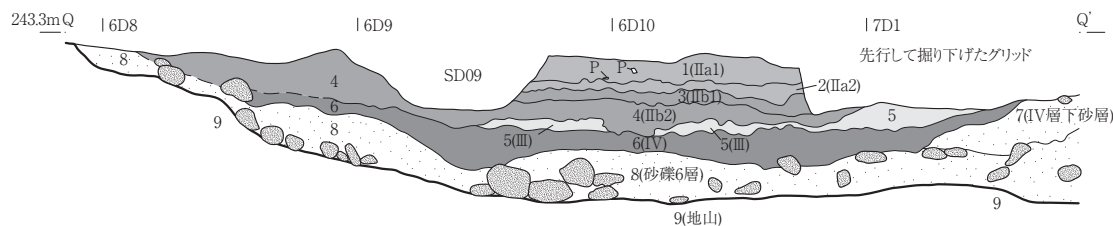


- セクションP(南端WE断面)
- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり弱 植物根多 近現代の耕作土 1a層
  - 1 近代~近世?の水田耕作土
  - 2 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり弱に10YR6/2灰黄褐色 細砂 筋状に混入 下部には板を使用して樋が入れられている。近代~近世の水田にかかわる水路
  - 3 10YR2/1黒色 やや砂質のシルト 粘性弱 締まりやや弱~中 炭化物粒(径1cm) 1~2%散在 近代~近世の水田畦畔か
  - 4 10YR3/1黒褐色 やや砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 上部が10YR6/2灰黄褐色 細砂 以下、河川堆積層となる
  - 5 10YR3/1黒褐色 砂質シルトと10YR6/2灰黄褐色 細砂のラミナ堆積 粘性無し~弱 締まりやや弱
  - 6 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性無し 締まりやや弱
  - 7 10YR4/1褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 下部に木質片 ラミナ堆積
  - 8 10YR5/1褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱
  - 9 10YR3/1黒褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱
  - 10 10YR6/6明黄褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱 8層とほぼ同一
  - 11 10YR5/1褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 9層とほぼ同一
  - 12 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱
  - 13 10YR4/1褐色 細砂 粘性無し 締まりやや弱 下部境界はややシルト質
  - 14 10YR5/1褐色 粗砂 粘性無し 締まりやや弱 8層とほぼ同一
  - 15 10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 締まりやや弱 雨裂か
  - 16 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まりやや弱 腐植物多
  - 17 10YR6/2灰黄褐色 細砂 粘性無し 締まり弱 ラミナ堆積
  - 18 10YR5/6黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 10~20cm大の垂角礫多量混入 NR01川底層(砂礫2層)
  - 19 10YR4/2灰黄褐色 粗砂 粘性無し 締まり中
  - 20 10YR4/1褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 20~30cm大の垂角礫多量混入 砂礫4層
  - 21 花崗閃緑岩風化層(地山)
  - 1層 近現代の水田堆積層
  - 2・3層 近代~近世?の水田堆積層
  - 4~18層 NR01堆積層
  - 19・20層 NR04堆積層



第23図 西区セクションO・P

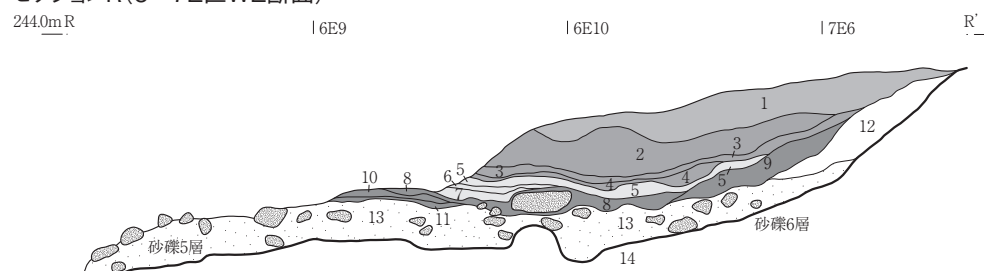
セクションQ(6~7D区EW断面)



セクションQ (6~7D区EW断面)

- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 小礫含 下部水中の攪拌痕 巻き上げ痕発達 2層との層界にTo-a火山灰含 乾燥して褐灰色に変化 苔発生顕著 古代遺物包含 IIa1層
- 2 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 上部1層に接する部分に砂ブロック集中 水成堆積の状態 IIa2層
- 3 7.5YR2/2黒褐色シルトをベースに灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂がバンド状に介在 (部分的2枚あり) →NR03 (2B区)と同様 粘性弱 締まり弱 炭化物細粒含→炭化物は自然炭化成因 IIb1層
- 4 7.5YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 細砂ブロック斑状に含 自然炭化物多い 3~5% IIb2層
- 5 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性無し 締まり中 均質 斑鉄含 III層
- 6 5Y3/1オリーブ黒色 粘土 をベースに細砂ブロック含 ラミナ状 粘性中 締まり弱 有機質残存 泥炭質 IV層
- 7 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性無し 締まり中 均質 斑鉄含 IV層下砂層
- 8 10YR4/3黄褐色 礫 粘性無し 締まり弱 大~中礫含 色調は酸化部分、グライ化部分があり 砂礫6層
- 9 花崗閃緑岩風化層 (地山)

セクションR(6~7E区WE断面)



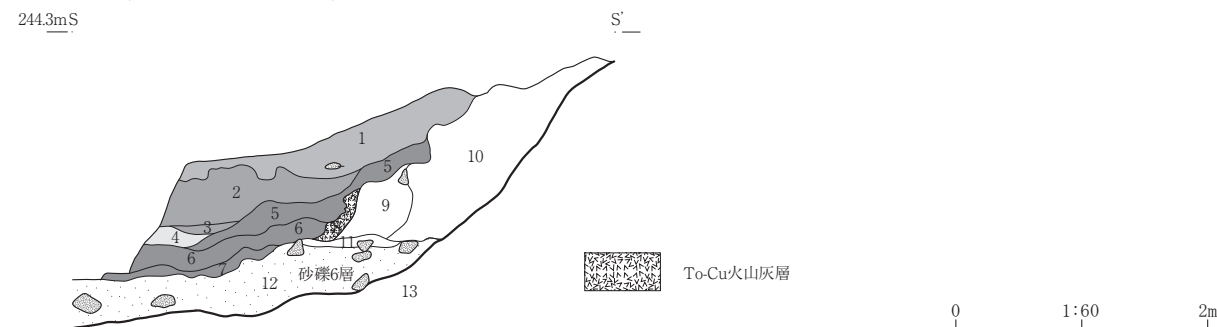
セクションR (6~7E区WE断面)

- 1 7.5YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 乾燥しやすい 2層との層界に砂・小礫凝集ブロックあり IIa層
- 2 7.5YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 小礫含 西側(斜面下部)には砂ラミナ散見 水平堆積 IIb層
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂 粘性無し 締まり中 斑鉄散見 IIb層
- 4 7.5YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 他区域のIIb層下部と同様に本層がうすくバンド状に介在する IIb層
- 5 10YR5/4にぶい黄褐色 砂~粗砂 粘性無し 締まり中 粒径大小のばらつきあり ラミナ状 III層
- 6 10YR4/4褐色 細砂 粘性無し 締まり中 5層と7層のラミナ状間層 III層
- 7 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性弱 締まり中 下部に泥炭ラミナブロック含む III層
- 8 10YR3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性弱~中 締まり中 泥炭状 細砂 ラミナ状ブロック含 炭化物含 中小礫含 斜面側(東側はシルト、中小礫多) 有機質残存 IV層
- 9 7.5YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 IV層
- 10 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂~砂質シルト 粘性弱~中 締まり中 IV層
- 11 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 締まり弱 やや泥炭質 IV層
- 12 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 締まり中 漸移層
- 13 7.5YR3/3暗褐色 粗砂 粘性無し 締まり中を主体として中小礫、巨礫多数 東は砂礫6層→西は砂礫5層に変化
- 14 花崗閃緑岩風化層 (地山)

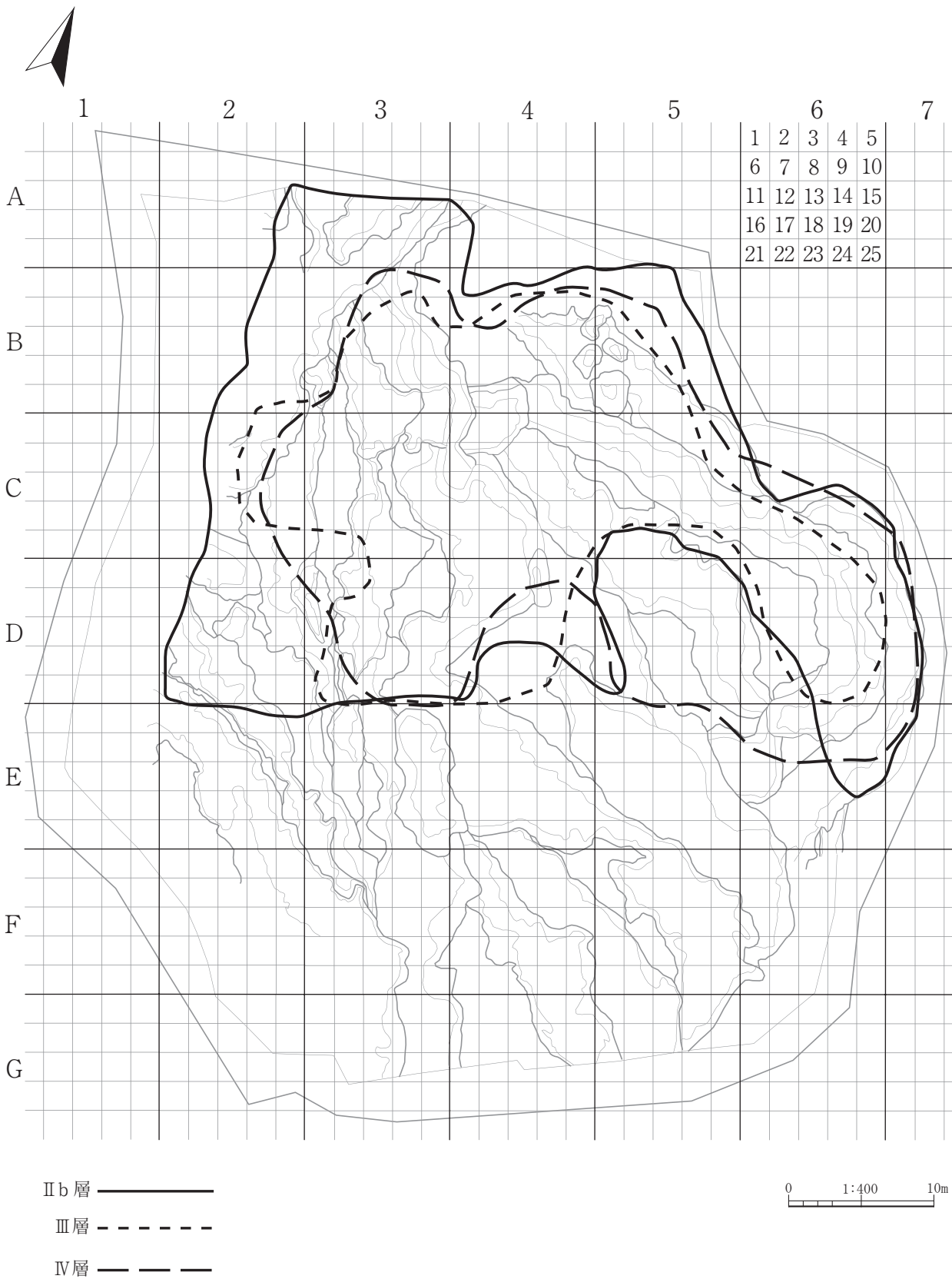
セクションS (6D25~7D21断面)

- 1 7.5YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり弱 乾燥しやすい 2層との境に砂ブロック IIa層
- 2 7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 締まり中 比較的均質 小礫含3~5% IIb層
- 3 7.5YR1/1黒色 粘土質シルト 粘性中 締まり中 水成堆積の泥炭部分 IIb層
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色 砂~粗砂 粘性無し 締まり中 ラミナ状 下半は酸化色 III層
- 5 7.5YR3/1黒褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 IV層中で流水の影響を受けていない部分 IV層
- 6 10YR3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性弱~中 泥炭質 7層との層界に砂ラミナブロック介在 炭化物含 IV層
- 7 10YR2/1黒色 粘土 粘性中 締まり中 泥炭質 有機物残存 IV層
- 8 10YR7/4にぶい黄橙~5/3にぶい黄橙 To-Cu火山灰2次堆積ブロック 斜面に沿って斜めに堆積 締まり強 灰白色部分とピンク色の部分が斑状に重なるように見える
- 9 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱 締まり中 中小礫含
- 10 10YR4/6褐色 シルト~砂質シルト 粘性弱 締まり中 基盤層の崩落ブロック含
- 11 10YR3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中 締まり中
- 12 7.5YR3/3暗褐色 粗砂 粘性無し 締まり中 大~小礫多数 砂礫6層
- 13 花崗閃緑岩風化層 (地山)

セクションS(6D25~7D21断面)

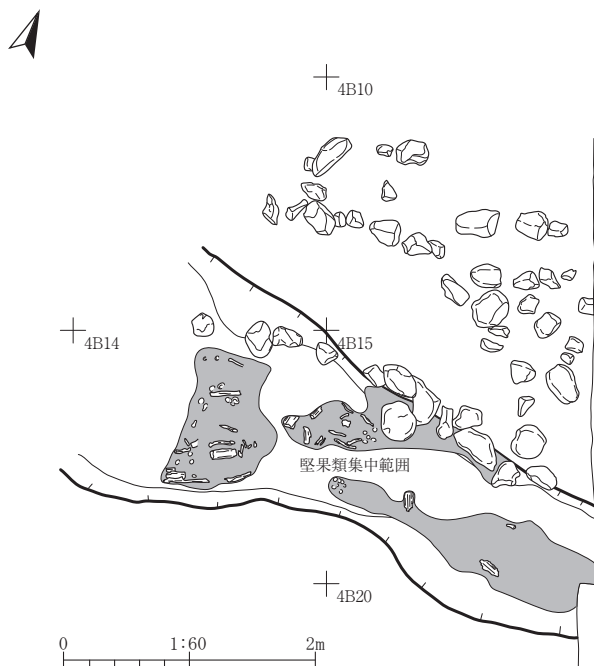


第24図 西区セクションQ・R・S

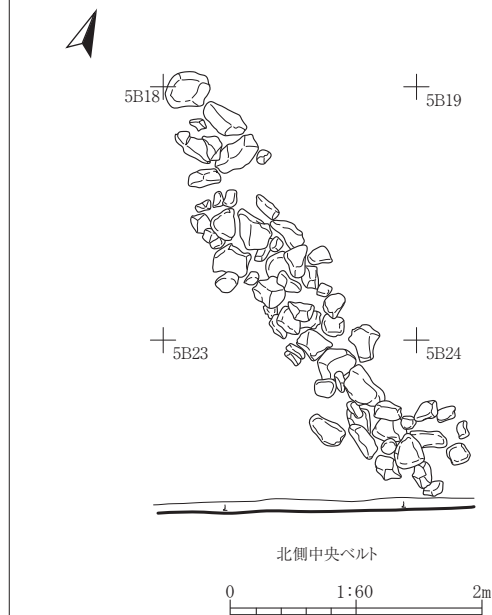


第 25 图 西区·層位分布图

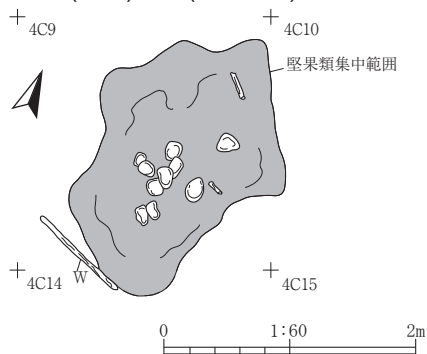
NR06堅果類集中・礫群



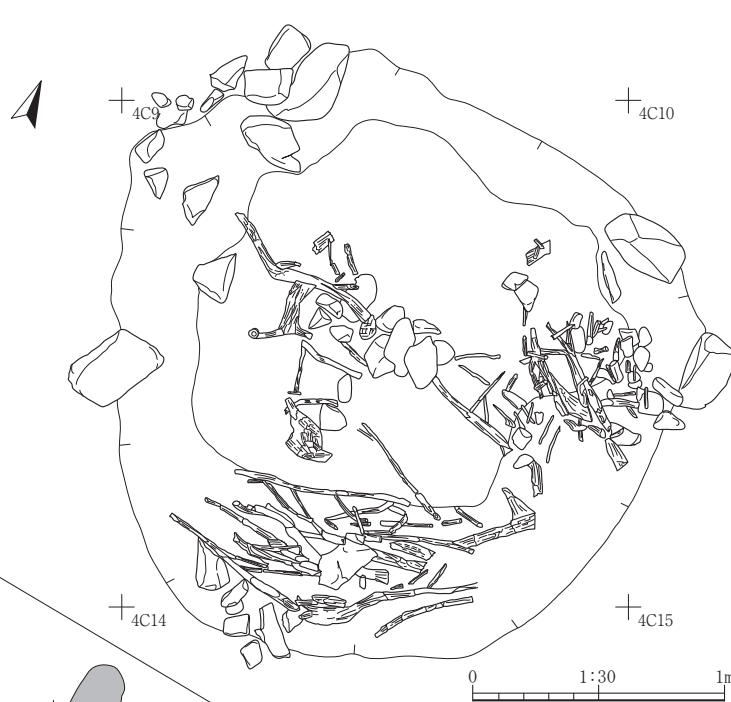
NR06東側8層下礫群



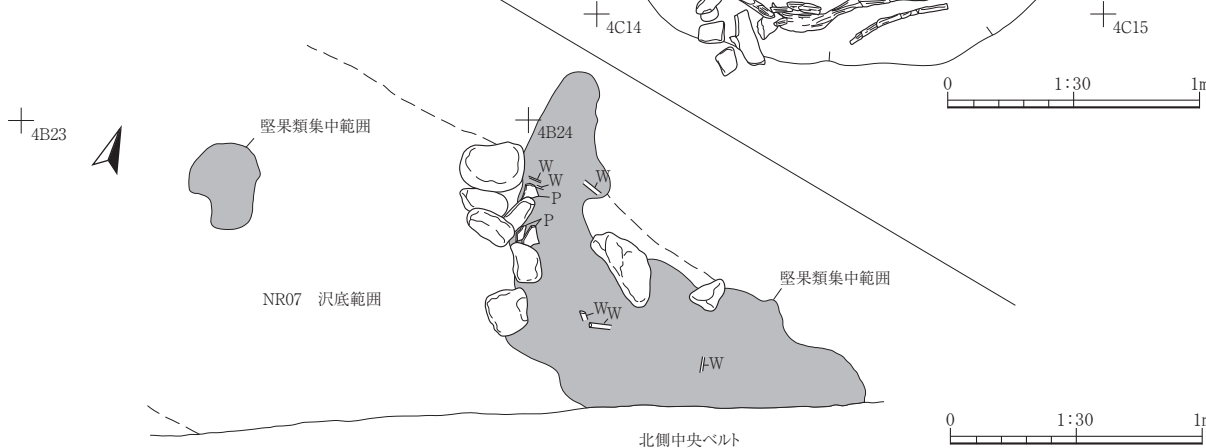
NR05(4C9)10層(IV層下部)堅果類集中範囲



NR05(4C9)10層(IV層)樹木集中範囲



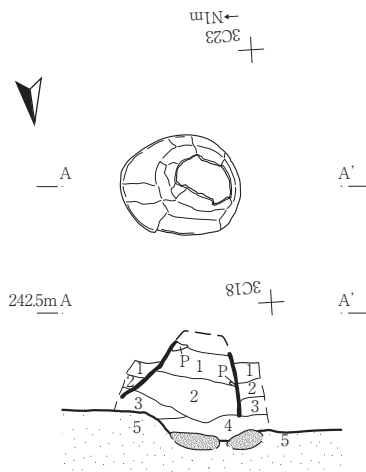
NR07堅果類集中範囲



第 26 図 NR06・07・05 沢跡関連遺構



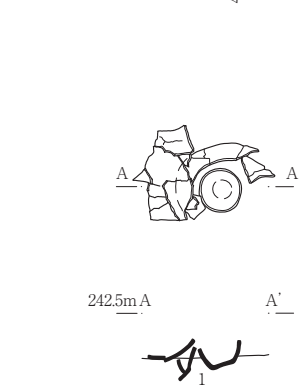
SR01土器設置遺構



SR01土器設置遺構

- 1 5Y6/1灰色 細砂 粘性無し 縮まりやや弱
- 2 5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱 縮まりやや弱 炭化物粒少量
- 3 5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性やや弱 縮まりやや弱 細砂ラミナ
- 4 5Y5/1灰色 細砂 粘性無し 縮まりやや弱 下部ラミナ砂層
- 5 10Y7/4にぶい黄橙色 粗砂 粘性無し 縮まり中

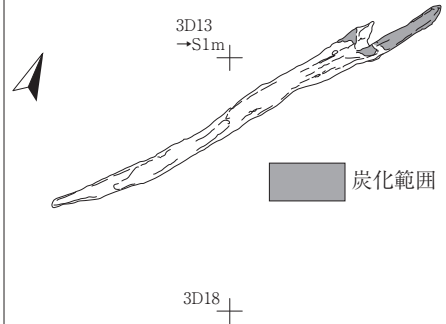
SR02土器設置遺構



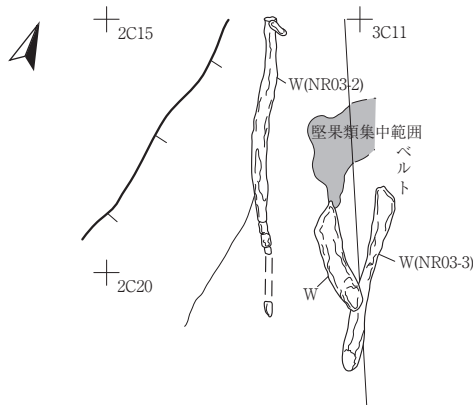
SR02土器設置遺構

- 1 5Y6/1灰色 細砂 粘性無し 縮まりやや弱

NR04(3D12-13)下部砂礫層直上  
木製品出土状況



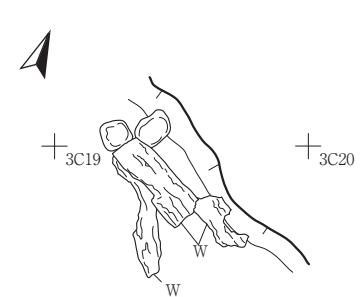
NR04(2C15・20)IV層最下位  
樹木・堅果類範囲



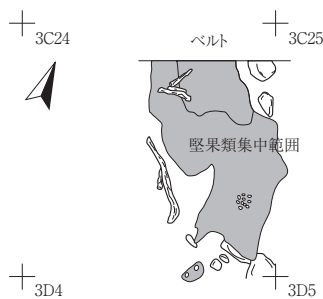
NR04(3C11)IV層  
樹木出土状況



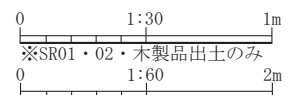
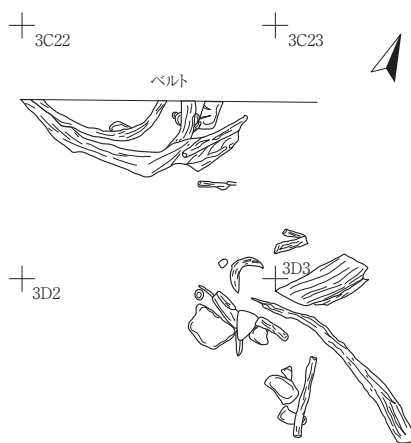
NR04(3C19) 21層 (IV層)  
樹木出土状況



NR04(3C24)IV層中  
植物葉・堅果類集中

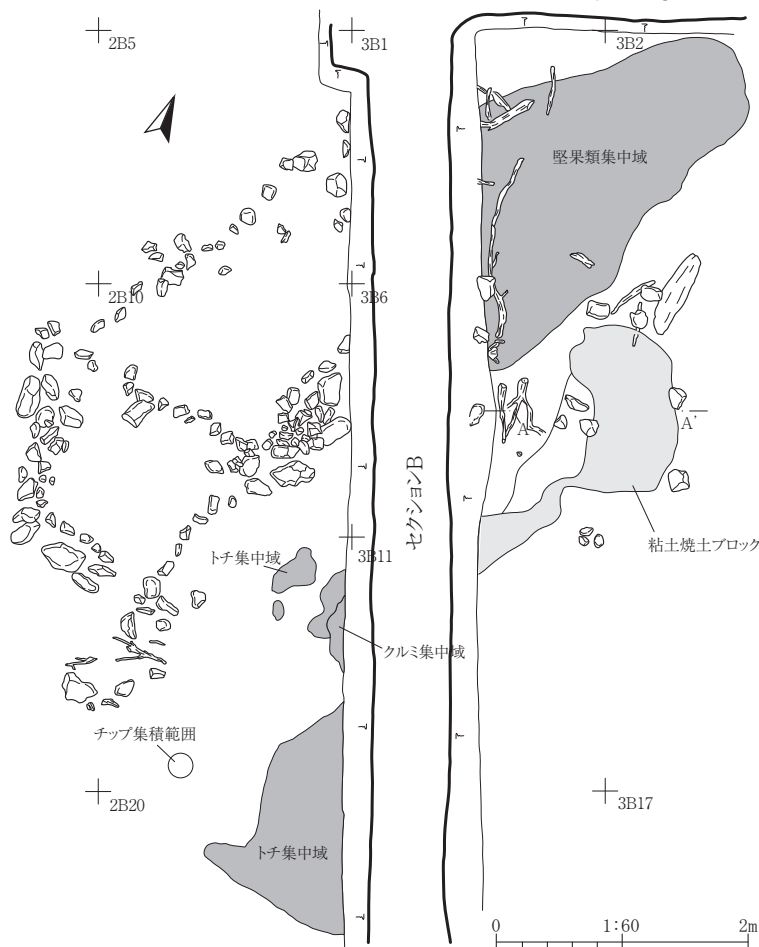


NR04(3C22-23,4C2-3)  
樹木出土状況

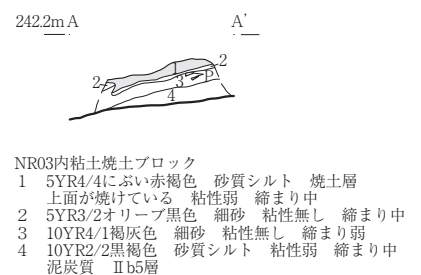


第 27 図 NR04 沢跡関連遺構

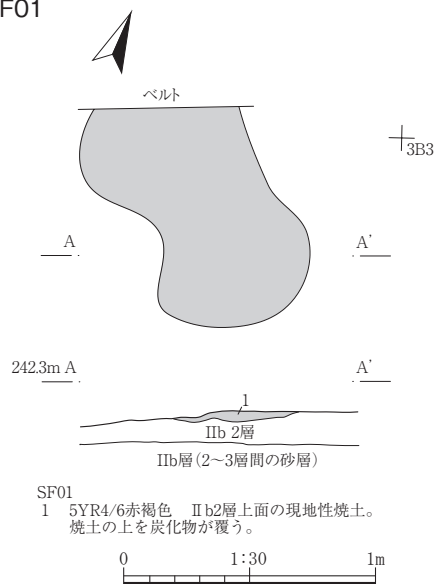
NR03下部～底部



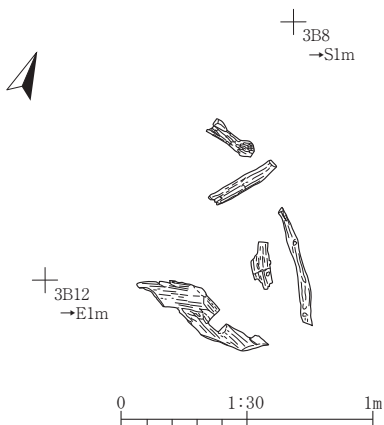
NR03内粘土焼土ブロック



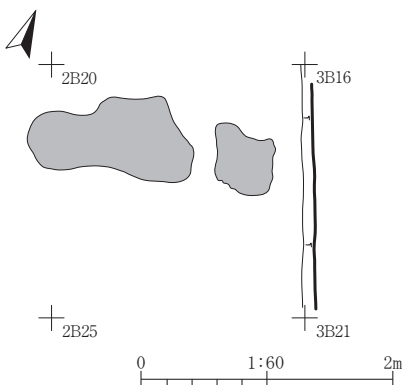
SF01



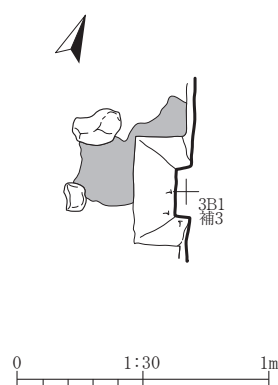
NR03(3B7)樹木出土状況



NR03(2B20) IIb5層  
堅果類集中

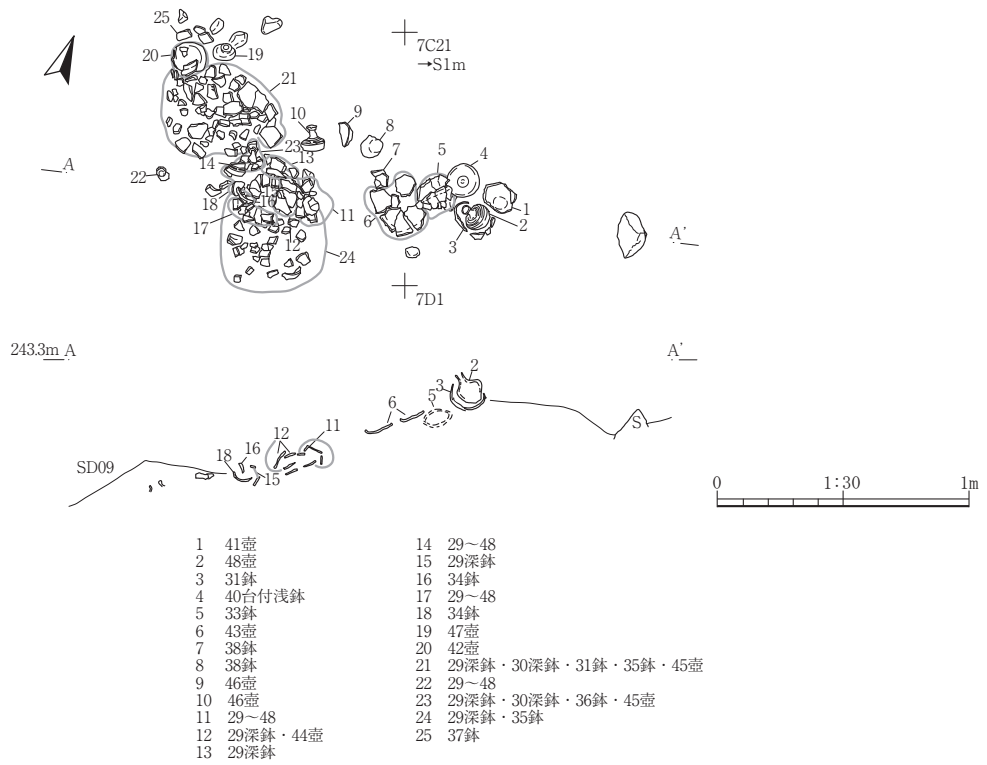


NR03(2A25) IIb5層  
堅果類集中

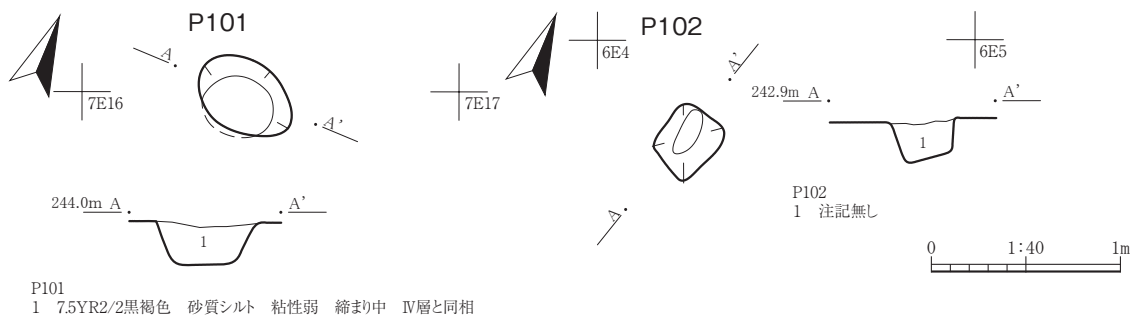


第28図 NR03 沢跡関連遺構

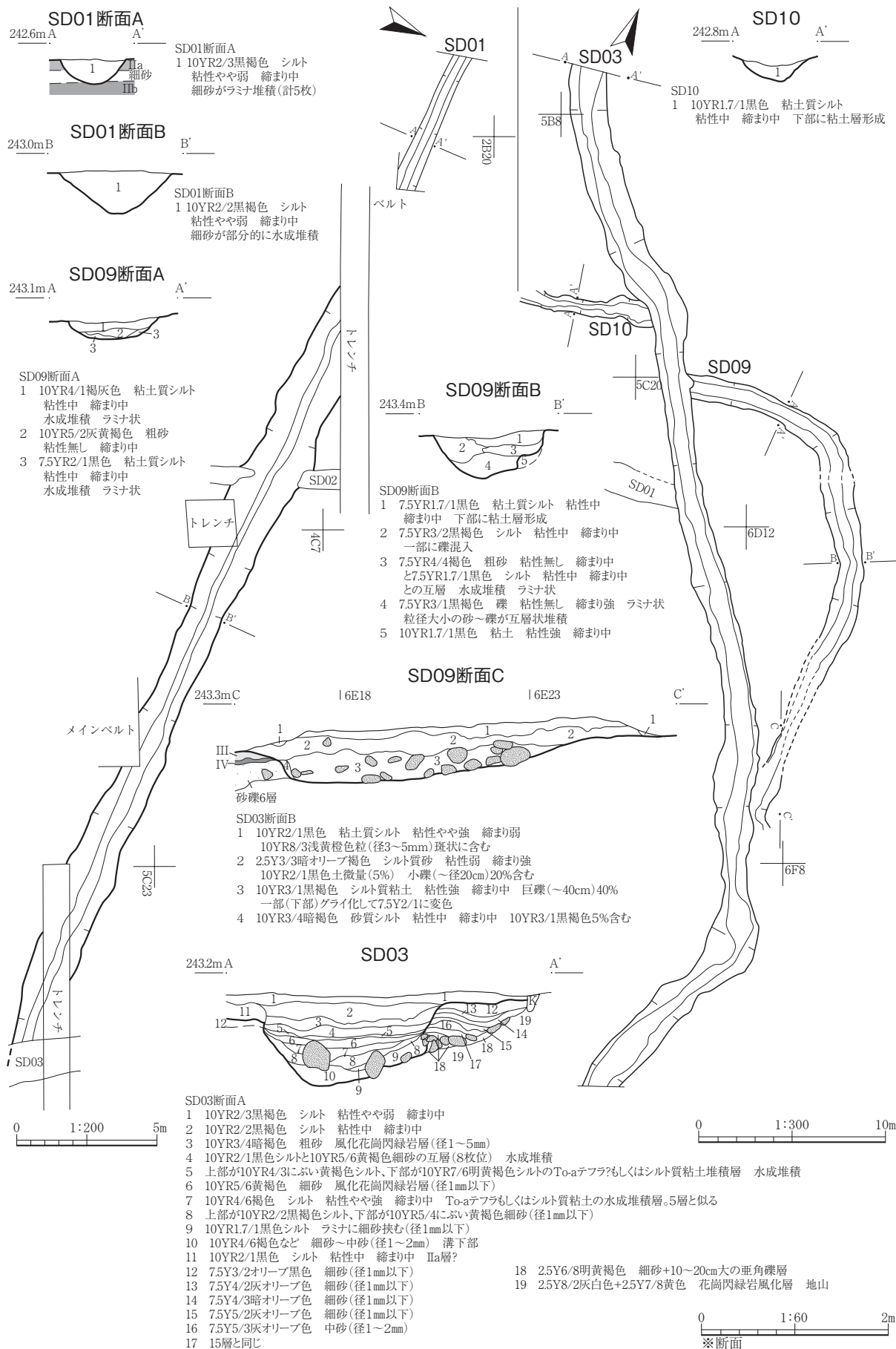
SR03(6C25~7C21)IIb層中遺物出土状況



第29図 SR03 土器集積遺構

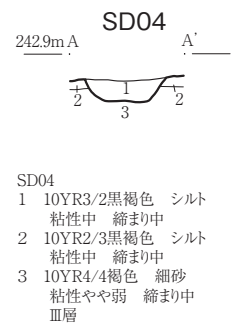
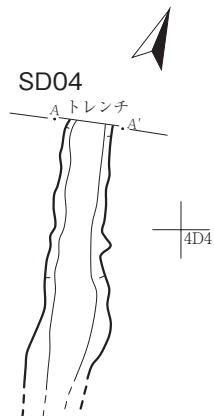


第30図 P101・P102 ピット

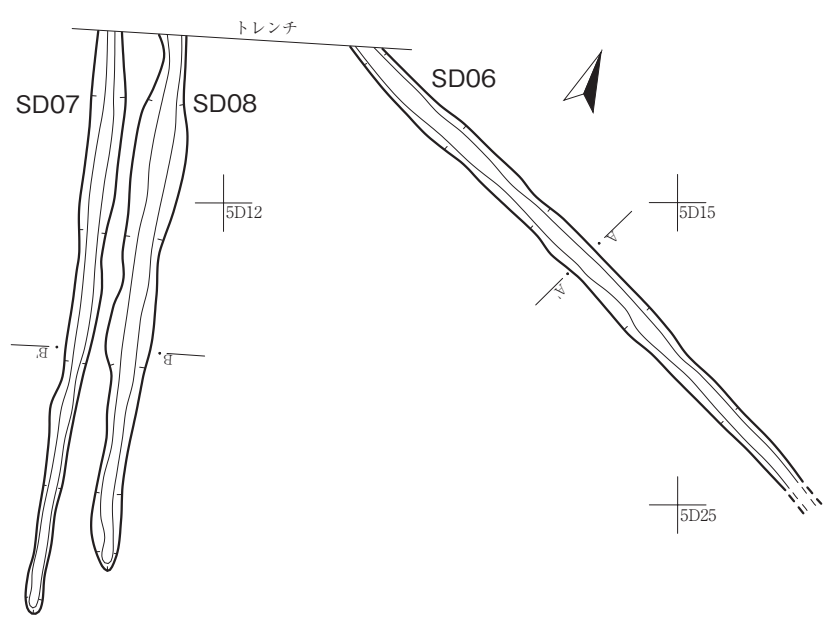


第31図 SD01・03・09・10溝跡



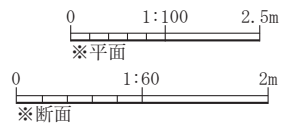


- SD04
- 1 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中
  - 2 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 締まり中
  - 3 10YR4/4褐色 細砂 粘性やや弱 締まり中
- Ⅲ層



- SD06
- 1 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 締まり中 部分的に細砂混入

- SD07-08
- 1 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 締まり中 IIa層と同じ



## V 出土遺物

### 1 縄文時代

今回出土した遺物は、縄文土器・土製品・石器・石製品・木製品・昆虫・動物遺存体・植物遺存体・平安時代の土器・陶磁器・鉄製品である。各種遺物について、分類別に記載する。

#### (1) 縄文土器 (第40～109図、写真図版37～82)

今回の調査で出土した縄文土器は、大コンテナで145箱(2,336.5kg)である。時期別に出土量を見ると、晩期後半の土器が約5割、後期初頭の土器が約2～3割、後期中葉の土器が約2割を占め、その他の土器は1割弱である。器種を見ると、深鉢の割合が非常に高く、その他の器種は1～2割程度に留まる。特に晩期に比定される土器群では粗製深鉢が出土量の大半を占める。ここでは、出土土器を既存の土器型式から第Ⅰ～Ⅸ群に分類し、内容を記載する。また、第Ⅹ群を土器底部資料、第ⅩⅠ群にはミニチュア土器とした。

#### (a) 各群土器

##### 第Ⅰ群 早期末葉～前期初頭

西区東側のNR05・06・07沢跡(5C・5D・6C・6D・6E)・V層や砂礫層、P101ピット埋土から出土した土器を主体としており、早期末葉～前期初頭に比定される土器群を一括した。出土量は、全体量の5%にも満たない少量である。器種は、すべて深鉢である。482は尖底土器の底部資料、それ以外は胎土に多量の植物質繊維を含む土器で縄文のみ施文されている破片資料が大半を占める。82は口縁部にLR原体圧痕、胴部はLR羽状縄文(結束第1種)が施文される。482は早期末葉～前期初頭、それ以外は前期初頭に位置づけられる。

##### 第Ⅱ群 中期中葉

東区SI07竈穴住居跡や37G区包含層、西区NR04・05・07沢跡・IV層や砂礫4・5層から出土した土器を主体としており、中期中葉に比定される土器群を一括した。出土量は、全体の1割程度と少ない。器種は、深鉢・壺がある。平成21年度に調査を行った東区東隣接地からは、まとまった数量の出土が認められている。

該期の土器編年から、2分類される。A類は大木8a式に相当する土器である。すべて破片で、全形を類推できる資料はない。沈線表現を主体とするものと隆線表現を主体とするものがあり、文様は口縁部に集中する。B類は大木8b式に相当する土器である。これもすべて破片であり、全形を類推できる資料はない。隆沈線で文様を構成するものと沈線で文様を構成するものがある。いずれも破片資料のみだが、平成21年調査(岩埋文2011)において復元できる土器が出土していることから、これを目安に分類した。ただし、小破片が多いため捉え間違いの可能性もある。

ⅡA類は、大木8a式に相当する土器で、器種は深鉢と壺がある。器形は深鉢が口縁部が内湾するキャリパー形のもの(53・171・215・647・690・721)、頸部から口縁にかけて開くもの(820)が認められる。口縁部文様は隆線で描出するものが主体で、53・171・215・498・647・711・733・721・777などがある。また、沈線で描かれる729や口縁部を肥厚させた上で描く216・690がある。664は隆線間に刺突を充填するもので該期土器か不明の資料である。712は壺で、沈線によってU字状の文様が描かれる。

Ⅱ B類は、大木 8 b 式に相当する土器で、主に東区を中心に出土した資料である。器種は、深鉢と壺がある。器形を類推できるものは少ないが、頸部でやや括れ口縁部が開くもの（172・484・523・626 など）や口縁部が緩やかに内湾するもの（19・148 など）、キャリパー形を呈するもの（6）がある。胴部文様は隆沈線で蕨手文に小渦巻文を合わせて描出するもの（1・16・19・20・22・23・626・786・787 など）、沈線で描くもの（523）がある。796 は突帯状の隆線に橋状突起を有する。800 は壺で、頸部に平行する横位隆線、胴部には隆線で文様を描いている。

今回出土した土器を該期編年に当てはめれば、Ⅱ A類は主に大木 8 a 式新段階に相当し、Ⅱ B類は大木 8 b 式中～新段階に相当すると考えられる（中野 2008）。

### 第Ⅲ群 中期後葉～末葉

東区 SI07 竪穴住居跡や 37G 区包含層、西区 NR06・07 沢跡・Ⅳ層や砂礫 4～6 層から出土した土器を主体としており、中期後葉～末葉に比定される土器群を一括した。出土量は極少量で、全体の 1 割にも満たない。器種は、深鉢・壺がある。第Ⅱ群同様、平成 21 年度に調査を行った際にはまとまった数量の出土が認められている。

該期編年から、2 分類される。A類は大木 9 式に相当する土器である。すべて破片で、全形を類推できる資料はない。隆沈線表現を主体とするものと沈線表現を主体とするものがある。B類は大木 10 式に相当する土器である。器形を復元できたのは 3 点で（765・821・835）、その他は破片である。沈線で文様表現するものが多いが、隆線を施すものもある。第Ⅱ群同様、小破片が多いため捉え間違いの可能性もある。

Ⅲ A類は、大木 9 式に相当する土器で、器種は深鉢と壺がある。深鉢の器形は、頸部でやや窄まり口縁部が開くもの（26・217・500・603）、最大径が胴部上半にあり口縁部が緩く内傾するもの（238）がある。238 は隆沈線で縦位の楕円形文を描くもので、小渦巻文を施文する。これはⅡ B類の可能性もある。603 は方形気味となる。691 は小形の深鉢で縦位に垂下する隆沈線が、底部付近まで施文される。沈線で文様表現する資料は 26・217・500 などで、逆 U 字状文が垂下する。727 は壺で破片資料である。隆沈線で表現されており、赤彩されている。

Ⅲ B類は、大木 10 式に相当する土器で、器種は深鉢と壺がある。器形は頸部で緩く窄まり口縁部が外傾するもの（149・692・725・765・830）、胴上半に最大径を持ち口縁部が内傾するもの（7・17・25）、外傾しながら緩やかに立ち上がるもの（524・821・835）がある。沈線表現するものは、S 字状文（765）、J 字状文（692・693）がある。17・25 は折り返し口縁で、17 は竹管による刺突列を施す。821・835 は縄文のみを施文する土器で、上半部のみであるがやや大形の深鉢である。734・620 は壺で、620 は隆線表現、734 は U 字状文が描かれる。

### 第Ⅳ群 後期初頭（門前式相当）

西区 NR04・05・07 沢跡・Ⅳ層や砂礫 4・5 層から出土した土器を主体としており、縄文時代後期初頭に比定される土器群を一括した。出土量は、第Ⅷ・Ⅸ群に次いで多く、全体の約 2～3 割を占める。器種は、大半が深鉢であり、浅鉢・壺形土器が僅かに認められる。

深鉢は、施文手法により 5 分類した。

深鉢 1 類は隆線と沈線を用いて施文する深鉢で、施文手法によりさらに 3 細分される。1 a 類は隆線上に施される列点文によって頸部を区画し、胴部は地文のみとなる土器で、631・669・684・694・744・749・766 などが該当する。器形は同上半部の反りが強く表現される朝顔形器形を呈するものが多く（稲村 2008）、669・674・704 などは胴上半部から把手が外反する。また、外反した器形から、

頸部付近で直立もしくは内傾気味となり、胴上半に最大径を持つものもある（694・749など）。区画に用いられた頸部に施された隆線上の列点文は、突起や把手部分で立ち上がる。隆帯上には、しばしば3個一対の刻目文が認められる（704・724）。隆線上の列点文は、鎖状隆帯（浮線文）へと変化していくと考えられる。1 b類は中空の橋状把手を有するもので、205・695・696などがある。695は把手下に横流れS字状文を配し、ここから縦位に垂下する磨消が底部まで伸びる構成をしており、隆線によって描出されている。隆線上には連鎖状隆線が施され、把手間の波底部にボタン状貼付文と共に縦位にも付される。696は隆線による横流れS字状文から垂下する縦位磨消と695と同様の手法がとられているが、中空把手部分には沈線による渦巻文と連鎖状隆線は3個一対で控えめに施される。これから、696は695よりもやや後継段階の資料かもしれない。稲村氏の分類に当てはめれば、第2段階に相当すると思われる。1 c類は方形区画を有するもので、597・724が該当する。全形は不明だが隆線により胴部との区画がなされ、接点にはボタン状貼付文が付される。1 d類は口縁の1箇所隆線による文様がワンポイント描かれるもので、506・703・747・767がある。文様はノ字状・三日月状を呈する。文様上部がやや盛り上がり、突起状を呈する。

深鉢2類は主に沈線を用いて施文する深鉢で、磨消縄文で文様構成するものが多い。器形は、破片資料が多く、全形を類推できる資料が少ないが、胴上半に最大径を持ち、口縁がそのまま内傾するものと外反するものを主体としている。文様は、磨消が施された帯状の縄文でU字状を施文するもの（150・661など）、S字状を施文するもの（817など）、J字状を施文するもの（740）などがあり、150・740・817のように文様同士が接する箇所に刺突点を施すものがある。刺突は578や628のように、突起下に施文される。また、ボタン状貼付文が消失した箇所には盲孔が施される（571・656など）。656は突起下の盲孔から蕨手文が垂下し、突起間には縦位の帯状磨消が施される。これは、縄文時代後期前葉の東北地方南部地域に分布する綱取Ⅱ式の影響が考えられる（本間2008）。

深鉢3類は爪状工具による刺突文を施文する深鉢で、706が1点のみ出土している。刺突文は5段横位に施文されており、重層して認められる。新潟県域の後期初頭～前葉の三十稻場式に施文手法が共通しており、影響を受けていると思われる。

深鉢4類は隆線や沈線で頸部区画された深鉢で、施文手法により4細分される。4 a類は隆線で頸部区画されたもので、口縁部は無文、胴部は縄文が施される。突起がある場合は、隆線が立ち上がるものも多く、568・772・746・810などが該当するが、846のように立ち上がらないものもある。699は平縁で、隆線も平行して施される。4 b類は沈線で頸部区画されたもので、480・627・700・748がある。沈線より上位は無文、胴部は縄文のみ施文される。4 c類は折り返し口縁を有するもので、320・525・565・658・710がある。320・658は折り返し部分にも縄文が施文されるが、その他は無文を呈している。

深鉢5類は縄文のみを施文する深鉢で、施文手法により2細分される。5 a類は口縁に無文帯を有する資料で、5 b類は縄文のみを施文するもので、器形は、頸部に無文帯を有する5 a類には頸部で括れ、口縁で外反する器形が多い（590・683・687など）。また、548や806のように内湾気味になる土器や670・671、822のように外傾しながら立ち上がる器形がある。縄文の大半はLRやRLの斜縄文であるが、単軸絡条体第1類（505・687・769・794・806・833など）や単軸絡条体第5類（474・513・515・660・683など）を施文するものがある。

壺は数量が少なく、708などである。708は胴部中央に最大径を持ち、口縁部を欠いているものの50.9 cm以上の器高がある大形土器である。胴部下半とは波状沈線により区画されており、波頂部には渦文が配される。頸部から垂下するS字状連鎖沈線は1箇所のみ描かれており、磨消間の窓に施文される。文様は口縁部を欠いているが、突起頂部を起点とした倒卵形の文様を描出したと思われる。



浅鉢も数量が少なく、555がある。縄文のみが施文されており、突起部分には2個一対の貫通孔が施される。全形がなく不明だが、傾きから浅鉢とした。

#### 第V群 後期前葉（十腰内I式（新相））

西区NR03・04沢跡・砂礫4層から出土した土器を主体としており、縄文時代後期前葉に比定される土器群を一括した。出土量は、極少量で全体の1割にも満たない。器種は大半が深鉢で、壺を1点確認している。全形を想定できる資料はないが、深鉢は口縁が外反するものや直立するものがある。609・634は竹管状の刺突を充填、576・632・791は多重沈線を施文、485はクランク文を施文、790は段差がある口端に原体圧痕を施文されるものが認められる。737は壺で、多重沈線で斜線文を施文するものである。

#### 第VI群 後期中葉（宝ヶ峯式相当）

西区Ⅲ層やSR01・02土器埋設遺構、NR02～04沢跡砂礫層出土土器を主体としており、縄文時代後期中葉に比定される土器群を一括した。出土量は、第IV群に次いで多く、全体量の2割程度である。器種は、深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口・単孔がある。なお、深鉢や鉢は破片資料が多く、特に鉢は数量が少なく器種を捉え難いものがあるためまとめて扱う。

深鉢（鉢）は、器形により5分類した。1類は波状口縁の波頂部に立体的な突起を有するもので、54・188・233・234・239・269・610・792などの突起部のみ認められる場合が多い。口縁部や頸部文様帯には、平行沈線文、段違いの弧線文、沈線に沿う刺突列などが施文される。738は底部資料で、台付きとなる。2類は平縁を呈し、沈線で文様を施文するもので、2細分される。2a類は、胴部に磨消縄文による文様が展開するもので、296は曲線帯状文、322はS字状入組文が施文されるもの、323はクランク文が施されるものなどがある。2b類は段違いの弧線文が反転展開するもので、584や612がある。3類は平縁を呈し、口縁部直下に刻み目や沈線を施すもので、151・173・211・235・251・268がある。151・235・268は、頸部で屈曲して口縁がやや外傾する器形である。4類は平縁を呈し、縄文のみを施文するもので、2細分できる。4a類は最大径が口縁端部にあり、底部から口縁部にかけて大きく開く器形で、27・28・472・478がある。28・472には、補修孔も確認できる。4b類は最大径が胴上部にあり、口縁部が内湾する器形で、206・230・600などがある。4c類は外傾しながら、緩やかに立ち上がる器形で、272・617・758などがあるが、すべて破片資料である。5類は平縁を呈し、無文のもので、479のみ掲載した。底部から口縁部にかけて、大きく開く器形で、全面ナデ成形されている。

その他の器種を一括する。浅鉢と思われるのは155である。平縁を呈し、同上部に最大径があり、口縁が内湾する器形で、最大径の部分に列点が施される。壺は、556と645がある。556は赤漆と黒漆が塗布されており、沈線部分に黒彩、平面に赤彩が施される。645は小振りの器形で、弧線文が施文される。注口（558）は斜線文が施され、赤黒彩塗布される。単孔土器は95の1点のみ認められた。胴部破片で、沈線文に0段多条が充填される。胴部下半には径1.3cmの貫通孔が穿たれる。

#### 第VII群 後期後葉（瘤付土器相当）

西区NR03沢跡・Ⅲ層を主体としており、縄文時代後期後葉に比定される土器群を一括した。出土量は極少量で、全体の1割にも満たない。器種は、深鉢・注口がある。全形を想定できる資料はないが、598はⅡa文様帯とⅡ文様帯の間に屈曲部を有する器形となる。207や599は口端部に二叉状突起、208や598・793は台形突起を有する。207は平行沈線間に刻み目（短沈線）を充填する。589は平縁を呈し、入組帯状文を施すもので、601・636も同様と思われる。65は注口で、沈線間に瘤状小突起が付される。

小林の一連の論考によれば（小林1999・2008）、貼瘤手法がほぼ見られなくなる瘤付土器第IV段階、宮戸編年の宮戸Ⅲb式、田柄貝塚第VII群などに相当し、縄文時代後期最終末に位置づけられる。

## 第Ⅷ群 晩期前半

西区 NR02・03 沢跡・Ⅱ b 層や砂礫 2・3 層から出土した土器を主体としており、晩期前半の大洞 B 2 式段階～B C 式段階に相当する土器群を一括した。出土量は全体の 1 割弱と少量に留まる。

該期編年から、2 分類される。A 類は大洞 B 2 式段階に相当する土器である。器形を復元できる資料は少数に限られ、大半が破片である。器種は深鉢・鉢・浅鉢・注口があるが、小破片のため捉え間違いの可能性もある。文様は入組三叉文や魚眼状三叉文を特徴としている。B 類は大洞 B C 式段階に相当する土器である。器形を復元できるものはなく、すべて破片である。器種は、深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口があるが、A 類同様に小破片のため捉え間違いがあるかもしれない。文様は羊歯状文や胴部の雲形文を特徴としている。

Ⅷ A 類は大洞 B 2 式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢・浅鉢・注口がある。

深鉢は、外傾しながら緩やかに立ち上がる器形 (527・592・722) と最大径が胴部上半にあり、頸部がやや括れて口縁部が外傾する器形 (60) がある。文様帯は幅の狭い口縁部文様帯に弧線を伴う小波状縁を施すもの (592・722)、縄文のみを施すもの (60・527) がある。

鉢は破片のみであるが、器形は外傾しながら緩やかに立ち上がるもの (59・199・156・218・226・237・798 など)、頸部で緩く窄まり口縁部が開くもの (55・236・256・622 など) がある。後者の頸部に屈折もしくは外反気味に開く鉢は、口部裝飾帯が発達した裝飾鉢と考えられ、口端部には B 突起、55・236 は点列帯を挟んで口頸部と体部に重畳する入組三叉文が施文される。59・199・759 は魚眼状三叉文が施文されている。218・226 は、弧線文を伴う小波状縁を施し、沈線を重層させている。

浅鉢は、488 の 1 点のみ認められており、口端部に B 突起、口縁部には入組三叉文、胴部はミガキ調整で仕上げられている。

注口は、198・219・246・528・720・723 の 6 点が認められる。完形はないが、528・720 は器形が類推できる。528 は口縁部が内傾する器形で、胴部は扁平化しており、全体にミガキ調整が施される。720・723 も同様だが、723 は口縁部が屈曲した器形と思われる。198 は屈曲した口縁部破片で、巴状文様が施される。246 は体部に入組帯状文が施されている。磨消縄文が施される 219 は、その他よりもやや古い段階の可能性はある。

Ⅷ B 類は大洞 B C 式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口がある。

深鉢と鉢は、小破片のみであるため分別できない。器形は、緩やかに立ち上がるもの (158) と頸部で屈折するもの (73・176・261・262・240・266・487 など) がある。後者にはいずれも羊歯状文が施されており、口端部には B 突起を有するものが多い。266 は頸部沈線を挟んで、口頸部に魚眼状三叉文、胴部に羊歯状文を配する裝飾性の高い鉢と思われる。240 は頸部点列帯の上に羊歯状文を施文する。158 は口端部に三山状突起を有する。146 は鉢もしくは台付鉢で、胴部には雲形文が施される。

252 は浅鉢もしくは皿で、胴部に雲形文が施文される。297 も同様かもしくは壺。72 は注口と思われ、口端部に B 突起、口頸部に羊歯状文を配する。頸部が屈曲し、胴部へと続く器形と見られる。

## 第Ⅸ群 晩期後半

西区 NR02・03 沢跡・Ⅱ b 層や砂礫 2・3 層、NR03 土器集積遺構から出土した土器を主体としており、晩期後半の大洞 C 2 式段階、大洞 A 1 式段階、大洞 A' 式段階に相当する土器群を一括した。出土量は、今回調査で認められた土器群で最も多く全体量の 5 割以上を占める。

該期編年から、3 分類される。A 類は大洞 C 2 式段階に相当する土器である。全体の中でも最も多量に出土しており、中でも深鉢の割合が非常に高い。器種は、深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口がある。深鉢以外の器種には小破片が多いため、捉え間違いの可能性はある。B 類は大洞 A 1

式段階に相当する土器である。B類はNR03土器集積遺構からまとめて認められており、一括性が非常に高い。器種は深鉢・鉢・台付鉢・鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口があり、精製土器の割合が高い。C類は大洞A'式段階に相当する土器である。数量は非常に少なく、器種は鉢・浅鉢・壺に限られる。

IX A類は大洞C 2式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口がある。

深鉢は、器形から計3類に分けられる。1類は底部から口縁にかけて緩やかに立ち上がる器形で、125・139・329・347・368などが該当する。2類は胴部上半に最大径を持ち、口縁が内傾する器形を呈するもので、全面に縄文が施される。108・184・241・279・403・404・407などがある。3類は頸部に括れを持つ器形を呈し、胴部上半に最大径を持つ器形を呈するもので、本類深鉢の中で最も多く出土した器形である。施文手法から4細分される。3 a類は頸部に横沈線を持たず、無文帯を有するもので、202・273・276・375・379・386・387・388・390・391・395・397・410・492・535・536・593・651などが該当する。口端部には指で摘まんだような刻み目や漣状を施すものが多い。大半は平縁であるが、409のように波状縁を呈するものもある。無文帯と縄文を施文する間の頸部に突起を付けるものもある(183・265)。3 b類は口縁端部直下や頸部に横位沈線などで区画を行うもので、90・109・277・345・335・349・351・353・356などがある。沈線は上下各1条、上2・下1条、上下各2条引くパターンがある。中には、区画線に原体圧痕を施すもの(541)や列点文を施すもの(61)がある。口端部の小波状縁が斜位に刻まれるものもある(61・338・353)。3 a類同様、大半が平縁だが、波状縁(494)や山形突起を持つもの(335)がある。3 c類は頸部に数条の横位沈線が施されるもので、藤村氏の「九年橋型深鉢」に類似する器形である(藤村1987)。97・191・303・334・336・346・350・352・362・365・366・594などが該当する。重層する沈線は最少4条、最多14条と幅がある。沈線上に、縦に並ぶ突起を付すもの(299・334・741)、横に並ぶ突起を付すもの(594)がある。前者は沈線施文以前に貼り付けられている。また、大半が刻み目や漣状の平縁だが、2個一対・4単位のB突起を持つもの(334・594)や山形突起を持つもの(334)がある。3 d類は縄文のみ施文されるもので、102・180・373・532がある。いずれも平縁で、漣状の刻み目(摘まみ)を施す。

鉢は、器形から計3分類される。1類は緩やかに立ち上がる器形で、口縁が内湾するものである。170・247・418・427・429・439がある。口端部に刻み目を施すものも多く、口頸部には横位沈線が施される。2類は口縁部に最大径を持ち、口縁が直立する器形を呈するもので、2細分される。2 a類は急に立ち上がり、底部から口縁部にかけて直立する器形で、142がある。やや波状縁気味で縄文のみ施される。2 b類は緩やかに立ち上がり、口縁部が直立する器形で、114・168・260・430・431・436などが該当する。大半が口端部刻み目、口頸部横位沈線であるが、431は波紋状の雲形文を施文する。3類は胴部上半に最大径があり、頸部で一旦窄まり、口縁部にかけて直立もしくは外反するもので、74・112・128・281・282・283・422・424・428・433・438・595などがある。口端部に刻み目、口頸部に横位沈線・沈線上の列点を施すものも多く、口縁形状は平縁で、A・B突起を持つものがある。128・141・253は渦文やC字文などの雲形文を胴部に描出している。

その他の器種を一括する。台付鉢は極少量で、98・243・446・447・637などがある。平縁で、口端部に刻み目やA・B突起が施される。浅鉢も少量で、127・231・311・449・451・653などがある。全面にミガキ調整を施すもの(231・449)、縄文を施すもの(127・311・451他)がある。台付浅鉢は285の1点のみ。壺は287・452・543・544が縄文、312・440・453・596がミガキ調整される。注口は221のみである。

IX B類は大洞A 1式段階に相当する土器で、器種は深鉢・鉢(台付鉢)・浅鉢・台付浅鉢・壺・注口がある。



深鉢は、29・30の2点がある。29は頸部で窄まり、口縁部が外傾する器形、30は緩やかに立ち上がり、口縁部が直立する器形である。いずれも重層する沈線を施文している。

鉢（台付鉢）は、小破片で器種の区分ができないものを含む。外傾しながら緩やかに立ち上がるもの（31・32・40）や頸部に最大径を持ち口縁部が内湾するもの（120・455・461）、頸部で窄まり口縁部が開くもの（33・34・308）、頸部から口縁部にかけて屈曲するもの（35・36・58・92・187・456・460・739）がある。器形がシンプルなものには粗製土器となる。口頸部の狭い文様帯に工字文や匹字文、沈線文・列点文が施され、口端部にはB突起・刻み目を持つものが多い。124・760は台付鉢である。

その他の器種を一括する。浅鉢は、外傾するもの（62・289・317・464）、頸部から口縁部にかけて直立するもの（122・123・130・144・145・293・818）がある。頸部で屈曲する場合は、文様帯が頸部で収まる。台付浅鉢は、38・291・292・463があり、291・292は胴部まで工字文が施文される。壺は、粗製（37・41・42・47・803・804・844）と精製（44～46・48・64・129・466・762・805他）に分けられる。粗製は胴部ミガキ調整や縄文、精製は胴部上半に工字文や沈線文が施文される。注口（89）は口縁部のみで、本類以外の可能性もある。

IX C類は大洞A'式段階に相当する土器で、鉢（467）・浅鉢（294・732）・壺（193・468）が認められ、変形工字文や沈線文、2個一対の粘土粒貼付などで施文される。

#### 第X群 縄文土器底部（第110～113図）

869～1045は、土器底部に確認された編組圧痕資料である。底部のみ残存のため、詳細な時期推定は困難であるが、ござ目組み・飛びござ目組み・二本飛び網代組み・2本寄せの二本飛び網代組み・麻の葉崩し組みの計5種類の編組技術が確認された。晩期は、底部まで器面調整が施されるため、残存資料自体が少ないが、ござ目組みが多い傾向にある。

#### 第XI群 ミニチュア土器（第40・110図、写真図版37・83）

計23点出土した。既存の土器編年から、12は中期後葉、847～851は後期中葉、852・853は後期、854～867は晩期後半、868は晩期と考えられる。

#### (b) 土器分布状況（第34・35図）

出土土器の分布状況を確認するために、土器出土量分布図と時期別の分布図を作成した。

第34図は層位別に土器重量を計測したもので、流路別・層位別に集中域を確認する目的がある。II b層ではNR02・03沢跡に集中域が存在し、晩期の主要な捨て場であったことが分かる。特に2B15・20・25、3B1～3・6～8・11・12・16・21は10kg以上の出土量がある。中でも、3B7は2×2m範囲で53.56kg、3B16は35.83kg、3B21は30.19kg、2B20は29.75kgと濃密な出土状況を示している。III層は集中域は形成されないが、NR03・04沢跡に分布域がある。IV層は10kgを超える集中域が、4B19・24、4C3・9・10・17、5C16に形成され、中でも4B24が19.34kg、4C9が17.17kgと集中する。砂礫層は、各流路の下部に必ず堆積し、流路底を形成しているため、前時期の包含層遺物が混在する。

第35図は出土土器を収納したビニール袋の中で、主要な時期の遺物を確認したもので、遺物から見る層位の広がりを示した。II b層ではNR02・03沢跡に近いほど晩期土器となり、III層では後期中～後葉土器がNR03古沢跡、後期初頭土器がNR04沢跡の沢岸に広がる。IV層は後期初頭土器がNR05・07沢跡沿いに広がり、砂礫層では流路の変遷に従い、西に向かって新しくなる傾向が捉えられた。



## (2) 土製品 (第 114 ~ 118 図、写真図版 83 ~ 85)

今回の調査で、土偶・土製垂飾・土製耳飾・土版・球状土製品・土錘・土器片利用円盤状土製品と焼成粘土塊・不明土製品が出土している。出土量は、土器量に対して少量に留まる。以下、項目ごとに記述する。

### (a) 土偶 (1046 ~ 1071)

計 26 点出土した。形状や文様表現から、以下の 5 群に分類した。分類については、川目 A 遺跡第 5 次を参考にした (岩埋文 2012)。

#### 第 1 群 後期前葉 (1046 ~ 1051)

計 6 点が該当する。1046・1047 は頭部のみ残存した資料で、1046 は目・口を円形の刺突で表現している。1047 は顔面表現が剥落している。頸部破断面に補修のアスファルト痕跡が残っている。1048 は胴部上半のみで、上半身の幅が広く逆三角形に近くなる。1049 は同一形状の左肩で、上腕が水平に伸びて怒り肩の形状となり、肘が鋭角に曲がっている。1050・1051 は無文の資料で、1051 は頭部表現を持たない。全体に扁平な板状を呈し、脚部がやや正面に出る。

#### 第 2 群 後期中葉 (1052 ~ 1057)

計 6 点が該当する。1053 は頭部のみ残存した資料で、頭頂部は鉢巻き状の結髪表現が施され、これから続く鼻表現は T 字状を呈する。鼻の先端は欠損しているが、高く表現される。首周辺には刺突文が施される。1052・1054 は腕で、肩から肘にかけてはやや丸みを帯びる形状となる。いずれも左腕と見られ、1052 には掌部分が表現されている。1055 は胴部下半で腹部の膨らみが強調され、全体に刺突文が施される。1056 も胴部下半の資料だが、正面は剥落している。横位の沈線によって区画された上部には鋸歯文が施され、縄文が充填されている。1057 は右脚で、やや外側に湾曲する。

#### 第 3 群 晩期後半 (大洞 C 2 式期) (1058 ~ 1067)

計 10 点が該当する。このうち、1058 ~ 1063 が中実、1064 ~ 1067 が中空の作りとなる。

1058・1059 は X 字状土偶である。1058 は正面に沈線による X 字表現、背面には C 字状の入組文が施文される。目・口は短沈線、鼻は刺突される。1059 も同様だが、掌は T 字状沈線で表現される。1060 は腹部が強調され刺突充填、背面には C 字状の入組文が施される。1061 は左腕、1062 は右脚である。1063 は扁平な板状であるが、肩の張りが弱くこの時期に入れた。

1064 は左肩で入組文を施文、1065 は右肩で円形の沈線を施し縄文を充填している。1066・1067 は遮光器土偶の脚部で丸みを帯びており、足首は締まる。

#### 第 4 群 晩期後半 (大洞 C 2 ~ A 1 式期) (1068・1069)

計 2 点が該当する。1068 は頭部~胴部上半の資料で、胴部の正面及び背面には正中線、横位の刺突列が施文される。顔面表現は刺突による目、貼付と刺突による鼻表現は認められるが、口は表現されない。1069 は胴部上半資料で、肩パッド状の突起が施される。中実の作りは、粘土で作った芯棒に肉付けをして製作している。

#### 第 5 群 その他 (1070・1071)

1070 は屈折像土偶で、腰と膝を折り曲げ腕組みをした形状を呈する。左脚と見られ、膝頭部分には肘が置かれていると思われる。屈折した脚部分のサイズから、全形は 30cm 程度の大形と見られ、後期中葉と考えられる。

1071 は土偶の可能性のある資料である。円筒形の中空土偶の胴部と思われるが、詳細は不明である。胴

部には隆帯貼付があり、胴上半には縄文が施文される。福島県三貫地貝塚に類例があるが、不明土製品とした上で「一応土製品としたが香炉型土器、もしくは特殊な土器の一部かもしれない」と報告している(1988 福島県立博物館)。所属時期は不明である。

#### (b) 土製垂飾 (1072)

計1点出土。NR03 沢跡 (3E24) の河底上に堆積した砂層から見つかった。方形で、四隅には円珠状の突起があり、沈線で仕切られている。このうち、対向する2箇所は穿孔が施され、紐通しを作出している。晩期後半(大洞C2式期)と考えられる。

#### (c) 土製耳飾 (1073～1075)

計3点出土している。1073は円盤状の中央に穿孔のある滑車形で、縁を全周する刺突文と中央の穿孔から等間隔に両面5方向に刺突文が施される。背面の1箇所にはやや深い楕円形の凹みが作られている。後期初頭に比定される。1073は無文で環状になる器形で、晩期。1074は耳栓で、凹みのある縁には全周する刻みが施される。晩期と思われる。

#### (d) 土版 (1076・1077)

計2点出土。いずれも破片資料で、板状を呈する。渦巻状の沈線が施される。晩期後半(大洞C2式期)と考えられる。

#### (e) 球状土製品 (1078)

計1点出土。無文の球体で、成形痕のみ認められる。NR04 沢跡 (4C6)・IV層から出土し、後期中葉と考えられる。

#### (f) 土錘 (1079)

計1点出土。楕円形を呈し、長軸に貫通孔を持つ。同方向の器面には、一周する沈線で溝が付けられている。有溝土錘。NR03 沢跡 (3C11)・IV層下部から出土し、後期中葉と考えられる。

#### (g) 土器片利用円盤状土製品 (1080～1128)

計49点出土している。素材となった土器片から、1080～1097が中期末葉～後期初頭、1098・1099が後期初頭、1100～1105が後期中葉、1106～1114が後期と思われるもの、1115～1123が晩期後半、1124～1128が晩期と思われる資料である。形状は、多角形・楕円形・円形・隅丸方形と様々で、測縁は全周または一部を摩滅させ平滑にしたものと、単に打ち欠いて成形したものがある。

#### (h) 焼成粘土塊 (1129～1137)

計9点出土している。意図的な成形痕跡が認められなく、不整形の資料を一括した。握ったり捏ねた痕跡や、工具のような痕跡が見受けられるものがある。

#### (i) 不明土製品 (1138～1140)

計3点出土。焼成粘土塊と同様であるが、細長い不整形の資料で、余剰粘土を紐状・棒状に捏ねたものと思われる。出土層位から、1138が中期末葉～後期初頭、1139・1140が後期中葉と考えられる。

### (3) 石器 (第119～134図、写真図版86～95)

今回の調査で出土した石器総数は、4,985点である。このうち、剥片・チップが4,688点、製品が297点である。器種は、尖頭器・石鏃・石錐・石匙・籠状石器・スクレイパー類・二次加工ある剥片・微細剥離痕ある剥片・楔形石器・接合資料・石核・剥片・チップ・石斧類・礫器類・敲磨器類・砥石・台石類である。

(a) 尖頭器

1点出土し、図示した(1141)。1141は、1D19・砂礫1層から出土しており、時期不明だが伴出土器から晩期中葉の可能性がある。基部に抉りを有し、長さは14cmを超える。端部は平行する擦痕があり、ドリル使用した痕跡がある。石匙の可能性もあるが、本器種と捉えた。

(b) 石鏃

26点出土し、13点を図示した(13・1142～53)。基部形態からⅠ類・有茎5点、Ⅱ類・無茎20点、不明1点に分けられる。Ⅱ類はさらに、A類・凹基形13点、B類・平基形7点に2細分できる。出土地点・層位から、Ⅰ類・有茎は晩期後半のみ確認され、ⅡA類は中期後葉～後期初頭中心、ⅡB類は後期初頭～中葉に多い傾向がある。素材は、1148の瑪瑙以外はほぼ頁岩製である。また、不掲載だが2B20・Ⅱb2層チップ集中箇所から、未製品が1点出土している。基部は未加工で、礫面が残る。

(c) 石錐

13点出土し、6点を図示した(1154～59)。二次加工の頻度によって、Ⅰ類・丁寧な二次加工が摘まみ部までの広範囲に見られるものが2点、Ⅱ類・尖基形の直線的な形態を持つものが7点、Ⅲ類・粗雑な二次加工が錐部のみに集中して見られるものが4点である。素材は、頁岩・赤色頁岩・珪質頁岩が用いられている。類別による時期的な傾向はなく、いずれの形態も後期初頭～晩期後半まで確認される。

(d) 石匙

15点出土し、9点を図示した(1160～68)。摘まみ部の軸を垂直に位置させた場合、形状が縦長の形になるものをⅠ類、斜めに長くなるものをⅡ類、横長になるものをⅢ類とした。Ⅰ類が8点、Ⅱ類が4点、Ⅲ類が3点である。素材は、ほぼ頁岩製に限られる。類別による時期的な傾向はなく、いずれの形態も前期中葉～晩期後半まで確認される。

(e) 篋状石器

7点出土し、2点を図示した(1169・1170)。少量のため細別しないが、いずれも撥形を呈する。素材は頁岩に限られる。出土地点・層位から、後期初頭～中葉に集中する。

(f) スクレイパー類

32点出土し、8点を図示した(14・1171～77)。素材である剥片の形状から2形態に分けられる。Ⅰ類・縦長の剥片を素材とするものが21点、Ⅱ類・横長の剥片を素材とするものが11点である。石材はほぼ頁岩で、赤色頁岩(Ⅰ類)1点、珪質頁岩(Ⅱ類)1点が認められる。東区・S I O 7 堅穴住居跡から出土した2点(14ほか1点)は、いずれもⅡ類で、中期後葉と考えられる。その他は、類別による時期的な傾向はなく、前期中葉～晩期後半まで確認される。

(g) 二次加工ある剥片

24点出土し、3点を図示した(1178～80)。素材である剥片の形状から2形態に分けられる。Ⅰ類・縦長の剥片を素材とするものが13点、Ⅱ類・横長の剥片を素材とするものが11点である。石材はほぼ頁岩で、赤色頁岩(Ⅰ類)1点、珪質頁岩(Ⅱ類)1点が認められる。類別による時期的な傾向はなく、中期後葉～晩期後半まで確認される。

(h) 微細剥離痕ある剥片

15点出土し、2点を図示した(1181・1182)。素材である剥片の形状から2形態に分けられる。Ⅰ類・縦長の剥片を素材とするものが12点、Ⅱ類・横長の剥片を素材とするものが3点である。石材は珪質

頁岩（Ⅱ類）1点を除き、他は頁岩である。類別による時期的な傾向はなく、後期初頭～晩期後半に確認される。

#### （i）楔形石器

3点出土し、2点を図示した（1183・1184）。いずれも2個一対の剥離痕を持つもので、両端に刃部が作出されている。石材はすべて頁岩製で、晩期後半に所属するものである。

#### （j）接合資料

48点11資料出土し、35点7資料は図示（接合資料1～7）、その他（接合資料8～11）は写真掲載とした。

接合資料1は、1185～1199の15点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $\langle 1191 \rightarrow 1198 \rangle \cdot \langle 1197 \rightarrow 1196 \rangle \rightarrow (1188 + 1190) \rightarrow (1192 \rightarrow 1195 \rightarrow 1194 \rightarrow 1193 \rightarrow 1199) \rightarrow 1189 \rightarrow (1187 \rightarrow 1186 \rightarrow 1185)$ で、打面である礫面から $\langle 1191 \rightarrow 1198 \rangle \cdot \langle 1197 \rightarrow 1196 \rangle$ の打撃を加えた後、(1188 + 1190)を剥離し、(1192 → 1195 → 1194 → 1193 → 1199)の大形剥片を連続的に剥離。残核から1189を剥離した後に、(1187 → 1186 → 1185)の大形剥片剥離を行っている。それぞれの剥片はさらに小割りされる。

接合資料2は、1200～1202の3点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1200 → 1202 → 1201で、同一方向からの剥離である。打面は平坦な摺理面を利用しており、同一面から連続的に剥離している。

接合資料3は、1203・1204の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1203 → 1204で、1203を剥離後に180度打面転位して1204を剥離している。

接合資料4は、1205～1209の5点の剥片と、1232の石核1点からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、 $\langle 1205 \rightarrow 1208 \rightarrow 1206 \rightarrow 1207 \rangle \cdot \langle 1209 \rangle \rightarrow 1232$ で、 $\langle \rangle$ 同士の前後関係は不明である。

接合資料5は、1210～1214の5点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1212 → 1214 → 1210 → 1213 → 1211で、石核は伴わない。1212・1210・1211は、いずれも礫面を打面としており、同一方向から剥離している。1214・1213は、それぞれの作業面高が減じた間にあり、連続的に剥離されている。

接合資料6は、1215・1216の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1215 → 1216で、石核を伴わない。いずれも礫面を打面としているが、1215を剥離後に、90度打面転位を行い、1216を剥離している。

接合資料7は、1217・1218の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1217 → 1218で、石核を伴わない。いずれも礫面を打面としており、同一方向から連続的に剥離している。

接合資料8は、1219～1222の4点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1219 → (1220+1221+1222)で、石核を伴わない。1219は石核から剥離前の剥離、1220～1222は折れと考えられる。

接合資料9は、1223～1226の4点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1223 → (1224+1225+1226)で、石核を伴わない。1223は礫面を打面とし、横長の剥片を剥離、その後に180度打面転位し1224～1226を剥離したと考えられる。

接合資料10は、1227～1229の3点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1227 → 1228 → 1229で、石核を伴わない。1227は礫面を打面とし剥離、その後1228の横長剥片を剥離、最後に1229の縦長剥片を剥離している。

接合資料11は、1230・1231の2点の剥片からなる製品を含まない資料である。剥離工程は、1230 → 1231で、石核を伴わない。1230は上部剥片と同一だが、折れている。1230を剥離後、90度左に打面転位し、1231を剥離している。



### (k) 石核

38点出土しており、6点を図示した(1232～1237)。1232は、接合資料4で説明したので除く。出土した石核の大半は礫面を残す粗割り段階の資料(I類)で、礫面を残さない剥離作業段階の資料(II類)は3点のみである。

石核の剥片剥離作業について、新潟県清水上遺跡(新潟県教委1990)、新潟県アチャ平遺跡上段(新潟県・朝日村教委2002)を参考に分類を試みた。

剥離作業の手順から7分類した。A類は、同一打面から同一作業面に同方向の剥離を行うもので、3点出土。B類は、同一作業面に別々の打面から剥離するもので、6点出土。このうち、全周するのが3点、180度転位するのが1点。C類は、同一打面から別々の作業面に同方向の剥離を行うもので、4点出土。D類は、稜線上の交互剥離が全周しないもので、7点出土。E類は、稜線上の交互剥離がほぼ全周するもので、4点出土。F類は、別々の打面・作業面に約90度ずれる剥離が5点、古い作業面を打面とする剥離が3点、別々の打面・作業面に約180度ずれる剥離が2点の計10点出土。G類は、両極打法による剥離で、3点出土。

### (l) 剥片・チップ

剥片(概ね1cm以上)が973点(30989.7g)、チップ(概ね1cm以下)が3,715点(116.3g)出土した。剥片のうち、接合資料として47点を図示した(1185～1231)。剥片の大半は、在地頁岩と捉えられ、その他の石材は極端に少ない。東区・S I O 7 堅穴住居跡床面から、黒曜石製の剥片1点が出土しており、特筆される。産地は肉眼観察から北上川流域(花泉周辺か)と考えられるが、産地同定は未実施である。チップ(1238～1244)としているものは、2B20 II b2層のチップ集積から出土したもので、晩期後半(大洞C2式)に比定される。1241は珪質頁岩、それ以外は頁岩と見られる。第36図に層位ごとの剥片出土分布図を示した。II b層ではNR03 沢跡右岸の3B2・7に濃密な集中域が確認され、剥片剥離作業もしくは集中した廃棄行為が想定される。それ以外の分布はやや散逸的であるが、III層ではNR03 古沢跡、IV層ではNR05・07 沢跡岸辺が利用されたことが認められる。

### (m) 石斧類

器面全体または一部を研磨・敲打、剥離などで成形した刃部を有する斧形の石器を石斧類として一括した。この中には土掘り具とされるものも含んでいる。16点出土しており、7点を図示した(1245～1251)。加工から2形態に分けられ、I類磨製石斧が6点(1245～47)、II類打製石斧が10点である。II類は形状により、A類撥形が9点(1248～50)、B類分銅形が1点(1251)に細分される。大半は晩期後半の層位から出土しているが、II A類の1250は後期初頭～中葉と考えられる。

### (n) 礫器類

10点出土しており、4点を図示した(1252～55)。素材礫と加工の頻度から、2形態に分けた。I類が、円形や楕円形などの礫を素材とし、全周する剥離を行うもので6点出土(1252・1253)。II類が、扁平な礫を素材とし、一部に加工を行い、刃部を成形したもので4点出土(1254・1255)である。I類はすべて晩期後半の層位から出土しており、II類は後期初頭～中葉も混在する。素材はすべて頁岩である。

### (o) 敲磨器類

37点出土しており、10点を図示した(15・1256～1264)。使用痕跡(敲打痕・磨痕・凹痕)の組み合わせから5分類できる。I類は敲打痕だけを有するもので、10点出土。II類は磨痕だけが認められるもので、9点出土。III類は凹痕だけが認められるもので、13点出土。IV類は磨痕と敲痕が複合して

認められるもので、3点出土。V類は敲打痕と凹痕が複合して認められるもので、2点出土である。今回の調査では多量の堅果類が出土していることから、トチなどの「皮剥き石」としての機能が想定されるが(栗島 2008)、明確に指摘できる資料は不明である。ただし、堅果類出土地点の周辺から確認された敲磨器類も複数あるため、その可能性は十分考えられる。

#### (p) 砥石

1点出土している。今回、図示しなかったが、凝灰岩製の扁平礫の端部付近に擦り痕が観察される。東区黒色土中から出土しており、中期後葉に属すると思われる。

#### (q) 台石類

14点出土しており、3点を図示した(1265～1267)。いずれも正面に敲打痕や擦痕、凹痕が確認される。石材は、溶結凝灰岩や凝灰岩、斑岩、石英斑岩、砂岩、花崗閃緑岩があり、現在も新田沢沿いに散見される石材である。敲磨器類とのセット関係が指摘できる。

### (4) 石製品 (第 135 図、写真図版 95)

#### (a) 石棒類

4点出土しており、2点を図示した(1268・1269)。1268は有頭石棒で断面形が楕円形を呈する。1269は端部・基端部が欠損しており不明だが、断面形が円形を呈すると考えられる資料である。その他に、基端部が蛤形を呈する資料と、扁平礫の片側にグリップ状の剥離が施される資料がある。掲載資料はいずれも晩期または晩期後半と考えられる。

#### (b) 不明石製品

1点出土しており、図示した(1270)。楕円形の礫端部に台形状の突起を作出し、これに対向する側縁部に帯状の凹みを作出している。形状から、紐掛けが想定されるが不明である。晩期後半(大洞C2)期の資料と考えられる。

### (5) 木製品 (写真図版 95)

1点出土しており、図示した(1271)。3D12・13砂礫4層直上から出土した。端部が二又に分かれており、長さが176.5cm、先端部に焦げ痕が認められる。当初、樞状木製品を想定していたが、断面形状が円形から楕円形を呈することから異なる用途が考えられ、部材が想定された。後期初頭～中葉に所属すると見られる。樹種はサクラ属。

### (6) 昆虫 (写真図版 97)

NR02・03 沢跡・II b3・II b5 層と NR04・05 沢跡・IV 層の泥炭層中から採取した土壌サンプルをセパレーションしたところ、自然堆積した昆虫遺体 13 試料を確認した。詳細は VI -5 に記載したが、出土昆虫から比較的湿度の高い雑木林と草地環境が推定されている。

### (7) 動物遺存体 (焼骨) (写真図版 97・98)

縄文時代晩期後半に所属する NR02・03 沢跡を主体に、沢岸部分から焼骨 22.0g が出土した。いずれも細片で、種類を特定するには至らなかった。その他に、縄文時代中期後葉～後期初頭の NR05 沢跡岸辺からも種類不明の細片 0.2g が確認されている。

## (8) 植物遺存体 (堅果類・植物葉・樹木) (写真図版 98～104)

今回の調査区の大半が水漬け状態であり、腐食を免れた有機質遺物がまとまって出土した。特に現在の新田沢に近い位置にある縄文時代晩期に所属する NR02・03 沢跡からは、良好な状態の堅果類殻、植物の葉、樹木が多量に確認されている。

本項では、出土した堅果類のうち、特に出土量の多いオニグルミ、トチノキ、クリについて、各々の出土状況と出土量、分布、破損について述べる。なお、分析方法については、新潟県野地遺跡（新潟県埋文 2009）を参考とし、古代の森研究舎吉川純子氏、岩手大学非常勤講師名久井文明氏のご教示を得た。

## (a) オニグルミ

クルミには、オニグルミやヒメグルミなどの種類があるが、今回の調査で確認できたのはすべてオニグルミである。合計 4,539g 出土した。重量はいずれも湿潤重量である (g)。

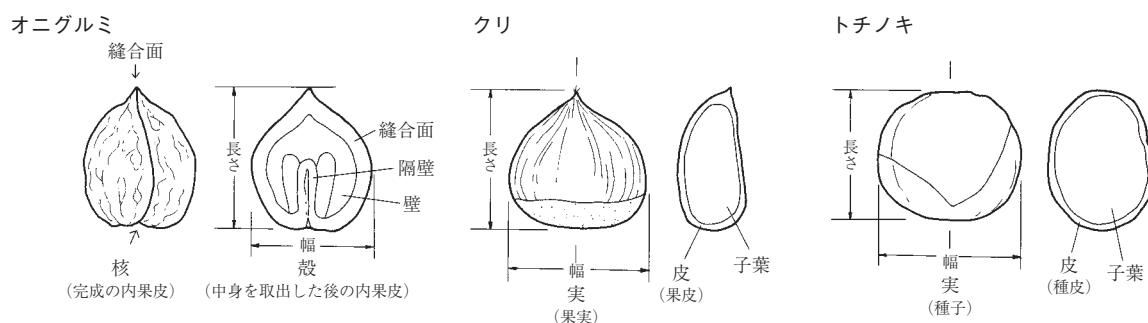
出土したオニグルミについて、残存する形状を 4 分類した。「完形」はまったく破損のない個体 65 個 651.1g、「半分」は縫合面で半裁しているが破損のない個体 214 個 860.3g、「1/4 以上残存の破損」は何らかの破損個所を持つ個体 317 個 960.7g、「分類×」はいずれにも当てはまらない個体 829.7g である。また、この他にリスやネズミなどの動物食痕が確認できる個体もある。このうち、「完形」、「半分」、また「動物食痕」の個体はいずれも新田沢沿いに落下した実が自然に堆積したものと考えられる。「半分」については、縫合面から全く欠損させずに人為的に剥がしたとも考えられるが、明確な痕跡は確認できないため、今回は除外する。

この中で、「1/4 以上残存の破損」と「分類×」が人為的な行為によって産出された殻と考えられる。「分類×」には、人為的な行為によって割られた殻の細片 (1/4 未満) が多量に含まれるが、個数を確認するまでには至らなかったため、重量のみを表掲載している (第 35 表)。

「1/4 以上残存の破損」した個体は、その破損位置から「頂部+底部」、「頂部のみ」、「底部のみ」、「それ以外」の 4 つに分類される。最も多いのは、「それ以外」欠損で 170 個 434.5g、次いで「頂部のみ」欠損で 102 個 369.5g、「底部のみ」欠損で 30 個 114.5g、「頂部+底部」欠損で 15 個 42.2g である。これから、クルミ頂部付近を目掛けて打撃を加えていると考えられる。また、大半の個体については壁や隔壁が破損しており、これからも人為的な力が加わっているとことが裏付けられる。

出土した個体の中に、炭化したクルミを 17 個確認した。層位別に見ると、II b 層 15 個、IV 層 2 個である。特に 2B15 グリッド II b2 層からは、7 個まとまって出土した。クルミは熱を受けることによって、縫合面が剥離しやすくなることがあり、子葉を取り出しやすくなる。作業の軽減のために、熱を加えた可能性がある。

クルミのサイズについて、計 196 個を計測した。平均値は、長さ 3.29cm×幅 2.61cm である。長さの最大値は 4.6cm、最小値は 2.3cm、幅の最大値は 3.3cm、最小値は 1.9cm である。これらを出土層位ごとに平均値をみると、II b 層は 3.33cm×2.63cm (59 個)、III 層は 3.40cm×2.73cm (6 個)、IV 層は 3.29cm×



第 33 図 堅果類の部位名称

※新潟県埋文 2009『野地遺跡』から転載使用

2.58cm (96 個)、各砂礫層ほかは 3.23cm×2.65cm (37 個) となる。新潟県野地遺跡では、現生オニグルミの計測を行っており、平均値で長さ 3.17cm×幅 2.43cm (502 個) という結果を得ている (新潟県埋文 2009)。これと比較すると、本遺跡出土オニグルミはいずれの時期もこの数値を上回っている。野地遺跡出土オニグルミの平均値は、本遺跡とほぼ同等であることから、両遺跡とも現生と比べて、サイズの大きな個体を獲得していたことが分かる。

最後に、層位ごとの出土状況について、第 37 図に分布図を示した。出土量が最も多い II b 層では、NR02・03 沢跡右岸の 2B15・20、3B1・6・11・16 付近がいずれも 70g を超えており、縄文晩期のこの箇所的人為的に集中廃棄されたことが分かる。特に、2B15・II b2 層からは 569.0g、3B11・II b3 層からは 609.1g とまとまって確認されている。また、縄文後期中葉の III 層では、NR03 沢跡右岸の 3C19 付近のみと小範囲、縄文中期後葉～後期初頭の IV 層では、NR05・07 沢跡右岸の 4B23・25、4C9 付近がそれぞれ集中箇所となり、各時期に人為的廃棄が行われていたことを示している。

### (b) トチノキ

トチノキは、出土堅果類の中で最も多量に認められ、湿潤重量で合計 21,475g 出土した。この他に外皮 (果皮) 付きや外皮のみが 1,922 g 出土しているが、これらは自然堆積物とみなして分類しなかった。

トチノキの残存する形状を、「完形」、「カケ (一部欠損)」、「1/2 以上残存」、「1/2 未満残存」に分類した。完形・カケ・1/2 以上については、それ自体で 1 個体とカウントされるため、個体数も計測した。また、これ以外に出土トチノキについて、発芽孔の計測も行った。発芽孔は、1 個体につき 1 箇所ついているため、細片でも個体数を把握するのに有効であることを名久井氏からご教示頂いた (名久井 2006)。

1/2 未満としたものは、大半が 1×1cm 未満の細片である。これは、子葉を取り出す際に粉々に破碎するなど形状を大きく変化させているためと見られる。ただし、トチノキの種皮は非常に脆弱であるため、出土してから整理に至る段階でも壊れて小さくなっている可能性がある。このため、破損個体のサイズ比較は行わず、自然堆積物であるが完形個体が出土した場合の個体に限り比較対象として計測を行った。

形状別に見ると、「完形」は 64 個 587.5g、「カケ (一部欠損)」は 196 個 712.0g、「1/2 以上残存」は 374 個 836.9g、「1/2 未満残存」は 19,963.9g に分けられる。このうち、「完形」及び「カケ (一部欠損)」は沢に落下した実が自然堆積したものと考えられる。残りの「1/2 以上残存」「1/2 未満残存」は、大半は人為的な破碎によるものの可能性が高い。残存個体の形状の違いは、大きく割って大きな状態の中身を取り出すものと、細かく割って砕かれた中身を取り出すものの作業工程の違いによるものと見られる。これは、作業後の利用の仕方の違いによるものと考えられる。本遺跡では、後者の作業方法が主体的に用いられていたことを示している。

トチノキのサイズについて、計 143 個を計測した。平均値は、長さ 2.43cm×幅 2.95cm である。長さの最大値は 3.3cm、最小値は 1.2cm、幅の最大値は 4.2cm、最小値は 1.3cm である。出土層位ごとに平均値を見ると、II b 層は 2.57cm×3.10cm (20 個)、III 層は 2.58cm×3.15cm (6 個)、IV 層は 2.38cm×3.00cm (49 個)、各砂礫層ほかは 2.42cm×2.85cm (68 個) となり、クルミと同様に縄文晩期後半の II b 層や縄文後期中葉の III 層の時期には個体サイズが大きくなる傾向にある。前述の通り、出土したトチノキの大半は 1/2 未満の細片で、サイズ計測できたものは各層に含まれる自然堆積物であるが、同一層位から出土した個体もほぼ同等サイズであったと考えられる。サイズの違いから、縄文後期初頭と後期中葉の間には、気候変化が有り堅果類の生育に差が生じたのかもしれない。

最後に、層位ごとの出土状況について、第 38 図に分布図を示した。出土量が最も多い II b 層では、NR02・03 沢跡右岸の 2B15・20、3B1・2・6・11・16 付近がいずれも 100g を超えており、クルミと同様に縄文晩期のこの箇所的人為的に集中廃棄されたことが分かる。特に、2B20・II b3 層からは 5,369.8g、



3B11・II b5層からは5,048.8g出土しており、細片主体で構成されている。また、縄文後期中葉のIII層では、NR03 沢跡右岸の3C19付近のみと小範囲、縄文中期後葉～後期初頭のIV層では、NR05・07 沢跡右岸の4B14・24、5C1付近が集中箇所となり、各時期に人為的廃棄が行われていたことを示している。

### (c) クリ

クリは、堅果類の中では最も少なく、湿潤重量で合計1,783.5g出土した。今回出土したクリの大半は剥かれた果皮であるが、一部、完形や炭化した子葉、総苞破片（棘）も確認している。

クリの残存する形状を、「完形」、「カケ（一部欠損）」、「1/2以上残存」、「1/2未満残存」に分類した。完形・カケ・1/2以上については、それ自体で1個体とカウントされるため、個体数も計測した。

1/2未満としたものは、大半が1×1cm未満の細片である。これは、子葉を取り出す際に果皮を細かく剥くなど形状を大きく変化させているためと見られる。吉川純子氏の観察によれば、作業方法の違いにより縦半分剥痕跡、片面のみ残剥痕跡、完形果皮剥痕跡があるものに分けられる。詳細はVI-3種実同定を参照されたい。

形状別に見ると、「完形」は4個7.7g、「カケ（一部欠損）」は60個129.4g、「1/2以上残存」は173個257.7g、「1/2未満残存」は1,388.7gに分けられる。このうち、「完形」及び「カケ（一部欠損）」は沢に落下した果実が自然堆積したものと考えられる。残りの「1/2以上残存」「1/2未満残存」は、集中廃棄されている出土状況からも大半は人為的な剥離作業によるものの可能性が高い。

クリのサイズについて、計14個を計測した。平均値は、長さ241cm×幅254cmである。長さの最大値は35cm、最小値は16cm、幅の最大値は3.9cm、最小値は1.6cmである。出土層位ごとに平均値を見ると、II b層は2.70cm×2.70cm（3個）、III層は2.60cm×2.80cm（2個）、IV層は2.38cm×2.62cm（6個）、各砂礫層ほかは2.03cm×2.03cm（3個）となり、クルミ・トチノキと同様に縄文晩期後半のII b層や縄文後期中葉のIII層の時期には個体サイズが大きくなる傾向にある。

最後に、層位ごとの出土状況について、第39図に分布図を示した。出土量が最も多いのは、縄文中期後葉～後期初頭のIV層で特にNR04 沢跡の3C24が1,356.3g、4C24が118.8gに集中廃棄されている。また、縄文後期中葉のNR03 右岸の3C19から177.5g出土している。II b層からも出土しているが、他層位と比べると極端に低い。III～IV層期に旧新田沢沿いに多く生育していたためか、多く獲得・廃棄が行われている。

### (d) 植物葉

今回の調査では、種実以外の有機質遺物も確認されている。植物の葉は、落葉で低湿地に自然堆積したものが腐食を免れて確認されたものである。16地点から資料を採取し、古代の森研究舎吉川純子氏に同定を依頼した。

4地点から採取した資料の種類を特定して頂いた。1413は縄文晩期大洞C2式期の2A25・II b5層から出土したケヤキ、1415は縄文晩期後半の2F20・砂礫2層から出土したブナ・コナラ・クリ・ケヤキ・イタヤカエデ・カバノキ属・サクラ属・ケヤマハンノキ・ヤマフジ・アサダ？・ハウチワカエデまたはオオモミジ・ケンボナシ属、1422は縄文後期初頭～中葉の3C24・IV層から出土したフジ属の果皮、1423は3D17・砂礫4層から出土したケヤキである。出土した葉は、非常に脆弱であり、また腐食により全形を留めているものは少なく、資料の大半は種類を特定することが困難であった。

### (e) 樹木

旧新田沢の周辺環境を推定する目的から、流路の河底に堆積した自然木をサンプル採取した。48点を採取し、樹種同定を古代の森研究舎吉川純子氏を依頼した。詳細はVI-4樹種同定を参照されたい。

縄文時代中期後葉～後期初頭の NR05 沢跡からはクリ属、縄文時代後期初頭～中葉に推定される NR04 沢跡からはケンボナシ属・ケンボナシ属（根材）・コナラ節・ヤナギ属・オニグルミ・クマシデ節・ナシ亜科・ニレ属・カエデ属・ミズキ、縄文時代晩期後半の NR02・03 沢跡からはトネリコ属（根材）・トネリコ属・クマシデ節・コナラ節・ナシ亜科・トチノキ・カエデ属・カツラ・ニレ属、主に平安時代と考えられる NR01 沢跡からはトネリコ属・ヤナギ属・アサダ・カエデ属・カツラが認められた。これらは、各流路で出土した種実や葉の種類とも合致しており、旧新田沢の各時期に沢付近に自生していたと考えられる。

各流路は、土壌の堆積状況と有機質遺物の出土状況から、水流の停滞時期があったことが想定され、その時期の河底からは有機質遺物が集中して出土している。落葉広葉樹林が沢近くまで生育し、トネリコ属（ヤチダモ）などが生育する湿地環境が存在したことが分かる。

## 2 平安時代及び平安時代以降

### (1) 須恵器・土師器（第 136・137 図、写真図版 96）

平安時代の遺物は中コンテナで 1 箱分出土しており、このうち器形が推定できる 22 点を掲載した。

土師器は坏・高台付坏・甕の 3 器種を確認した。内面黒色処理されたものと、非黒色処理の坏が認められる。

坏類の底径の大きさは推定復元も含めて 4.2～7.2cm であり、6.0cm 前後が多い。その中で底径 7.2cm の 1286 は内面にかすかにミガキの痕跡が確認できることから黒色処理が施されているとしたが、2 次被熱で黒色処理が見えなくなったと推定した。また器形も椀形のものが多く、体部の丸みが下半に寄る傾向にある。これ以外に直線的に開く器形で逆台形状になるものがある(1284・1286)。体部下半(底部)付近にケズリが確認できるのは 1282・1283・1284 である。土師器甕は、内面黒色処理が施された小形甕が出土した(1296)。また、1299 も口縁がほぼ垂直もしくは弱めに外反する。

非黒色処理の土師器は、4 点を掲載した。非黒色の土師器坏は 2 点である。1292 は先端が細くなる。土師器甕は内黒 1 点非内黒を 1 点掲載した。

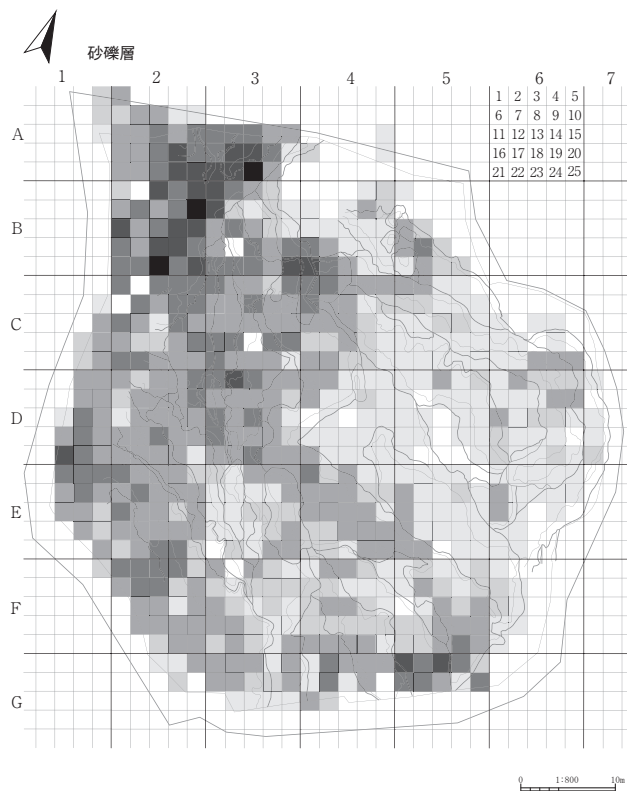
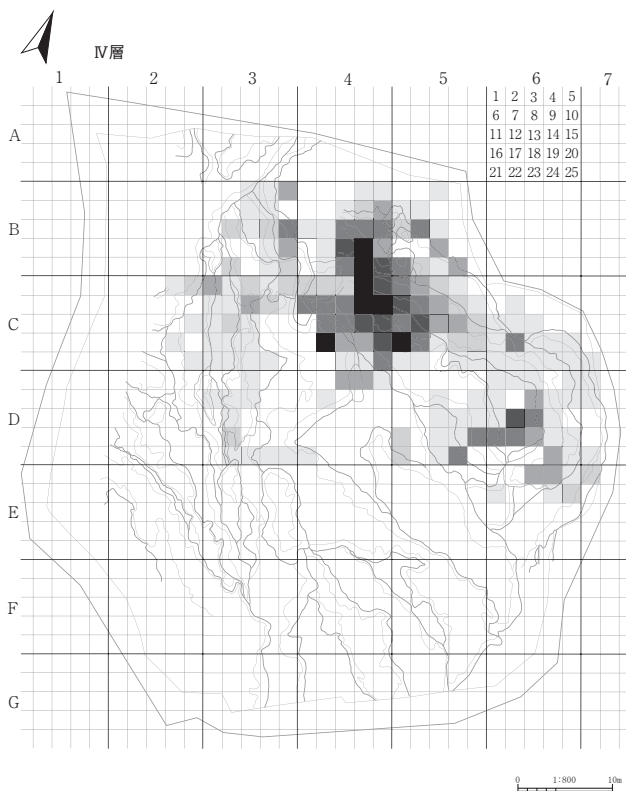
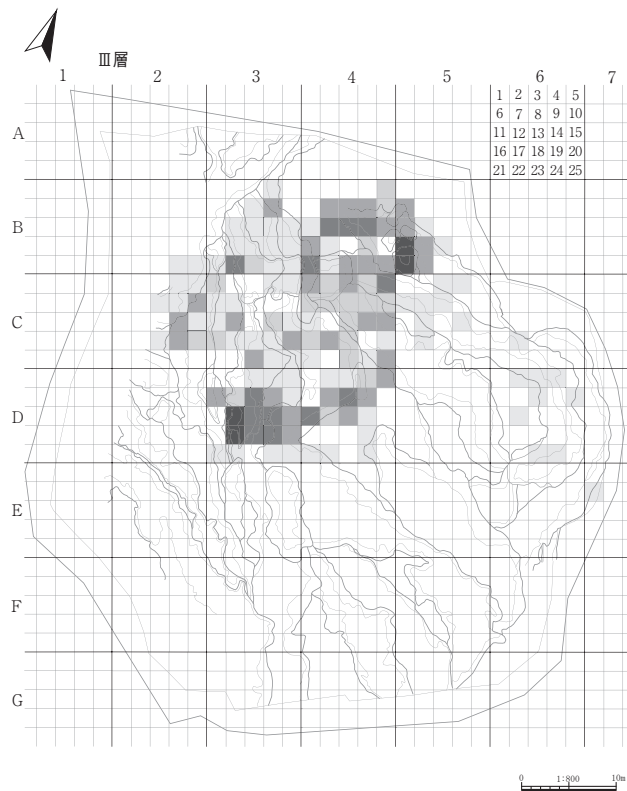
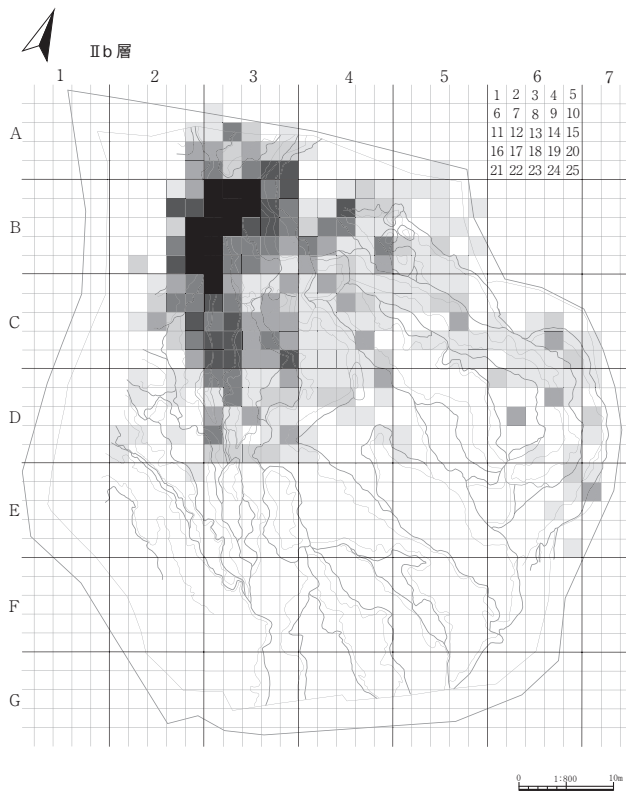
出土した須恵器は、すべて大甕の破片であり、6 点を掲載した。断面を観察すると、焼け膨らみを確認できるものが多い。成形時に粘土の空気抜きを十分行っていなかった可能性と、成形時に不足した粘土を付加した際にタタキが不足していた可能性がある。

1290 は様相を異にする。器厚があり、口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がること、口端部が丸くなるという部分で本遺跡出土の他土師器とは異なり、近世以降の可能性もある。類例として奥州市水沢区（旧水沢市）に位置する白井坂 I・II 遺跡から出土したかわらけがあげられ、口径が大きく、立ち上がりもやや直線的であることが共通する。

今回出土した土師器坏の椀形を呈する器形を含む器種組成から、9 世紀後半～10 世紀初頭と考えられる。(巴)

### (2) その他の遺物

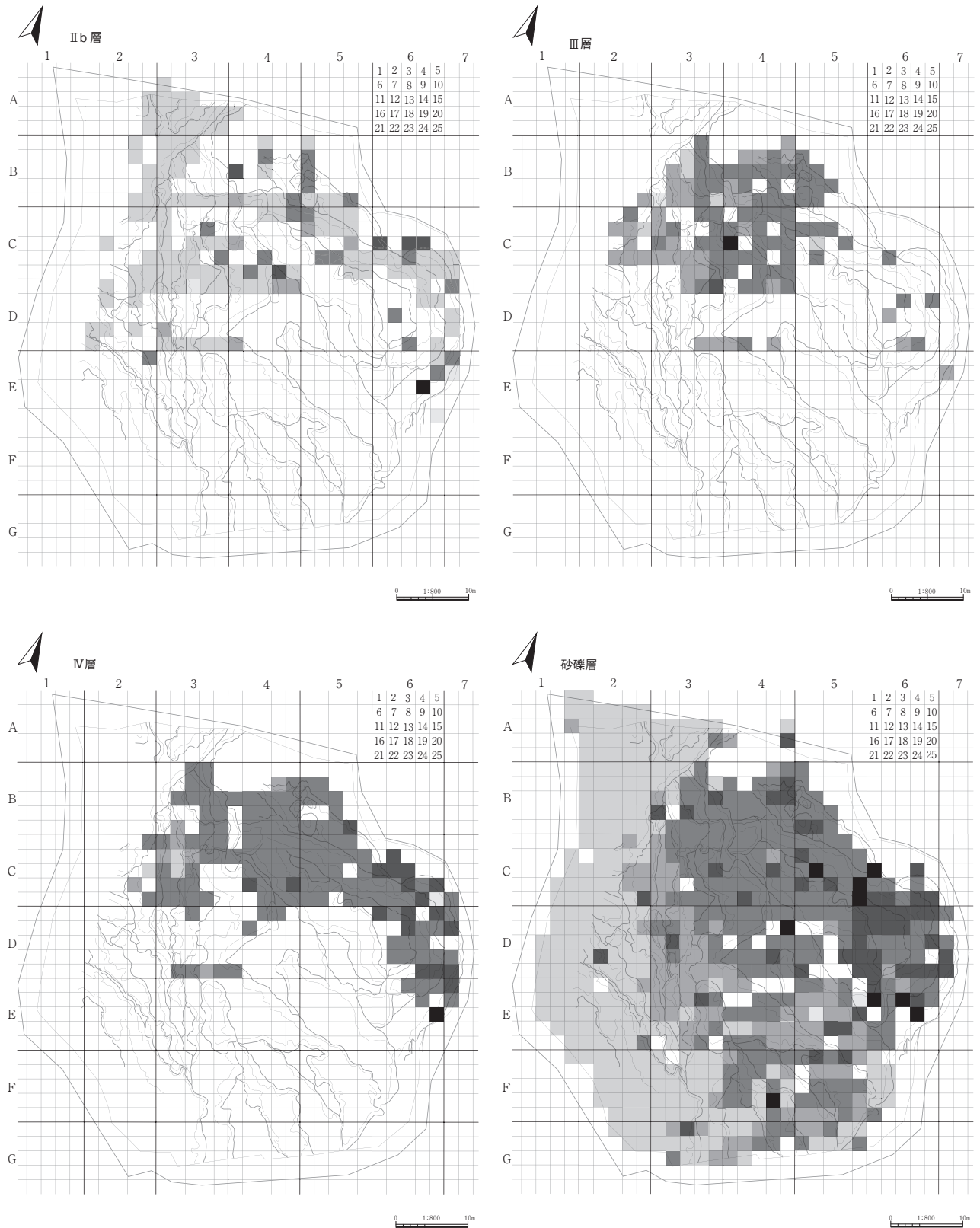
上述した各時期の遺物のほかに、陶磁器ビニール 1 袋と蹄鉄 2 点や釘 4 点などの鉄製品が出土した。表土を中心に出土しており、近現代に属すると考えられる。



土器出土量凡例



第34図 西区・土器出土量分布図

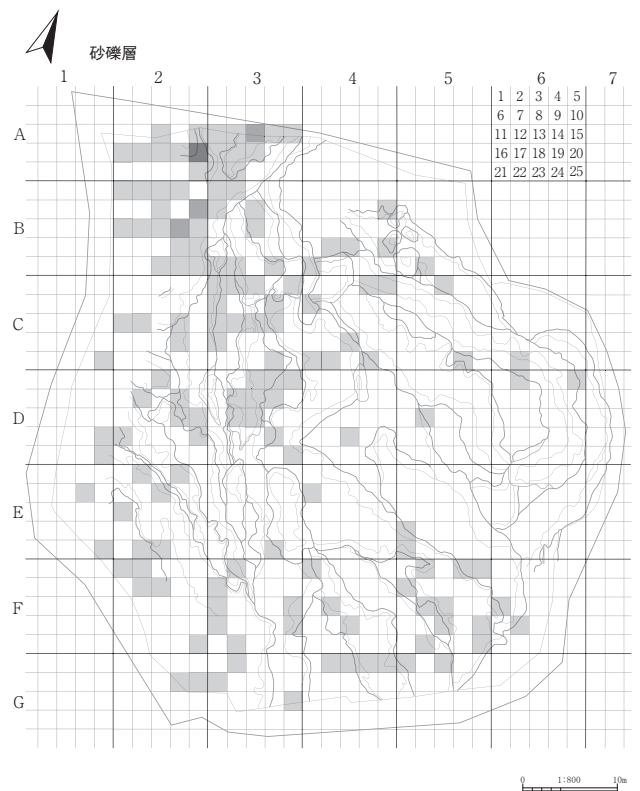
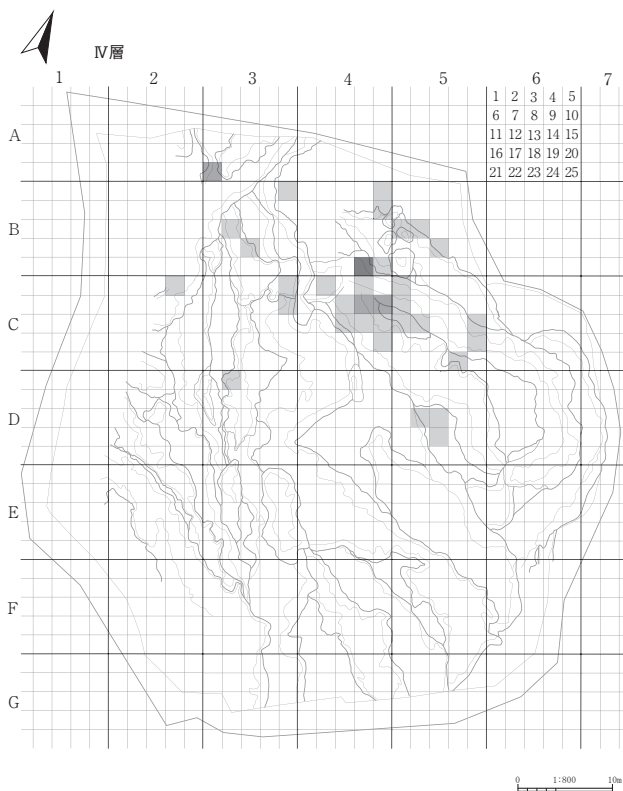
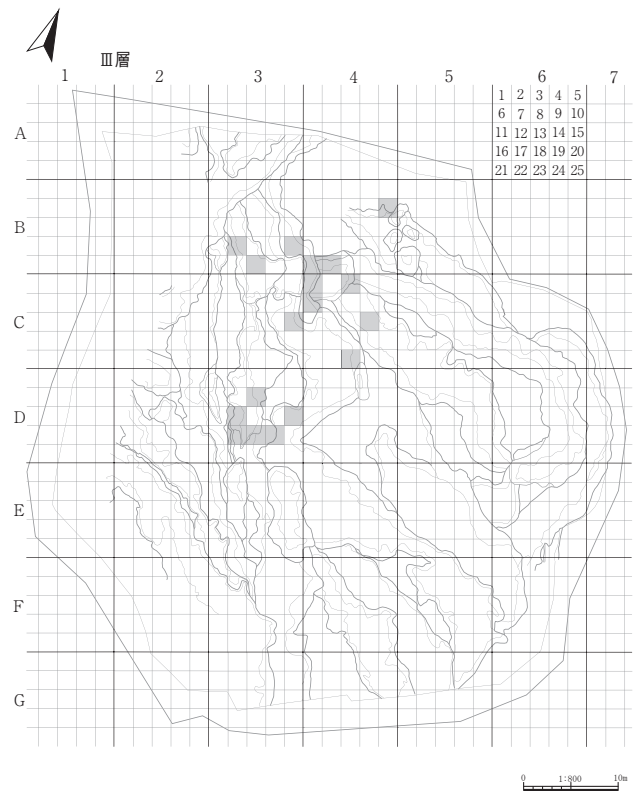
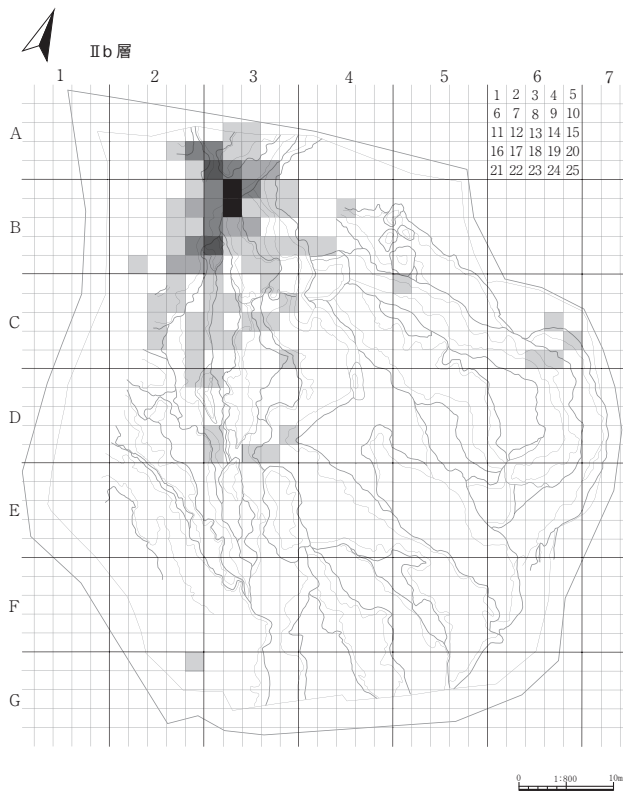


出土土器時期凡例

- 晩期前半・後半
- 後期中～後葉
- 後期初頭
- 中期後～末葉
- 早期末～前期

第 35 図 西区・土器時期別分布図

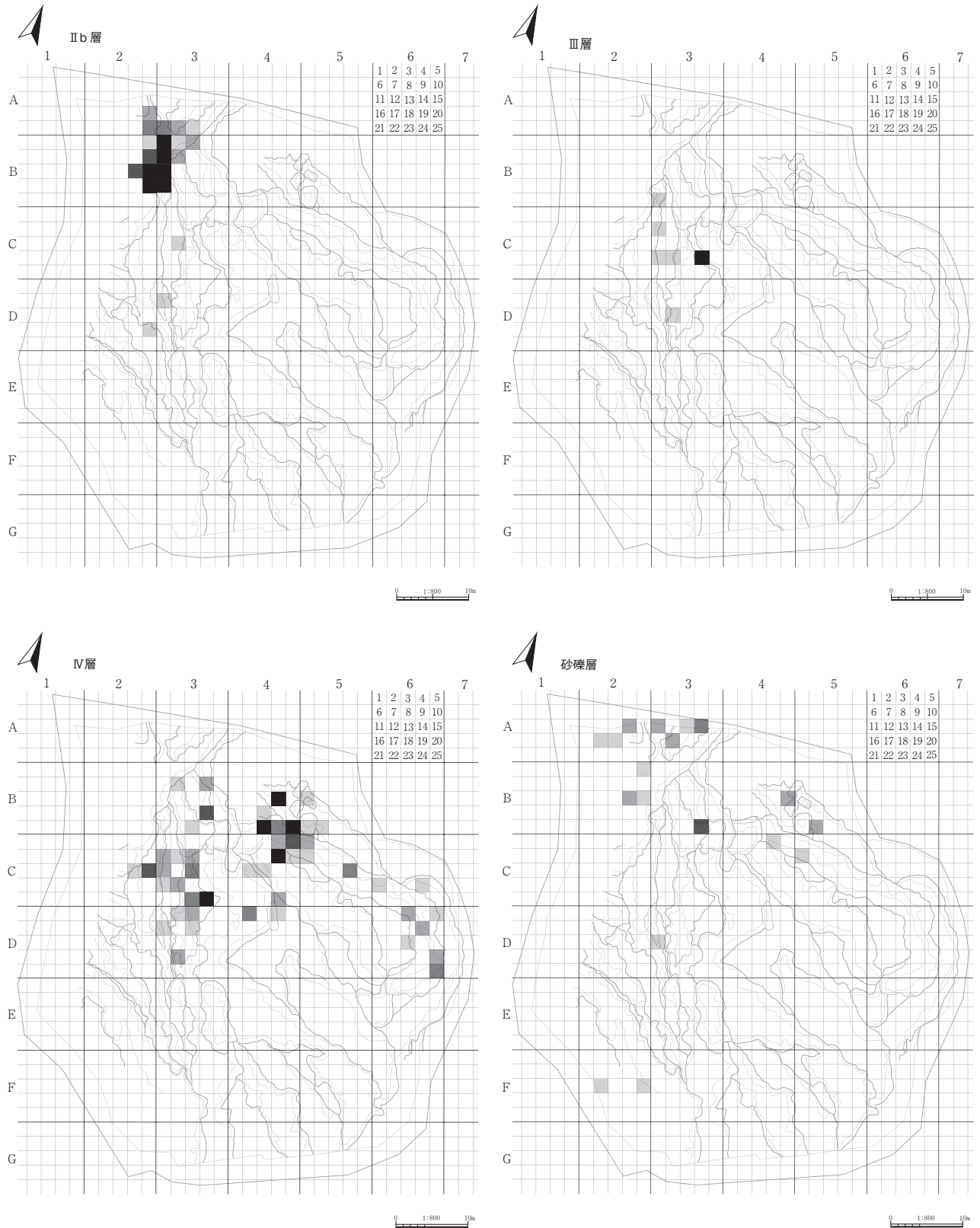




剥片出土点数凡例

- 1 ~ 5 点
- 6 ~ 10 点
- 11 ~ 20 点
- 21 ~ 30 点
- 31 点以上

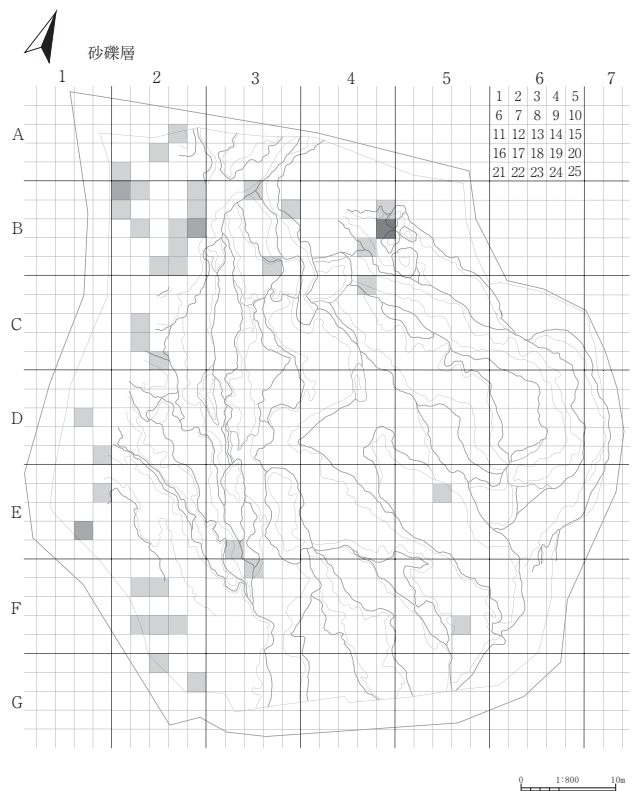
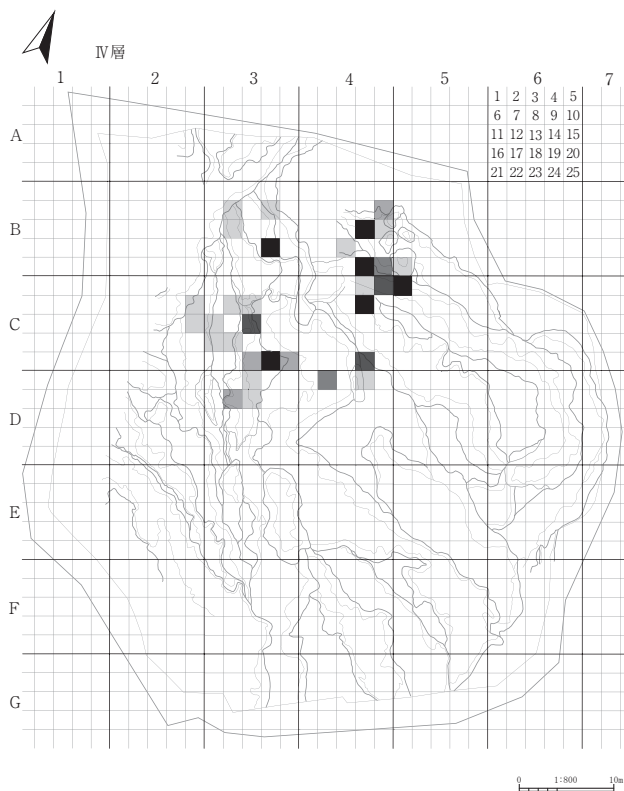
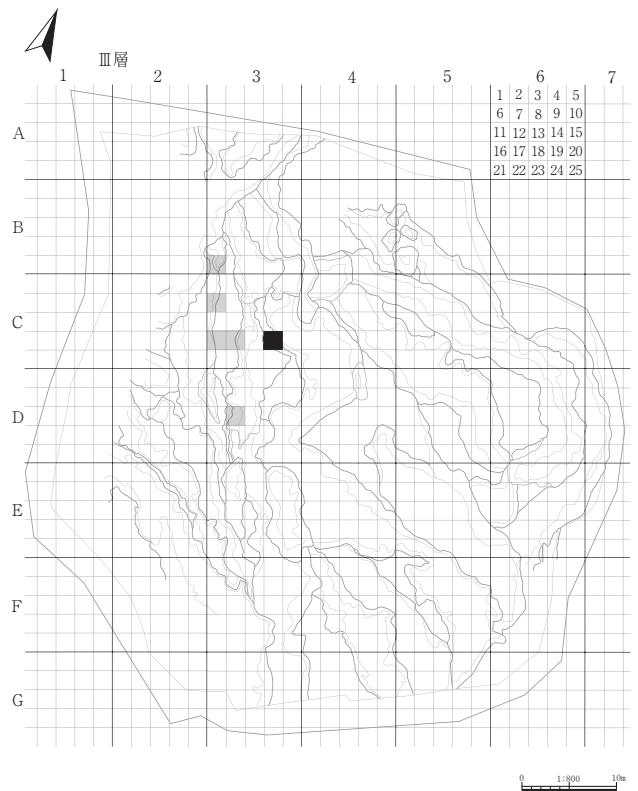
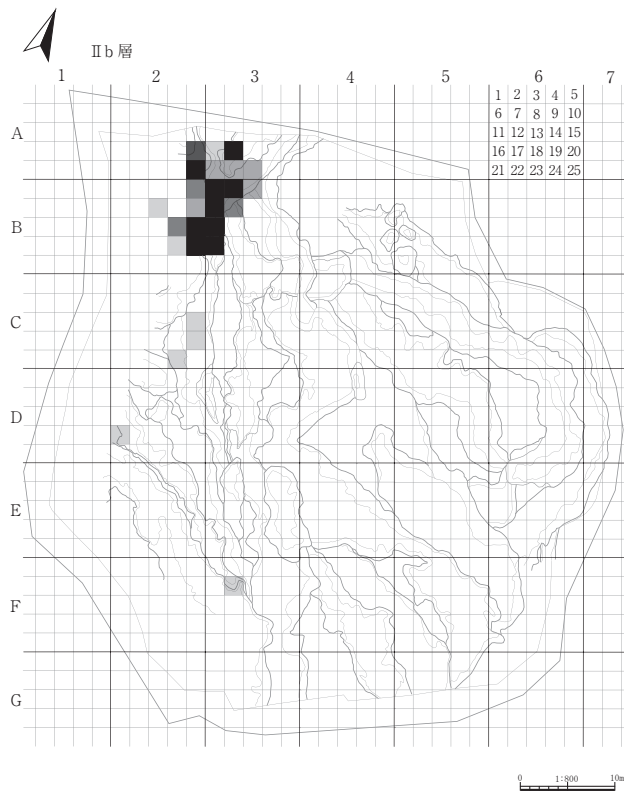
第 36 图 西区・剥片出土分布图



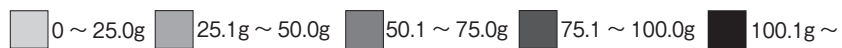
オニグルミ出土量凡例



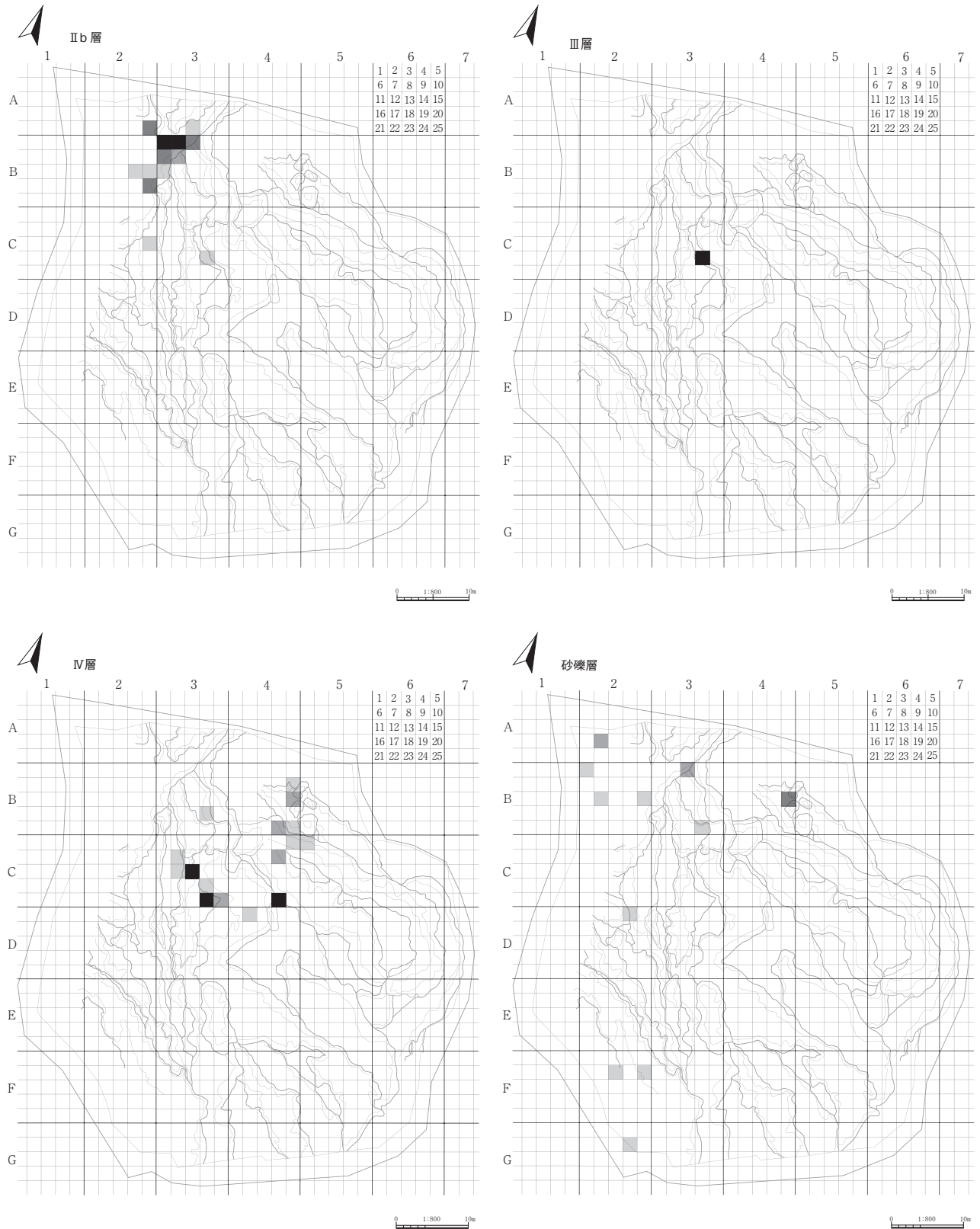
第37図 西区・堅果類出土分布図(1) オニグルミ



トチノキ出土量凡例



第38図 西区・堅果類出土分布図(2) トチノキ



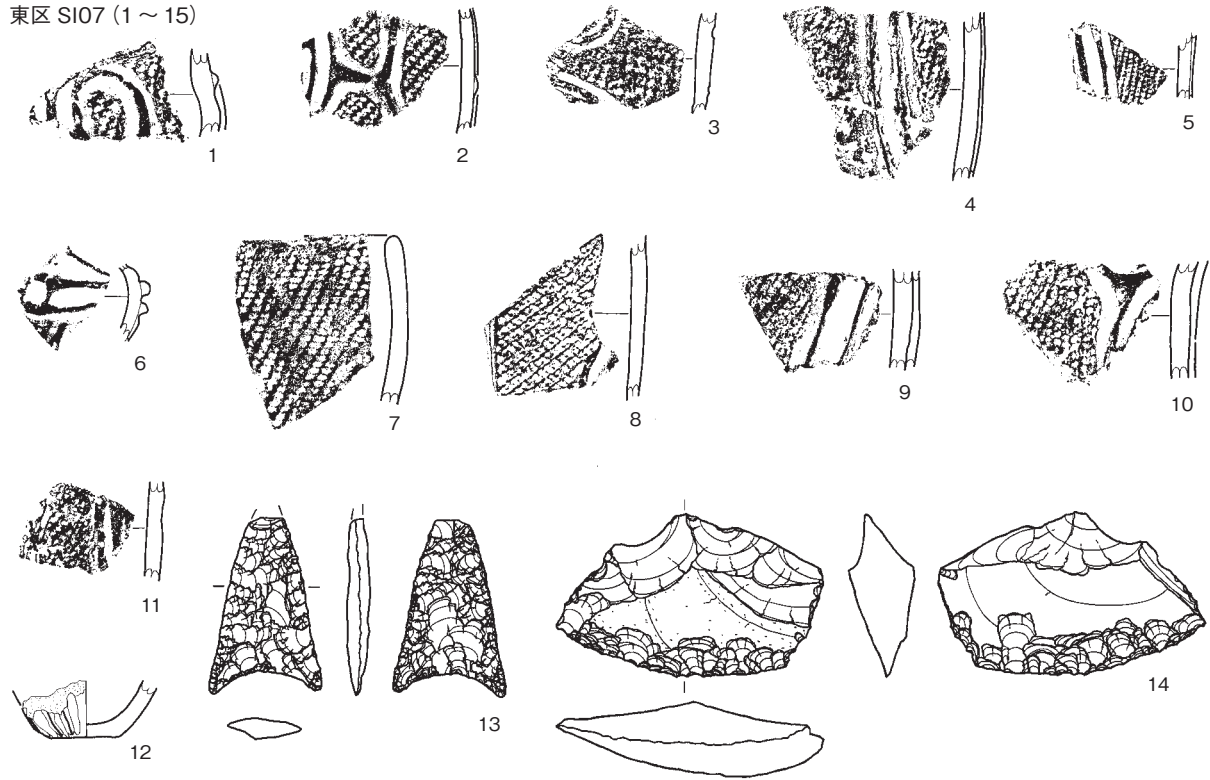
クリ出土量凡例



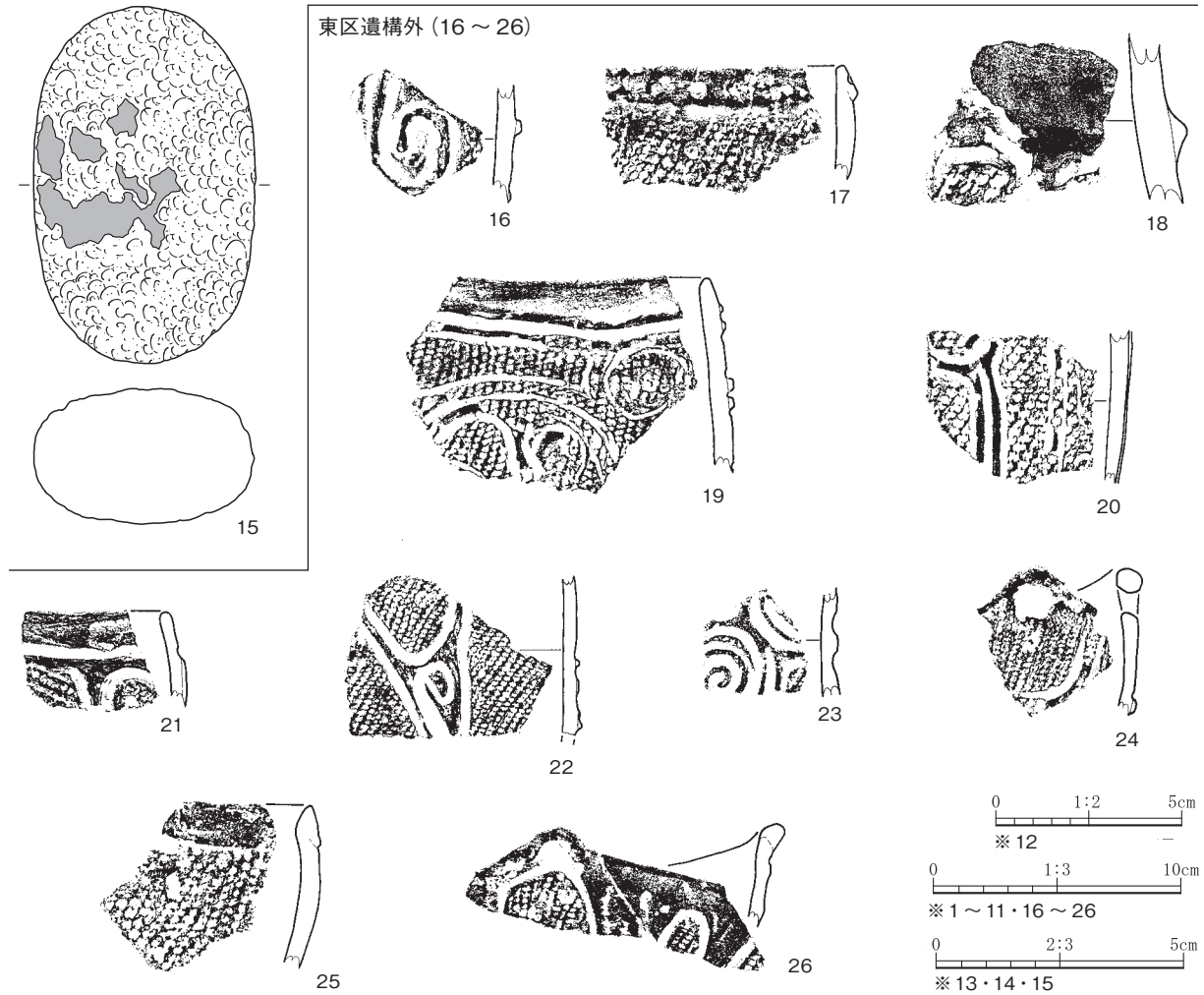
第39図 西区・堅果類出土分布図(3) クリ



東区 SI07 (1 ~ 15)



東区遺構外 (16 ~ 26)

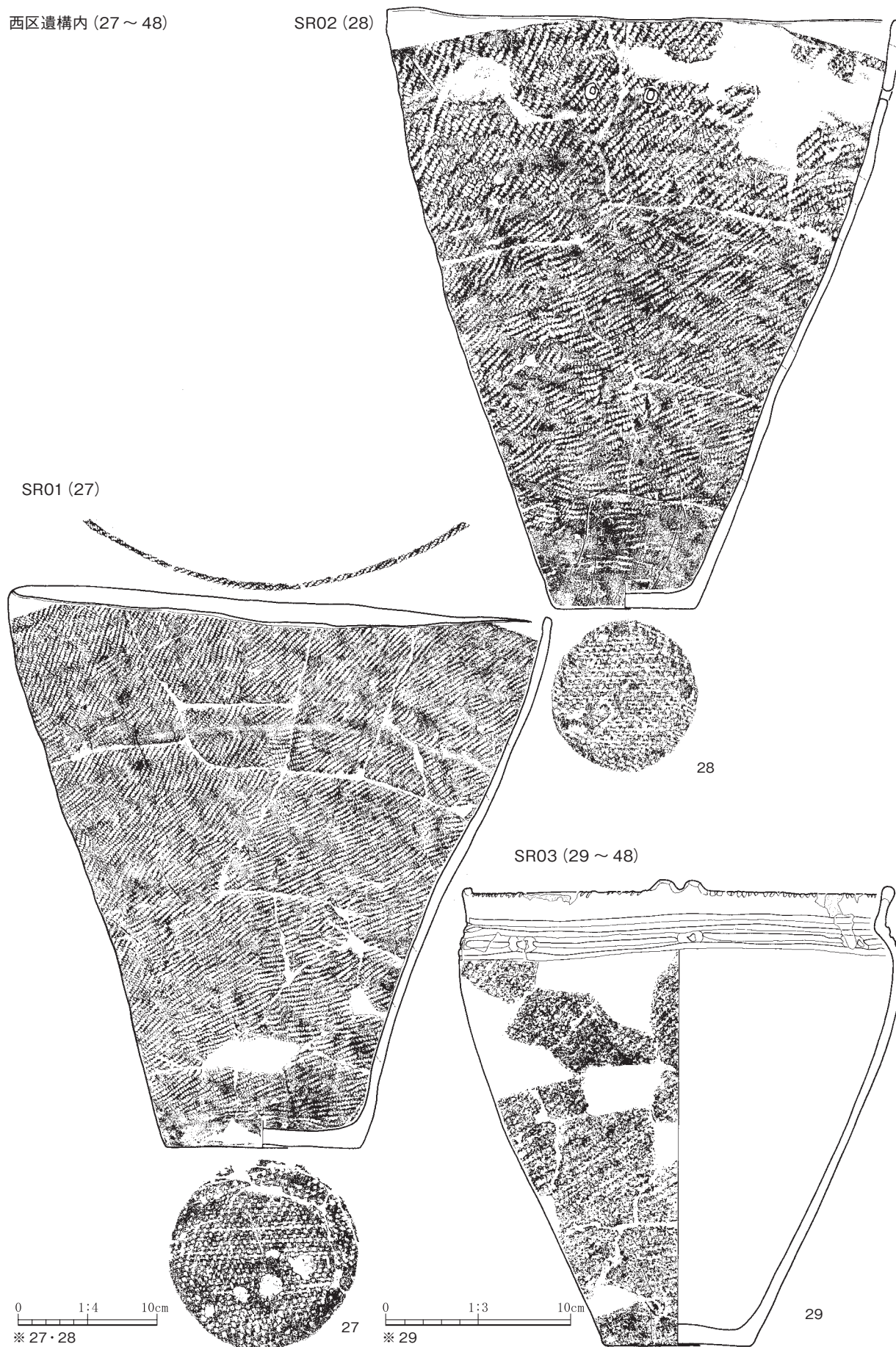


第 40 図 東区・SI07・遺構外

西区遺構内 (27 ~ 48)

SR02 (28)

SR01 (27)

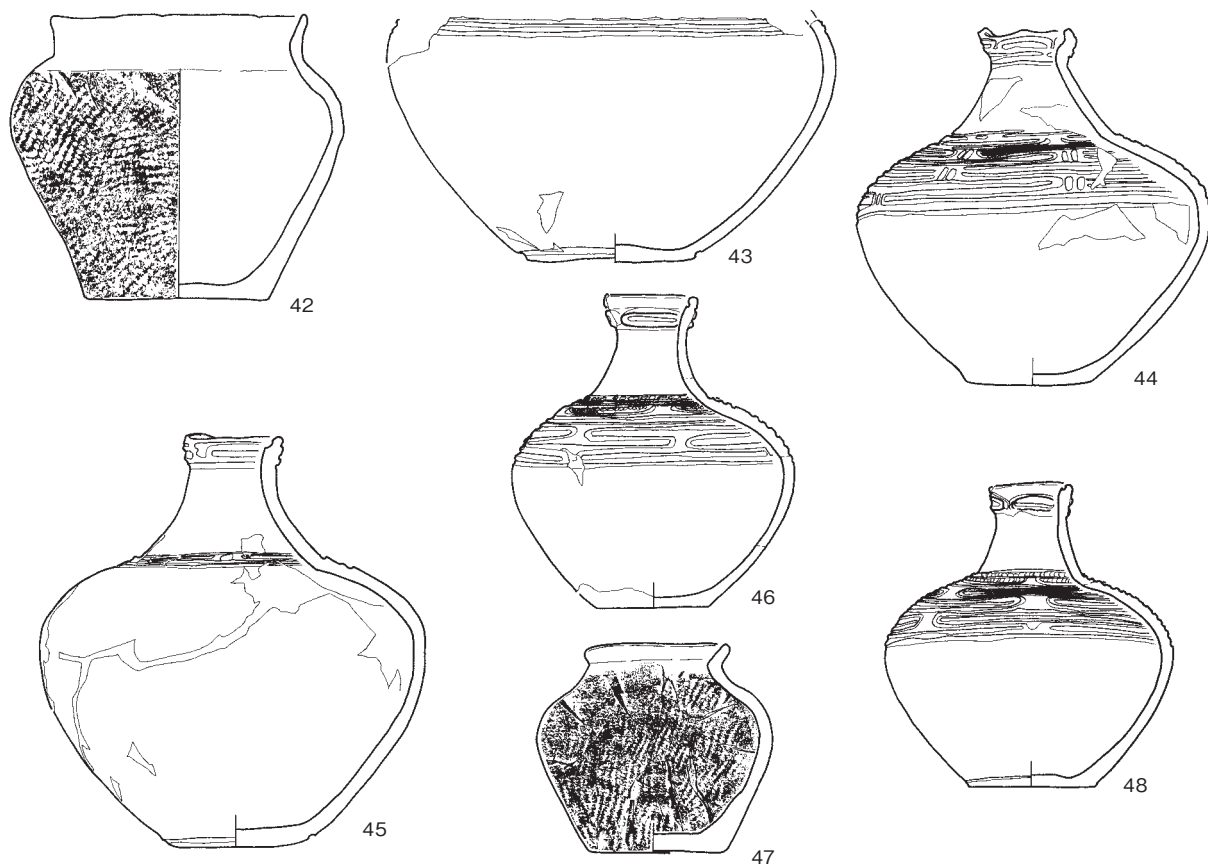


第 41 図 西区・SR01・SR02・SR03 (1)

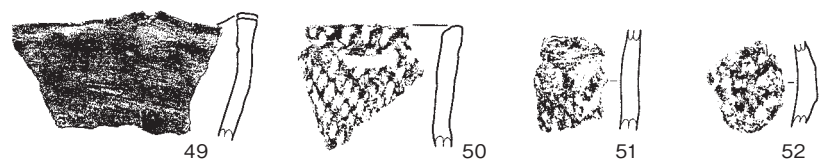




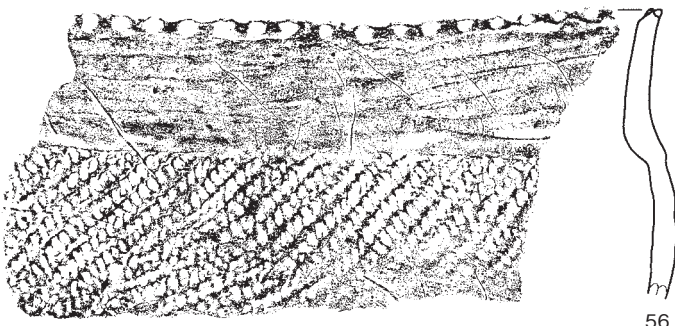
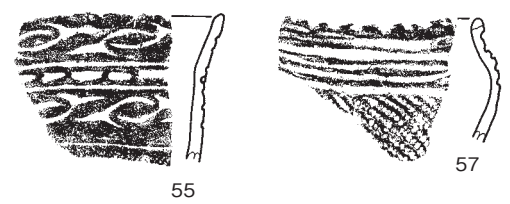
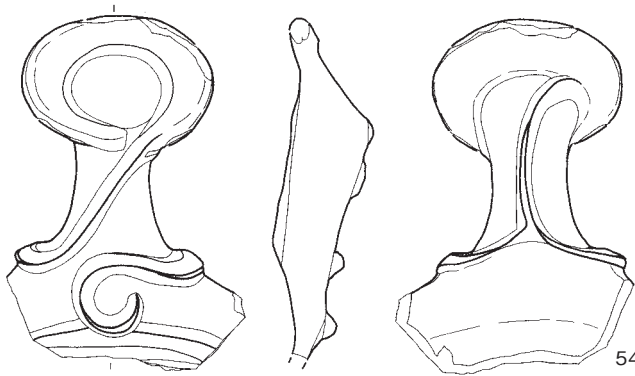
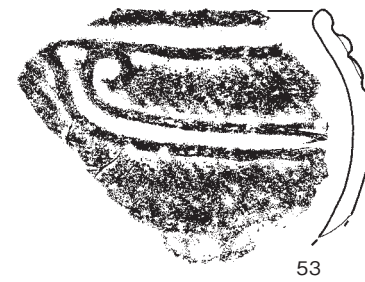
第 42 图 西区·SR03 (2)



P101 (49 ~ 52)



1D区 (53 ~ 58)

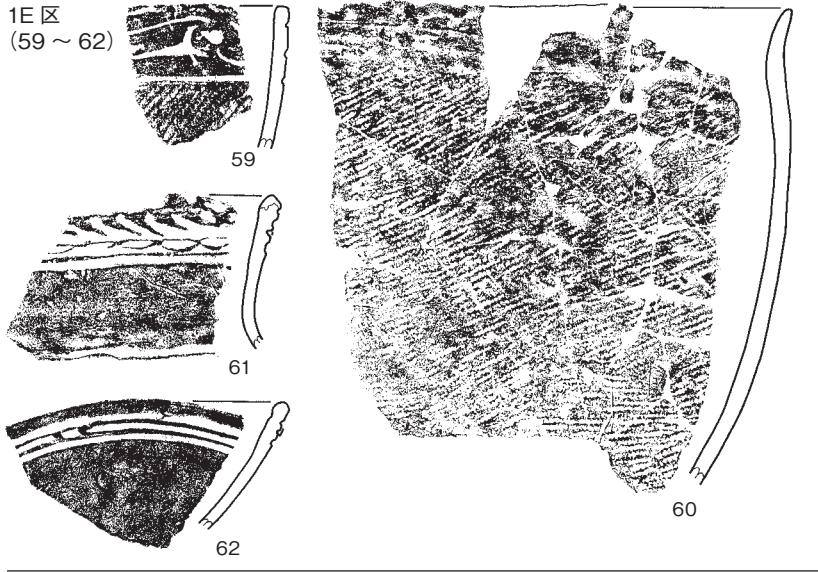


0 1:3 10cm

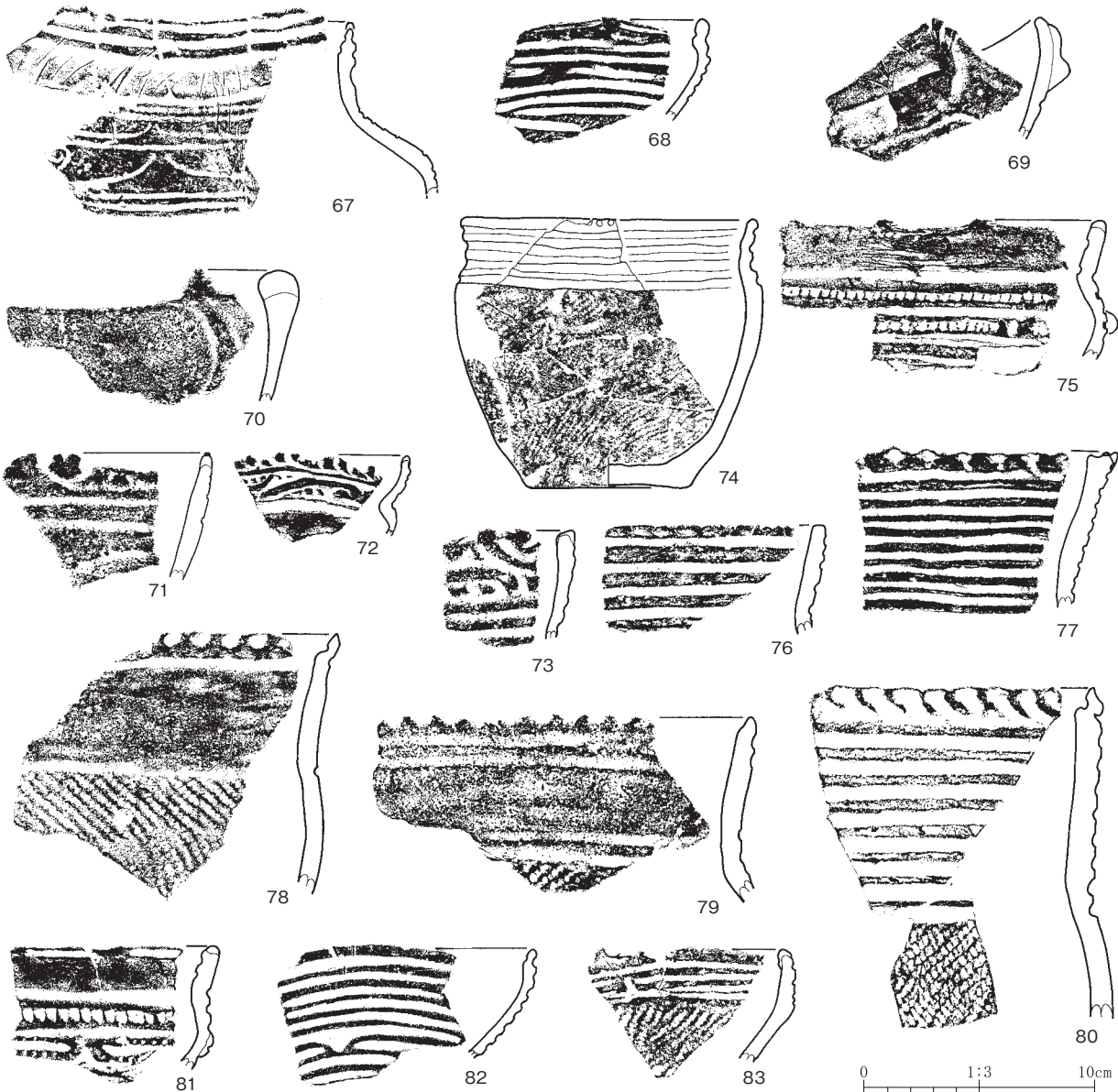
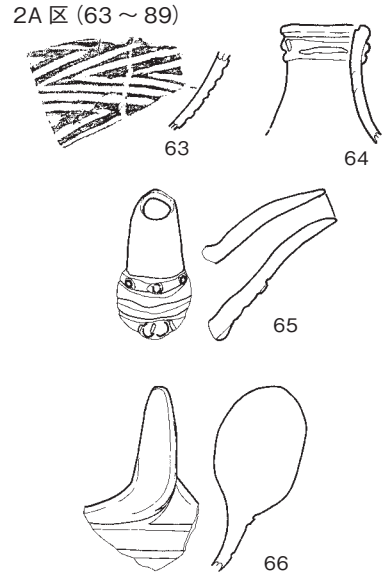
第43图 西区·SR03(3)·P101·1D区



1E区  
(59~62)

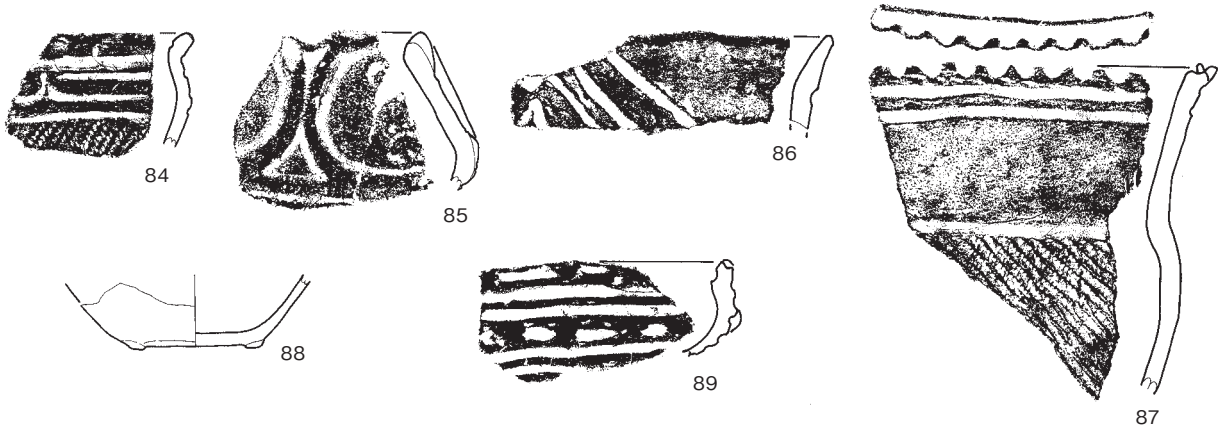


2A区 (63~89)



0 1:3 10cm

第44图 西区·1E区·2A区(1)



2B区 (90 ~ 187)



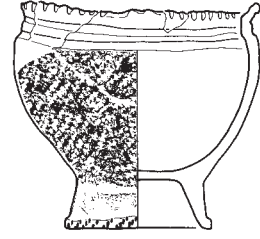
0 1:3 10cm

第45图 西区·2A区(2)·2B区(1)

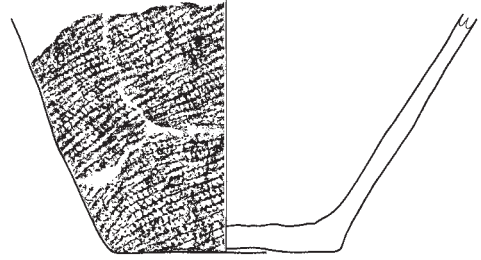




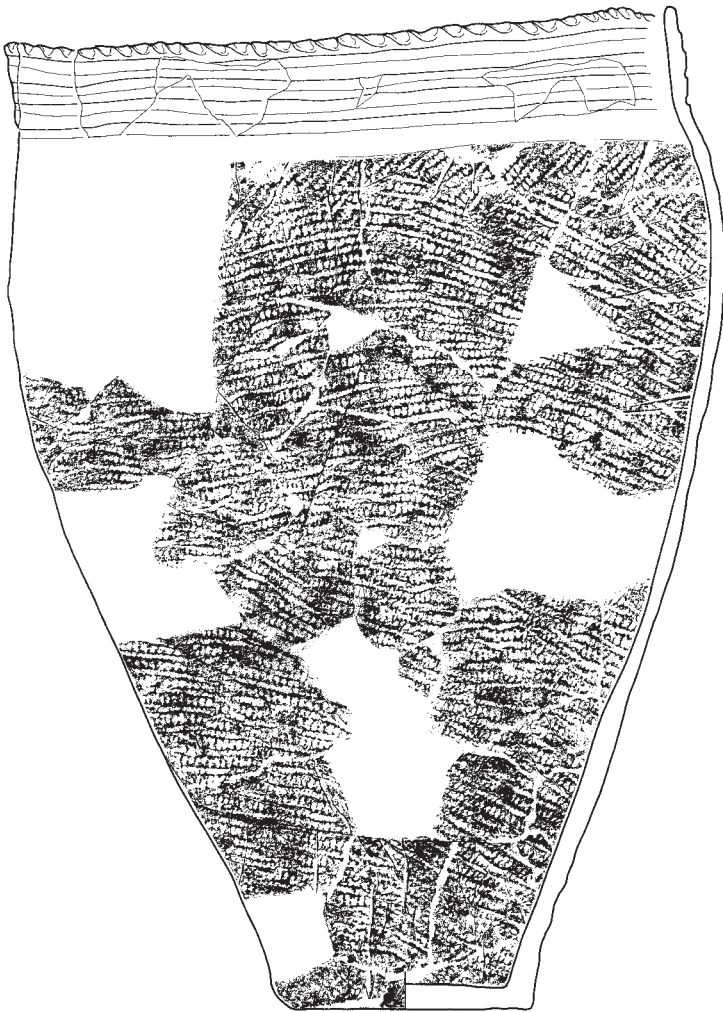
96



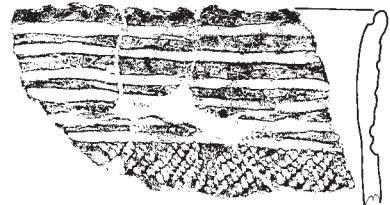
98



99



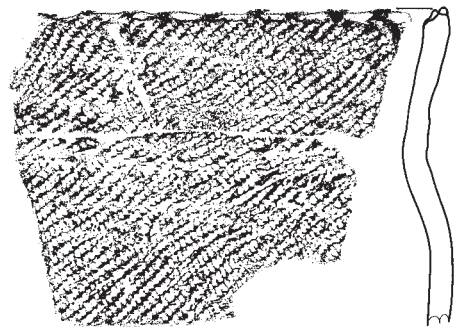
97



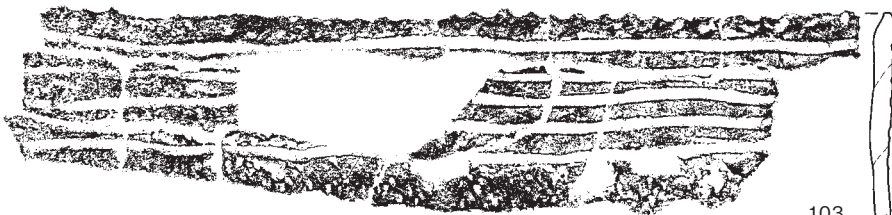
100



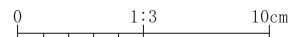
101



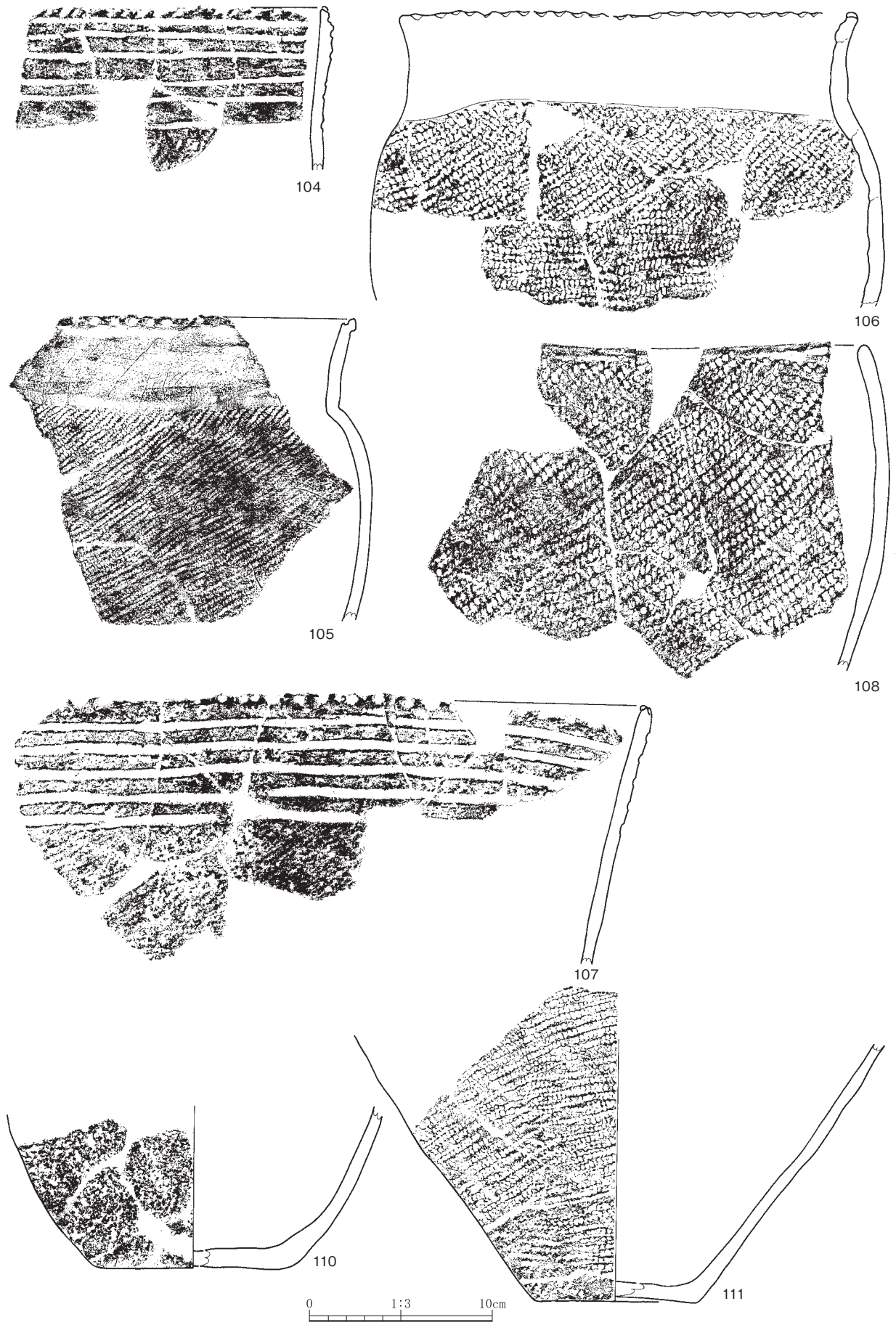
102



103

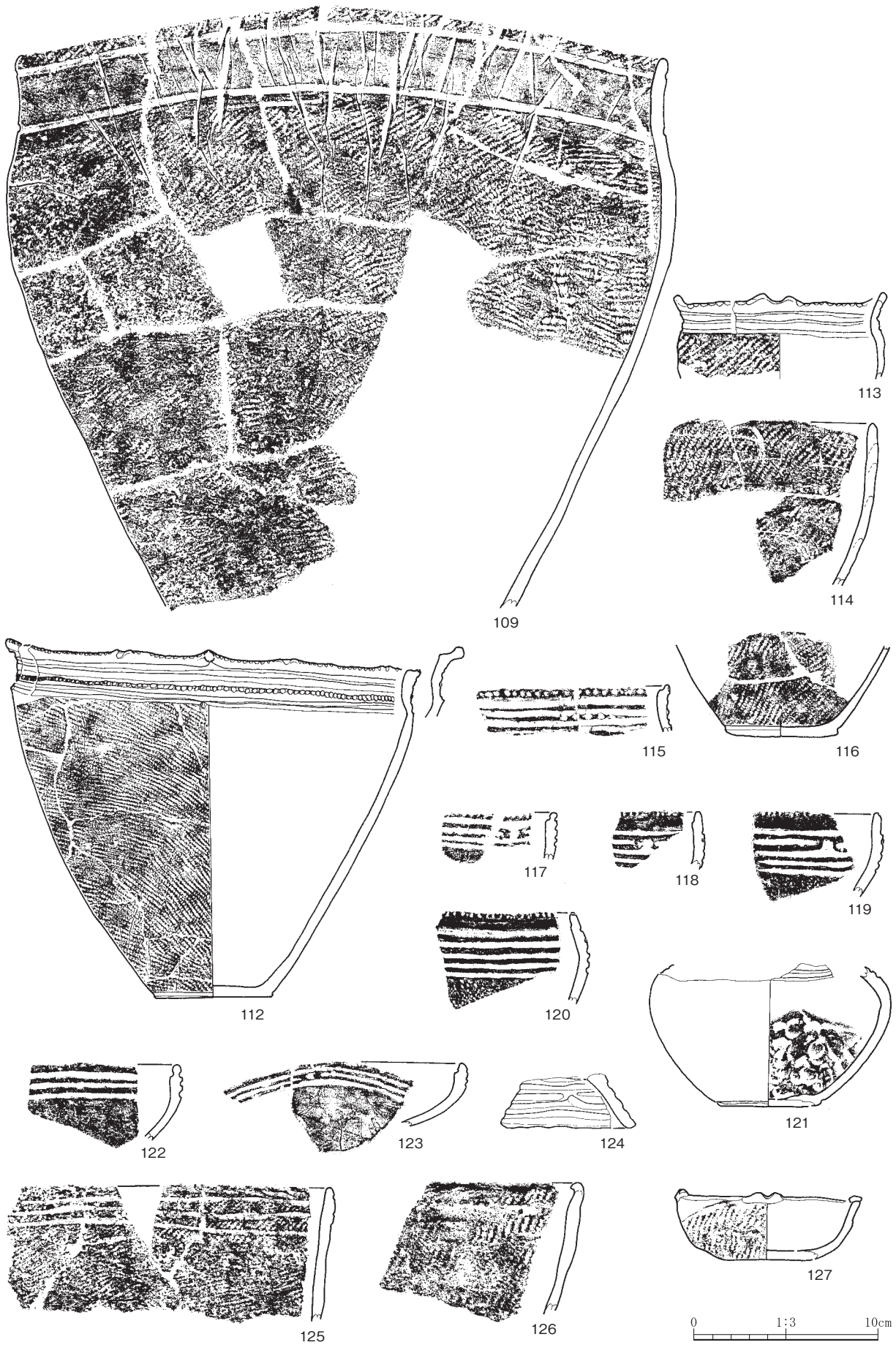


第46图 西区·2B区(2)

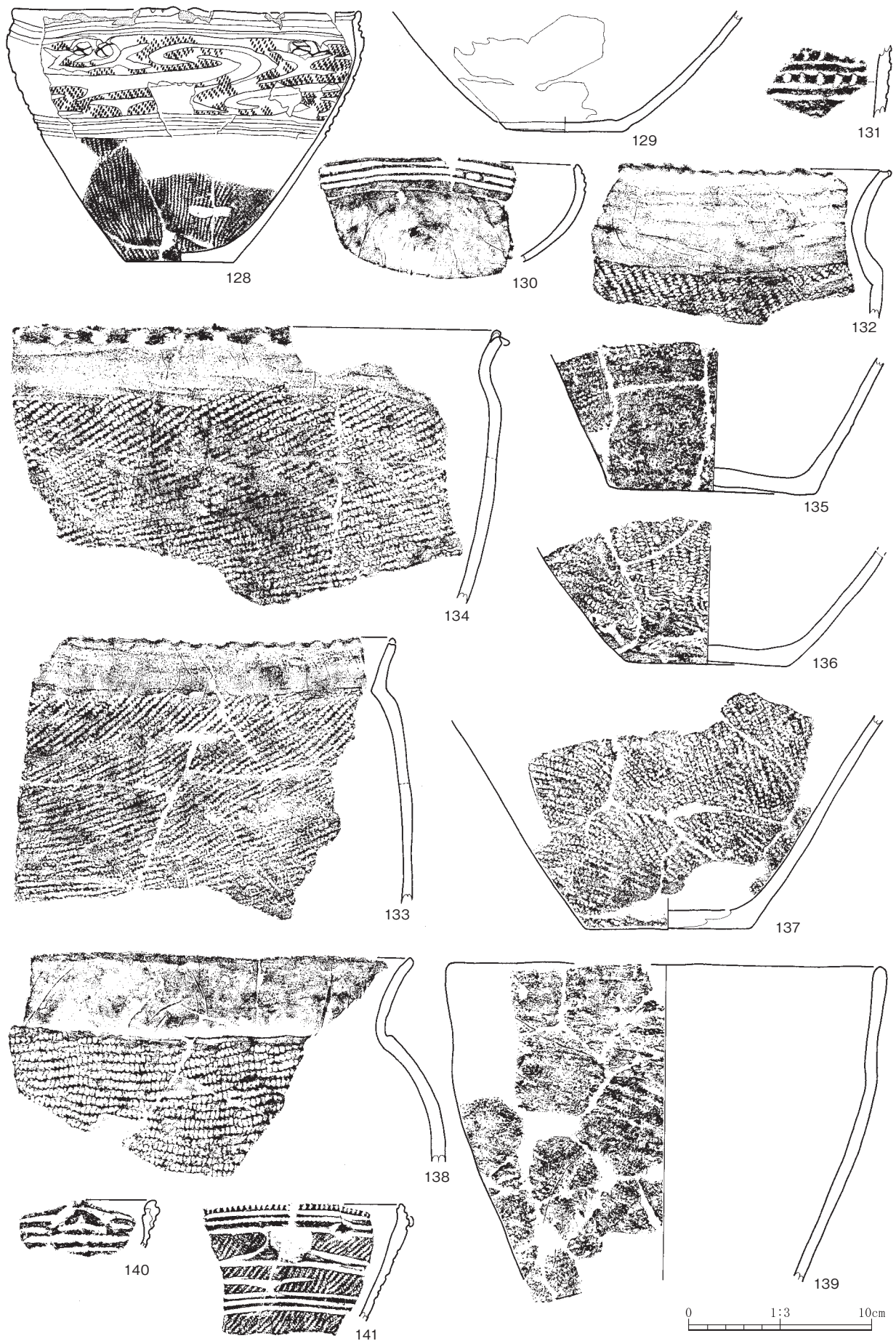


第 47 图 西区·2B 区 (3)



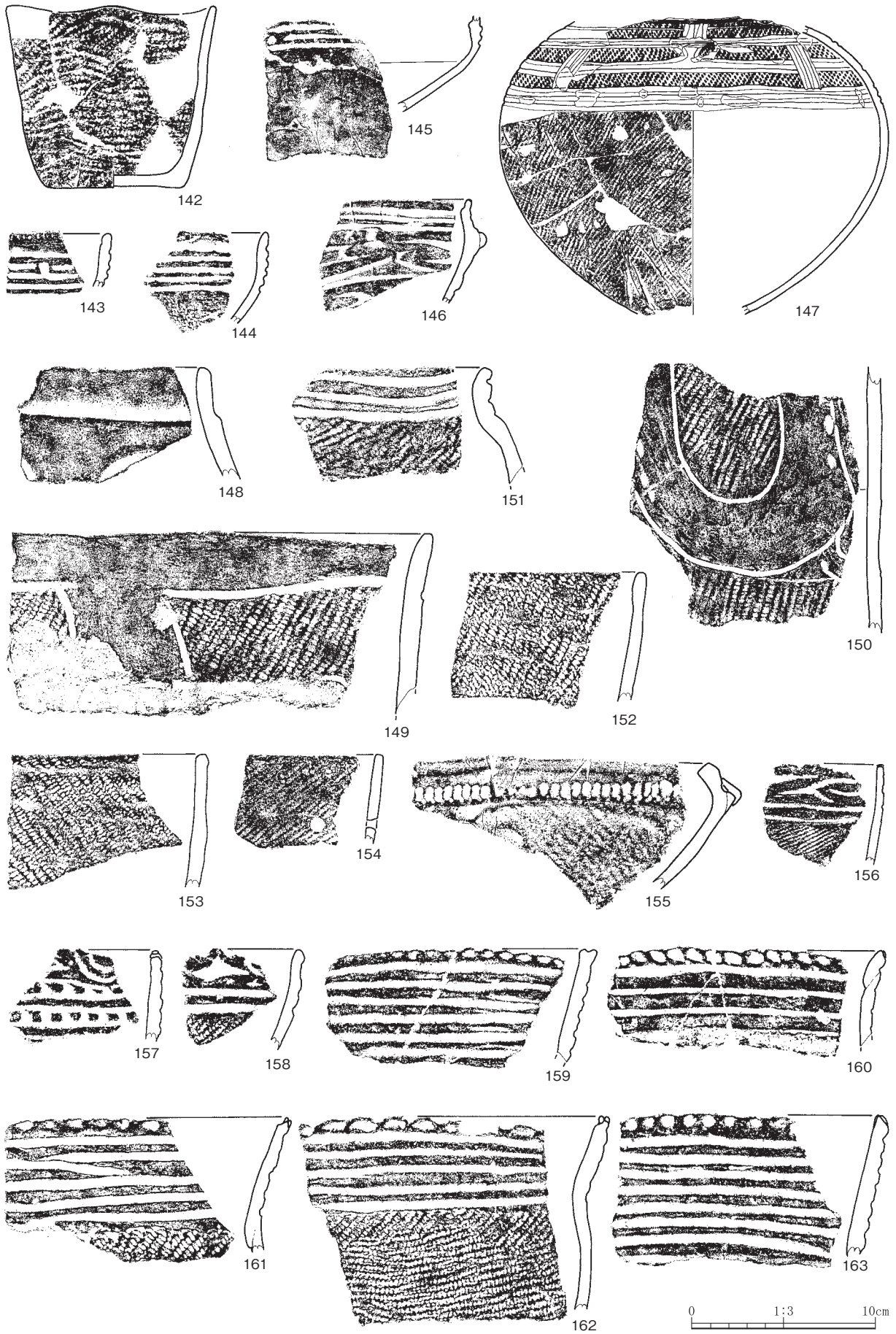


第48图 西区·2B区(4)



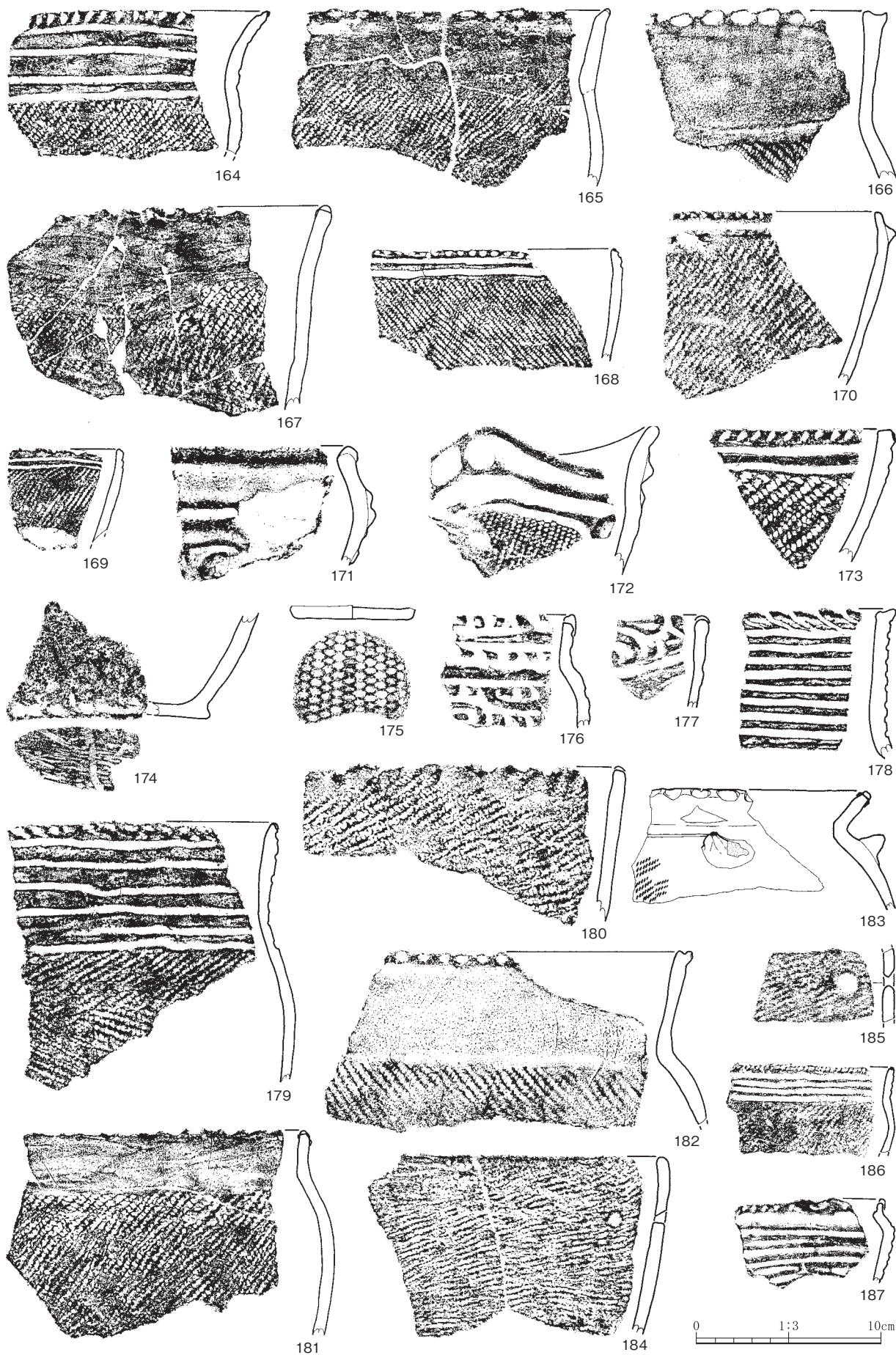
第 49 图 西区·2B 区 (5)





第50图 西区·2B区(6)

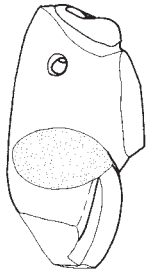
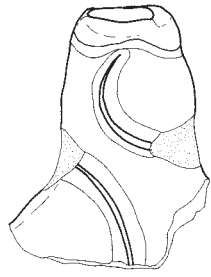




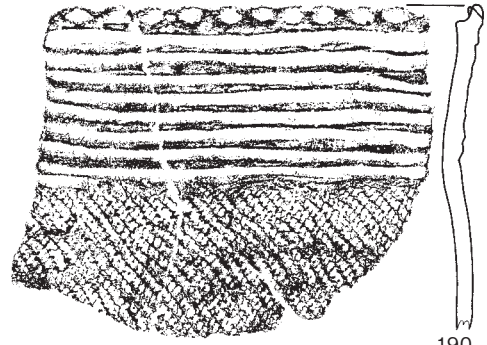
第 51 图 西区·2B 区 (7)



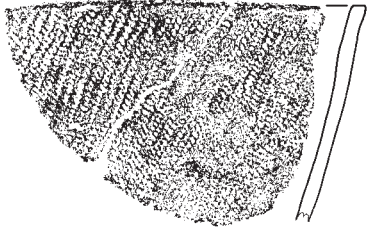
2C区 (188 ~ 224)



188



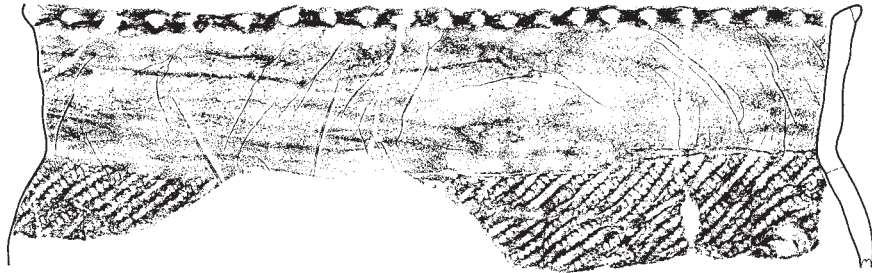
190



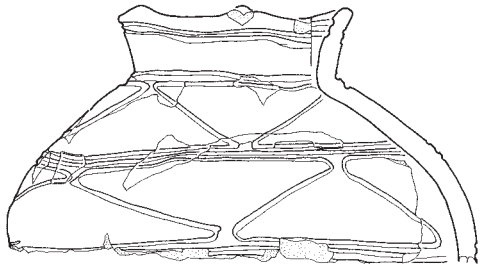
189



191



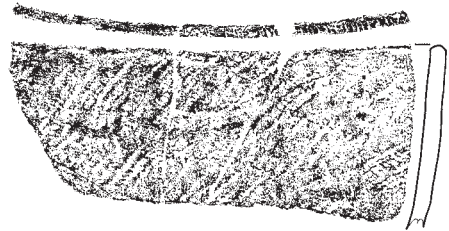
192



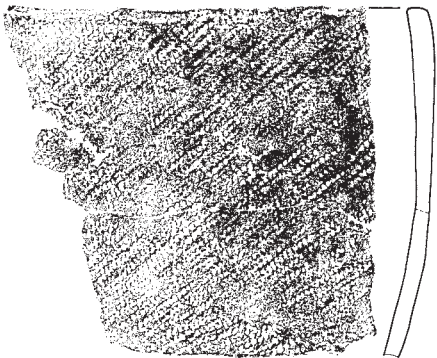
193



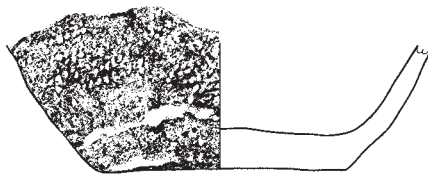
194



197



195



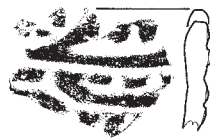
196



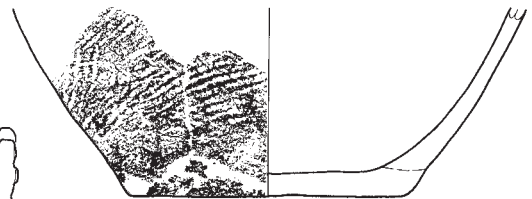
199



198



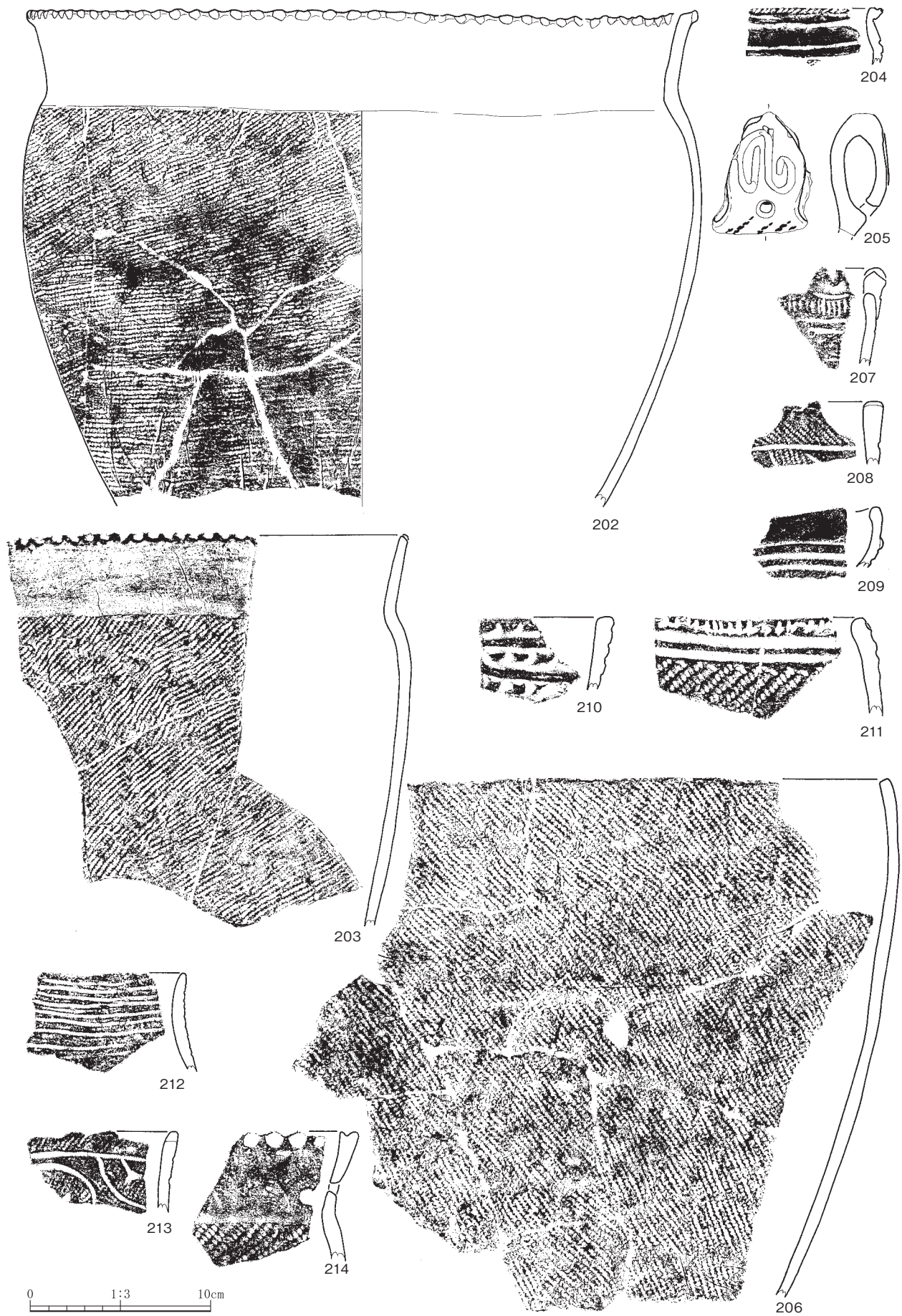
200



201

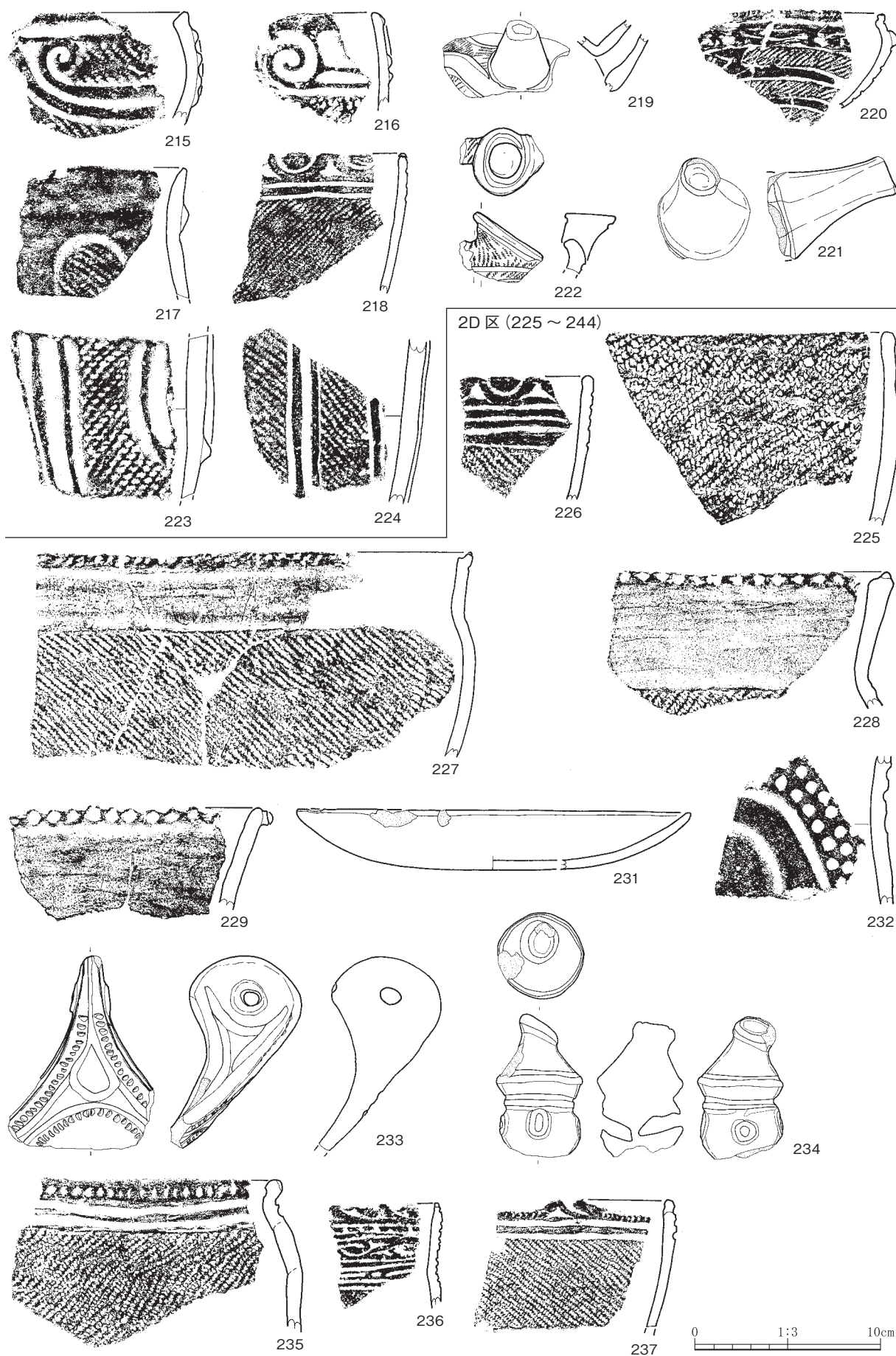
0 1:3 10cm

第52图 西区·2C区(1)

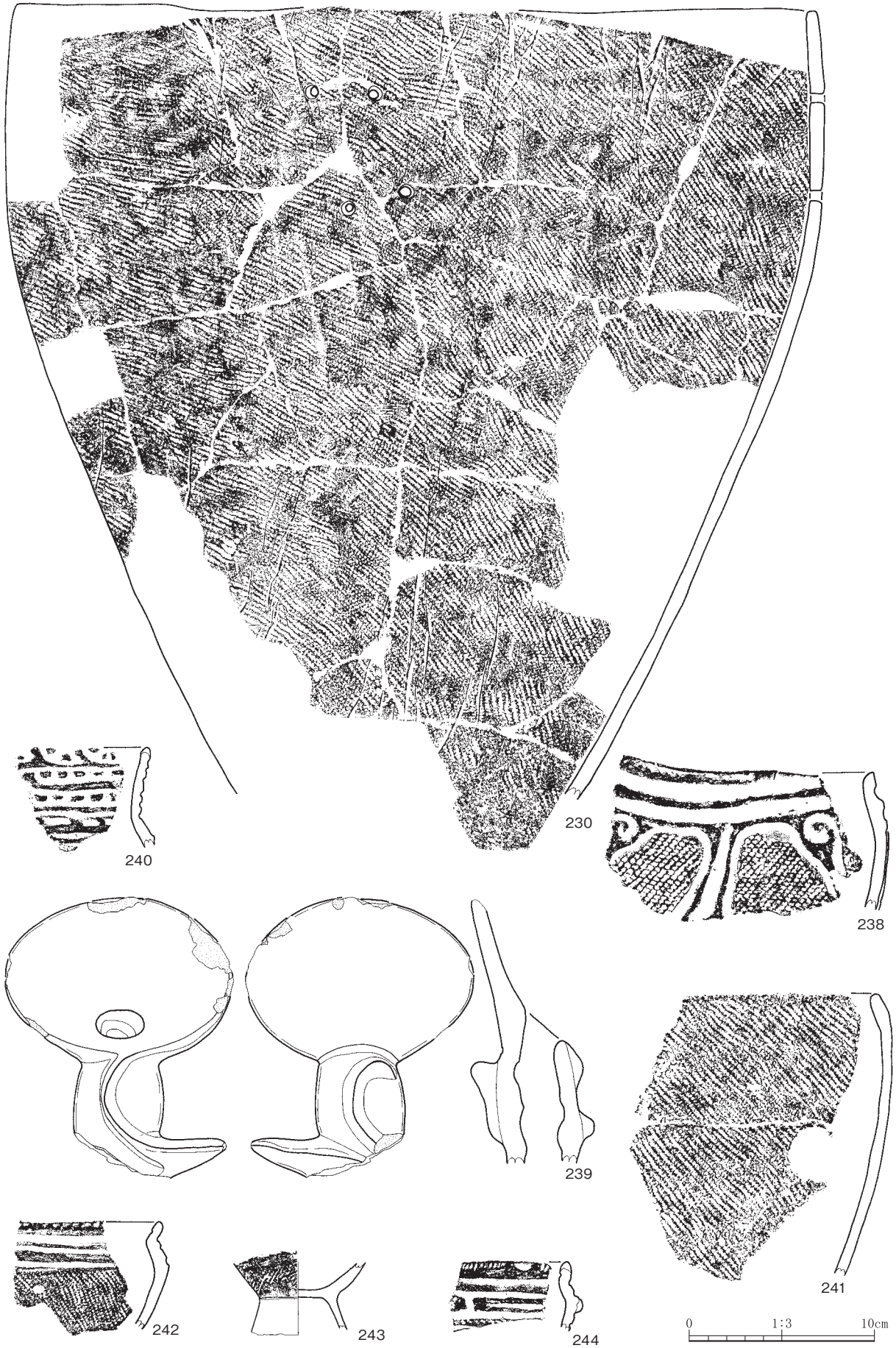


第 53 图 西区·2C 区 (2)





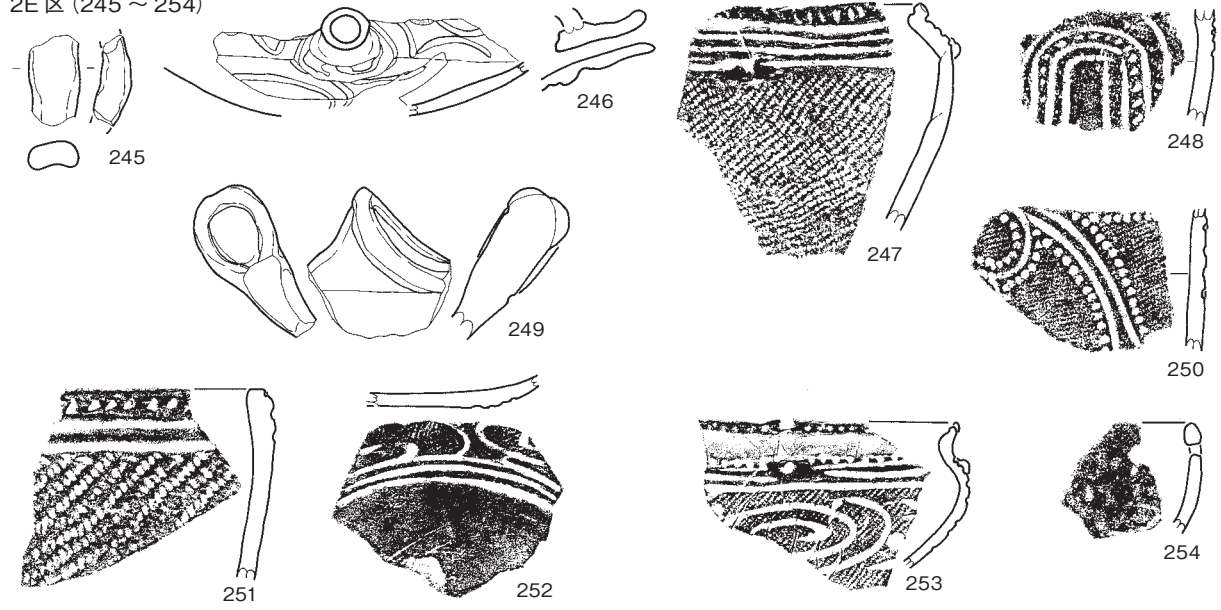
第54图 西区·2C区(3)·2D区(1)



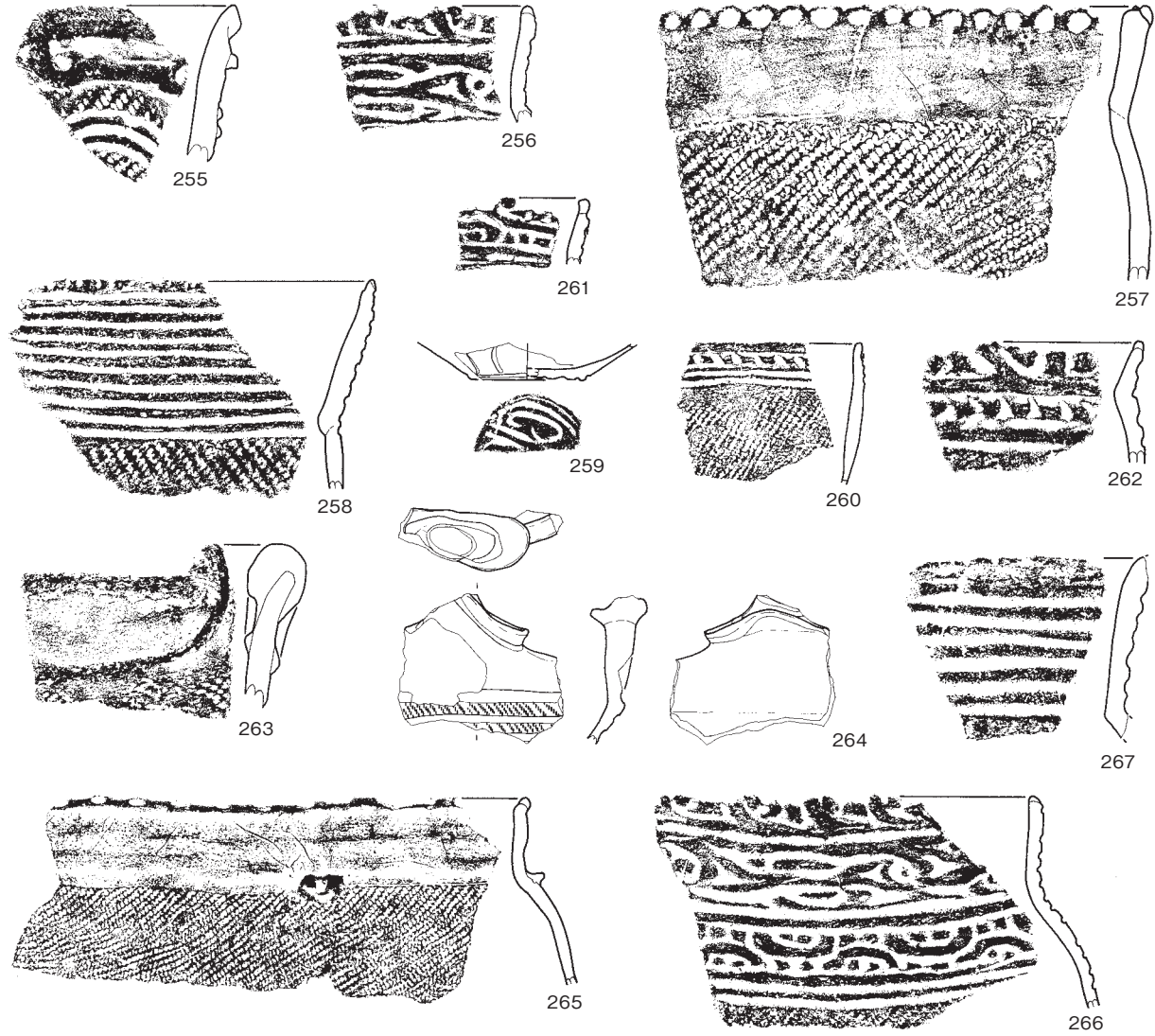
第55图 西区·2D区(2)



2E区 (245 ~ 254)



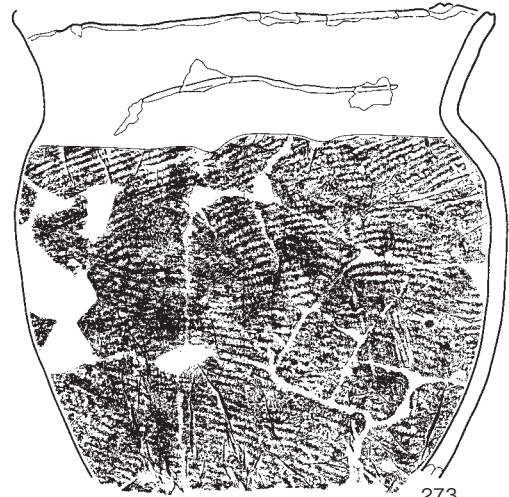
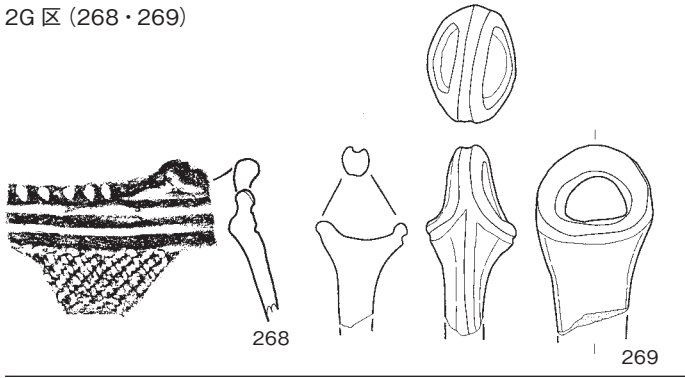
2F区 (255 ~ 267)



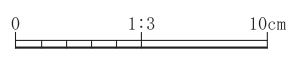
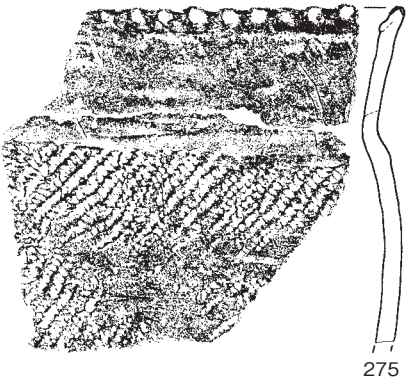
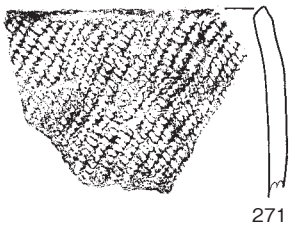
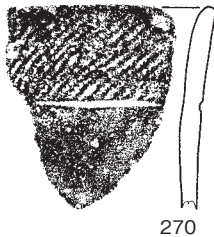
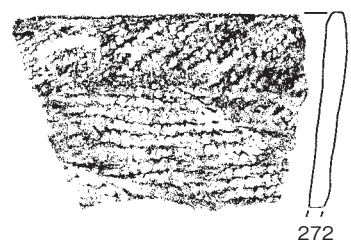
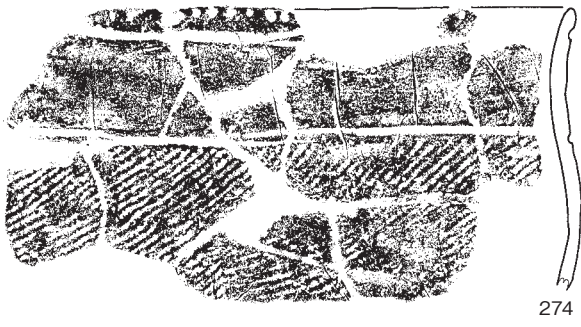
0 1:3 10cm

第56图 西区·2E区·2F区

2G区 (268・269)

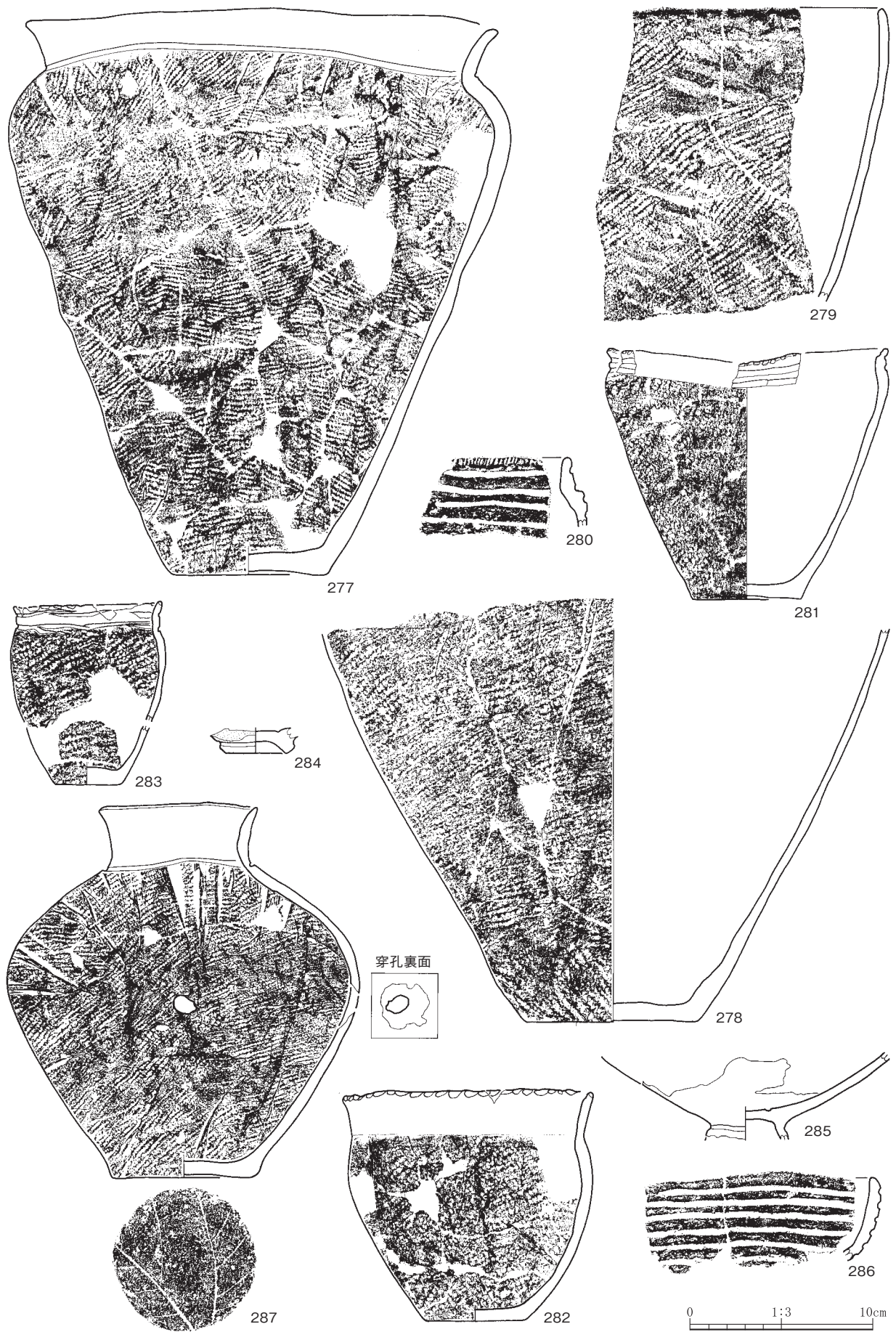


3A区 (270 ~ 318)



第 57 図 西区・2G区・3A区 (1)



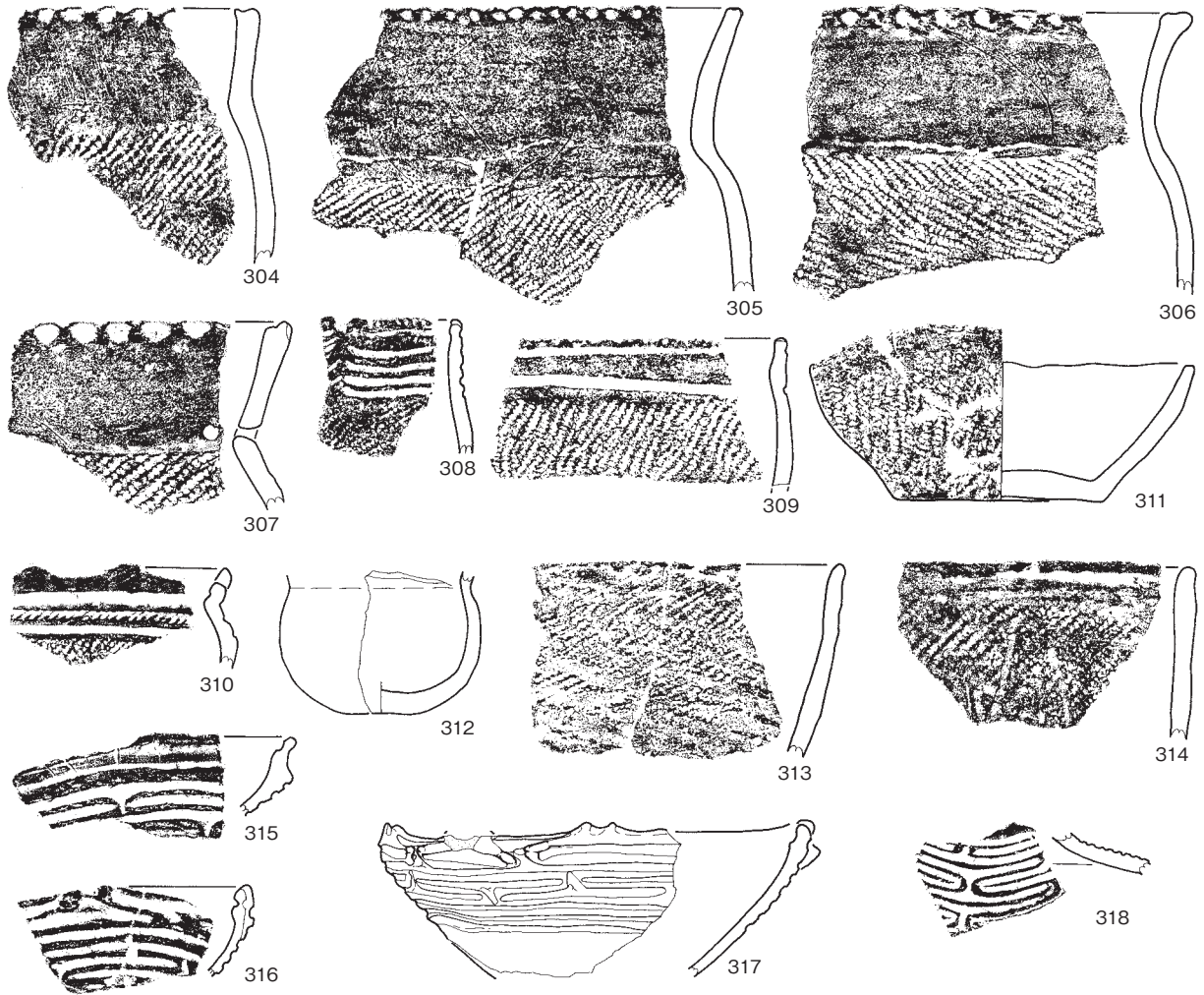


第58图 西区·3A区(2)

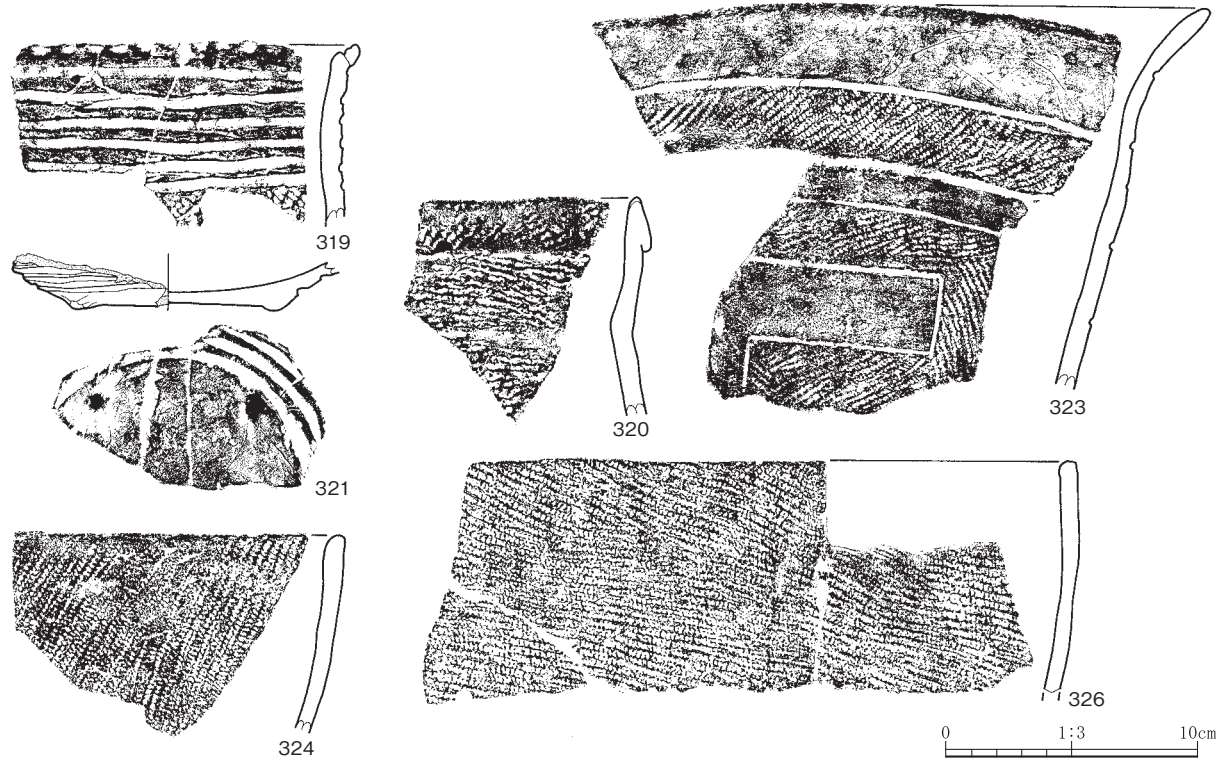


第 59 图 西区·3A 区 (3)



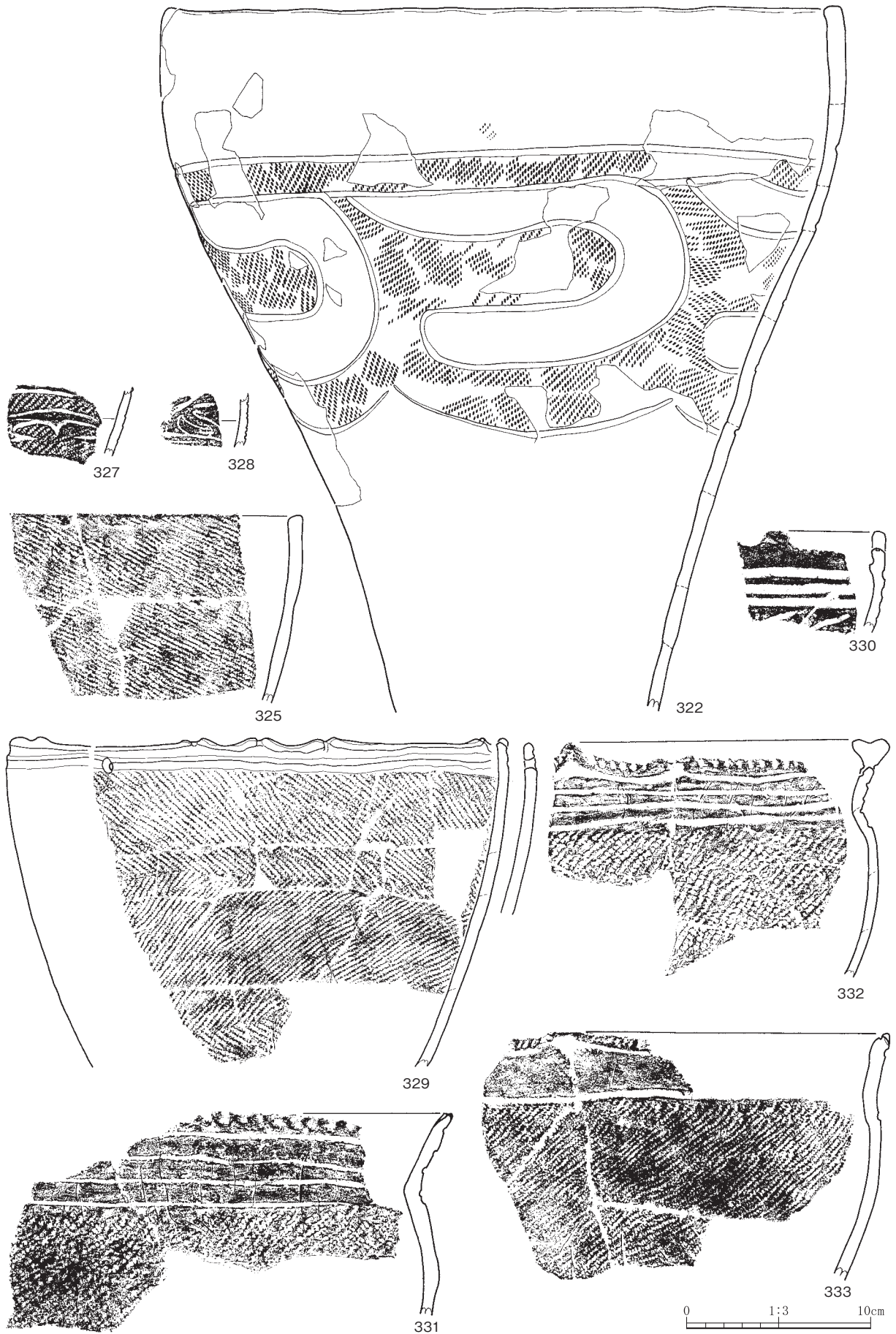


3B区 (319 ~ 522)



0 1:3 10cm

第60图 西区·3A区(4)·3B区(1)



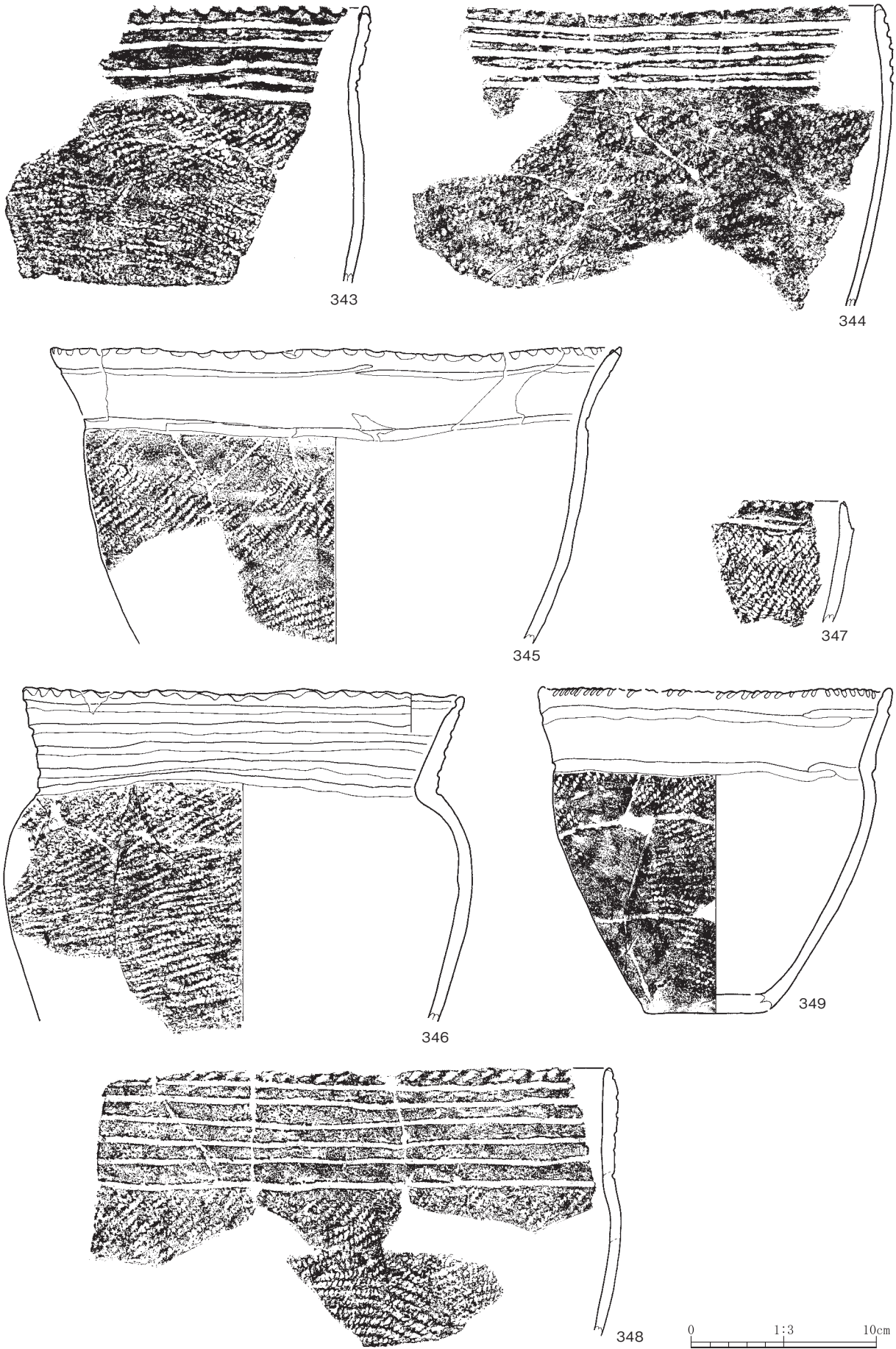
第61图 西区·3B区(2)



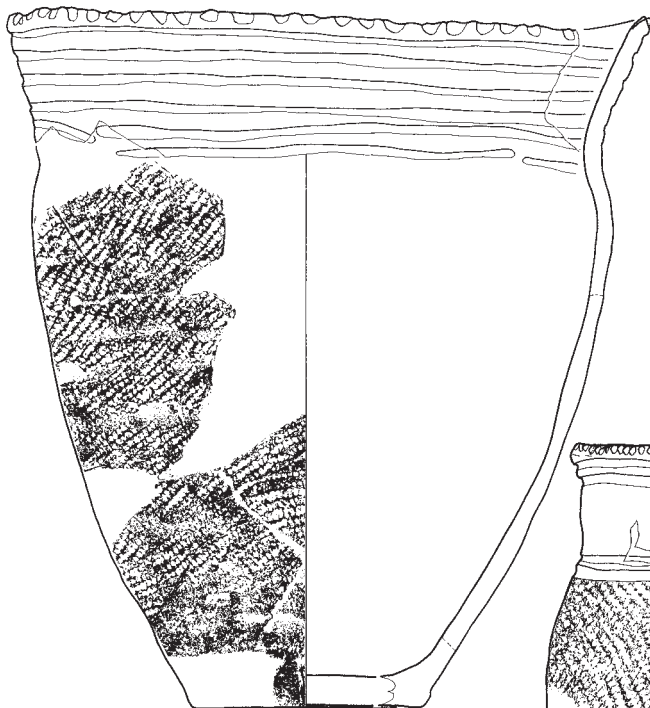


第 62 图 西区·3B 区 (3)

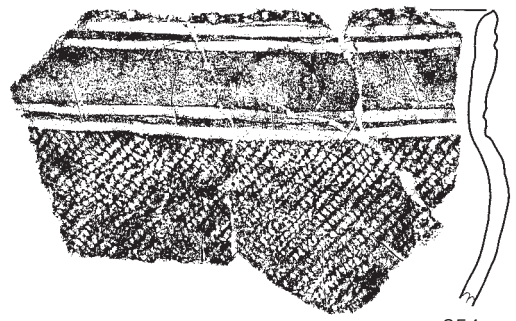




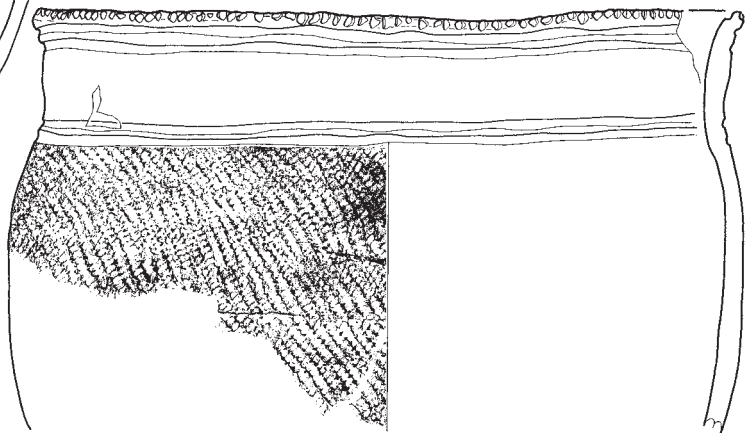
第 63 图 西区·3B 区 (4)



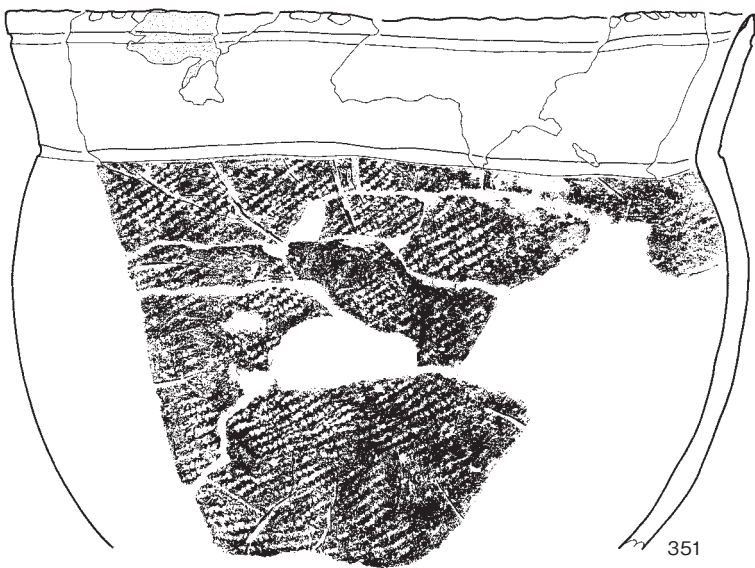
350



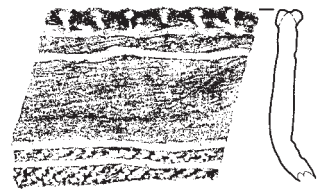
354



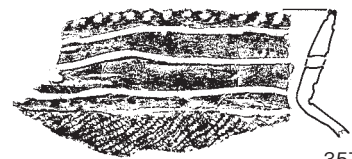
356



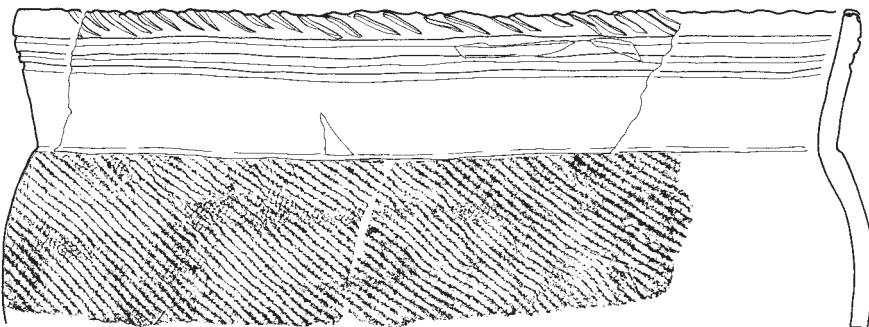
351



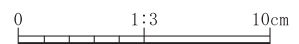
355



357

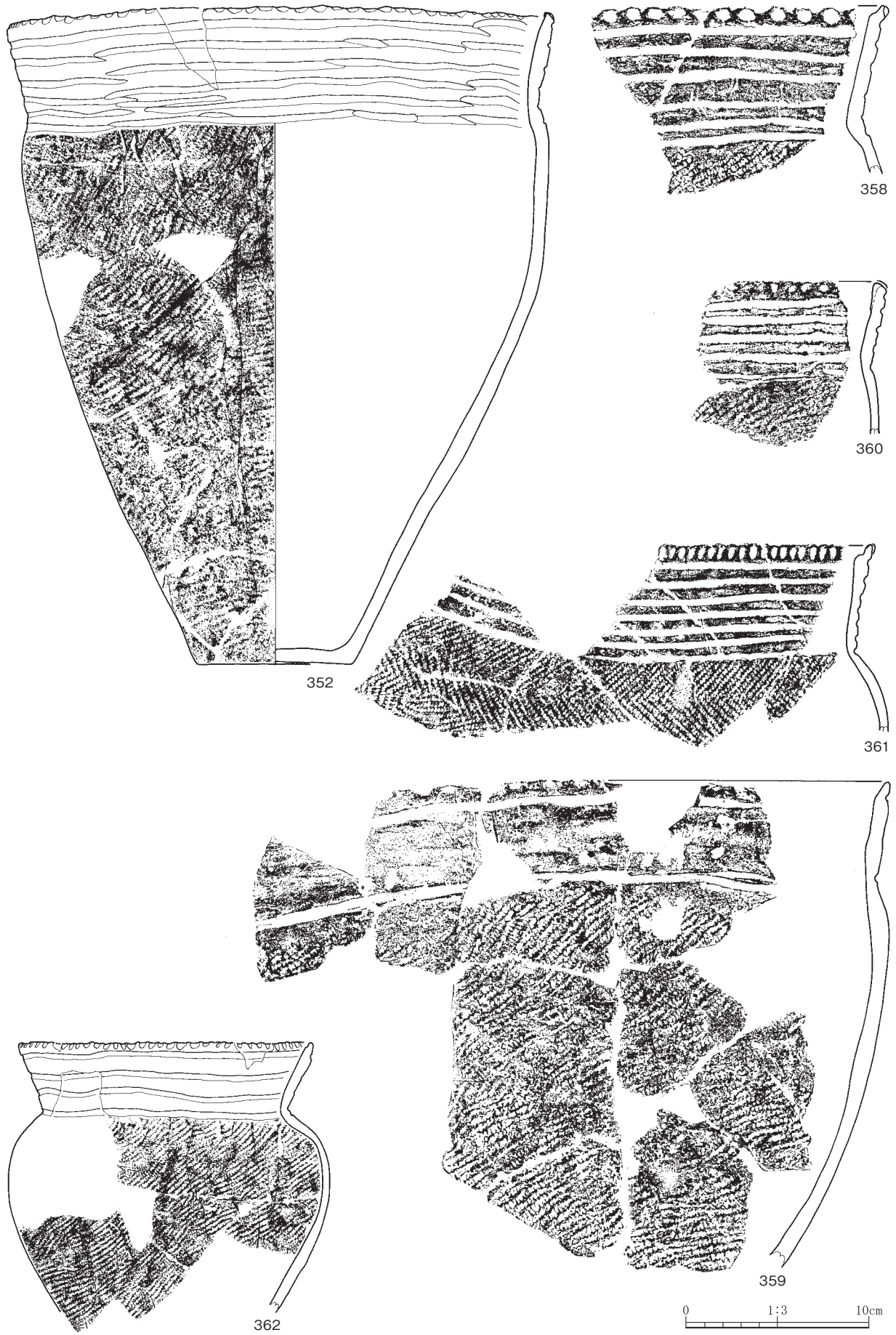


353



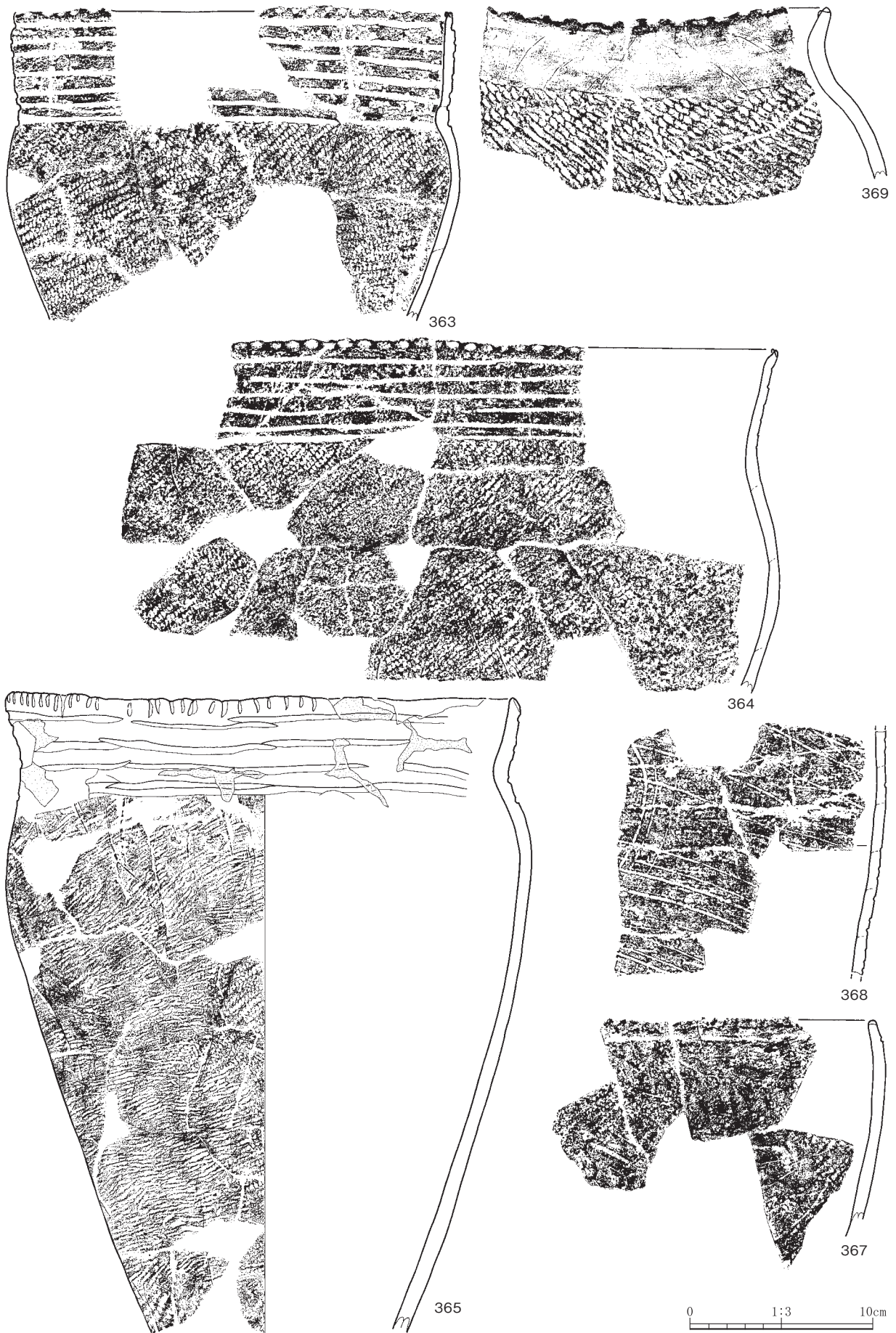
第64图 西区·3B区(5)



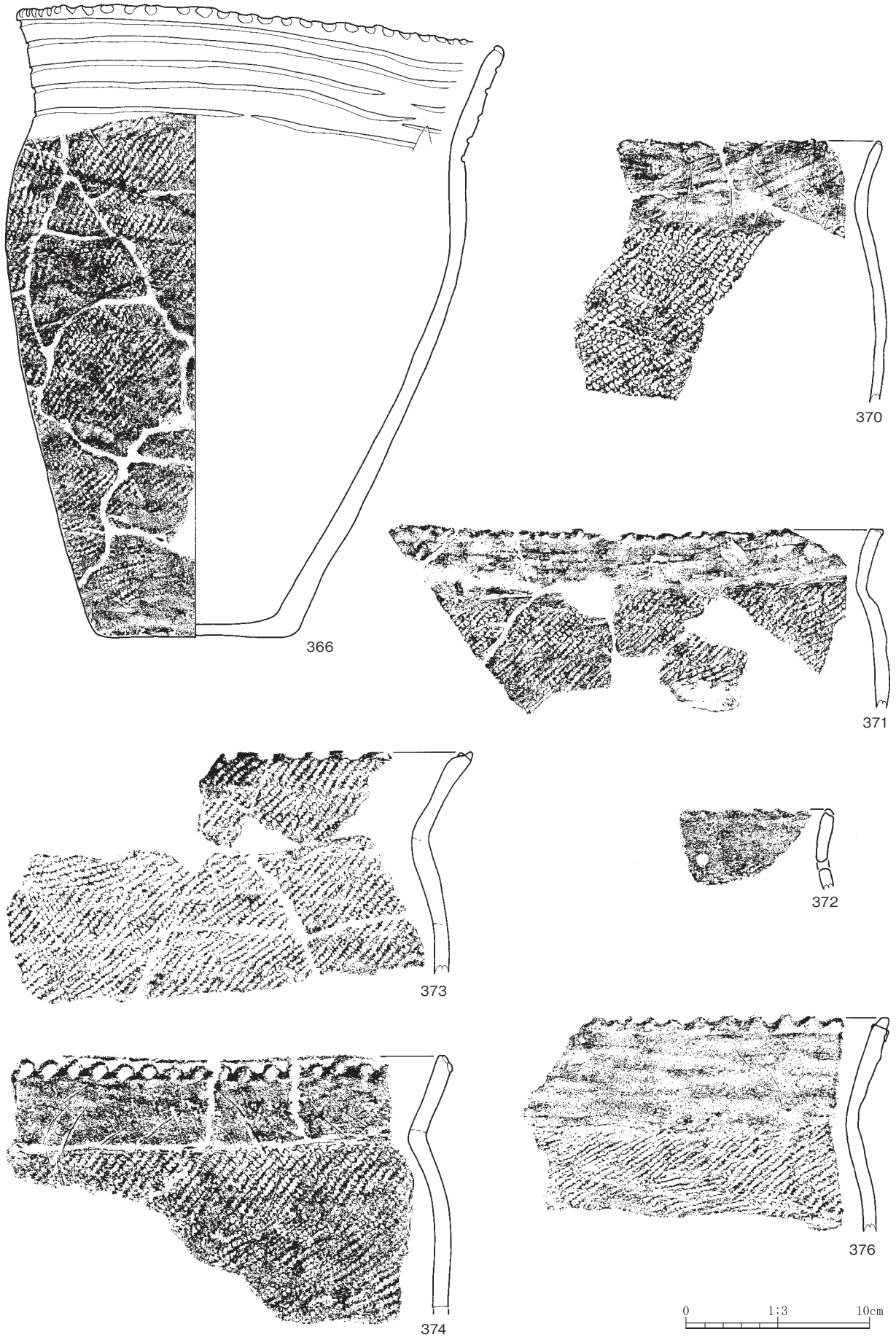


第65图 西区·3B区(6)





第66图 西区·3B区(7)



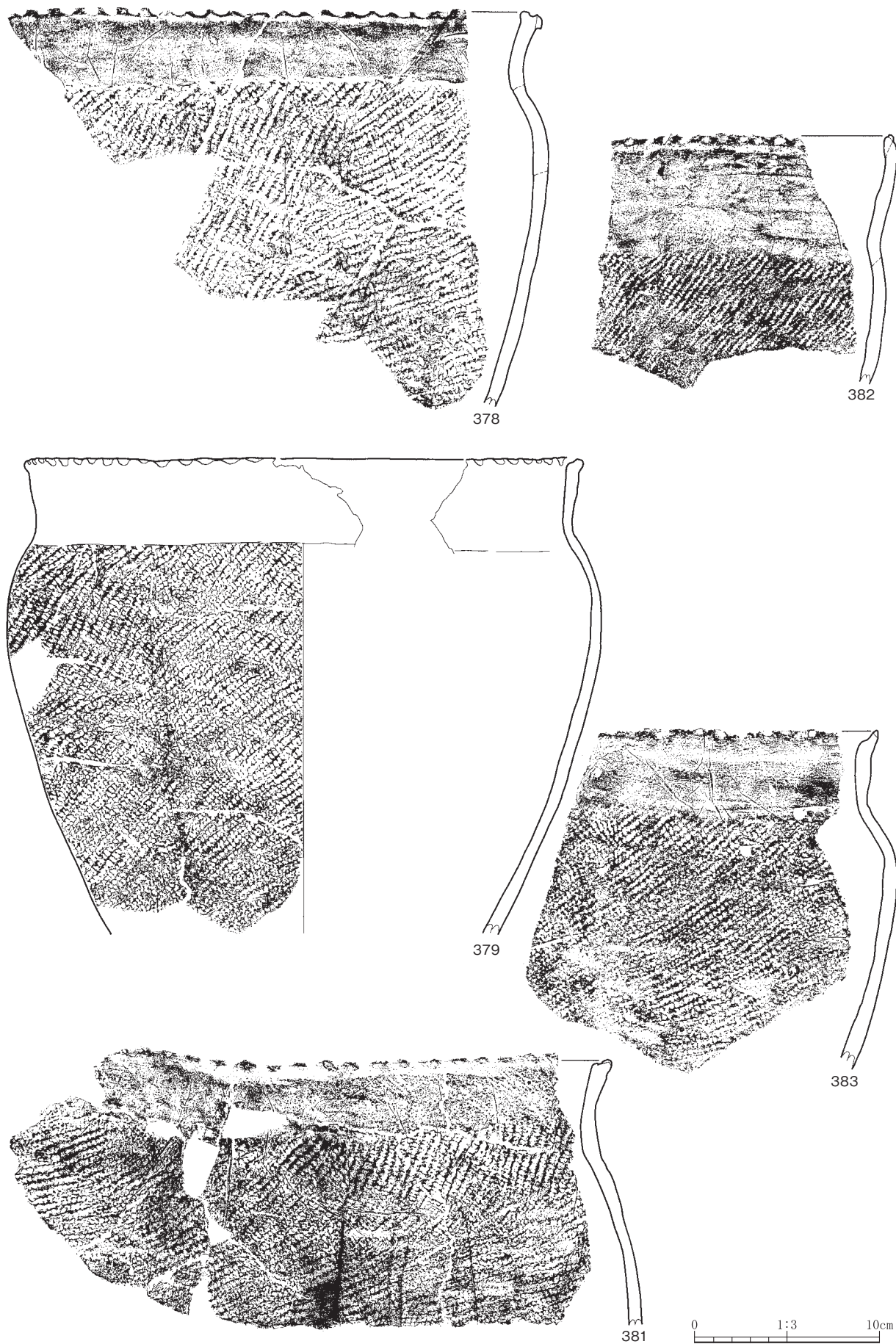
第67图 西区·3B区(8)



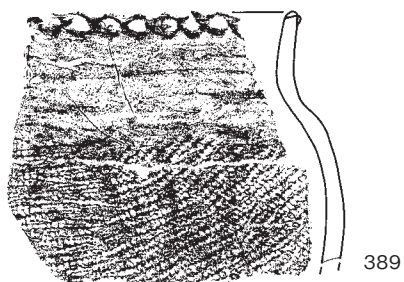
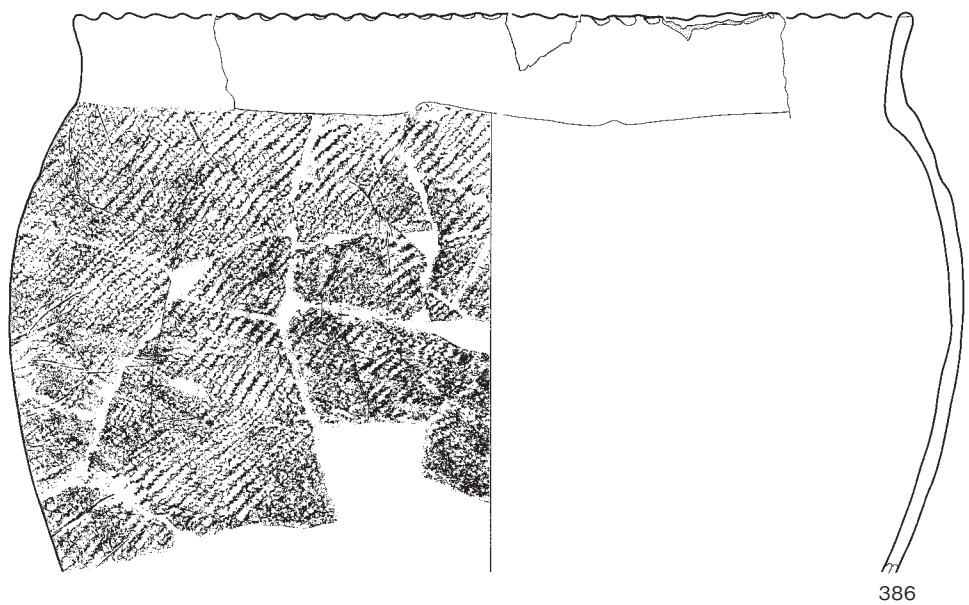
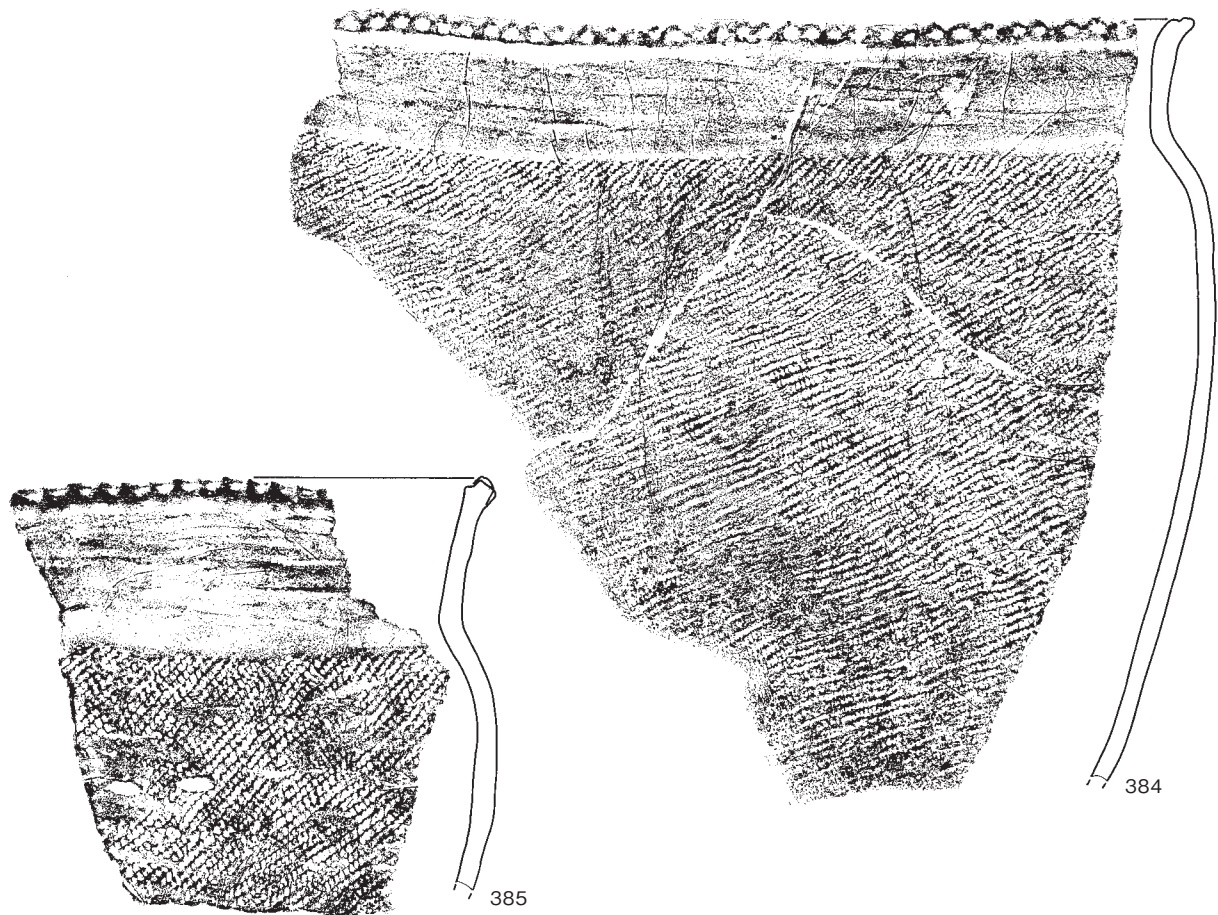


第 68 图 西区·3B 区 (9)





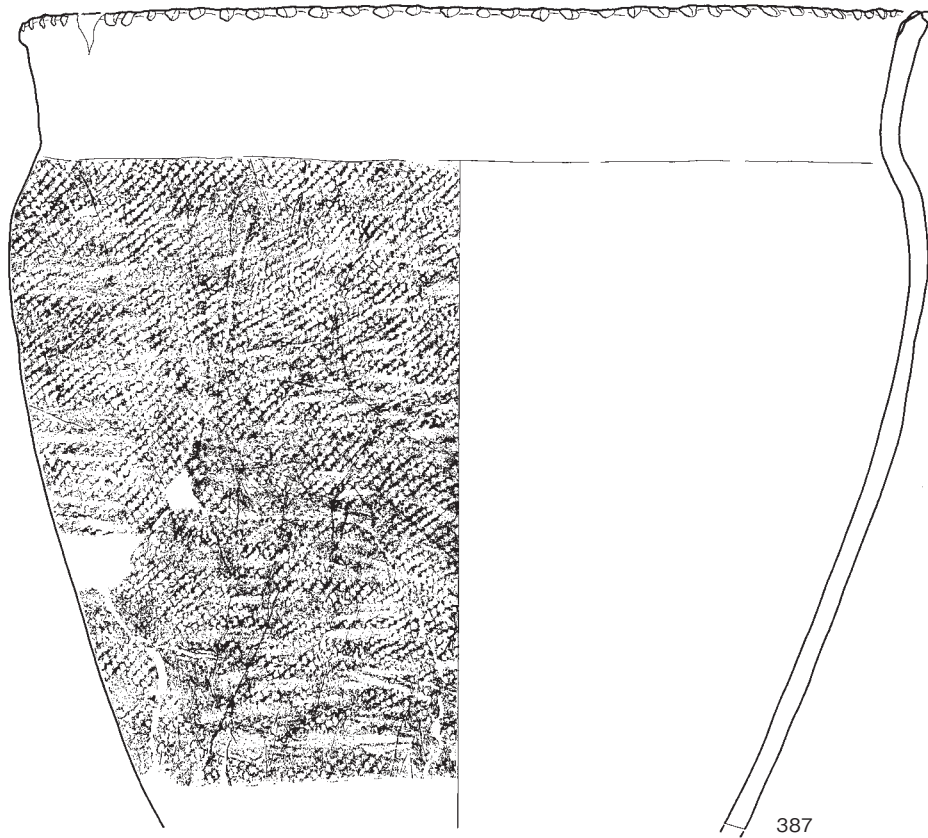
第 69 图 西区·3B 区 (10)



0 1:3 10cm

第70图 西区·3B区(11)

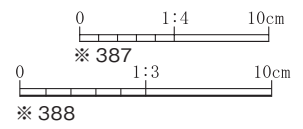




387



388

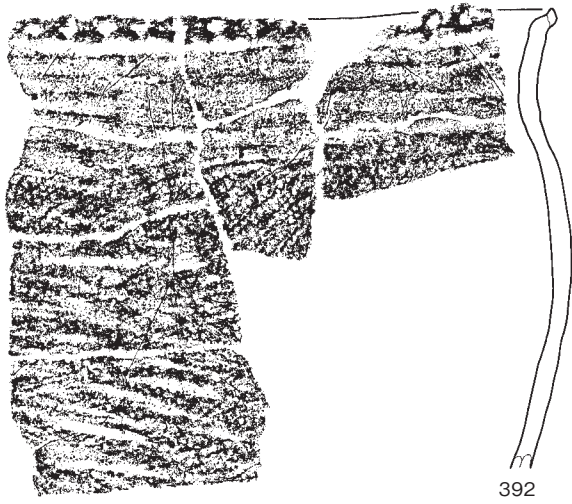


第 71 図 西区・3B 区 (12)

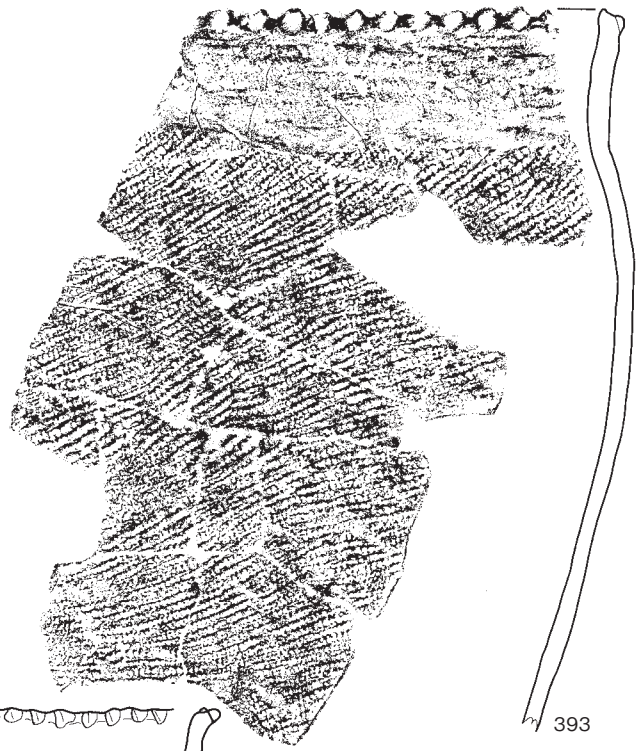




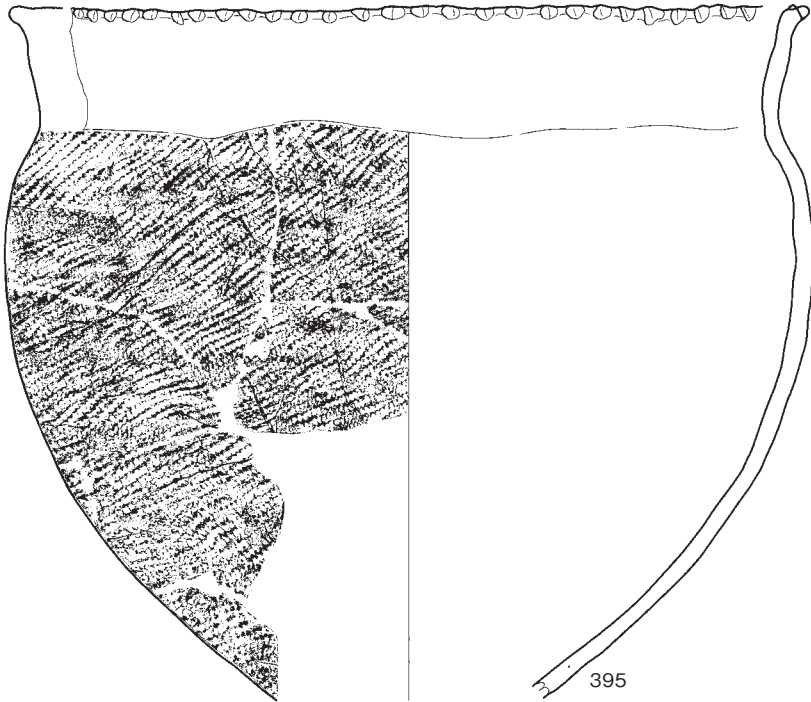
第 72 图 西区·3B 区 (13)



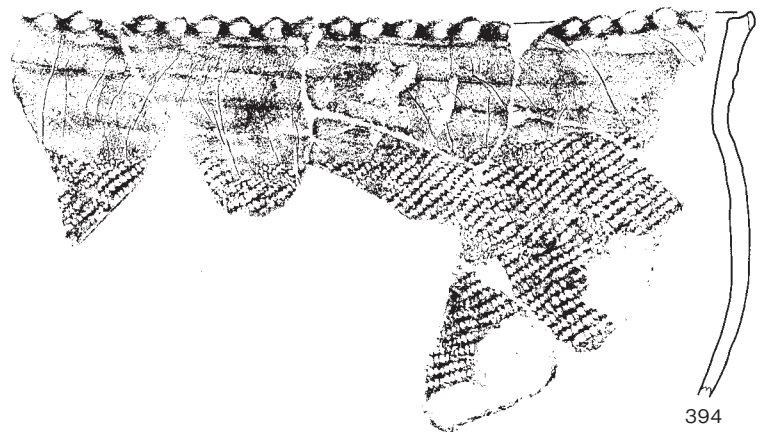
392



393



395

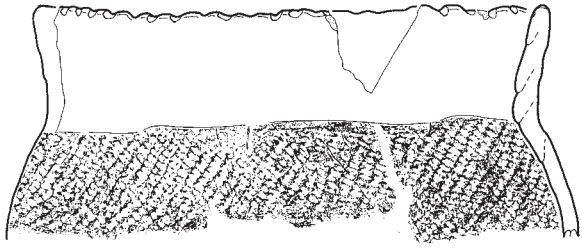


394

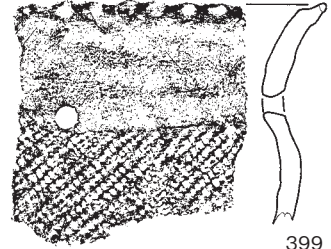
0 1:3 10cm

第73图 西区·3B区(14)

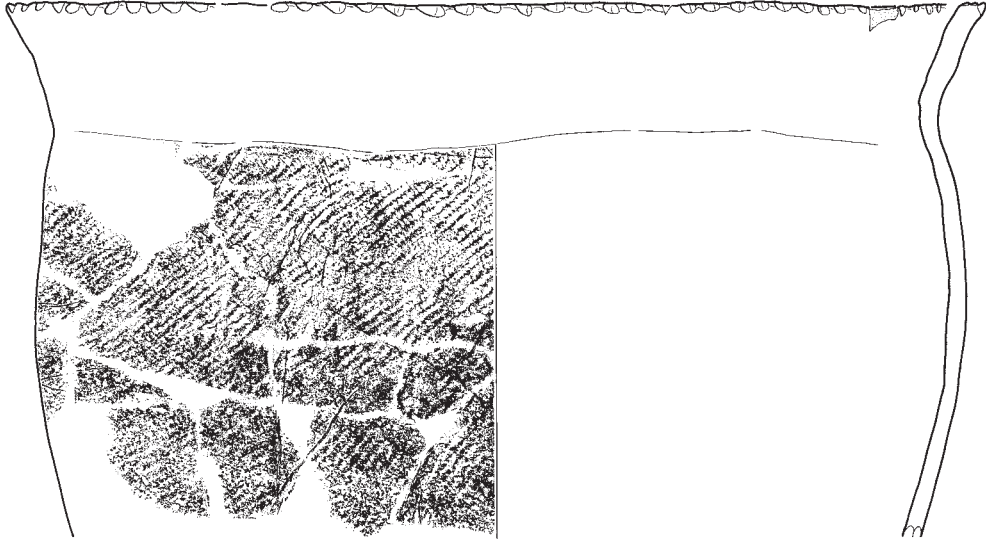




396



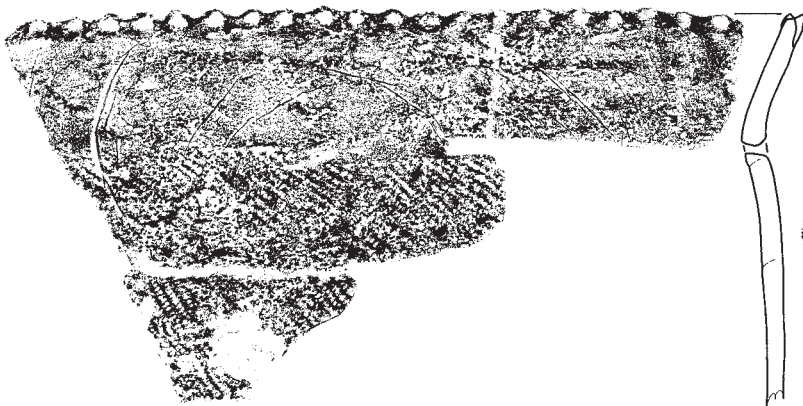
399



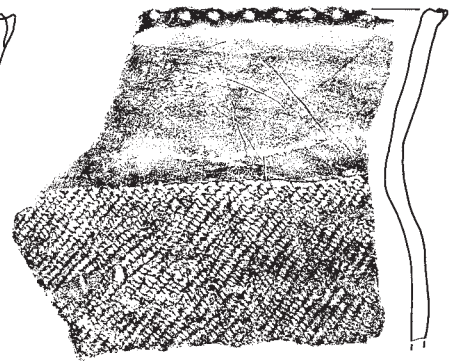
397



398



400

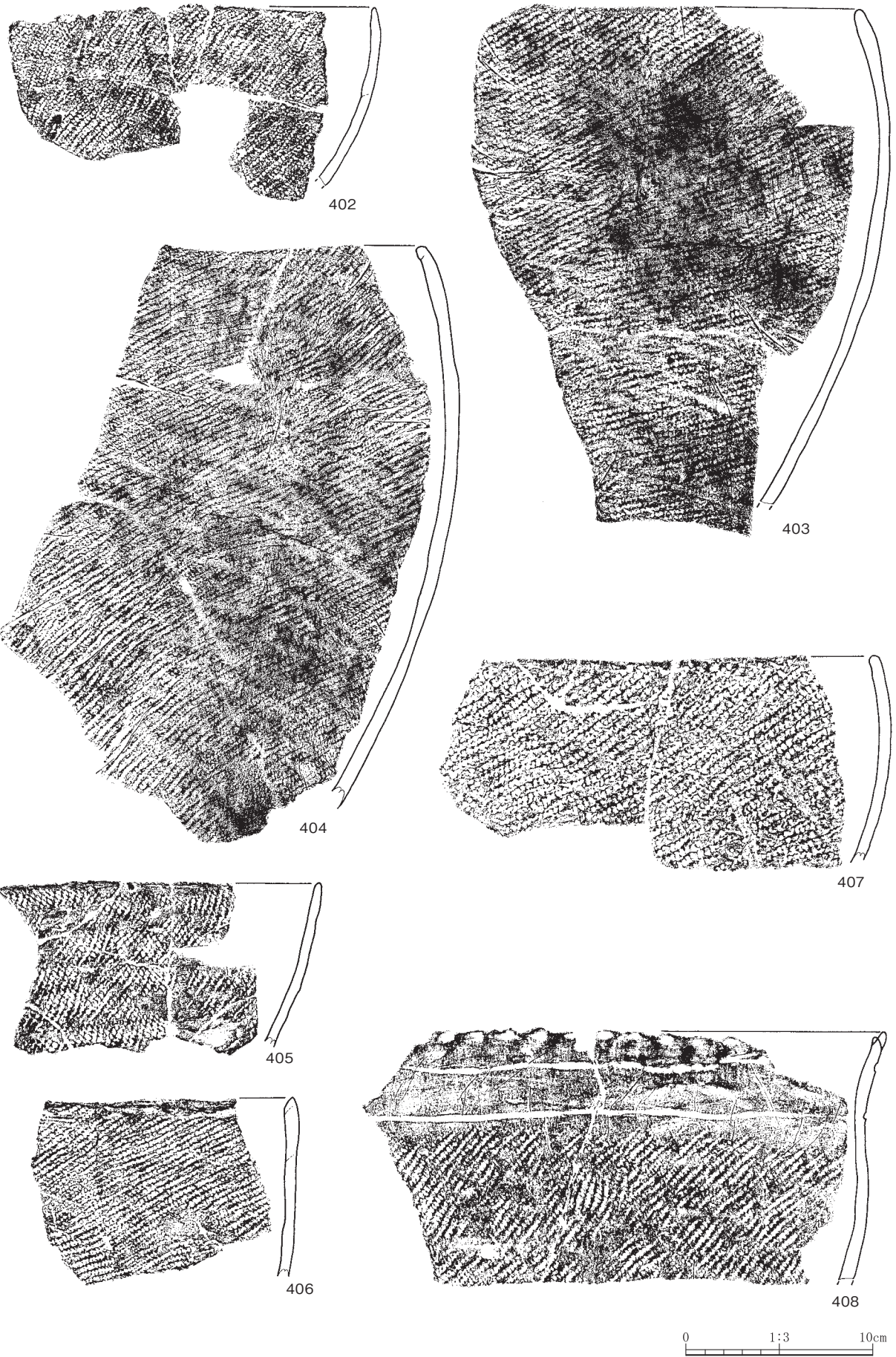


401

0 1:3 10cm

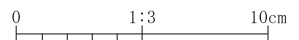
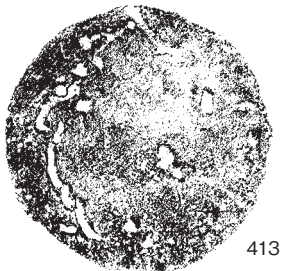
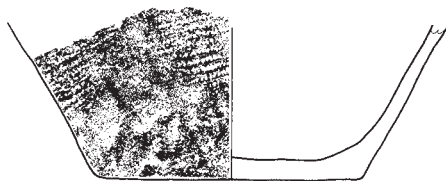
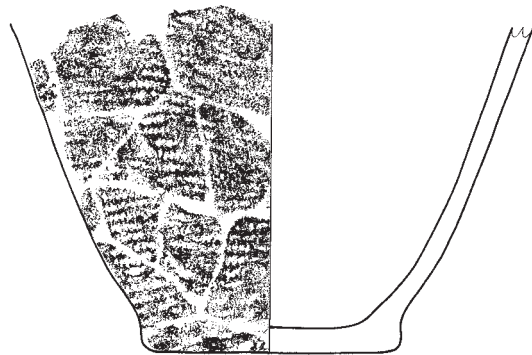
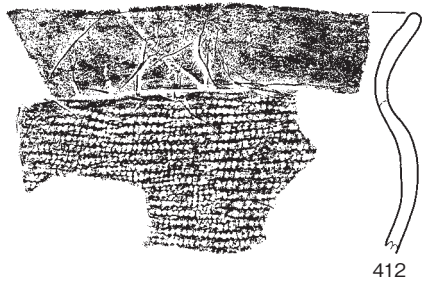
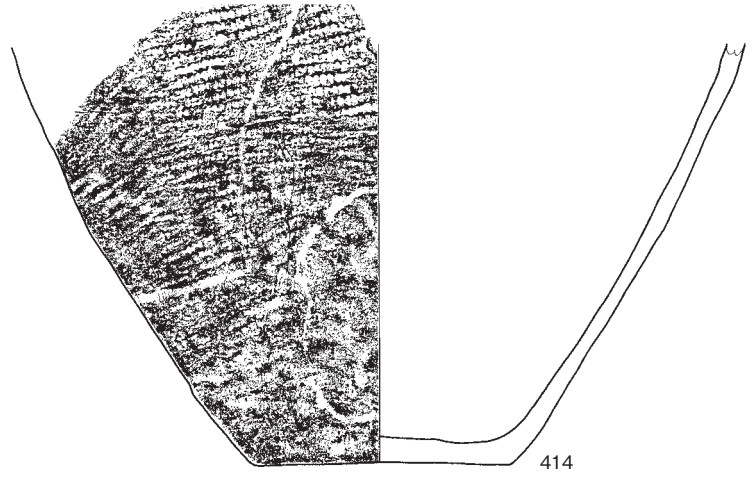
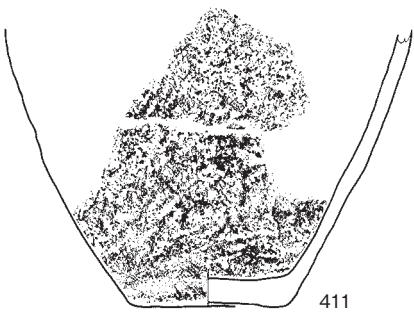
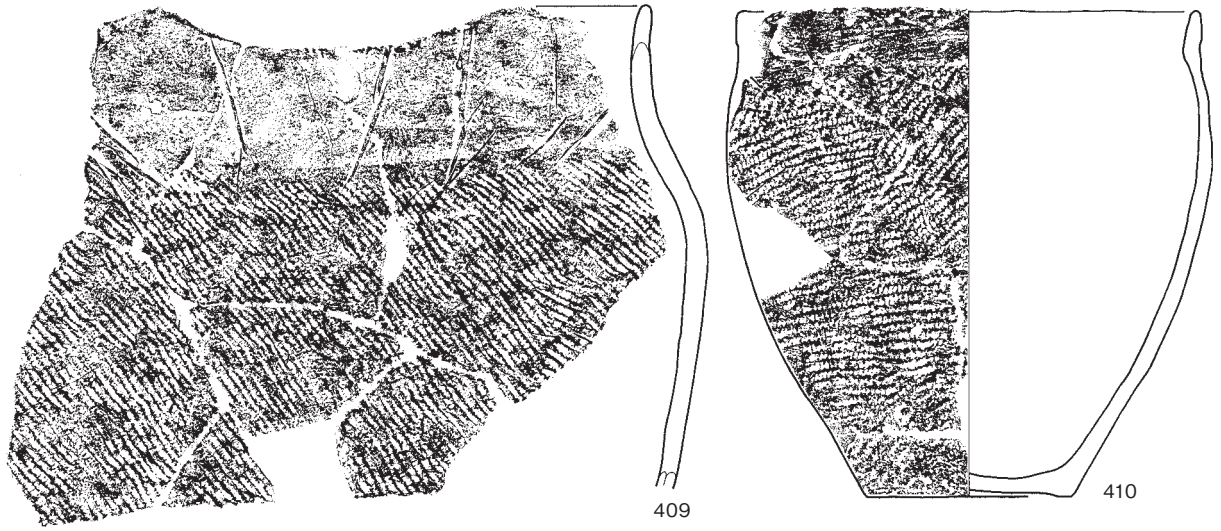
第 74 图 西区·3B 区 (15)



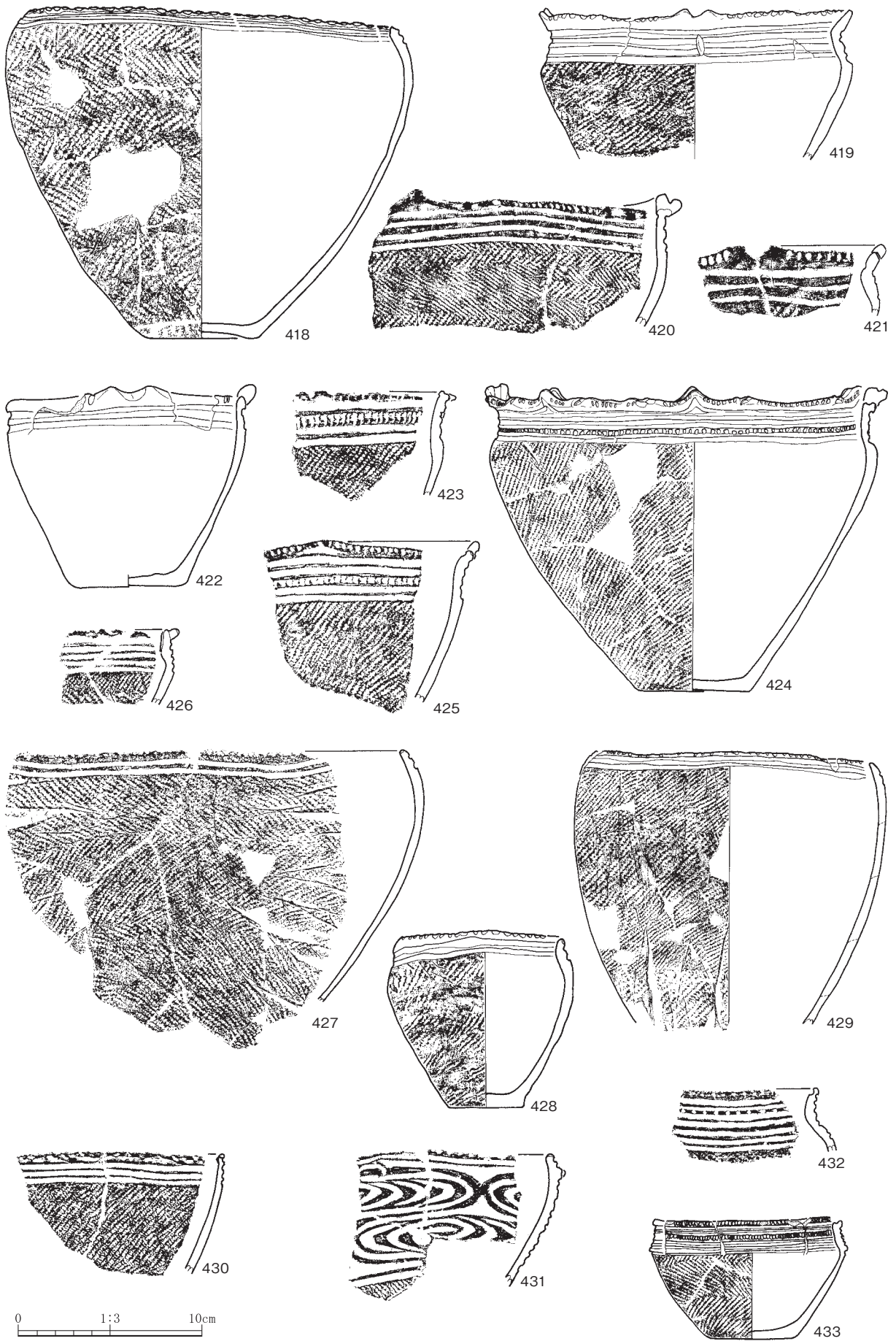


第 75 图 西区·3B 区 (16)



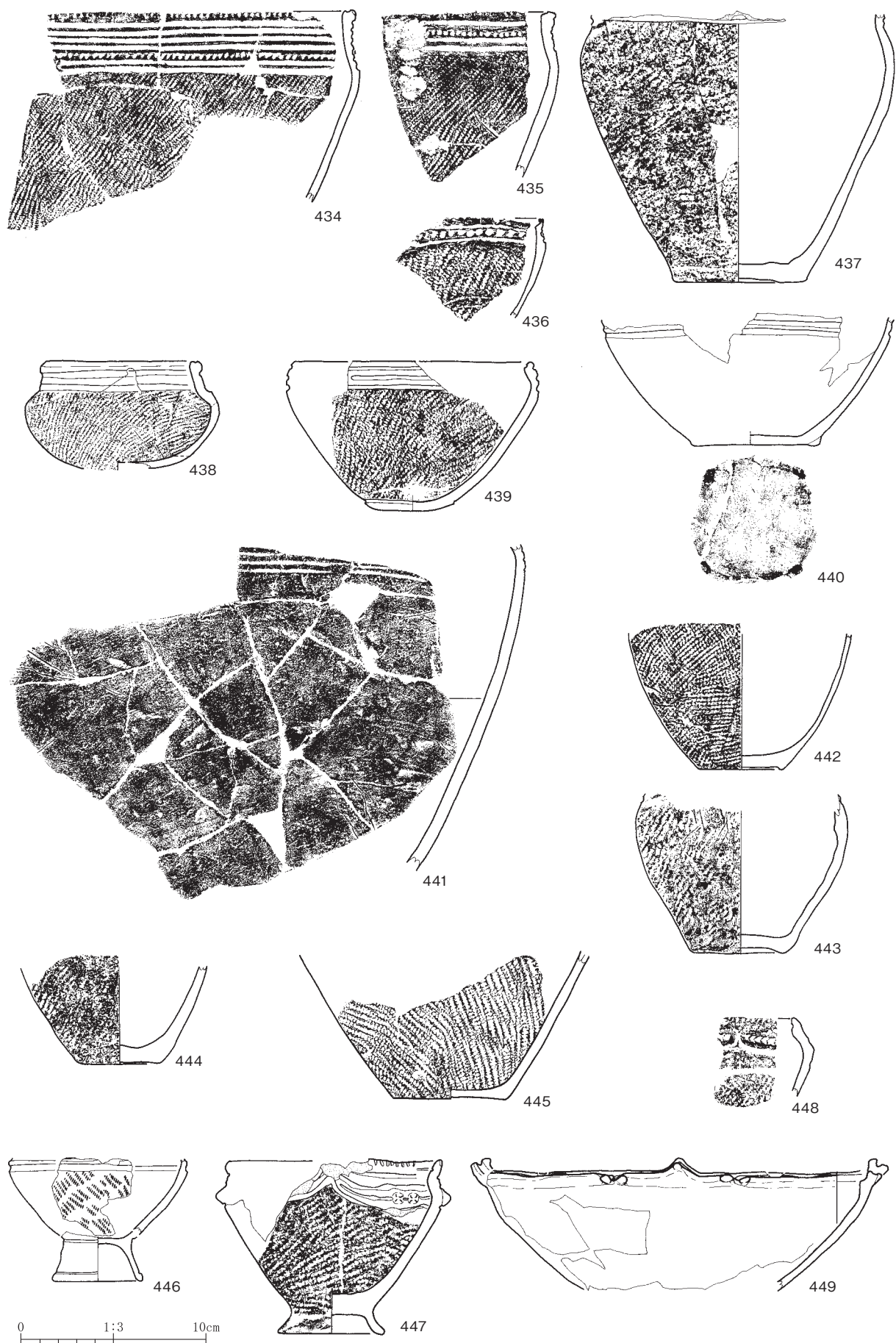


第76图 西区·3B区(17)

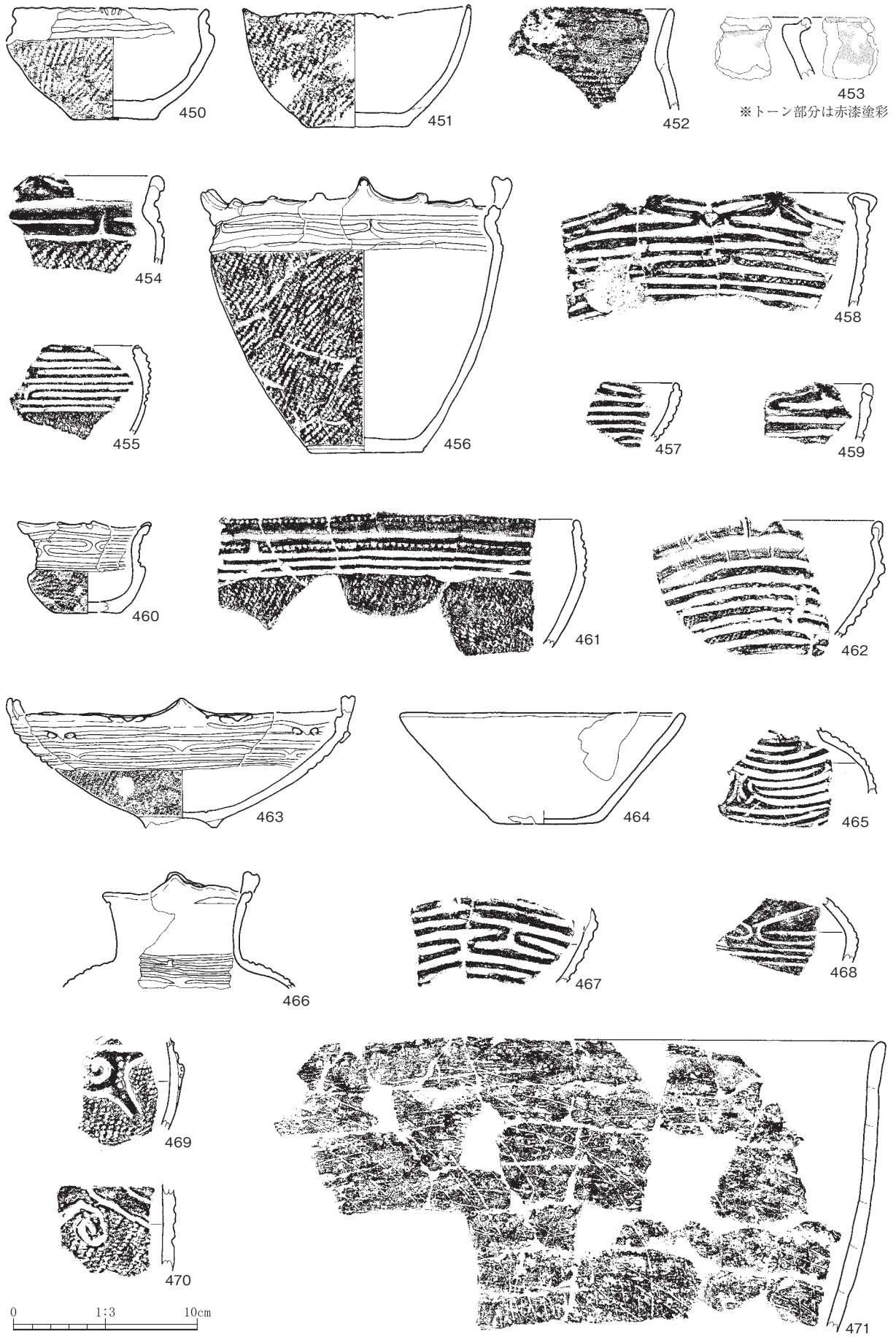


第 77 图 西区·3B 区 (18)



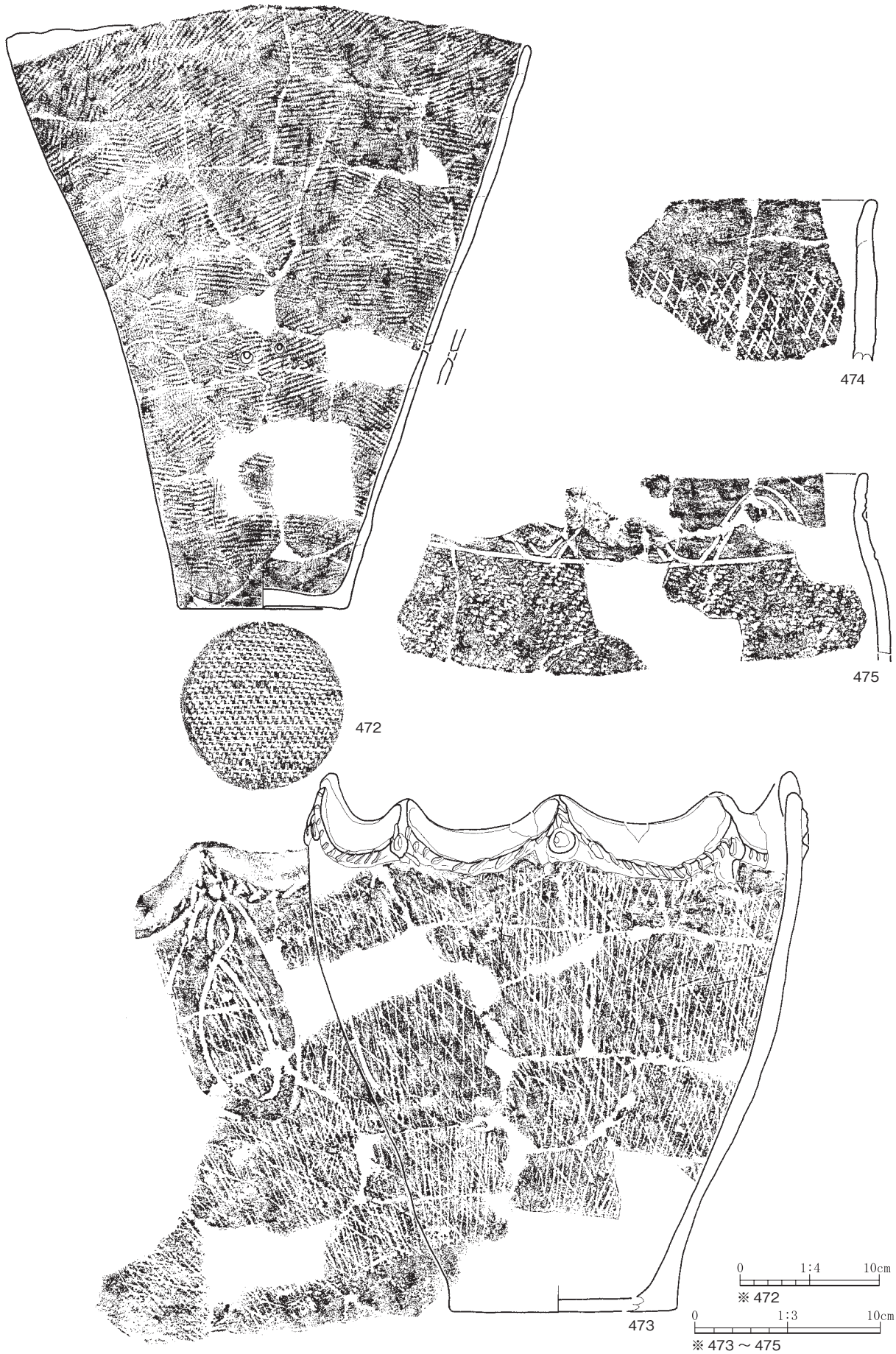


第 78 图 西区·3B 区 (19)



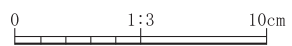
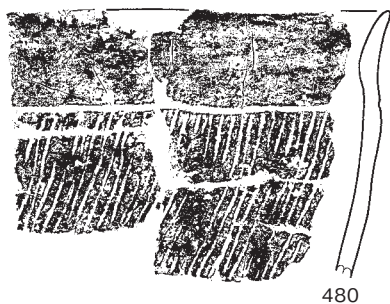
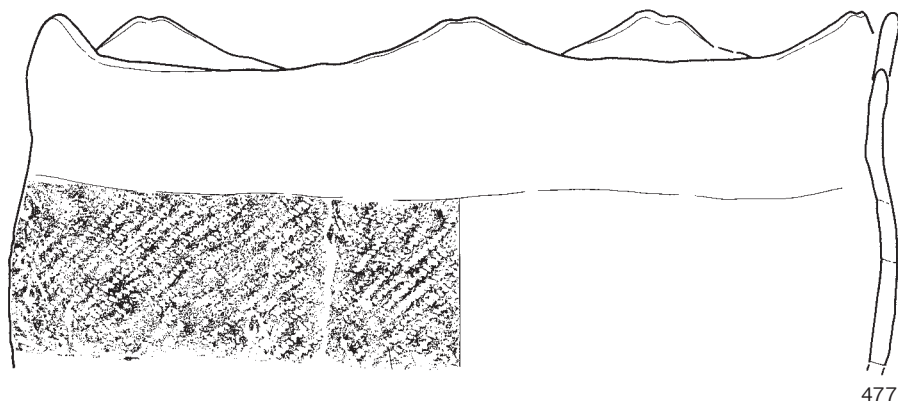
第 79 図 西区・3B 区 (20)



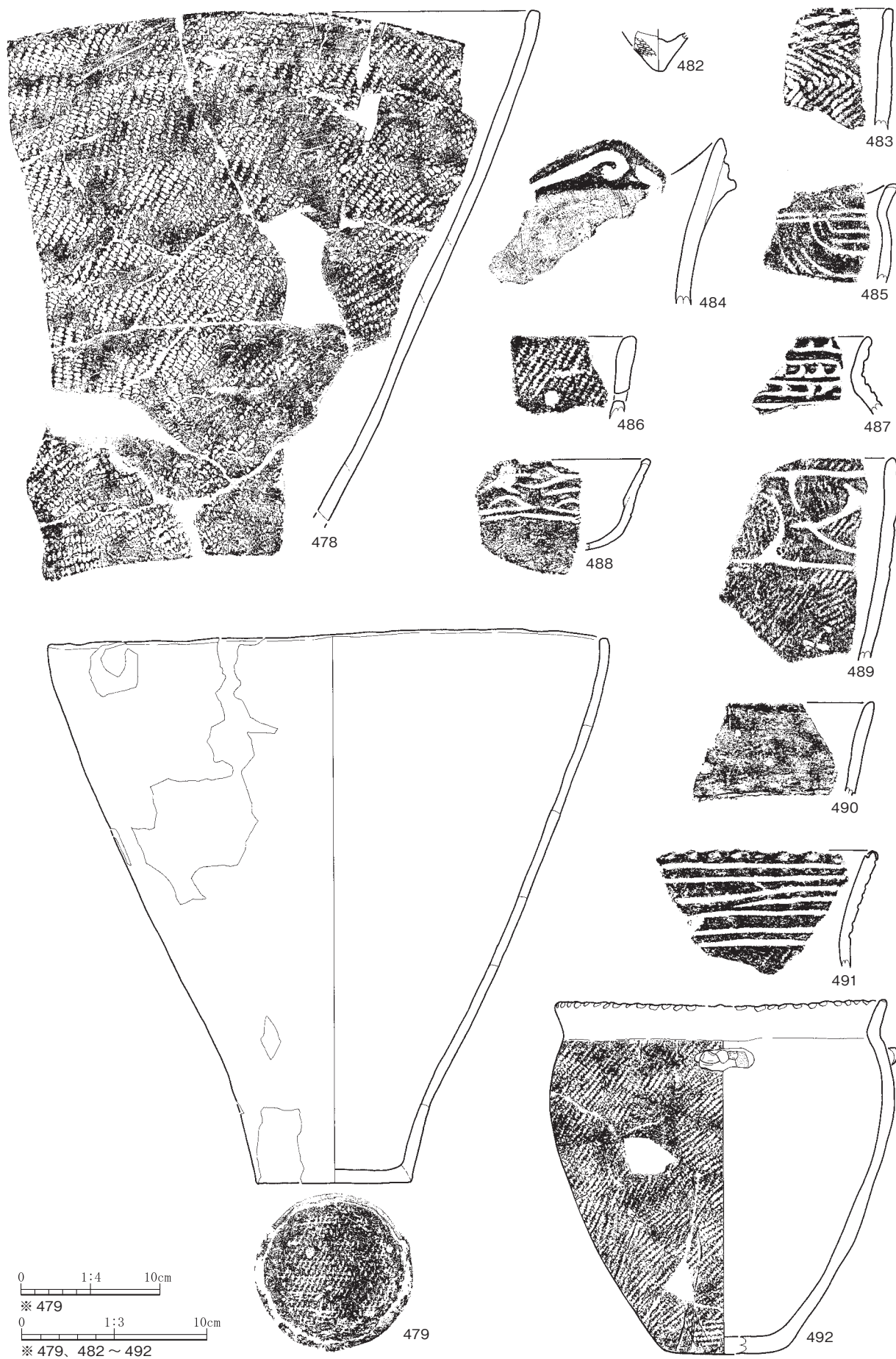


第 80 图 西区·3B 区 (21)



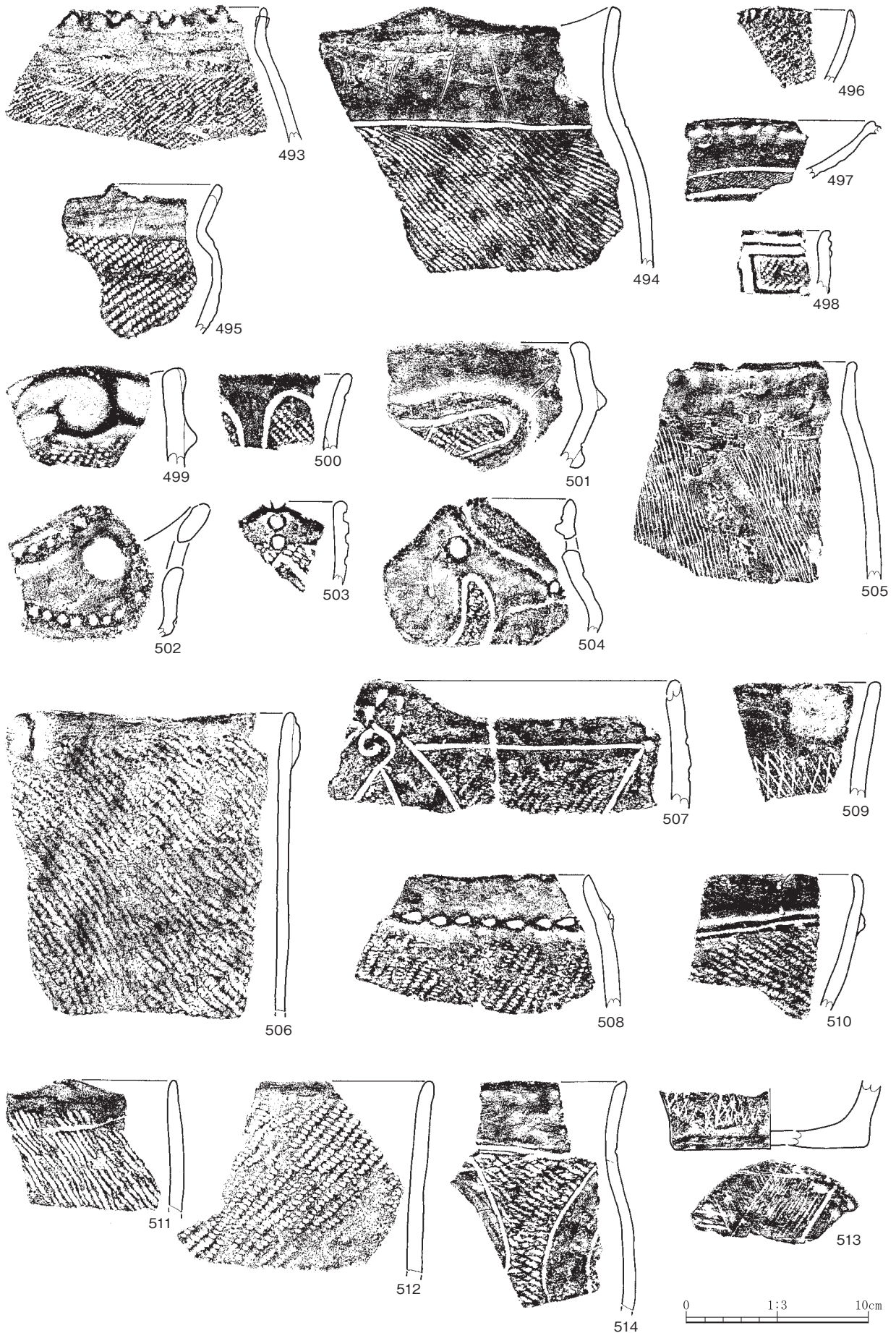


第 81 图 西区·3B 区 (22)



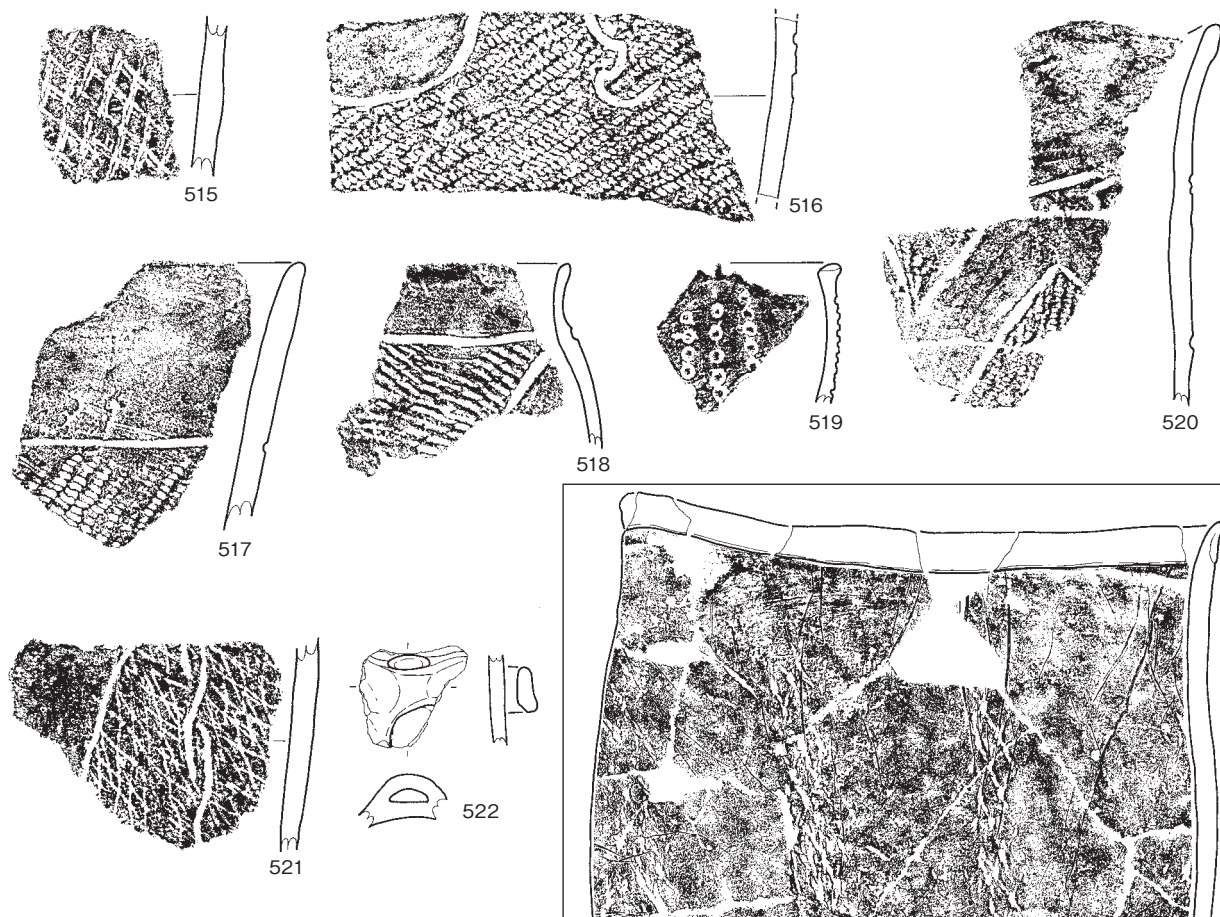
第 82 图 西区·3B 区 (23)



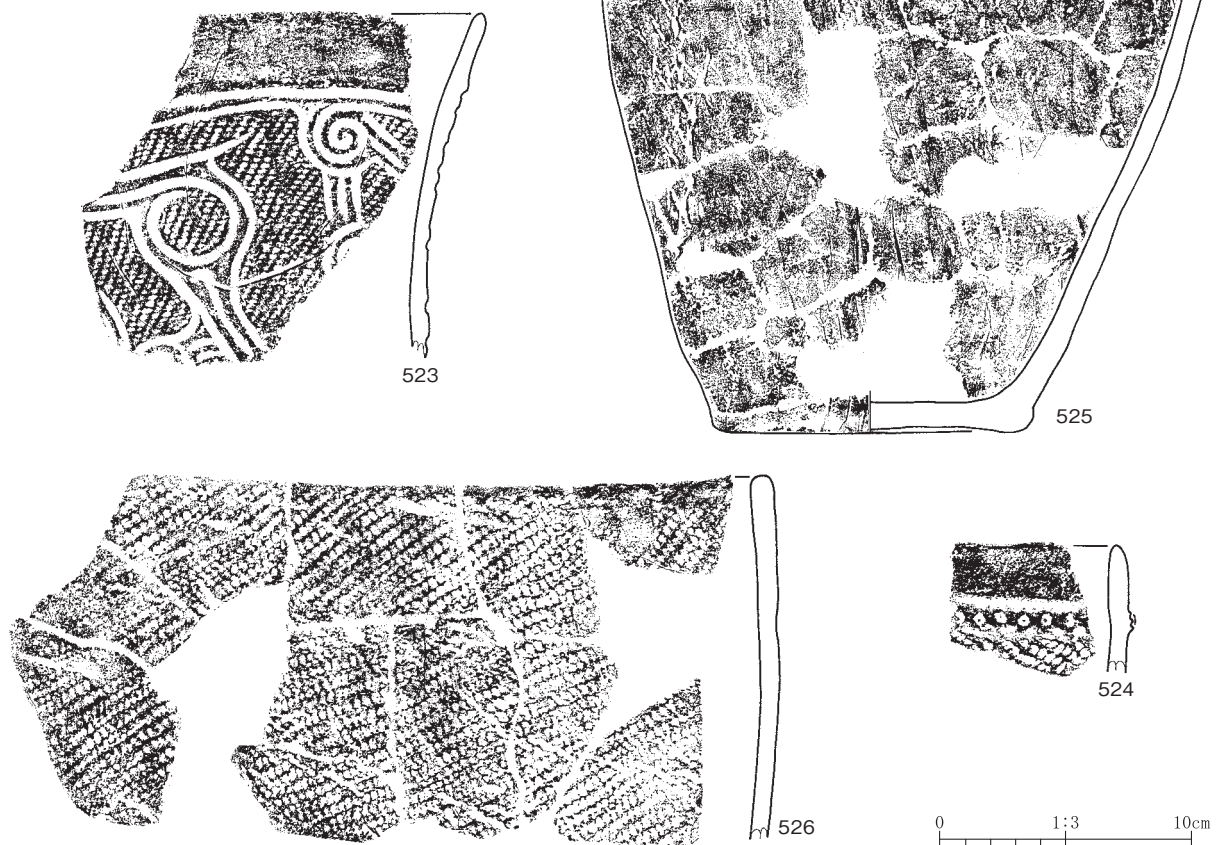


第 83 图 西区·3B 区 (24)





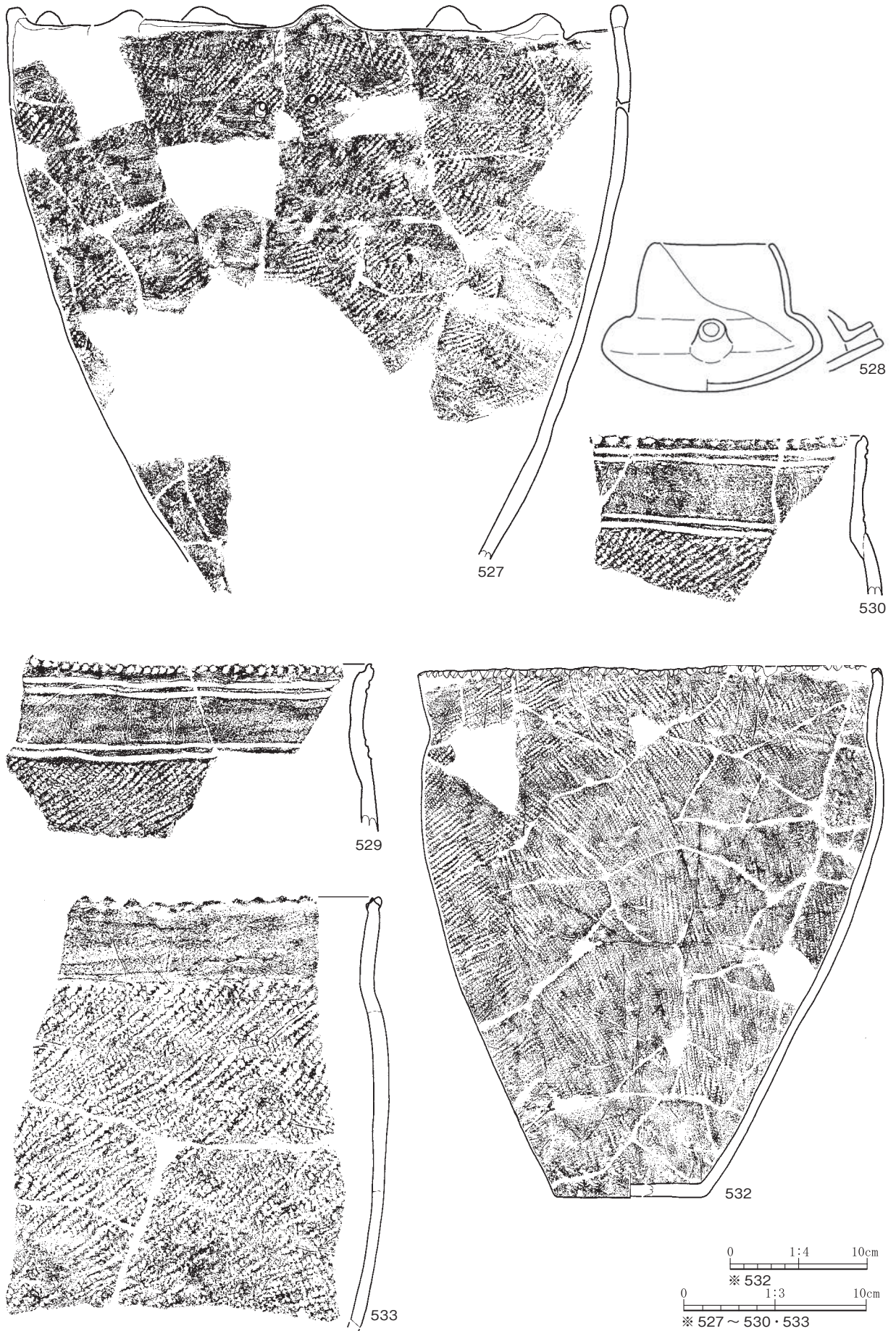
3C区 (523 ~ 588)



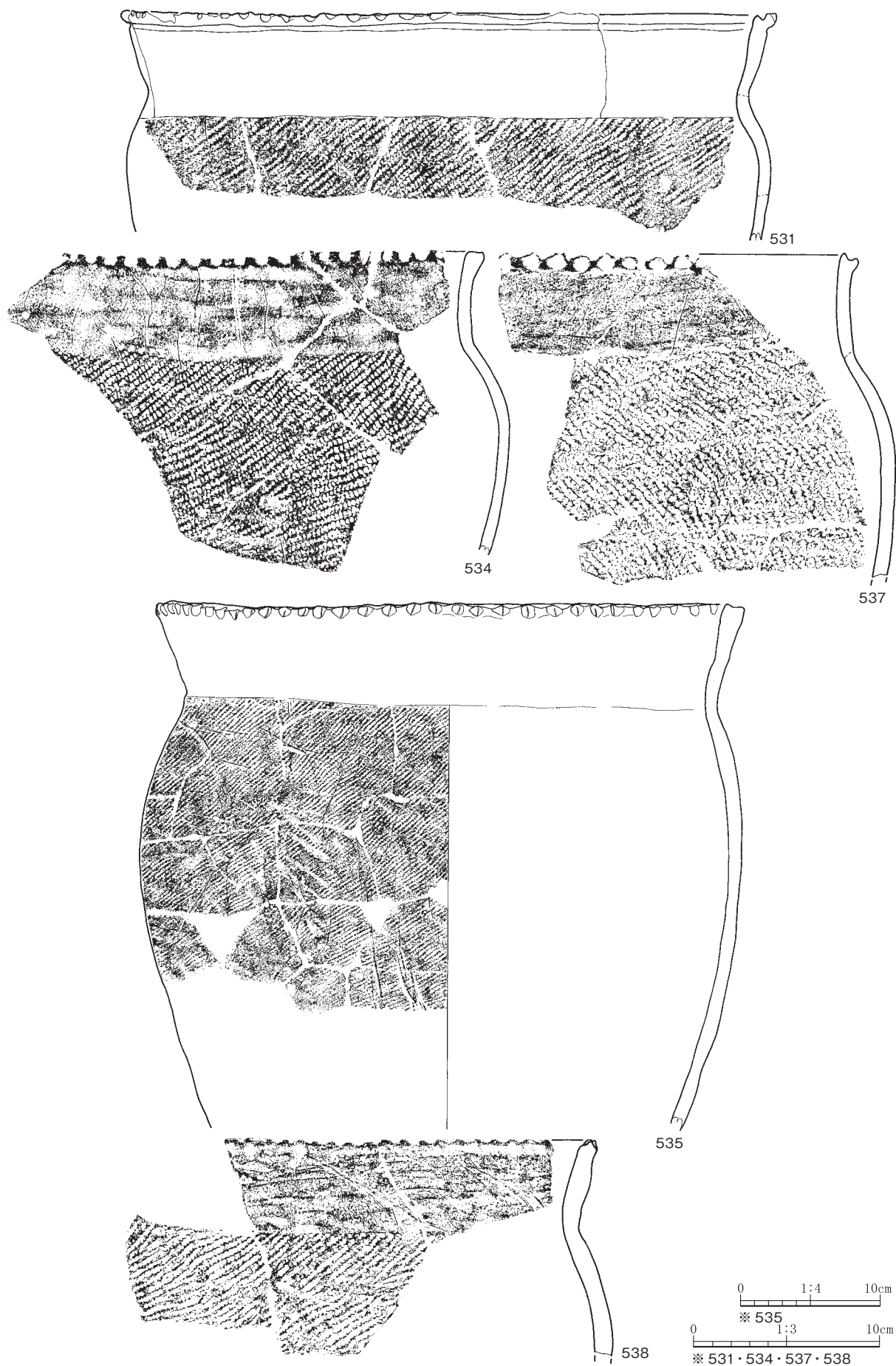
0 1:3 10cm

第 84 图 西区·3B区(25)·3C区(1)



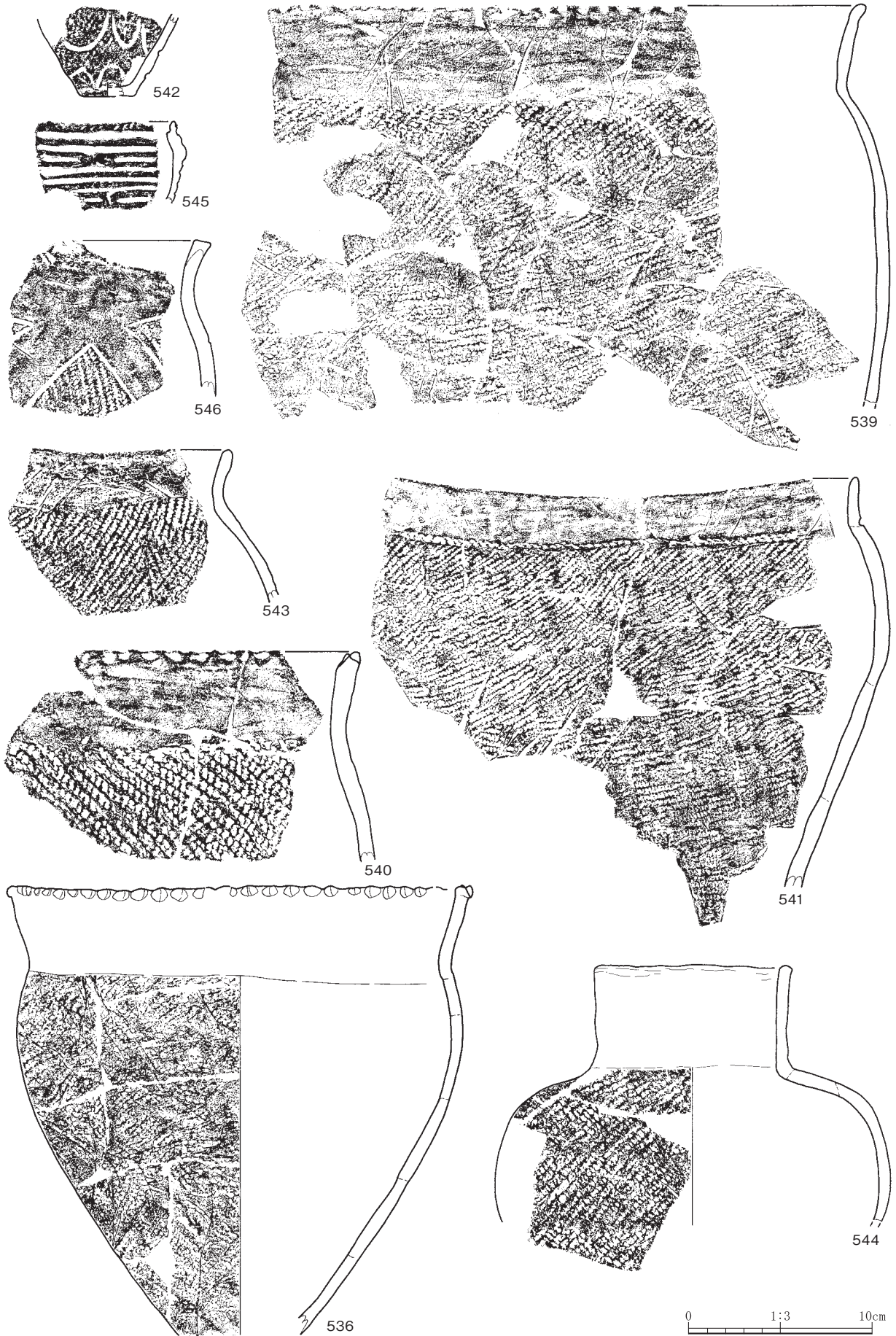


第 85 図 西区・3C 区 (2)



第 86 图 西区·3C 区 (3)



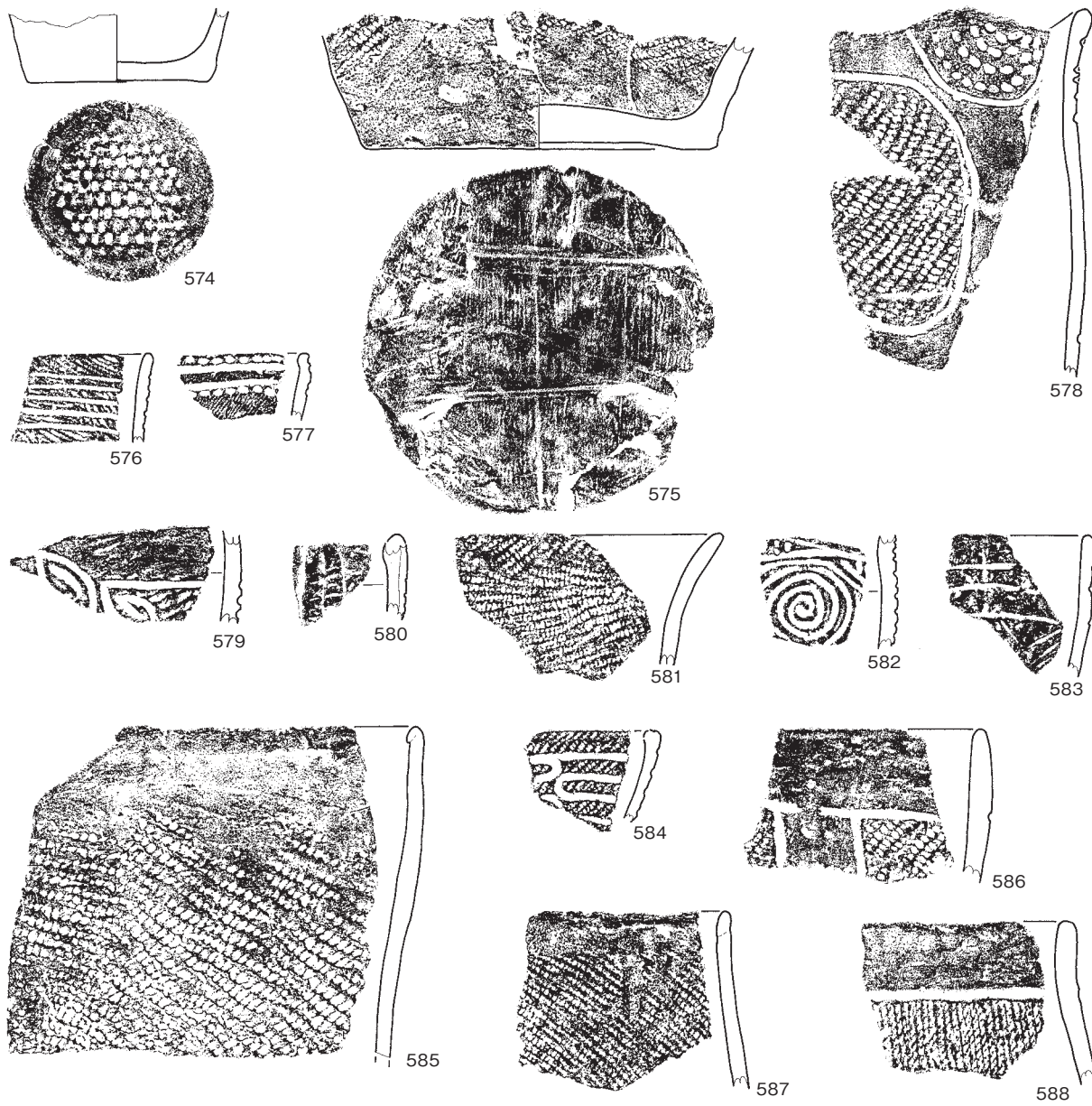


第 87 图 西区·3C 区 (4)

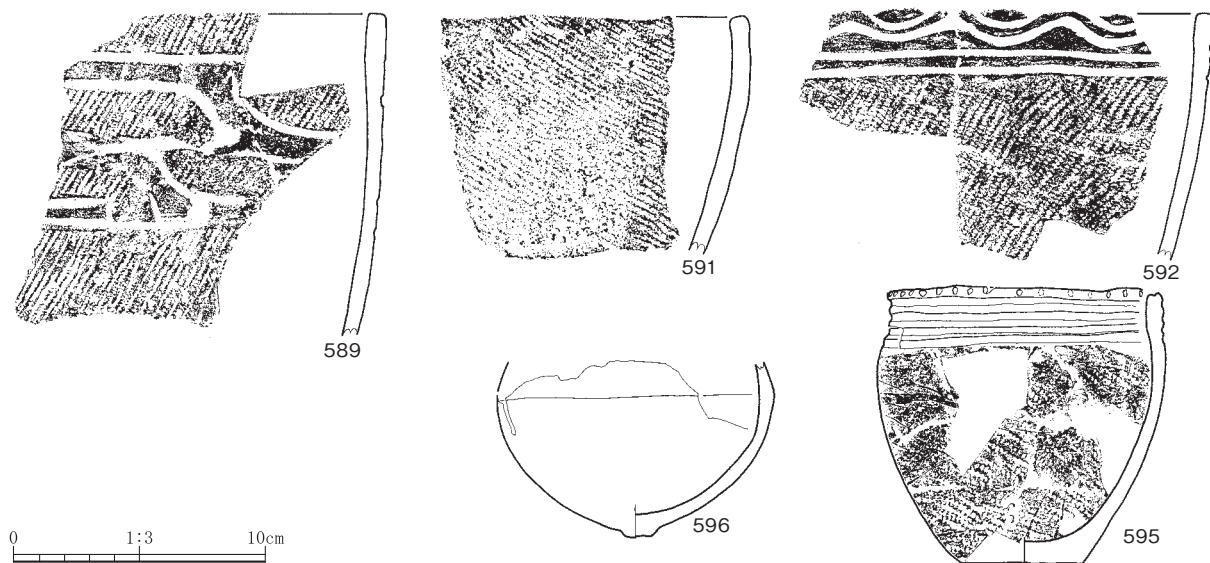


第 88 图 西区·3C 区 (5)





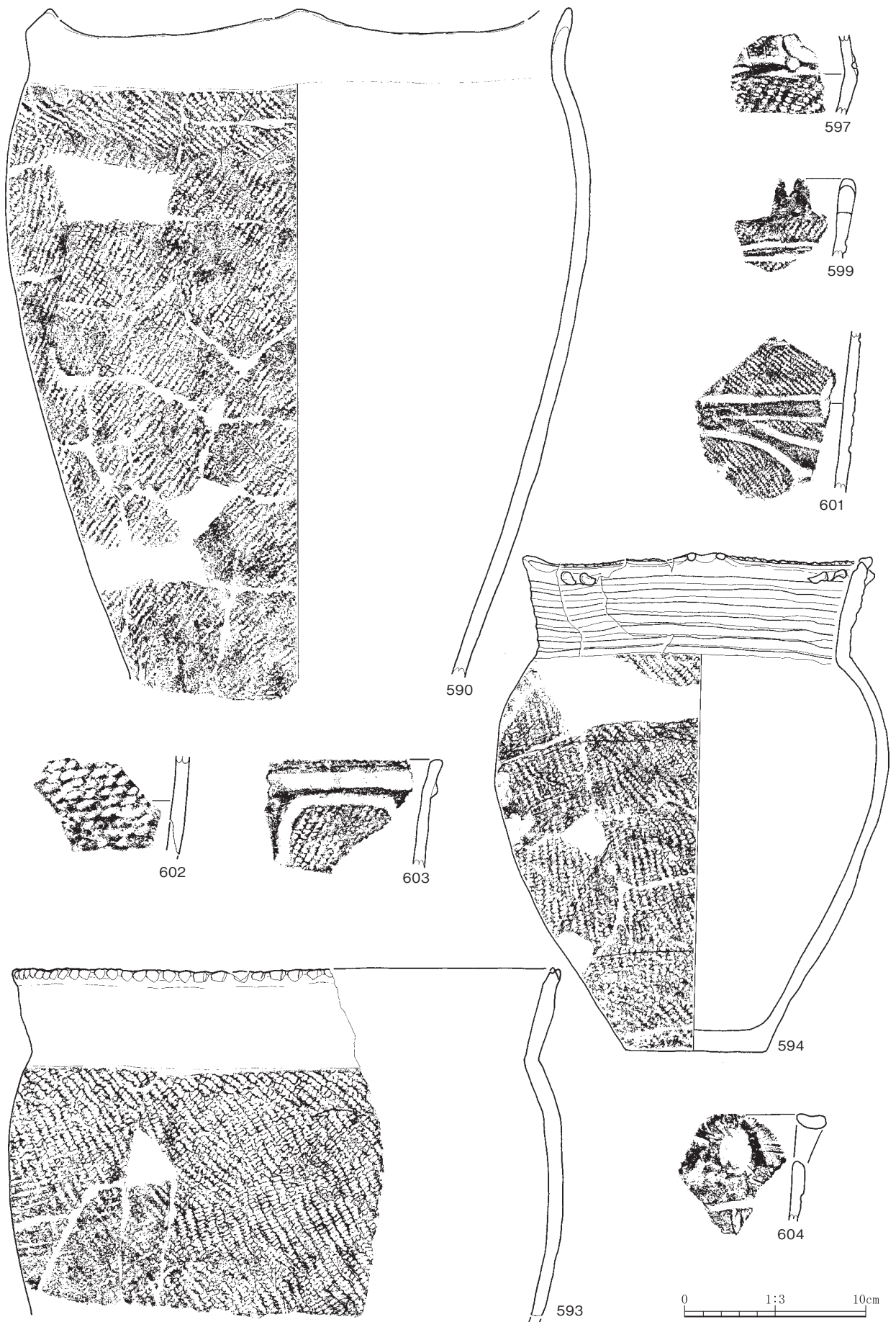
3D区 (589 ~ 621)



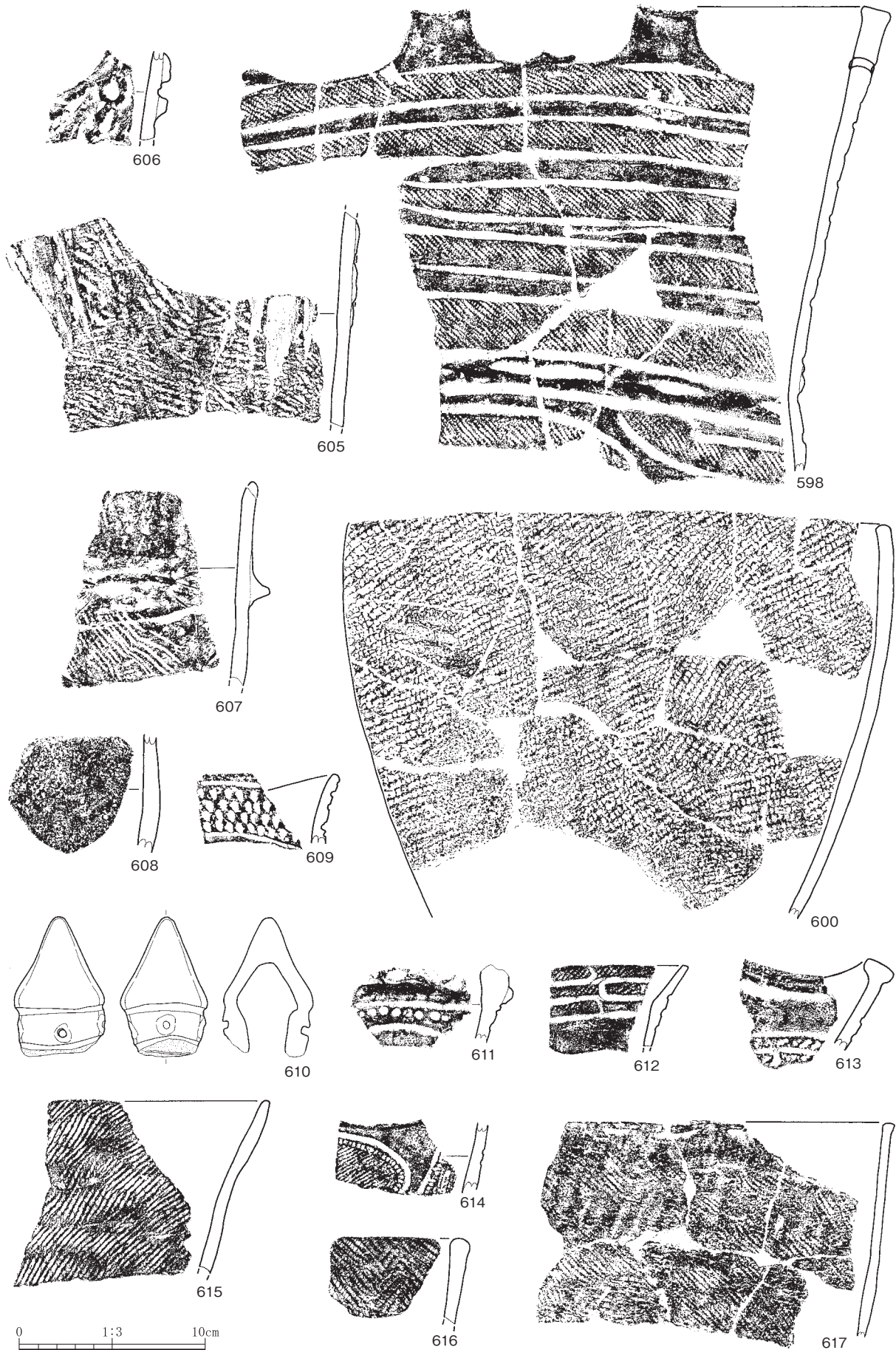
0 1:3 10cm

第 89 图 西区・3C 区 (6)・3D 区 (1)





第90图 西区·3D区(2)

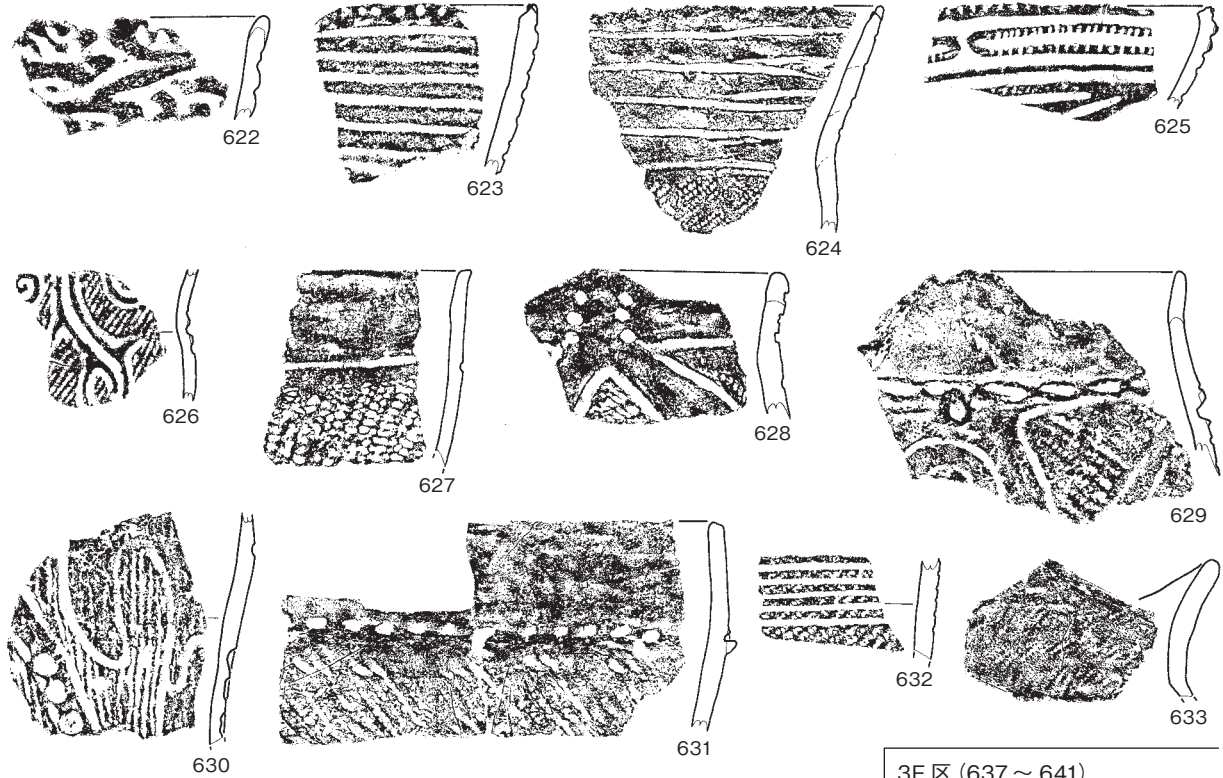


第91图 西区·3D区(3)

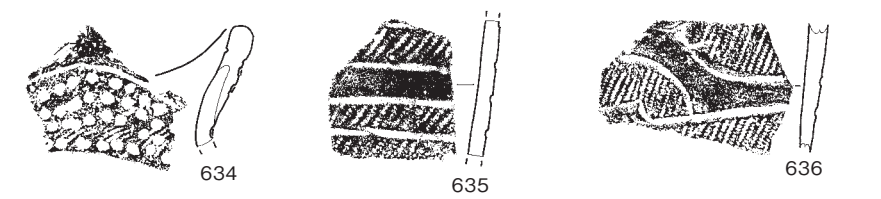
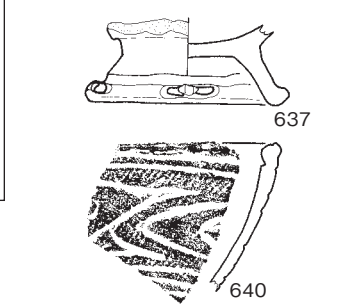




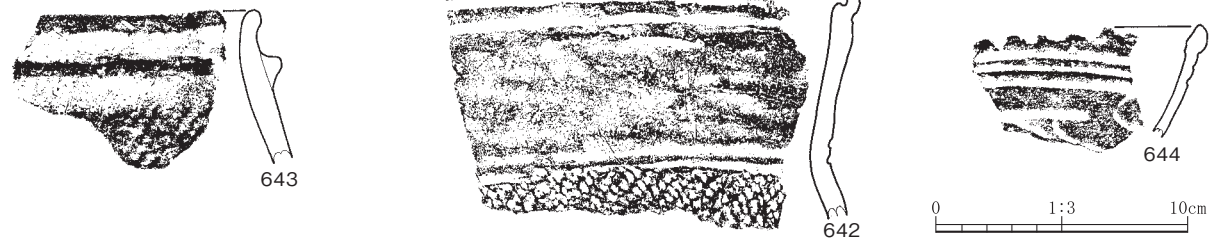
3E 区 (622 ~ 636)



3F 区 (637 ~ 641)



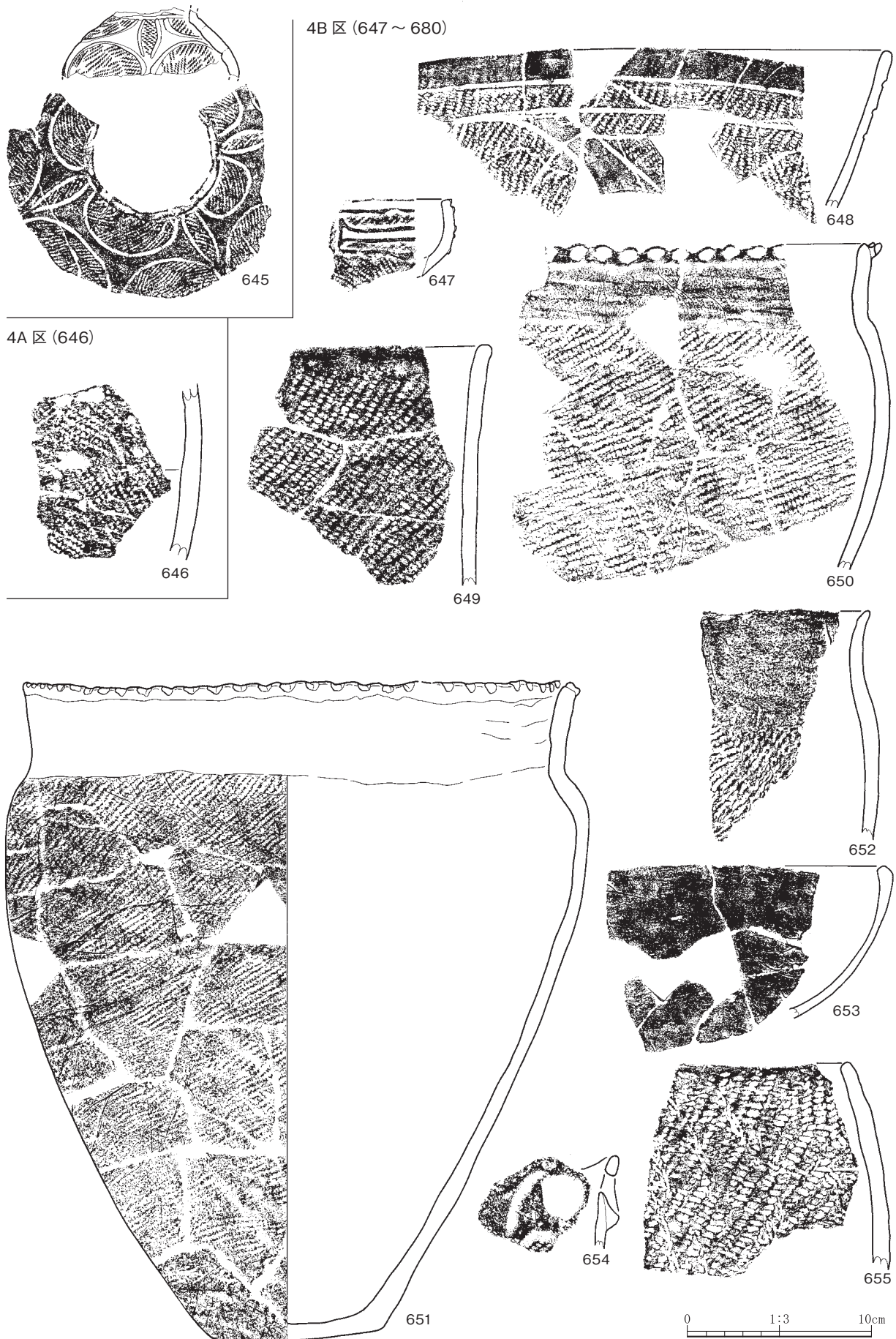
3G 区 (642 ~ 645)



0 1:3 10cm

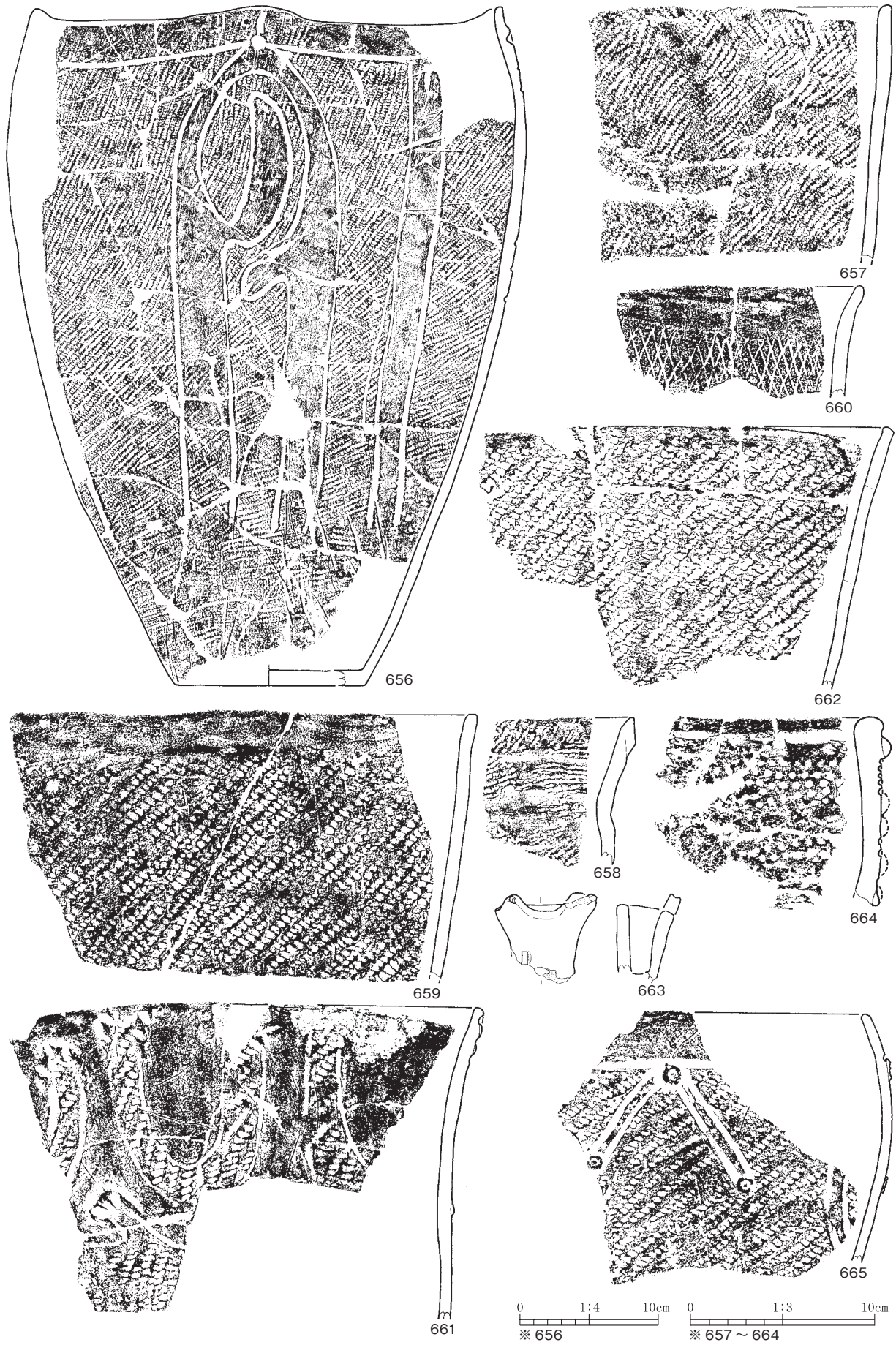
第 92 图 西区·3D 区(4)·3E 区·3F 区·3G 区(1)





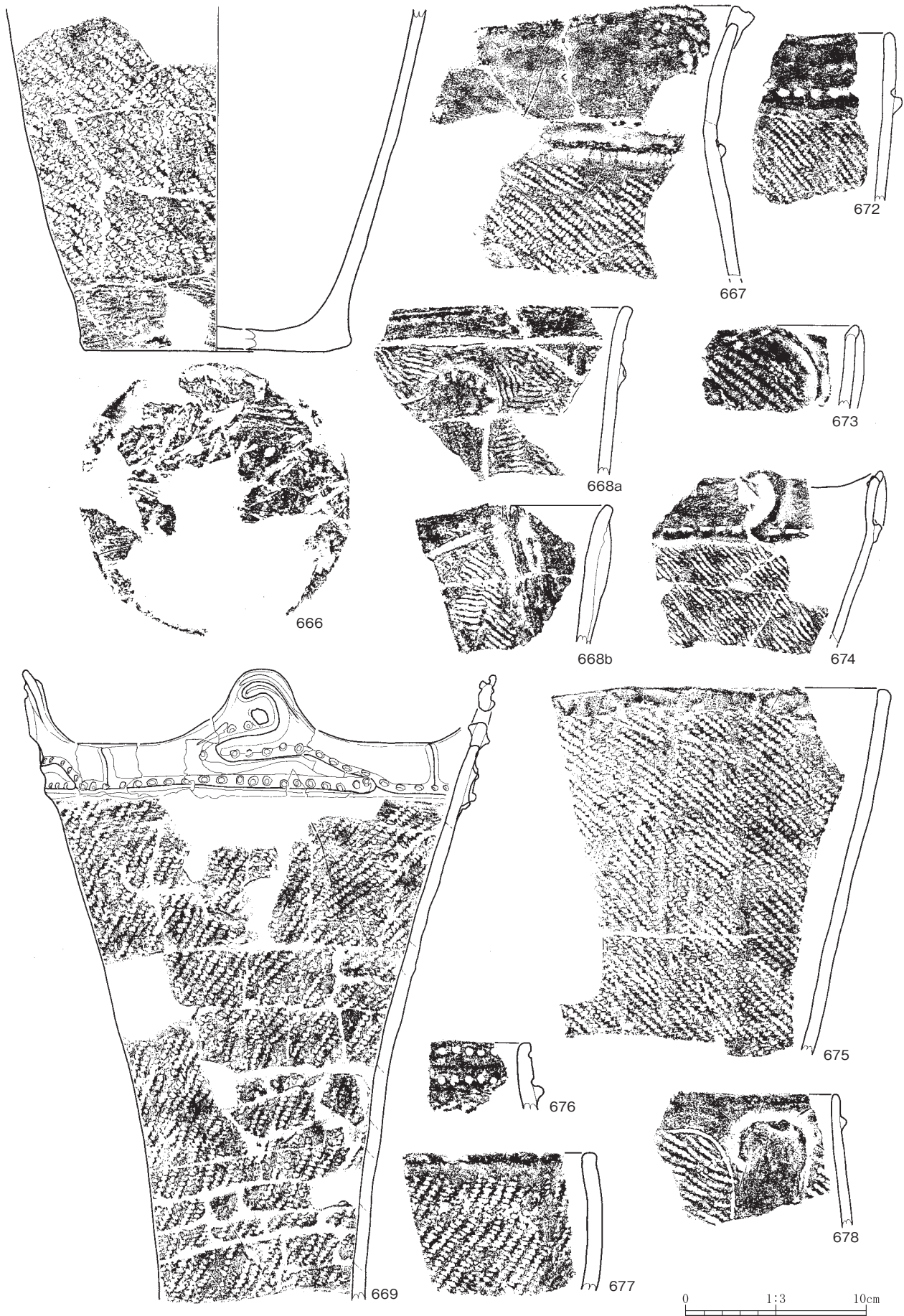
第93图 西区·3G区(2)·4A区·4B区(1)





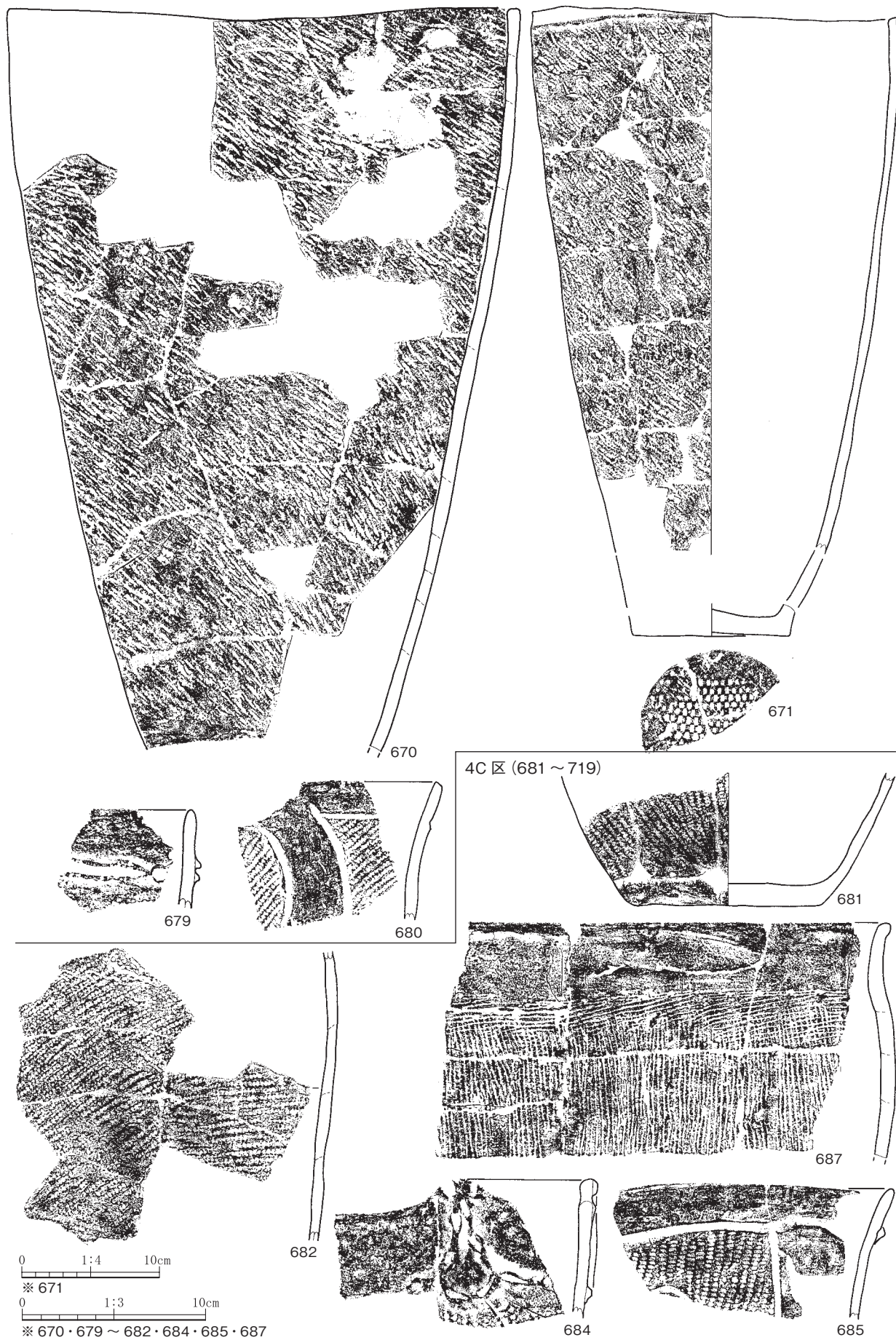
第94图 西区·4B区(2)



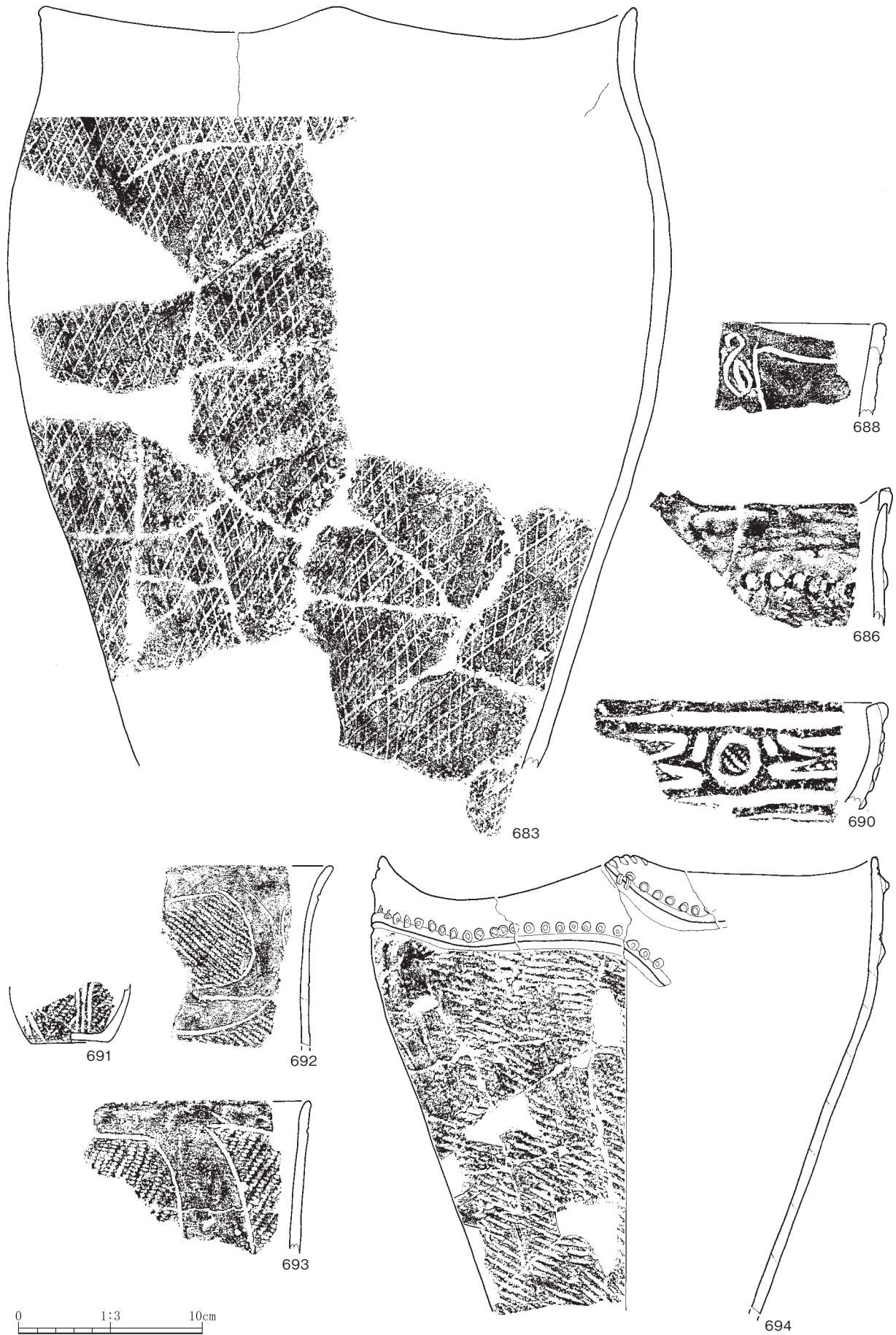


第95图 西区·4B区(3)



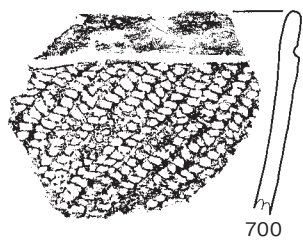
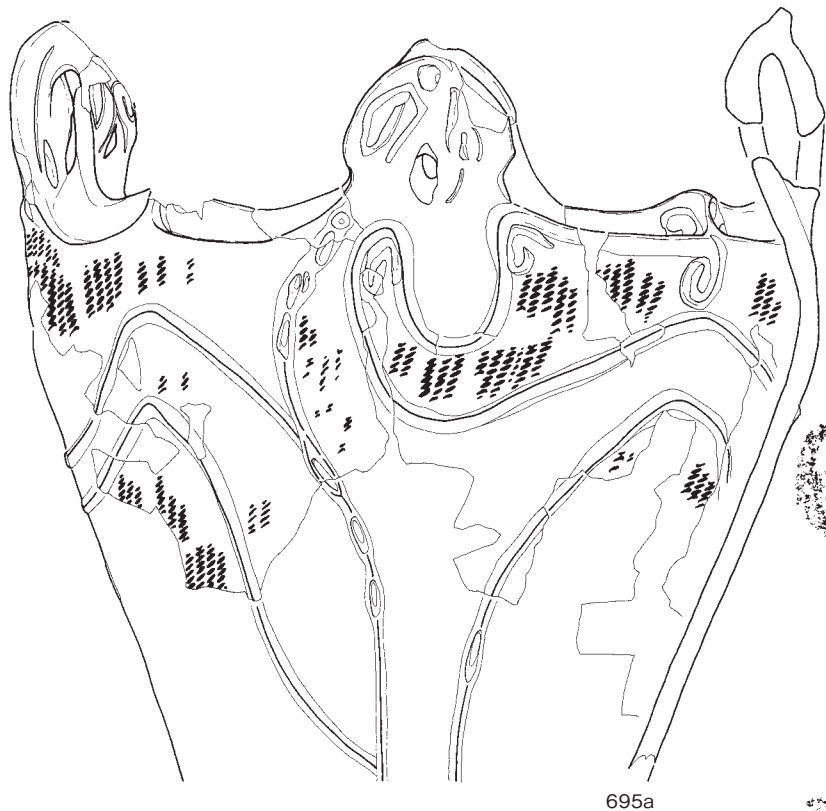
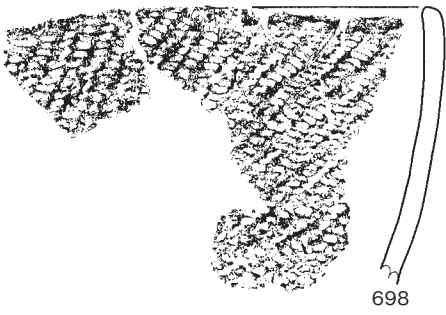


第96图 西区·4B区(4)·4C区(1)



第 97 图 西区·4C 区 (2)

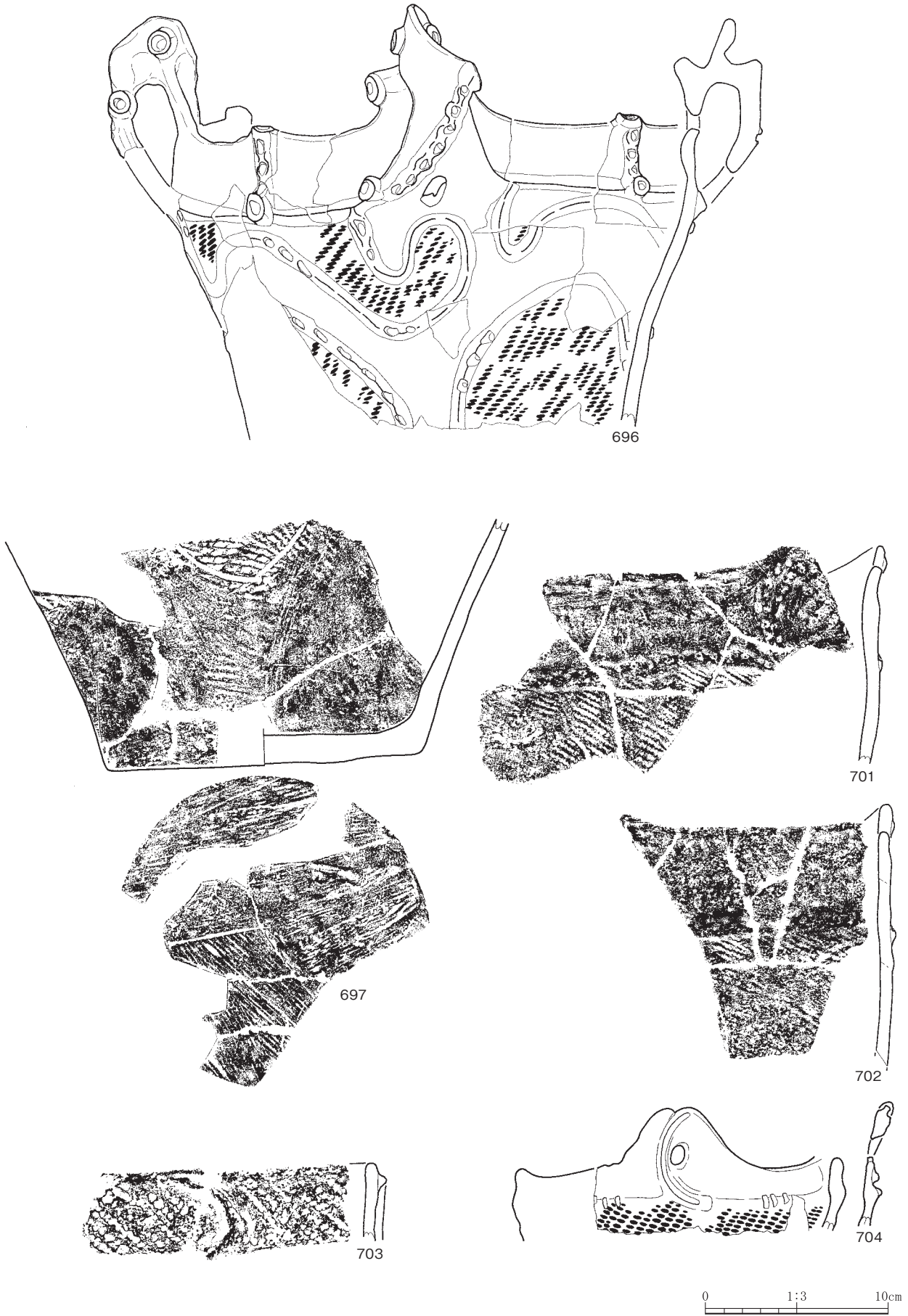




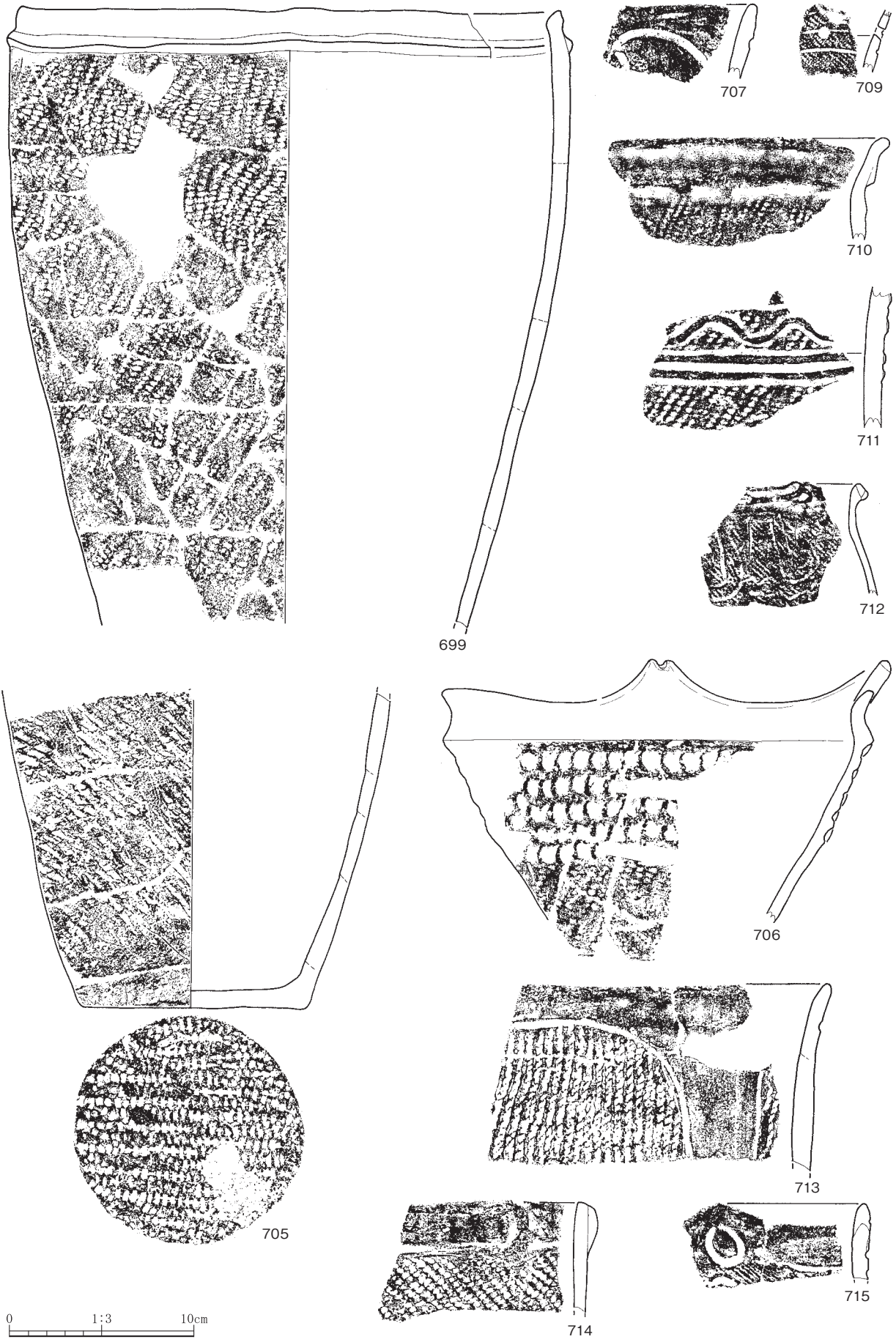
0 1:3 10cm

第98图 西区·4C区(3)



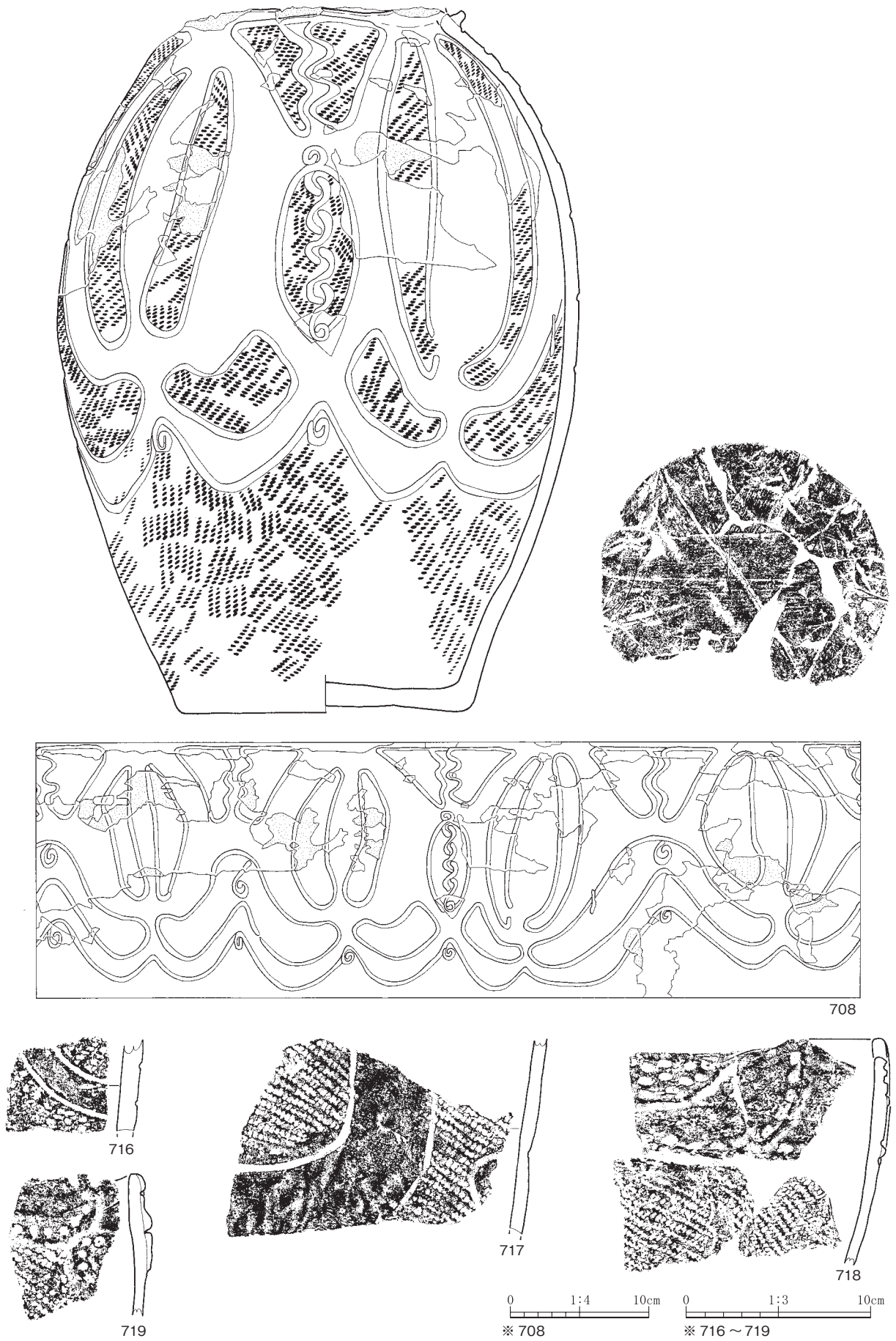


第99图 西区·4C区(4)



第100图 西区·4C区(5)

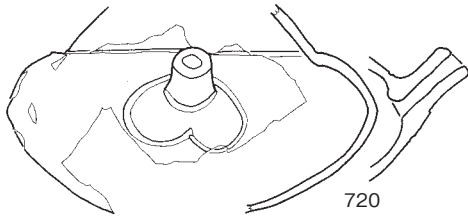




第101图 西区·4C区(6)



4D区 (720 ~ 731)



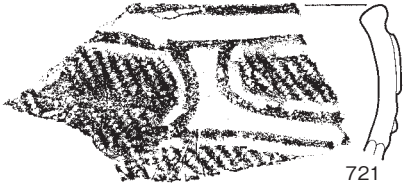
720



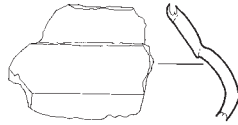
722



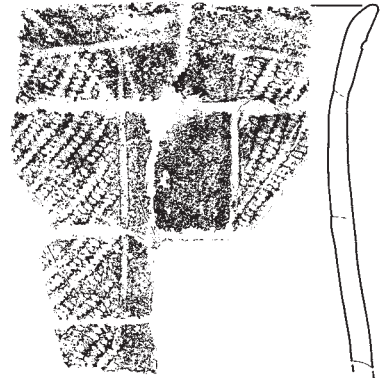
724



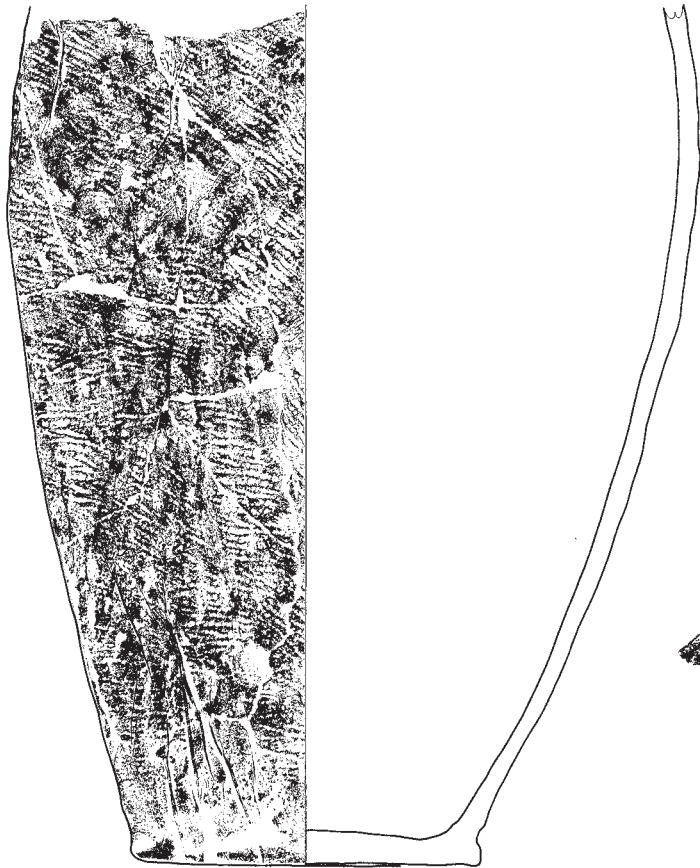
721



723

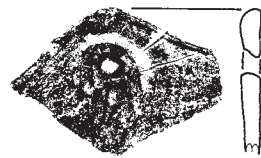


725

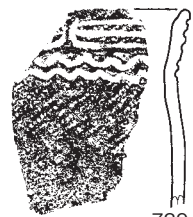


727

※トーン部分は赤漆附着



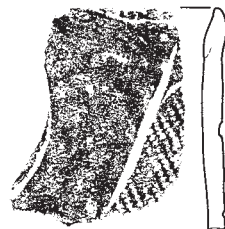
728



729



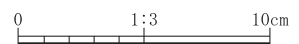
726



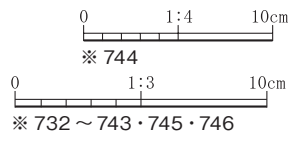
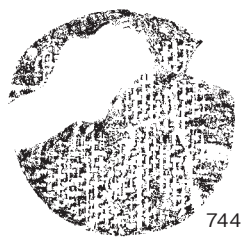
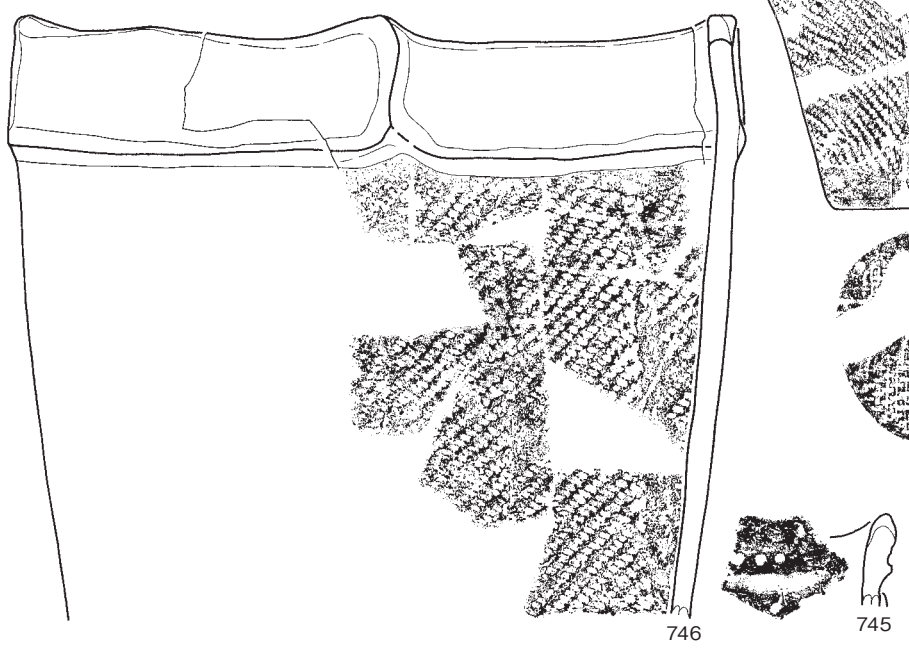
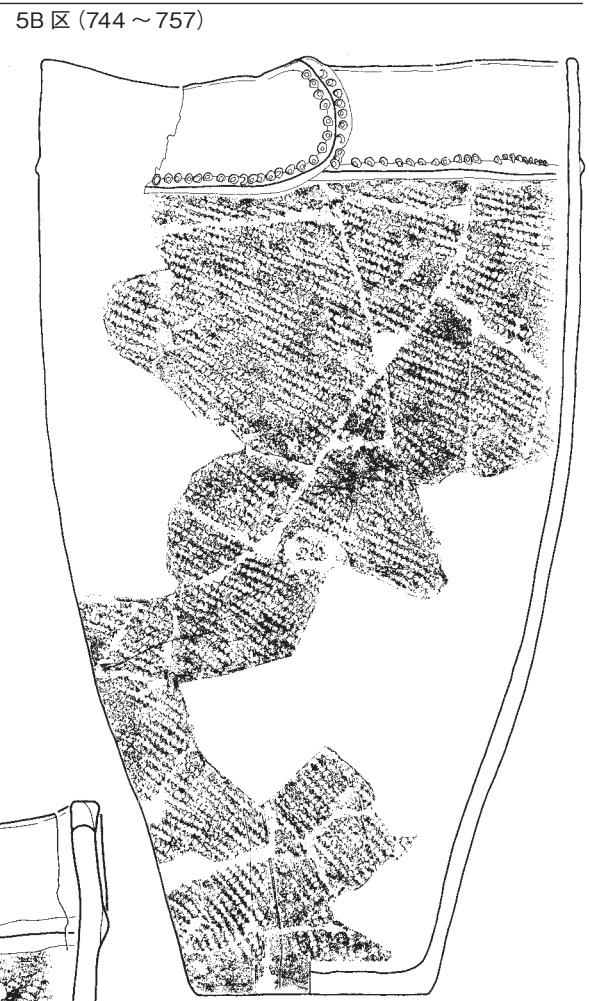
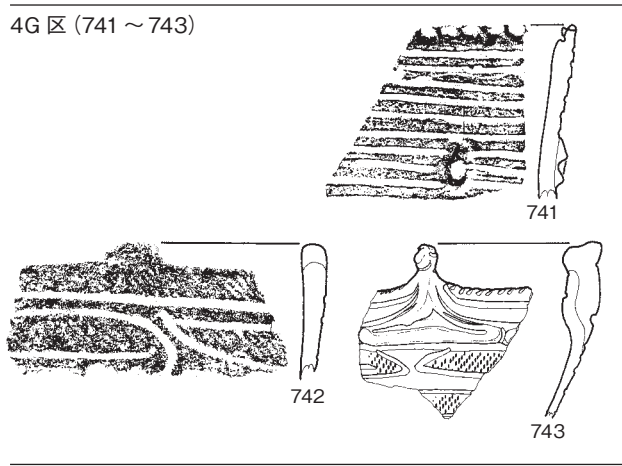
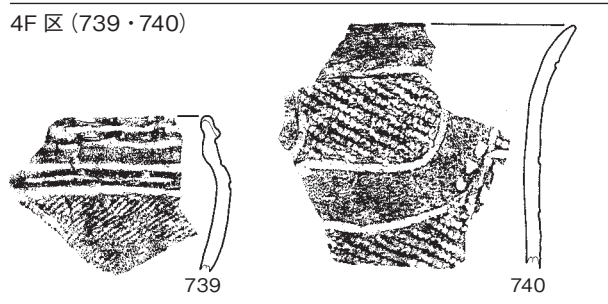
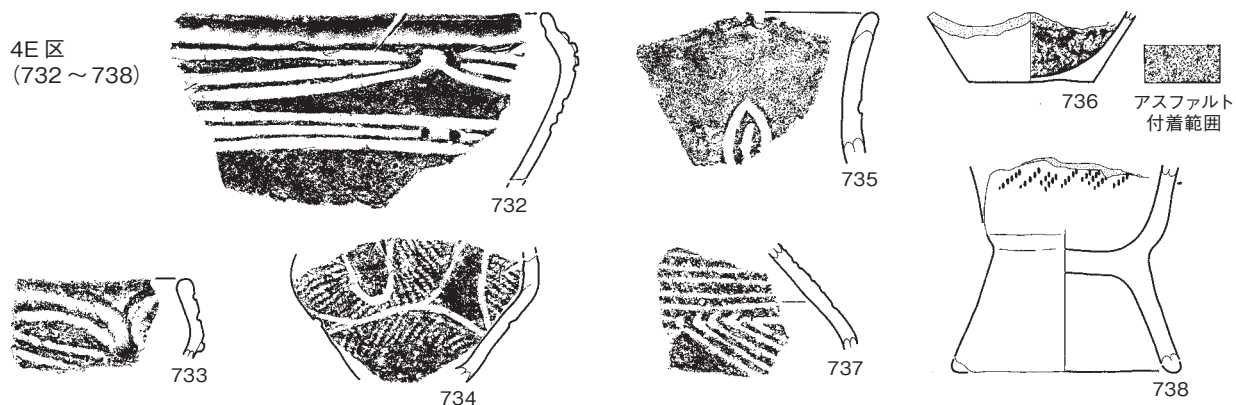
730



731

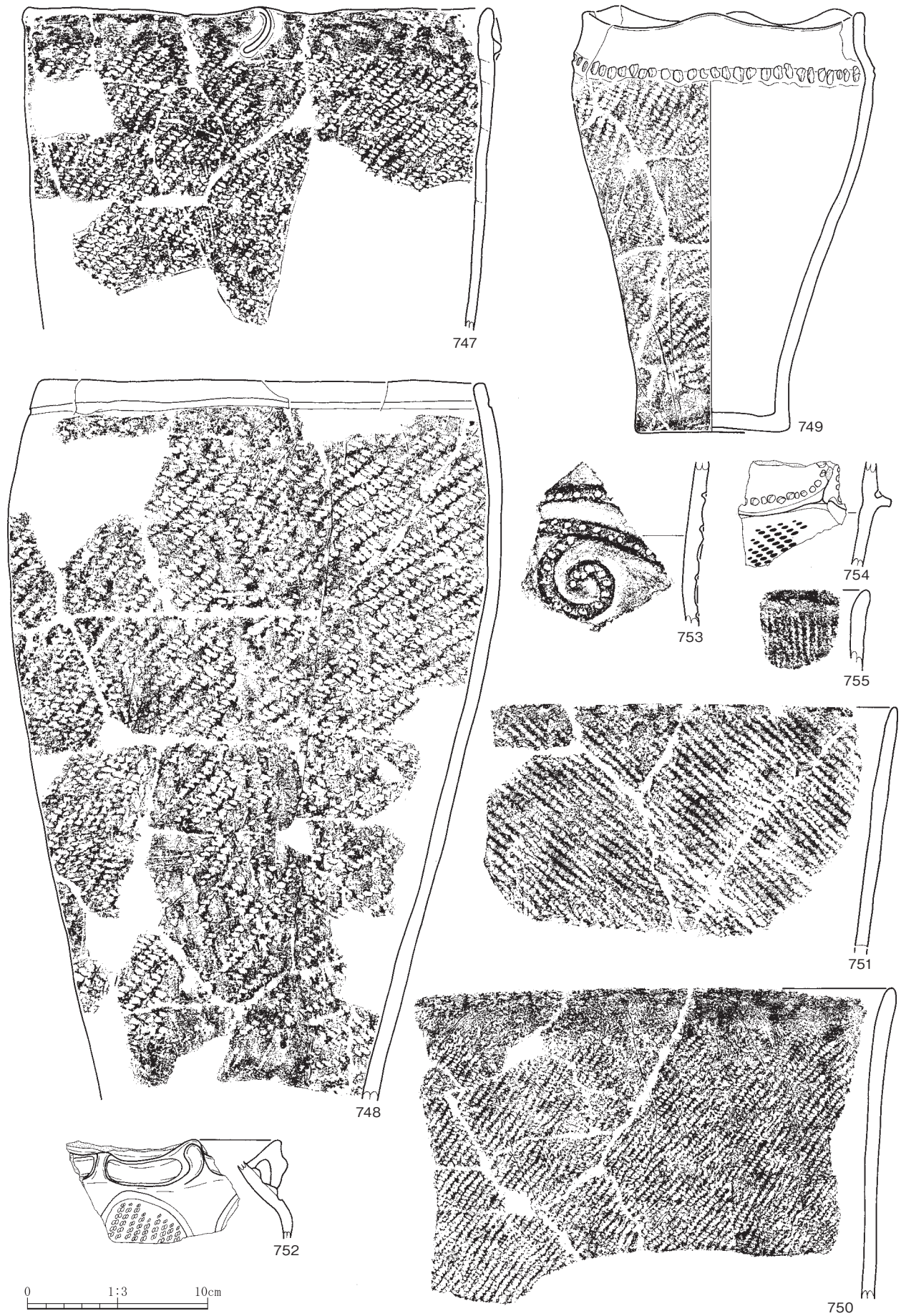


第102図 西区・4D区



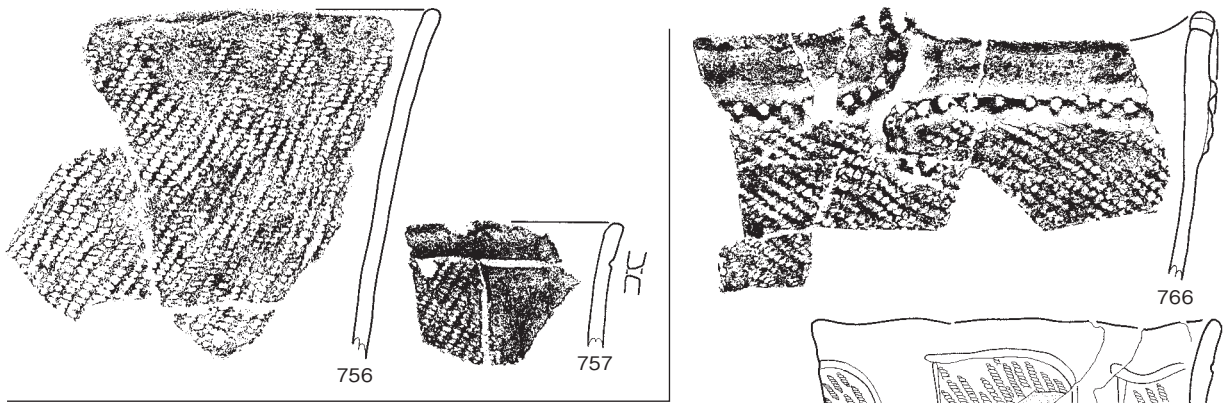
第103図 西区・4E区・4F区・4G区・5B区(1)



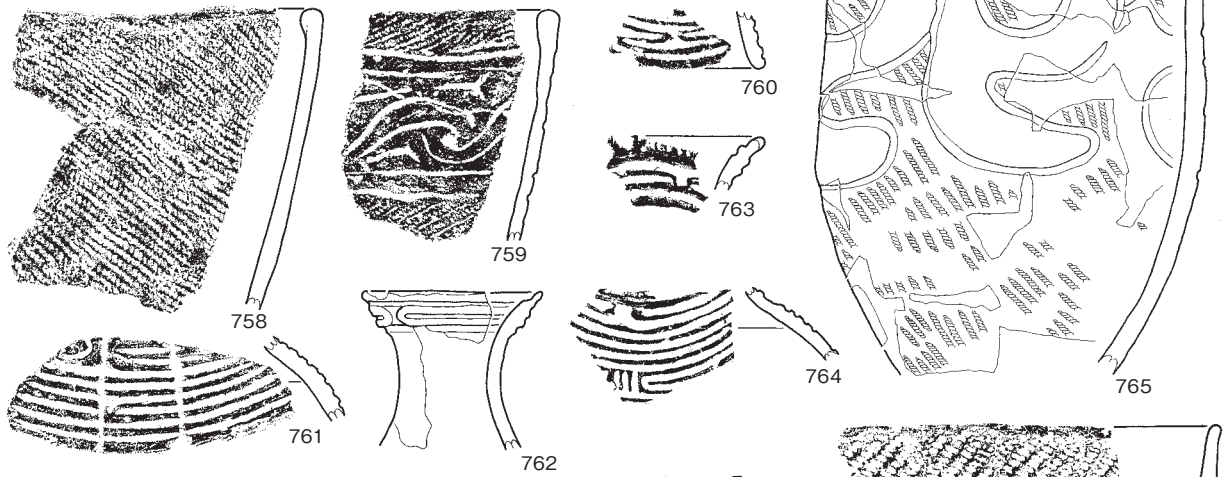


第 104 图 西区·5B 区 (2)



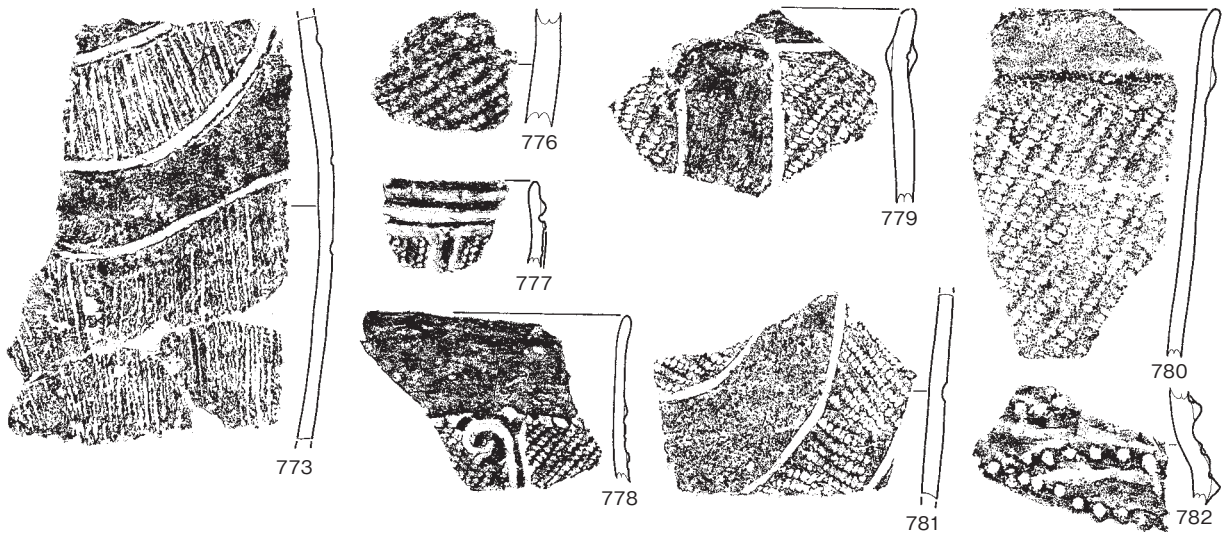


5C区 (758 ~ 782)

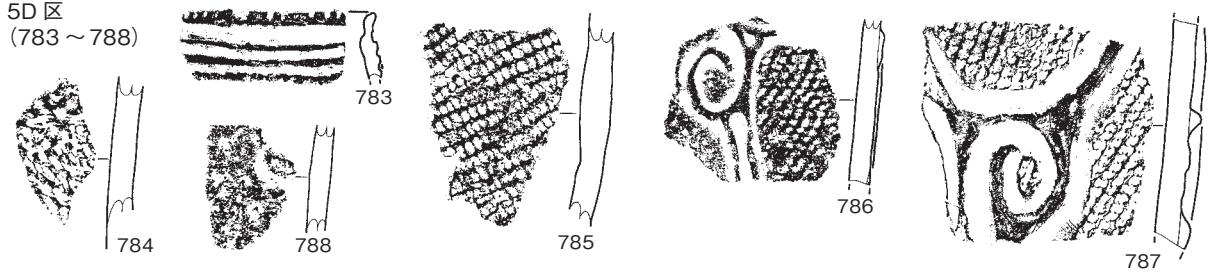


0 1:3 10cm

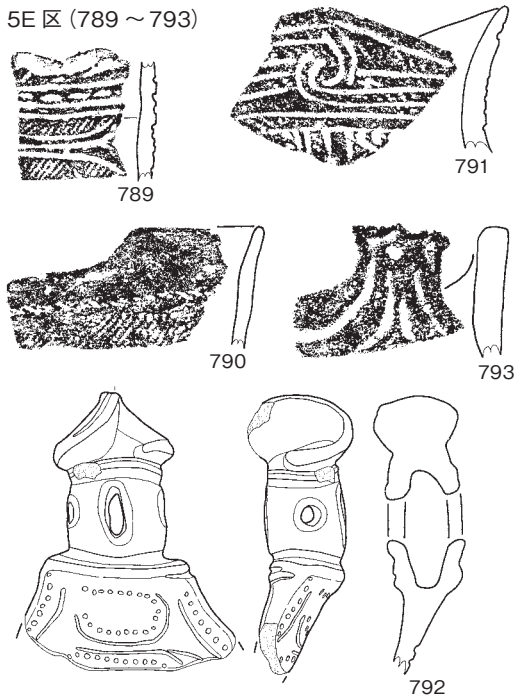
第105图 西区·5B区(3)·5C区(1)



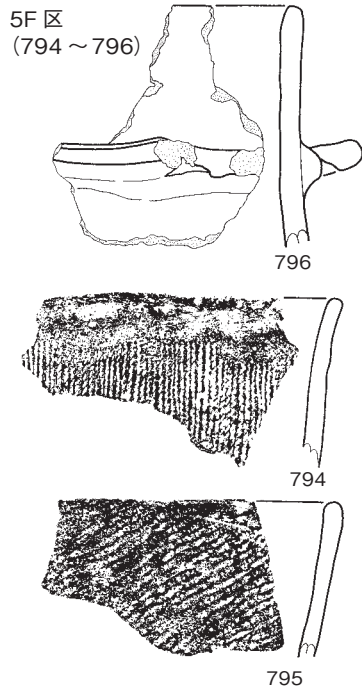
5D 区  
(783 ~ 788)



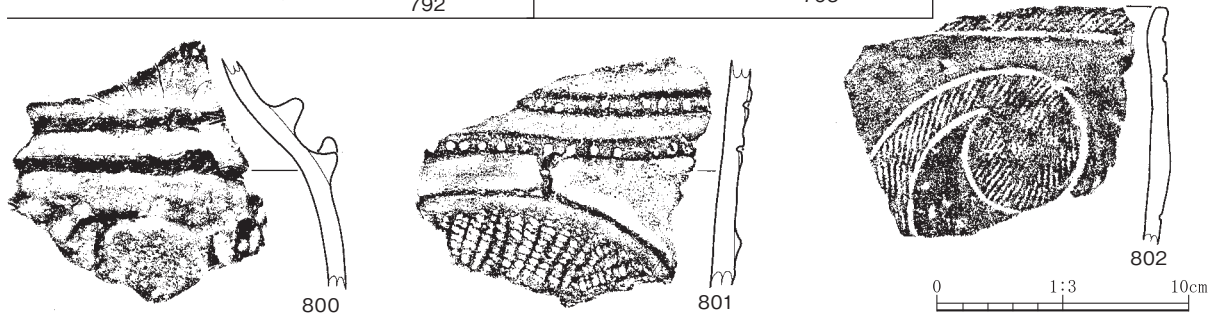
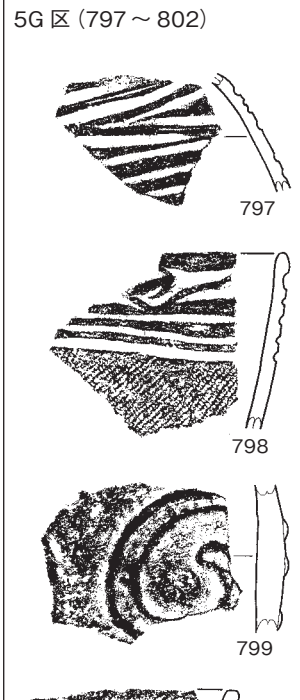
5E 区 (789 ~ 793)



5F 区  
(794 ~ 796)



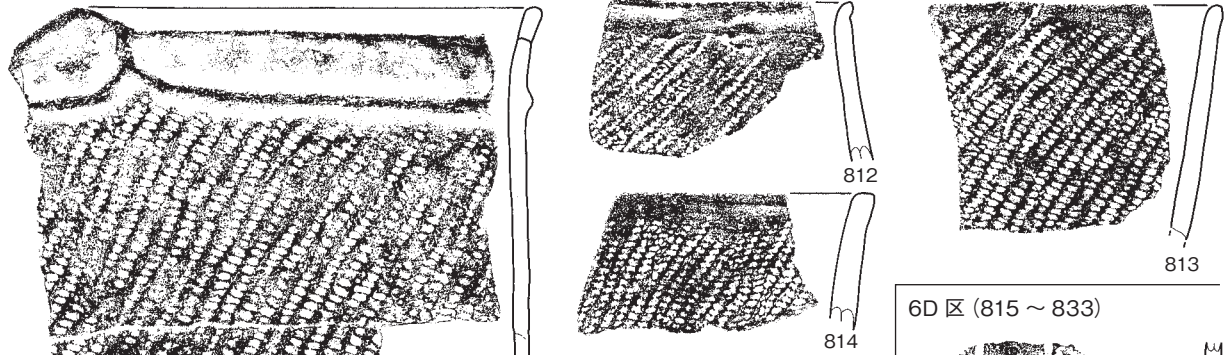
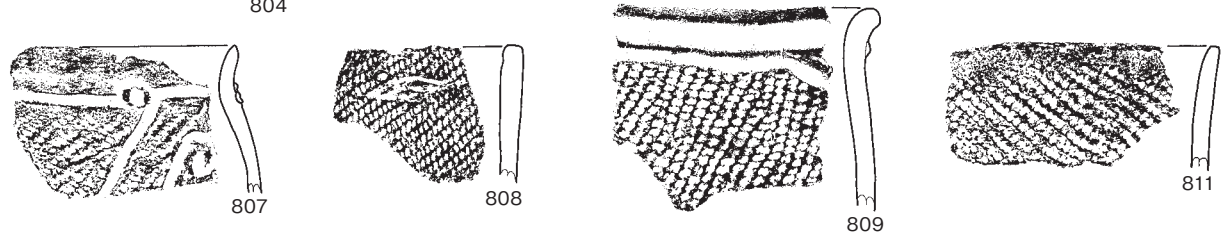
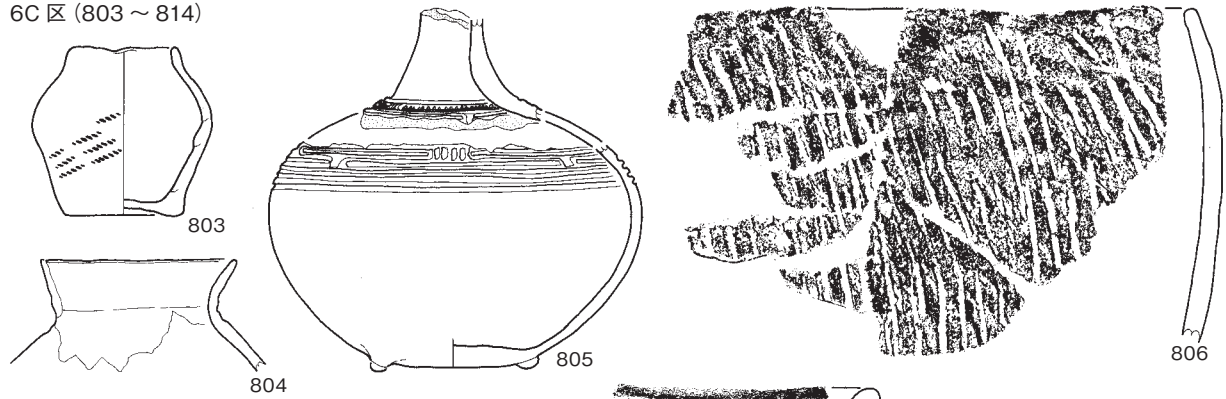
5G 区 (797 ~ 802)



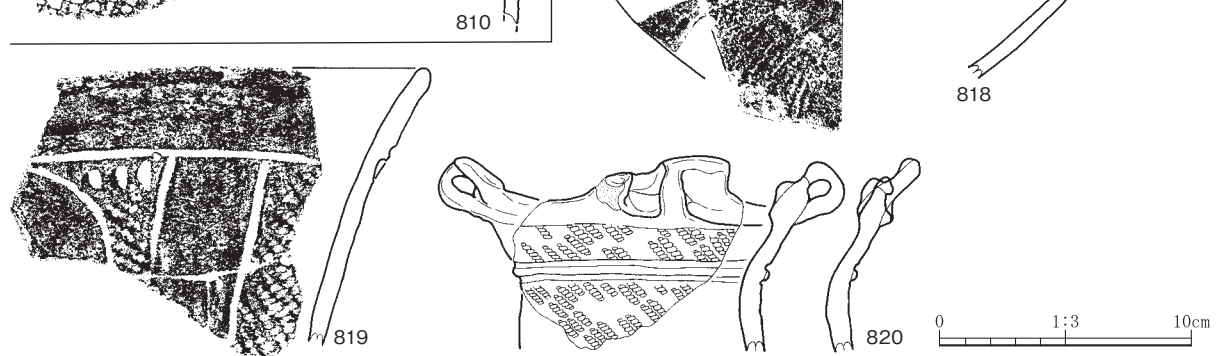
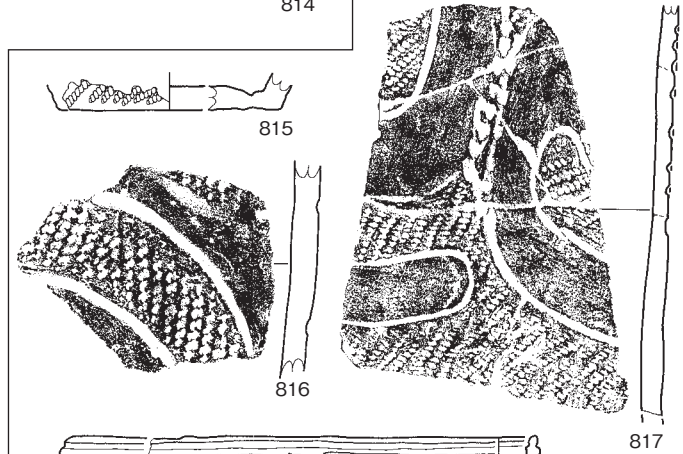
第 106 图 西区·5C 区 (2) ·5D ~ G 区



6C区 (803 ~ 814)



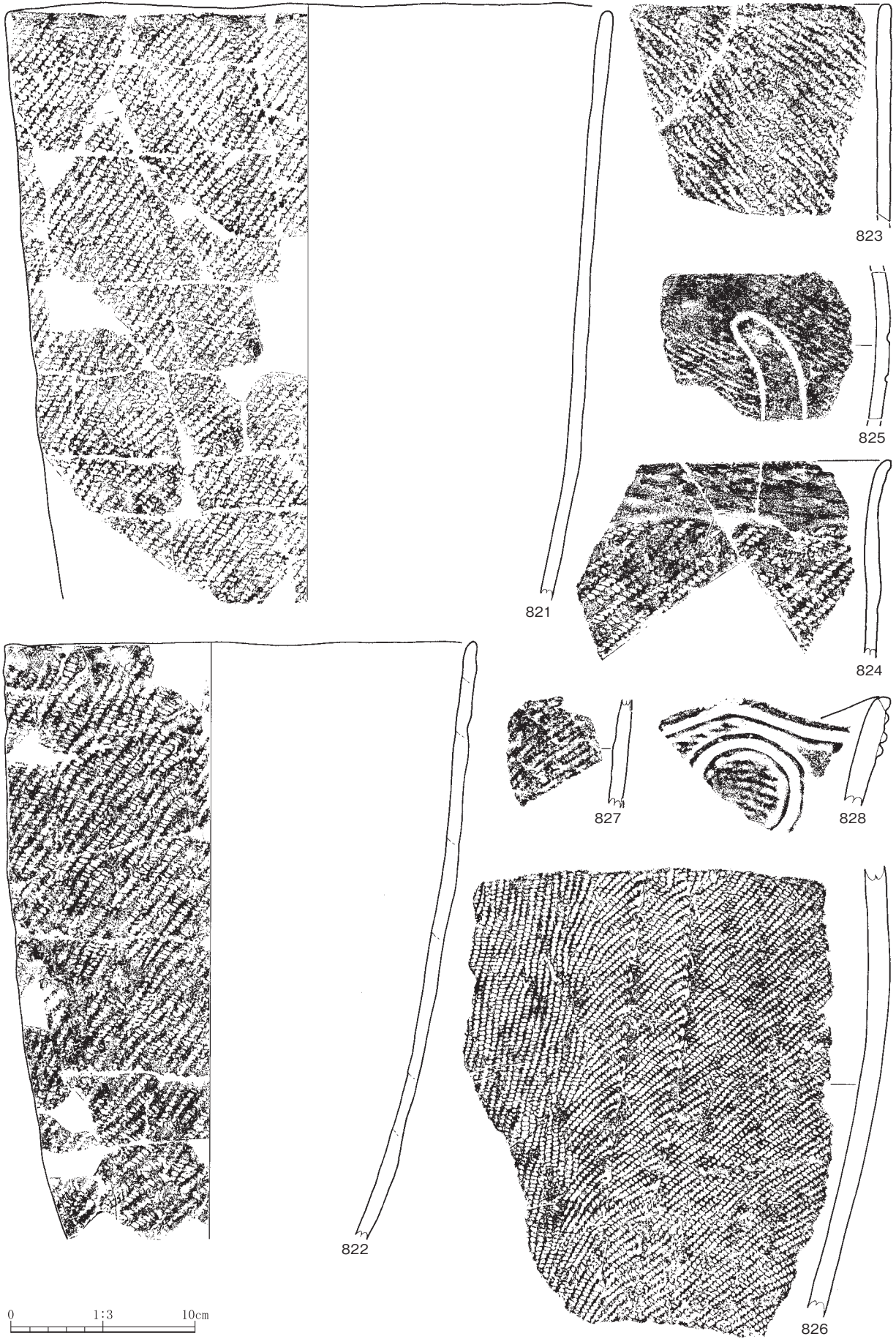
6D区 (815 ~ 833)



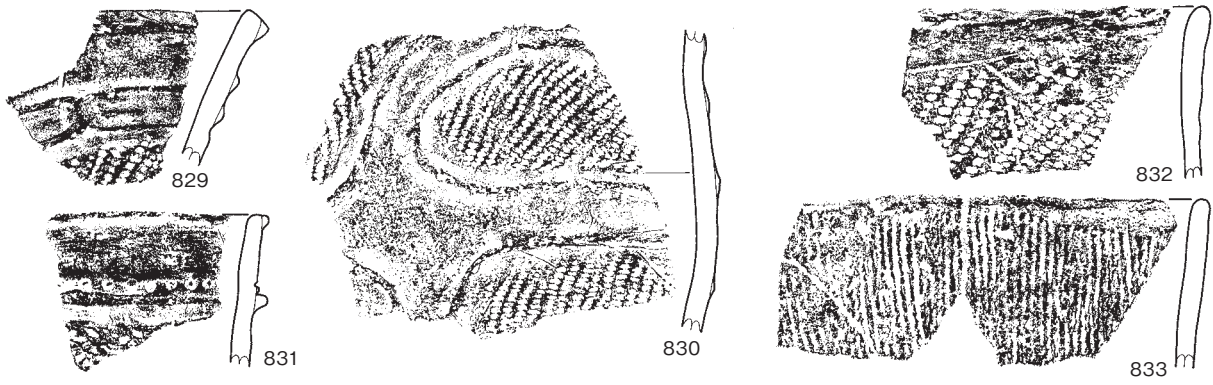
0 1:3 10cm

第107图 西区·6C区·6D区(1)

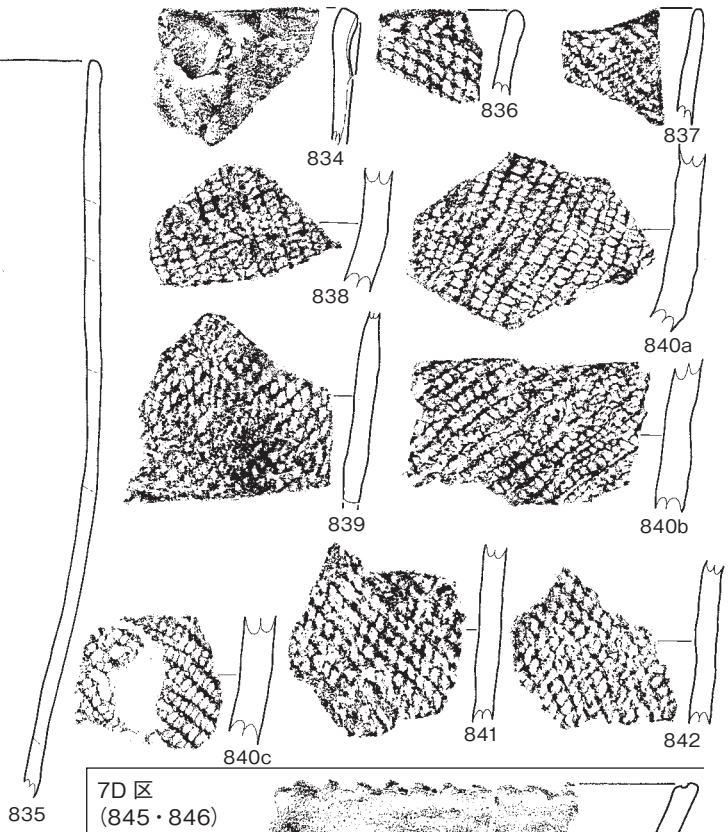




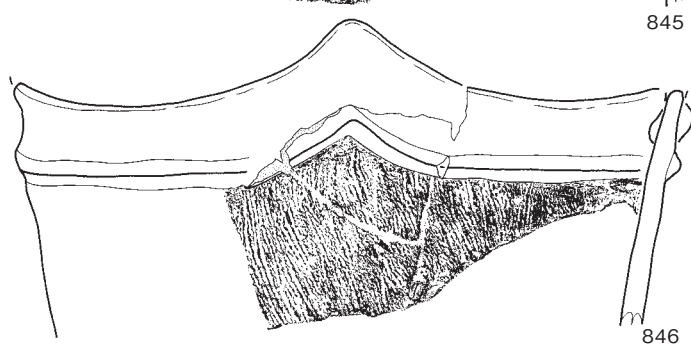
第108图 西区·6D区(2)



6E区 (834 ~ 842)



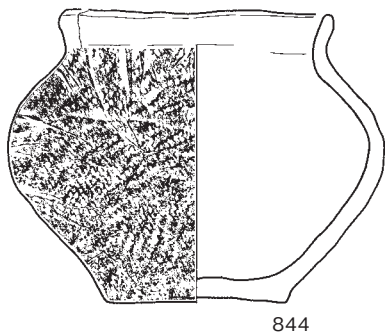
7D区 (845・846)



6F区 (843)



7C区 (844)

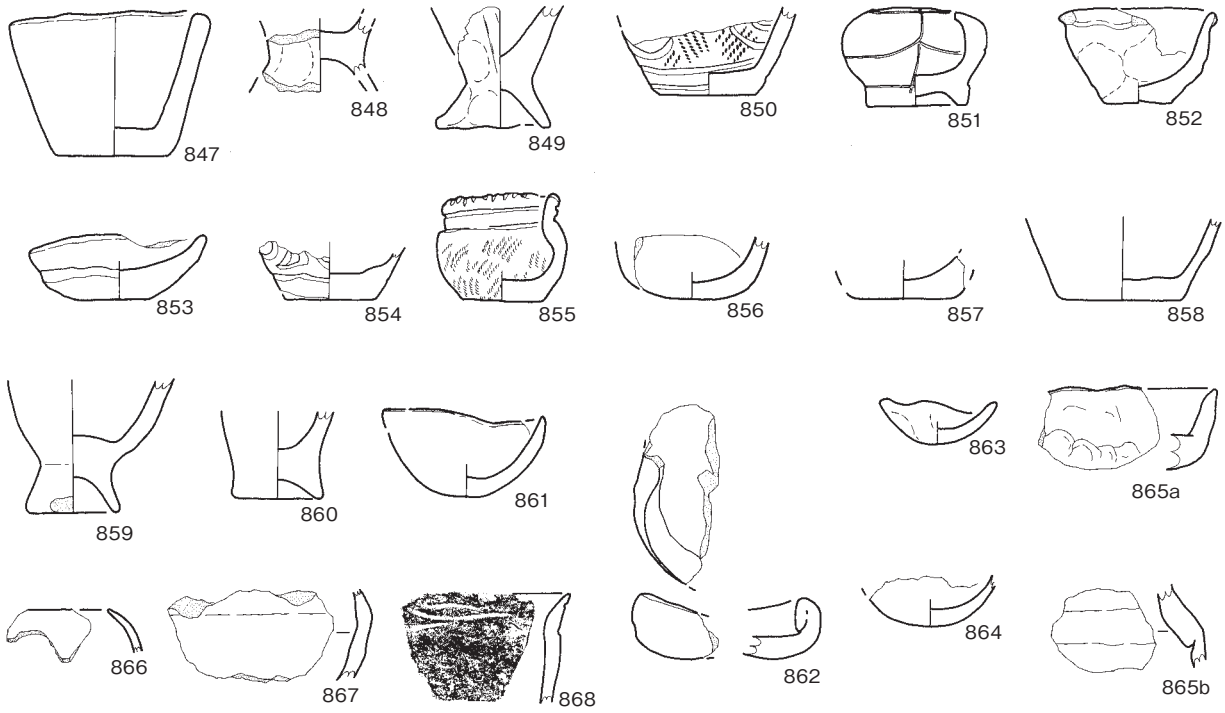


0 1:3 10cm

第109图 西区・6D区(3)・6E区・6F区・7C区・7D区



ミニチュア土器 (847 ~ 868)



底部圧痕 (869 ~ 1045)

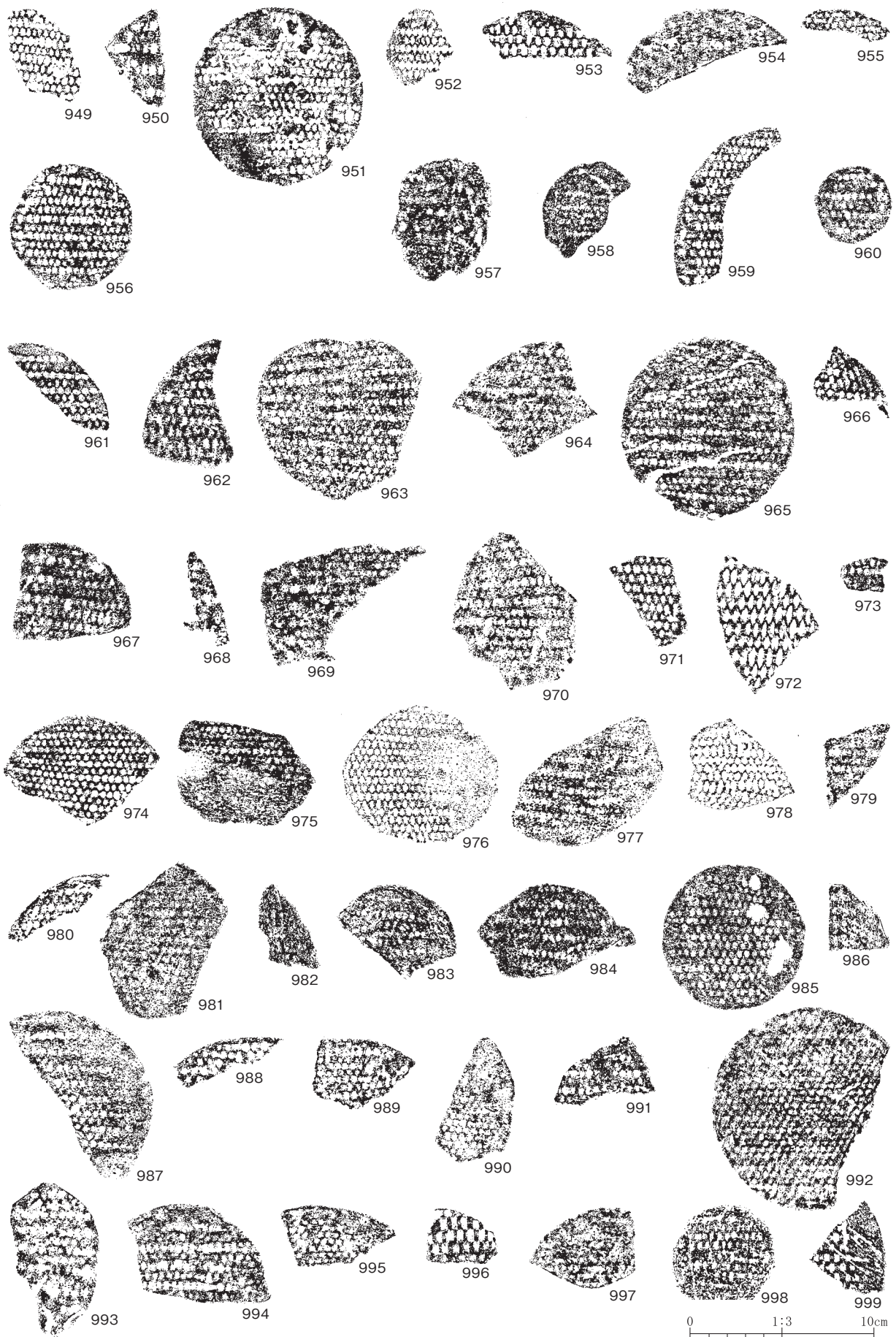


第110図 ミニチュア土器・底部圧痕(1)





第 111 图 底部压痕 (2)



第 112 图 底部压痕 (3)



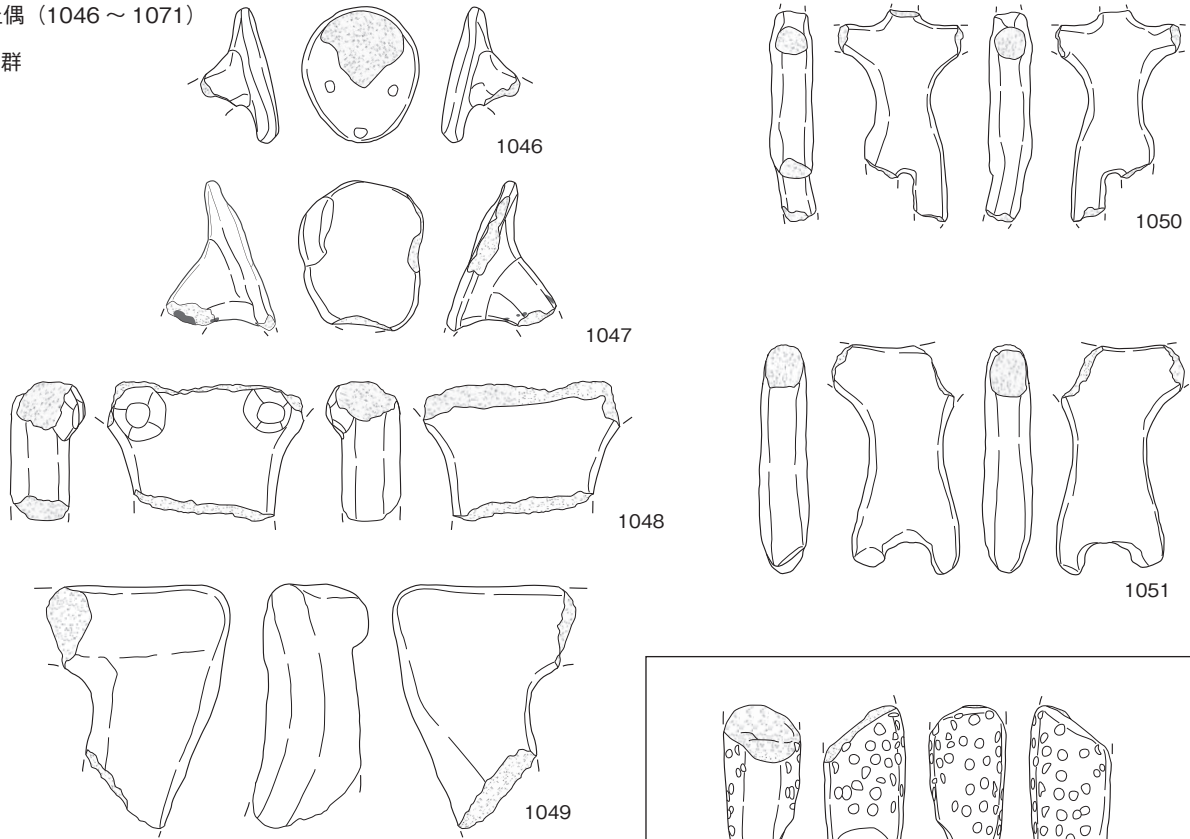


第 113 图 底部压痕 (4)

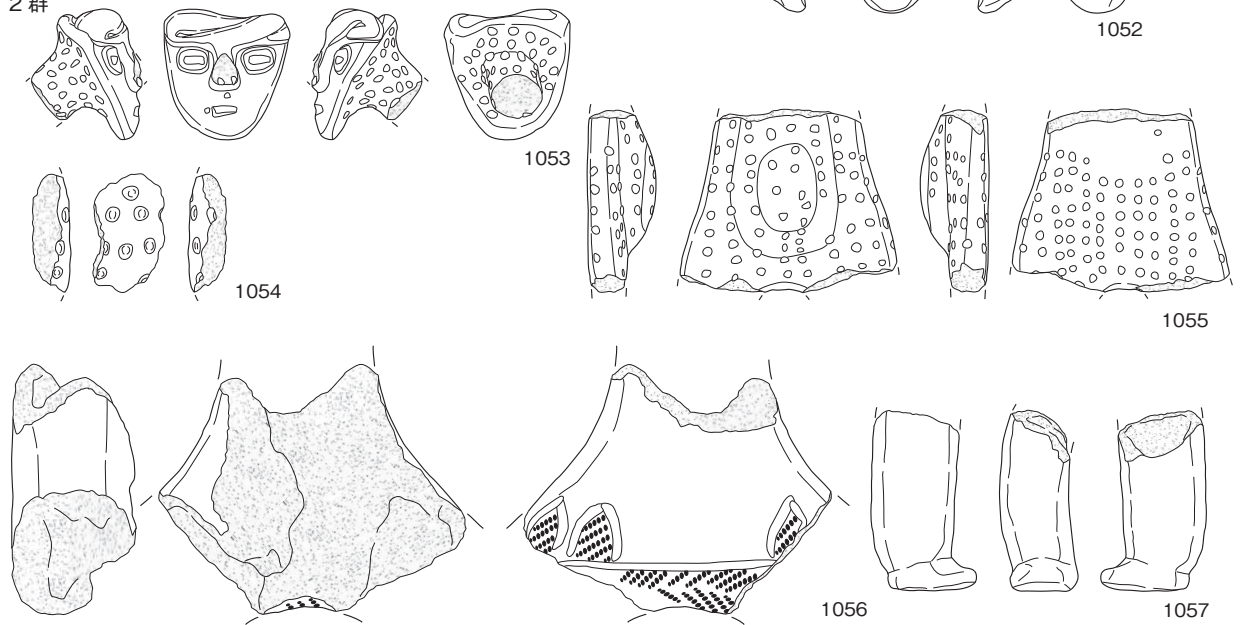


土偶 (1046 ~ 1071)

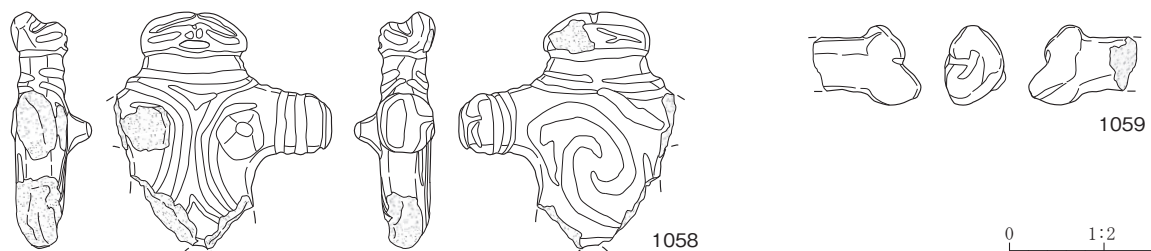
1 群



2 群

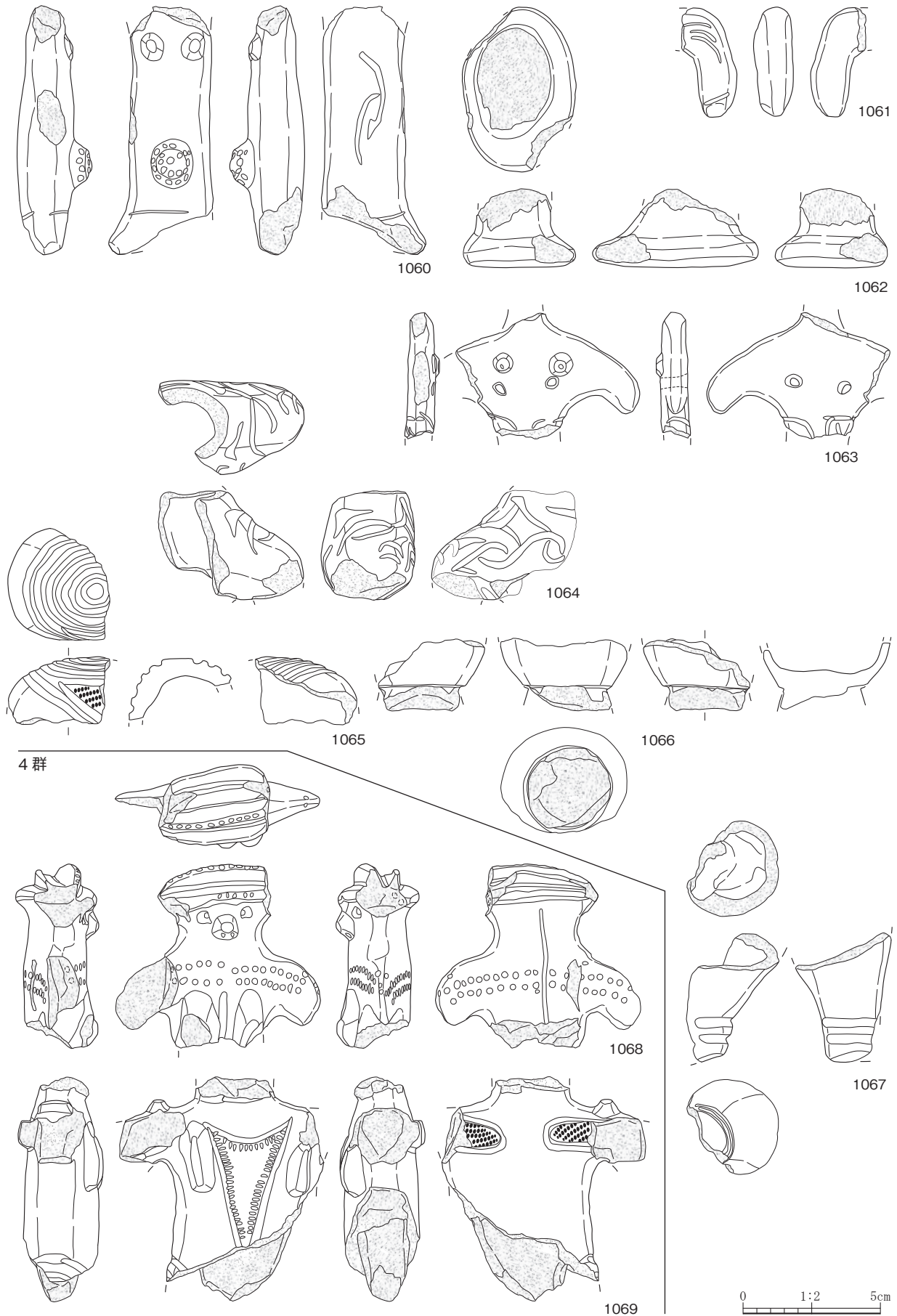


3 群



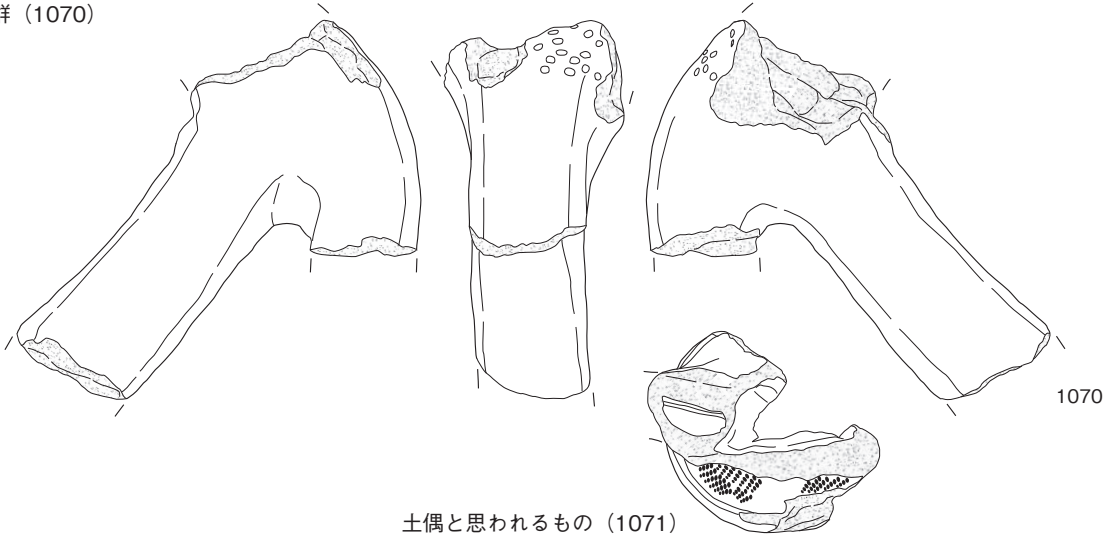
0 1:2 5cm

第114図 出土土製品(1)



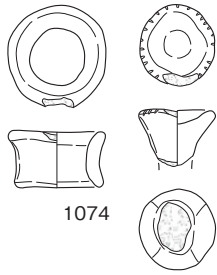
第 115 図 出土土製品 (2)

5群 (1070)



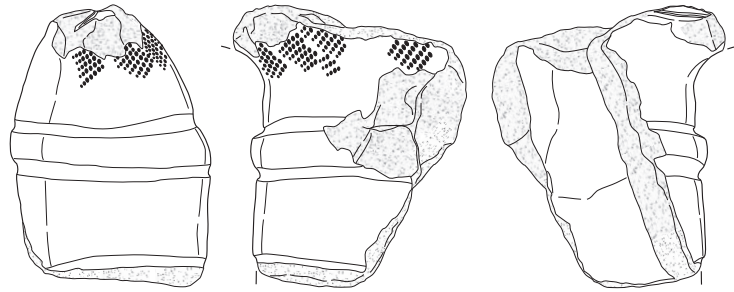
土偶と思われるもの (1071)

土製耳飾 (1073 ~ 75)

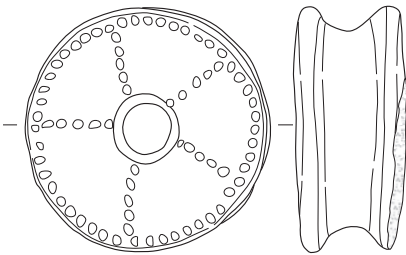


1074

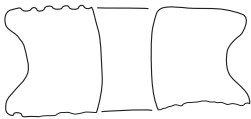
1075



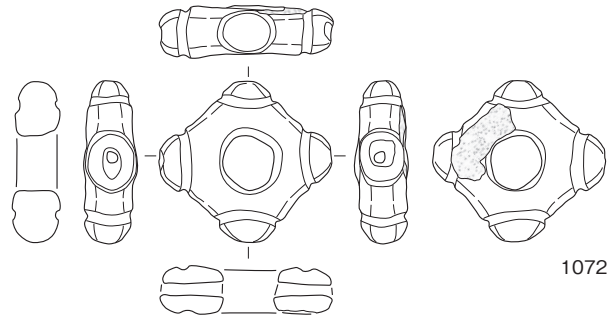
1071



1073

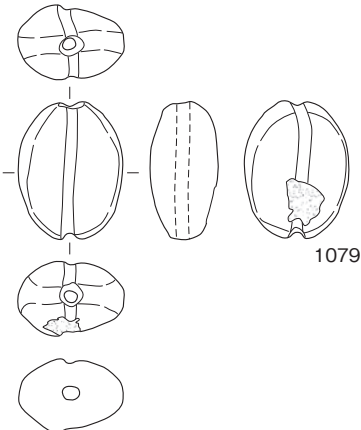


土製垂飾 (1072)



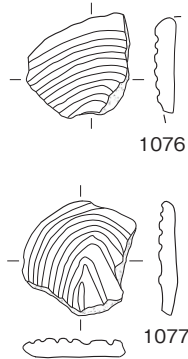
1072

土錘 (1079)



1079

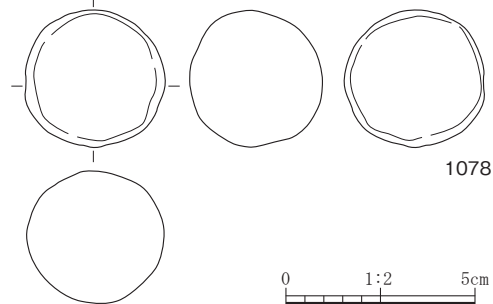
土版 (1076・77)



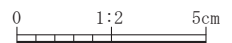
1076

1077

球状土製品 (1078)



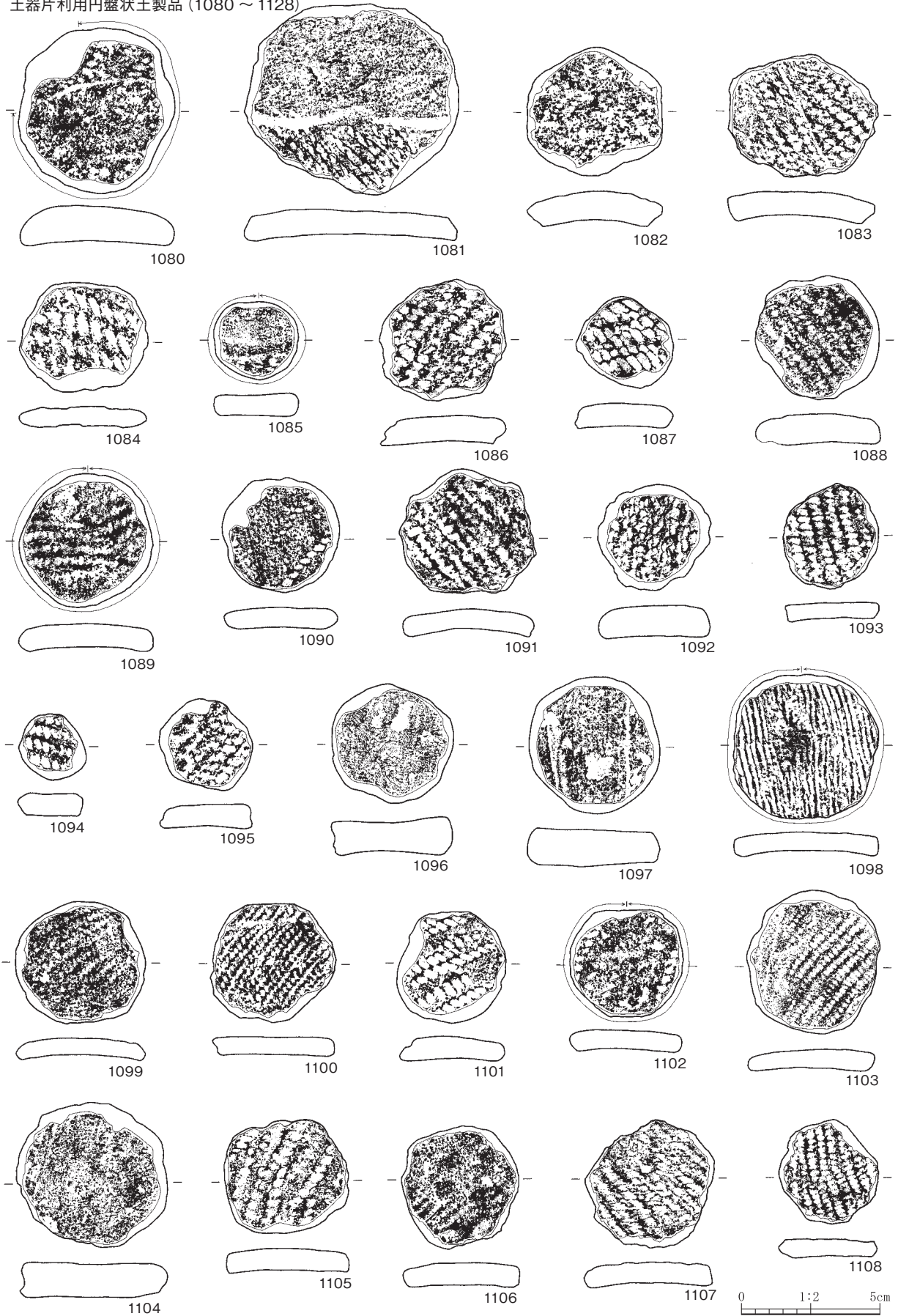
1078



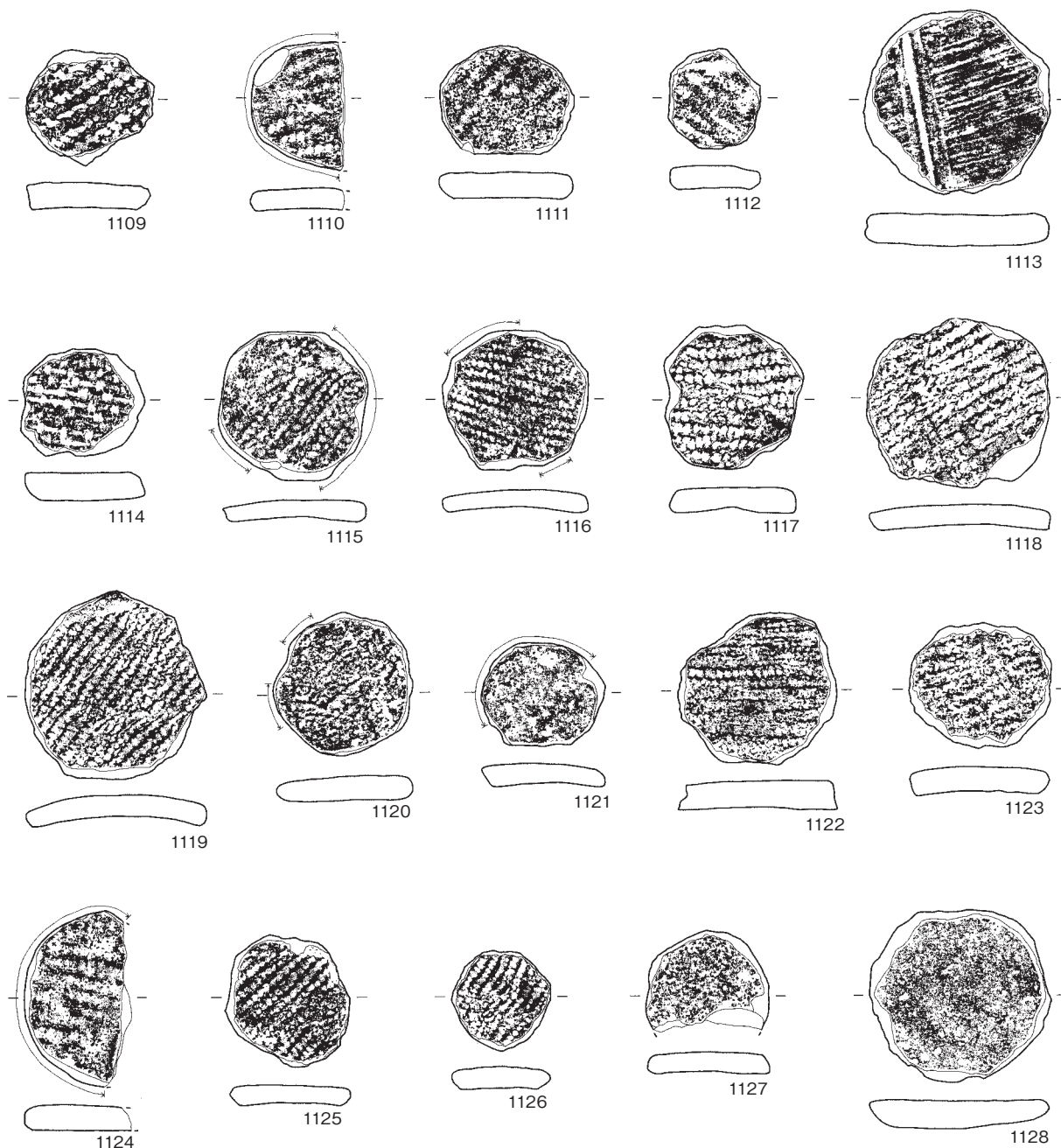
第116図 出土土製品(3)



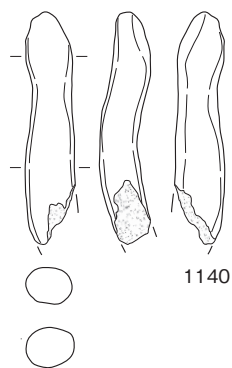
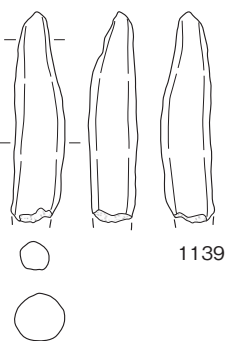
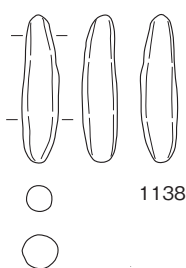
土器片利用円盤状土製品 (1080 ~ 1128)



第 117 図 出土土製品 (4)

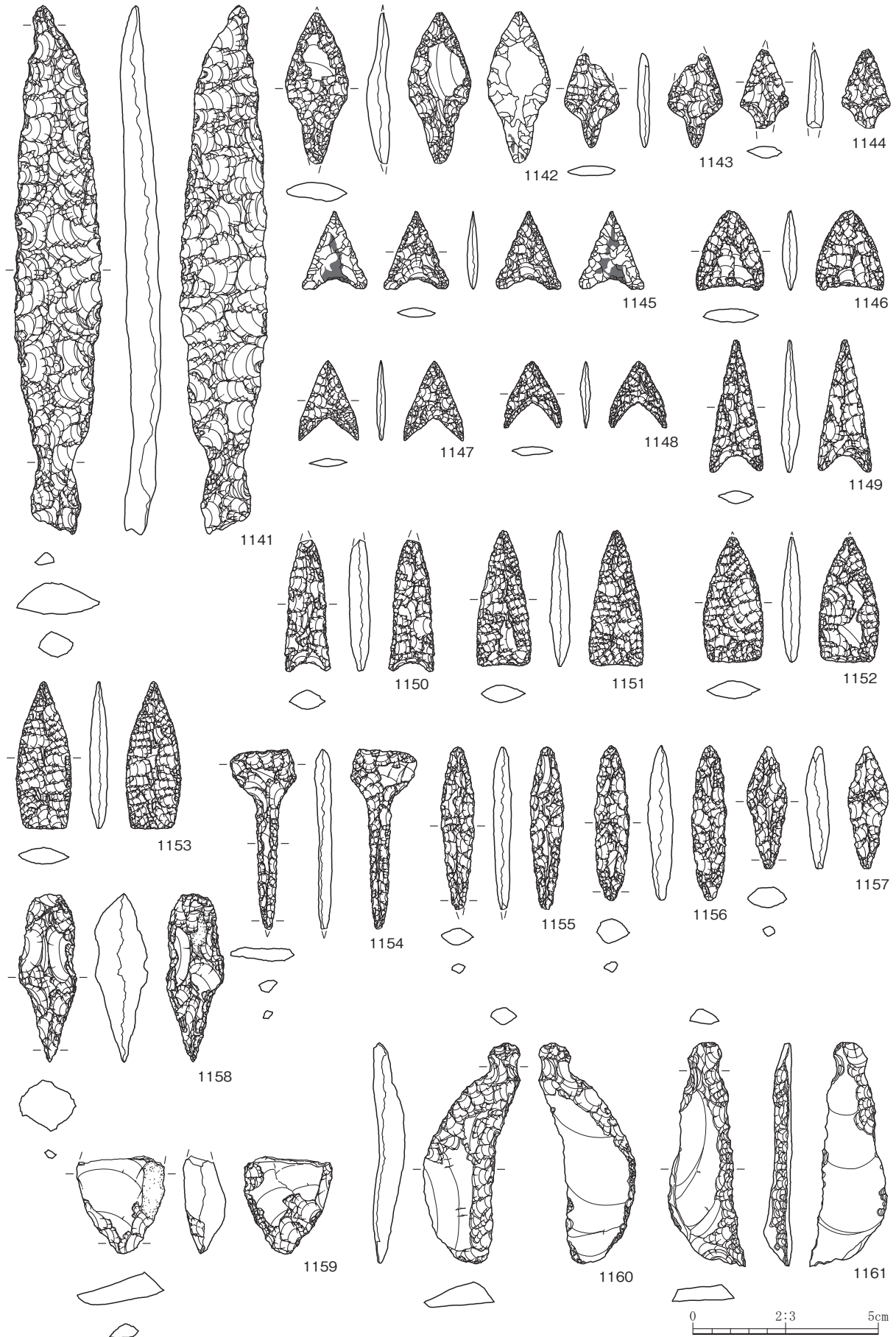


不明土製品 (1138 ~ 40)



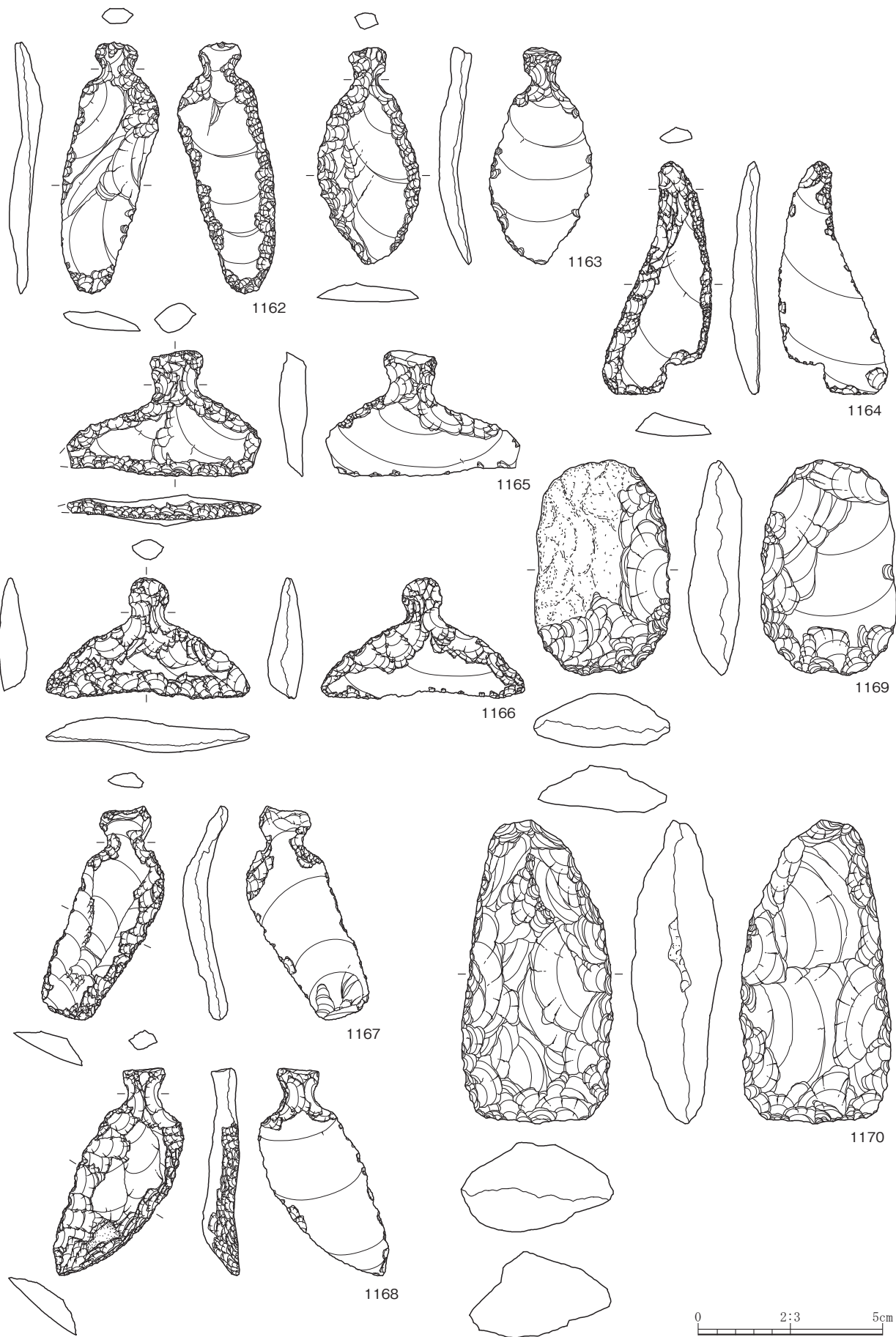
0 1:2 5cm

第 118 図 出土土製品 (5)

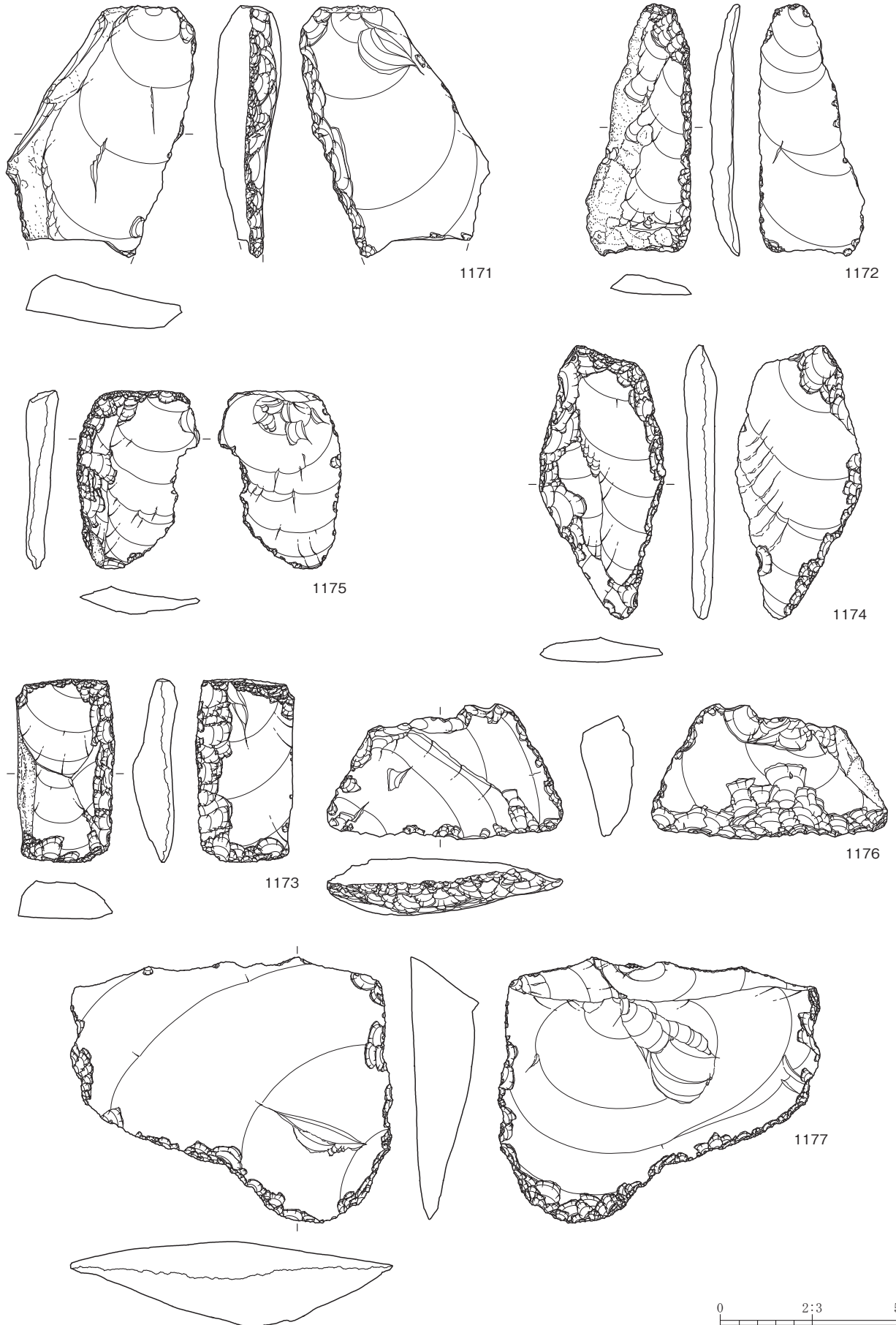


第119图 出土石器(1)





第120图 出土石器(2)



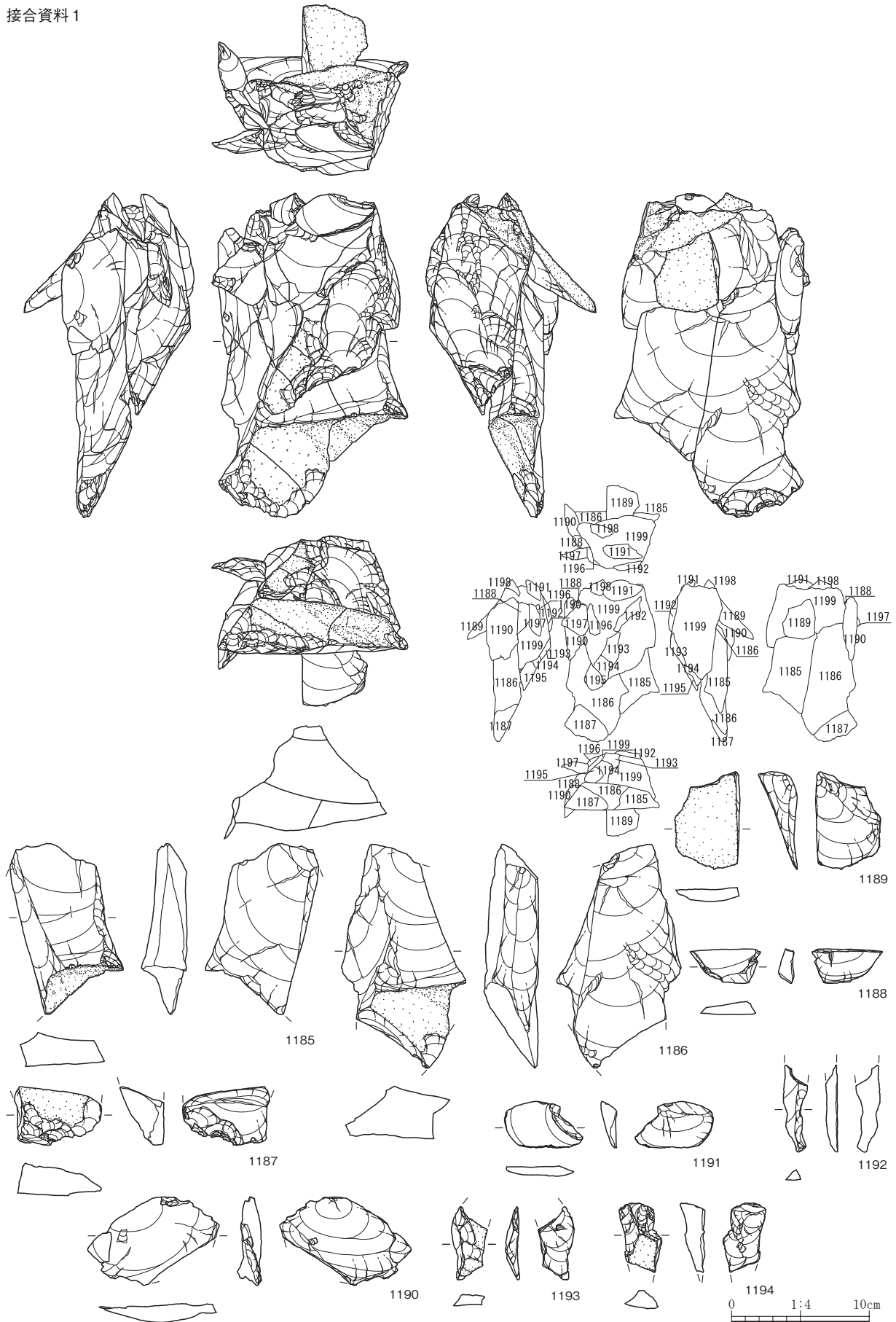
第 121 图 出土石器 (3)



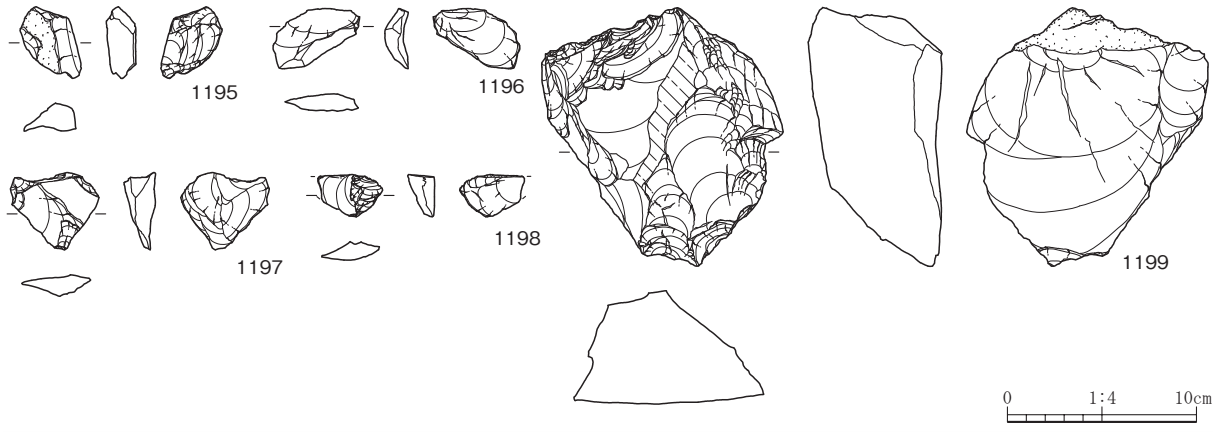
第 122 图 出土石器 (4)



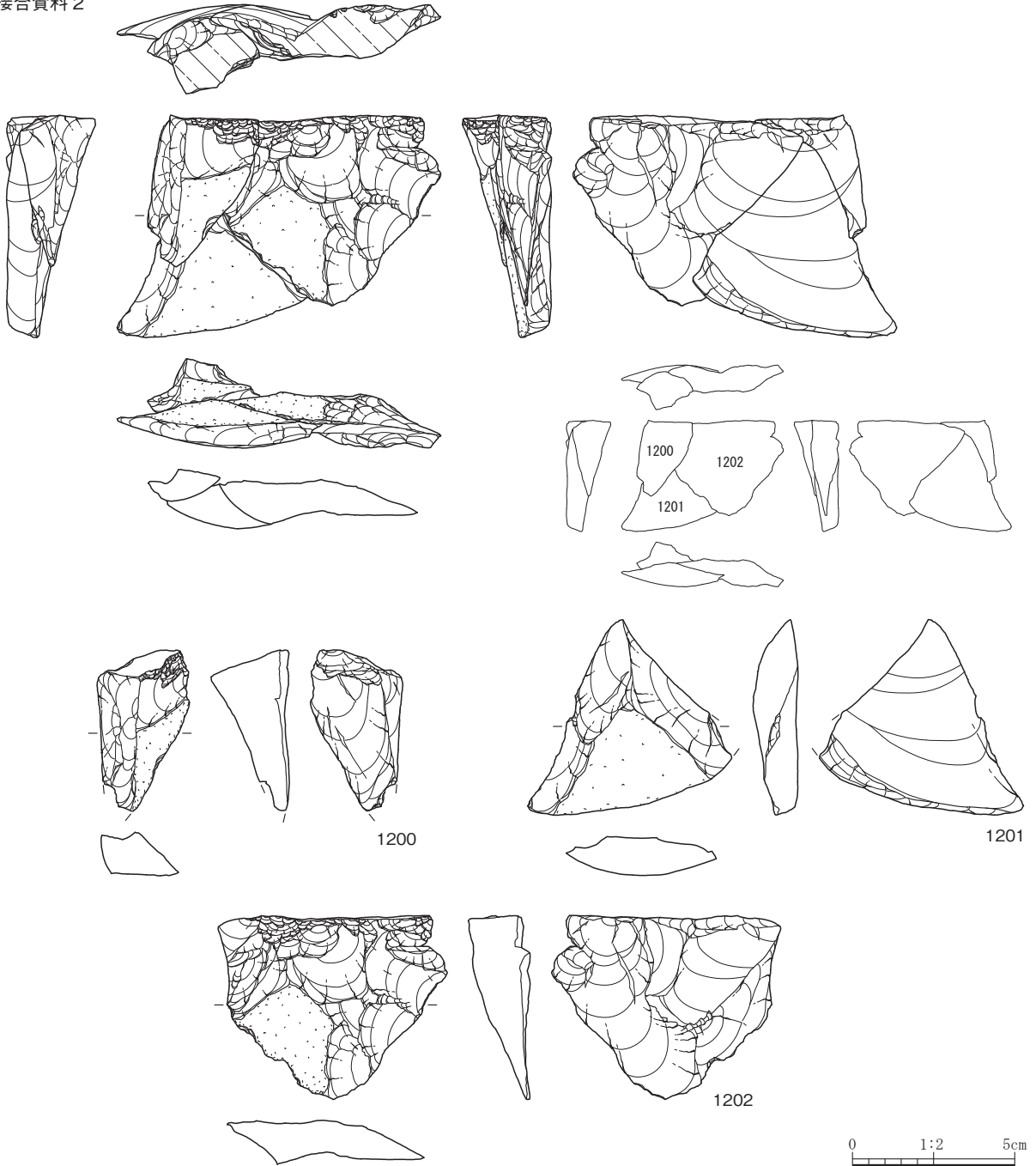
接合資料 1



第 123 図 出土石器 (5)



接合資料 2



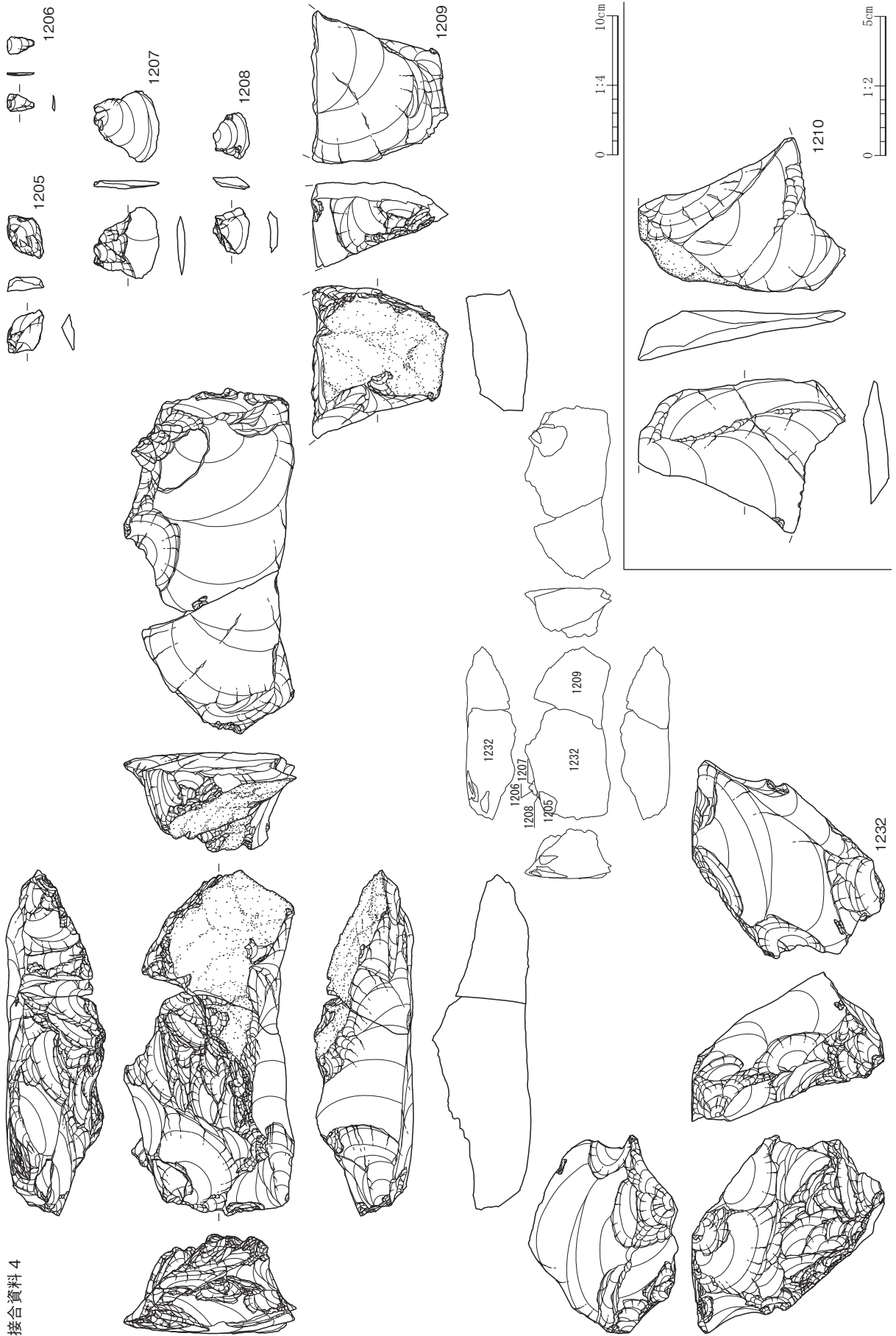
第 124 図 出土石器 (6)

接合資料 3



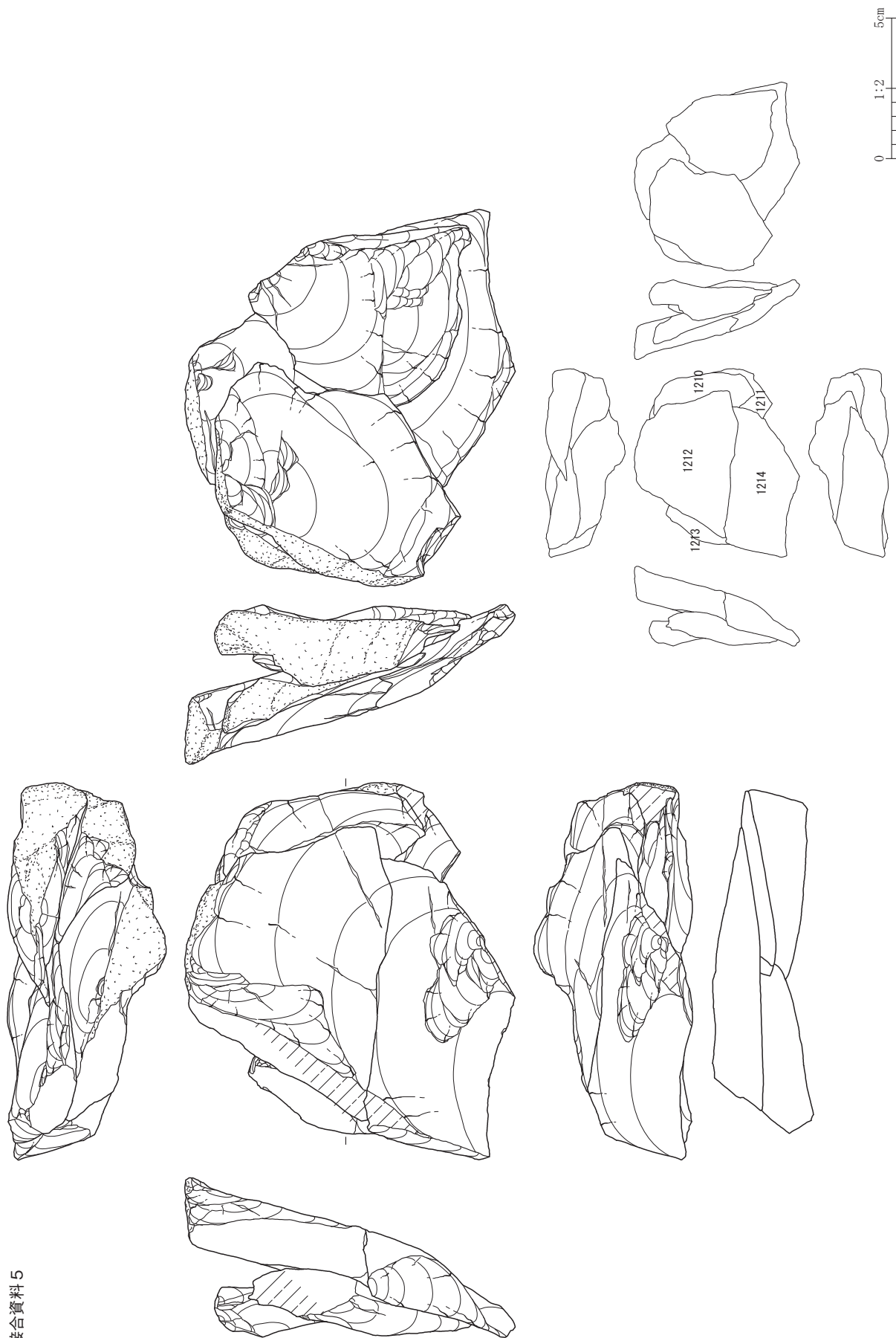
第 125 図 出土石器 (7)



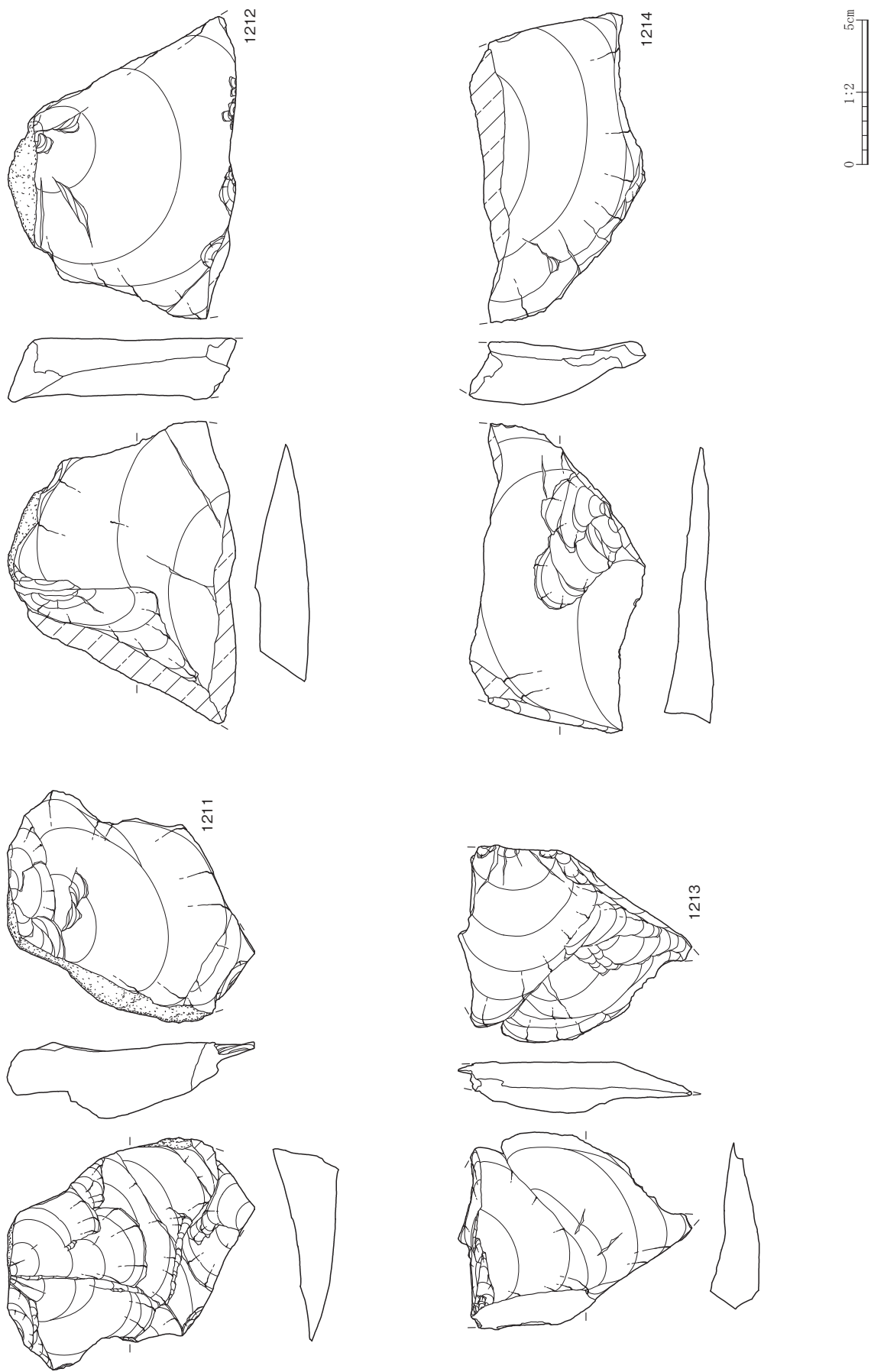


第 126 図 出土石器 (8)

接合資料 5



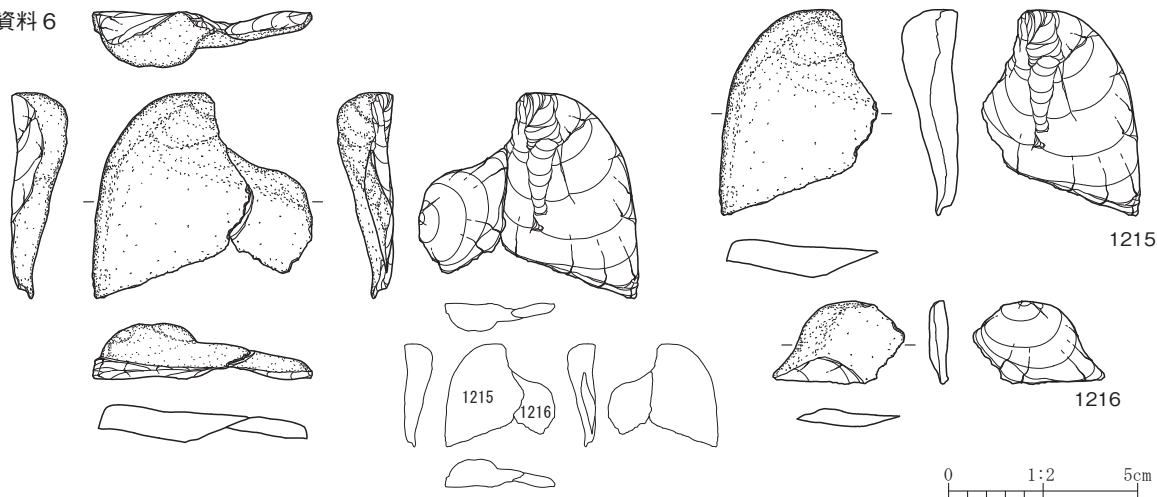
第 127 図 出土石器 (9)



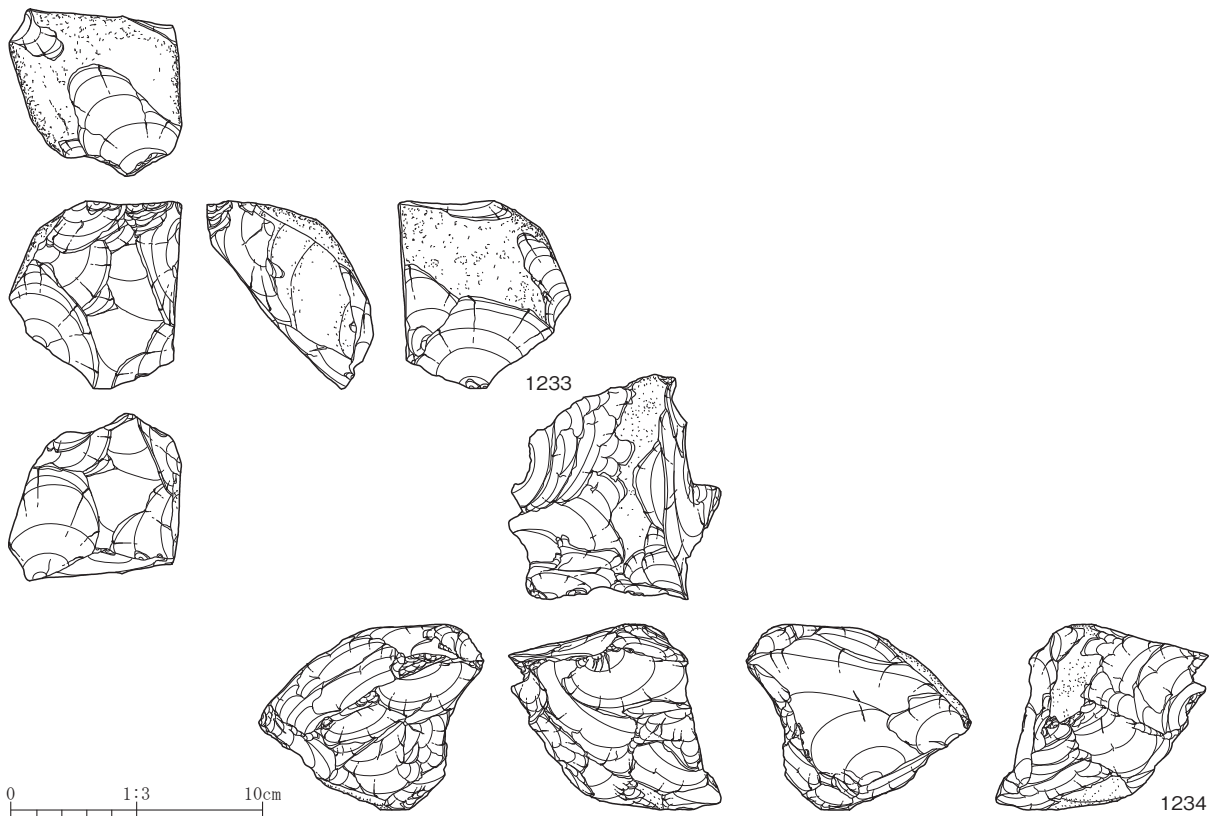
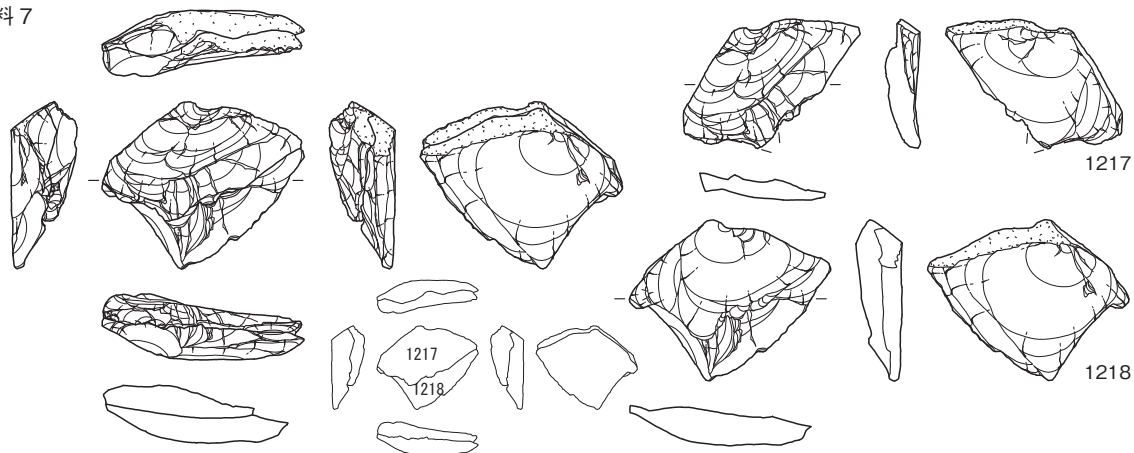
第128图 出土石器(10)



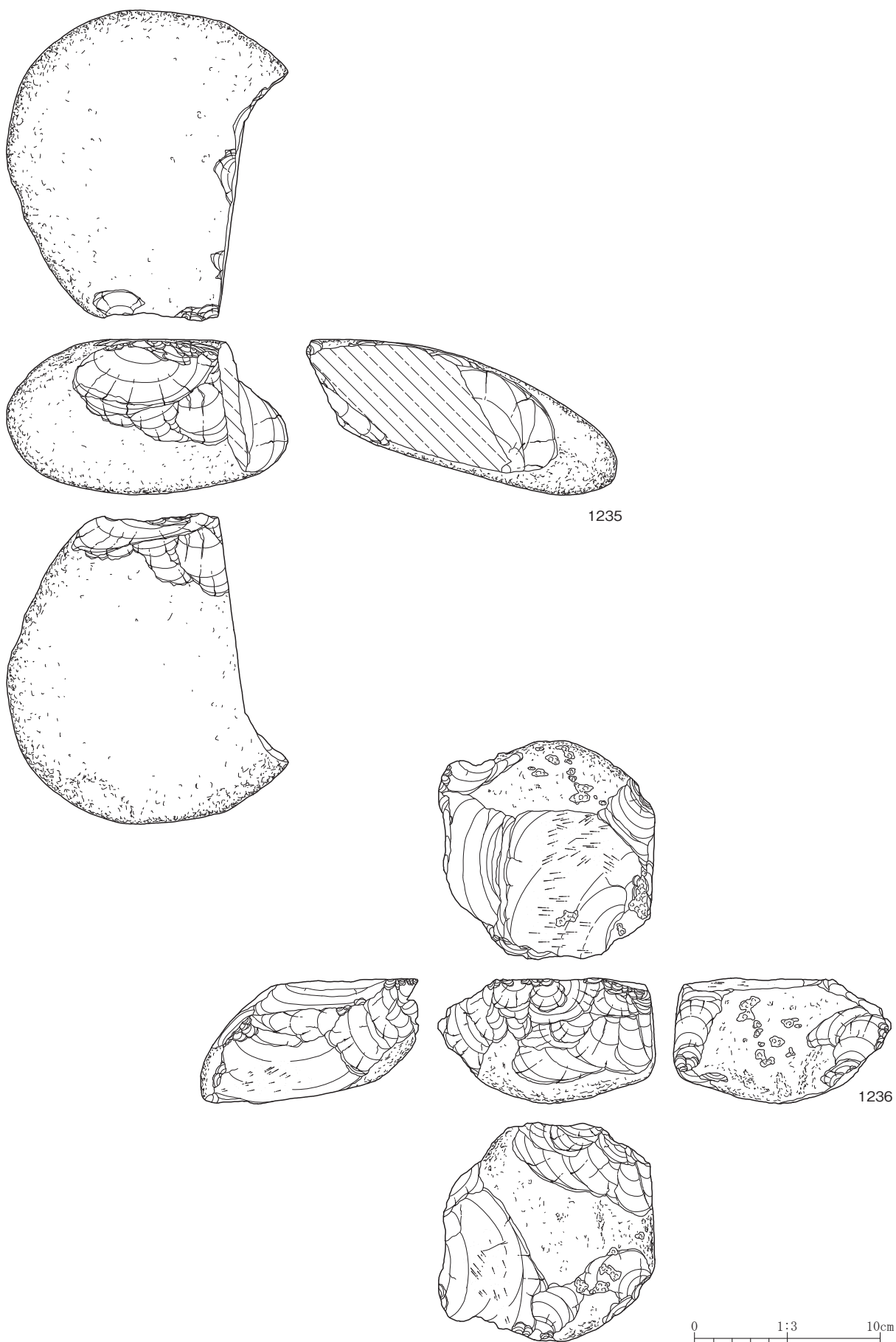
接合資料 6



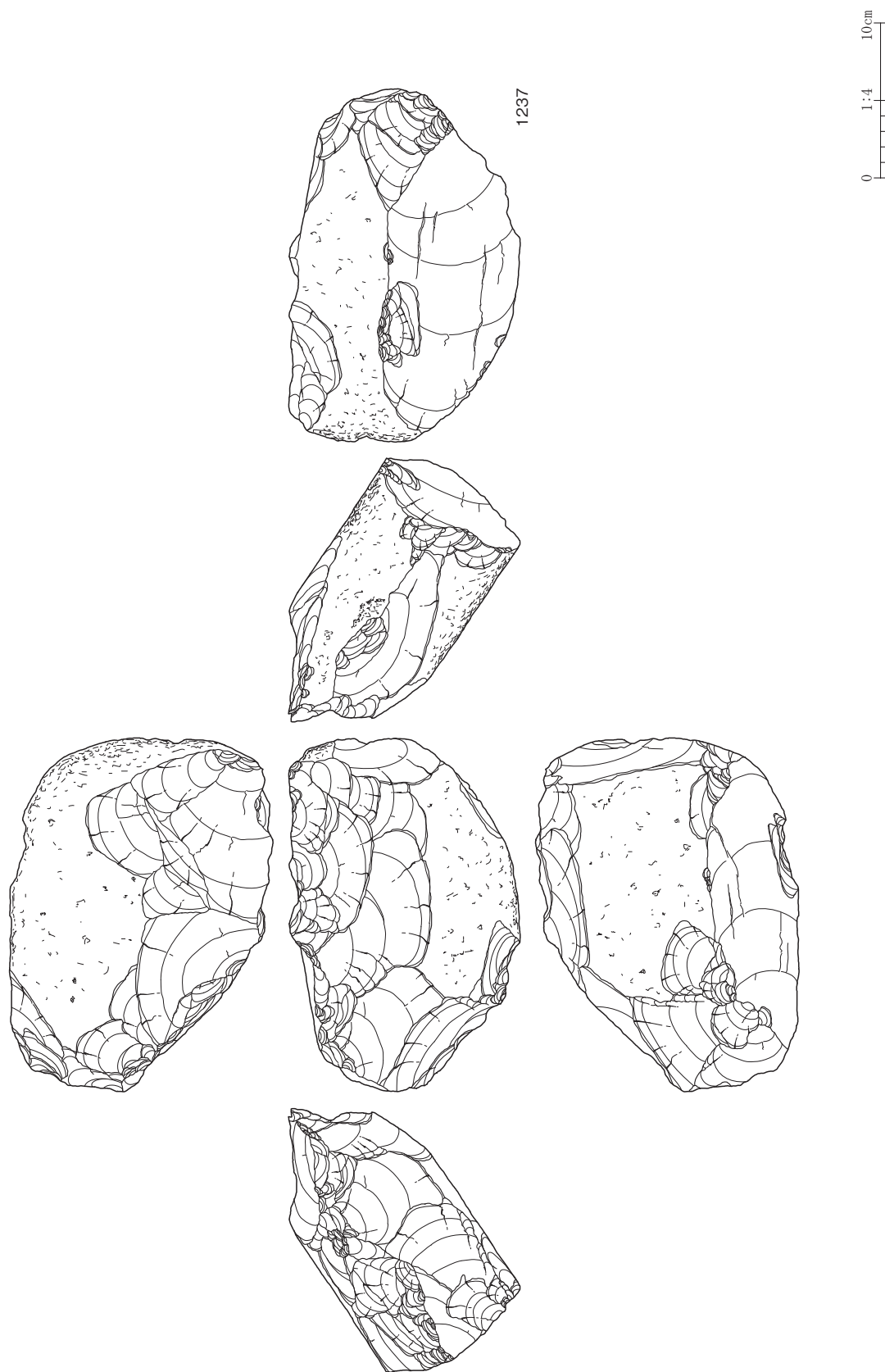
接合資料 7



第 129 図 出土石器 (11)

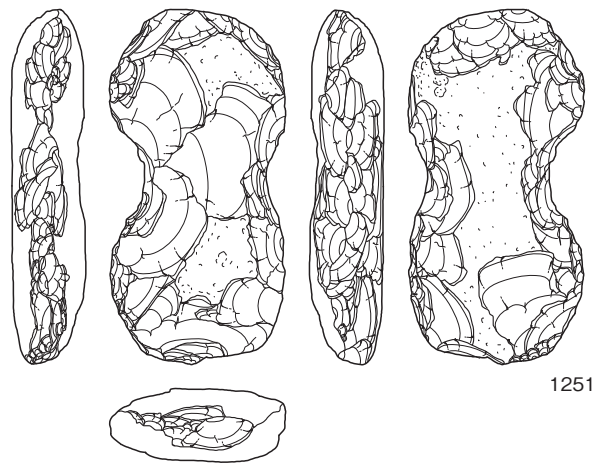
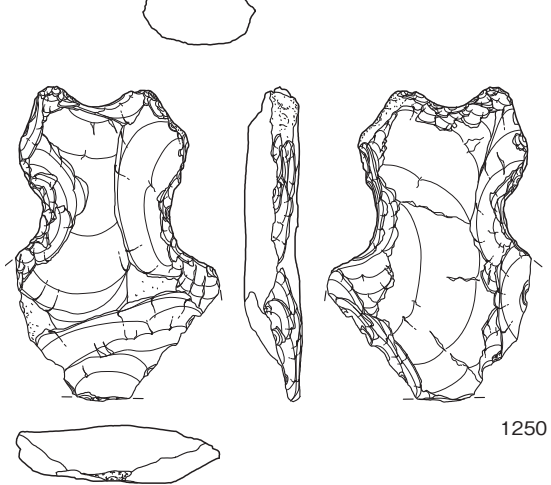
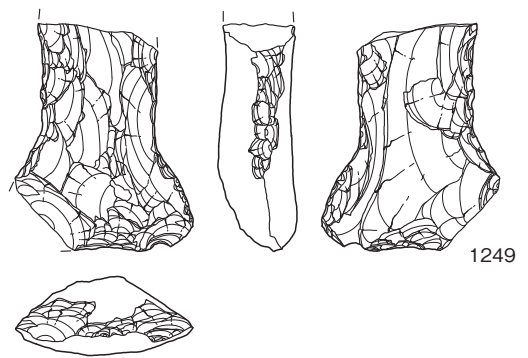
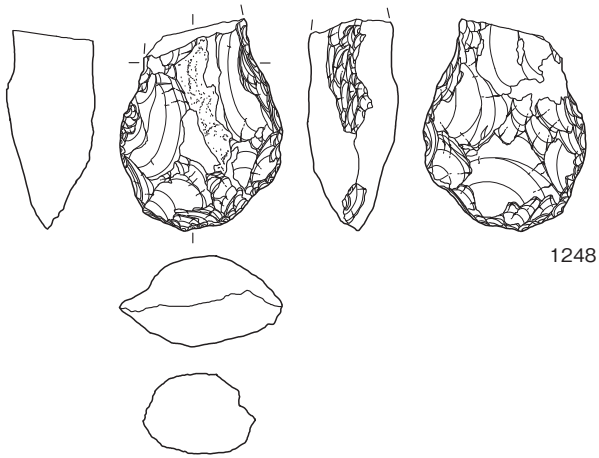
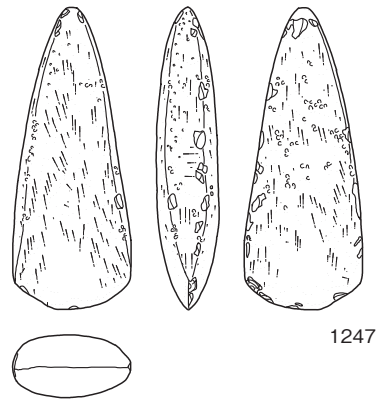
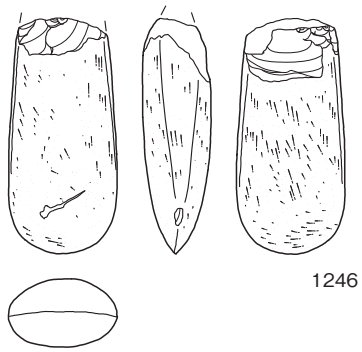
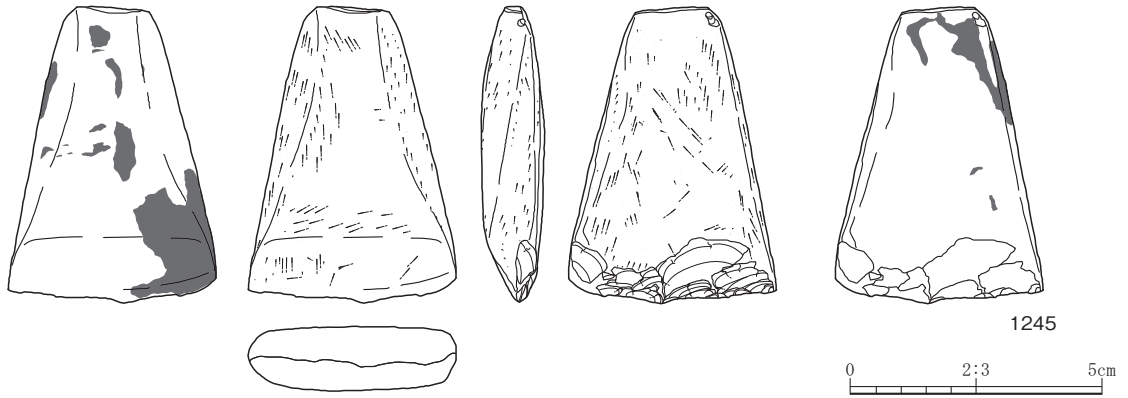


第 130 图 出土石器 (12)

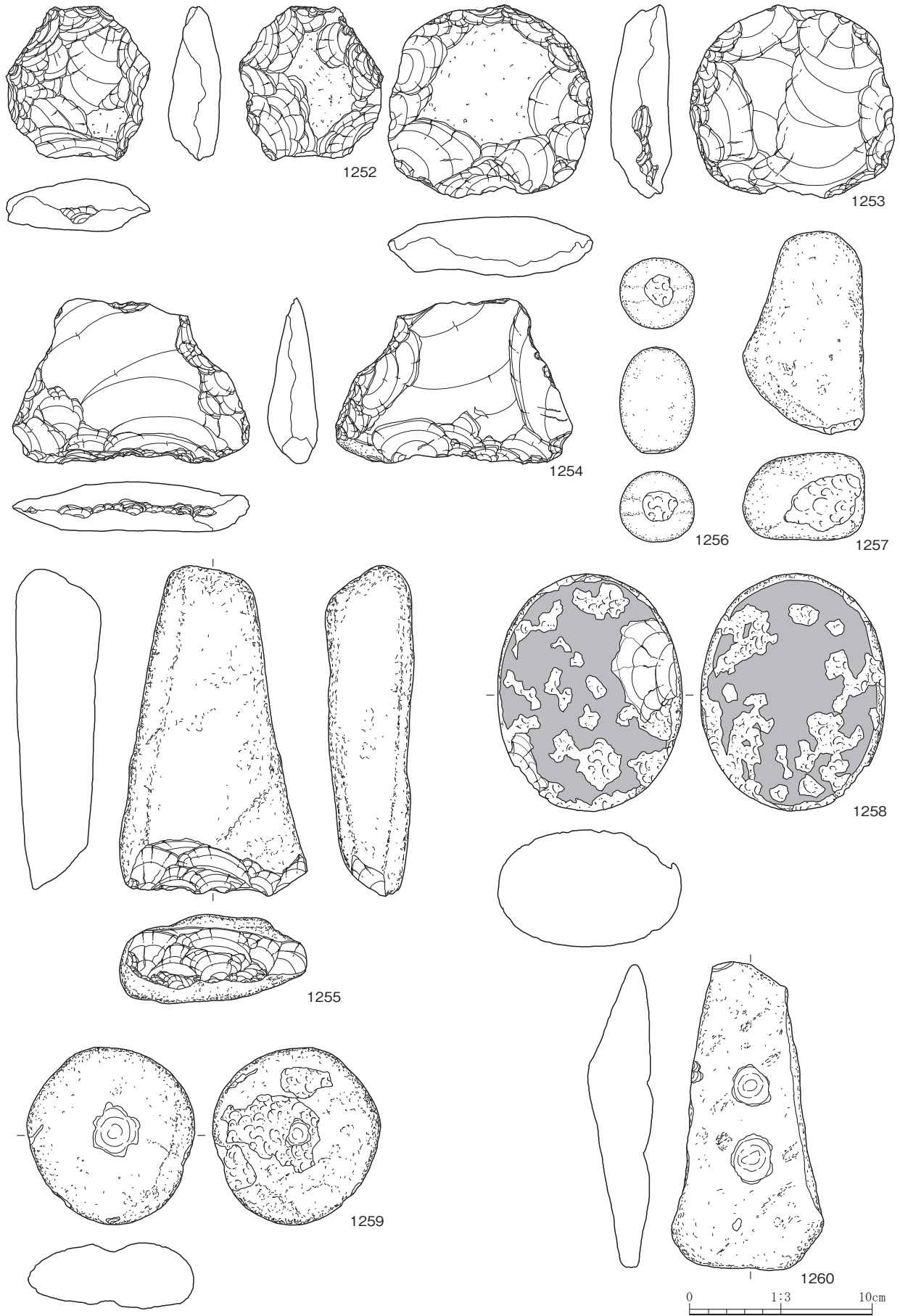


第 131 図 出土石器 (13)

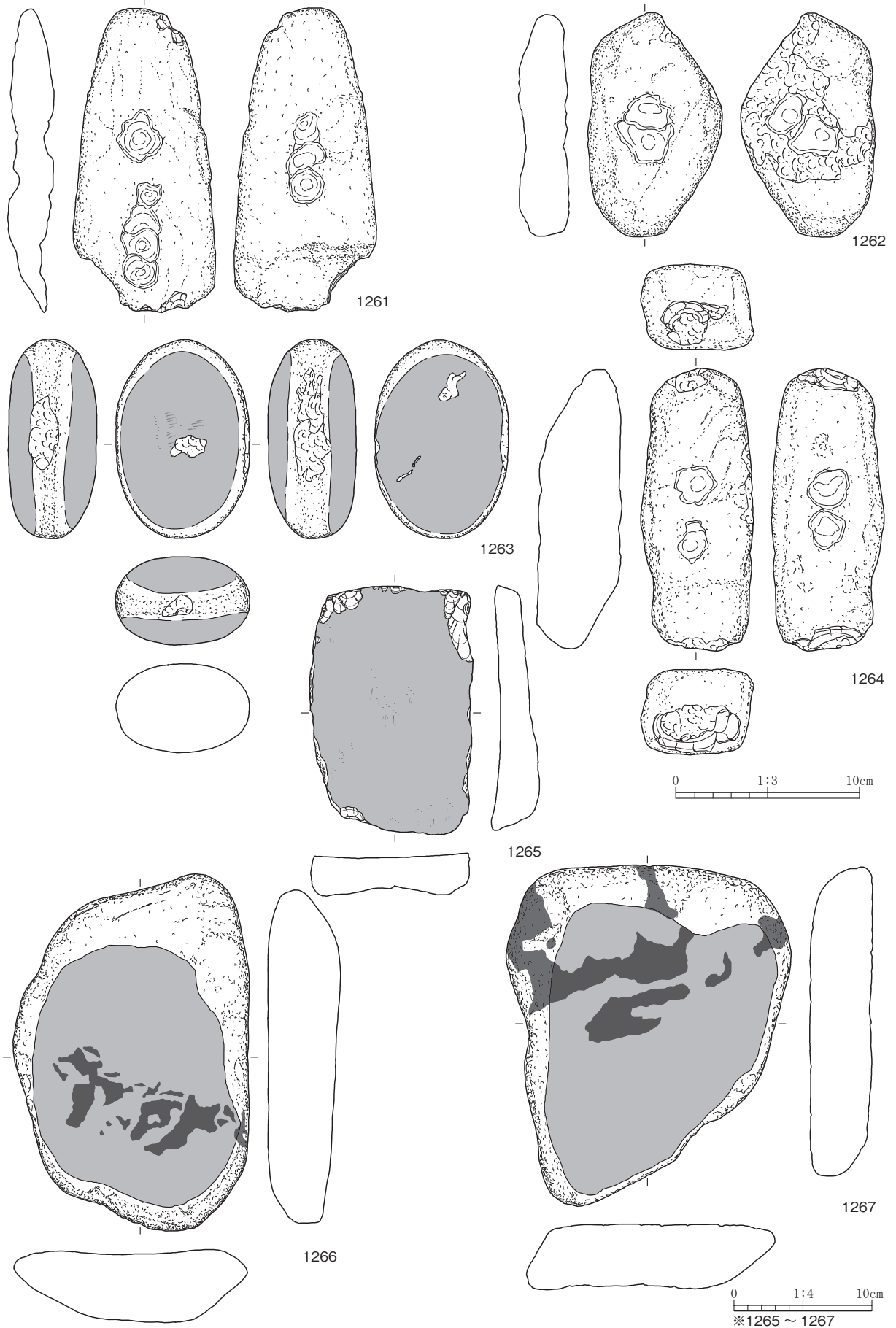




第 132 图 出土石器 (14)

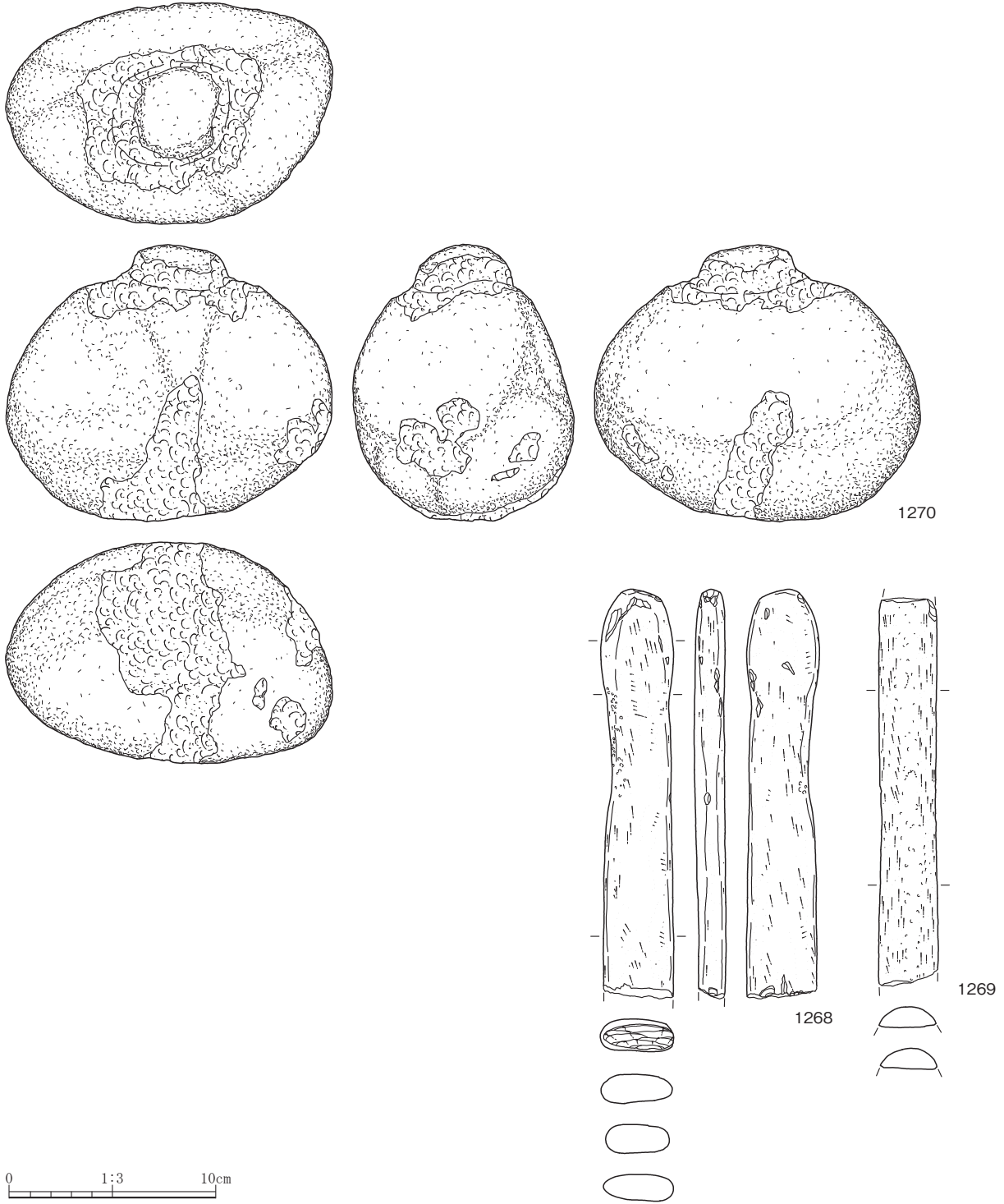


第133图 出土石器(15)



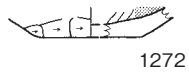
第134图 出土石器(16)





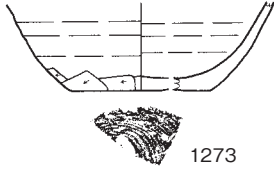
第 135 図 出土石製品

SD01

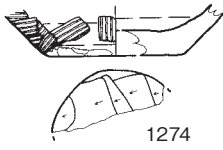


1272

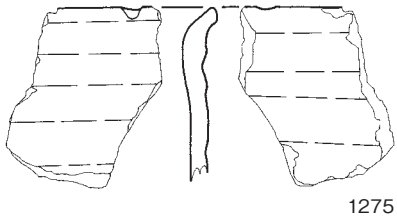
SD03



1273

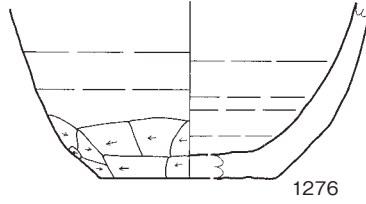


1274



1275

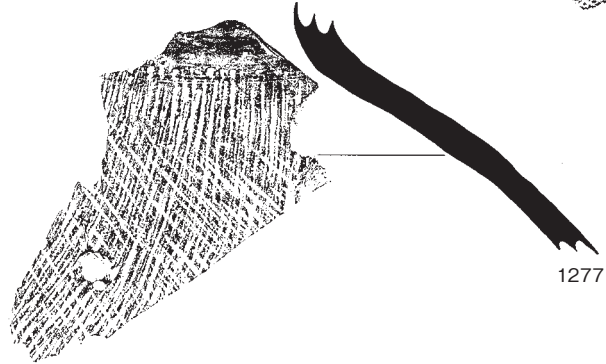
SD09



1276



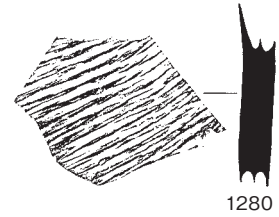
1278



1277

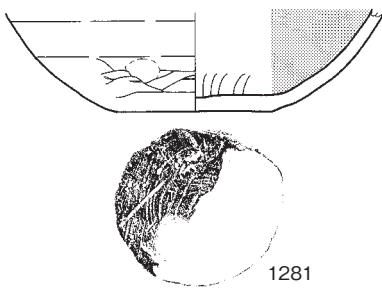


1279

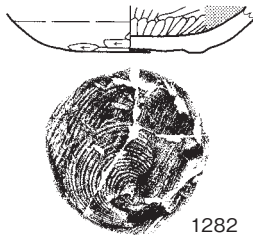


1280

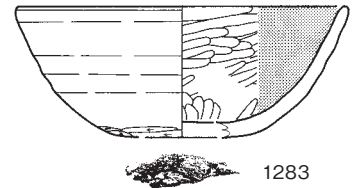
遺構外



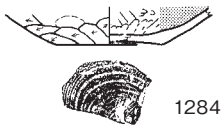
1281



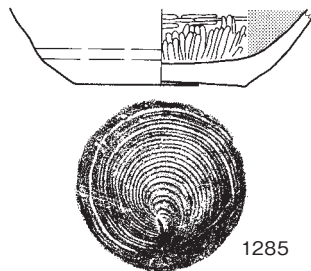
1282



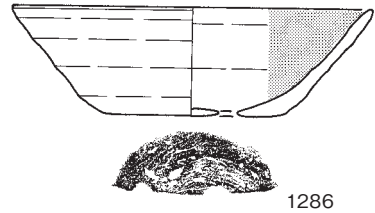
1283



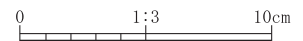
1284



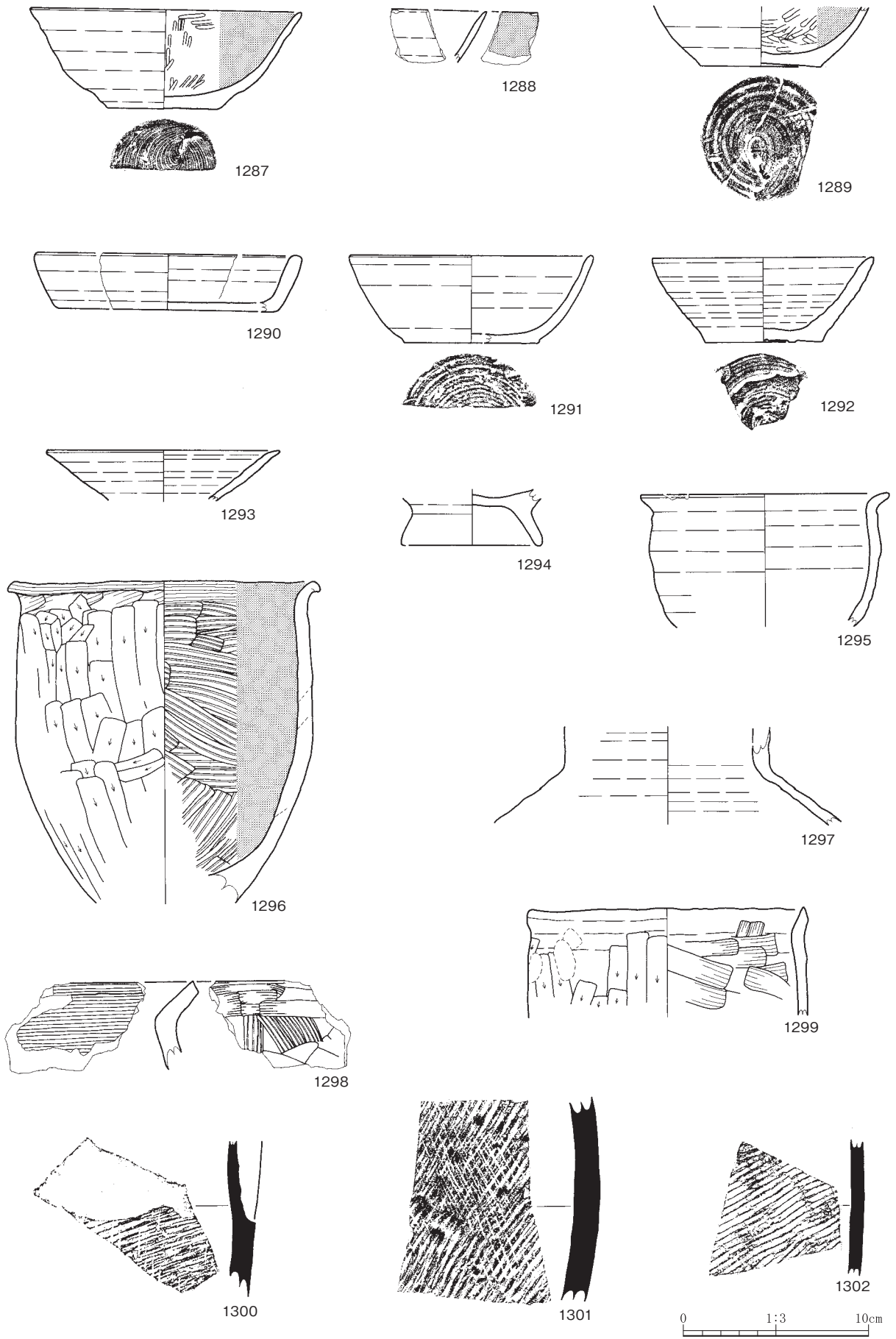
1285



1286



第 136 図 平安時代の土器 (1)



第 137 図 平安時代の土器 (2)



第2-1表 縄文土器観察表 (1 ~ 11・16 ~ 846)

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率 (%)		計測値 (cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
1	40	37	東	SI07 炉3	焼土上面	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(3.4)
2	40	37	東	SI07 炉3	焼土上面	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(4.7)
3	40	37	東	SI07 P5	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(3.9)
4	40	37	東	SI07	埋土 2層目暗褐色土	2	2	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(6.5)
5	40	37	東	SI07	埋土 2層目暗褐色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(2.6)
6	40	37	東	SI07	埋土 2層目暗褐色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(3.0)
7	40	37	東	SI07	埋土 2層目暗褐色土	1	1	縄文土器	深鉢	III B	口縁	-	0	-	-	(6.6)
8	40	37	東	SI07	埋土 1層目黒色土	2	2	縄文土器	深鉢	III A	胴	0	0	-	-	(6.3)
9	40	37	東	SI07	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(3.8)
10	40	37	東	SI07	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(4.4)
11	40	37	東	SI07 南壁除	床面	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(3.7)
16	40	37	東	37G12	1層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(4.3)
17	40	37	東	37G12	1層目黒色土	2	2	縄文土器	深鉢	III B	口縁	-	0	-	-	(4.5)
18	40	37	東	37G12	1層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	0	0	-	-	(6.7)
19	40	37	東	37G12	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	-	0	-	-	(7.7)
20	40	37	東	37G13	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(6.3)
21	40	37	東	37G13	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	-	0	-	-	(3.7)
22	40	37	東	37G13	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(6.4)
23	40	37	東	37G13	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(4.2)
24	40	37	東	37G14	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	-	0	-	-	(5.3)
25	40	37	東	37G18	2層目黒色土	1	1	縄文土器	深鉢	III B	口縁	-	0	-	-	(6.3)
26	40	37	東	37G19	2層目黒色土	2	2	縄文土器	深鉢	III A	口縁	-	0	-	-	(3.2)
27	41	37	西	SR01	一括土器	80	80	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4a類	略完形	100	100	49.4	14.0	40.0
28	41	37	西	3C7・12 3C12(NR03) SR02(NR04・3C17) 不明	III層 III層 一括土器 不明	4 32 24 14	74	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4a類	略完形	100	100	37.0	10.0	42.9
29	41	38	西	6C25 7C21 6C25～7C21 遺物集中土器⑩⑬ 6C25～7C21 遺物集中土器⑫⑮ 6C25・7C21 遺物集中①～⑮土 器の破片 6C25 6C25・7C21 遺物集中土器⑪ 6C25・7C21 遺物集中土器⑫ 6C25・7C21 遺物集中土器⑭ 不明	II a～II b層 II a層 II b層 II b層 II b層 II b層 II b層 II b層 不明	1 1 15 6 3 2 2 2 43 9	84	縄文土器	深鉢	IX B	略完形	85	100	23.3	7.8	25.0
30	42	38	西	6C25・7C21 遺物集中①～⑮土 器の破片 6C25・7C21 遺物集中土器⑪ 6C25・7C21 遺物集中土器⑫ 不明	II b層 II b層 II b層 不明	1 95 12 9	117	縄文土器	深鉢	IX B	略完形	40	25	<29.6>	<10.2>	34.7
31	42	38	西	6C25 7C21 6C25・7C21 遺物集中土器⑪	II a層上半 II a層 II b層	1 13 1	15	縄文土器	小形深鉢	IX B	口縁～底 1/2	35	100	<14.0>	5.2	12.7
32	42	38	西	6C25 6C25・7C21 遺物集中①～⑮土 器の破片 5C17 NR07	II a層上半 II b層 II b層下部	1 3 4	8	縄文土器	小形深鉢	IX B	口縁～底 2/3	80	100	7.4	4.2	6.9
33	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑫	II b層	18	18	縄文土器	小形深鉢	IX B	略完形	90	70	12.1	5.3	11.0
34	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑫⑮	II b層	14	14	縄文土器	小形深鉢	IX B	略完形	75	100	11.0	5.2	9.4
35	42	38	西	6C25・7C21 遺物集中土器⑪ 6C25・7C21 遺物集中土器⑫ 不明	II b層 II b層 不明	1 9 1	11	縄文土器	小形深鉢	IX B	略完形	75	100	9.0	4.8	7.4
36	42	38	西	6C25 6C25・7C21 遺物集中土器⑫	II b層 II b層	4 12	16	縄文土器	小形深鉢	IX B	口縁～底 2/3	80	100	13.3	6.3	11.6
37	42	38	西	6C25 6C25・7C21 遺物集中土器⑫ 不明	II b層 II b層 不明	1 45 5	51	縄文土器	壺	IX B	胴上半～底	0	95	-	9.0	(15.1)
38	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑧	II b層	2	2	縄文土器	台付鉢	IX B	完形	100	100	10.1	5.0	7.5
39	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑦	II b層	11	11	縄文土器	鉢	IX B	胴下半～底	0	100	-	3.8	(4.9)
40	42	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器④	II b層	1	1	縄文土器	台付浅鉢	IX B	完形	100	100	12.5	6.4	7.8
41	42	38	西	6D3 6C19(NR05) 6C25～7C21 遺物集中土器① 6C20	II a層下半 II b層 II b層 II a～II b層	1 50 1 1	53	縄文土器	壺	IX B	口縁～胴下半	80	0	9.6	-	(20.8)
42	43	39	西	6C25・7C21 遺物集中土器⑫	II b層	8	8	縄文土器	壺	IX B	略完形	65	100	10.2	7.2	11.2
43	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑥	II b層	18	18	縄文土器	壺	IX B	胴～底	0	100	-	7.2	(9.6)
44	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑫	II b層	32	32	縄文土器	壺	IX B	略完形	100	50	5.0	<4.6>	14.0
45	43	38	西	6C25・7C21 遺物集中土器⑪ 6C25・7C21 遺物集中土器⑫	II b層 II b層	2 31	33	縄文土器	壺	IX B	略完形	100	100	3.7	5.6	16.3
46	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑨⑩	II b層	19	19	縄文土器	壺	IX B	略完形	85	65	3.6	4.3	12.4
47	43	39	西	6C25・7C21 遺物集中土器⑬	II b層	1	1	縄文土器	壺	IX B	略完形	45	100	5.6	5.3	8.3
48	43	38	西	6C25～7C21 遺物集中土器⑫	II b層	2	2	縄文土器	壺	IX B	完形	100	100	3.2	5.1	11.9
49	43	39	西	7E11(P101)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(4.5)
50	43	39	西	7E11(P101)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	(4.7)
51	43	39	西	7E11(P101)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(3.9)

( ) : 残存値・&lt; &gt; : 推定値

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録No.
		内面	外面					
胴：隆線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	838
胴：隆線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）		胴スス微量		0	0	大木 8b	839
胴：沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	840
胴：隆沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	845
胴：隆沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	847
胴：隆線・刺突	ナデ（横）				0	0	大木 8b	848
口縁：縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	中期後葉	846
胴：沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 9	844
胴：隆線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	842
胴：隆沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	843
胴：隆線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	841
胴：隆線・蕨状・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	831
口縁：隆線・隆線上の竹管文連続刺突、胴：縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	中期後葉	830
口縁：隆線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	836
口縁：隆線・蕨状・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	827
胴：隆沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	833
口縁：隆沈線・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	834
胴：隆沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	835
胴：隆線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	837
口端：橋状突起、口縁：隆沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	832
口縁：折り返し・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	中期後葉	829
口端：突起、口縁：沈線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 9	828
口端：縄文（LR）、口縁～胴：縄文（LR）、底：網代痕	ナデ（横）	胴下半コゲ少量	胴上半スス微量		1	1	後期中葉・年代測定 新田Ⅱ-23	825
口縁～胴：縄文（LR）、底：網代痕	ナデ（横）		口縁～胴上半スス多量		1	1	補修孔1対2箇所（外→内）・後期中葉・年代測定 新田Ⅱ-19	510
口端：B突起、口縁：沈線・2個一対の粘土粒、胴：縄文（LR）、底：ナデ	口縁：沈線、口縁～底：ナデ（横）				1	1	大洞 A1	741
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴スス微量		1	0	大洞 A1	750
口縁～胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）	胴上半コゲ微量	胴上半スス微量		1	1	大洞 A1	742
口端：突起、口縁～胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	743
口端：B突起、口縁：沈線・2個一対の粘土粒、胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）	胴下半コゲ微量	胴スス少量		1	1	大洞 A1	744
口端：B突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	749
口端：B突起・刻み目、口縁：沈線・矢羽根状沈線、胴：縄文（RL）、底：ナデ	口縁：沈線、口縁～底：ナデ（横）				1	1	大洞 A1	754
口端：B突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	752
胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	753
口端：B突起、胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	757
胴～底：ミガキ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	875
口縁：沈線、胴：ミガキ、台：流水工字文・沈線	口縁：沈線、口縁～底：ミガキ				1	1	大洞 A1	758
口縁～胴：ナデ	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	731
胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	745
胴：沈線・ミガキ、底：ミガキ	胴：ナデ（横）、底：工具痕				1	1	大洞 A1	746
口端：突起、口縁：眼鏡状浮文、頸：ミガキ、胴：重畳する流水工字文・ミガキ、底：ミガキ	口縁：沈線、口縁～底：ナデ（横）				1	1	大洞 A1	747
口縁：眼鏡状浮文、頸：ミガキ、胴：工字文・2個一対の粘土粒・ミガキ、底：ミガキ	口縁：沈線、口縁～底：ナデ（横）				1	1	大洞 A1	748
口縁：眼鏡状浮文、頸：ミガキ、胴：流水工字文・沈線・刺突・ミガキ、底：ミガキ	口縁：沈線、口縁～底：ナデ（横）				1	1	大洞 A1	755
胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	756
口縁：眼鏡状浮文、頸：ミガキ、胴：流水工字文・沈線・刺突・ミガキ、底：ミガキ	口縁：沈線、口縁～底：ナデ（横）				1	1	大洞 A1	759
口端：突起・刻み目、口縁：ナデ	口縁：沈線、ナデ				0	0	後期初頭～前葉	789
口端：原体圧痕（RL）、口縁：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	790
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	791

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
52	43	39	西	7E11(P101)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(3.2)
53	43	39	西	1D4	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(8.9)
54	43	39	西	1D23	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起~口縁	-	0	-	-	-
55	43	39	西	1D24	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(5.7)
56	43	39	西	1D23	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(11.3)
57	43	39	西	1D15	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(4.8)
58	43	39	西	1D5	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(5.4)
59	44	39	西	1E9	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(5.4)
60	44	39	西	1E4	砂礫 lor2 層	31	31	縄文土器	深鉢	VII A ?	口縁~胴上半	-	0	-	-	(18.5)
61	44	39	西	1E3	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁	-	0	-	-	(5.8)
62	44	39	西	1E14	砂礫 lor2 層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B ?	口縁	-	0	-	-	(4.7)
63	44	39	西	北端トレンチ(2~3A区)	砂礫3層	2	2	縄文土器	壺?	IX B ?	胴	0	0	-	-	(3.2)
64	44	39	西	H23 排土	表採(II b層)	1	1	縄文土器	壺	IX B	口縁	100	0	-	-	-
65	44	39	西	2~3E区	検出	1	1	縄文土器	注口	VII	注口	0	0	-	-	-
66	44	39	西	2~3E区	検出	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-
67	44	39	西	2A25	II b1層	5	5	縄文土器	壺	IX B	口縁~肩	30	0	-	-	(7.3)
68	44	39	西	2A20	II b層下部	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.3)
69	44	39	西	2A11	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(4.2)
70	44	39	西	2A18	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(4.6)
71	44	39	西	2A18	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(5.4)
72	44	39	西	2A23	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	注口?	VII B	口縁	-	0	-	-	(3.5)
73	44	39	西	2A8	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(4.6)
74	44	39	西	2A1	砂礫 lor3 層	14	14	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~底	-	-	(12.8)	(7.0)	11.5
75	44	39	西	2A23	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.8)
76	44	39	西	2A1	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(4.5)
77	44	39	西	2A23	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(6.7)
78	44	39	西	2A13	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(11.0)
79	44	39	西	2A13	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(7.8)
80	44	39	西	2A22	砂礫 lor3 層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(14.1)
81	44	39	西	2A13	砂礫 lor3 層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.2)
82	44	39	西	2A17	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁~胴	-	0	-	-	(4.7)
83	44	40	西	2A7	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁~胴上半	-	0	-	-	(4.6)
84	45	40	西	2A23	砂礫 lor3 層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(4.3)
85	45	40	西	2A15	砂礫3層	1	1	縄文土器	壺	II A	口縁	-	0	-	-	(6.2)
86	45	40	西	2A15	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(3.7)
87	45	40	西	2A24	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁	-	0	-	-	(12.8)
88	45	40	西	2A20	砂礫3層	3	3	縄文土器	壺	IX B	胴下半~底	0	-	-	5.3	(2.9)
89	45	40	西	2A15	砂礫3層	1	1	縄文土器	注口	IX B	口縁	-	0	-	-	(3.6)
90	45	40	西	2B10	II a層	32	32	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁~胴	-	0	24.0	-	(28.7)
91	45	40	西	2B25	II a層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半~底	0	-	-	(10.4)	(13.6)
92	45	40	西	2B19	II a層(砂層)	4	4	縄文土器	鉢	IX B	口縁~胴	-	0	-	-	(5.4)
93	45	40	西	2B10	II a層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(2.7)
94	45	40	西	2B15	II a層	23	23	縄文土器	壺	IX Bか	口縁~胴	-	0	-	-	(16.3)
95	45	40	西	2B25	II b層	1	1	縄文土器	単孔	VI	胴	0	0	-	-	(5.9)
96	46	40	西	4D5 2B19・20	II a層 II b層	3 5	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴	-	0	-	-	(17.6)
97	46	41	西	2B15 2B20 2B20 不明	II a層 II b層 II b1~II b2層 不明	2 64 6 7	79	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁~底	-	-	-	9.5	39.5
98	46	40	西	2B20	II b1層	12	12	縄文土器	台付鉢	IX A	口縁~底	-	-	9.5	5.8	8.9
99	46	40	西	2B10 2B20	II b層下部 II b1~II b2層	2 4	6	縄文土器	深鉢	IX A	胴~底	0	-	-	9.0	(9.1)
100	46	40	西	2B24 2B24 不明	II a層 II b2層 不明	1 5 2	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(7.7)
101	46	40	西	2B25 2B20	II b層下部 II b2層	1 2	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.3)
102	46	41	西	2B20	II b2層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3d類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(12.4)
103	46	41	西	2B10	II b2層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(8.5)
104	47	41	西	2B10	II b2層	6	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(8.7)
105	47	41	西	2B25	II b2層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴	-	0	-	-	(16.4)
106	47	41	西	2B20 2B20	II b2層 II b1層	5 7	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴	-	0	25.0	-	(15.6)
107	47	41	西	2B15 2B15	II b2層 II b層最下層	10 1	11	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(14.1)
108	47	41	西	2B20	II b2層	7	7	縄文土器	深鉢	IX A ?・深鉢2類	口縁~胴	-	0	-	-	(17.5)
109	48	42	西	2B15 2B15 2B20	II b2層 II b2層一括 II b2層	3 16 2	21	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁~胴	-	0	35.1	-	(29.7)
110	47	42	西	2B10	II b2層	11	11	縄文土器	深鉢	IX Aか	胴~底	0	55	-	(9.4)	-
111	47	42	西	2B25 5D3 トレンチ	II b2層 II b層	6 1	7	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半~底	0	-	-	(8.9)	(14.2)
112	48	42	西	2B25 2B20 2B24 2B24 不明	II b層下部 II b2層 II b層下部 II b2層 不明	3 11 6 4 10	34	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~底	-	-	22.4	6.4	19.3



外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No
		内面	外面					
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	792
キャリバー形、口縁：隆沈線・縄文（LR）	ナデ（横）						大木 8a	281
口端：大形突起、口縁：沈線	ナデ（横）						後期中葉	284
口端：小波状、口縁：沈線・列点・入組三叉文、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 B2	286
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	285
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（横）		胴スス微量				大洞 C2	283
口端：突起・刻み目、口縁：突起・沈線・工字文・縄文（LR）	ナデ（横）	胴上半スス微量					大洞 A1	282
口縁：魚眼状三叉文・沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 B2	290
口端：小波状、胴：縄文（LR）	ナデ（横・斜）		胴上半スス微量				大洞 B2 ?	289
口端：突起・刻み目、口縁：沈線・列点	ナデ（横）						大洞 C2	287
口縁：沈線・工字文・粘土粒貼付（2個一対）	ミガキ（横）						大洞 A2 ?	288
胴：沈線	ナデ（横）						大洞 A1 ?	277
口縁：眼鏡状浮文、頭：ミガキ	ナデ（横）			0	0	0	大洞 A1	852
胴：沈線・瘤付	ナデ（横）			0	0	0	後期後葉	850
口端：鶏冠状突起、口縁：沈線	ナデ（横）			0	0	0	後期中葉	851
口端：B突起、口縁：沈線、胴：沈線・列点・工字文	口縁：沈線・ナデ（横）						大洞 A1	2
口端：突起、口縁：沈線・工字文、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ（横）		口縁スス少量				大洞 A1	305
口端：波状縁、口縁：貼付・沈線	ナデ（横）						後期中葉	295
口端：大波状縁・破底部に突起、口縁：三日月状貼付	ナデ（横）						後期中葉	300
口端：B突起、口縁：入組三叉文か	ナデ（横）						大洞 B2	299
口端：B突起、口縁：羊歯状文2類（末端の咬み合わない）・沈線	ミガキ（横）						大洞 BC	309
口端：B突起、口縁：羊歯状文2類（末端の咬み合わない）・沈線	ナデ（横）						大洞 BC	294
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	291
口端：突起、口縁：突起・沈線・列点	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 C2	308
口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	292
口端：小波状、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	307
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	296
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	297
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）			0	0	0	大洞 C2・九年橋型	531
口端：突起、口縁：沈線、沈線上の列点・眼鏡状浮文	口端：沈線、口縁～胴：ナデ（横）			0	0	0	大洞 C2 新段階	381
口縁～胴：沈線・工字文	口縁：沈線、胴：ミガキ（横）						大洞 A1	298
口端：突起、口縁：工字文・沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 A1	293
口端：刻み目、口縁：匹字文・沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	306
口縁：隆沈線・楕円形区画	ナデ（横）						大木 8a	303
口縁：磨消・沈線・倒卵状意匠・刺突	ナデ（横）						後期初頭～前葉	304
胴：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	1
胴下半：ミガキ、底：四足	ナデ（横）			1	1	1	大洞 A1	301
口端：突起、口縁：沈線・列点	口縁：沈線、胴：ミガキ（横）						大洞 A1	302
口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	14
胴下半：縄文（LR）	ナデ（横）	胴下半コゲ多量					大洞 C2	61
口端：刻み目、口縁：突起・沈線・工字文	口縁：沈線、胴：ミガキ	スス微量					大洞 A1	46
口端：突起・刻み目、口縁：沈線・粘土粒貼付（2個一対）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	15
口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 A1 か	24
胴：沈線・充填・縄文（0段多条R）・穿孔1箇所（径1.3cm）	ナデ（横）						後期中葉	68
口端：刻み目、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	37
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス少量				大洞 C2	56
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	39
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	52
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	59
口端：刻み目、口縁：沈線・列点、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	43
口端：刻み目、口縁～胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	41
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	19
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	29
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴スス微量				大洞 C2	63
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	54
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）	口縁コゲ少量					大洞 C2	34
口縁～胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス少量				大洞 C2 ?	57
口端：縄文、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	55
胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴下半～底コゲ多量		1	1	1	大洞 C2 か・焼けただけ著しい・年代測定新田II-14	18
胴下半：縄文（LR）	ナデ（横）		胴下半スス少量				大洞 C2	62
口端：突起（A・B）・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴上半スス少量				大洞 C2	40

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
113	48	42	西	2B19	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	(11.3)	-	-
114	48	42	西	2B10	II b2層	4	4	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁~胴	30	0	-	-	(8.6)
115	48	42	西	2B20	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(2.4)
116	48	42	西	2B15 2B10	II b2層 II b2層	2 1	3	縄文土器	鉢	IX A	胴~底	0	-	-	(5.9)	-
117	48	42	西	2B14	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(2.5)
118	48	42	西	2B15	II b2層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(3.0)
119	48	42	西	2B15	II b2層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.5)
120	48	42	西	2B15	II b2層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.8)
121	48	42	西	2B15 2B15	II b2層 II b2層一括	6 2	8	縄文土器	壺	IX B	胴~底	0	-	-	(5.3)	(7.7)
122	48	42	西	2B9	II b2層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁	10	0	-	-	(4.0)
123	48	42	西	2B15 2A25	II b2層 II b1層	1 1	2	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁~胴	-	0	-	-	(3.4)
124	48	42	西	2B15	II b2層	2	2	縄文土器	台付鉢	IX B	台	0	-	-	-	(3.4)
125	48	42	西	2B20	II b3層	6	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(7.2)
126	48	42	西	2B20	II b3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(7.0)
127	48	42	西	2B15 2B20 2B15	II b2層 II b3層 II b層最下部	1 2 1	4	縄文土器	浅鉢	IX A	口縁~底	-	-	3.7	4.2	3.7
128	49	42	西	3B21 ベルト 2B25 ベルト 2B24 ベルト	II b4層 II b層 II b層	4 1 16	21	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~底	-	-	18.9	5.7	-
129	49	42	西	2B14・15 2B14	II b層 II b5層	6 1	7	縄文土器	壺	IX B	胴~底	0	-	-	6.5	(6.6)
130	49	42	西	2B14	II b5層	3	3	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(5.3)
131	49	43	西	2B20	II b層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(3.9)
132	49	43	西	2B25 ベルト	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(8.0)
133	49	43	西	2B25	II b層下部	5	5	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴	-	0	-	-	(14.4)
134	49	43	西	2・3E ~ G 区 2B25 ベルト	底面クリーニング II b層	1 5	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(14.8)
135	49	43	西	2B15	II b層	10	10	縄文土器	深鉢	IX A	胴~底	0	-	-	11.2	(7.5)
136	49	43	西	2B24 ベルト	II b層	8	8	縄文土器	深鉢	IX A	胴~底	0	-	-	(8.7)	(6.4)
137	49	43	西	2B25 ベルト 2B24 ベルト	II b層 II b層	7 7	14	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半~底	0	-	-	(8.7)	(11.5)
138	49	43	西	2B5 2B5	II b層 II b層下部	6 1	7	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(10.0)
139	49	43	西	2B9・10	II b層	31	31	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢1類	口縁~胴	25	0	24.0	-	17.0
140	49	43	西	2B9・10	II b層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(2.6)
141	49	43	西	2B19・20	II b層	3	3	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(6.2)
142	50	43	西	2B5	II b層	14	14	縄文土器	鉢	IX A・鉢2a類	口縁~底	20	95	(11.3)	7.4	9.7
143	50	43	西	2B10	II b層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(2.8)
144	50	43	西	2B9・10	II b層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.9)
145	50	43	西	2B14・15	II b層	2	2	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁~胴	-	0	-	-	(5.0)
146	50	43	西	2B25	II b層下部	1	1	縄文土器	鉢 or 台付鉢	VII B ?	口縁~胴	-	0	-	-	(5.5)
147	50	43	西	2B9(NR03) 2B5 2B10 2B5 不明	II b層下部 砂礫3層 砂礫3層 砂礫3層 不明	2 4 4 4 3	17	縄文土器	壺	IX A	胴	0	0	-	-	(15.8)
148	50	43	西	2B17	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	-	0	-	-	(5.8)
149	50	43	西	2B16	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	III B	口縁	-	0	-	-	(9.7)
150	50	43	西	2B16	砂礫 lor3層	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(14.3)
151	50	44	西	2B23	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(6.1)
152	50	44	西	2B7	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(7.0)
153	50	44	西	2B8	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(7.1)
154	50	44	西	2B16	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(4.7)
155	50	44	西	2B16	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	浅鉢	VI	口縁	-	0	-	-	(6.7)
156	50	44	西	2B7	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(5.3)
157	50	44	西	2B8	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(4.6)
158	50	44	西	2B11	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(5.4)
159	50	44	西	2B13	砂礫 lor3層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.1)
160	50	44	西	2B13	砂礫 lor3層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(5.0)
161	50	44	西	2B2	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(7.2)
162	50	44	西	2B2	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(10.4)
163	50	44	西	2B3	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(7.7)
164	51	44	西	2B3	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(7.6)
165	51	44	西	2B11	砂礫 lor3層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴	-	0	-	-	(9.4)
166	51	44	西	2B23	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(8.8)
167	51	44	西	2B3	砂礫 lor3層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(10.9)
168	51	44	西	2B11	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁~胴	-	0	-	-	(6.0)
169	51	44	西	2B13	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁	-	0	-	-	(5.1)
170	51	44	西	2B3	砂礫 lor3層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢1類	口縁	-	0	-	-	(9.2)
171	51	44	西	2B5	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(6.2)
172	51	44	西	2B19	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	-	0	-	-	(7.6)
173	51	44	西	2B4	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(6.5)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	35
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	17
口端：刻み目、口縁：沈線・列点	ナデ（横）						大洞 C2	42
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	30
口端：刻み目、口縁：沈線・列点	口縁：沈線、胴：ナデ						大洞 A1	10
口端：刻み目、口縁：沈線・列点	ミガキ（横）						大洞 A1	33
口端：刻み目、口縁：沈線・列点、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 A1	26
口端：刻み目、口縁：沈線・列点、胴：縄文（LR）	ミガキ（横）						大洞 A1	32
口縁：沈線、胴：ミガキ	口縁～胴：ナデ（横）、底面：工具痕						大洞 A1・内面底に製作痕	28
口縁：沈線	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	9
口縁：沈線、胴：ミガキ	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	25
台：工字文	ナデ（横）						大洞 A1	31
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	49
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	48
口端：突起、口縁～胴：縄文、底：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	38
口端：突起、口縁：雲形文・沈線、胴：縄文（RL）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 C2	58
胴：ミガキ	ミガキ						大洞 A1	22
口縁：沈線、胴：ミガキ	ミガキ						大洞 A1	21
口縁：羊歯状文2類（末端の咬み合わない）・沈線	ナデ（横）						大洞 BC1？	45
口端：刻み目・施文時の爪痕、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	65
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	66
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	64
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	27
胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	80
胴下半：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	60
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	4
胴：ナデ（斜）	ナデ（横）						大洞 C2	11
口端：突起、口縁：沈線	口縁：沈線、胴：ナデ						大洞 C2	13
口端：刻み目、口縁：突起・沈線・列点、胴：沈線・大腿骨文・縄文（LR）	口縁：沈線・ナデ（横）						大洞 C2	36
胴：縄文（LR）	ナデ（横）				1	1	大洞 C2	7
口端：刻み目、口縁：沈線・列点・工字文	ナデ（横）						大洞 A1	16
口端：刻み目、口縁：沈線・列点、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	12
口縁：沈線、胴：ミガキ	ミガキ						大洞 A1	23
口端：刻み目、口縁：沈線・雲形文・双子状突起・縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 BC？	69
胴：沈線・縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	53
口縁：磨消	ナデ（横）						大木 8b？	338
口縁～胴：沈線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）						大木 10	335
胴：沈線・磨消・縄文（RL）・刺突	ナデ（横）						後期初頭～前葉	337
口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						後期中葉	345
口縁～胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）						後期中葉	318
口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）						後期中葉	322
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）						補修孔1箇所(外→内)・後期中葉	336
口縁：突起・列点、胴：沈線・縄文（LR）	ナデ（横）						後期中葉	334
口端：刻み目、口縁：入組三叉文・沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 B2	319
口端：B突起、口縁：羊歯状文2類（末端の咬み合わない）・沈線	ナデ（横）						大洞 BC	321
口端：B突起、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 BC	327
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	329
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	330
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	310
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	311
口端：刻み目、口縁：沈線、胴	ナデ（横）						大洞 C2	312
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	313
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	326
口端：刻み目、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	343
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	314
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	325
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	328
口端：刻み目、胴：突起・縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	315
口縁～胴上半：隆沈線	ナデ（横）						大木 8a	317
口端：波状縁、口縁：隆沈線・渦巻文・縄文（複節RLR）	ナデ（横）						大木 8b	339
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						後期中葉	316



掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)			
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高	
174	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅷ・Ⅸか	底	0	-	-	(2.9)	(5.5)	
175	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅷ・Ⅸか	底	0	-	-	(6.2)	-	
176	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧB	口縁	-	0	-	-	(5.5)	
177	51	44	西	2B25	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧB?	口縁	-	0	-	-	(4.8)	
178	51	44	西	2B5	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(7.9)	
179	51	44	西	2B10	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.8)	
180	51	44	西	2B20	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3d類	口縁	-	0	-	-	(8.2)	
181	51	44	西	2B10	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.9)	
182	51	44	西	2B19	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.0)	
183	51	44	西	2B20	砂礫3層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	11.8	-	(6.2)	
184	51	45	西	2B20	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(9.6)	
185	51	45	西	2B20	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA	胴	-	0	-	-	(4.0)	
186	51	45	西	2B15	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅨA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(4.6)	
187	51	45	西	2B10	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅨB	口縁	-	0	-	-	(4.4)	
188	52	45	西	2C12	Ⅱa層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢1類	突起	-	0	-	-	(10.3)	
189	52	45	西	メインベルト(2C25)	Ⅱa層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(8.4)	
190	52	45	西	2C13	Ⅱa層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(12.7)	
191	52	45	西	4D10 2C10	Ⅱa層 Ⅱa～Ⅱb層	1 10	11	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	27.8	-	(9.8)	
192	52	45	西	メインベルト(2C24) メインベルト(2C25)	Ⅱa層 Ⅱa層	2 4	6	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	(33.0)	-	(9.3)	
193	52	45	西	2C15 メインベルト北	Ⅱa層 Ⅰ+Ⅱ層上面検出	9 6	15	縄文土器	壺	ⅨC	口縁～胴	-	0	-	-	(10.0)	
194	52	45	西	2C18	Ⅱ層(砂礫)	1	1	縄文土器	深鉢	Iか	口縁	-	0	-	-	(2.8)	
195	52	45	西	2C24	Ⅱb層	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁～胴	-	0	-	-	(13.6)	
196	52	45	西	2C20	Ⅱb層	6	6	縄文土器	深鉢	Ⅵ?・深鉢4c類	底	0	-	-	10.0	(5.0)	
197	52	45	西	2C4 2C4 3B12	Ⅱb層 Ⅱa層 Ⅱb層	1 2 1	4	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(7.2)	
198	52	45	西	2C14(NR03)	13層(Ⅱb層)	1	1	縄文土器	注口	ⅧA	胴上半	-	0	-	-	(3.3)	
199	52	45	西	2C10	Ⅲ層下部	1	1	縄文土器	鉢	ⅧA	口縁	-	0	-	-	(4.9)	
200	52	45	西	2C9	Ⅱb層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧB	口縁	-	0	-	-	(4.6)	
201	52	45	西	2C14(NR03)	13層(Ⅱb層)	24	24	縄文土器	深鉢	ⅨA	胴下半～底	0	-	-	-	10.7	(6.5)
202	53	46	西	2C20 2C15 2C20	Ⅱa層 Ⅱb層 Ⅱb層	1 7 13	21	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴	-	0	37.0	-	(27.2)	
203	53	45	西	2C13	Ⅱb層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴	-	0	-	-	(21.4)	
204	53	46	西	2C24(NR02)	メイン5層(Ⅱb層)	1	1	縄文土器	鉢	ⅨA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.0)	
205	53	46	西	2C10	Ⅲ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1b類	突起	-	0	-	-	-	
206	53	46	西	2C19・24ベルト	Ⅲ層	12	12	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁～胴	-	0	-	-	(28.6)	
207	53	46	西	2C18・23ベルト	Ⅲ層～砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅶ	口縁	-	0	-	-	(5.2)	
208	53	46	西	2C8	Ⅲ層上半	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅶ	口縁	-	0	-	-	(3.4)	
209	53	46	西	2C5(NR03)	14層(Ⅳ層)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(3.0)	
210	53	46	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧBか	口縁	-	0	-	-	(3.8)	
211	53	46	西	2C3	砂礫1or3層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.3)	
212	53	46	西	2C3	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	(5.4)	
213	53	46	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅶ	口縁	-	0	-	-	(4.5)	
214	53	46	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(6.9)	
215	54	46	西	2C10(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	(6.0)	
216	54	46	西	2C5(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	(5.3)	
217	54	46	西	2C14(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA	口縁	-	0	-	-	(7.0)	
218	54	46	西	2C14(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧA	口縁	-	0	-	-	(7.5)	
219	54	46	西	2C25(NR03古)	砂礫3層	1	1	縄文土器	注口	ⅧA?	注口	-	0	-	-	-	
220	54	46	西	2C23(NR02)	砂礫3層	3	3	縄文土器	鉢 or 台付鉢	ⅨA	口縁～胴	-	0	-	-	(5.0)	
221	54	46	西	2C13(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	注口	ⅨA	注口	0	0	-	-	-	
222	54	46	西	2C20(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	-	
223	54	46	西	2C20(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴	-	0	-	-	(8.3)	
224	54	46	西	2C20(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	胴	0	0	-	-	(8.6)	
225	54	47	西	2D18(NR02)	Ⅰ～Ⅱa層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(10.2)	
226	54	46	西	2D20(NR02)	堆積土	1	1	縄文土器	鉢	ⅧA	口縁	-	0	-	-	(6.4)	
227	54	47	西	2D20～25南壁断面付近	崩落土(Ⅱb層)	6	6	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴	-	0	-	-	(11.1)	
228	54	46	西	2D5	Ⅱb層上位	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(7.3)	
229	54	46	西	2D5	Ⅱb層類似層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(6.5)	
230	55	47	西	2D5	Ⅲ層	30	30	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁～胴	-	0	-	42.7	(42.0)	
231	54	46	西	2D4(NR03古)	砂礫1層	2	2	縄文土器	浅鉢	ⅨAか	口縁～胴下半	25	0	21.1	-	(3.1)	
232	54	47	西	2D17(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(7.9)	
233	54	47	西	2D23(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-	
234	54	47	西	2D9(NR02)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-	
235	54	47	西	2D23(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢3類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(8.0)	
236	54	47	西	2D16(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧA	口縁	-	0	-	-	(5.3)	
237	54	47	西	2D23(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧA	口縁	-	0	-	-	(6.6)	
238	55	47	西	2D19(NR02)	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅢA	口縁	-	0	-	-	(7.2)	
239	55	47	西	2D12	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-	

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
指頭による底部の張り出し、底面笹痕	ナデ (横)							73
底面ごじ目組み	ナデ (横)							74
口端：沈線・刻み目、口縁：羊歯状文	ナデ (横)						大洞 B ?	70
雲形文							大洞 BC ?	71
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ (横)						大洞 C2	5
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (羽状非結束LR・RL)	ナデ (横)		胴上半ス微量				大洞 C2	324
口端：刻み目、口縁：縄文 (LR)	ナデ (横)		口縁ス少量				大洞 C2	51
口端：刻み目、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)		胴上半ス少量				大洞 C2	323
口端：刻み目、胴：縄文 (RL)	ナデ (横)						大洞 C2	341
口端：刻み目、胴：突起・縄文 (LR)	ナデ (横)						大洞 C2	342
口縁～胴：縄文 (RL)	ナデ (横)						補修孔 1 箇所 (外→内)・大洞 C2	47
胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						補修孔 1 箇所・大洞 C2	50
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)		胴上半ス微量				大洞 C2	332
口端：突起・刻み目、口縁：工字文	口縁：沈線、胴：ナデ (横)						大洞 A1	20
中空突起	ナデ (横)						後期中葉	77
口縁：縄文 (LR)	ナデ (横)	口縁ス少量	口縁ス少量				後期中葉	92
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (RL)	ナデ (横)		口縁ス多量				大洞 C2・年代測定新田 II -4	78
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						大洞 C2	76
口端：刻み目、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)		口縁ス少量				大洞 C2	93
口縁：波状線、口縁～胴：変形工字文・沈線・ミガキ	口縁：沈線、ミガキ、胴：ナデ (横)						大洞 A'	79
口縁：ループ文	ナデ (横)				0	0	前期初頭	82
口縁～胴：縄文 (LR)	ナデ (横)		口縁ス多量				後期中葉・年代測定新田 II -15	90
胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						後期中葉?	86
口端：刻み目、口縁～胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						後期中葉	75
胴上半：沈線・ミガキ	ナデ (横)				0	0	大洞 B2	407
口縁：魚眼状三又文・沈線、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						大洞 B2	357
口端：B 突起、口縁：羊歯状文 2 類 (末端の咬み合わない)	ナデ (横)						大洞 BC	355
胴下半：縄文 (RL)、底：ナデ	ナデ (横)						大洞 C2	397
口端：刻み目、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						大洞 C2	81
口端：刻み目、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						大洞 C2	85
口端：刻み目、口縁：沈線	口端：沈線、口縁～胴：ナデ (横)						大洞 C2	91
口端：中空突起・沈線・貫通孔、口縁：縄文 (RL)	ナデ (横)						後期初頭～前葉	356
口縁～胴：縄文 (LR)	ナデ (横・縦)						後期中葉	84
口端：突起、口縁：沈線・短沈線充填	ナデ (横)						後期後葉	83
口端：突起、口縁：沈線・磨消・縄文 (RL)・曲線带状文	ナデ (横)		口縁ス多量				後期後葉	354
口縁：沈線・縄文 (LR)	ナデ (横)				0	0	後期中葉	396
口縁：羊歯状文 2 類 (末端の咬み合わない)	ナデ (横)						大洞 BC1 か	348
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						後期中葉	350
口縁：多重沈線	ナデ (横)						後期中葉	351
口端：突起、口縁：沈線・磨消・縄文 (LR)・曲線带状文	ナデ (横)						後期後葉	349
口端：刻み目、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						補修孔 1 箇所 (外→内)・大洞 C2	347
キャリパー形、口縁：隆沈線・渦巻文・縄文 (RL)	ナデ (横)						大木 8a	358
口縁：隆沈線・渦巻文・縄文 (LR)	ナデ (横)						大木 8a	353
口縁：隆沈線・磨消・縦区画・沈線・縄文 (LR)	ナデ (横)						大木 9	361
口端：弧線文を伴う小波状線、口縁：沈線、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)		口縁～胴上半ス少量				大洞 B2	360
胴：沈線・磨消・縄文 (LR)	ナデ (横)				0	0	大洞 B2 ?	364
口端：刻み目、胴：沈線・磨消・縄文 (LR)	ミガキ (横)						大洞 C2	89
注口部	ナデ						大洞 C2	8
口端：突起、口縁：沈線・縄文 (LR)	ナデ (横)						後期中葉	87
胴：隆沈線・縄文 (複節RLR)	ナデ (横)						大木 8a	362
胴：隆沈線・縄文 (LR)	ナデ (横)				0	0	大木 8a	363
口縁：縄文 (LR)	ナデ (横)		口縁ス少量		0	0	後期中葉	451
口縁：弧線文を伴う小波状線・沈線、胴：縄文 (RL)	ナデ (横)						大洞 BC1 ?	44
口端：刻み目、胴：縄文 (RL)	ナデ (横)						大洞 C2	88
口端：刻み目、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)						大洞 C2	95
口端：刻み目	ナデ (横)	口縁ス少量	口縁ス少量				大洞 C2	138
口縁～胴：縄文 (RL)	ナデ (横・斜)		口縁ス少量				補修孔 2 対 4 箇所・後期中葉	94
口縁～胴：ミガキ	ミガキ				0	0	大洞 C2 か	860
胴：沈線・列点充填	ナデ (横)				0	0	後期初頭～前葉	369
大形突起：沈線・沈線に沿う列点	ナデ (横)				0	0	後期中葉	371
口端：大形突起					0	0	後期中葉	896
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (LR)	ナデ (横)		胴上半ス微量		0	0	後期中葉	372
口端：B 突起、口縁：沈線・刺突・入組三又文 2a 類	ナデ (横)				0	0	大洞 B2	368
口端：B 突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文 (RL)	ナデ (横)		胴上半ス多量		0	0	大洞 B2	370
口端：波状線、口縁：隆沈線・縄文 (複節RLR)	ナデ (横)						大木 9	96
中空突起	ナデ (横)				0	0	後期中葉 (宝ヶ峯式)	366

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
240	55	47	西	2D12(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(5.2)
241	55	47	西	2D5(NR03 古)	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(14.7)
242	55	47	西	2D18(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.7)
243	55	47	西	2D14(NR02)	メイン18層(砂礫3層)	1	1	縄文土器	台付鉢	IX A	胴下半~台	0	100	-	5.3	(3.5)
244	55	47	西	2D18(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A	口縁	-	0	-	-	(3.3)
245	56	48	西	2E6(NR01)	泥炭層(砂礫1or2層)	1	1	縄文土器	深鉢	IV	突起	-	0	-	-	-
246	56	48	西	2E22	砂礫1or2層	3	3	縄文土器	注口	VII A	胴~底	0	-	-	-	(4.25)
247	56	48	西	2E22	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢1類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(8.6)
248	56	48	西	2E19(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	V	胴	0	0	-	-	(4.2)
249	56	48	西	2E12(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-
250	56	48	西	2E19(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	胴	0	0	-	-	(5.1)
251	56	48	西	2E4(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(7.4)
252	56	48	西	2E2(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢 or 皿	VII B?	底	-	-	-	(4.6)	(1.4)
253	56	48	西	2E17(NR01)	砂礫2層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~胴	-	0	-	-	(5.7)
254	56	48	西	2E4(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢か	IX A	口縁	-	0	-	-	(4.2)
255	56	48	西	2F7	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	II B	口縁	-	0	-	-	(6.4)
256	56	48	西	2F7	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(4.7)
257	56	48	西	2F6	砂礫1or2層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(9.3)
258	56	48	西	2F18	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(8.5)
259	56	48	西	2F6	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A	底	0	-	-	(4.9)	(1.5)
260	56	48	西	2F7	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁	-	0	-	-	(5.7)
261	56	48	西	2F2	砂礫1層	1	1	縄文土器	鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(2.6)
262	56	48	西	2F1	砂礫1層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(4.9)
263	56	48	西	2F9(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(6.6)
264	56	48	西	2F9(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	-
265	56	48	西	2F3(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(7.7)
266	56	48	西	2F4(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	鉢	VII B	口縁	-	0	-	-	(8.7)
267	56	48	西	2F8(NR01)	砂礫2層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(7.4)
268	57	48	西	2G5	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢・鉢	VI・深鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.8)
269	57	48	西	2G9	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-
270	57	48	西	3A23ベルト	II b1層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	(7.9)
271	57	48	西	3A12	II b層 砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(7.3)
272	57	48	西	3A17	II b層 砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(7.6)
273	57	48	西	3A23ベルト 3A23ベルト 3A24ベルト 不明	II a層 II b1層 II b1層 不明	1 62 2 6	71	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴	-	-	(19.0)	-	(18.3)
274	57	48	西	3A24ベルト	II b2~4層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁	-	0	-	-	(10.9)
275	57	48	西	3A17	II b層 砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(13.1)
276	57	49	西	3A25ベルト 3B21ベルト 不明	II b層 II b層 不明	46 15 6	67	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~底	-	-	33.3	11.0	40.0
277	58	49	西	3A12	II b層上部	64	64	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁~底	-	-	(25.6)	8.3	30.5
278	58	49	西	3A23ベルト 3A24ベルト 3A24ベルト	II b2層 II b層上部 II b層下半	1 6 11	18	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半~底	0	100	-	9.1	(21.0)
279	58	49	西	3A25ベルト	II b層	6	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁~胴	-	0	-	-	(15.7)
280	58	49	西	3A16	19層(II b5層)	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.7)
281	58	49	西	3A24ベルト 3A22ベルト 3A24	II b2~4層 II b4層 II b2~4層	6 4 11	21	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~底	10	100	15.4	6.0	13.5
282	58	49	西	3A23ベルト	II b2層	34	34	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	略完形	-	-	13.5	5.0	12.3
283	58	49	西	3A23	II b4層 37・38層(砂礫3層)	6 3	9	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁~底	-	0	8.0	3.4	(9.7)
284	58	49	西	3A21ベルト	II b1層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A	底	-	100	-	3.3	(1.3)
285	58	49	西	3A21ベルト	II b層	13	13	縄文土器	台付浅鉢	IX A?	胴~底	0	-	-	-	-
286	58	49	西	3A21ベルト 3A21ベルト	II b層 30層(II b2~b4層 間層)	1 1	2	縄文土器	浅鉢	IX A?	口縁~胴	-	0	-	-	(4.4)
287	58	49	西	3A21	19層(II b5層)一括	20	20	縄文土器	壺	IX A	略完形	-	-	8.6	7.5	20.3
288	59	49	西	3A23ベルト	II b1層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	3.0
289	59	49	西	3A22ベルト 3A23ベルト	II b4層 II b2層	1 2	3	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.0)
290	59	49	西	3A22ベルト	II b1層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	-	-	-	(2.9)
291	59	50	西	3A22ベルト	II b1層	1	1	縄文土器	台付浅鉢	IX B	台	0	-	-	6.2	-
292	59	50	西	3A24 3A13	II b2~b4層 砂礫3層	3	3	縄文土器	台付浅鉢	IX B	口縁~底	-	-	21.4	-	7.9
293	59	50	西	3A22ベルト 3A16	II b1層 II b層	1 2	3	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁~胴	-	0	-	-	(5.3)
294	59	50	西	3A12	II b層上部	4	4	縄文土器	浅鉢	IX C	口縁~胴	-	0	-	-	(5.1)
295	59	50	西	3A23	37層(砂礫3層)	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-
296	59	50	西	3A23	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	VI・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	(8.7)



外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：B 突起、口縁：羊歯状文 2 類（末端の咬み合わない）・列点・沈線	ナデ（横）						大洞 B2	359
口縁～胴：縄文（R L）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	365
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（R L）	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（横）	口縁コゲ多量	口縁スス少量		0	0	大洞 C2	599
胴下半：沈線・縄文（L R）	ナデ（横）				1	1	大洞 C2	367
口端：突起・刻み目、口縁：沈線・縄文（R L）・眼鏡状浮文	口縁：沈線・ナデ（横）				0	0	大洞 C2 新段階	598
口端：橋状突起	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	375
胴：弧状の短沈線、巴状文様	ナデ（横）				1	0	大洞 B2 新	532
口端：刻み目、口縁：沈線・突起、胴上半：縄文（L R）	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（横）				0	0	大洞 C2	380
胴：沈線・列点充填・方形区画	ナデ（横）				0	0	十腰内 I 式（最新）（後期前葉）	378
口端：突起、口縁：沈線	ナデ（横）				0	0	後期中葉	376
胴：沈線・沈線に沿う連続刺突・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	379
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	374
胴：雲形文・縄文（R L）	ミガキ						大洞 BC ?	97
口端：突起・刻み目、口縁：突起・沈線・渦文・縄文（L R）	口縁：沈線、口縁～胴：ミガキ（横）				0	0	大洞 C2 新段階	377
口縁：無文	ナデ（横）				0	0	補修孔 1 箇所（外→内）・大洞 C2	373
口縁：隆帯・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	390
口端：B 突起、口縁：魚眼状三叉文	ナデ（横）				0	0	大洞 B2 新段階	389
口端：刻み目、胴上半：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	386
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（R L）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2・九年橋型深鉢	394
胴下半：沈線、底：渦文	ナデ（横）				1	1	大洞 C2 新段階	387
口縁：沈線・列点、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	388
口端：A 突起、口縁：羊歯状文 2 類（末端の咬み合わない）・沈線	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	382
口端：A 突起、口縁：羊歯状文 2 類（末端の咬み合わない）・沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	384
口端：突起、口縁：突起に続く隆線・縄文（L R）	口縁：突起に続く隆線・ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	392
口端：突起・波状線、口縁：沈線・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	393
口端：刻み目、口縁：突起、胴：縄文（L R）	ナデ（横）		口縁～胴上半スス微量		0	0	大洞 C2	383
口端：B 突起、II a 文様帯：入組三叉文・沈線、II 文様帯：羊歯状文 2 類（末端の咬み合わない）・沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	385
口端：剥落、口縁：沈線	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	391
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	395
口端：大形突起					0	0	後期中葉	895
口縁：沈線・磨消・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	508
口縁：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	399
口縁：縄文（L R）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期中葉	406
口端：突起、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	113
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	119
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	404
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	121
胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	98
胴下半：縄文（L R）、底：ナデ	ナデ（横）		胴下半スス微量		1	1	大洞 C2	420
口縁～胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	122
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）	口縁コゲ多量					大洞 C2	100
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）、底：ナデ	口縁：沈線、胴～底：ナデ（横）				1	1	大洞 C2	421
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	115
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	116
底：台	円文・ナデ（横）				1	1	大洞 C2	412
胴下半：ミガキ	胴下半：ミガキ、底：円文						大洞 C2 ?	105
口縁～胴：沈線	ナデ（横）						大洞 C2 ?	106
頭：沈線、胴：縄文（L R）・穿孔 1 箇所（外→内）	ナデ（横・斜）						大洞 C2	107
口端：沈線、口縁：四字文	口縁：ミガキ						大洞 A1	109
口端：突起、口縁：四字文	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	108
口端：突起・刻み目、口縁：四字文	口縁：ミガキ（横）						大洞 A1	112
台：沈線	台：ミガキ（横）						大洞 A1	111
口端：突起、口縁：工字文・沈線、胴：縄文（L R）、台：沈線	口縁～底：ミガキ（横）、底：円文						大洞 A1	120
口縁：沈線、胴：ミガキ	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	104
口縁：変形工字文・口縁、胴：縄文（L R）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A'	99
口端：大形突起、口縁：沈線	ナデ（横）				0	0	後期中葉	418
口端：平縁、口縁：横位区画沈線・曲線帯状文・縄文（L R）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期中葉	416

掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
297	59	50	西	3A16	砂礫3層	1	1	縄文土器	壺	ⅧB	肩	-	0	-	-	(2.9)
298	59	50	西	3A22	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(10.5)
299	59	50	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	胴上半	-	0	-	-	(9.9)
300	59	50	西	3A13	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.9)
301	59	50	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁	-	0	-	-	(9.9)
302	59	50	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(12.6)
303	59	50	西	3A23 不明	37層(砂礫3層)一括 不明	70 8	78	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	略完形	-	-	26.8	8.2	31.1
304	60	50	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(10.0)
305	60	50	西	3A23	砂礫3層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(11.2)
306	60	50	西	3A23	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(11.1)
307	60	50	西	3A18	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(7.5)
308	60	50	西	3A11	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅨB	口縁	-	0	-	-	(5.3)
309	60	50	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅨA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.8)
310	60	50	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅨA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.4)
311	60	50	西	3A18 3A17	21層(砂礫3層) 砂礫3層	4 3	7	縄文土器	浅鉢	ⅨA	口縁～底2/3	50	100	-	8.4	(6.5)
312	60	50	西	3A22	砂礫3層	2	2	縄文土器	壺	ⅨA	胴上半～底 1/4	0	-	-	3.0	(5.7)
313	60	50	西	3A21	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅷ・Ⅸか	口縁	-	0	-	-	(7.6)
314	60	51	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅷ・Ⅸか	口縁	-	0	-	-	(6.7)
315	60	51	西	3A18	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅨB	口縁	-	0	-	-	(4.1)
316	60	51	西	3A21	砂礫3層	2	2	縄文土器	浅鉢	ⅨB	口縁	-	0	-	-	(3.4)
317	60	51	西	3A18	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅨB	口縁～胴	-	0	15.8	-	(6.2)
318	60	51	西	3A12	砂礫3層	1	1	縄文土器	壺	ⅨB	肩	0	0	-	-	(1.5)
319	60	51	西	3B4	Ⅱa層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.9)
320	60	51	西	3B4	Ⅱa層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(8.6)
321	60	51	西	3B17	Ⅱa層	3	3	縄文土器	浅鉢	ⅨB	胴下半～底	0	-	-	8.3	(2.9)
322	61	51	西	3B14 3B19 不明	Ⅱb層上部 Ⅱb層上部 不明	85 15 13	113	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢2a類	口縁～胴下半	-	0	(14.2)	-	(37.8)
323	61	51	西	3B6・7 3B7	Ⅱb4層 Ⅱb5層	1 1	2	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢2a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.9)
324	61	51	西	3B8	Ⅱb層最下部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(7.6)
325	61	51	西	3B23	Ⅱb層上半	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(9.8)
326	61	51	西	3B22ベルト 3B23	Ⅱb層 Ⅱb層	2 1	3	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(8.9)
327	61	51	西	3B8	Ⅱb2層	1	1	縄文土器	鉢	ⅧB?	口縁	-	0	-	-	(3.5)
328	61	51	西	3B8	Ⅱb層上半	1	1	縄文土器	鉢	ⅧB?	口縁	-	0	-	-	(2.8)
329	61	51	西	3B21ベルト 3B16ベルト	Ⅱb4層 Ⅱb4層	3 14	17	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢1類	口縁～胴上半	-	0	(26.9)	-	(17.6)
330	61	51	西	3B6ベルト	Ⅱb2層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(5.4)
331	61	52	西	3B7	Ⅱb2層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.7)
332	61	52	西	3B7	Ⅱb3層	8	8	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(12.8)
333	61	52	西	3B7	Ⅱb4層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.1)
334	62	52	西	3C1 3B1・6・11 3B1 3B6 Ⅱb層崩落土 3B2・3 3B2 3B1 不明	Ⅱb2層 Ⅱb層 Ⅱb層崩落土 Ⅱb層崩落土 Ⅱb4層 Ⅱb3～4層 Ⅱb3-4層間砂層 不明	2 1 1 7 1 3 15 23	53	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～底1/2	-	90	41.2	11.1	(29.0)
335	62	52	西	2B15 3B1 3B2 3B7 3B14 3B7 不明	Ⅱb3層 Ⅱb3層 Ⅱb5層 Ⅱb5層 Ⅱb層 Ⅱb5層 不明	1 2 12 1 1 6 8	31	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.3)
336	62	52	西	3B7 3B7 3B7 3B7	Ⅱb2層 Ⅱb3層 Ⅱb3層上面酸化鉄層 Ⅱb4層	1 3 3 3	10	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	20.0	-	(17.1)
337	62	51	西	3B7	Ⅱb3層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.2)
338	62	52	西	3B8	Ⅱb2層下位	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁	-	0	-	-	(4.6)
339	62	52	西	3B7	Ⅱb4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.2)
340	62	52	西	3B16	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(3.8)
341	62	52	西	3B8	Ⅱa層～Ⅱb層上部	9	9	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	26.8	-	(14.6)
342	62	53	西	3B10	Ⅱb1層	5	5	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(9.0)
343	63	53	西	3B11ベルト	Ⅱb1層	5	5	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.5)
344	63	53	西	3B11ベルト	Ⅱb1層	11	11	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(15.7)
345	63	53	西	3B12	Ⅱb1層	14	14	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	30.6	-	(15.8)
346	63	53	西	3B10 3B7 3B7	Ⅱb1層 Ⅱb2層 Ⅱb3層	1 5 1	7	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁～胴上半	-	0	23.6	-	(17.5)
347	63	53	西	3B8	Ⅱb2層下位	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA	口縁	-	0	-	-	(6.5)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
胴：雲形文・沈線	ナデ（横）						大洞 BC ?	101
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	大洞 C2・九年橋型深鉢	415
口縁：突起・沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半コゲ多量				大洞 C2	102
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁～胴上半ス ス多量		0	0	大洞 C2	401
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	402
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	414
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	118
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	大洞 C2	409
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	417
口端：刻み目、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁～胴上半ス ス少量		0	0	大洞 C2	419
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	補修孔1箇所(外→内)・ 大洞 C2	408
口端：B突起、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	398
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半ス微量		0	0	大洞 C2	405
口端：突起、口縁：沈線・沈線間の刻み目、胴：縄文（LR）	口縁：沈線・ミガキ（横）				0	0	大洞 C2	413
口縁～胴：縄文、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 C2	403
ナデ（横）	ナデ（横）						大洞 C2	117
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	晩期	411
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	晩期	410
口縁：沈線・匹字文・縄文（ ）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	279
口端：突起、口縁：匹字文	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	132
口端：突起、口縁：沈線・匹字文、胴：ナデ（横・斜）	口縁：沈線、胴：ナデ（横・斜）						大洞 A1	103
肩：工字文	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	400
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	154
口端：折り返し肥厚、口縁：縄文（LR）	ナデ（横）						後期初頭～前葉	153
胴：沈線、底：四足	ミガキ						大洞 A1	247
口端：平縁、口縁：沈線・縄文（LR）・磨消・S字状入組文	ナデ（横）						後期中葉	437
口縁～胴：沈線・磨消・縄文（LR）・クランク文	ナデ（横）		胴上半ス微量		0	0	後期中葉	429
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量				後期中葉	265
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）						後期中葉	266
口縁～胴上半：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	補修孔1箇所(外→内)・ 後期中葉	468
口縁：雲形文・縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 BC ?	216
口縁：雲形文・沈線	ナデ（横）						大洞 BC ?	212
口端：B突起、口縁：沈線、胴：縄文（羽状非結束LR・RL）	ナデ（横）		胴上半ス微量				補修孔2箇所(外→内)・ 大洞 C2	441
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）		口縁ス少量				大洞 C2	169
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	192
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴上半ス微量					大洞 C2	209
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	183
口端：突起・刻み目、口縁：突起・沈線、胴：縄文（LR）、底： ナデ	ナデ（横）		胴ス少量				大洞 C2	422 423
口端：突起3単位、文様：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴上半ス少量				大洞 C2	127
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、ナデ（横）						大洞 C2	194
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	188
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	214
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	190
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	242
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	186
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	220
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半ス少量		0	0	大洞 C2	434
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半ス少量				大洞 C2	435
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	230
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、ナデ（横）						大洞 C2	197
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	215



掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
348	63	53	西	3B11 ベルト	II b2層	8	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.1)
349	63	54	西	3B2 3B2	II b2層 II b2.3層間砂層	22 3	25	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～底 2/3	-	-	19.1	-	(17.1)
350	64	53	西	3B7 3B7 3B7 不明	II b2層 II b3層 II b4層 不明	1 7 13 4	25	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～底 1/2	-	-	(25.2)	(9.2)	26.6
351	64	54	西	3B7	II b3層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～胴上半	-	0	29.6	-	(21.0)
352	65	54	西	3B7 不明	II b3層 不明	19 20	39	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～底 2/3	-	-	30.0	8.6	35.6
353	64	54	西	3B16 ベルト	II b4層	7	7	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～胴上半	-	0	33.2	-	(12.9)
354	64	53	西	3B2・3	II b4層	5	5	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.5)
355	64	53	西	3B3	II b4層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁	-	0	-	-	(6.6)
356	64	53	西	3B16 ベルト 4B13(NR03) 不明	II b4層 砂礫 3層 不明	3 1 2	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～胴上半	-	0	27.8	-	16.5
357	64	54	西	3B6	II b5層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁	-	0	-	-	(4.9)
358	65	55	西	3B11	II b層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁	-	0	-	-	(9.0)
359	65	54	西	3B21 ベルト	II b層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(26.2)
360	65	53	西	3B6	II b層下部	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁	-	0	-	-	(8.2)
361	65	54	西	3B6 3B12	II b層 II b1層	7 5	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.2)
362	65	55	西	3B16 3B16 3B17	II b層 II b層下部 II b層下部	10 2 4	16	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～胴下半	-	0	16.0	-	(24.6)
363	66	55	西	3B8 3B3 不明	II b層下部 II b1層上半 不明	1 1 13	15	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～胴上半	-	0	23.7	-	(16.6)
364	66	55	西	3B6 3B8 不明	II b層下部 II b2層 不明	2 2 13	17	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(18.6)
365	66	55	西	2B19 3B1 3B1 3B1 3B16 ベルト 3B21 ベルト 不明	砂礫 3層 II b3.4層間砂層 II b3層 II b5層 II b4層 II b4層 不明	1 8 57 1 2 4 19	92	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～胴下半	-	0	28.0	-	(34.4)
366	67	55	西	3B6 SD02 (4C1) 3B6 3B7 3B7 不明	II b層 埋土 II b層下部 II b2層 II b3層 不明	13 1 4 5 6 6	35	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	口縁～底 2/3	-	-	26.4	(10.0)	34.0
367	66	55	西	3B12 3B8	II b1層 II b層下部	3 1	4	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.5)
368	66	54	西	3B22	II b層下部	9	9	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 1類	胴	0	0	-	-	(13.3)
369	66	55	西	3B21 ベルト	II b層	5	5	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.1)
370	67	56	西	3B21 ベルト	II b層	5	5	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.0)
371	67	56	西	3B21 ベルト 3B22 ベルト 3B25 ベルト	II b層 II b層 II b層	5 1 1	7	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.6)
372	67	56	西	3B17	II b層下部	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁	-	0	-	-	(4.1)
373	67	56	西	3B21 ベルト	II b4層	11	11	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3d類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.7)
374	67	56	西	2C9 3B21	II a～II b層 II b層	2 2	4	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.6)
375	68	56	西	3B4 3B4 3B5 3B5 不明	II a層 II b層 II b層 II b層 不明	18 19 38 4 8	87	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴下半	-	0	35.2	-	(36.0)
376	67	56	西	3B8	II b2層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁	-	0	-	-	(11.6)
377	68	56	西	3B8 3B9 3B3 3B7 3B7	II b2層 II b1層 II b3層上面酸化鉄層 II b3層上面酸化鉄層 II b4層	1 1 1 4 2	9	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(22.1)
378	69	56	西	3B9 3B16 ベルト	II b2層下位 II b4層	1 4	5	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(20.8)
379	69	57	西	3B3 3B7 3B2・3 不明	II b3層上面酸化鉄層 II b4層 II b4層 不明	2 3 10 5	20	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴	-	0	(29.6)	-	(25.5)
380	68	57	西	3B2・3	II b4層	10	10	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁	-	0	-	-	(9.2)
381	69	57	西	3B2・3	II b4層	9	9	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁	-	0	-	-	(14.1)
382	69	57	西	3B3	II b4層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁	-	0	-	-	(13.2)
383	69	57	西	3B7	II b4層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(17.9)
384	70	57	西	3B7	II b4層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴下半	-	0	-	-	(30.0)
385	70	57	西	3B7	II b4層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.2)
386	70	59	西	3B21 ベルト	II b4層	19	19	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	32.9	-	(22.0)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁スス多量				大洞 C2・年代測定 新田Ⅱ-17	228
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁スス少量				大洞 C2	135
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	177
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	187
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	176
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁～胴上半スス少量				大洞 C2	445
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量	0	0		大洞 C2	426
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	152
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）	口縁コゲ微量	口縁～胴上半スス少量				大洞 C2	439
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴上半スス多量					大洞 C2	172
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	224
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴上半コゲ少量	胴上半スス少量	0	0		大洞 C2	457
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）	口縁スス少量	口縁スス多量				大洞 C2	164
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（羽状非結束LR・RL）	ナデ（横）						大洞 C2	165
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 C2	239
口端：刻み目、文様：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）・剥落著しい						大洞 C2	148
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（斜・縦）						大洞 C2	167
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（無節R）	ナデ（横）		口縁コゲ多量（吹きこぼれ）				大洞 C2・年代測定 新田Ⅱ-16	123
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴下半コゲ微量	口縁～胴スス少量				器形歪み・大洞 C2	166
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：ミガキ	ミガキ（斜）		口縁スス微量				大洞 C2	184
胴：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	264
口縁：刻み目、胴上半：縄文（無節L）	ナデ（横）			0	0		大洞 C2	453
口縁：刻み目、胴上半：縄文（LR）	口縁：ナデ（横）、胴：ナデ（斜）			0	0		大洞 C2	454
口縁：刻み目、胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量	0	0		大洞 C2	452
口端：刻み目	ナデ（横）						補修孔1箇所・大洞 C2	67
口端：刻み目、口縁～胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量	0	0		大洞 C2	448
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	263
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス少量				大洞 C2	158
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	210
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	195
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量	0	0		大洞 C2	446
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	427
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	143
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	144
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	150
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	182
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	191
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	320
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量	0	0		大洞 C2	450

掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
387	3/11	58	西	3B7 3B2・3	II b4層 II b4層	10 5	15	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴	-	0	36.2	-	(32.3)
388	71	58	西	3B16 ベルト 3B16 ベルト	II b4層 II b5層?	40 1	41	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～底	-	-	30.0	38.9	9.8
389	70	57	西	3B21 ベルト 3C20(NR03)	II b4層 II b層下部	1 1	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.7)
390	72	58	西	3B16 ベルト 不明	II b4層 不明	22 10	32	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴下半	-	0	32.0	-	(29.5)
391	72	59	西	3B6 3B6・7 ベルト 3B6	II b5層 II b5層 砂礫3層	20 7 4	31	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	38.3	-	(35.6)
392	73	59	西	3B5	II b層	8	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(17.6)
393	73	59	西	3B5	II b層	15	15	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴下半	-	0	-	-	(28.2)
394	73	59	西	3B5	II b層	8	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(15.0)
395	73	60	西	3B21 3B21 ベルト	II b層 II b4層	11 13	24	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴下半	-	0	(31.6)	-	(27.2)
396	74	59	西	3D9 3B7	II b層 II b4層	1 2	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	20.4	-	(9.0)
397	74	58	西	3B16 3B21 ベルト 3B16 ベルト 不明	II b層 II b4層 II b4層 不明	11 1 8 10	30	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	39.7	-	(21.0)
398	74	58	西	3C7 3B16 ベルト	II b層上部 II b4層	4 4	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	(34.0)	-	(14.0)
399	74	59	西	3B3	II b4層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(8.7)
400	74	60	西	3B21	II b層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(15.5)
401	74	59	西	3B3 3B2・3	II b3～4層 II b4層	1 1	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(12.8)
402	75	60	西	3B10	II b1層	6	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(9.3)
403	75	60	西	3B2・3	II b4層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁～胴	-	0	-	-	(26.2)
404	75	60	西	3B2・3	II b4層	6	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁～胴	-	0	-	-	(30.0)
405	75	60	西	3B18 3B18	II b層上部 II b層下部	5 2	7	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(8.6)
406	75	60	西	3B7	II b2層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(9.4)
407	75	60	西	3B8 3B12 3B7	II b2層下位 II b2層 II b4層	2 1 1	4	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.8)
408	75	60	西	3E7	II b4層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.1)
409	76	61	西	3B15	II b層下部	7	7	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(18.8)
410	76	58	西	3B8 3B8	II a層～II b層上部 II b2層	10 2	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～底	-	-	18.0	8.1	19.0
411	76	58	西	3B7	II b2層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A	胴～底	0	-	-	6.2	(10.9)
412	76	61	西	3B6	II b層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.5)
413	76	61	西	3B16	II b層	3	3	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半～底	0	-	-	10.5	(6.2)
414	76	61	西	3B7	II b4層	6	6	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半～底	0	-	-	(12.0)	(16.5)
415	76	61	西	3B1	II b層	25	25	縄文土器	深鉢	IX A	胴下半～底	0	-	-	-	(12.8)
416	76	61	西	3B10	II b1層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.1)
417	76	61	西	3B12	II b1層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.7)
418	77	61	西	3B16 ベルト 3B21 ベルト 不明	II b4層 II b4層 不明	37 28 5	70	縄文土器	鉢	IX A・鉢1類	口縁～底1/2	-	-	19.6	5.9	27.8
419	77	61	西	3B7	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～胴上半	-	0	17.0	-	(8.1)
420	77	61	西	3B2・3	II b4層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(6.3)
421	77	61	西	3B11	II b層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.7)
422	77	61	西	3B7 3B7	II b2層 II b3層	3 1	4	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～底1/2	-	-	13.3	6.2	10.8
423	77	61	西	3B8	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(5.5)
424	77	61	西	3B16 ベルト 不明	II b4層 不明	36 3	39	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～底	-	50	21.8	6.0	16.5
425	77	61	西	3B21 ベルト	II b層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁	-	-	-	-	(8.6)
426	77	61	西	3B2	II b4層	3	3	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(4.0)
427	77	61	西	3B2・7	II b4層	10	10	縄文土器	鉢	IX A・鉢1類	口縁～胴	-	0	-	-	(13.6)
428	77	61	西	3B2	II b2層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	略完形	0	9.2	4.0	9.5	
429	77	61	西	3B3 3B3 3B7 3B3 3B3 不明	II b3層上面酸化鉄層 II b4層 II b4層 II b層 II b4層 不明	2 7 1 13 9 9	41	縄文土器	鉢	IX A・鉢1類	口縁～胴下半	-	0	14.7	-	(14.6)
430	77	62	西	3B21 3B17	II b層 II b層下部	1 1	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(6.3)
431	77	62	西	3B13 3B13 3B7	II a層～II b層上部 II b層上部 II b3層	1 1 1	3	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(7.1)
432	77	62	西	3B7	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(3.3)
433	77	61	西	3B16 3B16 ベルト	II b層 II b4層	2 10	12	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～底	-	-	(10.2)	4.6	6.6



外面調整・施文など	内面調整・施文など	スコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	胴下半コゲ少量	胴上半スス少量		0	0	大洞 C2	430
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	胴下半スス少量					大洞 C2	244
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	442
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	胴上半スス少量	胴下半コゲ多量				大洞 C2	243
口端：刻み目、胴：縄文（R L）	ナデ（横）						大洞 C2	171
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	159
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	160
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	161
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス少量				大洞 C2	449
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	193
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	443
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	440
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						補修孔1箇所(外→内)・ 大洞 C2	151
口端：刻み目、胴：縄文（R L）	ナデ（横）		胴上半スス微量				補修孔1箇所(外→内)・ 大洞 C2	262
口端：刻み目、胴上半：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス少量		0	0	大洞 C2	428
口縁～胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	221
口縁～胴：縄文（L R）	ナデ（横）		スス少量				大洞 C2	145
口縁～胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	146
口縁～胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	251
口縁～胴上半：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	203
口縁～胴上半：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	185
口端：指頭圧痕、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	196
口端：波状縁、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	237
胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	208
胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	178
胴：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス微量				大洞 C2	163
胴：縄文（L R）、底：原体圧痕	ナデ（横）						大洞 C2	240
胴下半：縄文（L R）	ナデ（横）		胴下半スス微量				大洞 C2	181
胴下半：縄文（L R）、底：網代痕	ナデ（横）	胴下半コゲ微量					大洞 C2	124
口端：突起、口縁：沈線	ナデ（横）						大洞 C2	222
口端：突起、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	232
口端：突起、口縁：沈線、胴：縄文（羽状非結束 L R・R L）	ナデ（横）						大洞 C2	245
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	202
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（羽状非結束 L R・R L）	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（縦・横）		胴上半スス微量				大洞 C2	425
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 C2	225
口端：突起・刻み目、口縁：沈線、胴：ミガキ	ナデ（横）						大洞 C2	200
口端：突起・刻み目、口縁：沈線・刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	213
口端：突起・刻み目、口縁：沈線・沈線上の列点、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	胴上半コゲ少量			1	1	大洞 C2	444
口端：突起・刻み目、口縁：沈線・沈線上の列点、胴：縄文（L R）	ナデ（横）		胴コゲ少量				大洞 C2	455
口端：B突起、口縁：沈線・列点、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	140
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	142
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	胴下半コゲ少量	胴上半スス多量				大洞 C2	139
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	149
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞 C2	249
口端：刻み目、口縁：沈線・雲形文、胴：縄文（R L）	口縁～胴：ミガキ						大洞 C2	248
口端：刻み目、口縁：沈線・刺突、胴：縄文（R L）	口縁：沈線、ナデ（横）						大洞 C2	198
口端：刻み目、口縁：沈線・沈線上の列点、胴：縄文（羽状非結束 L R・R L）	ナデ（横）	胴コゲ中量	胴スス微量				大洞 C2	447

掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
434	78	62	西	3B12 3B7 3B11・12 3C23 3D5 一括土器②	II b2層 II b3層 II b4層 II b層 II b2層	2 2 1 1 1	7	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.0)
435	78	62	西	3B8	II b2層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(8.7)
436	78	62	西	3B6	II b5層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢2b類	口縁	-	0	-	-	(5.3)
437	78	61	西	3B7	II b3層	10	10	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	胴上半～底	0	-	-	7.1	(14.3)
438	78	62	西	3B19	II b層上部	9	9	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～底1/2	-	-	8.2	3.8	(5.7)
439	78	62	西	3B11 ベルト	II b1層	5	5	縄文土器	鉢	IX A・鉢1類	口縁～底1/2	10	100	(13.0)	2.5	(8.0)
440	78	62	西	3B12	II b1層	16	16	縄文土器	壺	IX A	胴下半～底	0	-	-	(6.9)	(6.9)
441	78	62	西	3B6 ベルト 3B11 ベルト 3B6 ベルト	II b1層 orb2層 II b2層 II b2層	6 2 10	18	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	胴	0	0	-	-	(17.4)
442	78	62	西	3B16	II b層下部	9	9	縄文土器	鉢	IX A	胴下半～底	0	-	-	4.5	(7.2)
443	78	62	西	3B2	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	胴上半～底	0	-	-	5.0	(8.4)
444	78	62	西	3B7	II b3層	1	1	縄文土器	鉢	IX A	胴下半～底	0	-	-	4.2	(5.2)
445	78	62	西	3B2	II b5層	2	2	縄文土器	鉢	IX A	胴下半～底	0	100	-	6.0	(7.9)
446	78	62	西	3B21 ベルト	II b層	4	4	縄文土器	台付鉢	IX A	口縁・底	10	100	-	4.9	(6.5)
447	78	62	西	3B6	II b層下部	6	6	縄文土器	台付鉢	IX A	口縁～底1/2	-	-	(11.6)	(5.7)	9.2
448	78	62	西	3B12	II b1層	1	1	縄文土器	台付鉢?	IX A	口縁	-	0	-	-	(4.2)
449	78	62	西	3B7 3B7 3B7 3B7	II b3層 II b2-3層間砂層 II b3層上面酸化鉄層 II b4層	8 1 1 5	15	縄文土器	浅鉢	IX A	口縁～胴下半	-	0	22.5	-	(7.0)
450	79	62	西	3B1 3B2	II b層 II b2-3層間砂層	3 2	5	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁～底	-	-	(10.4)	4.5	5.9
451	79	62	西	3B21	II b層	11	11	縄文土器	浅鉢	IX A?	口縁～底2/3	-	-	12.4	5.5	6.5
452	79	62	西	3B11	II b層	1	1	縄文土器	壺	IX A	口縁	-	0	-	-	(5.3)
453	79	62	西	3B16	II b層下部	1	1	縄文土器	壺	IX Aか	口縁	-	0	-	-	(2.3)
454	79	62	西	3B7	II b4層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(4.7)
455	79	62	西	3B6 ベルト	II b1層 orb2層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.7)
456	79	62	西	3B7	II b2層	22	22	縄文土器	鉢	IX B	口縁～底	-	-	17.0	6.0	14.8
457	79	62	西	3B12	II b2層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(3.2)
458	79	62	西	3B12	II b2層	4	4	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(6.3)
459	79	62	西	3B11	II b層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(3.1)
460	79	62	西	3B3 3B8	II a層 II b2層下位	2 2	4	縄文土器	鉢	IX B	口縁～底	-	-	(7.1)	(3.4)	4.9
461	79	62	西	3B1 3B1 3B6 3B17	II b層下部 II b層 II b層下部 II b層下部	1 3 1 1	6	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	9.0	(6.6)
462	79	62	西	3B2	II b2-3層間砂層	1	1	縄文土器	鉢 or 台付鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(6.0)
463	79	62	西	3B2 3B7	II b2層 II b3層	5 1	6	縄文土器	台付浅鉢	IX B	口縁～底1/3	-	-	18.9	4.0	7.0
464	79	62	西	3B11 ベルト 3A22 ベルト	II b1層 II b4層	6 2	8	縄文土器	浅鉢	IX B?	口縁～底1/2	-	-	15.5	5.2	6.0
465	79	62	西	3B10	II b1層	1	1	縄文土器	壺	IX B	口縁	-	0	-	-	(3.6)
466	79	62	西	3B7 3B7	II b2層 II b3層	2 3	5	縄文土器	壺	IX B	口縁～肩	-	0	(8.1)	-	(6.3)
467	79	62	西	3B7	II b2層	2	2	縄文土器	鉢	IX C	胴上半	0	0	-	-	(4.4)
468	79	62	西	3B3	II b2層	1	1	縄文土器	壺	IX C	胴上半	-	0	-	-	(3.5)
469	79	63	西	3B15	III層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	胴上半	0	0	-	-	(4.9)
470	79	63	西	3B9	III層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(4.5)
471	79	63	西	3B22	III層	32	32	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(15.6)
472	80	63	西	3B18 3B18 3B17 3B13 3B19 3B20 不明	III層上部 III層下部 III層下部 III層下部 III層上部 III層上部 不明	10 53 1 3 31 7 10	125	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4a類	略完形	-	-	17.8	11.8	41.9
473	80	63	西	西区 T5e (西区北半の中央) 3B20 3B20 3C15(NR04 古) 不明	砂礫層 II b層上部 IV層上部 II b2層 不明	3 9 7 8 8	35	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～底1/2	-	-	(25.0)	(12.3)	29.9
474	80	63	西	3B15 3B15	III層 IV層	2 1	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(8.6)
475	80	63	西	3B24(NR04 内) 3B24(NR04)	III層下部 IV層上部	2 9	11	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.5)
476	81	63	西	3B19(NR05) 3B19 3B15 3B20 3B8(NR05) 砂礫5層 3B13(NR05) 不明	III層 III層上部 IV層 III層 砂礫5層 砂礫5層 不明	1 2 2 2 1 1 9	18	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴下半	-	0	-	-	(33.0)
477	81	64	西	3B20 3B20 一括 不明	III層 IV層間層 不明	3 20 17	40	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5a類	口縁～胴上半	100	0	(24.0)	-	(13.8)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：刻み目、口縁：沈線・沈線上の連続刺突、胴：縄文（LR）	ミガキ（横）						大洞 C2	436
口端：刻み目、口縁：沈線・列点、胴：縄文（LR）	ミガキ（横）						大洞 C2	217
口端：刻み目、口縁：沈線・列点、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	173
口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	180
口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	256
口縁：沈線、胴：縄文（LR）、底：ナデ（丸底風）	口縁：沈線、口縁～胴：ミガキ（横）		胴下半スス微量		1	1	大洞 C2	433
胴：沈線・ミガキ、底：四足	ナデ（横）						大洞 C2	231
口縁：沈線、胴：ミガキ	ナデ（横）						大洞 C2	170
胴：縄文（LR）	胴：ミガキ						大洞 C2	241
胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴上半スス少量	胴スス少量				年代測定新田 II -10 測定不可	137
胴下半：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	205
胴下半：縄文（RL）、底：ナデ	ナデ（横）	胴下半コゲ少量	胴下半スス微量		1	1	大洞 C2	424
口縁：沈線、胴：縄文（RL）、底：台・沈線	ナデ（横）				1	1	大洞 C2	456
口端：突起・刻み目、口縁：突起・沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 C2	162
口端：刻み目、口縁：沈線・刺突、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 C2	233
口端：突起、胴：ミガキ	口縁：沈線、胴：ミガキ（横）						大洞 C2	204
口端：刻み、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁～胴：ナデ（横）						大洞 C2	126
口端：刻み目、口縁～胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2 ?	261
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	226
口縁～頸：ミガキ・赤彩	ナデ（横）				0	0	大洞 C2 か	854
口端：突起、口縁：匹字文、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、ナデ（横）						大洞 A1	199
口端：小波状、口縁：工字文・沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	168
口端：突起、口縁：工字文、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	179
口縁：工字文	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	235
口端：突起、口縁：工字文・沈線・縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ（横）						大洞 A1	234
口端：突起、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	227
口端：突起、口縁：工字文、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	211
口端：刻み目、口縁：匹字文・沈線・列点、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1 ?	125
口端：突起、口縁：工字文・沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	141
口端：突起、文様：匹字文・沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、胴：ミガキ						大洞 A1	136
口縁～底：ミガキ（横）	口縁～底：ミガキ（横）						大洞 A1 ?	110
胴：工字文・沈線	ナデ（横）						大洞 A1	223
口端：突起・沈線、胴：工字文	ナデ（横）						大洞 A1	206
胴：変形工字文	ミガキ						大洞 A'	201
胴：変形工字文・沈線	ナデ（横）						大洞 A'	147
胴：粘土貼付・刺突・沈線・縄文（複節RLR）	ナデ（横）						後期初頭～前葉	238
胴：沈線・縄文（RL）	ナデ（横）						後期初頭～前葉	219
口縁～胴上半：ナデ（横・斜）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	469
口縁～胴：縄文（LR）、底：網代痕	ナデ（横）				1	1	補修孔 2 対 4 箇所（外 →内）・後期中葉	255
口端：波状縁、口縁：隆線・ボタン状貼付・隆線上の刻み目・縄文（単軸絡条体第 5 類 R）・沈線	ナデ（横）				1	0	後期初頭～前葉	505
胴：縄文（単軸絡条体第 5 類 R）	ナデ（横）						後期初頭～前葉	250
口端：突起、口縁：山形沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁～胴上半スス少量		0	0	後期初頭～前葉	473
口縁：隆線・隆線状の列点、胴：沈線・縦位の櫛歯状沈線充填	ナデ（横）						後期初頭～前葉	438
口端：突起（5 単位）、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	533



掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
478	82	63	西	3B22 3B22	Ⅲ層 Ⅳ層	8 9	17	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4a類	口縁～胴下半	-	0	-	-	(27.1)
479	82	63	西	3B22 3B22 3E23(NR04or03 古) 3B21 ベルト 3B23 ベルト 3B22 ベルト 3B22 ベルト 不明	Ⅲ層 Ⅳ層 砂礫4層 Ⅱb層 Ⅲ層上部 Ⅲ・Ⅳ層 Ⅲ層 不明	13 5 1 5 16 21 36 8	105	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢5類	略完形	95	100	40.4	11.2	39.7
480	81	63	西	3B19(NR05)	Ⅳ層	6	6	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.4)
481	81	63	西	3B12	Ⅳ層	1	1	縄文土器	壺	Ⅳ	胴上半	-	0	-	-	(4.5)
482	82	63	西	3B19(NR05)	Ⅴ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅰ	底	0	100	-	-	-
483	82	63	西	NR03(3B ベルト)	堆積土中	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅰ	口縁	-	0	-	-	(6.3)
484	82	64	西	3B1(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	(6.1)
485	82	64	西	3B8(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅴ	口縁	-	0	-	-	(5.2)
486	82	64	西	3B6	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(4.4)
487	82	64	西	3B7	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅦB	口縁	-	0	-	-	(4.0)
488	82	64	西	3B8	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅦA	口縁	-	0	-	-	(4.8)
489	82	64	西	3B1(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢 or 鉢	ⅦB?	口縁	-	0	-	-	(10.8)
490	82	64	西	3B19(NR04・05)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(4.9)
491	82	64	西	3B6	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.2)
492	82	64	西	3B1(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	17.8	4.7	18.5
493	83	64	西	3B12	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(7.2)
494	83	64	西	3B16(NR03 古)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.7)
495	83	64	西	3B1(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	ⅨA・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(8.1)
496	83	64	西	3B1	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	Ⅶ・Ⅸか	口縁	-	0	-	-	(3.7)
497	83	64	西	3B1(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	ⅨA	口縁	-	0	-	-	(2.6)
498	83	64	西	3B22 ベルト (NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡA	口縁	-	0	-	-	(3.3)
499	83	64	西	3B18(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁	-	0	-	-	(5.3)
500	83	64	西	3B18(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢA	口縁	-	0	-	-	(4.0)
501	83	64	西	3B25 ベルト (NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	(6.4)
502	83	64	西	3B25 ベルト (NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(5.0)
503	83	64	西	3B21 ベルト (NR03 古 or 04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(4.4)
504	83	64	西	3B23 ベルト (NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(7.2)
505	83	64	西	3B22 ベルト (NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(11.7)
506	83	64	西	3B23(NR04)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1d類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.0)
507	83	64	西	3B4	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(7.1)
508	83	64	西	3B21(NR03・04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(7.1)
509	83	64	西	3B18(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(6.1)
510	83	64	西	3B4	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(7.2)
511	83	64	西	3B23 ベルト (NR04)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(7.1)
512	83	64	西	3B25 ベルト (NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(10.1)
513	83	64	西	3B23 ベルト (NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	底	0	30	-	10.2	(3.5)
514	83	65	西	3B21 3B16(NR03 古)	砂礫3層 砂礫4層	1 1	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(12.2)
515	84	65	西	3B25 ベルト (NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	胴	0	0	-	-	(6.1)
516	84	65	西	3B23 ベルト (NR04)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(6.7)
517	84	65	西	3B25 ベルト (NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	(10.3)
518	84	65	西	3B20(NR05)	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(7.3)
519	84	65	西	3B20(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(5.4)
520	84	65	西	3B20(NR05)	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.6)
521	84	65	西	3B9(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(8.2)
522	84	65	西	3B8(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	胴上半	0	0	-	-	(3.6)
523	84	65	西	メインベルト北(3～4C区)	Ⅰ+Ⅱ層上面検出	1	1	縄文土器	深鉢	ⅡB	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.4)
524	84	65	西	3C11	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	ⅢB	口縁	-	0	-	-	(4.7)
525	84	65	西	メインベルト(3D5) 2B4 3C25 3C25 3D5 3C25・3D5 一括土器 不明	Ⅱb層上位 砂礫3層 Ⅱb層上位 Ⅱb層上部 Ⅱb層上部砂層 Ⅱb2層 不明	3 1 5 18 3 58 13	101	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4c類	口縁～底2/3	-	100	(23.7)	12.6	31.4
526	84	65	西	3C12	Ⅱb層	11	11	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.0)
527	85	65	西	3D5 3C25 3D1 3C25 不明	Ⅱa層 Ⅱb層上位 Ⅱb層上位 Ⅱb層上部 不明	2 55 2 2 28	89	縄文土器	深鉢	ⅦA	口縁～胴下半	80	0	33.6	-	(30.1)
528	85	65	西	3C24	Ⅱb層上位	13	13	縄文土器	注口	ⅦA	口縁～底1/2	-	0	6.6	-	8.2
529	85	65	西	3C1	Ⅱb層	2	2	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.1)
530	85	65	西	3C12	Ⅱb層	3	3	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(8.6)
531	86	66	西	3C12	Ⅱb層	7	7	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	35.4	-	(11.8)
532	85	66	西	3D1 3D2 3C22 不明	Ⅱb層上位 Ⅱb層上位 Ⅱb層上位 不明	1 8 79 16	104	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3d類	略完形	100	85	33.8	11.0	38.7
533	85	66	西	3C17	Ⅱb層	4	4	縄文土器	深鉢	ⅨA・深鉢3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(23.2)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録No
		内面	外面					
口縁～胴下半：縄文（L R）	ナデ（横）		胴上半スス少量		0	0	後期中葉	460
口縁～胴：ナデ（横）、底：網代痕	口縁～胴：ナデ（横）		胴上半スス少量		1	1	後期中葉	459
口端：突起か、口縁：沈線、胴：縄文（単軸絡糸体第1類R）	ナデ（横）						後期初頭？	257
胴：沈線・磨消・刺突・縄文（複節R L R）	ナデ（横）						後期初頭～前葉	236
底：尖底・縄文（L R）	ナデ（横）				1	1	早期末葉～前期初頭	526
口縁：原体圧痕（L R）、胴：縄文（羽状結束第1種L R・L R）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	826
口縁：波状縁・渦巻文	ナデ						大木8a？	133
口端：波状縁、口縁：沈線・クランク文	ナデ（横）						十腰内I式（最新）（後期前葉）	346
口縁：縄文（L R）	ナデ（横）						補修孔1箇所・後期中葉	174
口縁：末端の咬み合わない羊歯状文（羊歯状文2類）	ナデ（横）				0	0	大洞B2	431
口端：B突起、口縁：入組三叉文・沈線、胴：ミガキ	ミガキ（横）						大洞B2	333
口縁：雲形文、胴：縄文（R L）	ナデ（横）	胴上半スス少量					大洞BC？	131
口縁：沈線	ナデ（横）		口縁スス多量				大洞C2	258
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞C2	175
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	胴上半スス少量	胴上半スス少量				大洞C2	128
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞C2	229
口端：波状縁、口縁：沈線、胴：縄文（無節R）	ナデ（横）						大洞C2	246
口端：突起、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						大洞C2	130
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	口縁スス少量						134
口縁：沈線、胴：沈線・磨消・縄文（L R）	口縁～胴：ミガキ						大洞C2	129
口縁：隆線・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大木8a	463
口縁：粘土貼付・縄文（R L）	ナデ（横）						大木8b	252
口縁：沈線縦位楕円区画・磨消・縄文（L R）	ナデ（横）						大木9？	253
口縁：隆沈線・縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大木10？	475
口端：中空突起、口縁：隆線・隆線状の列点	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期初頭～前葉	478
口端：波状縁、口縁：刺突・沈線・磨消・縄文（R L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	462
口端：波状縁、口縁：波頂部貫通孔1箇所・沈線・磨消・縄文（R L）・ボタン状貼付	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	467
胴：縄文（単軸絡糸体第1類R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	464
口縁：鱗状突起、口縁～胴上半：縄文（L R）	ナデ（横）		口縁～胴上半スス多量		0	0	後期初頭～前葉	471
口端：波状縁、口縁～胴：刺突・沈線・磨消縄文	ナデ（横）						後期初頭～前葉	155
口縁：隆線・隆線状の刺突列、胴：縄文（R L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	461
胴：縄文（単軸絡糸体第5類R）	ナデ（横）						後期初頭～前葉	254
口端：波状縁、口縁：隆線、胴：縄文（0段多条L）	ナデ（横）						後期初頭？	156
口端：突起、口縁：縄文（無節R）	ナデ（横）		口縁スス少量		0	0	後期初頭～前葉	470
口縁：縄文（R L）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期初頭～前葉	474
胴下半：縄文（単軸絡糸体第5類R）、底：笹痕	ナデ（横）				1	0	後期初頭～前葉	465
胴：沈線・磨消・縄文（無節R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	458
胴：縄文（単軸絡糸体第5類R）	ナデ（横）		胴スス微量		0	0	後期初頭～前葉	476
胴：沈線・磨消・縄文（R L）・S字状連鎖沈線	ナデ（横）		胴スス少量		0	0	後期初頭～前葉	466
口縁：沈線、胴：縄文（R L）	ナデ（横）		口縁コゲ少量		0	0	後期中葉	477
胴：沈線・磨消・縄文（L R）	ナデ（横）	口縁スス少量					後期初頭～前葉	259
口端：波状縁・突起、口縁：刺突	ナデ（横）						後期初頭？	280
口端：波状縁、胴：沈線・磨消・倒卵状意匠・縄文（R L）	ナデ（横）	スス少量					後期初頭～前葉	260
胴：沈線・磨消・縄文（単軸絡糸体第5類R）・S字状連鎖沈線	ナデ（横）		胴スス微量		0	0	後期初頭～前葉	432
胴：橋状突起	ナデ（横）						大木8b	218
口縁～胴：沈線・縄文（複節R L R）	ナデ（横）						大木8b	278
口縁：隆線・刺突、胴：縄文（L R）	ナデ（横）						中期末葉？	267
口縁：折り返し、胴：縄文（単軸絡糸体第5類R）、底：ナデ	ナデ（横）		胴上半スス少量		1	1	後期初頭～前葉	528
口縁～胴上半：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉か	540
口端：突起（8単位）、口縁～胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	補修孔2箇所（外→内）・大洞B2か	529
口縁～底：ミガキ	ナデ（横）				1	1	大洞B2か	525
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞C2	535
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（R L）	ナデ（横）				0	0	大洞C2	538
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（L R）	ナデ（横）	口縁コゲ微量			0	0	大洞C2	539
口端：刻み目、口縁～胴：縄文（L R）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞C2	521
口端：刻み目、胴：縄文（L R）	ナデ（横）				0	0	大洞C2	511

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
534	86	66	西	3C1 3C16	II b層 II b層	1 5	6	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.0)
535	86	67	西	3C16 3C17 不明	II b層 II b層 不明	2 47 16	65	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴下半	-	0	31.4	-	(28.0)
536	87	66	西	3C21	II b層上位	22	22	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴下半	-	0	25.2	-	(24.2)
537	86	66	西	3C21 3B6	II b層上位 II b5層	4 1	5	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(17.1)
538	86	67	西	3D1 3C21	II b層上位 II b層上位	1 2	3	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.3)
539	87	67	西	3C21 新しい溝跡(3C21) 3C22	II b層上位 埋土 II b層上位	18 1 2	21	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(21.3)
540	87	66	西	3C6	II b層上部	4	4	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	10	0	-	-	(11.0)
541	87	68	西	3C5	II b層	12	12	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3b類	口縁～胴下半	-	0	-	-	(22.0)
542	87	65	西	3C18(SR01)	II b層(一括土器)	2	2	縄文土器	鉢	IX A?	胴～底	0	25	-	(4.3)	◇
543	87	65	西	3C16	II b層	1	1	縄文土器	壺	IX A	口縁～胴上半	-	0	-	-	(8.1)
544	87	67	西	3C6	II b層上部	19	19	縄文土器	鉢 or 台付鉢	IX A	口縁～胴上半	100	0	10.8	-	(13.9)
545	87	67	西	3C17	II b層	1	1	縄文土器	鉢 or 台付鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(4.2)
546	87	67	西	3C20(NR04 古)	III層上部	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁	-	0	-	-	(8.4)
547	88	67	西	SD01(3C 区)	堆積土中(III層)	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 1a類	口縁	-	0	-	-	(6.6)
548	88	67	西	SD01(3C 区)	堆積土中	8	8	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.7)
549	88	67	西	3C25 メインベルト	III層下位	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5b類	胴	0	0	-	-	(7.2)
550	88	67	西	新しい溝跡(3C21)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	胴	0	0	-	-	(6.5)
551	88	67	西	3C1	III層	4	4	縄文土器	深鉢・鉢	VI・深鉢 4b類	口縁	20	0	-	-	(10.2)
552	88	67	西	3C1(NR03)	III層下層	1	1	縄文土器	深鉢・鉢	VI・深鉢 4c類	口縁	-	0	-	-	(6.0)
553	88	67	西	3C1(NR03)	III層下層	1	1	縄文土器	深鉢・鉢	VI・深鉢 4c類	口縁	-	0	-	-	(4.9)
554	88	67	西	3C9(NR04)	IV層下位	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁	5	0	-	-	(6.7)
555	88	67	西	3C5(II NR04)	21層(IV層最下位)	6	6	縄文土器	浅鉢か	IVか	口縁～胴上半	-	0	-	-	(6.2)
556	88	67	西	3C17(NR03)	IV層	1	1	縄文土器	壺	VI	胴	0	0	-	-	(1.3)
557	88	67	西	3C3(NR04)	IV層	1	1	縄文土器	鉢	VIか	胴	0	0	-	-	(2.1)
558	88	67	西	3C6(NR03)	砂礫 3層	1	1	縄文土器	注口	VI	胴	0	0	-	-	(2.4)
559	88	68	西	3C1(NR03 古)	砂礫 3層	1	1	縄文土器	深鉢	VII・IXか	口縁	-	0	-	-	(6.6)
560	88	68	西	3C2(NR03～04)	砂礫 3層	1	1	縄文土器	深鉢	VII・IXか	口縁	-	0	-	-	(7.4)
561	88	68	西	3C18(NR03)	砂礫 3層	1	1	縄文土器	鉢か	VII・IXか	胴下半～底	0	100	-	4.8	(3.1)
562	88	68	西	3C3(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	胴	5	0	-	-	(6.4)
563	88	68	西	3C13(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 1a類	胴上半	0	0	-	-	(7.7)
564	88	68	西	3C19(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	胴	0	0	-	-	(7.0)
565	88	68	西	3C23(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 4c類	口縁	-	0	-	-	(5.7)
566	88	68	西	3C7(NR03～04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 1a類	口縁	5	0	-	-	(7.1)
567	88	68	西	3C23(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁	-	0	-	-	(6.7)
568	88	68	西	3C9(NR04)	砂礫 4層	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 4a類	口縁	5	0	-	-	(7.3)
569	88	68	西	3C24(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁	-	0	-	-	(7.0)
570	88	68	西	3C20(NR04 古)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 1a類	口縁	-	0	-	-	(3.7)
571	88	68	西	3C13(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁	-	0	-	-	(4.3)
572	88	68	西	3C7(NR03～04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 1a類	口縁	5	0	-	-	(6.2)
573	88	68	西	3C1(NR03 古)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5b類	口縁	-	0	-	-	(4.8)
574	89	68	西	3C3(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5b類	底	0	100	-	8.1	(3.1)
575	89	68	西	3C3(NR04)	砂礫 4層	6	6	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5b類	胴下半～底	0	100	-	15.6	(4.9)
576	89	68	西	3C16(NR03 古)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(3.8)
577	89	68	西	3C17 ベルト	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(2.9)
578	89	68	西	3C7(NR03～04)	砂礫 4層	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.8)
579	89	68	西	3C3(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	胴	0	0	-	-	(3.8)
580	89	68	西	3C12(NR03～04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 1d類	口縁	5	0	-	-	(3.8)
581	89	68	西	3C22(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	Vか	口縁	-	0	-	-	(5.7)
582	89	68	西	3C8(NR04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢 2a類	口縁	-	0	-	-	(5.0)
583	89	68	西	3C16	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢 2a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(6.2)
584	89	68	西	3C12(NR03～04)	砂礫 4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢 2b類	口縁	5	0	-	-	(4.0)
585	89	68	西	3C5(NR05)	砂礫 5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.2)
586	89	68	西	3C5(NR05)	砂礫 5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 2類	口縁	5	0	-	-	(6.8)
587	89	68	西	3C10(NR05)	砂礫 5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5b類	口縁	10	0	10.7	-	(13.7)
588	89	68	西	3C10(NR05)	砂礫 5層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢 2a類	口縁	5	0	-	-	(6.8)
589	89	69	西	3D24(NR04) 3D24(NR04)	II a～II b層(砂質) III層砂質	1 2	3	縄文土器	深鉢	VII	口縁	-	0	-	-	(12.6)
590	90	69	西	3D5 一括土器 3D5 不明	II b2層 II b層 不明	34 4 1	39	縄文土器	深鉢	IV・深鉢 5a類	口縁～胴下半	-	0	30.0	-	(36.6)
591	89	69	西	3D6	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢 4b類	口縁	-	0	-	-	(9.3)
592	89	69	西	3D19 3D20	II b層 II b層	1 2	3	縄文土器	深鉢	VII A	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.0)
593	90	69	西	3D14	II b層間層	8	8	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3a類	口縁～胴上半	-	0	(30.0)	-	(19.0)
594	90	69	西	3D19 不明	II b層 不明	31 13	44	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢 3c類	略完形	85	40	19.1	(7.7)	27.3
595	89	69	西	3D25(NR03) 不明	II b層 不明	23 3	26	縄文土器	鉢	IX A・鉢 3類	略完形	90	25	10.2	(4.9)	10.0



外面調整・施文など	内面調整・施文など	スコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：刻み目、胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	506
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半ス微量				大洞 C2	269
口端：刻み目、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	517
口端：刻み目、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁～胴上半ス 少量		0	0	大洞 C2	520
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	519
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴ス微量		0	0	大洞 C2	518
口端：刻み目、胴：縄文（無節RL・R）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	494
口縁：原体圧痕、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	536
胴：沈線・縄文（LR）	ナデ（横）				1	0	大洞 C2 ?	6
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	268
胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	493
口端：刻み目、口縁：突起・工字文・沈線	口縁：沈線、胴：ナデ（横）						大洞 A1	207
口縁：沈線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	516
口縁：波状縁、口縁：隆線・隆線上の竹管文連続突起・沈線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	821
口縁～胴上半：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	537
胴：縄文（単軸絡条体第1類R）	ナデ（横）		胴ス多量		0	0	後期初頭～前葉	530
胴：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）		胴ス多量		0	0	後期初頭～前葉	618
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	479
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁ス多量		0	0	後期中葉・年代測定 新田 II -18	480
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	481
口端：波状縁、口縁：沈線・突起・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	498
口端：突起、口縁：貫通孔2箇所・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉か	490
胴：沈線・沈線部分は黒彩、平面は赤彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉	857
胴：沈線：縄文（LR）・縄文部分赤彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉か	853
胴：沈線・斜線文・赤黒彩	ナデ（横）				0	0	後期中葉	855
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁ス少量		0	0	晩期か	483
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	晩期か	484
胴下半：ナデ（横）、底：木葉痕	ナデ（横）				1	1	晩期か	513
口縁：隆線・沈線・磨消・縄文（RL）・ボタン状貼付	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	488
口縁：連鎖状隆線・沈線・縄文（RL）・原体圧痕	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	504
胴：沈線・磨消・縄文（LR）・ボタン状貼付	ナデ（横）		胴ス微量		0	0	後期初頭～前葉	515
口縁：折り返し・縄文（RL）	ナデ（横）		口縁ス少量		0	0	後期初頭か	524
口縁：突起・隆線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	495
口縁：沈線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	後期初頭～前葉	523
口縁：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	497
口縁：隆線・ボタン状貼付・沈線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	527
口端：突起	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	677
口端：波状縁、口縁：突起・沈線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	503
口端：波状縁、口縁：隆線・ボタン状貼付・隆線状の原体圧痕	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	496
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	482
底：ナデ・網代痕	ナデ（横）				1	1	後期初頭～前葉	486
胴下半：縄文（RL）、底：笹痕	ナデ（横）				1	1	後期初頭～前葉	485
口縁：多重沈線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期前葉	509
口縁：沈線・列点・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期前葉	512
口端：波状縁、口縁：沈線・縄文（RL）・磨消・突起充填	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	489
胴：沈線・磨消・縄文（無節R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	487
口縁：隆線・隆線状の刻み目・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	501
口端～口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期前葉か	522
口縁：沈線・渦巻文・短沈線充填	ナデ（横）				0	0	後期中葉	514
口縁：沈線・突起	ナデ（横）				0	0	後期中葉	507
口縁：沈線・縄文（LR）・段違いの弧線を反転するもの	ナデ（横）				0	0	後期中葉	502
口縁～胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	後期初頭～前葉	491
口縁：沈線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	後期初頭～前葉	492
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス多量		0	0	後期初頭～前葉	499
口縁：沈線・縄文（単軸絡条体第1類L）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	500
口縁：沈線・縄文・磨消・入組帯状文、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期後葉	570
口端：波状縁、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉か	550
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁コゲ多量		0	0	後期中葉・年代測定新 田 II -7	552
口縁：弧線を伴う小波状縁・沈線、胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁～胴上半ス 少量		0	0	大洞 B2 新	565
口端：刻み目、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	562
口端：突起、口縁：突起・沈線、胴：縄文（RL）、底：ナデ	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（横）		胴上半ス少量		1	0	大洞 C2	563
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				1	0	大洞 C2	571

掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
596	89	69	西	3D12	II b層	12	12	縄文土器	壺	IX A か	胴上半~底	0	100	-	1.1	(6.9)
597	90	69	西	3D3(NR05)	5層(III層)	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1c類	胴上半	0	0	-	-	(4.0)
598	91	69	西	3D12	III層	12	12	縄文土器	深鉢	VII	口縁~胴上半	-	0	-	-	(21.3)
599	90	69	西	3D23(NR04)	III層	1	1	縄文土器	深鉢	VII	口縁	-	0	-	-	(4.2)
600	91	69	西	3D14	III層下位一括	16	16	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4b類	口縁~胴上半	-	0	(29.0)	-	(20.8)
601	90	70	西	3D12	III層中~下位	1	1	縄文土器	深鉢	VII	胴上半	0	0	-	-	(8.6)
602	90	70	西	3D4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(5.1)
603	90	70	西	3D12(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	III A	口縁	-	0	-	-	(5.7)
604	90	70	西	3D9(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1類	口端	-	0	-	-	(4.6)
605	91	70	西	3D4(NR04)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	胴下半	0	0	-	-	(11.5)
606	91	70	西	3D4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1類	胴上半	0	0	-	-	(4.2)
607	91	70	西	3D17(NR04)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(10.7)
608	91	70	西	3D1	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	胴下半	-	0	-	-	(6.3)
609	91	70	西	3D4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(3.3)
610	91	70	西	3D14 (NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-
611	91	70	西	3D14(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(3.6)
612	91	70	西	3D1(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢2b類	口縁	-	0	-	-	(4.2)
613	91	70	西	3D14(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(4.0)
614	91	70	西	3D6(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	胴上半	0	0	-	-	(3.6)
615	91	70	西	3D1(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(9.1)
616	91	70	西	3D2(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(4.5)
617	91	70	西	3D22(NR04)	砂礫4層	8	8	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(11.3)
618	92	70	西	3D7(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	胴上半	0	0	-	-	(3.8)
619	92	70	西	3D22(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	注口	VII・IXか	注口	0	0	-	-	(5.8)
620	92	70	西	3D10(NR04・05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	壺	III B	胴上半	0	0	-	-	(4.3)
621	92	70	西	3D区南側	崩落土(II b層)	1	1	縄文土器	鉢	VIII A	口縁	-	0	-	-	(2.8)
622	92	70	西	3E25	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	VIII A	口縁	-	0	-	-	(4.1)
623	92	70	西	3E24	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.6)
624	92	70	西	3E16(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(8.8)
625	92	70	西	3E20(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A	口縁	-	0	-	-	(4.0)
626	92	70	西	3E3(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	小形深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(4.9)
627	92	70	西	3E15	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(7.7)
628	92	70	西	3E20(NR04or04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(5.5)
629	92	70	西	3E25	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(7.2)
630	92	70	西	3E24	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(9.1)
631	92	70	西	3E9(NR04) 3E20(NR04or04古)	砂礫4層 砂礫4層	1 1	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(8.2)
632	92	70	西	3E4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	0	0	-	-	(3.8)
633	92	70	西	3E5(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(4.2)
634	92	70	西	3E5(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(3.2)
635	92	70	西	3E20(NR04or04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢2a類	胴	0	0	-	-	(5.2)
636	92	70	西	3E25	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	VII	胴上半	0	0	-	-	(4.8)
637	92	70	西	3F23	砂礫2層	1	1	縄文土器	台付鉢	IX A	台~底	0	100	-	-	(1.0)
638	92	70	西	3F20	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	0	0	-	-	(6.6)
639	92	70	西	3F3(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(11.6)
640	92	70	西	3F19	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A	口縁~胴上半	-	0	-	-	(5.8)
641	92	70	西	3F16(NR01)	泥炭層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A か	口縁~胴上半	-	0	-	-	(5.2)
642	92	71	西	3G区・4G区	砂礫1層	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3b類	口縁	-	0	-	-	(9.3)
643	92	71	西	3G2(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(5.7)
644	92	71	西	3G7(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	浅鉢	IX A	口縁	-	0	-	-	(4.3)
645	93	71	西	3G15(NR01・04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	壺	VI	胴上半	0	0	-	-	(3.7)
646	93	71	西	4A20	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(9.0)
647	93	71	西	4B11	II a層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(4.1)
648	93	71	西	4B8 4B8	II a層 II b層上部	1 15	16	縄文土器	深鉢	VI・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	(8.2)
649	93	71	西	4B11(NR05)	II b層	5	5	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(12.9)
650	93	71	西	4B23 4B23 4B24	II a層 II b層上部 II a層	1 13 5	19	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(17.4)
651	93	71	西	4B8 4B8 4B8 不明	II a層 II b層上部 II b層下部 不明	1 16 2 20	39	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~底1/2	-	100	30.0	8.9	35.3
652	93	71	西	4B16(NR03)	II b層下部	1	1	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁	-	0	-	-	(12.2)
653	93	71	西	4B14	II b層上部	7	7	縄文土器	浅鉢	IX A か	口縁~胴上半	-	0	-	-	(8.0)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
胴：ナデ	ナデ（横）				0	0	大洞 C2 か	556
胴上半：隆線・隆線状の列点・ボタン状貼付・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	545
I 文様帯：突起、II a 文様帯：磨消を伴う帯状文、II 文様帯：隆線・沈線・磨消・曲線帯状文	ナデ（横）				0	0	後期後葉・年代測定新田 II -5	557
口端：突起、口縁：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期後葉	569
口縁～胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	561
胴上半：沈線・磨消・縄文（RL）・入組帯状文	ナデ（横）				0	0	後期後葉	560
胴：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	548
口縁：隆線・沈線・縄文（複節 RL・R）	ナデ（横）				0	0	大木 9	559
口端：突起、口縁：沈線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	554
胴下半：連鎖状隆線・磨消・縄文（無節 R）	ナデ（縦）		胴下半スス微量		0	0	後期初頭～前葉	546
胴上半：連鎖状隆線・ボタン状貼付・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	547
口縁：突帯状貼付、胴上半：縄文（単軸絡条体第 1 類 R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	564
胴下半：縄文（LR）	ナデ（横）	胴下半コゲ多量			0	0	後期初頭～前葉か	542
口縁：沈線・刺突充填	ナデ（横）				0	0	後期前葉	549
口端：大形突起					0	0	後期中葉	897
口縁：大形突起の付け根部分、隆線・沈線・列点	ナデ（横）				0	0	後期中葉	558
口縁：沈線・縄文（LR）・段違いの弧線が反転するもの	ナデ（横）				0	0	後期中葉	543
口端：肥厚、口縁：沈線・縄文（LR）・段違いの弧線を反転するもの	ナデ（横）				0	0	後期中葉	534
胴上半：沈線・磨消・縄文（RL）・沈線に沿う列点	ナデ（横）	胴上半コゲ少量			0	0	後期中葉	551
口端：原体圧痕、口縁：縄文（無節 R）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	541
口縁：縄文（羽状縄文 RL・RL）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	544
口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	567
胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	補修孔 1 箇所（外→内）、後期中葉	553
注口：ナデ	ナデ（横）				0	0	晩期か	566
胴上半：隆線・磨消・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	中期後葉（大木 10 か）	555
口端：突起、口縁：入組三叉文	ナデ（横）						大洞 B2	270
口端：B 突起、口縁：入組三叉文	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	587
口端：刻み目、口縁：沈線	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	585
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	582
口端：刻み目、口縁：沈線・眼鏡状浮文	ナデ（横）				0	0	大洞 C2 新段階	576
胴：隆沈線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8b か	573
口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	581
口端：波状縁、口縁：刺突・沈線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	583
口端：波状縁、口縁：隆線・隆線上の短沈線・ボタン状貼付、胴：沈線・磨消・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	586
胴：沈線・縄文（単軸絡条体第 1 類 R）・磨消・刺突	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	584
口縁：隆線・隆線状の列点、胴：縄文（無節 R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	579
口縁：多重沈線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期前葉	574
口端：突起、口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期前葉	575
口端：三角形～ピーナツ状の突起、口縁：竹管状の刺突・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	十腰内 I 式（最新）（後期前葉）	577
胴：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期中葉	578
胴上半：沈線・磨消・縄文（LR）・入組帯状文	ナデ（横）				0	0	後期後葉	588
台：沈線：突起、底：ナデ	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	593
口縁：沈線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	592
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	589
口端：B 突起、口縁：沈線・縄文（LR）・渦巻文	口縁：沈線。口縁～胴：ナデ（横）				0	0	大洞 C2 新段階	591
口端：刻み目、口縁：隆線・沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	補修孔 1 箇所（外→内）、大洞 C2 か	590
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（横）				0	0	大洞 C2	600
口縁：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	594
口端：突起、刻み目、口縁：沈線・縄文（RL）・雲形文	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	595
胴上半：沈線・縄文（LR）・磨消・弧線文	輪積み顕著				0	0	後期中葉	597
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	601
キャリバー形、口縁：隆線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	611
口縁：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期中葉	603
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	793
口端：刻み目、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	627
口端：刻み目、胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）	胴下半コゲ微量	胴上半スス微量		0	0	大洞 C2	602
胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	617
口縁～胴上半：ミガキ	ミガキ（横）				0	0	大洞 C2 か	613



掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
654	93	71	西	4B24 ベルト	Ⅲ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1類	口端	-	0	-	-	(4.2)
655	93	71	西	4B8	5層(Ⅲ層)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.0)
656	94	72	西	4D1 4B24 ベルト 4C3 ベルト 4B21(NR04 古 or07) 4B21 ベルト (NR04 古 or07) 4B21 ベルト (NR04 古 or07) 4B9 4C1 2D25(NR02) 3B16 ベルト 4D7 不明	Ⅱ a層 Ⅲ層 Ⅲ層上部 Ⅱ b層 Ⅲ層上部一括 Ⅲ層 5層(Ⅲ層) Ⅲ層 砂礫3層 Ⅱ b4層 砂礫4層 不明	1 10 5 4 37 3 1 3 1 1 1 5	73	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～底2/3	20	45	34.1	14.0	48.7
657	94	71	西	4B8	Ⅲ層	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.4)
658	94	71	西	4B16(NR05or04 古)	Ⅲ層上部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(7.3)
659	94	71	西	4B12	Ⅲ層上部	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(14.1)
660	94	71	西	4B12	Ⅲ層上部	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(5.9)
661	94	72	西	4B8 4B13 4B13	Ⅲ層 Ⅲ～Ⅳ層 Ⅳ層	4 2 1	7	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.7)
662	94	72	西	4B13	5層(Ⅲ層)	4	4	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.0)
663	94	72	西	4B24 ベルト (NR05)	Ⅲ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ	口端	-	0	-	-	(4.2)
664	94	72	西	4B20	7層(Ⅳ層上・中位の 間層)	6	6	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	(10.1)
665	94	72	西	4B10(NR06)	10層(Ⅳ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(13.2)
666	95	72	西	4B14 4B9 3D21 4B10	5層(Ⅲ層) 5層(Ⅲ層) Ⅱ b層相当層 6層(Ⅳ層上位)	13 14 1 8	36	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	胴下半～底	0	90	-	14.8	(18.7)
667	95	72	西	4B18	6層(Ⅳ層上位)	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.6)
668	95	72	西	4B23 4B23	6層(Ⅳ層上位) 5層(Ⅲ層)	1 4	5	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.6)
669	95	73	西	4C4(NR06) 4B24 ベルト 4C3 ベルト 不明	6層(Ⅳ層上位) Ⅳ層 Ⅳ層 不明	1 74 2 2	79	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁～胴下半	20	0	25.9	-	(34.5)
670	96	73	西	4B25 4B19 4B25 4B25 ベルト 不明	Ⅱ b層上部 Ⅳ層 Ⅳ層 Ⅳ層 不明	1 10 7 5 2	25	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁～胴下半	-	0	(27.8)	-	(40.1)
671	96	73	西	4B20 4B19 不明	Ⅲ層下部(一部Ⅱ b 層) Ⅳ層 不明	15 58 15	88	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁～底	80	45	26.5	11.2	(38.7)
672	95	72	西	4B24 ベルト (NR05)	Ⅳ層下部	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.1)
673	95	72	西	4B24 ベルト (NR05)	Ⅳ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(4.5)
674	95	72	西	4B19	Ⅳ層	5	5	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(8.6)
675	95	73	西	4B14	10層(Ⅳ層下位)	3	3	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢4a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(20.0)
676	95	72	西	4B21 ベルト (NR04 古 or07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(3.6)
677	95	72	西	4B21 ベルト (NR04 古 or07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(7.4)
678	95	73	西	4B9(NR06)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅲ B	口縁	-	0	-	-	(7.1)
679	96	73	西	4B22(NR05)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(4.0)
680	96	73	西	4B10(NR06)	砂礫6層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢2a類	口縁	-	0	-	-	(7.4)
681	96	73	西	T5e(4C区) T5e(4C区)	Ⅰ層 Ⅱ層	1 7	8	縄文土器	深鉢	Ⅸ A	胴下半～底	0	-	-	10.2	(7.0)
682	96	73	西	T5e	Ⅱ層	7	7	縄文土器	深鉢	Ⅸ A・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(15.5)
683	97	74	西	4C1 4C2 3C9 3B25 ベルト 不明	Ⅲ層 砂礫5層 Ⅱ b層下部 Ⅲ・Ⅳ層 不明	1 8 8 1 6	24	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁～胴下半	-	0	32.4	-	(41.0)
684	96	73	西	4C5 4C5 ベルト	Ⅲ層上 褐色粘土層 Ⅲ層	1 1	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(6.7)
685	96	73	西	4C23(NR05)	5層(Ⅲ層下位)	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	15	0	-	-	(7.0)
686	97	73	西	4C4(NR05)	5層(Ⅲ層下位)	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(6.6)
687	96	74	西	4C6(NR04 古 or07)	Ⅲ～Ⅳ層	12	12	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢5a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(12.7)
688	97	73	西	4C16(NR04 古)	Ⅲ層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(5.0)
689	98	74	西	4C1 SD01 (3C区) 3C9 4C7(NR05) 4C8(NR05) 4C12(NR05) 7層(Ⅳ層上・中位の 間層) 3C15(NR04 古) 4C6(NR04 古 or07) 4C6(NR04 古 or07)	Ⅲ層 堆積土中 Ⅱ b層下部 5層(Ⅲ層下位) 5層(Ⅲ層下位) 7層(Ⅳ層上・中位の 間層) 砂礫4層 Ⅱ b2層 Ⅲ～Ⅳ層 Ⅲ～Ⅳ層	4 4 4 7 2 2 1 2 3 2	31	縄文土器	深鉢	Ⅳ・深鉢2類	口縁～胴下半	-	0	24.1	-	(33.7)
690	97	75	西	4C8(NR07)	10層(Ⅳ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	(5.6)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	スコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
口端：突起、口縁：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	631
口縁～胴上半：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	606
口端：波状縁、口縁：沈線・縄文（LR）・磨消・刺突・蕨手文	ナデ（横）				1	0	後期初頭～前葉	623
口縁～胴上半：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期初頭～前葉	605
口縁：折り返し・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	616
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	794
口縁：縄文（単軸絡条体第5類R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	795
口縁～胴上半：沈線・縄文（RL）・磨消・粘土貼付・貼付上の刺突・U字状文	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉（垂窪式？）	604
口縁～胴上半：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	612
口端：中空突起	ナデ（横）				0	0	後期中葉	630
口縁：隆線・刺突充填	ナデ（横）				0	0	大木 8a ?	622
口縁：沈線・ボタン状貼付・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	609
胴下半：縄文（LR）、底：木葉痕	ナデ（横）				1	1	後期初頭～前葉か	607
口端：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	619
口縁：沈線・縄文（無節R）・磨消・隆線・隆線上の刺突	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	628 629
口端：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文刺突列、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴上半スス微量		0	0	後期初頭～前葉	797
口縁～胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉・年代測定 新田II-8 測定不可	634
口縁～胴：縄文（LR）、底：網代痕	ナデ（横）		胴上半スス微量		1	0	後期初頭～前葉	620
口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁～胴上半スス少量		0	0	後期初頭～前葉	633
口端：突起、口縁：三日月状突起・縄文（LR）	ナデ（横）		口縁スス少量		0	0	後期初頭～前葉	632
口端：突起、口縁：三日月状隆線・隆線に沿う連続刺突、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	796
口縁～胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	614
口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	625
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁スス多量		0	0	後期初頭～前葉・年代測定 新田II-20	624
口縁：沈線・磨消・縄文（LR）・鱗状突起	ナデ（横）				0	0	大木 10?	608
口縁：刺突・隆線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	626
口縁：沈線・磨消・縄文（RL）・S字状入組文	ナデ（横）				0	0	後期中葉	610
胴下半：縄文（RL）	ナデ（横）						大洞 C2	275
胴：縄文（LR）	ナデ（横）						大洞 C2	276
口端：波状縁（6単位）、胴：網目状捺糸文	ナデ（横）						後期初頭～前葉	271
口端：波状縁・刻み目、口縁：連鎖状隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	644
口縁：沈線・縄文（RL）・磨消・鱗状突起	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	803
口端：突起、口縁：爪状工具による刺突列（まくれ返り）、胴：縄文（無節L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	659
胴：縄文（単軸絡条体第1類R）	ナデ（横）		口縁～胴スス少量		0	0	後期初頭～前葉	645
口端：波状縁、口縁：沈線・S字状沈線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	798
口端：波状縁、口縁：沈線・縄文（単軸絡条体第1類R）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	647
口縁：隆線・縄文（LR）・円文・棘状	ナデ（横）				0	0	大木 8a	651

掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
691	97	75	西	4C17(NR05)	IV層砂質	2	2	縄文土器	小形深鉢	Ⅲ A	胴下半～底	0	55	-	4.4	(3.1)
692	97	75	西	4C20(NR05)	10層(IV層下位)	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅲ B	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.7)
693	97	75	西	4C25	IV層	2	2	縄文土器	深鉢	Ⅲ B	口縁～胴上半	-	0	-	-	(8.2)
694	97	74	西	4C9(NR05)	6層(IV層上位)	33	39	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴下半	-	0	<27.0>	-	(24.7)
				4C9(NR07)	6層(IV層上位)	2										
				2A25	砂礫3層	2										
				4C15	6層(IV層上位)	1										
				不明	不明	1										
695	4/7	75	西	4C5	IV層	18	81	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1b類	口縁～胴上半	-	0	31.2	-	(30.0)
				4C5	Ⅲ層上 褐色粘土層	7										
				北側中央(T4)トレンチ	崩落土(IV層中心)	3										
				4C9(NR05)	6層(IV層上位)	1										
				4C5ベルト	Ⅲ層	7										
				4C5ベルト	IV層	7										
				5C6(NR05)	Ⅱb層	16										
				5C6(NR05)	IV層上部	12										
				5C7(NR05)	IV層上部	3										
				不明	不明	7										
				696	99	75										
T4ベルト(4C4～5)	崩落土(IV層中心)	7														
北側中央(T4)トレンチ	崩落土(IV層中心)	1														
4C5(NR05)	6層(IV層上位)	4														
4C5(NR06)	6層(IV層上位)	2														
4C9(NR07)	6層(IV層上位)	1														
4C5ベルト	IV層	1														
4C2(NR07)	砂礫5層	2														
4C1(NR04古or07)	砂礫5層	1														
5C6(NR05)	IV層上部	7														
697	99	74	西				4C7(NR05)	10層(IV層下位)	1	13	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴下半～底	0	100
				4C12(NR04古)	8層(IV層中位)	12										
698	98	75	西	4C5(NR05)	5層(Ⅲ層下位)	2	6	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(10.7)
				4C5(NR06)	6層(IV層上位)	3										
				4C5ベルト	Ⅲ層	1										
				不明	不明	1										
699	100	75	西	4C8(NR05)	5層(Ⅲ層下位)	1	82	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁～胴下半	-	0	(29.0)	-	(33.2)
				3C21(NR02)	砂礫4層	1										
				4B24(NR05)	砂礫6層	1										
				4C8(NR05)	6層(IV層上位)	19										
				4C9(NR05)	6層(IV層上位)	16										
				4C13(NR05)	6層(IV層上位)	22										
				4C14(NR05)	6層(IV層上位)	1										
				不明	不明	21										
700	98	75	西	4C10(NR07)	6層(IV層上位)	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4b類	口縁	-	0	-	-	(8.0)
701	99	75	西	4C9(NR05)	6層(IV層上位)	5	7	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.6)
				4C4ベルト	IV層	2										
702	99	76	西	4C4(NR05)	6層(IV層上位)	5	6	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.1)
				4B24ベルト	IV層	1										
703	99	76	西	4C9(NR07)	6層(IV層上位)	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1d類	口縁	-	0	-	-	(4.2)
704	99	76	西	4C9	7層(IV層上-中位の 間層)	1	5	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	18.7	-	(6.9)
				4C14(NR07)	9層(IV層中-下位の 間層)	2										
				5B11(NR06)	Ⅲ層下部	2										
705	100	76	西	4C10(NR07)	6層(IV層上位)	16	16	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	胴下半～底	0	100	-	12.3	(17.0)
706	100	76	西	4C4ベルト	IV層	21	21	縄文土器	深鉢	IV・深鉢3類	口縁～胴上半	-	0	24.2	-	(14.1)
707	100	76	西	SX01(4C9)		1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(4.0)
708	101	76	西	2B19・20	Ⅱb層残りサブベル トの除去	1	110	縄文土器	壺	IV	口縁～底	0	90	-	19.0	(50.9)
				4C8	4層(Ⅲ層)	3										
				4C3(NR05)	4層(Ⅲ層上位)	2										
				4C8(NR05)	5層(Ⅲ層下位)	7										
				4C8(NR05)	10層(IV層下位)	23										
				4C12(NR05)	7層(Ⅲ層上-中位の 間層)	15										
				4C7(NR05)	6層(IV層下位)	6										
				4C12(NR05)	10層(IV層下位)	26										
				4C8(NR05)	10層(IV層下位)	6										
				4C9(NR05)	6層(IV層上位)	1										
				4C13(NR05)	6層(IV層上位)	1										
				4C10(NR07)	6層(IV層上位)	6										
				4C12(NR04古)	8層(IV層中位)	12										
709	100	76	西	4C4ベルト	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅵ・深鉢2a類	胴上半	0	0	-	-	(3.0)
710	100	76	西	4C6(NR04古or07)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(5.4)
711	100	76	西	4C3(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	胴上半	0	0	-	-	(7.6)
712	100	76	西	4C4ベルト	砂礫5層	1	1	縄文土器	壺	Ⅱ A	口縁～胴上半	-	0	-	-	(5.9)
713	100	76	西	4C20(NR05)	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(9.9)
714	100	76	西	4C2(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(5.8)
715	100	76	西	4C8(NR07)	砂礫5層	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(4.1)
716	101	76	西	4C8(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(4.9)
717	101	77	西	4C1(NR04古or07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(9.9)
718	101	77	西	4C7(NR07)	砂礫5層	5	5	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.1)
719	101	76	西	4C1(NR04古or07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(7.4)
720	102	77	西	4D6	Ⅱa層	15	15	縄文土器	注口	Ⅷ A	胴	0	0	-	-	-
721	102	77	西	4D10	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅱ A	口縁	-	0	-	-	(5.9)
722	102	77	西	4D24(NR04)	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	Ⅷ A	口縁	-	0	-	-	(5.1)



外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録No.
		内面	外面					
胴：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				1	1	大木9	799
口縁：沈線・縄文（RL）・磨消・J字状文	ナデ（横）				0	0	大木10	800
口縁：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	大木10	801
口端：波状縁、口縁：隆線・列点、胴：縄文（無筋L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	572
口端：中空突起、口縁：隆線・連鎖状隆線・沈線・渦巻文・刺突・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	643
口端：中空突起（4単位）、口縁：隆線・ボタン状貼付、胴：隆線・連鎖状隆線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	695
胴：沈線・縄文（LR）・磨消、底：笹葉痕	ナデ（横）	胴下半コゲ微量	胴下半ス微量		1	1	後期初頭～前葉	657
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	621
口縁：隆線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴上半ス微量		0	0	後期初頭～前葉	650
口縁：沈線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	658
口端：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	639
口端：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	後期初頭～前葉	641
口縁：三日月状隆線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	654
口端：突起、口縁：三日月状隆線・刺突、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	655
胴：縄文（LR）、底：網代痕（ござ目組み）	ナデ（横）				1	1	後期初頭～前葉	656
口端：突起、口縁：爪状工具による刺突列5段（まくれ返り）、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	640
口縁：沈線・磨消	ナデ（横）	口縁ス微量	口縁ス少量		0	0	後期初頭～前葉	824
口縁：隆線、胴：沈線・縄文（RL）・磨消・S字状連鎖沈線、底：木葉痕	ナデ（横）		胴上半ス少量		1	1	後期初頭～前葉	649
胴上半：沈線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	補修孔1箇所(外→内)・後期中葉	580
口縁：折り返し・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	646
胴：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木8a	638
口端：突起、口縁：隆線、胴：沈線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大木8a	642
口縁：沈線・縄文（単軸絡糸体第1類R）・磨消	ナデ（横）		胴上半ス微量		0	0	後期初頭～前葉	660
口縁：沈線・縄文（LR）・鱗状突起	ナデ（横）		口縁ス少量		0	0	後期初頭～前葉	637
口端：突起、口縁：円文・沈線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	652
胴：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	653
胴：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）		胴ス多量		0	0	後期初頭～前葉	636
口端：突起、口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半ス微量		0	0	後期初頭～前葉	648
口端：突起・刻み目、口縁：隆線・隆線上の竹管文刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	635
胴：沈線・ミガキ	口縁：ミガキ、胴：ナデ（横）				0	0	大洞B2	664
口縁：隆帯貼付・縄文（RL）	ナデ（横）						大木8a	273
口縁：沈線・弧線文を伴う小波状縁、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁ス微量		0	0	大洞B2	668

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
723	102	77	西	4D21(NR04)	II b 層	1	1	縄文土器	注口	Ⅷ A	胴	0	0	-	-	(4.7)
724	102	77	西	4D9 4D8	Ⅲ層	15	22	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1c類	胴	0	0	18.3	-	(15.8)
725	102	77	西	4D5(NR05)	5層(Ⅲ層下位)	7	7	縄文土器	深鉢	Ⅲ B	口縁～胴上半	-	0	-	-	(14.2)
726	102	77	西	4D11 一括 3D15 不明	Ⅲ層上面(写有) Ⅲ層下位 不明	33 11 1	45	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	胴上半～底	0	-	-	13.8	(33.9)
727	102	77	西	4D4 (NR05)	7層(Ⅳ間層)	1	1	縄文土器	壺	Ⅲ A	胴	0	0	-	-	(4.1)
728	102	77	西	4D3	Ⅳ層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(5.3)
729	102	77	西	4D9	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁～胴上半	-	0	-	-	(7.7)
730	102	77	西	4D3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(8.6)
731	102	77	西	4D21 ベルト(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(5.1)
732	103	77	西	4E18・23 トレンチ	砂礫3層	2	2	縄文土器	浅鉢	IX C	口縁	-	0	-	-	(6.5)
733	103	77	西	4E9(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(3.0)
734	103	77	西	4E1(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	壺	Ⅲ B	胴下半	0	0	-	-	(4.2)
735	103	77	西	4E12	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(5.3)
736	103	77	西	4E12	砂礫4層	1	1	縄文土器	鉢	IVか	胴下半～底	0	50	-	4.8	(2.8)
737	103	77	西	4E1(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	壺	V	胴	0	0	-	-	(3.9)
738	103	77	西	4E14(NR04 古)	砂礫4層	3	3	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	胴下半～底	0	65	-	9.0	(8.7)
739	103	77	西	4F17(NR04)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	IX B	口縁	-	0	-	-	(6.0)
740	103	77	西	4F20(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(9.6)
741	103	77	西	4G7(NR04)	砂礫3層	2	2	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3c類	口縁	-	0	-	-	(6.8)
742	103	77	西	4G2(NR04)	砂礫3層	1	1	縄文土器	鉢	IX Aか・鉢2b類	口縁	-	0	-	-	(5.3)
743	103	77	西	4G2 トレンチ	砂礫3層	1	1	縄文土器	台付鉢	IX A	口縁	-	0	-	-	(6.8)
744	103	78	西	4B15 4B15 5B11 5B11(NR06) 5B11(NR06) 5B16(NR06) 6D3 不明	Ⅲ～Ⅳ層 Ⅳ層 6層(Ⅳ層上位) Ⅲ層上部 Ⅲ層下部 Ⅲ層下部 Ⅱa層下半 不明	5 4 3 1 11 9 2 3	38	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～底	-	80	29.5	12.8	52.0
745	103	77	西	5B16(NR06)	Ⅲ層上部	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(2.7)
746	103	78	西	5B16 5B17 5B17 5B16(NR06)	5層(Ⅲ層) 5層(Ⅲ層) 砂礫6層 砂礫6層	1 4 12 1	18	縄文土器	深鉢	IV	口縁～胴上半	-	0	<28.2>	-	(23.7)
747	104	78	西	5B16(NR06)	Ⅲ層上部	13	13	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1類	口縁～胴上半	-	0	26.0	-	(17.6)
748	104	78	西	4B20 5B16 3B9 5B16(NR06) 5B16(NR06)	Ⅱb層上部 5層(Ⅲ層) Ⅲ層 Ⅲ層上部 Ⅲ層下部	9 1 1 5 16	32	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4b類	口縁～胴下半	55	0	24.5	-	(39.6)
749	104	79	西	5B21 5B11(NR06) 5B21(NR05) 5B21(NR05) 5B21(NR05) 5C1(NR05) 不明	5層(Ⅲ層) Ⅲ層上部 Ⅲ層上部一括 Ⅲ層上部 Ⅳ層上部 Ⅳ層上部 不明	9 1 6 9 2 4 9	40	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	略完形	45	100	15.6	8.5	23.2
750	104	78	西	5B18 5B18(NR06)	5C区 WE トレ9層 (Ⅳ層上部) 砂礫6層	5 7	12	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(16.9)
751	104	77	西	5B11	6層(Ⅳ層上位)	9	9	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(13.0)
752	104	77	西	5B23(NR06)	砂礫6層	1	1	縄文土器	壺	Ⅲ A	胴上半	0	0	-	-	(4.7)
753	104	79	西	5B16(NR06)	12層(砂礫6層)	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	胴上半	0	0	-	-	(8.9)
754	104	79	西	5B6	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(5.7)
755	104	79	西	5B16(NR06)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(4.4)
756	105	79	西	5B22 5C区 WE ベルト	砂礫6層	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.5)
757	105	79	西	5B17(NR06)	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(4.9)
758	105	79	西	5C20(NR05)	Ⅱb層	2	2	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(11.7)
759	105	79	西	5C3 (トレンチ)	Ⅱb層	2	2	縄文土器	鉢	Ⅷ A	口縁	-	0	-	-	(9.0)
760	105	79	西	5C15	Ⅱb層	1	1	縄文土器	台付鉢	IX B	底	0	25	-	-	(2.2)
761	105	79	西	5C3	Ⅱa～Ⅱb層	3	3	縄文土器	壺	IX B	胴上半	0	0	-	-	(2.7)
762	105	79	西	5C9(NR05)	Ⅱb層	3	3	縄文土器	壺	IX B	口縁～頭	-	0	-	-	(6.2)
763	105	79	西	5C区 SD10	埋土(Ⅱb層起源)	1	1	縄文土器	壺	IX B	口縁	-	0	-	-	(2.0)
764	105	79	西	5C15(NR05)	Ⅱb層	1	1	縄文土器	壺	IX B	胴	0	0	-	-	(2.9)
765	105	79	西	5C11(NR07) 5C16(NR07) 5C7(NR05) 5C11(NR07) 5C12(NR07) 5C16(NR06) 5C11(NR07) 不明	Ⅳ層上部 Ⅳ層上部 Ⅲ層 Ⅳ層上部 Ⅲ層 Ⅳ層上部 砂礫5層 不明	7 2 1 10 1 9 1 7	38	縄文土器	深鉢	Ⅲ B	口縁～胴下半	65	0	18.0	-	(19.5)
766	105	79	西	2C14(NR02) 6C区内 5C11(NR07)	砂礫3層 Ⅱa層 Ⅳ層上部	1 1 6	8	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(9.5)
767	105	79	西	5C12(NR05)	Ⅳ層上部	40	40	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1d類	口縁～胴下半	-	0	<29.0>	-	(35.8)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No.
		内面	外面					
胴：ミガキ	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	802
胴：沈線・磨消・ボタン状貼付	ナデ（横）						後期初頭～前葉	272
口縁：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	大木 10	663
胴：縄文（LR）・底：木葉痕	ナデ（縦）						後期初頭～前葉	274
胴：隆沈線・縄文（LR）・赤彩	ナデ（横）				0	0	大木 9 か	856
口端：突起・口縁：隆線	ナデ（横）	口縁スス微量			0	0	後期初頭～前葉	661
口縁：沈線・胴：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁～胴上半ス ス微量		0	0	大木 8a・年代測定新田 II-5	665
口縁：沈線・縄文（LR）・磨消	口縁：鱗状突起・ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期初頭～前葉	662
口端：突起・口縁：沈線・縄文・磨消・段遣いの弧線を反転する もの	ナデ（横）				0	0	後期中葉	666
口縁：沈線・変形工字文・2 個一対の粘土粒	ナデ（横）				0	0	大洞 A'	678
口縁：隆線・原体圧痕（R）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	672
胴：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）				0	0	大木 10?	669
口端：突起・刻み目・口縁：沈線	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	673
胴：ナデ・底：網代痕	胴：ナデ・アスファルト付着				1	1	後期初頭～前葉か・年 代測定 新田 II-21	674
胴：沈線・斜線文	ナデ（横）				0	0	後期前葉	671
胴：縄文（LR）・底：台	ナデ（横）				1	1	後期中葉	676
口端：小波状縁・口縁：沈線・眼鏡状浮文・胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	804
口縁：沈線・縄文（LR）・磨消・文様表現境の連続刺突	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	805
口端：刻み目・口縁：突起・沈線	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	808
口端：突起・口縁：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	大洞 C2 か	807
口端：突起・刻み目・口縁：沈線・縄文（LR）・磨消	口縁：沈線・口縁～胴：ナデ（横）	口縁スス微量			0	0	大洞 C2 新段階	806
口端：突起・口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列・胴：縄文（LR）	ナデ（横）	胴下半コケ少量	胴上半スス微量		1	1	後期初頭～前葉	615
口端：突起・口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	683
口端：突起（4 単位）・口縁：隆線・三日月状隆線・胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	687
口縁：三日月状隆線・胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	682
口縁：沈線・胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	684
口端：波状縁（6 単位）・口縁：隆線・隆線上の刺突列・胴：縄文 （RL）・底：笹葉痕	ナデ（横）				1	1	後期初頭～前葉	691
口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	689
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	680
胴：橋状突起・沈線・縄文（RLR）・磨消	ナデ（横）				0	0	大木 9	692
口縁：隆線・隆線上の竹管文刺突列・渦巻文	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	685
口縁：隆線・隆線に沿う竹管文の刺突列・胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	679
口縁：縄文（単軸絡条体第 1 類 R）	ナデ（横）		口縁スス多量		0	0	後期初頭～前葉	686
口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁スス少量		0	0	後期初頭～前葉	690
口縁：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	補修孔 1 箇所（外→内） 後期初頭～前葉	688
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	819
口縁：沈線・魚眼状三又文・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	694
底：台・工字文	ナデ（横）				1	0	大洞 A1	705
胴：沈線・工字文	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	693
口縁：眼鏡状浮文・頭：ミガキ	口縁：沈線・頭：ナデ				0	0	大洞 A1	696
口端：B 突起・刻み目・口縁：沈線・工字文	口縁：沈線・ナデ（横）				0	0	大洞 A1	823
胴：沈線・工字文	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	813
口縁：沈線・S 字文・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大木 10	706
口端：突起・刻み目・口縁：隆線・隆線上の竹管文刺突列・胴： 縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	697
口縁：ノ字状隆線・口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴上半スス微量		0	0	後期初頭～前葉	698



掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率 (%)		計測値 (cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
768	105	79	西	5C15(NR05)	IV層下部	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(11.0)
769	105	79	西	5C13(NR05)	IV層上部	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(8.4)
770	105	79	西	5C16(NR07)	IV層上部	4	4	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(6.0)
771	105	79	西	5C16(NR07)	IV層上部	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(5.1)
772	105	79	西	5C3	IV層上部	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁	-	0	-	-	(6.2)
773	106	79	西	5C12(NR05)	IV層上部	4	4	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(16.4)
774	106	80	西	5C14(NR05)	上部砂層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(3.7)
775	106	80	西	5C12(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.0)
776	106	80	西	5C24(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(4.6)
777	106	80	西	5C18(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(3.3)
778	106	80	西	5C17(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(6.4)
779	106	80	西	5C13(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	0	0	-	-	(7.5)
780	106	80	西	5C2(NR05)	砂礫5層	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(13.5)
781	106	80	西	5C13(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(7.9)
782	106	80	西	5C2(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	壺	IV	口縁	-	0	-	2.4	(4.4)
783	106	80	西	5・6D区	II b層	1	1	縄文土器	鉢	IX A・鉢3類	口縁	-	0	-	-	(2.6)
784	106	80	西	5D16(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.8)
785	106	80	西	5D21(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(8.4)
786	106	80	西	5D10	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(6.5)
787	106	80	西	5D5(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II B	胴	0	0	-	-	(9.0)
788	106	80	西	5D12(NR07)	埋土・砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(4.2)
789	106	80	西	5E14(NR05～06)	II b層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	胴	0	0	-	-	(4.7)
790	106	80	西	5E16(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	10	0	-	-	(4.5)
791	106	80	西	5E区T2トレンチ	上部砂層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(5.2)
792	106	80	西	5E22	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢1類	突起	-	0	-	-	-
793	106	80	西	5E区T2トレンチ	上部砂層	1	1	縄文土器	深鉢	VII	口縁	-	0	-	-	(3.4)
794	106	80	西	5F12(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(6.6)
795	106	80	西	5F25(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	6.0
796	106	80	西	5F24(NR04 古と07の間)	砂礫4層	2	2	縄文土器	深鉢	II Bか	口縁	-	0	-	-	(9.5)
797	106	80	西	5G4	II b層	1	1	縄文土器	壺	IX B	胴上半	0	0	-	-	(4.4)
798	106	80	西	5G3	II b層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(6.8)
799	106	80	西	5G7(NR04 古と05の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	II Aか	胴	0	0	-	-	(5.7)
800	106	80	西	5G3(NR04 古と07の間)	砂礫4層	1	1	縄文土器	壺	II Bか	口縁	0	0	-	-	(8.9)
801	106	80	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	胴上半	0	0	-	-	(8.8)
802	106	80	西	5G6(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	V	口縁	-	0	-	-	(9.2)
803	107	80	西	6C21	II a層下半	8	8	縄文土器	鉢	IX B	口縁～底	5	35	-	4.6	(6.6)
804	107	80	西	6C19(NR05)	II b層	4	4	縄文土器	壺	IX B	口縁～胴上半	95	0	7.8	-	(4.4)
805	107	80	西	6C19	II b層	1	12	縄文土器	壺	IX B	口縁～底	0	100	-	6.4	(13.5)
806	107	80	西	6C17(NR05)	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(13.0)
807	107	80	西	6C19(NR05)	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(5.7)
808	107	80	西	6C11(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	(5.5)
809	107	81	西	6C22(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(8.0)
810	107	81	西	6C17(NR05)	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁～胴下半	-	0	-	-	(33.4)
811	107	81	西	6C25	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(4.8)
812	107	81	西	6C25	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5a類	口縁	-	0	-	-	(6.0)
813	107	81	西	6C20(NR06)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(9.1)
814	107	81	西	6C24(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	VI・深鉢4c類	口縁	-	0	-	-	(5.3)
815	107	81	西	6D14	II a層上部	1	1	縄文土器	深鉢	I	底	0	20	-	<8.6>	(1.5)
816	107	81	西	6D23	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	III B	胴	0	0	-	-	(8.3)
817	107	81	西	6D区 6D12	II層中 II b層	4 2	6	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	0	0	-	-	(16.0)
818	107	81	西	6D区(SD09) 6D10	埋土 II b層	3 1	4	縄文土器	浅鉢	IX B	口縁～胴	25	0	18.7	-	(5.6)
819	107	81	西	SD03(メインベルト南)	堆積土中(III層)	3	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	口縁	-	0	-	-	(10.8)
820	107	81	西	6D13	IV層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	(16.0)	-	(7.7)
821	108	81	西	6D12 6D17 6D18 不明	II b層 IV層 IV層 不明	6 120 2 4	132	縄文土器	深鉢	III B	口縁～胴下半	75	0	32.8	-	(32.0)
822	108	81	西	6D区(SD09) 6D12	埋土 IV層	3 70	71	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁～胴下半	30	0	<25.5>	-	(32.1)
823	108	82	西	6D13	IV層上部	2	2	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(11.6)
824	108	82	西	6D12 6D12 6D13 6D14(NR05)	IV層 II b層 IV層 砂礫5層	1 1 1 1	4	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5a類	口縁～胴上半	-	0	-	-	(10.6)
825	108	82	西	6D区ベルト(SD09)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢2類	胴	-	0	-	-	(7.9)
826	108	82	西	6D11(NR07)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	胴	0	0	-	-	(23.9)

外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部 1/2 以上	備考	登録No
		内面	外面					
口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁～胴スス多量		0	0	後期初頭～前葉・年代測定 新田II-22	814
口縁：縄文（単軸絡条体第1類L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	701
口縁：沈線・縄文（単軸絡条体第1類L）・磨消・鱗状突起	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	815
口縁：隆線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）	口縁スス微量	口縁スス少量		0	0	後期初頭～前葉	816
口端：突起、口縁：隆線、胴：縄文（LR）	口縁：隆線、口縁～胴：ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	811
胴：沈線・縄文（単軸絡条体第1類L）・磨消	ナデ（横）		胴スス微量		0	0	後期初頭～前葉	699
胴：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	704
胴：縄文（段の違う縄RL+R）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	700
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	820
口縁：隆線・隆線間の刺突文・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	818
口縁：隆線・炭状・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	817
口縁：沈線・縄文（RL）・磨消・隆線	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期初頭～前葉	703
口縁：隆線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁～胴スス多量		0	0	後期初頭～前葉	812
胴：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	702
口端：突起、口縁：隆線・隆線上の竹管文連続刺突	ナデ（横）		口縁スス多量		0	0	後期初頭～前葉	810
口端：B突起・刻み目、口縁：沈線・列点	口縁：沈線・ナデ（横）	口縁コゲ少量					大洞 C2	3
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	710
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	712
胴：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	708
胴：隆線・縄文（RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b	707
胴：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	709
胴：沈線・縄文（LR）・入組三又文・隆線・隆線上の刺突列	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	714
口端：段差有り、口縁：原体圧痕（LR）、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	十腰内I式（最新）（後期前葉）	715
口端：波状縁、口縁：沈線・渦文・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	十腰内I式（最新）（後期前葉）	716
口端：大形突起、口縁：連続刺突・沈線					0	0	後期中葉	894
口端：突起、口縁：沈線・刺突	ナデ（横）				0	0	後期後葉	717
口縁：縄文（単軸絡条体第1類L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	718
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期中葉	720
口縁：隆線（突帯状）・橋状突起、胴：ナデ	ナデ（横）				0	0	大木 8b か	719
胴：矢羽根状の沈線文	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	723
口縁：沈線・入組三又文、胴：縄文（LR）	ナデ（横）		胴上半スス微量		0	0	大洞 B2	724
胴：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8a か	726
口縁：隆線、胴：隆線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大木 8b か	721
胴：隆線・隆線上の竹管文刺突列・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	722
口端：波状縁、口縁：沈線・縄文（LR）・磨消	ナデ（横）				0	0	十腰内I式（最新）（後期前葉）	725
胴：縄文（RL）	ナデ（横）				1	0	大洞 A1	735
口縁～胴：ナデ	ナデ（横）				0	0	大洞 A1	732
口縁：沈線・刺突列・工字文、胴：ミガキ、底：四足	口縁～胴：ナデ（横）、底：工具痕				1	1	大洞 A1	730
口縁：縄文（単軸絡条体第1類R）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	728
口縁：沈線・ボタン状貼付、胴：沈線・縄文（RL）・磨消	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	733
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	727
口縁：隆線・縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	736
口端：突起、口縁：隆線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴下半スス少量		0	0	後期初頭～前葉	729
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）		口縁スス微量		0	0	後期初頭～前葉	739
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	740
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）		口縁スス少量		0	0	後期初頭～前葉	734
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期中葉か	737
胴下半：縄文（LR）、底：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量	1	0	前期初頭	765
胴：沈線・縄文（複節RLR）・磨消	ナデ（横）		胴スス微量		0	0	大木 10 か	771
胴：沈線・縄文（RL）・磨消・文様単位境の連続刺突	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	772
口縁：沈線・工字文、胴：縄文（LR）	口縁：沈線、口縁～胴：ナデ（横）				0	0	大洞 A1	774
口縁：沈線・縄文（LR）・磨消・刺突	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	822
口端：橋状突起、口縁：隆沈線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	764
口縁～胴：縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 10	768
口縁～胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴上半スス微量		0	0	後期初頭～前葉	762
口縁：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	763
胴：縄文（RL）	胴：ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	859
胴：沈線・磨消・縄文（無節R）	ナデ（横）		胴スス微量		0	0	後期初頭～前葉	472
胴：縄文（RL）	ナデ（横）		胴スス少量		0	0	後期初頭～前葉	761

掲載No	図版No	写図No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	分類	残存位置	残存率 (%)		計測値 (cm)		
						内訳数	総数					口縁	底部	口径	底径	器高
827	108	82	西	6D17	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(5.7)
828	108	82	西	6D22	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(5.1)
829	109	82	西	6D14(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	II A	口縁	-	0	-	-	(6.0)
830	109	82	西	6D16(NR07)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	III B	胴	0	0	-	-	(11.4)
831	109	82	西	6D区東西トレンチ	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1a類	口縁	-	0	-	-	(5.8)
832	109	82	西	6D10	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(6.5)
833	109	82	西	6D区東西トレンチ 6C24(NR05)	砂礫5層 砂礫5層	2 1	3	縄文土器	深鉢	IV・深鉢5b類	口縁	-	0	-	-	(6.5)
834	109	82	西	6E5	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	IV・深鉢1類	口縁	-	0	-	-	(5.2)
835	109	82	西	6E3 不明	IV層 不明	34 5	39	縄文土器	深鉢	III B	口縁~胴下半	15	0	<24.8>	-	(29.0)
836	109	82	西	6E15	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	(3.3)
837	109	82	西	6E14	V層~砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	I	口縁	-	0	-	-	(4.5)
838	109	82	西	6E24(SD03)張出部	1層(V層起源)	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(4.6)
839	109	82	西	6E24(SD03)張出部	1層(V層起源)	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(7.3)
840	109	82	西	6E15	V層	3	3	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(7.8) (6.3) (4.8)
841	109	82	西	6E15	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.9)
842	109	82	西	6E15	V層	1	1	縄文土器	深鉢	I	胴	0	0	-	-	(6.2)
843	109	82	西	6F16(NR04 古と07の間)	II b層	1	1	縄文土器	鉢	VII A	口縁	-	0	-	-	(4.3)
844	109	82	西	7C21	II a層	12	12	縄文土器	壺	IX B	口縁~底1/2	20	100	<10.1>	7.2	11.5
845	109	82	西	7D11	II a~II b層	13	13	縄文土器	深鉢	IX A・深鉢3a類	口縁~胴上半	-	0	-	-	(12.4)
846	109	82	西	7D6 7C21 7E1 6D5(NR05) 7D21	II a~II b層 II b層 IV層 砂礫5層 砂礫6層	2 1 1 1 1	6	縄文土器	深鉢	IV・深鉢4a類	口縁	-	0	26.5	-	(12.1)

第2-2表 ミニチュア土器観察表 (12・847~868)

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	分類	器種	部位
			区	位置(グリッド)				
12	40	37	東	SI07	埋土2層目暗褐色土	ミニチュア	深鉢	胴下半~底
847	110	83	西	3C24 (NR04)	IV層	ミニチュア	深鉢	略完形
848	110	83	西	3D11 (NR03 古)	砂礫4層	ミニチュア	台付深鉢	胴下半~底
849	110	83	西	4B14 (NR06)	10層 (IV層下部)	ミニチュア	台付深鉢	胴下半~底
850	110	83	西	3C14 (NR04)	IV層下部 (14層)	ミニチュア	浅鉢	胴~底
851	110	83	西	4C13 (NR05)	5層 (III層)	ミニチュア	壺	完形
852	110	83	西	3C24 (NR04)	砂礫4層	ミニチュア	鉢	口縁~底
853	110	83	西	3D24 (NR04)	砂礫4層	ミニチュア	浅鉢	口縁~底
854	110	83	西	4G11	砂礫3層	ミニチュア	鉢	胴下半~底
855	110	83	西	3A18	砂礫3層	ミニチュア	壺	略完形
856	110	83	西	2B14	II層上部 (砂層・粘土層)	ミニチュア	深鉢	胴下半~底
857	110	83	西	2D14 (NR02)	砂礫3層	ミニチュア	深鉢か	底
858	110	83	西	3B6	II b層	ミニチュア	深鉢か	胴下半~底
859	110	83	西	3B21 ヘルト	II b4層	ミニチュア	台付鉢	胴下半~底
860	110	83	西	4B4	II b層下部	ミニチュア	台付鉢	胴下半~底
861	110	83	西	2B15	II b2層	ミニチュア	浅鉢	口縁~底
862	110	83	西	3B2	II b4層	ミニチュア	浅鉢	口縁~底
863	110	83	西	3D23 (NR04)	II b層	ミニチュア	浅鉢	口縁~底
864	110	83	西	2C24 (NR02)	メイン5層 (II b層)	ミニチュア	浅鉢か	胴下半~底
865	110	83	西	2B15	II b1-2間層	ミニチュア	壺	胴上半~底
866	110	83	西	3B3	II b4層	ミニチュア	壺	口縁~胴
867	110	83	西	2E10 (NR01)	砂礫2層	ミニチュア	壺か	胴
868	110	83	西	2C5(NR03)	砂礫3層	ミニチュア	鉢	口縁~胴



外面調整・施文など	内面調整・施文など	ススコゲ		胎土	底部	底部1/2以上	備考	登録No
		内面	外面					
胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	前期初頭	769
口端：波状縁、口縁：隆線・縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	770
口縁：隆線、胴：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	大木 8a	766
胴：隆線・磨消・縄文（RL）	ナデ（横）		胴スス少量		0	0	大木 10 前半	767
口縁：隆線・隆線に沿う竹管文刺突列、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	773
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	760
口縁：縄文（単軸絡条体第1類L）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	738
口縁：三日月状隆線、口縁：縄文（RL）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	788
口縁～胴下半：縄文（複節RLR）	ナデ（横）				0	0	大木 10 か	775
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	779
口縁：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	776
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	783
胴：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	784
胴：縄文（LR）	ナデ（横）			植物質繊維多量			前期初頭	780 781 782
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	777
胴：縄文（RL）	ナデ（横）			植物質繊維多量	0	0	前期初頭	778
口縁：弧線を伴う小波状縁・入組三又文・沈線	ナデ（横）				0	0	大洞 B2	785
胴：縄文（LR）、底：ナデ	ナデ（横）				1	1	大洞 A1	751
口縁：刻み目、胴上半：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	大洞 C2	787
口端：波状縁、口縁：隆線、胴：縄文（LR）	ナデ（横）				0	0	後期初頭～前葉	786

( ) : 残存値・< > : 推定値

調整	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	輪積痕	口縁残存率 (%)	底部残存率 (%)	推定時期	備考	登録No
胴：隆沈線	-	-	-	無	0	50	大木 9		849
口縁～底：ナデ	5.3	3.0	2.8	無	100	100	後期中葉		3048
胴～底：ナデ・指頭痕	-	-	(2.0)	無	0	0	後期中葉		3049
胴～底：ナデ・指頭痕	-	<3.4>	(3.2)	無	0	55	後期中葉		3053
胴：沈線・弧線文・縄文（LR）	-	2.6	(2.4)	無	0	100	後期中葉		3046
口縁～胴：沈線・ナデ、底：上げ底	2.2	2.6	2.6	無	100	100	後期中葉		3055
口縁～底：指頭痕	<4.2>	<2.5>	2.5	無	65	100	後期か		3047
口縁～底：ナデ・沈線	2.7	1.9	1.7	無	55	100	後期か		3051
胴：沈線・雲形文	-	-	-	無	0	60	大洞 C2		809
口端：刻み目、口縁：沈線、胴：縄文（無節L）	<3.1>	2.1	2.9	無	30	100	大洞 C2		3041
胴～底：ナデ	-	(2.0)	(1.8)	無	0	0	晩期後半		3035
底：ナデ	-	3.2	(1.2)	無	0	100	晩期後半		3039
胴～底：ナデ	-	3.3	(2.1)	無	0	100	晩期後半		3044
胴～底：ナデ	-	2.4	(3.5)	無	0	90	晩期後半		3045
胴～底：ナデ	-	2.4	(2.3)	無	0	95	晩期後半		3052
口縁～底：ナデ・指頭痕	<4.3>	1.4	2.3	無	40	100	晩期後半		3037
口縁：折り返し・ナデ、上面楕円形	-	-	1.7	無	30	80	晩期後半		3042
口縁～底：指頭痕	<3.2>	-	2.2	無	45	40	晩期後半		3050
胴～底：ナデ	-	1.0	(1.5)	無	0	100	晩期後半		3038
胴～底：ナデ・指頭痕	-	-	(4.3)	有	0	0	晩期後半	2 個体	3036
口縁～胴：ナデ	-	-	(1.4)	無	10	0	晩期後半		3043
胴：ナデ	-	-	(2.4)	有	0	0	晩期後半か		3040
口縁：沈線、胴：ナデ	-	-	-	無	15	0	晩期か		352

第3表 土器底部観察表 (869～1045)

掲載 No	図版No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	編組方法	備考	登録 No
					内訳数	総数					
869	110	西	4B13	砂礫6層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期初頭	1019
870	110	西	4B14	5層(Ⅲ層)	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期初頭	1020
871	110	西	4B14	10層(Ⅳ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期初頭	1021
872	110	西	4C3(NR07)	砂礫5層	3	3	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期初頭	1028
873	110	西	1E13	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期初頭か	903
874	110	西	3D11(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期初頭か	1001
875	110	西	3G3	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期中葉か	1014
876	110	西	2B4	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期中葉か	913
877	110	西	3C15(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期中葉か	983
878	110	西	3C17ベルト	Ⅲ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期中葉か	987
879	110	西	3C16(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	984
880	110	西	3D6(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	998
881	110	西	3D15	Ⅲ層下位	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期	1004
882	110	西	2C19(NR02)	Ⅳ層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	926
883	110	西	2C20(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	928
884	110	西	2E9(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	945
885	110	西	2E20(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	946
886	110	西	3A19	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	960
887	110	西	3C11(NR03)	Ⅳ層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	978
888	110	西	3C13(NR04)	Ⅳ層砂質	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	980
889	110	西	3C13(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	981
890	110	西	3C13(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	982
891	110	西	3C16(NR03古)	Ⅲ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	985
892	111	西	3C16	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	986
893	111	西	3C17ベルト	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	988
894	111	西	3C21(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	989
895	111	西	3D1(NR02)(3D1)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	991
896	111	西	3D1(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	992
897	111	西	3D2(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	993
898	111	西	3D2(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	994
899	111	西	3D4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	997
900	111	西	3D9(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1000
901	111	西	3D12	Ⅲ層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1002
902	111	西	3D13(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1003
903	111	西	3D21	Ⅱb層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1006
904	111	西	3D22(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1008
905	111	西	3E3(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1011
906	111	西	3E5(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1012
907	111	西	3E4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1013
908	111	西	3E区(NR01)	埋土	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1015
909	111	西	3G8(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1016
910	111	西	3G9	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1017
911	111	西	3G10	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1018
912	111	西	4B23	10層(Ⅳ層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1025
913	111	西	4D7	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1030
914	111	西	4D21ベルト(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1031
915	111	西	4E1(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1033
916	111	西	4E1(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1035
917	111	西	4E6(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1036
918	111	西	4E6(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1037
919	111	西	4E7(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1038
920	111	西	4E7(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1039
921	111	西	4E10(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1040
922	111	西	4E19	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1041
923	111	西	4E23(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1042
924	111	西	4E24(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1043
925	111	西	4E25(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1044
926	111	西	4F20(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1045
927	111	西	4F22(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1049
928	111	西	4F24(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	後期か	1051

掲載 No.	図版No.	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	編組方法	備考	登録 No.
					内訳数	総数					
929	111	西	4G7	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1053
930	111	西	5G10(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1054
931	111	西	5B11(NR06)	Ⅲ層下部	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1055
932	111	西	5B21 5B16	5層(Ⅲ層) 5層(Ⅲ層)	4 2	6	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1056
933	111	西	5E11(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1059
934	111	西	5E11(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1060
935	111	西	5E16(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1061
936	111	西	5E21(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1062
937	111	西	5E24(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1063
938	111	西	5F2(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1064
939	111	西	5F2(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1065
940	111	西	5F18(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1066
941	111	西	5F18(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1067
942	111	西	5F19(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1068
943	111	西	5F19(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1069
944	111	西	5F23(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1072
945	111	西	5F24(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1073
946	111	西	5G2	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1074
947	111	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1075
948	111	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1077
949	112	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1078
950	112	西	5G3(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1079
951	112	西	5G6(NR04古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1081
952	112	西	3B16ベルト	Ⅱ b4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1083
953	112	西	3G2トレンチ	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	後期か	1084
954	112	西	1A10	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	898
955	112	西	1C10	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	899
956	112	西	1D9	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	901
957	112	西	1D20	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	902
958	112	西	2A6	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	904
959	112	西	2A8	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	905
960	112	西	2A18	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	906
961	112	西	2A20	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	907
962	112	西	3D1	Ⅱ b層上位	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	909
963	112	西	2A24	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	910
964	112	西	2B3	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	911
965	112	西	2B4	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	912
966	112	西	2B19	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	916
967	112	西	2B22	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	917
968	112	西	2C1	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	919
969	112	西	2C2	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	920
970	112	西	2C5	Ⅱ a層 砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	921
971	112	西	2C7	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	922
972	112	西	2C7	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	923
973	112	西	2C19・24ベルト	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	927
974	112	西	2C25(NR03古)	NR02の砂礫層(下部にⅡ b層)	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	929
975	112	西	2D1	砂礫1～3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	931
976	112	西	2D4(NR03古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	932
977	112	西	2D10	Ⅱ b層最下層 暗褐色土	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	934
978	112	西	2D10(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	937
979	112	西	2D14(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	938
980	112	西	2D14(NR02)	メイン18層(砂礫3層)	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	939
981	112	西	2D21(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	940
982	112	西	2E1(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	941
983	112	西	2E22	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	947
984	112	西	2F12	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	948
985	112	西	2F13	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	949
986	112	西	2F24	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	950
987	112	西	2G10	砂礫1or2層	1	1	縄文土器	深鉢	二点目組み	晩期	952



掲載 No	図版No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	編組方法	備考	登録 No
					内訳数	総数					
988	112	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期	964
989	112	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期	965
990	112	西	3B1(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期	967
991	112	西	3B21 ベルト (NR03 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期	974
992	112	西	3A12	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	953
993	112	西	3A14	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	954
994	112	西	3A17	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	957
995	112	西	3A21	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	963
996	112	西	3B8	II b2層下位	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	970
997	112	西	3B18(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	973
998	112	西	3D3(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み	晩期か	995
999	112	西	4B24(NR05)	10層 (IV層下位)	1	1	縄文土器	深鉢	ござ目組み+笹	後期初頭	1027
1000	113	西	3B24	III層上半	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せのござ目組み	後期か	975
1001	113	西	2A21	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期初頭か	908
1002	113	西	2B15	II b層	5	5	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期初頭か	915
1003	113	西	2B14	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期中葉か	914
1004	113	西	2C9	III層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	924
1005	113	西	2C10	III層上半	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	925
1006	113	西	2D10(NR02)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	936
1007	113	西	3A16	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	955
1008	113	西	3C6(NR03)	II b層	5	5	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	977
1009	113	西	3C13	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	979
1010	113	西	3D9	III層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	999
1011	113	西	3D16(NR03 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1005
1012	113	西	3D22(NR04)	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1007
1013	113	西	3D23(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1009
1014	113	西	4E1(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1034
1015	113	西	4F20(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1046
1016	113	西	4F21	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1047
1017	113	西	4F22(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1048
1018	113	西	4F24(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1050
1019	113	西	5B22 5C区 WE ベルト	III層	4	4	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1057
1020	113	西	5F19(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1070
1021	113	西	5F23(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1071
1022	113	西	5G3	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1076
1023	113	西	5G4(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	1080
1024	113	西	1C25	砂礫1or3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期	900
1025	113	西	2B25(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期	918
1026	113	西	2C25(NR03 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期	930
1027	113	西	2E8(NR01)	砂礫2層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期	943
1028	113	西	3A22	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期	966
1029	113	西	3A21 ベルト	II a層	5	5	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期か	961
1030	113	西	3A21 ベルト	II a層	4	4	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	晩期か	962
1031	113	西	3B12 3B12	砂礫4層 II b2層	1 1	2	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい) + 木葉	後期初頭か	972
1032	113	西	3B25(NR05)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	飛びござ目組み (1本とび2本すくい) + 木葉	後期初頭か	976
1033	113	西	3D4(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの飛びござ目組み (1本とび2本すくい)	後期か	996
1034	113	西	3B2(NR03)	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	二本飛び網代組み	後期か	968
1035	113	西	3A18	II b1層	3	3	縄文土器	深鉢	二本飛び網代組み	晩期か	958
1036	113	西	3A18	II b層上半	1	1	縄文土器	深鉢	二本飛び網代組み	晩期か	959
1037	113	西	4B21 ベルト (NR04 古)	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本飛び網代組み	後期初頭	1022
1038	113	西	3C23(NR04)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本飛び網代組み	後期か	990
1039	113	西	4E1(NR04 古)	砂礫4層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本飛び網代組み	後期か	1032
1040	113	西	3A16	II b層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本飛び網代組み	晩期か	956
1041	113	西	3B6	砂礫3層	1	1	縄文土器	深鉢	2本寄せの二本飛び網代組み	晩期か	969
1042	113	西	6D区	II層中	1	1	縄文土器	深鉢	麻の葉崩し組み	中期後半か	1085
1043	113	西	4C9(NR05)	6層 (IV層上位)	4	4	縄文土器	深鉢	麻の葉崩し組み	後期初頭	1029
1044	113	西	4B22	砂礫5層	1	1	縄文土器	深鉢	麻の葉崩し組み	後期か	1023
1045	113	西	5C16(NR07)	IV層上部	1	1	縄文土器	深鉢	麻の葉崩し組み	後期か	1058

第4表 土偶観察表 (1046 ~ 1071)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	分類	部位	アスファルト付着	赤彩	製作	文様	特徴	推定時期	備考	登録No
			区	位置(グリッド)											
1046	114	83	西	3D13 (NR04)	砂礫4層	第1群	頭		中実	顔面表現		後期前葉		3020	
1047	114	83	西	5G3	砂礫4層	第1群	頭	頸部付着物	中実	顔面表現剥落		後期前葉		3025	
1048	114	83	西	3A23	37層(砂礫3層上部)	第1群	胸上半		中実			後期前葉		3007	
1049	114	83	西	2B25	皿層	第1群	左肩		中実			後期前葉		3004	
1050	114	83	西	3D4 (3D4)	砂礫4層	第1群	胴・両腕・左脚		中実			後期前葉		3018	
1051	114	83	西	3A14	砂礫3層上部	第1群	胴・右腕・両脚		中実			後期前葉		3006	
1052	114	83	西	4C23	II b層上位	第2群	左腕		中実	刺突		後期中葉		3022	
1053	114	83	西	3D4 (3D4)	砂礫4層	第2群	頭		中実	刺突・結髪		後期中葉		3017	
1054	114	83	西	4C20 (NR05)	6層(W層上部)	第2群	左腕		中実	刺突		後期中葉		3021	
1055	114	83	西	4D21 (NR04)	砂礫4層	第2群	胸下半		中実	刺突		後期中葉		3023	
1056	114	83	西	3C12 (NR04)	皿層	第2群	胸下半		中実	沈線・鋸歯文・紐文LR		後期中葉		3015	
1057	114	83	西	2A15	II b層下部	第2群	右脚		中実			後期中葉		3002	
1058	114	83	西	2E20	II b2層	第3群	頭・胸上半・左腕		中実	沈線・入組文	X字形	大淵 C2	接合	3003	
1059	114	83	西	3B16 ベルト	II b4層	第3群	腕		中実	掌T字状沈線	X字形	大淵 C2		3014	
1060	115	83	西	3A24	砂礫4層	第3群	胸・右脚		中実	刺突・沈線・入組文		大淵 C2		3008	
1061	115	83	西	3B3	II b3層	第3群	左腕		中実	沈線		大淵 C2		3011	
1062	115	84	西	3C24 (NR04)	砂礫4層上部	第3群	右脚		中実			大淵 C2		3016	
1063	115	84	西	1C15	砂礫4層	第3群	胸上半・左腕		中実	沈線・貫通孔2箇所		大淵 C2		3001	
1064	115	84	西	5F18 (NR04古)	砂礫4層	第3群	左肩		中空	沈線・入組文		大淵 C2		3024	
1065	115	84	西	3B2	II b3層	第3群	右肩		中空	沈線・紐文LR		大淵 C2		3013	
1066	115	84	西	3B2	II b2層	第3群	脚		中空	沈線	遮光器	大淵 C2		3010	
1067	115	84	西	3D11 (NR03古)	砂礫4層	第3群	脚		中空	沈線	遮光器	大淵 C2		3019	
1068	115	84	西	3B6 ベルト	II b1層(7層)	第4群	頭・胸上半・両腕		中実	刺突・沈線・正中線		大淵 C2 ~ A1	接合	3012	
1069	115	84	西	3B1	II b層	第4群	胸上半・右肩		中実	沈線・紐文LR		大淵 C2 ~ A1		3009	
1070	116	84	西	2D22 (NR01)	砂礫2層上部	第5群	左脚		中実	刺突	屈折像か	後期中葉か		3005	
1071	116	84	西	3C11 (NR03)	砂礫4層	第5群	胴		中空	沈線・紐文LR	円筒形	不明		3105	

第5表 土製垂飾観察表 (1072)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	推定時期	備考	登録No
			区	位置(グリッド)								
1072	116	84	西	3E24	砂礫3層の上層砂層	4.70 × 4.57 × 1.39	17.8	完形	中央貫通孔・穿孔2箇所	大淵 C2		3029

第6表 土製耳飾観察表 (1073 ~ 1075)

( ) : 残存値

掲載No.	図版No.	写真No.	出土地点		層位	外径 (cm)	孔径 (cm)	くびれ部径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	推定時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)											
1073	116	84	西	NR05 (5C1)	IV層上部	6.47	1.55	5.26	2.97	122.3	略完形・裏面剥落	刺突・中央貫通孔	後期初頭		3026
1074	116	84	西	2A24	砂礫2層	2.72	1.55	2.29	1.5	5.8	略完形	環状	晩期		3027
1075	116	84	西	3B13	II a層	2.13	-	1.25	長さ (1.5)	4.3	端部欠損	耳栓	晩期		3028

第7表 土版観察表 (1076・1077)

( ) : 残存値

掲載No.	図版No.	写真No.	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	推定時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)								
1076	116	84	西	2B5	II b層	(3.05) × (2.74) × (0.59)	3.4	破片	沈線	大洞 C2		3030
1077	116	84	西	2B10	II b層	(3.01) × (3.13) × (0.51)	4.0	破片	沈線	大洞 C2		3031

第8表 球状土製品観察表 (1078)

掲載No.	図版No.	写真No.	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	推定時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)								
1078	116	84	西	4C6 (NR04)	IV層	3.69 × 3.64 × 3.56	47.2	完形	成形裏	後期中葉		3083

第9表 土錘観察表 (1079)

掲載No.	図版No.	写真No.	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	推定時期	備考	登録No.
			区	位置 (グリッド)								
1079	116	84	西	3C11 (NR03)	IV層下部	3.67 × 2.71 × 2.05	18.5	完形	沈線・貫通孔	有溝土錘		3082



第10表 土器片利用円盤状土製品観察表 (1080～1128)

( ) : 残存値

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	土器文様	側縁	土器時期	備考	登録No
			区	位置 (グリッド)											
1080	117	84	西	3B8 (NR05)	砂礫4層	5.9	5.7	1.2	39.9	多角形	縄文 (R L)	全周する磨痕	中期未葉～後期初頭		3062
1081	117	84	西	4B3	II b層	6.8	7.6	1.0	62.6	多角形	沈線・縄文 (複節R L R)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3082
1082	117	84	西	4B10 (NR06)	砂礫6層	4.5	5.0	1.2	28.1	多角形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3083
1083	117	84	西	4E24 ベルト	IV層	4.4	5.4	0.9	26.4	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3084
1084	117	84	西	4C9 (NR05)	6層 (IV層上部)	3.9	4.6	0.8	15.5	楕円形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3085
1085	117	84	西	4C9 (NR05)	6層 (IV層上部)	2.8	3.0	0.9	7.7	円形	隆線・縄文 (R L)	全周する磨痕	中期未葉～後期初頭		3086
1086	117	84	西	4C9 (NR05)	7層 (IV層間層)	4.3	4.6	0.9	22.2	多角形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3087
1087	117	84	西	4C15	6層 (IV層上部)	3.3	3.5	0.8	10.1	多角形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3089
1088	117	85	西	4E24 (NR04古)	砂礫4層	4.4	4.6	1.0	23.8	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3094
1089	117	85	西	5B11	6層 (II d層)	4.7	4.8	0.9	22.3	円形	縄文 (L R)	全周する磨痕	中期未葉～後期初頭		3095
1090	117	85	西	5C6 (NR05)	6層 (IV層上部)	4.1	4.2	0.7	15.3	円形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3096
1091	117	85	西	5D15	IV層	4.5	4.9	0.8	20.4	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3097
1092	117	85	西	5D15 (NR07)	砂礫5層	3.7	4.0	1.1	20.2	円形	縄文 (複節R L R)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3098
1093	117	85	西	5F13 (NR04古と07の間)	砂礫4層	3.7	3.4	0.6	10.4	円形	縄文 (L R)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3099
1094	117	85	西	6D13	IV層	2.4	2.4	0.7	4.7	円形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3101
1095	117	85	西	6E19	IV層下部	3.4	3.3	0.8	9.4	円形	縄文 (R L)	打ち欠き	中期未葉～後期初頭		3102
1096	117	85	西	6C25	砂礫6層	4.3	4.4	1.4	27.2	円形	磨痕	打ち欠き	中期未葉～後期初頭	底部	3100
1097	117	85	西	6F6 (NR05～06)	砂礫4層	4.9	4.7	1.4	38.2	多角形	磨痕	打ち欠き	中期未葉～後期初頭	底部	3103
1098	117	85	西	3C23 (NR05)	5層 (III層)	5.2	5.2	0.7	25.7	隅丸方形	縄文 (単軸絡糸体第1類R)	全周する磨痕	後期初頭		3076
1099	117	85	西	3D23	IV層	4.4	4.7	0.6	16.0	円形	縄文 (L R)	打ち欠き	後期初頭か		3081
1100	117	85	西	3D15	III層 (砂質)	4.3	4.4	0.8	16.6	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	後期中葉	口縁残存	3078
1101	117	85	西	4C18 (NR07)	III層上部	4.0	3.9	0.8	14.7	楕円形	縄文 (R L)	打ち欠き	後期中葉		3090
1102	117	85	西	4C25	III層	3.8	4.0	0.7	12.9	円形	縄文 (R L)	全周する磨痕	後期中葉		3091
1103	117	85	西	4D6	III層 (砂質)	5.2	4.8	0.6	20.2	円形	縄文 (R L)	打ち欠き	後期中葉		3092
1104	117	85	西	4D11	III層 (砂質)	5.1	5.4	1.3	40.1	多角形	磨痕	打ち欠き	後期中葉	底部	3093
1105	117	85	西	-	III～IV層	4.1	4.4	0.8	18.5	隅丸方形	縄文 (R L)	打ち欠き	後期中葉		3104
1106	117	85	西	3E21 ベルト (NR03古 or04)	砂礫4層	4.2	3.9	0.8	18.9	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	後期か		3067
1107	117	85	西	3E22 ベルト (NR04)	砂礫4層	4.7	4.6	0.7	19.9	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	後期か		3069
1108	117	85	西	3E23 ベルト (NR04)	砂礫4層	3.6	3.3	0.7	10.2	多角形	縄文 (R L)	打ち欠き	後期か		3070
1109	118	85	西	3C9 (NR04)	砂礫4層	3.9	3.4	0.7	10.8	多角形	縄文 (R L)	打ち欠き	後期か		3071
1110	118	85	西	3C11 (NR03)	III層	3.8	(2.8)	0.6	(8.3)	多角形	縄文 (L R)	磨痕	後期か	1/2欠損	3072
1111	118	85	西	3C11 (NR03)	砂礫4層	4.1	3.2	0.8	12.4	楕円形	縄文 (L R)	打ち欠き	後期か		3073
1112	118	85	西	3C22 (NR04)	砂礫4層	2.9	2.8	0.6	5.6	多角形	沈線・縄文 (L R)	打ち欠き	後期か		3075
1113	118	85	西	3E21 ベルト (NR03古 or04)	砂礫4層	5.5	5.1	1.0	35.7	多角形	底面笹葉痕	打ち欠き	後期か	底部	3068
1114	118	85	西	3C16 (NR03)	III層	3.8	3.2	0.8	11.2	多角形	底面網代痕 (飛びござ目)	打ち欠き	後期か	底部	3074
1115	118	85	西	2E18	砂礫2層	4.5	4.5	0.5	15.8	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き、一部磨痕	晩期後半		3057

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	形状	土器文様	側縁	土器時期	備考	登録No
			区	位置 (グリッド)											
1116	118	85	西	2E7	砂礫2層	4.4	4.2	0.5	13.4	多角形	縄文 (L L)	打ち欠き、一部磨痕	晩期後半		3056
1117	118	85	西	2C14	II b 層	4.3	4.2	0.7	14.9	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期後半		3058
1118	118	85	西	2D4 (NR03 古)	砂礫3層	5.1	5.1	0.6	23.8	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期後半		3059
1119	118	85	西	3A21	砂礫3層	5.7	5.5	0.6	25.6	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期後半		3061
1120	118	85	西	3B12	II b1層	4.3	4.2	0.7	14.0	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き、一部磨痕	晩期後半		3063
1121	118	85	西	3B12	II b2層	3.8	3.1	0.6	8.9	楕円形	縄文 (L R)	打ち欠き・磨痕	晩期後半		3064
1122	118	85	西	3B16 ベルト	II b4層	4.8	4.0	0.9	20.9	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期後半		3065
1123	118	85	西	3B21 ベルト	II b4層	4.8	3.8	0.7	15.1	楕円形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期後半		3066
1124	118	85	西	2E19 (NR01)	砂礫2層	5.3	(3.2)	0.8	(14.1)	多角形	縄文 (L R)	全周する磨痕	晩期か	1/2欠損	3060
1125	118	85	西	3C23 (NR04)	砂礫4層	3.9	3.7	0.6	10.1	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期か		3077
1126	118	85	西	3D17 (NR04)	砂礫4層	3.0	3.0	0.7	6.8	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期か		3079
1127	118	85	西	3D21	II b 層類似層	(3.0)	3.7	0.6	(7.7)	多角形	縄文 (L R)	打ち欠き	晩期か	一部欠損	3080
1128	118	85	西	4C11・16 (SD02)	埋土	5.2	5.4	0.8	25.4	多角形	底ナデ	打ち欠き	晩期か	底部	3088

第 11 表 焼成粘土塊観察表 (1129 ~ 1137)

掲載No	写図No	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	推定時期	備考	登録No
		区	位置 (グリッド)						
1129	85	西	5C 区 ベルト (5B22)	IV 層上部	2.3 × 2.1 × 1.3	4.6	中期未葉 ~ 後期初頭		3121
1130	85	西	5C17 (NR07)	IV 層上部	2.5 × 2.1 × 2.0	6.7	中期未葉 ~ 後期初頭		3122
1131	85	西	3C10	IV 層	4.5 × 3.6 × 2.0	21.7	後期初頭 ~ 中葉		3115
1132	85	西	2A25	II b1-2 間層	3.1 × 2.9 × 1.1	5.4	晩期中葉		3109
1133	85	西	3A23 ベルト	II b1層	2.6 × 2.2 × 1.7	6.4	晩期中葉		3110
1134	85	西	3B2・3	II b4層	2.4 × 1.5 × 0.9	2.5	晩期中葉		3111
1135	85	西	3B3	II b4層	2.5 × 1.9 × 2.0	7.0	晩期中葉		3112
1136	85	西	3B21 ベルト	II b4層	2.1 × 1.5 × 0.6	1.7	晩期中葉		3113
1137	85	西	3C7	II b 層上部	5.3 × 5.2 × 1.9	24.3	晩期中葉		3114

第 12 表 不明土製品観察表 (1138 ~ 1140)

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	計測値 (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴	推定時期	備考	登録No
			区	位置 (グリッド)								
1138	118	85	西	4C5 (NR05)	6 層 (IV 層上部)	3.92 × 0.93 × 0.97	3.3	棒状		中期未葉 ~ 後期初頭		3108
1139	118	85	西	3B16 ベルト	II b4層	(5.58) × 1.22 × 1.34	8.2	棒状		晩期中葉		3106
1140	118	85	西	3B21 ベルト	II b4層	(6.12) × 1.35 × 1.07	8.5	棒状		晩期中葉		3107

( ) : 残存値

第13表 尖頭器観察表 (1141)

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点		層位	石材	計測値			先端部		推定時期	備考	登録No.
			区	位置(グリッド)			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状			
1141	119	86	西	1D19	砂礫1層	頁岩	14.26	2.36	0.92	29.6	先	400	晩期か	2054

第14表 石鏃観察表 (13・1142～1153)

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点		層位	分類	石材	計測値						欠損	推定時期	備考	登録No.	
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	抉り(cm)	重量(g)	形状					角度(°)
13	40	37	東	37G19	2層目黑色土	II A類	頁岩	(3.45)	2.19	0.44	0.40	2.6	-	先端部欠	中期後葉	無茎凹基、新生代新第三紀	2006	
1142	119	86	西	4B14	II b層下部	I類	頁岩	4.06	1.18	0.53		2.8	先	580	完形	有茎、黑色粘着物付着、新生代新第三紀	2001	
1143	119	86	西	メインベルト南側 WE トレンチ (2～3D区)	砂礫3層上部砂層	I類	頁岩	(2.54)	1.46	0.32		0.9	-	先端部欠	晩期後半	有茎、古～中生代	2002	
1144	119	86	西	3B2	II b4層	I類	頁岩	(2.10)	1.27	0.44		1.0	先	51.5	基部欠	有茎、古生代	2055	
1145	119	86	西	5B18	IV層	II A類	頁岩	2.08	1.73	0.30	0.35	1.7	先	49.0	完形	無茎凹基、黒色粘着物付着、新生代新第三紀	2003	
1146	119	86	西	3A15	砂礫3層上部砂層	II A類	頁岩	2.14	1.82	0.41	0.13	1.4	先	70.0	完形	無茎凹基、古生代	2059	
1147	119	86	西	3D10	II b層	II A類	頁岩	2.14	1.60	0.24	0.60	0.4	先	完形	晩期後半	無茎凹基、古～中生代	2004	
1148	119	86	西	4C8	4層(III層)	II A類	瑪瑙	1.80	1.53	0.27	0.57	0.4	先	79.0	完形	無茎凹基	2057	
1149	119	86	西	2G3	砂礫1層	II A類	頁岩	3.55	1.43	0.49	0.39	1.6	先	31.0	完形	無茎凹基、古生代	2061	
1150	119	86	西	4C16 (NR04古)	III層上部	II A類	頁岩	(3.52)	1.22	0.58	0.23	2.4	-	先端部欠	後期中葉	無茎凹基、古生代	2062	
1151	119	86	西	3D7 (NR04)	砂礫4層	II B類	頁岩	3.64	1.46	0.55		2.7	先	40.5	完形	無茎凹基、古生代	2065	
1152	119	86	西	3C10 (NR04)	砂礫4層	II B類	頁岩	3.37	1.61	0.50		2.7	先	54.0	完形	無茎凹基、古生代	2066	
1153	119	86	西	2D10 (NR02)	砂礫4層	II B類	頁岩	3.95	1.47	0.50		2.7	先	44.0	完形	無茎凹基、古生代	2067	

( ) : 残存値

第15表 石鏃観察表 (1154～1159)

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点		層位	分類	石材	計測値						欠損	推定時期	備考	登録No.
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)				
1154	119	86	西	3D16	II b層上部	I類	頁岩	4.83	1.77	0.43	2.1	先	38.0	完形	晩期後半	古生代	2069
1155	119	86	西	1E13	砂礫1層	II類	頁岩	4.38	0.91	0.50	2.0	先	28.0	完形	晩期か	古生代	2071
1156	119	86	西	3D16 (NR02)	砂礫4層	II類	頁岩	4.17	0.93	0.68	2.6	先	46.5	完形	後期初頭～中葉	古生代	2073
1157	119	86	西	2B25	II b層下部	II類	頁岩	3.31	1.07	0.59	1.8	先	39.5	完形	晩期後半	新生代新第三紀	2009
1158	119	86	西	2E23 (NR01)	砂礫2層	III類	赤色頁岩	4.51	1.51	1.44	7.6	先	36.0	完形	晩期後半	古生代	2074
1159	119	86	西	4B16	II b層上部	III類	頁岩	(2.55)	2.35	0.69	5.1	-	-	先端部	有	古～中生代	2013

( ) : 残存値



第16表 石匙観察表 (1160～1168)

( ) : 残存値

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	分類	石材	計測値			刃部		欠損	推定時期	備考	登録No
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状				
1160	119	86	西	2B25	II b層最下部	I類 縦型	頁岩	5.93	1.89	0.69	7.8	片	49～52	大洞 C2	古生代	2076
1161	119	86	西	2B25	砂礫3層上部砂層	I類 縦型	頁岩	6.10	1.73	0.74	7.0	片	62～67	大洞 C2	古生代	2077
1162	120	86	西	3C2 (NR03～04)	砂礫4層	I類 縦型	頁岩	6.75	2.25	0.49	8.6	片	48～51	後期初頭～中葉	古生代	2078
1163	120	86	西	3D7 (NR04)	砂礫4層	I類 縦型	頁岩	5.86	2.75	0.54	8.4	片	39～42	後期初頭～中葉	古生代	2079
1164	120	86	西	6D17	砂礫5層	I類 縦型	頁岩	6.27	2.65	0.61	9.2	片	54～67	中期後葉～後期初頭	スクレイパーか、古生代	2083
1165	120	86	西	6E～F区 (SD03)	砂礫6層	II類 横型	頁岩	3.44	(6.20)	0.76	8.9	片	49～55	前期初頭～中期後葉	鱗型、新生代新第三紀	2015
1166	120	86	西	3D7 (NR04)	砂礫4層	II類 横型	頁岩	3.09	5.48	0.81	9.8	片	56～68	後期初頭～中葉	端部ドリル使用痕あり、古生代	2085
1167	120	86	西	2F5 (NR01)	砂礫2層	III類 斜型	頁岩	5.47	2.20	0.63	8.9	片	49～53	晩期後半	古生代	2088
1168	120	86	西	4C13 (NR07)	8層 (IV層)	III類 斜型	頁岩	5.58	2.56	0.82	10.9	片	53～58	中期後葉～後期初頭	古生代	2089

第17表 筥状石器観察表 (1169・1170)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	石材	計測値			刃部		備考	登録No	
			区	位置(グリッド)			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状			角度(°)
1169	120	87	西	4E14 (NR04古)	砂礫4層	頁岩	5.77	3.68	1.30	29.6	両	50～55	後期初頭～中葉	2095
1170	120	87	西	5C区	表土	頁岩	8.23	4.08	2.21	77.6	両	69～71	縄文時代	2090

第18表 スクレイパー類観察表 (14・1171～1177)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	分類	石材	計測値			刃部		剥離角	自然面	推定時期	備考	登録No	
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状						角度(°)
14	40	37	東	SI07 P6	埋土	II類	頁岩	3.26	5.34	1.40	17.2	両	51～53	無	無	中期後葉	横長素材、新生代新第三紀	2018
1171	121	87	西	3A24 ベルト	II b層下半	I類	頁岩	6.84	4.23	1.34	44.8	片	63～70	有	105	晩期後半	縦長素材、古生代	2103
1172	121	87	西	3C16 (3C16)	砂礫4層	I類	頁岩	6.88	2.85	0.53	11.1	片	51～59	無	-	後期初頭～中葉	縦長素材、古生代	2107
1173	121	87	西	3G2 トレンチ	砂礫2層	I類	頁岩	4.99	2.60	1.06	18.1	両	65～70	無	-	晩期後半	縦長素材、古生代	2110
1174	121	87	西	4F19 (NR04古)	砂礫4層	I類	赤色頁岩	7.50	3.41	0.76	19.4	片	42～47	無	-	後期初頭～中葉	縦長素材、古生代	2113
1175	121	87	西	4G7	砂礫4層	I類	頁岩	4.84	3.30	0.70	10.6	片	40～41	有	117	後期初頭～中葉	縦長素材、古生代	2115
1176	121	87	西	4C10 (NR05)	6層 (IV層上部)	II類	頁岩	3.59	6.38	1.53	26.6	片	63～65	無	-	中期未葉～後期初頭	縦長素材、古生代	2123
1177	121	87	西	2A24	砂礫2層上部砂層	II類	頁岩	7.20	8.75	2.12	111.4	片	49～52	有	109	晩期後半	横長素材、古生代	2118

第19表 二次加工ある剥片観察表 (1178～1180)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	分類	石材	計測値			刃部		剥離角	自然面	推定時期	備考	登録No	
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状						角度(°)
1178	122	87	西	3A21 ベルト	II b層	I類	頁岩	6.70	5.88	2.25	74.9	片	68～76	有	990	大洞 C2	縦長素材、古生代	2128
1179	122	87	西	2F19	砂礫1層	I類	頁岩	6.67	5.50	1.18	32.6	片	55～57	有	1130	晩期後半か	縦長素材、古生代	2127
1180	122	88	西	3D24 (NR05)	7層 (IV間層)	II類	頁岩	2.57	5.09	0.70	9.6	両	54～60	無	-	中期後葉～後期初頭	横長素材、古生代	2141

第20表 微細剥離痕ある剥片観察表 (1181・1182)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	分類	石材	計測値			剥離角		自然面	推定時期	備考	登録No	
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	有無					角度(°)
1181	122	88	西	4B21 ベルト (NR04 古)	砂礫5層	I類	頁岩	3.86	3.04	0.70	6.4	有	118.5	無	後期初頭～中葉		2149
1182	122	88	西	3D17 (NR04)	砂礫4層	I類	頁岩	3.84	3.43	0.88	8.9	有	124	無	後期初頭～中葉		2147

第21表 楔形石器観察表 (1183・1184)

掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	石材	計測値			刃部		自然面	推定時期	備考	登録No	
			区	位置(グリッド)			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状					角度(°)
1183	122	88	西	3A21 ベルト	II b2層	頁岩	6.08	5.38	1.97	83.4	両	81～83	有	大洞 C2	2個一対の刃部、古生代	2159
1184	122	88	西	3F1 (NR01)	砂礫2層	頁岩	2.64	3.23	0.49	5.6	片	53～56	無	晩期後半	2個一対の刃部、古生代	2160

第 22 表 接合資料観察表 (1185 ~ 1231・1232)

掲載接合No	掲載No	図版No	写真No	出土地点		層位	器種	石材	石材産地	計測値				推定時期	備考
				区	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
		123	88				-	-	-	23.28	13.47	11.99	2162.3	大洞 C2	
接合資料 1	1185	123	88	西	2A20 ベルト	II b 層上部	剥片	頁岩	北上山地	12.39	6.50	3.22	239.6	大洞 C2	古生代
	1186	123	88	西	3A22	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	14.22	8.65	3.85	493.6	大洞 C2	古生代
	1187	123	88	西	3A22	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	4.02	6.12	2.75	65.6	大洞 C2	古生代
	1188	123	88	西	2A20 ベルト	II b 層上部	剥片	頁岩	北上山地	2.49	5.08	1.08	14.0	大洞 C2	古生代
	1189	123	88	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	6.72	4.66	2.28	56.4	大洞 C2	古生代
	1190	123	88	西	2A20 ベルト	II b 層上部	剥片	頁岩	北上山地	6.05	8.60	1.65	71.4	大洞 C2	古生代
	1191	123	88	西	3A22 ベルト	II b1 層	剥片	頁岩	北上山地	3.35	5.20	1.09	17.9	大洞 C2	古生代
	1192	123	88	西	3A16	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	5.20	1.70	0.82	6.7	大洞 C2	古生代
	1193	123	88	西	3A13 ベルト	II b1 層	剥片	頁岩	北上山地	5.28	2.60	0.87	10.2	大洞 C2	古生代
	1194	123	88	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	4.59	2.62	1.62	19.3	大洞 C2	古生代
	1195	124	88	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	3.10	2.75	1.52	16.5	大洞 C2	古生代
	1196	124	88	西	3A13 ベルト	II b1 層	剥片	頁岩	北上山地	2.88	4.17	0.98	12.8	大洞 C2	古生代
	1197	124	88	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	4.05	4.54	1.61	23.3	大洞 C2	古生代
1198	124	88	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	2.19	3.26	1.36	7.9	大洞 C2	古生代	
1199	124	88	西	3A16	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	13.27	12.24	6.98	1104.6	大洞 C2	古生代	
接合資料 2		124	88				-	-	-	6.77	8.86	2.70	115.4	晩期後半	
	1200	124	88	西	2A20	砂礫 3 層	剥片	頁岩	北上山地	4.67	2.79	2.38	23.6	晩期後半	古生代
	1201	124	88	西	西区北端トレンチ	砂礫 3 層	剥片	頁岩	北上山地	5.78	5.41	1.32	37.3	晩期後半	古生代
接合資料 3	1202	124	88	西	西区北端トレンチ	砂礫 3 層	剥片	頁岩	北上山地	5.56	6.73	1.76	54.3	晩期後半	古生代
		125	89				-	-	-	8.62	11.23	3.16	280.5	大洞 C2	
	1203	125	89	西	2A25	II b 層下部	剥片	頁岩	北上山地	6.63	7.10	2.04	73.1	大洞 C2	古生代
	1204	125	89	西	3A16	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	8.48	7.90	3.18	206.9	大洞 C2	古生代
接合資料 4		126	89				-	-	-	11.65	24.56	7.10	2032.4	大洞 C2	
	1205	126	89	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	2.35	2.72	0.95	6.7	大洞 C2	古生代
	1206	126	89	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	1.91	1.23	0.19	0.5	大洞 C2	古生代
	1207	126	89	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	4.62	5.10	0.56	11.1	大洞 C2	古生代
	1208	126	89	西	3A22	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	2.51	3.29	0.78	5.5	大洞 C2	古生代
	1209	126	89	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	9.53	10.85	6.00	636.6	大洞 C2	古生代
	1232	126	89	西	3B2	II b2 層	石核	頁岩	北上山地	12.82	12.60	8.07	1374.7	大洞 C2	古生代
接合資料 5		127	89				-	-	-	11.56	12.72	4.81	502.4	大洞 C2	
	1210	126	90	西	3B7	II b3 層	剥片	頁岩	北上山地	6.95	5.47	1.42	34.7	大洞 C2	古生代
	1211	128	90	西	3B7	II b3 層	剥片	頁岩	北上山地	8.10	6.85	2.32	120.5	大洞 C2	古生代
	1212	128	90	西	3B7	II b3 層	剥片	頁岩	北上山地	7.85	10.21	2.11	174.8	大洞 C2	古生代
	1213	128	90	西	3B7	II b3 層	剥片	頁岩	北上山地	7.92	6.66	1.75	74.3	大洞 C2	古生代
接合資料 6	1214	128	90	西	3B7	II b3 層	剥片	頁岩	北上山地	5.57	9.95	2.13	97.3	大洞 C2	古生代
		129	90				-	-	-	4.70	5.74	1.41	26.4	大洞 C2	
	1215	129	90	西	3C16 (NR03)	II b 層上位	剥片	頁岩	北上山地	4.66	3.97	1.39	23.2	大洞 C2	古生代
	1216	129	90	西	3C16 (NR03)	II b 層上位	剥片	頁岩	北上山地	2.16	2.78	0.49	3.2	大洞 C2	古生代
接合資料 7		129	90				-	-	-	4.39	5.04	1.72	28.8	晩期後半	
	1217	129	90	西	4B15	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	3.12	3.41	0.87	9.4	晩期後半	古生代
	1218	129	90	西	4B8	II b 層上部	剥片	頁岩	北上山地	4.23	4.85	1.22	19.4	晩期後半	古生代
接合資料 8		-	90				-	-	-					大洞 C2	
	1219	-	90	西	3A21 ベルト	II b1 層	剥片	頁岩	北上山地	0.99	4.06	0.89	6.2	大洞 C2	古生代
	1220	-	91	西	3A13 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	9.99	5.34	3.36	208.4	大洞 C2	古生代
	1221	-	90	西	2A20 ベルト	II b 層上部	剥片	頁岩	北上山地	3.47	4.41	1.62	21.3	大洞 C2	古生代
	1222	-	90	西	3A13 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	4.20	2.76	1.06	11.2	大洞 C2	古生代
接合資料 9		-	91				-	-	-					大洞 C2	
	1223	-	91	西	3A22	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	5.99	11.61	2.62	137.1	大洞 C2	古生代
	1224	-	91	西	3A13 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	2.47	5.10	1.31	17.3	大洞 C2	古生代
	1225	-	91	西	2A20	砂礫 3 層	剥片	頁岩	北上山地	3.14	3.58	2.86	37.7	大洞 C2	古生代
	1226	-	91	西	3A13 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	5.96	4.86	3.54	164.3	大洞 C2	古生代
接合資料 10		-	91				-	-	-					大洞 C2	
	1227	-	91	西	3A13 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	1.60	4.49	1.55	10.3	大洞 C2	古生代
	1228	-	91	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	3.41	6.94	1.29	27.7	大洞 C2	古生代
	1229	-	91	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	4.42	1.44	0.87	5.5	大洞 C2	古生代
接合資料 11		-	91				-	-	-					大洞 C2	
	1230	-	91	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	3.49	7.45	1.43	41.4	大洞 C2	古生代
	1231	-	91	西	3A21 ベルト	II b 層	剥片	頁岩	北上山地	7.64	9.73	2.93	219.7	大洞 C2	古生代



第23表 石核観察表 (1232 ~ 1237)

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	分類	石材	計測値				推定時期	備考	登録No
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1232	126	89	西	3B2	II b2層	I	頁岩	12.82	12.60	8.07	1375.0	大洞 C2	古~中生代	2027
1233	129	92	西	2B19	砂礫3層上部砂層	I	頁岩	7.41	6.61	5.05	302.2	晩期後半	古生代	2189
1234	129	92	西	2B10・15	砂礫3層上部砂層	II	頁岩	7.25	7.00	7.52	469.9	晩期後半	古生代	2181
1235	130	92	西	2A25	II b層	I	デイサイト	8.33	14.92	13.49	2152.0	大洞 C2	中生代白亜紀	2161
1236	130	92	西	3B2	II b2層	I	頁岩	6.68	11.60	10.78	1141.9	大洞 C2	古~中生代、敲打痕有り	2029
1237	131	92	西	3A13	砂礫3層	I	頁岩	14.81	22.80	16.15	5800.0	晩期後半	古生代	2177

第24表 剥片・チップ観察表 (1238 ~ 1244)

掲載No	写図No	出土地点		層位	石材	個数	重量(g)	推定時期	備考	登録No
		区	位置(グリッド)							
1238	92	西	2B15チップ集積	II b2層	頁岩	1231	166	大洞 C2		チップ1
1239	92	西	2B15チップ集積	II b2層	頁岩	1439	30.7	大洞 C2		チップ2
1240	93	西	2B15チップ集積	II b2層	頁岩	834	27.1	大洞 C2		チップ3
1241	93	西	2B15チップ集積	II b2層	珪質頁岩	336	8.9	大洞 C2		チップ4
1242	93	西	2B15チップ集積	II b2層	頁岩	564	19.8	大洞 C2		チップ5-6
1243	93	西	2B15チップ集積	II b2層	頁岩	127	1.1	大洞 C2		チップ8
1244	93	西	2B15チップ集積	II b2層	頁岩	3667	98.6	大洞 C2		チップ7

第25表 石斧類観察表 (1245 ~ 1251)

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	分類	石材	計測値				欠損	自然面	推定時期	備考	登録No	
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	基部幅						刃部幅
1245	132	93	西	2F5 (NR01)	砂礫2層	I	頁岩	5.87	4.12	1.26	1.86	4.11	47.3	無	晩期か	付着物有り、古生代	2192
1246	132	93	西	6C23	II b層	I	頁岩	(9.34)	4.29	2.74	-	4.15	170.1	無	晩期後半	古生代	2193
1247	132	93	西	6D9	II a層下半	I	頁岩	11.99	4.68	2.47	0.67	4.55	188.5	無	晩期後半	古生代	2194
1248	132	93	西	2B20	II b2層	II A	頁岩	(8.30)	6.34	3.53	-	6.34	205.5	無	大洞 C2	古~中生代	2036
1249	132	93	西	2F2	砂礫2層	II A	頁岩	(9.12)	7.07	3.05	-	7.23	217.6	無	晩期後半	古生代	2198
1250	132	93	西	5E25 (NR04古)	砂礫4層	II A	頁岩	(12.37)	(8.30)	2.24	6.67	-	230.3	無	後期初頭~中葉	古生代	2202
1251	132	94	西	2B4	砂礫3層	II B	頁岩	14.06	6.96	2.87	6.92	6.96	409.0	有	晩期後半	古生代	2203

( ) : 残存値

第26表 礫器類観察表 (1252 ~ 1255)

掲載No	登録No	図版No	写図No	出土地点		層位	分類	石材	計測値				特徴	推定時期	備考	登録No
				区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1252	2037	133	94	西	3B22	II b層下部	I類	頁岩	8.46	7.85	2.75	193.5	全周する剝離	晩期後半	古~中生代	2037
1253	2204	133	94	西	2A13	砂礫3層	I類	砂岩	10.85	11.27	3.30	523.7	全周する剝離	晩期後半	古生代	2204
1254	2038	133	94	西	4B8	II b層上部	II類	頁岩	9.03	12.89	2.69	328.8		晩期後半	画、古~中生代	2038
1255	2211	133	94	西	3D12 (NR04)	砂礫4層	II類	頁岩	18.48	10.22	4.83	1138.5		後期初頭~中葉	古生代	2211

第27表 敲磨器類観察表 (15・1256～1264)

( ) : 残存値

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	器種	分類	石材	計測値			機能部						推定時期	備考	登録No			
			区	位置(グリッド)					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ/幅	厚さ/幅	重量(g)	正面	側面	底部				凹部		
15	40	37	東	SI07 P2	埋土	磨石	II	花崗閃緑岩	14.40	8.95	5.60	1.61	0.63	1142.9	1						中期後葉	中生代白亜紀	2040
1266	133	94	西	3B16	II b層	敲石	I	花崗閃緑岩	5.77	4.07	3.84	1.42	0.94	129.8		2					大洞 C2	中生代白亜紀	2039
1257	133	94	西	2A7	砂礫2層	敲石	I	砂岩	11.14	6.57	4.83	1.70	0.74	483.8		1					晩期後半		2213
1258	133	94	西	2B10	II b1層	磨石	II	花崗閃緑岩	12.96	10.07	6.43	1.29	0.64	1225.2	1						大洞 C2	中生代白亜紀	2042
1259	133	94	西	4D14	II b層	凹石	III	安山岩	9.67	9.10	3.73	1.06	0.41	393.0						1	晩期後半	中生代白亜紀?	2045
1260	133	94	西	T5e (4C区)	II b層	凹石	III	砂岩	16.96	8.35	4.08	2.03	0.49	565.2						2	晩期後半	中生代古生代	2046
1261	134	94	西	2B25	砂礫3層	凹石	III	蛇紋岩	(16.54)	7.67	2.48	-	0.32	(360.7)						5	晩期後半	古生代オルドビス紀	2231
1262	134	94	西	4B5 (NR06)	砂礫6層上部砂層	凹石	III	凝灰岩	12.22	7.30	3.26	1.67	0.45	331.7						2	前期初頭～中期後葉	中生代白亜紀	2234
1263	134	94	西	2B4	砂礫3層上部砂層	磨+敲石	IV	閃緑岩	10.78	7.28	4.85	1.48	0.67	642.3	1					1	晩期後半	中生代白亜紀	2236
1264	134	94	西	3B19	砂礫4層上部砂層	敲+凹石	V	凝灰岩	15.55	5.91	4.63	2.63	0.78	661.8						2	後期初頭～中葉	中生代白亜紀・凝石層	2050

第28表 台石類観察表 (1265～1267)

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	石材	計測値			特徴		推定時期	備考	登録No
			区	位置(グリッド)			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1265	134	95	西	3A24-ベルト	II b層下部	溶結凝灰岩	18.22	11.54	2.94	1124.3	正面擦痕	晩期後半	中生代白亜紀	2246
1266	134	95	西	3A21-ベルト	II b2層	凝灰岩	25.65	17.02	5.38	3496.8	正面擦痕	大洞 C2	中生代白亜紀	2244
1267	134	95	西	3A21-ベルト	II b2層	珧岩	24.85	20.57	4.71	3065.7	正面擦痕	大洞 C2	中生代白亜紀	2245

第29表 石製品観察表 (1268～1270)

( ) : 残存値

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	器種	石材	計測値			特徴		推定時期	備考	登録No
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1268	135	95	西	1E15	砂礫2層	石棒類	凝灰岩	(18.73)	(2.78)	(1.20)	182.0	右頭・基部・端部削欠損	晩期後半か	古生代	3116
1269	135	95	西	2F12	砂礫1層	石棒類	ホルンフェルス	(19.76)	3.38	1.40	99.4	端部削欠損	晩期か	古生代・変成は白亜紀	3117
1270	135	95	西	3A24-ベルト	II b層上面	不明石製品	アブライト	13.10	15.81	10.04	2463.2	凸部作出、紐掛付痕跡か	大洞 C2	中生代白亜紀	3120

第30表 木製品観察表 (1271)

掲載No	図版No	写図No	出土地点		層位	器種	樹種	計測値			推定時期	備考	登録No	
			区	位置(グリッド)				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)				重量(g)
1271		95	西	3D12・13 (NR04)	砂礫4層直上	建築部材	サクラ属	176.5	13.0	8.5	-	後期初頭～中葉	年代測定 新田II-24	6001

第31表 平安時代の土器観察表 (1272 ~ 1302)

掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	残存位置	残存率 (%)		計測値 (cm)			成形	外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	備考	登録No
						内訳数	総数				口縁	底部	口径	底径	器高						
1272	136	96	西 SD01 (3C区)		堆積土中	1	1	土師器	坏	底	-	25	-	-	(1.1)	ロクロ	底：ヘラミガキ・黒色処理	密		884	
1273	136	96	西 SD03		堆積土中	1	1	土師器	坏	体下半～底	-	25	-	<5.4>	(3.5)	ロクロ	体下半：ヘラケズリ、底：回転糸切り	密		885	
1274	136	96	西 SD03 (6E～F区)		堆積土中	1	1	土師器	坏	体下半～底	-	40	-	<4.8>	(2.0)	ロクロ	体下半：ハケメ、底：ヘラケズリ	密		886	
1275	136	96	西 SD03		堆積土中	1	1	土師器	長胴甕	口縁	-	-	-	-	(6.8)	ロクロ		粗		887	
1276	136	96	西 SD09 (6C区)		I～II a層	3	5	土師器	長胴甕	体下半～底	0	60	-	<7.0>	(6.9)	ロクロ	体～底：ヘラケズリ	粗		876	
1277	136	96	西 SD09 (6C区)		II a層上半 II a層	1	2	須恵器	大甕	体上半	0	0	-	-	(9.5)	ロクロ	体：タタキメ、自然釉・焼け膨れ	密		879	
1278	136	96	西 SD09 (6C区)		I～II a層	1	1	須恵器	大甕	体	-	-	-	-	(7.2)	ロクロ	体：ナデ	密		877	
1279	136	96	西 SD09 (6D区)		I～II a層	1	1	須恵器	大甕	体	-	-	-	-	(10.1)	ロクロ	体：ナデ	密		882	
1280	136	96	西 SD09 (6D区)		I～II a層	1	1	須恵器	大甕	体	-	-	-	-	(5.6)	ロクロ	体：ナデ	密		883	
1281	136	96	西 2E10(NR01)		砂礫1層	1	1	土師器	坏	体下半～底	0	50	-	6.1	(4.0)	ロクロ	体～底：ヘラケズリ、指頭痕	密		861	
1282	136	96	西 3B11 西 3B17 西 3B12		II a層 II a層 II a層	1 1 1	3	土師器	坏	体下半～底	0	100	-	5.8	(1.8)	ロクロ	底：回転糸切り・ヘラケズリ	密		865	
1283	136	96	西 5C14		II a層(水田)	1	1	土師器	坏	口縁～底	15	10	<13.2>	<5.6>	5.2	ロクロ	口縁～底：ヘラミガキ・黒色処理	密		871	
1284	136	96	西 H23排土場			1	1	土師器	坏	体下半～底	-	35	-	<4.2>	(1.5)	ロクロ	体下半：ヘラケズリ、底：回転糸切り	密		893	
1285	136	96	西 3E2		II a層	1	1	土師器	坏	体下半～底	0	100	-	6.7	(3.0)	ロクロ	底：回転糸切り	密		863	
1286	136	96	西 3E2		II a層	5	5	土師器	坏	口縁～底	35	35	<14.2>	<7.2>	4.3	ロクロ	底：回転糸切り、穿孔1箇所	密		864	
1287	137	96	西 5B22		II a層	3	3	土師器	坏	口縁～底	10	45	<14.6>	<6.0>	5.3	ロクロ	口縁～底：ヘラミガキ・黒色処理	密		867	
1288	137	96	西 6C17		II a層	1	1	土師器	坏	口縁	5	-	-	-	(2.8)	ロクロ	口縁～体：ヘラミガキ・黒色処理	密		873	
1289	137	96	西 6C25		II a層上半	2	2	土師器	坏	体～底	0	75	-	<7.1>	(3.2)	ロクロ	体～底：ヘラミガキ・黒色処理	密		874	

( ) : 残存値・< > : 推定値



掲載No	図版No	写真No	区	出土地点	層位	接合破片数		種類	器種	残存位置	残存率(%)		計測値(cm)			成形	外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	備考	登録No
						内訳数	総数				口縁	底部	口径	底径	器高						
1290	137	96	西	北端トレンチ	I層	1	1	土師器	環	口縁～底	10	10	<14.4>	<12.0>	3.0	底：ナデ		密	近世以降か	890	
1291	137	96	西	5C7	II a層 (水田)	2	2	土師器	環	口縁～底	10	40	<13.2>	<7.3>	4.7	底：回転糸切り		密		870	
1292	137	96	西	6C～D区	II a層	1	1	土師器	環	口縁～底	10	30	<12.0>	<6.4>	4.5			密		888	
1293	137	96	西	2～4C区	II a層	1	1	土師器	高台坏か	口縁～体上半	20	-	<12.6>	-	(3.1)			密		889	
1294	137	96	西	5C2	II a層	1	1	土師器	高台坏	底	0	5	-	<7.6>	(3.0)	底：回転糸切り		密		869	
1295	137	96	西	3A23ベルト	II a層	8	8	土師器	甕	口縁～体	15	0	<13.4>	-	(7.1)			粗		862	
1296	137	96	西	6D4 6D4 6D5 6D4	II a層 II a層 II a層 II a層下半	7 3 1	11	土師器	甕	口縁～体下半	30	0	<16.8>	-	(17.2)	口縁：ヨコナデ、体：ヘラケズリ	口縁～体：ハケメ・黒色処理	粗		878	
1297	137	96	西	6D10	II a層上半	1	1	土師器	球胴甕	体上半	0	0	-	-	(5.1)			密		881	
1298	137	96	西	4D区	II a層上部	1	1	土師器	長胴甕	口縁	5	0	-	-	(4.8)	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ、体：ハケメ	粗		868	
1299	137	96	西	6D9	II a層上半	4	4	土師器	長胴甕	口縁	35	0	<14.6>	-	(5.8)	体：ヘラケズリ、指頭痕	体：ヘラナデ	粗		880	
1300	137	96	西	5C13	II a層 (水田)	1	1	須恵器	大甕	体	-	-	-	-	(8.2)	体：タタキメ	体：ナデ・焼け膨れ	密		872	
1301	137	96	西	A～C区	II a層上面	1	1	須恵器	大甕	体	-	-	-	-	(10.9)	体：タタキメ	体：ナデ	密		891	
1302	137	96	西	A～C区	II a層上面	1	1	須恵器	大甕	体	-	-	-	-	(7.2)	体：タタキメ	体：ナデ	密		892	

第32表 昆虫観察表 (1303～1315)

掲載No	写真No	出土地点・遺構名	層位	種類	片数	特徴	推定時期	備考	登録No
1303	97	2A25	II b5層	アカスジキンカメムシ 他	4	前胸背板	大洞 C2		昆虫 1
1304	97	2B5	II b5層	キタカブリ	1	前胸背板か	大洞 C2		昆虫 2
1305	97	2B10	II b層最下層	ヒラタゴミムシ類の一種	2	左前翅基部	大洞 C2		昆虫 3
1306	97	2B15	II b3層	カメムシ目の一種	2	腹板の一部	大洞 C2		昆虫 4
1307	97	3A17	II b層下部層・泥炭層	コガタリハムシ	1	右前翅基部	大洞 C2		昆虫 5
1308	97	3B1	II b3層	カメムシ目の一種	1	腹板の一部	大洞 C2		昆虫 6
1309	97	3B1 ベルト	II b5層	アカスジキンカメムシ	1	小楯板	大洞 C2		昆虫 7
1310	97	3B1 ベルト	II b3層	アオカナブン 他	11	各種	大洞 C2		昆虫 8
1311	97	3B11 ベルト	II b5層	アオカナブン 他	5	各種	大洞 C2		昆虫 9
1312	97	3C24 (NR04)	IV層	アオゴミムシ属の一種	2	各種	後期初頭～中葉		昆虫 10
1313	97	3C24 (NR04)	IV層最下部	センチコガネ	1	右後脚	後期初頭～中葉		昆虫 11
1314	97	4C9 (NR05)	10層 (IV層下部)	コウチュウ目の一種	4	腹部の一部	後期初頭		昆虫 12
1315	97	4C24 (NR04)	IV層	コガタリハムシ・クロオオアリ	3	各種	後期初頭		昆虫 13

第33表 焼骨観察表 (1316～1326)

掲載No	写真No	出土地点・遺構名	層位	種類	重量 (g)	推定時期	備考	登録No
1316	97	2B5	II b層下部	不明	5.5	大洞 C2		骨 1
1317	97	2B20	II b2層	不明	2.4	大洞 C2		骨 2
1318	98	2B25	II b2層	不明	1.6	大洞 C2		骨 3
1319	98	3A22 ベルト	II b4層	不明	2.6	大洞 C2		骨 4
1320	98	3A24 ベルト	II b層下部	不明	0.3	大洞 C2		骨 5
1321	98	3B7	II b3層	不明	0.8	大洞 C2		骨 6
1322	98	3B7	II b4層	不明	3.6	大洞 C2		骨 7
1323	98	3B16 ベルト	II b4層	不明	1.3	大洞 C2		骨 8
1324	98	3B21 ベルト	II b4層	不明	0.3	大洞 C2		骨 9
1325	98	3C1	II b層下部	不明	3.6	大洞 C2		骨 10
1326	98	4B24	IV層下位	不明	0.2	後期初頭		骨 11

第34表 樹木サンプル観察表 (1271・1327～1374)

掲載No	写真No	出土地点・遺構名	層位	特徴	樹種	年代測定	推定時期	備考	登録No
1271	95	3D12・13 (NR04)	砂礫 4層直上	建築部材	サクラ属	新田 II -24	後期中葉		6001
1327	98	2A25～2B5	砂礫 3層		クマシデ節		晩期後半		2
1328	98	2A25～2B5	砂礫 3層		クマシデ節		晩期後半		3
1329	98	2B14	砂礫 3層		トネリコ属		晩期後半		13
1330	98	2B14	砂礫 3層		カエデ属		晩期後半		15
1331	98	2C15 (NR03)	III層		トネリコ属		後期初頭～中葉		123
1332	98	2C20 (NR03)	III層		コナラ節		後期初頭～中葉		126
1333	98	2C25 (NR03)	III層		コナラ節	新田 II -28	後期初頭～中葉		119
1334	98	2D4 (NR02)	III層		ナシ亜科	新田 II -29	後期初頭～中葉		120
1335	98	2D9 (NR02)	III層		カツラ		後期初頭～中葉		124
1336	98	2D9 (NR02)	III層		ナシ亜科		後期初頭～中葉		128
1337	98	2D15 (NR02)	III層		コナラ節		後期初頭～中葉		132
1338	98	2D区 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		カエデ属		平安時代か		138
1339	98	2D区 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		ヤナギ属		平安時代か		140
1340	98	2D区 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		トネリコ属		平安時代か		141
1341	98	2D区 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		トネリコ属		平安時代か		144
1342	98	2D区 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		カツラ		平安時代か		146
1343	98	2D区 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		トネリコ属		平安時代か		148
1344	98	3B1	II b3層		クマシデ節		大洞 C2		21
1345	98	3B1	II b3層	根材	トネリコ属		大洞 C2		22
1346	98	3B1	II b3層	根材	トネリコ属		大洞 C2		23
1347	98	3B1	II b3層	根材	トネリコ属		大洞 C2		24
1348	98	3B1	II b3層	根材	トネリコ属		大洞 C2		25
1349	99	3B1	II b3層	根材	トネリコ属		大洞 C2		26
1350	99	3B2・7	II b5層		ニレ属		大洞 C2		29
1351	99	3B7	II b5層		トチノキ属		大洞 C2		30
1352	99	3B13 付近	IV層		クマシデ節		後期初頭～中葉		37
1353	99	3B13 付近	IV層		ナシ亜科		後期初頭～中葉		38
1354	99	3B13 付近	IV層		コナラ属		後期初頭～中葉		39
1355	99	3C11 (NR03)	III層		トチノキ		後期初頭～中葉		134
1356	99	3C11 (NR03)	III層		カエデ属		後期初頭～中葉		135
1357	99	3C22 (NR04)	IV層		ヤナギ属		後期初頭～中葉		150
1358	99	3C22 (NR04)	IV層		ヤナギ属	新田 II -30	後期初頭～中葉		151
1359	99	3C22・23・4C2・3 (NR04)	IV層		ケンボナシ属		後期初頭		40
1360	99	3C22・23・4C2・3 (NR04)	IV層		コナラ属		後期初頭		42
1361	99	3C23・24・4C3・4 (NR04)	IV層		ニレ属		後期初頭～中葉		155
1362	99	3C23・24・4C3・4 (NR04)	IV層		カエデ属		後期初頭～中葉		157
1363	99	3D7	IV層		コナラ節		後期初頭～中葉		4
1364	99	3D7	IV層		コナラ節		後期初頭～中葉		5
1365	99	3D8	IV層		ミズキ	新田 II -3	後期初頭～中葉		6
1366	99	3F12～19 (NR01)	砂礫 2層上部砂層		アサダ		平安時代か		162
1367	99	3F区 (NR01)	泥炭層		トネリコ属	新田 II -31	平安時代か		163
1368	99	4B23・24 (NR05)	10層 (IV層下部)		クリ	新田 II -25	後期初頭		27
1369	99	SX01 (4C9)	IV層下部	根材	ケンボナシ属	新田 II -26	後期初頭		67
1370	99	SX01 (4C9)	IV層下部	根材	ケンボナシ属		後期初頭		69
1371	99	SX01 (4C9)	IV層下部	根材	ケンボナシ属		後期初頭		79
1372	99	SX01 (4C9)	IV層下部		オニグルミ		後期初頭		96
1373	99	SX01 (4C9)	IV層下部		ケンボナシ属	新田 II -27	後期初頭		102
1374	99	SX01 (4C9)	IV層下部		ケンボナシ属		後期初頭		108













第36表 クリ観察表 (1393～1398)

掲載No	登録No	写真No	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	1個あたりの大きさ		完形	カケ (一部欠損)		1/2以上	備考	
						長さ (cm)	幅 (cm)		個	重量 (g)			個
不掲載	1		2A17	砂礫2層	2.3	1.8	2.0	1	2.3			晩期後半～平安時代	
不掲載	2		2A25	II b層	4.6	1.9	1.6	1	1.6			晩期後半	
不掲載	3		2B1	砂礫1層	0.6							平安中期～現代	
不掲載	4		2B12	砂礫1層	0.1							平安中期～現代	
不掲載	70		2B14	II b2層	0.4							大洞 C2	
不掲載	5		2B14・15	砂礫3層	0.5							晩期後半	
不掲載	6		2B15	II b層最下層	0.9					1	0.8	大洞 C2	
不掲載	71		2E20	II b2層	0.6							大洞 C2	
不掲載	8		2E20(NR03)	II b3層	3.5							大洞 C2	
不掲載	9		2E20	II b5層	0.2							大洞 C2	
不掲載	10		2E20	II b層最下層	0.8							大洞 C2	
不掲載	11		2C15(NR03下部)	II b層	0.1							大洞 C2	
不掲載	12		2D4 マイメント (NR02)	砂礫4層	1.4					1	1.0	後期初頭～中葉	
不掲載	13		2D16(NR01)	西端8層	1.3							晩期後半～平安時代	
不掲載	14		2D17(NR01下部)	西端8層	1.3							晩期後半～平安時代	
不掲載	15		2D22(NR01下部)	西端6層	0.4							晩期後半～平安時代	
不掲載	16		2E7(NR01)	埋土上位 黒泥炭層	1.7	2.0	1.9	1	1.7			平安時代	
不掲載	17		2E18(NR01)	埋土上位 黒泥炭層	0.5							平安時代	
不掲載	18		2F8	砂礫1層	0.6					1	0.6	平安中期～現代	
不掲載	19		2F10(NR01)	砂礫1層	1.0					1	1.0	平安中期～現代	
不掲載	20		2C9	砂礫1層	0.9	2.3	2.2			1	0.9	平安中期～現代	
不掲載	21		3A23	II b層下 (40・42層)	0.9							晩期後半	
1393	22												
23		100	3B1	II b3層	128	3.5	3.9			1	3.4	大洞 C2	
24													
不掲載	25		3B1	II b3-4層間砂層	0.4							大洞 C2	
28													
不掲載	29		3E1 ベルト	II b5層 (18-19-20層)	9.1					1	2.9	大洞 C2	
26			3E2	II b3-4層間砂層	5.8							大洞 C2	
1394	27	100	3E2	II b5層	16.2					1	0.9	大洞 C2	
不掲載	72		3E2-7	II b5層	0.3							大洞 C2	
不掲載	43		3E24 ベルト	砂礫4層	0.3							後期初頭～中葉	
不掲載	30		3E3	II b5層	4.4							大洞 C2	
不掲載	31		3E3	II b層最下層	0.4							大洞 C2	
不掲載	32		3E3	砂礫3層	2.4							晩期後半	
不掲載	33		3E6 ベルト	II b3層	20						1	0.7	大洞 C2
不掲載	34												
不掲載	35		3E6 ベルト	II b5層 (18～20層)	2.1	2.7	2.6			1	2.1	大洞 C2	
不掲載	36		3E7	II b5層	3.7							大洞 C2	

掲載No	登録No	写真No	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	1個あたりの大きさ		完形		カケ (一部欠損)		1/2以上		推定時期	備考
						長さ (cm)	幅 (cm)	個	重量 (g)	個	重量 (g)	個	重量 (g)		
不掲載	37		3B11 ベルト	II b3層	16								大洞 C2		
不掲載	38		3B11 ベルト	II b4層	0.4								大洞 C2		
不掲載	39		3B11 ベルト	II b5層	0.0								大洞 C2		
不掲載	40		3B12	IV層	0.0								後期初頭		
不掲載	41		3B16 ベルト	II b5層?	0.0								大洞 C2		
不掲載	42		3B19(NR04・05)	10層 (IV層)	0.2								後期初頭		
不掲載	44		3C7(NR03)	IV層?	0.3								後期初頭		
不掲載	45		3C12(NR03)	IV層	0.9								後期初頭		
1395	46	100	3C13(NR04)	IV層下部	13.7						1	1.2	後期初頭		
不掲載	48		3C19(NR04)	II b5層 (18層)	0.2								大洞 C2		
1396	47	101	3C19 ベルト	III層下部	177.5	2.8	2.8			9	8.3	20	25.8	後期初頭～中葉	
	50					1.6	2.0								
	74					3.2	3.3								
1397	75	101	3C24(NR04)	IV層	1356.3			1	2.1	37	86.8	118	182.0	後期初頭	細片
	49					3.1	3.4								
	51					2.7	2.7								
	76														
不掲載	52		3C25 マイペンベルト (NR04)	IV層	2.5							1	0.9	後期初頭	
不掲載	53		3F12(NR01)	埋土上部泥炭層	2.2									平安時代	
不掲載	54		3F17(NR01)	泥炭層	0.6									平安時代	
不掲載	55		3F22(NR01)	埋土上位 黒泥炭層	1.9					1	1.9			平安時代	
不掲載	56		3F 区 (NR01)	埋土上位 砂層	0.7									平安時代	
不掲載	57		4B10(NR06)	10層 (IV層)	1.3									中期後葉～後期初頭	
不掲載	58														
不掲載	68		4B14・15(NR06)	10層 (IV層下部)	4	2.0	2.3			1	1.4			中期後葉～後期初頭	
不掲載	59														
不掲載	60		4B15(NR06)	砂礫6層	5.7									中期後葉	
不掲載	61		4B23・24(NR05)	10層 (IV層下部)	3.5									中期後葉～後期初頭	
不掲載	62		4B25 北側中央ベルト (NR05)	IV層下部	0.2									中期後葉～後期初頭	
不掲載	63		4C5(NR05)	10層 (IV層)	1.4									中期後葉～後期初頭	
不掲載	64														
不掲載	65		4C9(NR05)	10層 (IV層下部)	3.1							1	0.9	中期後葉～後期初頭	
不掲載	78														
1398	66	101	4C24(NR04)	IV層	118.8					5	18.9	27	41.7	後期初頭	
不掲載	69		4D2(NR05)	10層 (IV層下部)	0.2									中期後葉～後期初頭	
不掲載	67		5C1(NR05)	IV層下部	1.3	1.7	2.0			1	1.3			中期後葉～後期初頭	
不掲載	73		SX01	IV層下部	0.5									中期後葉～後期初頭	

第 37 表 トチノキ観察表 (1399 ~ 1412)

掲載No	登録No	写真No	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	発芽孔数 (個体数)	特徴	1個あたりの大きさ		完形		カケ (一部欠損)		1/2以上		1/2未満		推定時期	備考
								長さ (cm)	幅 (cm)	個	重量 (g)	個	重量 (g)	個	重量 (g)	個	重量 (g)		
不掲載	1	1D14		砂礫1層	1.6	0								1	0.8	0.8	平安中期～現代		
不掲載	2	1D25		砂礫1層	3.2	1		28	3.0					1	1.5	1.7	平安中期～現代		
不掲載	3	1E10		砂礫1層	3.7	1											平安中期～現代	ほか外皮4.8g	
不掲載	4	1E19		砂礫1層	28.4	2		30	2.8					1	3.3	19.6	平安中期～現代		
不掲載	5	1E20		砂礫1層	-	0											平安中期～現代	外皮のみ9.5g	
不掲載	6	2A8		砂礫3層	-	0											平安中期～現代	外皮のみ5.4g	
不掲載	7	2A14		砂礫3層	1.1	0											後期中葉～晩期後半		
不掲載	8	2A18		砂礫2層	99.7	2		3.1	2.8	17.3				4	10.1	68.6	後期中葉～晩期後半		
不掲載	9	2A20		II b 層下部	4.1	0		2.8	3.3					1	2.8	1.3	晩期後半		
不掲載	10	2A21		砂礫1層	28.0	13								7	11.9	226.1	平安中期～現代	ほか外皮46.4g	
不掲載	11	1399		II b5 層													大洞C2		
不掲載	12	2B1		砂礫1層	36.9	0		2.5	3.2	12.7				2	9.0	9.8	平安中期～現代	ほか外皮20.9g	
不掲載	13	2B2		砂礫1層	2.6	0		3.1	3.3					1	2.6	0.0	平安中期～現代		
不掲載	14	2B3		砂礫1層	71.4	6								1	2.6	67.1	大洞C2	ほか外皮11.8g	
不掲載	15	2B5		II b5 層	0.7	0											大洞C2		
不掲載	16	2B5		砂礫3層	21.4	1		2.4	2.6	7.2				2	7.1	7.1	後期中葉～晩期後半		
不掲載	17	2B5		砂礫1層	21.4	1		2.5	2.6					1	1.0	0.0	平安中期～現代	ほか外皮11.3g	
不掲載	18	2B6		II b 層下部	1.3												晩期後半		
不掲載	19	2B8		II b 層下部	46.4	4											大洞C2		
不掲載	20	2B10		II b 層下部	14.2	0								4	8.7	37.7	大洞C2		
不掲載	21	2B10		砂礫3層	14.8	0								2	4.5	9.7	大洞C2		
不掲載	22	2B12		砂礫1層	21.5	7								2	3.6	6.2	晩期後半	ほか外皮4.2g	
不掲載	23	2B14		II b2 層	22.8	4								1	2.6	19.9	平安中期～現代		
不掲載	24	2B14		砂礫3層	30.8	3								2	1.6	20.2	大洞C2	ほか外皮0.5g	
不掲載	25	2B14-15		砂礫3層	46.5	27								1	2.6	20.7	後期中葉～晩期後半		
不掲載	26	27												6	10.1	20.7	後期中葉～晩期後半	ほか外皮7.3g	
不掲載	27	284																	
不掲載	28	285		II b2 層	82.2	10								3	3.1	43.4	大洞C2	ほか外皮2.0g、炭化1個0.8g	
不掲載	29	286		II b3 層	0.5	0		3.3	4.0					3	8.4	7.8	大洞C2	ほか外皮2.7g	
不掲載	30	287		II b 層	88.3	7											大洞C2		
不掲載	31	2B15		II b 層	9.9	4		2.1	2.5	6.8				2	3.8	5.7	大洞C2	ほか外皮5.0g	
不掲載	32	2B19		II b 層最下層	0.7	0		3.4	4.2					1	1.0	8.9	大洞C2	ほか外皮0.2g	
不掲載	33	2B19-20		砂礫3層	2.6	2								1	0.7	0.7	大洞C2		
不掲載	34	2B20		上部砂礫	9.4	0											晩期後半	ほか外皮0.1g	
不掲載	35	2B20		II b 層下部	0.6			2.8	2.9					2	7.8	0.0	晩期後半	ほか外皮2.0g	
不掲載	36	2B20		II b2 層													大洞C2	炭化種子破片、炭化種皮破片	
不掲載	37	101		II b3 層	536.8	227											大洞C2		
不掲載	38	2B20		II b5 層	81.1	2											大洞C2	35㉓-㉔・36㉓-㉔合算	
不掲載	39	2B20		II b 層下部	42.3	2											大洞C2	ほか外皮1.2g	
不掲載	40	2B23		砂礫3層	6.5	1		3.2	3.7					1	5.8	42.3	大洞C2	ほか外皮0.3g	
不掲載	41	2B24		砂礫3層	3.4	0											晩期後半		
不掲載	42	2C10		IV層下部	2.6	0											晩期後半		
不掲載	43	2C12		砂礫3層	2.6	0											後期初頭		
不掲載	44	2C15(NR03)		II b 層	23.3	1		2.3	2.3					1	2.6	0.0	晩期後半		
不掲載	45	2C15(NR03)		IV層下部	4.9	0											晩期後半	ほか外皮5.7g	
不掲載	46	2C17		砂礫3層	13.3	0		3.2	3.5					1	2.8	2.1	後期初頭		
不掲載	47	2C20(NR03)		II b 層下部	2.9	0		2.5	2.9					2	7.9	5.4	晩期後半		
不掲載	48	2C23		砂礫3層	5.5	0		2.8	2.7								晩期後半		
不掲載	49	2C24(NR02)		II b 層	1.8	0								1	2.4	3.1	晩期後半	ほか外皮4.3g	
不掲載	50	2D1		砂礫3層	-	0											晩期後半		
不掲載	51	2D2		メイン15層灰オリーブ 粗砂	2.8	0											晩期後半	外皮のみ3.3g	
不掲載	52	2D7(NR01)		西端5層	1.8	0		2.4	2.5					1	1.7	0.8	晩期後半		
不掲載	53	2D12(NR01)		西端6層	25.3	1		1.8	2.2	16.4				1	2.5	0.1	平安中期～現代	ほか外皮5.3g	
不掲載	54	2D16(NR01)		II b 層	0.8	0		1.9	2.2					1	1.5	4.9	平安中期～現代	ほか外皮10.2g	
不掲載	55	2D16(NR01)		II b 層													晩期後半	ほか外皮4.7g	



掲載No	登録No	写真No	出土地点・遺構名	層位	重量(g)	発芽孔数 (個体数)	特徴	1個あたりの大きさ		形状		カケ(一部欠損)		1/2以上		1/2未満 重量(g)	推定時期	備考
								長さ(cm)	幅(cm)	個	重量(g)	個	重量(g)	個	重量(g)			
不掲載	56		2D16(NR01)	西端8層	732	1		3.1 2.4	3.3 2.7	3	37.5	4	109	3	60	188	平安中期～現代	ほか外皮380g
不掲載	58 229		2D17(NR01)	西端8層	760	0		28 30 33	3.2 3.0 3.0	1	14.5	4	17.7	7	17.9	25.9	平安中期～現代	ほか外皮231g
不掲載	59		2D18(NR02)	埋土	12.7	0		3.1 2.9 2.3	3.1 3.4 2.4			3	12.5			0.2	晩期後半～平安時代	
不掲載	60		2D21(NR01)	西端7層	0.9	0		2.3	3.6			2	9.6	1	1.1	0.9	平安中期～現代	ほか外皮0.8g
不掲載	61		2D21(NR01)	西端8層	0.9	0		2.4	3.0			2	9.6	1	1.1	0.9	平安中期～現代	ほか外皮0.8g
不掲載	62		2D22(NR01)	西端6層	17.4	2		2.3 2.4	3.6 3.0			2	9.6	1	1.1	0.7	平安中期～現代	ほか外皮6.4g
不掲載	64		2E2(NR01)	泥炭層	1.0	1										1.0	平安中期～現代	
不掲載	63		2E2(NR01)	埋上位(黒泥炭層)	16.9	0		2.2	2.6							16.9	平安中期～現代	ほか外皮3.5g
不掲載	65		2E2(NR01)	泥炭層	4.0	0		1.5	1.7							4.0	平安中期～現代	ほか外皮7.8g
不掲載	66		2E6(NR01)	泥炭層	0.3	0										0.3	平安中期～現代	
不掲載	67		2E7(NR01)	埋上位(黒泥炭層)	6.1	0		2.2	2.3			1	3.1	2	2.8	0.2	平安中期～現代	
不掲載	68		2F7	砂礫1層	5.0	0						2	4.1	2	3.6	1.4	平安中期～現代	ほか外皮3.6g
不掲載	70		2F8	砂礫1層	4.1	0						2	4.1	2	3.6	0.0	平安中期～現代	ほか外皮1.20g
不掲載	69		2F8(NR01)	泥炭層	13.1	0						1	1.2	1	1.2	1.9	平安中期～現代	ほか外皮3.1g
不掲載	71		2F17	砂礫1層	3.5	0						1	3.5	1	3.5	0.0	平安中期～現代	
不掲載	72		2F18	砂礫1層	3.8	0						1	3.8	1	3.8	0.0	平安中期～現代	ほか外皮2.1g
不掲載	73		2F19	砂礫1層	5.5	2										5.5	平安中期～現代	
不掲載	74		2C3	砂礫1層	12.2	0		2.0	3.3	1	12.2					0.0	平安中期～現代	
不掲載	75		2C10	砂礫1層	0.7	0						1	0.6	1	0.6	0.1	平安中期～現代	
不掲載	76		3A16	II b5層 (19層)	7.8	1										7.8	平安中期～現代	ほか外皮5.9g
1401	80	101	3A17	II b層下部	970.3	51										970.3	大洞C2	
不掲載	78		3A21	II b5層 (19層)	26.4	3										26.4	大洞C2	ほか外皮7.0g
不掲載	79		3A22	II b5層	30.9	3										30.9	大洞C2	
不掲載	81		3A23	II b層下部(0.42層)	28.1	3										28.1	大洞C2	ほか外皮2.6g
不掲載	250		3B1	II b2層	0.3											0.3	大洞C2	木片肉包
不掲載	82		3B1	II b3層	358.2	41		3.1 2.5 2.6	3.3 3.1 3.3	1	15.9	8	35.3	16	37.0	270.0	大洞C2	ほか外皮30.3g
不掲載	83		3B1	II b3層	46.1	3		3.2	3.8			2	10.2			35.9	大洞C2	ほか外皮2.2g
1402	85		3B1	II b3-4層	796.2	54		1.4 2.3	1.8 2.9	1	2.9	2	6.3	12	31.1	755.9	大洞C2	ほか外皮50.8g
不掲載	86		3B2	II b3-4層間砂層	7.8	1										7.8	大洞C2	
不掲載	92		3B2	II b5層	170.6	52		1.9 2.8	2.3 3.3	1	5.6	4	15.7	1	4.3	146.0	大洞C2	ほか外皮12.1g
不掲載	93		3B2-3	II b4層	0.4	0										0.4	大洞C2	
不掲載	251		3B2-7	II b5層	0.5											0.5	大洞C2	附本No.7
不掲載	94		3B3	II b5層	9.6	3										9.6	大洞C2	ほか外皮9.6g
不掲載	230		3B3	II b5層	1.2	1										1.2	大洞C2	
不掲載	95		3B3	II b層最下層	14.9	4										14.9	大洞C2	
不掲載	96		3B3	砂礫3層	10.5	3		2.4	3.0			1	3.6			6.9	晩期後半	
不掲載	97		3B6	II b5層	6.1	3										6.1	大洞C2	
不掲載	100		3B6	II b5層	77.6	2						3	7.0	2	3.3	67.3	大洞C2	
1403	98	101	3B6-ベルト	II b3層	533.7	38		1.9 2.4	2.4 3.8	1	6.5	4	14.5	8	17.5	495.2	大洞C2	ほか外皮45.5g
不掲載	101		3B6-ベルト	II b5層 (18～20層)	52.6	11		2.5 2.5	3.1 3.4	1	4.7	5	20.2	3	7.3	45.3	大洞C2	ほか外皮140g
不掲載	102		3B7	IV層	70.0	2										36.4	大洞C2	ほか外皮49.5g
不掲載	103		3B7	IV層	1.2	0										1.2	後期初頭～中葉	
不掲載	104		3B9	IV層	1.2	0										1.2	後期初頭～中葉	
不掲載	105		3E10(NR03)	砂礫5層	17.3	5										15.5	後期初頭～中葉	
不掲載	106		3B11-ベルト	II b2層	0.2	0										0.2	大洞C2	ほか外皮3.1g
1404	107	101	3B11-ベルト	II b3層	763.2	84										753.7	大洞C2	
不掲載	108		3B11-ベルト	II b4層	2.2	0										2.2	大洞C2	ほか外皮6.3g
1405	109	101	3B11-ベルト	II b5層	5048.8	153						1	6.2	1	4.7	5037.9	大洞C2	109㊟～109㊟合算
不掲載	110		3B12	IV層	0.9	0										0.9	後期初頭～中葉	
不掲載	111		3B16	II b5層	21.0	5										21.0	大洞C2	ほか外皮1.7g
不掲載	112		3B16	II b5層	1195.4	100		2.1	2.9			3	6.8	6	9.0	1179.6	大洞C2	
1406	114	101	3B16-ベルト	10層 (IV層)	247.5	15										247.5	後期初頭～中葉	ほか外皮10.9g
不掲載	115		3B19(NR04-05)	II層下部	4.2	0		2.1	2.7			1	3.7			0.5	後期初頭～中葉	
不掲載	116		3B21-ベルト	II層下部	50.0	1										50.0	後期初頭～中葉	
1407	117	101	3B24(NR04)	砂礫4層	5.8	2										5.8	後期初頭～中葉	
不掲載	118		3E24-ベルト	III層下部	3.0	0										3.0	後期初頭～中葉	
不掲載	119		3C6(NR03)	IV層	-	0										-	後期初頭～中葉	外皮のみ2.2g
不掲載	120		3C6	IV層	-	0										-	後期初頭～中葉	
不掲載	121		3C7(NR03)	IV層	6.7	1		2.4	2.6					2	4.8	1.9	後期初頭～中葉	

掲載No	登録No	写真No	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	発芽孔数 (個/枚数)	特徴	1個あたりの大きさ			完形		カケ (一部欠損)		1/2以上		1/2未満		推定時期	備考	
								長さ (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	個	重量 (g)	個	重量 (g)	個	重量 (g)	個	重量 (g)			個
不掲載	253			IV層 (21層)	49	0															
不掲載	122	3C8(NR04)																			
不掲載	125	3C11(NR03)		IV層下部	198	0						1	3.1	2	4.2						ほか外皮 218g
不掲載	124																				ほか外皮 27g
不掲載	127	3C12(NR03)		II b層	82	0															ほか外皮 109g
不掲載	128	3C13(NR04)		IV層下部	789	3															
不掲載	129	3C16(NR03)		III層上部	60	0															
不掲載	130	3C16(NR03)		IV層最下部	23	2															
不掲載	131	3C17		III層下部	118	0															
不掲載	132	3C17(NR03)		IV層	4.1	0															
不掲載	133																				
1408	134	101	3C19(NR04)	III層 (18層)	3548	18															
不掲載	135																				
不掲載	136	3C23(NR04)		IV層	31.7	0															
不掲載	137																				
不掲載	138	3C23-24 4C3-4(NR04)		下部	1.0	0															
不掲載	139																				
1409	140																				
不掲載	141																				
不掲載	142																				
不掲載	143	3C25メイシバルト		IV層	31.6	0															
不掲載	144	3D3メイシバルト		IV層	103	0															
不掲載	144	3D6		黒色土層	30	0															
不掲載	238	3D7		IV層	37.6	7															
不掲載	248																				
不掲載	239	3D8		IV層	23.5																
不掲載	240	3D12		III層下部	0.9	1															
不掲載	145	3E17(NR01or02)		上部黒泥炭層	0.8	0															
不掲載	146	3E22(NR01)		砂礫1層	30	1															
不掲載	147	3E16(NR01)		埴土	20	0															
不掲載	148	3F1(NR01)		上部黒泥炭層	17	0															
不掲載	149	3F2(NR01)		上部黒泥炭層	40	0															
不掲載	150	3F3(NR01or04)		砂礫2層	1.7	0															
不掲載	151	3F6(NR01)		泥炭層	50	0															
不掲載	154	3F7(NR01)		II層下部黒シルト	4.4	0															
不掲載	152	3F7(NR01)		泥炭層	5.6	0															
不掲載	153	3F7(NR02?)		下部泥炭層	1.8	0															
不掲載	155	3F8(NR01)		泥炭層	29	0															
不掲載	157	3F12(NR01)		砂礫2層	21.1	0															
不掲載	156	3F12(NR01)		埋土上部(泥炭層)	28.8	3															
不掲載	158	3F13(NR01)		泥炭層	8.2	0															
不掲載	159	3F14(NR04?)		泥炭層	32.1	0															
不掲載	160	3F15(NR04?)		泥炭層	0.6	0															
不掲載	161	3F18(NR01)		泥炭層	49.9	1															
不掲載	162	3F19(NR01)		泥炭層	4.2	0															
不掲載	164	3F22(NR01)		泥炭層	80	0															
不掲載	163																				
不掲載	165	3F23(NR01)		泥炭層	590	0															
不掲載	166	3F24(NR01)		泥炭層	21.6	0															
不掲載	167	3F25(NR04?)		泥炭層	9.0	0															
不掲載	168	3F1区(NR01)		埋土上部砂層	12.6	0															
不掲載	169	3G3(NR01)		泥炭層	9.6	1															
不掲載	170	3G7(NR01)		埋土砂層	27	0															
不掲載	173	4B10(NR06)		10層 (IV層)	28.6	2															
不掲載	171	4B10(NR06)		砂礫6層	1.2	1															
不掲載	172																				
不掲載	174	4B14(NR06)		10層 (IV層)	0.8	0															
不掲載	175																				

掲載№	登録№	写真№	出土地点・遺構名	層位	重量(g)	発芽孔数 (個体数)	特徴	1個あたりの大きさ		完形	カケ(一部欠損)		1/2以上		1/2未満 重量(g)	推定時期	備考	
								長さ(cm)	幅(cm)		個	重量(g)	個	重量(g)				個
1410	225 176 177	102	4B14-15(NR06)	10層 (IV層最下部)	2833	26		24 26 26 22 25 25 23 22	24 26 25 32 25 27 26	148	8	250	12	248	218.7	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 768g、外皮付き 1個 32.4g	
不掲載	178		4B15(NR06)	10層 (IV層下部)	22	0									22	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 38g	
不掲載	179		4B15(NR06)	砂礫6層	60.5	4		24 1.8	2.6 2.9	9.4	4	12.7	2	4.6	33.8	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 35.3g	
不掲載	180		4B18	10層 (IV層相当)	10.4	0		3.2	3.5		1	8.3			21	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 4.3g	
不掲載	181		4B19(NR05-06間)	砂礫6層	0.2	0									0.2	中期後葉～後期初頭		
1411	182 226	102	4B23-24(NR05)	10層 (IV層下部)	686.5	31	細片多い	20	2.5		1	3.2			666.3	後期初頭		
不掲載	183		4B24	10層 (IV層)	3.3	0									3.3	後期初頭	ほか外皮 2.3g	
不掲載	184		4B24 北側中央ベルト (NR05)	IV層下部	37.1	0		28	3.2		1	5.1	4	16.0	16.0	後期初頭		
不掲載	185		4B25 北側中央ベルト (NR05)	IV層下部	66.4	13		23	3.0		2	3.4	3	5.7	57.3	後期初頭	ほか外皮 3.1g	
不掲載	186		4C3(NR07)	12層	-	0										後期初頭	外皮のみ 3.6g	
不掲載	187		4C4(NR05)	10層 (IV層)	6.5	0									6.5	後期初頭		
不掲載	188		4C4(NR05)	砂礫5層	11.3	0		21	2.5	7.7	1	3.1			0.5	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 4.1g	
不掲載	189		4C5 北側中央ベルト (NR05)	IV層	87.1	5		22 22 29 29 27	2.7 2.9 3.2 3.3	19.8	3	10.4	3	5.6	51.3	後期初頭	ほか外皮 6.9g	
不掲載	191		4C5 北側中央ベルト (NR05)	IV層下部	1.9	0		22	3.1		1	4.3	8	14.5	58.1	後期初頭	ほか外皮 6.2g	
1412	192 193 258	102	4C9(NR05)	10層 (IV層下部)	254.3	5		30 1.9 2.2 2.8 2.0 2.9 2.1	3.6 3.5 2.5 3.6 3.5 3.2 3.3	67.7	14	57.2	18	40.7	88.7	後期初頭	ほか外皮 39.9g、外皮付き 1個 18.9g	
不掲載	194 257		4C24(NR04)	IV層	76.9	9		22	3.1		1	4.7	1	7.0	57.3	後期初頭	ほか外皮 7.9g	
不掲載	195		4D2(NR05)	10層 (IV層下部)	69.0	7		2.5	3.2		1	4.7	1	1.5	0.1	後期初頭		
不掲載	197		4D4 (NR05)	10層 (IV層下部)	1.6	0											後期初頭～中葉	外皮のみ 14.2g
不掲載	198		4D21 ベルト(NR04)	5層黒土質	-	0												
不掲載	199		4E22	下部泥炭層	33.9	1		19	2.2	5.5	1	9.3	1	2.0	17.1	後期初頭～中葉		
不掲載	201		4F1(NR45)	上部黒泥炭層	13.7	2		26 21	3.7 2.2		2	6.4	2	4.0	3.3	後期初頭～中葉	ほか外皮 7.3g	
不掲載	202		4F6(NR07)	泥炭層	12.1	0		2.1	2.8		2	5.6	2	5.2	1.3	後期初頭～中葉	ほか外皮 1.2g	
不掲載	203		4G2(NR04)	上部黒泥炭層	5.3	0		3.1	3.3		1	3.5			1.8	後期初頭～中葉		
不掲載	204		4C3 トレンチ拡張部	下部砂層内泥炭層	18.2	0		17	1.8						7.2	後期初頭～中葉	ほか外皮 4.0g	
不掲載	205		4G5	砂層上泥炭層	2.4	0		2.5	3.0						2.4	後期初頭～中葉		
不掲載	206 207		5E21(NR05)	IV層下部	7.5	1									7.5	中期後葉～後期初頭		
不掲載	208 209		5C1(NR05)	IV層下部	101.4	3		26 1.9 2.5 2.8	3.2 3.0 2.7 3.6	47.3	3	13.4	5	15.6	25.1	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 3.3g	
不掲載	210		5C14(NR05)	上部砂層	24.9	0		3.1	4.1		1	2.3	2	7.8	14.8	中期後葉～後期初頭	ほか外皮 8.3g	
不掲載	211		5C19(NR05)	上部砂層	1.0	0									1.0	中期後葉～後期初頭		
不掲載	212		5E8(NR05～06)	砂礫4層	9.7	0		2.7	2.9		1	3.2	2	6.5	0.0	後期初頭～中葉		
不掲載	213		5E12 トレンチ 泥炭層	泥炭層	3.9	1									3.9	後期初頭～中葉		
不掲載	214		5E13(NR04古と07の間)	上部黒泥炭層	151.0	10		1.2 2.5 3.2	1.3 3.2	14.8	14	67.9	9	24.0	44.3	後期初頭～中葉	ほか外皮 20.9g、外皮付き 1個 18.2g	
不掲載	215 216		5F15 の凹地	泥炭層	98.5	0		27 2.2 2.4 2.8 2.7	3.3 2.9 3.0 3.2 3.0	122	4	14.4	9	25.0	46.9	後期初頭～中葉	ほか外皮 18.2g	
不掲載	217		5F19	砂礫4層	1.9	0		1.8	2.2		1	2.7	1	2.7	1.9	後期初頭～中葉	ほか外皮 16.6g	
不掲載	218		5F20 の凹地	泥炭層	25.8	4									18.0	後期初頭～中葉	外皮のみ 4.5g	
不掲載	219		6D19	IV層	3.4	0									1.5	後期初頭～中葉		
不掲載	221		6F2(NR04古と07の間)	上部黒泥炭層	26.7	0									8.5	後期初頭～中葉	ほか外皮 1.4g	
不掲載	222		6F11 の凹地	泥炭層	68.9	1		2.5 2.3	2.9 2.9	36.2	2	8.7	1	4.5	19.5	後期初頭	ほか外皮 0.5g	
不掲載	223 224 252		SX01	IV層下部	7.0	6		2.6	3.1		1	7.6			7.0	後期初頭～中葉		
不掲載	247		T5e	IV層	7.6										0.0			
不掲載	241		西T2 運箱トレンチ沢跡 底部付近															



第 38 表 その他種実観察表（同定のみ・不掲載）

掲載№	登録№	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	推定時期	備考
不掲載	1	1A10	砂礫 1 層	2.5	平安中期～現代	
不掲載	2	1D25(NR01)	砂礫 1 層	1.6	平安中期～現代	
不掲載	3	1E1 西端トレンチ	崩落土	0.9	縄文時代	
不掲載	4	1E10(NR01)	砂礫 1 層	0.3	平安中期～現代	
不掲載	5	1E19	砂礫 1 層	0.2	平安中期～現代	
不掲載	6	2A17	砂礫 1 層	0.9	平安中期～現代	
不掲載	7	2A19	II b 層	0.9	晩期後半	
不掲載	8	2A20	II b 層下部	2.4	晩期後半	
不掲載	9	2A21	砂礫 1 層	0.2	平安中期～現代	
不掲載	10	2A25	砂礫 5 層	26.3	中期後葉～後期初頭	
不掲載	11	2B1	砂礫 1 層	12.7	平安中期～現代	
不掲載	12	2B5	II b5 層	6.3	大洞 C2	
不掲載	13	2B5	砂礫 3 層	測定不能 (0.0)	晩期後半	
不掲載	14	2B5	砂礫 3 層	測定不能 (0.0)	晩期後半	
不掲載	15	2B6	砂礫 1 層	5.6	平安中期～現代	
不掲載	16	2B7	砂礫 1 層	0.3	平安中期～現代	
不掲載	17	2B10	II b 層最下層	1.1	大洞 C2	
不掲載	24	2B10・15(NR03)	砂礫 3 層	0.1	後期中葉～晩期後半	
不掲載	18	2B12	砂礫 1 層	2.4	平安中期～現代	
不掲載	138	2B14	II b2 層	0.0	大洞 C2	種実№ 22、カエデ属果実
不掲載	19	2B14・15	-	0.1	晩期後半	
不掲載	20	2B15	II b2 層	0.7	大洞 C2	
不掲載	21	2B15	II b3 層	1.2	大洞 C2	
不掲載	22	2B15	II b 層下部	4.0	大洞 C2	
不掲載	23	2B15	II b 層下部	4.0	大洞 C2	
不掲載	25	2B20	II b3 層	0.9	大洞 C2	
不掲載	26	2B20	II b3 層	0.9	大洞 C2	
不掲載	29	2B20	II b5 層	7.2	大洞 C2	
不掲載	30	2B20	II b 層最下層	1.0	大洞 C2	
不掲載	27	2B20(NR03)	II b3 層	27.8	大洞 C2	
不掲載	28	2B20(NR03)	II b3 層	27.8	大洞 C2	
不掲載	31	2C15(NR03)	下部	0.1	晩期後半	
不掲載	32	2C23	砂礫 3 層	0.1	後期中葉～晩期後半	
不掲載	33	2D2(NR02)	メイン 15 層	3.5	晩期後半	
不掲載	34	2D11(NR01)	西端 6 層砂質下部	6.0	晩期後半～平安時代	
不掲載	35	2D12(NR01)	西端 6 層砂層	12.2	晩期後半～平安時代	
不掲載	36	2D16(NR01)	II b 層	測定不能 (0.0)	晩期後半	
不掲載	37	2D16(NR01)	西端 8 層泥炭下部	11.3	晩期後半～平安時代	
不掲載	38	2D17(NR01)	西端 8 層泥炭層	4.5	晩期後半～平安時代	
不掲載	39	2D18(NR02)	埋土	測定不能 (0.0)	晩期後半	
不掲載	40	2D21(NR01)	西端 7 層砂層	0.8	晩期後半～平安時代	
不掲載	41	2D21(NR01)	西端 8 層泥炭層	4.7	晩期後半～平安時代	
不掲載	42	2D22(NR01)	西端 6 層砂層	4.5	晩期後半～平安時代	
不掲載	43	2E2(NR01)	埋土上位 (黒泥炭層)	0.9	晩期後半～平安時代	
不掲載	44	2E12(NR01)	泥炭層	0.3	晩期後半～平安時代	
不掲載	47	2F19	砂礫 2 層	1.0	晩期後半	
不掲載	46	2F19	砂礫 2 層	1.0	晩期後半	
不掲載	45	2F8	砂礫 2 層	3.2	晩期後半	
不掲載	48	2F20	砂礫 2 層	0.1	晩期後半	
不掲載	49	2G3	砂礫 1 層	測定不能 (0.0)	平安中期～現代	
不掲載	50	2G10	砂礫 1 層	0.1	平安中期～現代	
不掲載	51	3A16	II b5 層 (19 層)	0.1	大洞 C2	
不掲載	52	3A17	II b 層下部砂泥炭層	2.0	大洞 C2	
不掲載	54	3A21	II b5 層	0.5	大洞 C2	
不掲載	53	3A21	II b5 層	0.5	大洞 C2	
不掲載	56	3A23	II b 層下 (40-42 層)	測定不能 (0.0)	大洞 C2	
不掲載	55	3A23 ベルト	II b1 層	1.3	大洞 C2	
不掲載	57	3B1	II b3 層	14.7	大洞 C2	
不掲載	58	3B1	II b3 層	14.7	大洞 C2	
不掲載	62	3B1	II b5 層	測定不能 (0.0)	大洞 C2	
不掲載	61	3B1	II b 層◎・①間砂層	0.6	大洞 C2	
不掲載	59	3B1	II b 層下部	0.1	大洞 C2	
不掲載	60	3B1 ベルト	II b3 層	0.7	大洞 C2	
不掲載	63	3B1 ベルト	II b3 層	0.7	大洞 C2	
不掲載	64	3B1 ベルト	II b3 層	0.7	大洞 C2	
不掲載	65	3B2	II b5 層	18.7	大洞 C2	
不掲載	66	3B3	II b5 層	3.5	大洞 C2	
不掲載	67	3B3	II b5 層	0.5	大洞 C2	
不掲載	68	3B6	II b3 層	9.3	大洞 C2	
不掲載	69	3B6	II b3 層	9.3	大洞 C2	
不掲載	70	3B6	II b3 層	9.3	大洞 C2	
不掲載	71	3B6	II b5 層	2.1	大洞 C2	
不掲載	72	3B7	II b5 層	1.3	大洞 C2	

掲載No	登録No	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	推定時期	備考
不掲載	73	3B7	IV層	0.1	後期初頭	
不掲載	74	3B10(NR03)	II b層下部砂層	0.1	晩期後半	
不掲載	75	3B11 ベルト	II b3層	16.4	大洞 C2	
不掲載	76	3B11 ベルト	II b5層	8.0	大洞 C2	
不掲載	77					
不掲載	78	3B12	IV層	0.3	後期初頭	
不掲載	79	3B16 ベルト	II b5層	5.8	晩期後半	
不掲載	80	3B19(NR04-05)	10層 (IV層下部)	9.8	後期初頭	
不掲載	81	3B24(NR04)	最下層	4.8	後期初頭～中葉	
不掲載	82	3C8(NR04)	IV層	3.6	後期初頭	
不掲載	83	3C11(NR03)	IV層下部	4.3	後期初頭	
不掲載	84	3C12(NR03)	II b層 (?)	測定不能 (0.0)	晩期後半	
不掲載	85	3C13(NR04)	IV層下部	6.1	後期初頭～中葉	
不掲載	86	3C16(NR03)	III層上部	測定不能 (0.0)	後期中葉	
不掲載	87	3C17	III層下部	測定不能 (0.0)	後期中葉	
不掲載	88	3C17(NR03)	IV層	2.3	後期初頭	
不掲載	89					
不掲載	90	3C19 ベルト	III層下部	3.1	後期中葉	
不掲載	91	3C23(NR04)	IV層	0.6	後期初頭	
不掲載	92	3C23・24,4C3・4(NR04)	下部 W3	測定不能 (0.0)	後期初頭	
不掲載	93 94 143 144 146 95 145	3C24(NR04)	IV層	197.3	後期初頭	
不掲載	96					
不掲載	96	3C25 ベルト (NR04)	IV層	0.1	後期初頭	
不掲載	97	3D3 ベルト	IV層	0.1	後期初頭	
不掲載	137	3D7	IV層	0.1	後期初頭	種実No 14、コナラ幼果
不掲載	98	3F1(NR01)	上部黒泥炭層	1.1	晩期後半～平安	
不掲載	99	3F8(NR01)	泥炭層	0.9	晩期後半～平安	
不掲載	100	3F12(NR01)	泥炭層	3.1	晩期後半～平安	
不掲載	101	3F13(NR01)	泥炭層	0.1	晩期後半～平安	
不掲載	102 148	3F18(NR01)	泥炭層	32.5	晩期後半～平安	
不掲載	103	3F19(NR01)	泥炭層	0.1	晩期後半～平安	
不掲載	104	3F23(NR01)	泥炭層	0.7	晩期後半～平安	
不掲載	105	3F24(NR01)	泥炭層	0.1	晩期後半～平安	
不掲載	106	3G3(NR01)	泥炭層	0.3	晩期後半～平安	
不掲載	107	4B10(NR06)	10層 (IV層下部)	18.9	中期後葉～後期初頭	
不掲載	108	4B10(NR06)	砂礫6層	0.4	中期後葉	
不掲載	109 110	4B14(NR06)	10層 (IV層下部)	1.3	中期後葉～後期初頭	
不掲載	111 112 134	4B14・15(NR06)	10層 (IV層下部)	61.7	中期後葉～後期初頭	
不掲載	113	4B15(NR06)	砂礫6層	22.5	中期後葉	
不掲載	114 135	4B23・24(NR05)	10層 (IV層下部)	13.5	後期初頭	
不掲載	115	4B25 ベルト (NR05)	IV層下部	4.6	後期初頭	
不掲載	116	4C4(NR05)	砂礫5層	0.9	中期後葉～後期初頭	
不掲載	119	4C5	崩落土	0.2	後期初頭	
不掲載	117 118	4C5(NR05)	10層 (IV層下部)	11.1	後期初頭	
不掲載	120 121 147	4C9(NR05)	10層 (IV層下部)	28.7	後期初頭	
不掲載	122	4C24(NR04)	IV層	8.8	後期初頭	
不掲載	123 136 124	4D2(NR05)	10層 (IV層下部)	7.9	後期初頭	
不掲載	125	4D3(NR05)	10層 (IV層下部)	0.1	後期初頭	
不掲載	126	4D4(NR05)	10層 (IV層下部)	10.9	後期初頭	
不掲載	127	4E22 トレンチ	下部泥炭層	1.3	後期初頭～中葉	
不掲載	142	4G5 (NR04 古)	砂礫4層	5.5	後期初頭～中葉	松ぼっくり
不掲載	128	5B22(5C 区 WE ベルト)	IV層下部	0.1	後期初頭	
不掲載	129	5C1(NR05)	IV層下部	2.6	後期初頭	
不掲載	139	5C3	III層	5.1	後期中葉	種実No 29、松ぼっくり
不掲載	130	5E13(NR04 古)	上部黒泥炭層	19.0	後期初頭～中葉	
不掲載	131	6D9(NR05)	IV層	0.2	後期初頭	
不掲載	132	6F11 凹地	泥炭層	1.1	後期初頭～中葉	
不掲載	133	SX01	-	0.1	後期初頭	
不掲載	140	SX01	IV層下部	0.2	後期初頭	
不掲載	141	SX01	IV層下部	0.1	後期初頭	

第 39 表 植物葉観察表 (1413 ~ 1427)

掲載No	写図No	出土地点・遺構名	層位	種類	推定時期	備考	登録No
1413	103	2A25	II b5 層	ケヤキ	大洞 C2		1
1414	103	2B20(NR03)	II b3 層	不明	大洞 C2		2
1415	103	2F20	砂礫 2 層	ブナ・コナラ・クリ・ケヤキ・イタヤカエデ・カバノキ属・サクラ属・ケヤマハンノキ・ヤマフジ・アサダ?・ハウチワカエデまたはオオモミジ・ケンボナシ属	晩期後半		3
1416	103	3B1	II b3 層	不明	大洞 C2		4
1417	103	3B11 ベルト	II b3 層	不明	大洞 C2		5
1418	103	3B12	II b5 層	不明	大洞 C2		6
1419	103	3B12	II b 層	不明	大洞 C2		7
1420	103	3B16 ベルト	II b5 層	不明	大洞 C2		8
1421	104	3B19(NR04・05)	10 層 (IV層)	不明	後期初頭		9
1422	104	3C24(NR04)	IV 層	フジ属、果皮 (さや)	後期初頭~中葉	(10.8g) 鞘含む	10 11
1423	104	3D17(NR04)	砂礫 4 層	ケヤキ	後期初頭~中葉		12
1424	104	4B14・15(NR06)	10 層 (IV層下部)	不明	中期後葉~後期初頭		13
1425	104	4B23・24(NR05)	10 層 (IV層下部)	不明	中期後葉~後期初頭		14
1426	104	4C9(NR05)	10 層 (IV層下部)	不明	後期初頭		15
1427	104	4C24(NR04)	IV 層	不明	後期初頭		16

第 40 表 サルノコシカケ観察表 (1428 ~ 1433)

掲載No	登録No	写図No	出土地点・遺構名	層位	重量 (g)	推定時期	備考
1428	1	104	2B8	泥炭層下部	281.3	晩期後半	
1429	2	104	2D17(NR01)	西端断面 8 層	9.5	晩期後半~平安時代	
1430	3	104	2E2(NR01)	埋土上位 (黒泥炭層)	3.0	晩期後半~平安時代	
1431	4	104	3F12(NR01)	埋土 (泥炭層)	154.1	晩期後半~平安時代	
1432	5	104	3F14(NR04)	泥炭層・砂層上部	46.0	後期初頭~中葉	
1433	6	104	3F18(NR01)	泥炭層	7.4	晩期後半~平安時代	



## VI 自然科学的分析

### 1 放射性炭素年代測定 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

#### (1) 測定対象試料

新田Ⅱ遺跡は、岩手県遠野市綾織町下綾織 31 地割 147-1 地内ほか (北緯 39° 19′ 3.8969″、東経 141° 27′ 56.5799″) に所在する。

測定対象試料は、H23・24 の 2 ヶ年に分けて、それぞれ測定を行った。

< H23 測定分 > 西区 2B15 Ⅱ b2 層黒色土出土種実 (新田Ⅱ -1 : IAAA-112743、新田Ⅱ -2 : IAAA-112744)、土器付着炭化物 (新田Ⅱ -6 : IAAA-112748)、炭化物 (新田Ⅱ -13 : IAAA-112751)、西区 3D8 Ⅳ層出土木片 (新田Ⅱ -3 : IAAA-112745)、西区 2C13 Ⅱ a 層出土土器付着炭化物 (新田Ⅱ -4 : IAAA-112746)、西区 4D9 Ⅲ層出土土器付着炭化物 (新田Ⅱ -5 : IAAA-112747)、西区 3D6 Ⅱ b 層出土土器付着炭化物 (新田Ⅱ -7 : IAAA-112749)、西区 4C5 Ⅳ層黒色土出土炭化物 (新田Ⅱ -12 : IAAA-112750) である。新田Ⅱ -1 はトチノキ果皮、新田Ⅱ -2 はクルミ果皮と同定されており、いずれも埋没沢に一括して廃棄された状態で出土した。新田Ⅱ -3 は自然木の生材とされる。新田Ⅱ -12、13 はフローテーションによって回収された。

西区 2B15 Ⅱ b2 層黒色土は縄文時代晩期後半の土器を包含する埋没沢で、ここから出土した新田Ⅱ -1、2、13 はこれに近い時期と推定され、新田Ⅱ -6 が採取された土器もその時期と考えられている。西区 3D8 Ⅳ層は縄文時代後期初頭の土器が出土する埋没沢で、その底面から出土した新田Ⅱ -3 はこれに近い時期と推定される。西区 2C13 Ⅱ a 層は縄文時代晩期後半の遺物包含層で、ここから出土し、新田Ⅱ -4 が採取された土器もこの時期に位置づけられている。西区 4D9 Ⅲ層は縄文時代中期の遺物包含層で、ここから出土し、新田Ⅱ -5 が採取された土器は縄文時代中期前～中葉の土器と考えられている。西区 3D6 Ⅱ b 層は縄文時代晩期の遺物包含層で、ここから出土し、新田Ⅱ -7 が採取された土器は縄文時代晩期後半と考えられている。西区 4C5 Ⅳ層黒色土は縄文時代後期初頭の遺物包含層で、ここから出土した新田Ⅱ -12 はこの時期である可能性が指摘されている。

< H24 測定分 > 西区の各層 (遺物包含層) から出土した土器付着物 (新田Ⅱ -14 : IAAA-123287 ~ 新田Ⅱ -23 : IAAA-123296)、西区の各層 (遺物包含層) 及び SX01 樹木集積遺構から出土した木片 (新田Ⅱ -24 : IAAA-123297 ~ 新田Ⅱ -31 : IAAA-123304) で、内訳は、土器付着物のうち、新田Ⅱ -14 ~ 20、22、23 は炭化物で、新田Ⅱ -14、15 は内面、新田Ⅱ -16 ~ 20、22、23 は外面から採取された。新田Ⅱ -21 は土器内部の付着物で、アスファルトの可能性が指摘されている。木片試料は、新田Ⅱ -24 が建築部材の一部、新田Ⅱ -25 ~ 31 が自然樹木から採取された (以上 H24 測定分)。以上、H23 測定分が 9 点、H24 測定分が 18 点の合計 27 点である (表 1)。

土器付着物が採取された土器は、新田Ⅱ -14、16、17 の土器が縄文時代晩期後半、新田Ⅱ -15、18、19、23 が後期中葉、新田Ⅱ -20 ~ 22 が後期初頭から前葉に位置づけられている。木片試料は、新田Ⅱ -24 が縄文時代後期中葉、新田Ⅱ -25 ~ 30 が後期初頭から前葉、新田Ⅱ -31 が平安時代の遺物包含層から出土している。

#### (2) 測定の意義

遺物包含層から出土した土器の付着物、建築部材、自然樹木の年代測定により、遺物包含層の埋没年代を明らかにする。

### (3) 化学処理工程

- <1>メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- <2>酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- <3>試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- <4>真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- <5>精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- <6>グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### (4) 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### (5) 算出方法

- <1>  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- <2> <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- <3> pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度の割合である。pMC が小さい (<sup>14</sup>C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (<sup>14</sup>C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- <4> 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の <sup>14</sup>C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の <sup>14</sup>C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が <sup>14</sup>C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下 1 桁を丸めない <sup>14</sup>C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、

特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## (6) 測定結果

< H23 測定分 > 試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、西区 2B15 II b2 層黒色土出土種実新田 II -1 が  $2450 \pm 30\text{yrBP}$ 、新田 II -2 が  $2540 \pm 30\text{yrBP}$ 、土器付着炭化物新田 II -6 が  $2540 \pm 20\text{yrBP}$ 、炭化物新田 II -13 が  $2410 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 3D8 IV 層出土木片新田 II -3 が  $3130 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 2C13 II a 層出土土器付着炭化物新田 II -4 が  $2660 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 4D9 III 層出土土器付着炭化物新田 II -5 が  $4510 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 3D6 II b 層出土土器付着炭化物新田 II -7 が  $3020 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 4C5 IV 層黒色土出土炭化物新田 II -12 が  $3850 \pm 30\text{yrBP}$  である。西区 2B15 II b2 層黒色土から出土した4点の値について検討すると、新田 II -1 と 13、新田 II -2 と 6 の値は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲で重なり、近い年代を示すが、4点全体では若干年代差が認められる。

暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、新田 II -1 が 744 ~ 417cal BC の間に5つの範囲、新田 II -2 が 792 ~ 596cal BC の間に4つの範囲、新田 II -6 が 793 ~ 597cal BC の間に3つの範囲、新田 II -13 が 511 ~ 407cal BC の間に2つの範囲、新田 II -3 が 1438 ~ 1393cal BC の範囲、新田 II -4 が 825 ~ 801cal BC の範囲、新田 II -5 が 3339 ~ 3114cal BC の間に5つの範囲、新田 II -7 が 1371 ~ 1222cal BC の間に3つの範囲、新田 II -12 が 2429 ~ 2211cal BC の間に5つの範囲で示される。西区 2B15 II b2 層黒色土から出土した新田 II -1、2、6、13 の値は、全体として縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃に相当し、 $2\sigma$  暦年代範囲で見ると4点の間の差は小さくなる。いずれも土器が示す縄文時代晩期後半の値を含んでいる。新田 II -3 は縄文時代後期後葉頃、新田 II -4 は縄文時代晩期中葉頃、新田 II -5 は縄文時代中期前葉頃、新田 II -7 は縄文時代後期後葉から晩期初頭頃、新田 II -12 は縄文時代後期初頭頃に相当する値である。新田 II -4、5、12 は土器から推定される時期に対しておおむね整合的と言えるが、新田 II -3 は土器よりも新しい値、新田 II -7 は土器よりも古い値となっている。

なお、土器付着炭化物については、土器で調理された海産物が焦げ付いたものである場合など、海洋リザーバー効果によって年代が古く見積られる可能性があることを考慮する必要がある。今回測定された試料の  $\delta^{13}\text{C}$  値を見ると、おおむね C3 植物やそれを食べる草食動物などの値に近い。その中で新田 II -7 は比較的高い値となっており、海洋由来炭素が影響している可能性がある。ただし、AMS による  $\delta^{13}\text{C}$  値は必ずしも正確でない点に注意が必要である。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物新田 II -4 が 10% という低い値となっており、土様の物質が混入していたと観察されているため、注意を要する。他の試料は 40% を超えており、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

< H24 測定分 > 土器付着物の  $^{14}\text{C}$  年代は、西区 2B10 II b2 層出土の新田 II -14 が  $2490 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 2C24 (NR02) II b 層出土の新田 II -15 が  $2970 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 3B1 II b5 層出土の新田 II -16 が  $2440 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 3B11 ベルト II b2 層出土の新田 II -17 が  $2490 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 3C1 (NR03) III 層下部出土の新田 II -18 が  $2900 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 SR02 (3C17) III 層出土の新田 II -19 が  $3380 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 4B21 ベルト砂礫 5 層出土の新田 II -20 が  $3750 \pm 20\text{yrBP}$ 、西区 4E12 砂礫 4 層出土の新田 II -21 が  $3420 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 5C15 IV 層下部出土の新田 II -22 が  $3800 \pm 30\text{yrBP}$ 、西区 SR01 (3C18) III 層出土の新田 II -23 が  $3330 \pm 30\text{yrBP}$  である。II b2 層出土の新田 II -14 と同 17 の値は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲でよく一致する。また III 層出土の新田 II -19 と同 23 は、誤差範囲で近接する値である。

暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、新田 II -14 が 756 ~ 545cal BC の間に4つの範囲、新田 II -15 が 1260



～1130cal BCの間に4つの範囲、新田Ⅱ-16が727～416cal BCの間に3つの範囲、新田Ⅱ-17が758～549cal BCの間に4つの範囲、新田Ⅱ-18が1123～1041cal BCの範囲、新田Ⅱ-19が1733～1636cal BCの間に2つの範囲、新田Ⅱ-20が2203～2136cal BCの範囲、新田Ⅱ-21が1747～1689cal BCの範囲、新田Ⅱ-22が2286～2201cal BCの範囲、新田Ⅱ-23が1663～1536cal BCの間に3つの範囲で示される。古い方から順に、新田Ⅱ-20、22が縄文時代後期前葉頃、新田Ⅱ-19、21、23が縄文時代後期中葉頃、新田Ⅱ-15が縄文時代晩期初頭から前葉頃、新田Ⅱ-18が縄文時代晩期前葉頃、新田Ⅱ-14、17が縄文時代晩期後葉頃、新田Ⅱ-16が縄文時代晩期後葉から弥生時代前期頃に相当し(小林編2008、小林2009)。付着物が採取された土器について推定される時期に対し、新田Ⅱ-14、16、17、19、20、22、23はおおむね整合的な値となったが、新田Ⅱ-15、18、21はより新しい値を示した。

木片の<sup>14</sup>C年代は、西区3D12・13 砂礫4層上面出土の新田Ⅱ-24が $3550 \pm 20$ yrBP、西区4B23・24(NR05) 10層(Ⅳ層下部)出土の新田Ⅱ-25が $3810 \pm 30$ yrBP、西区SX01樹木集積遺構 10層(Ⅳ層下部)出土の新田Ⅱ-26が $3910 \pm 30$ yrBP、新田Ⅱ-27が $3820 \pm 30$ yrBP、新田Ⅱ-28が $3050 \pm 20$ yrBP、新田Ⅱ-29が $900 \pm 20$ yrBP、西区3C22(NR04) Ⅳ層出土の新田Ⅱ-30が $3280 \pm 30$ yrBP、西区3F区(NR01) 泥炭層出土の新田Ⅱ-31が $1240 \pm 20$ yrBPである。SX01樹木集積遺構から出土した4点のうち、新田Ⅱ-26と同27はおおむね近い値であるが、これらと新田Ⅱ-28、29の間には明瞭な年代差が認められる。

暦年較正年代(1 $\sigma$ )は、新田Ⅱ-24が1941～1880cal BCの範囲、新田Ⅱ-25が2286～2205cal BCの範囲、新田Ⅱ-26が2469～2348cal BCの間に3つの範囲、新田Ⅱ-27が2292～2206cal BCの間に2つの範囲、新田Ⅱ-28が1379～1271cal BCの間に3つの範囲、新田Ⅱ-29が1047～1172cal ADの間に3つの範囲、新田Ⅱ-30が1608～1519cal BCの間に2つの範囲、新田Ⅱ-31が695～855cal ADの間に5つの範囲で示される。古い方から順に、新田Ⅱ-26が縄文時代後期初頭頃、新田Ⅱ-24、25、27が縄文時代後期前葉頃、新田Ⅱ-30が縄文時代後期中葉頃、新田Ⅱ-28が縄文時代後期後葉から末葉頃、新田Ⅱ-29、31が古代頃に相当する(小林編2008、小林2009)。試料が出土した層について推定される時期に対し、新田Ⅱ-25～27、31は整合的な値となったが、新田Ⅱ-24はより古い値、新田Ⅱ-28～30はより新しい値を示した。

試料の炭素含有率を確認すると、新田Ⅱ-15は43%、同18は34%、同19は26%と若干低い値となっている。これらの試料の中には、粒状もしくは粉状の炭化物とともに、土のようなものが観察され、炭素の由来に注意する必要がある。他の試料の炭素含有率はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 (1) H23 測定分

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
I AAA-112743	新田II -1	西区 2B15 II b2 層黒色土	種実	AAA	-29.81 ± 0.5	2,450 ± 30	73.69 ± 0.23
I AAA-112744	新田II -2	西区 2B15 II b2 層黒色土	種実	AAA	-30.33 ± 0.55	2,540 ± 30	72.89 ± 0.23
I AAA-112745	新田II -3	西区 3D8 IV層	木片	AAA	-30.36 ± 0.58	3,130 ± 30	67.69 ± 0.22
I AAA-112746	新田II -4	西区 2C13 II a 層	土器付着炭化物	AaA	-28.41 ± 0.57	2,660 ± 30	71.85 ± 0.23
I AAA-112747	新田II -5	西区 4D9 III層 (土器 598)	土器付着炭化物	AaA	-24.89 ± 0.56	4,510 ± 30	57.04 ± 0.18
I AAA-112748	新田II -6	西区 2B15 II b2 層黒色土	土器付着炭化物	AAA	-27 ± 0.59	2,540 ± 20	72.88 ± 0.22
I AAA-112749	新田II -7	西区 3D6 II b 層 (土器 591)	土器付着炭化物	AAA	-22.16 ± 0.63	3,020 ± 20	68.64 ± 0.21
I AAA-112750	新田II -12	西区 4C5 IV層黒色土	炭化物	AAA	-23.72 ± 0.55	3,850 ± 30	61.93 ± 0.2
I AAA-112751	新田II -13	西区 2B15 II b2 層黒色土	炭化物	AAA	-26.3 ± 0.58	2,410 ± 30	74.1 ± 0.23

※新田II 8～11 は炭素量不足のため、測定不可

表1 (2) H24 測定分

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
I AAA-123287	新田II -14	西区 2B10 II b2 層 (土器 110)	土器付着炭化物	AAA	-20.51 ± 0.36	2,490 ± 20	73.37 ± 0.21
I AAA-123288	新田II -15	西区 2C24 (NR02) II b 層 (土器 195)	土器付着炭化物	AaA	-24.32 ± 0.52	2,970 ± 30	69.11 ± 0.22
I AAA-123289	新田II -16	西区 3B1 II b5 層 (土器 365)	土器付着炭化物	AAA	-23.24 ± 0.46	2,440 ± 20	73.8 ± 0.22
I AAA-123290	新田II -17	西区 3B11 ベルト II b2 層 (土器 348)	土器付着炭化物	AaA	-22.89 ± 0.5	2,490 ± 20	73.34 ± 0.22
I AAA-123291	新田II -18	西区 3C1 (NR03) III層下部 (土器 552)	土器付着炭化物	AaA	-25.54 ± 0.46	2,900 ± 20	69.72 ± 0.21
I AAA-123292	新田II -19	西区 SR02 (3C17) III層 (土器 28)	土器付着炭化物	AaA	-22.07 ± 0.33	3,380 ± 20	65.64 ± 0.2
I AAA-123293	新田II -20	西区 4E21 ベルト 砂礫 5 層 (土器 677)	土器付着炭化物	AaA	-26.03 ± 0.28	3,750 ± 20	62.68 ± 0.19
I AAA-123294	新田II -21	西区 4E12 砂礫 4 層 (土器 736)	土器付着物	AaA	-30.31 ± 0.33	3,420 ± 30	65.33 ± 0.2
I AAA-123295	新田II -22	西区 5C15 IV層下部 (土器 768)	土器付着炭化物	AaA	-28.11 ± 0.3	3,800 ± 30	62.3 ± 0.2
I AAA-123296	新田II -23	西区 SR01 (3C18) III層 (土器 27)	土器付着炭化物	AaA	-23.9 ± 0.38	3,330 ± 30	66.06 ± 0.22
I AAA-123297	新田II -24	西区 3D12・13 砂礫 4 層上面 (建築部 材 1271)	木片	AAA	-23.21 ± 0.39	3,550 ± 20	64.26 ± 0.2
I AAA-123298	新田II -25	西区 4B23・24 (NR05) 10 層 (IV層下部) (自然樹木 1368)	木片	AAA	-23.62 ± 0.32	3,810 ± 30	62.24 ± 0.2
I AAA-123299	新田II -26	西区 SX01 樹木集積 遺構 10 層 (IV層下部) (自然樹木 1369)	木片	AAA	-31.82 ± 0.25	3,910 ± 30	61.43 ± 0.21
I AAA-123300	新田II -27	西区 SX01 樹木集積 遺構 10 層 (IV層下部) (自然樹木 1373)	木片	AAA	-27.67 ± 0.37	3,820 ± 30	62.16 ± 0.2
I AAA-123301	新田II -28	西区 2C25 (NR03) III層 (自然樹木 1333)	木片	AAA	-26.28 ± 0.42	3,050 ± 20	68.44 ± 0.21
I AAA-123302	新田II -29	西区 2D4 (NR02) III層 (自然樹木 1334)	木片	AAA	-25.16 ± 0.39	900 ± 20	89.36 ± 0.26
I AAA-123303	新田II -30	西区 3C22 (NR04) IV層 (自然樹木 1358)	木片	AAA	-30.24 ± 0.42	3,280 ± 30	66.47 ± 0.23
I AAA-123304	新田II -31	西区 3F 区 (NR01) 泥炭層 (自然樹木 1367)	木片	AAA	-25.02 ± 0.42	1,240 ± 20	85.74 ± 0.23

1 放射性炭素年代測定 (AMS測定)

表2 (1) H23 測定分

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-112743	2530 $\pm$ 20	72.96 $\pm$ 0.21	2452 $\pm$ 25	744calBC - 689calBC (24.3%)	753calBC - 686calBC (27.0%)
				664calBC - 647calBC ( 7.2%)	668calBC - 634calBC (10.4%)
				551calBC - 486calBC (24.7%)	624calBC - 612calBC ( 1.8%)
				463calBC - 449calBC ( 4.1%)	596calBC - 411calBC (56.2%)
				442calBC - 417calBC ( 8.0%)	
IAAA-112744	2630 $\pm$ 20	72.1 $\pm$ 0.21	2539 $\pm$ 25	792calBC - 753calBC (38.5%)	796calBC - 744calBC (41.6%)
				686calBC - 668calBC (17.3%)	690calBC - 663calBC (19.5%)
				632calBC - 626calBC ( 3.1%)	646calBC - 550calBC (34.3%)
				612calBC - 596calBC ( 9.4%)	
IAAA-112745	3220 $\pm$ 20	66.95 $\pm$ 0.2	3134 $\pm$ 26	1438calBC - 1393calBC (68.2%)	1493calBC - 1477calBC ( 3.1%)
					1459calBC - 1374calBC (85.9%)
					1341calBC - 1318calBC ( 6.4%)
IAAA-112746	2710 $\pm$ 20	71.35 $\pm$ 0.21	2655 $\pm$ 25	825calBC - 801calBC (68.2%)	894calBC - 876calBC ( 3.7%)
					845calBC - 792calBC (91.7%)
IAAA-112747	4510 $\pm$ 20	57.06 $\pm$ 0.17	4509 $\pm$ 25	3339calBC - 3320calBC ( 9.8%)	3349calBC - 3263calBC (32.0%)
				3273calBC - 3266calBC ( 3.0%)	3246calBC - 3100calBC (63.4%)
				3237calBC - 3204calBC (16.8%)	
				3197calBC - 3171calBC (13.6%)	
				3163calBC - 3114calBC (25.0%)	
IAAA-112748	2570 $\pm$ 20	72.58 $\pm$ 0.2	2541 $\pm$ 24	793calBC - 753calBC (42.1%)	796calBC - 746calBC (44.8%)
				686calBC - 668calBC (17.7%)	690calBC - 664calBC (19.8%)
				612calBC - 597calBC ( 8.4%)	646calBC - 551calBC (30.9%)
IAAA-112749	2980 $\pm$ 20	69.04 $\pm$ 0.19	3023 $\pm$ 24	1371calBC - 1346calBC (15.2%)	1387calBC - 1211calBC (95.4%)
				1316calBC - 1260calBC (50.1%)	
				1227calBC - 1222calBC ( 2.9%)	
IAAA-112750	3830 $\pm$ 30	62.09 $\pm$ 0.19	3849 $\pm$ 26	2429calBC - 2425calBC ( 1.5%)	2459calBC - 2417calBC (11.7%)
				2402calBC - 2382calBC ( 8.9%)	2410calBC - 2270calBC (63.5%)
				2348calBC - 2279calBC (43.9%)	2260calBC - 2206calBC (20.2%)
				2250calBC - 2230calBC (10.2%)	
				2220calBC - 2211calBC ( 3.7%)	
IAAA-112751	2430 $\pm$ 20	73.9 $\pm$ 0.22	2407 $\pm$ 25	511calBC - 434calBC (53.7%)	727calBC - 693calBC ( 7.1%)
				429calBC - 407calBC (14.5%)	542calBC - 401calBC (88.3%)

[ 参考値 ]



表2 (2) H24 測定分

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123287	2,410 $\pm$ 20	74.04 $\pm$ 0.21	2,487 $\pm$ 23	756calBC - 732calBC (11.4%)	767calBC - 520calBC (95.4%)
				691calBC - 684calBC (2.8%)	
				669calBC - 661calBC (3.6%)	
				651calBC - 545calBC (50.4%)	
IAAA-123288	2,960 $\pm$ 20	69.21 $\pm$ 0.21	2,968 $\pm$ 25	1260calBC - 1228calBC (21.4%)	1302calBC - 1115calBC (95.4%)
				1221calBC - 1189calBC (21.8%)	
				1181calBC - 1156calBC (14.9%)	
				1145calBC - 1130calBC (10.1%)	
IAAA-123289	2,410 $\pm$ 20	74.06 $\pm$ 0.21	2,440 $\pm$ 24	727calBC - 694calBC (15.9%)	750calBC - 687calBC (22.5%)
				542calBC - 484calBC (28.9%)	666calBC - 642calBC (6.5%)
				465calBC - 416calBC (23.4%)	592calBC - 407calBC (66.4%)
IAAA-123290	2,460 $\pm$ 20	73.66 $\pm$ 0.21	2,490 $\pm$ 24	758calBC - 734calBC (11.2%)	768calBC - 521calBC (95.4%)
				690calBC - 684calBC (2.7%)	
				669calBC - 662calBC (3.2%)	
				650calBC - 546calBC (51.1%)	
IAAA-123291	2,910 $\pm$ 20	69.65 $\pm$ 0.2	2,897 $\pm$ 24	1123calBC - 1041calBC (68.2%)	1193calBC - 1142calBC (9.3%)
					1133calBC - 1006calBC (86.1%)
IAAA-123292	3,330 $\pm$ 20	66.03 $\pm$ 0.2	3,382 $\pm$ 24	1733calBC - 1717calBC (14.0%)	1741calBC - 1622calBC (95.4%)
				1693calBC - 1636calBC (54.2%)	
IAAA-123293	3,770 $\pm$ 20	62.55 $\pm$ 0.19	3,752 $\pm$ 24	2203calBC - 2136calBC (68.2%)	2278calBC - 2251calBC (6.3%)
					2229calBC - 2221calBC (1.1%)
					2211calBC - 2124calBC (72.8%)
					2091calBC - 2043calBC (15.2%)
IAAA-123294	3,510 $\pm$ 30	64.62 $\pm$ 0.2	3,419 $\pm$ 25	1747calBC - 1689calBC (68.2%)	1869calBC - 1847calBC (3.8%)
					1775calBC - 1635calBC (91.6%)
IAAA-123295	3,850 $\pm$ 30	61.9 $\pm$ 0.2	3,801 $\pm$ 26	2286calBC - 2201calBC (68.2%)	2336calBC - 2324calBC (1.6%)
					2308calBC - 2189calBC (79.8%)
					2181calBC - 2140calBC (14.0%)
IAAA-123296	3,310 $\pm$ 30	66.21 $\pm$ 0.21	3,330 $\pm$ 26	1663calBC - 1651calBC (8.2%)	1685calBC - 1530calBC (95.4%)
				1641calBC - 1605calBC (32.2%)	
				1577calBC - 1536calBC (27.9%)	
IAAA-123297	3,520 $\pm$ 20	64.5 $\pm$ 0.19	3,552 $\pm$ 24	1941calBC - 1880calBC (68.2%)	1964calBC - 1870calBC (75.7%)
					1846calBC - 1811calBC (11.8%)
					1804calBC - 1776calBC (7.9%)
IAAA-123298	3,790 $\pm$ 30	62.42 $\pm$ 0.19	3,809 $\pm$ 25	2286calBC - 2205calBC (68.2%)	2340calBC - 2194calBC (87.5%)
					2176calBC - 2144calBC (7.9%)

1 放射性炭素年代測定 (AMS測定)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123299	4030 $\pm$ 30	60.57 $\pm$ 0.21	3,914 $\pm$ 28	2469calBC - 2431calBC (26.9%)	2474calBC - 2333calBC (88.8%)
				2425calBC - 2402calBC (16.7%)	2326calBC - 2300calBC ( 6.6%)
				2381calBC - 2348calBC (24.6%)	
IAAA-123300	3,860 $\pm$ 30	61.82 $\pm$ 0.19	3,819 $\pm$ 25	2292calBC - 2267calBC (20.7%)	2401calBC - 2382calBC ( 1.9%)
				2260calBC - 2206calBC (47.5%)	2348calBC - 2196calBC (89.9%)
					2171calBC - 2146calBC ( 3.6%)
IAAA-123301	3,070 $\pm$ 20	68.26 $\pm$ 0.2	3,046 $\pm$ 24	1379calBC - 1336calBC (37.9%)	1397calBC - 1259calBC (94.2%)
				1322calBC - 1292calBC (25.5%)	1228calBC - 1221calBC ( 1.2%)
				1278calBC - 1271calBC ( 4.8%)	
IAAA-123302	910 $\pm$ 20	89.34 $\pm$ 0.25	903 $\pm$ 23	1047calAD - 1090calAD (37.3%)	1040calAD - 1110calAD (47.0%)
				1121calAD - 1140calAD (13.6%)	1116calAD - 1209calAD (48.4%)
				1149calAD - 1172calAD (17.3%)	
IAAA-123303	3,370 $\pm$ 30	65.76 $\pm$ 0.22	3,281 $\pm$ 27	1608calBC - 1570calBC (33.3%)	1626calBC - 1496calBC (95.4%)
				1561calBC - 1519calBC (34.9%)	
IAAA-123304	1,240 $\pm$ 20	85.73 $\pm$ 0.22	1,236 $\pm$ 21	695calAD - 698calAD ( 1.4%)	690calAD - 751calAD (41.6%)
				709calAD - 747calAD (33.3%)	762calAD - 870calAD (53.8%)
				766calAD - 783calAD (14.8%)	
				789calAD - 811calAD (15.1%)	
				847calAD - 855calAD ( 3.7%)	

[ 参考値 ]

文献

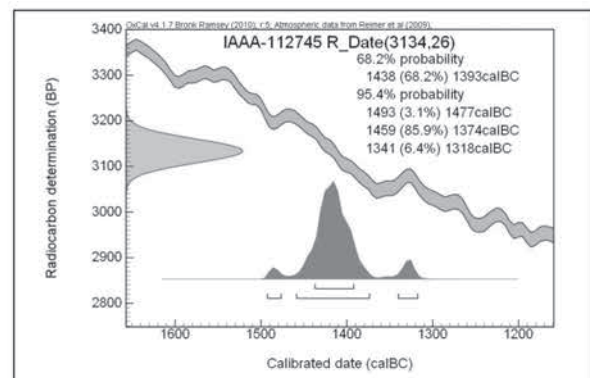
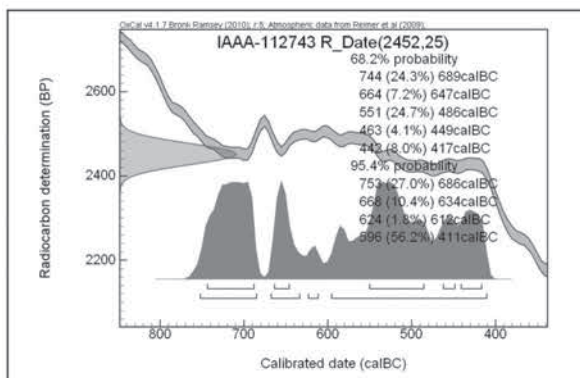
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19(3), 355-363

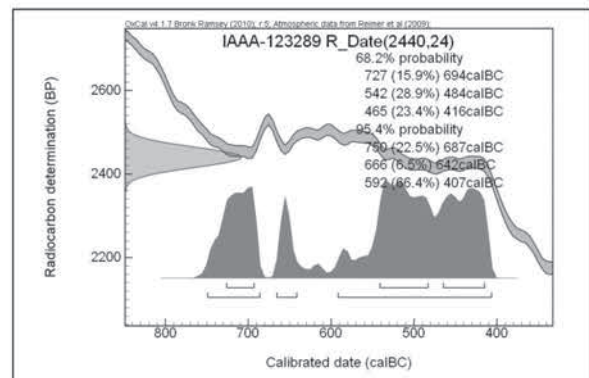
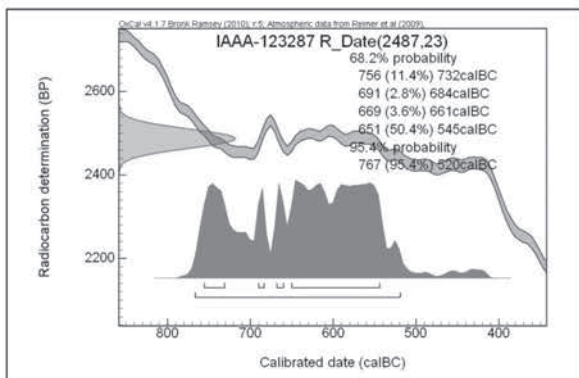
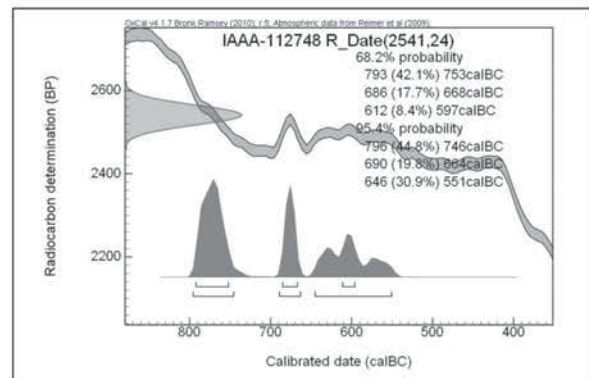
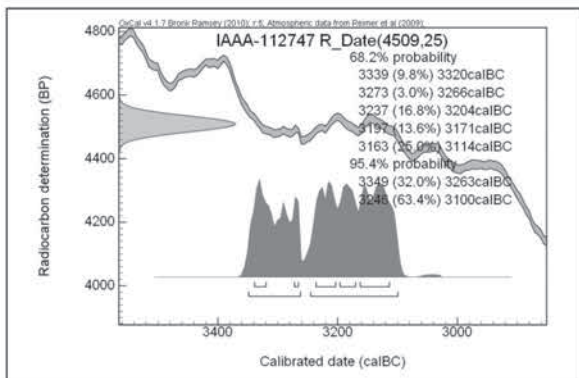
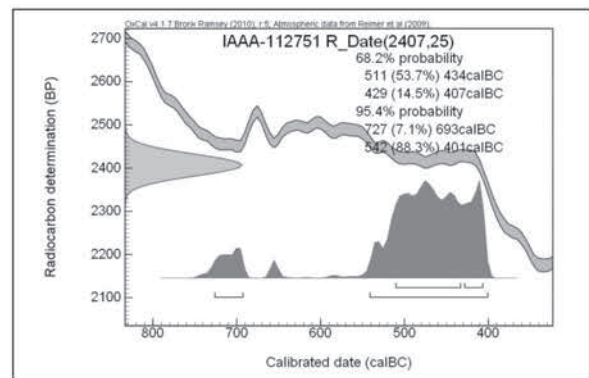
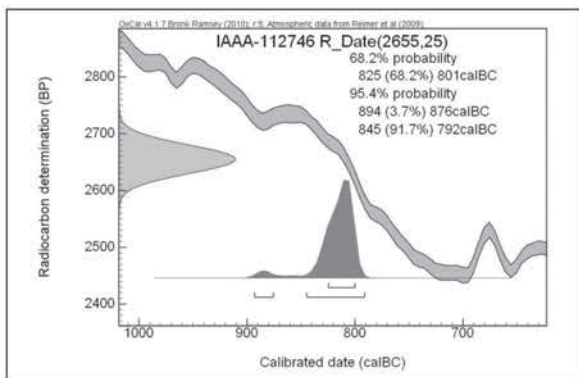
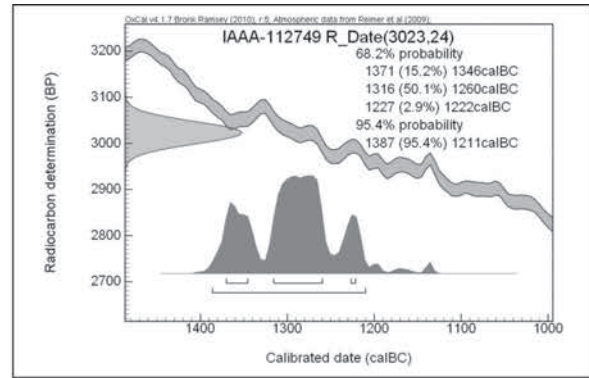
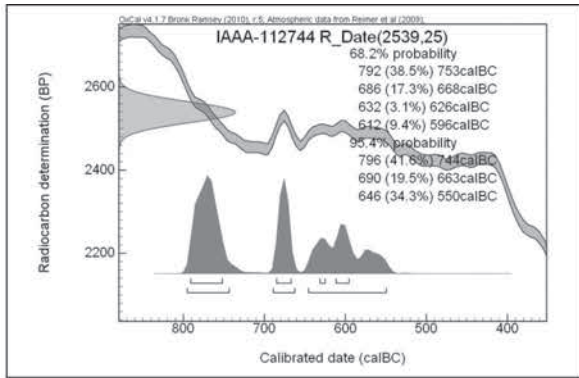
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

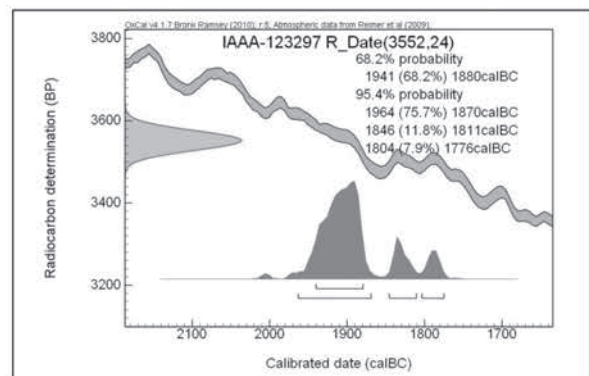
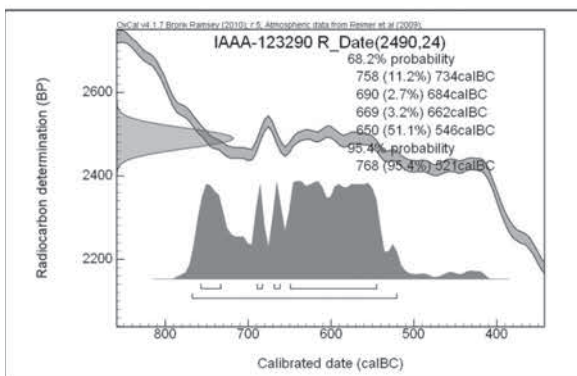
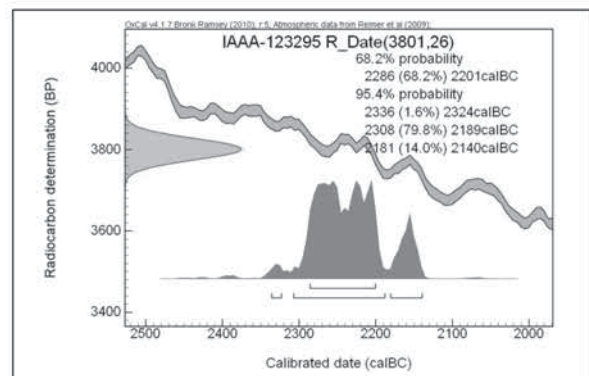
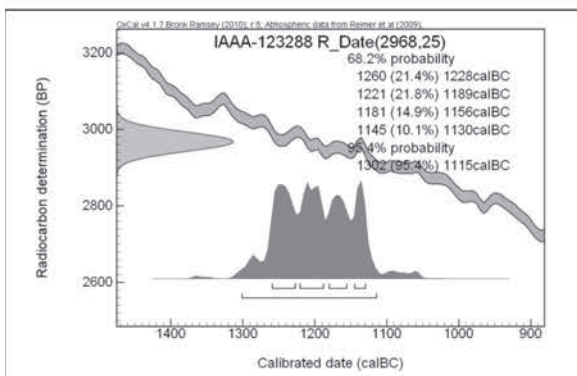
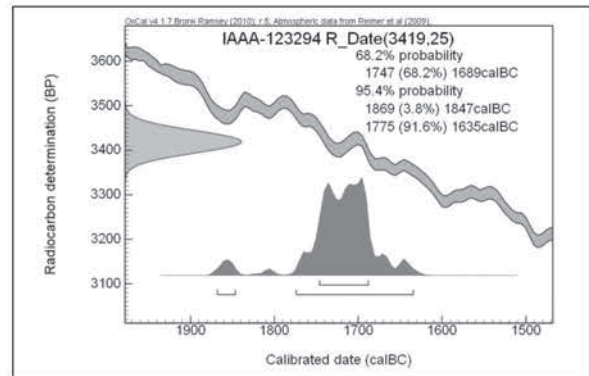
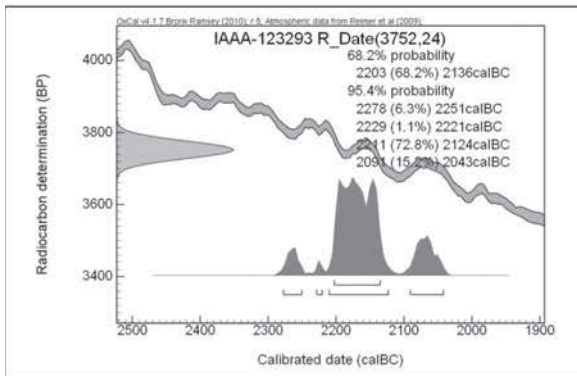
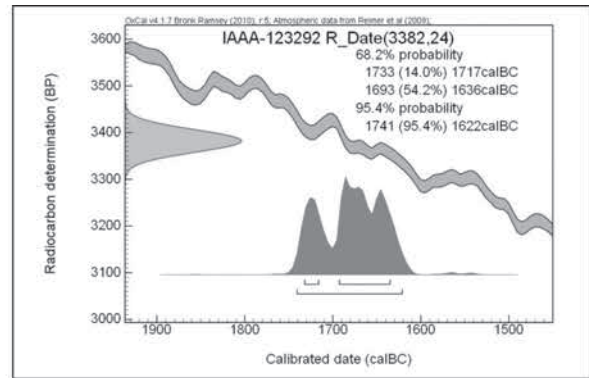
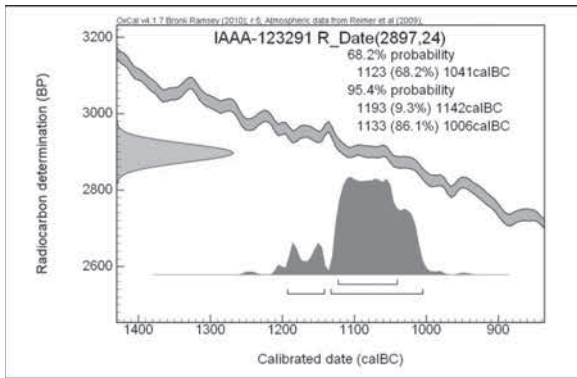
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

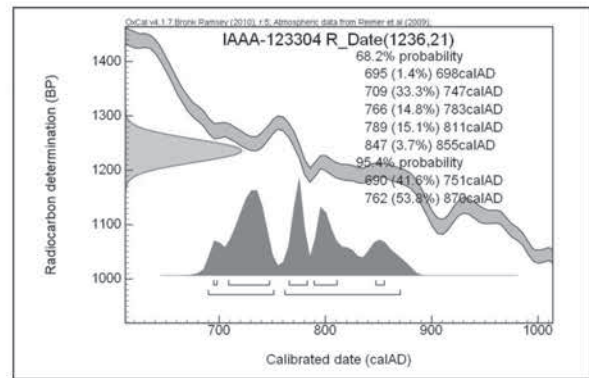
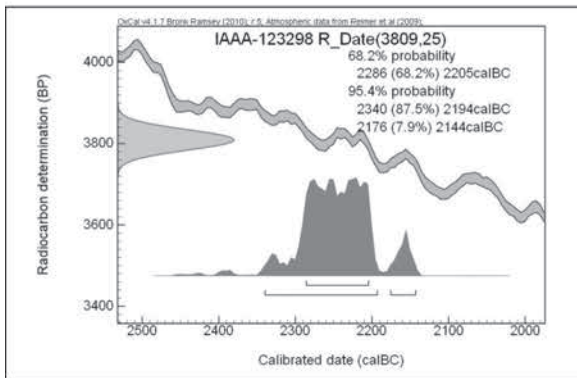
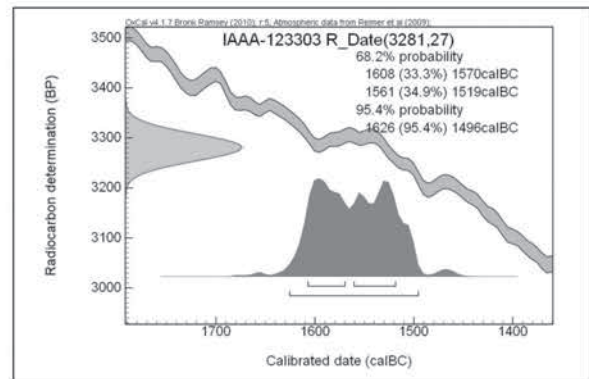
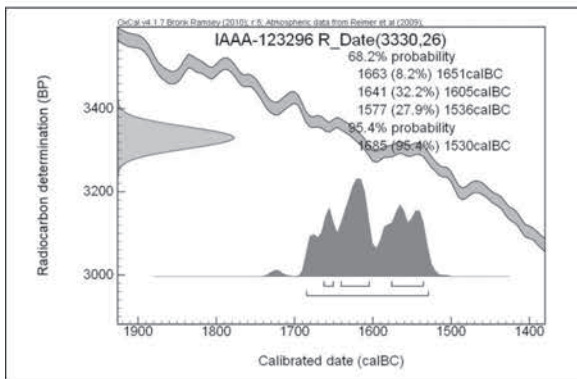
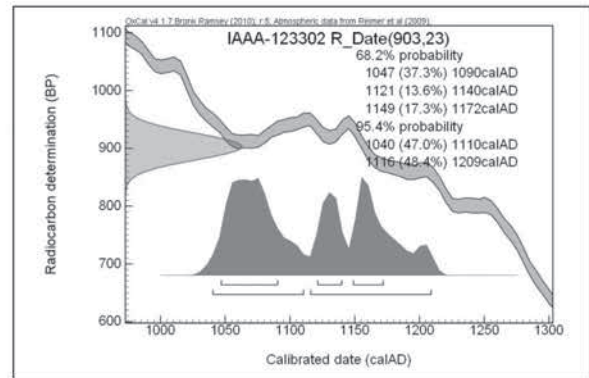
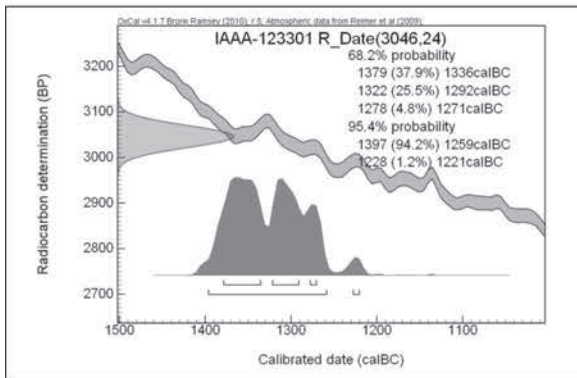
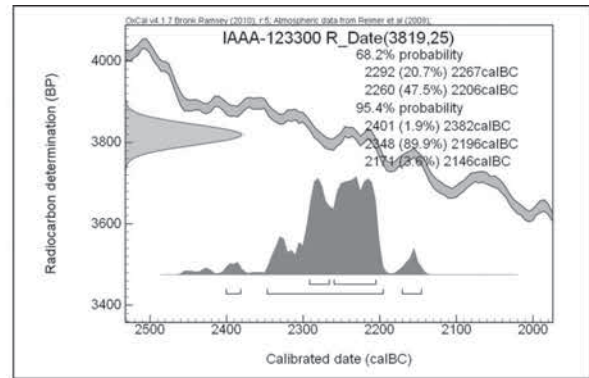
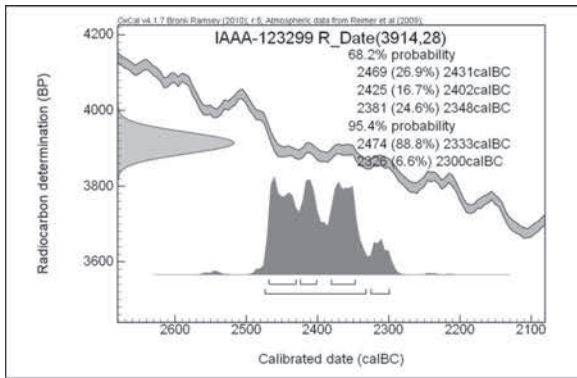






1 放射性炭素年代測定 (AMS測定)





[参考] 暦年較正年代グラフ

1 放射性炭素年代測定 (AMS測定)



新田 II -1



新田 II -2



新田 II -3



新田 II -4



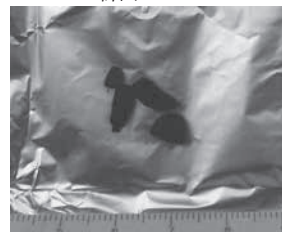
新田 II -5



新田 II -6



新田 II -7



新田 II -12



新田 II -13



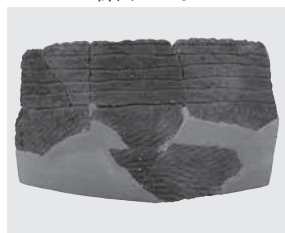
新田 II -14



新田 II -15



新田 II -16



新田 II -17



新田 II -18



新田 II -19



新田 II -20



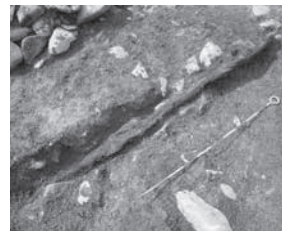
新田 II -21



新田 II -22



新田 II -23



新田 II -24



新田 II -25



新田 II -26



新田 II -27



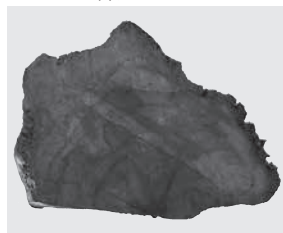
新田 II -28



新田 II -29



新田 II -30



新田 II -31



## 2 花粉分析

吉川昌伸（古代の森研舎）

### (1) はじめに

新田Ⅱ遺跡は、現新田沢が猿ヶ石川に合流する辺りの新田沢沿いの谷部から斜面にある。本遺跡の最も標高の高い部分は縄文前期の集落跡、中段部分は縄文中期の集落跡が確認されている。今回、遺跡内で最も西側の谷部分の発掘調査の結果、縄文時代中期中頃から平安時代にかけて、大きく7期の沢跡の変遷が確認された。各沢跡からは土器や石器、土偶などの遺物やトチノキ種皮やクルミ内果皮の破片も出土し、縄文人が水場や作業場、あるいはゴミ捨て場として利用されていたことがわかっている。ここでは周辺の植生や生業を解明する資料を得るため、沢内堆積物の花粉化石を調査した。

### (2) 試料と分析方法

試料は、NR05 沢跡、NR04 沢跡、NR02 沢跡内堆積物より採取した（図1）。NR05・NR06 沢跡は、最も古い流路で、縄文中期中頃から後期初頭頃に形成されたと考えられている。NR04 沢跡は、縄文後期初頭から中頃で、巨礫からなる砂礫層が厚く堆積し、各流路跡で最も流れの強い環境で形成された流路である。NR02 沢跡は縄文晩期中頃で、大洞 C2 式土器や石器、土偶などが大量に廃棄され、トチノキ種皮やクルミ内果皮の破片も大量に廃棄されていた。

分析地点の地質柱状図と花粉分析試料採取層準を図2に示す。各地点のセクション図と堆積物の記載はここでは示さないが、流路内堆積物は主にオリブ黒色シルト質細粒砂からなる。A(3B1)やB(4C5)地点の下部層では植物遺体を比較的多く含み、両地点の中部層では炭化物が集積した層が分布する。

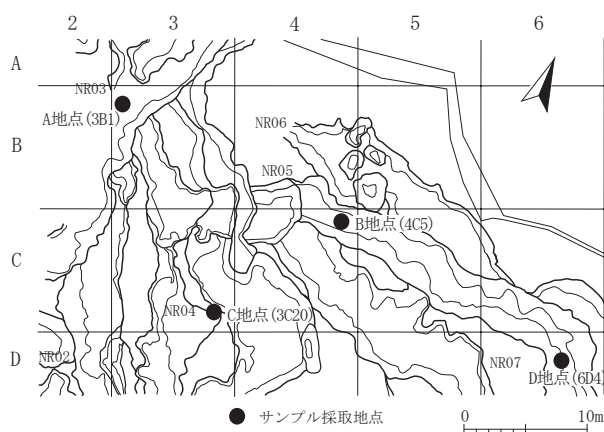


図1 分析試料採取地点

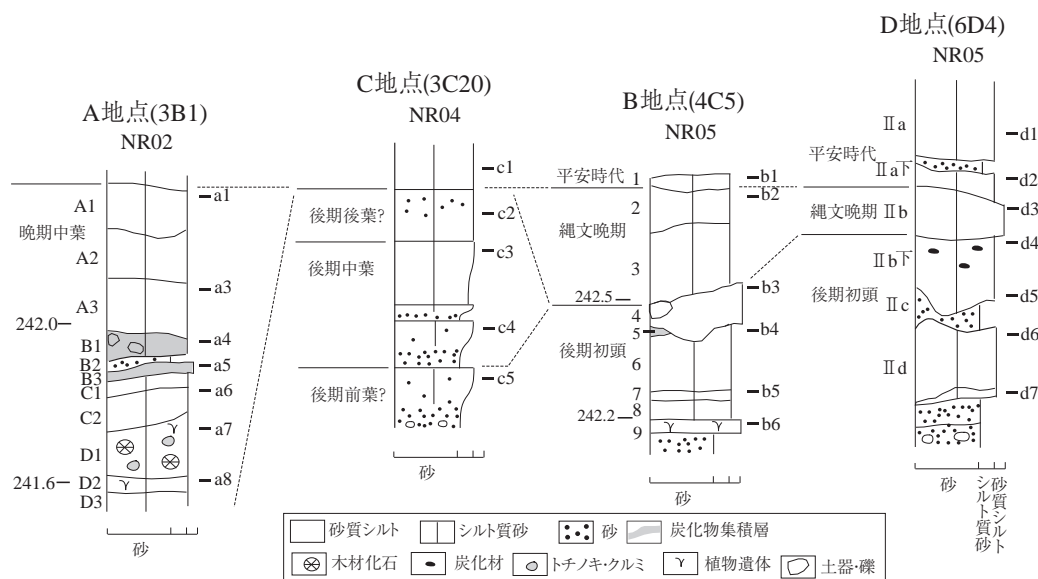


図2 地質柱状図と花粉分析試料採取層準

分析試料は4地点から採取した25試料である。試料は室内で柱状試料の内部より採取した。花粉化石の抽出は、試料約1～4gを秤量し体積を測定後に10%KOH（湯煎約15分）、傾斜法と篩（目の開き0.25mm）により粗い植物遺体と砂を取り除き、48%HF（約15分）、重液分離（比重2.15の臭化亜鉛）、アセトリシス処理（濃硫酸1:無水酢酸9の混液で湯煎5分）の順に処理を行った。なお、植物遺体を多く含むB(4C5)地点b6試料は重液分離を除く。プレパラート作製は、残渣を適量に希釈シタッチミキサーで十分攪拌後、マイクロピペットで取り重量を測定（感量0.1mg）シグリセリンで封入した。同定と計数はプレパラート1～2枚の全面を行った。また、堆積物の性質を調べるために、有機物量、シルト以下の細粒成分、砂分量、及び生業の指標となる微粒炭量について調査した。有機物量については強熱減量を測定した。強熱減量は、電気マッフル炉により750℃で3時間強熱し、強熱による減量を乾燥重量百分率で算出した。微粒炭量は、プレパラートの顕微鏡画像をデジタルカメラで取り込み、画像解析ソフトのImageJで75 μmより大きいサイズの微粒炭の積算面積を計測した。

### (3) 結果

分析試料の堆積物の特徴を表1に示す。堆積物は、細粒砂を主体とする無機物が卓越し、営力は弱いものの流水の影響のある環境で形成されている。

出現した分類群のリストとその個数を表2～5に、主要花粉分布図を図3～4に示す。出現率は、樹木は樹木花粉数、草本孢子は花粉孢子数を基数として百分率で算出した。図表中で複数の分類群をハイフンで結んだのは、分類群間の区別が明確でないものである。また、バラ科とマメ科で樹木と草本の区別が出来ない分類群は草本花粉としてまとめた。

4地点の主要樹木花粉の出現傾向に基づき、下位よりSD- I～V帯の5つの花粉化石群帯を設定する。

SD- I (b5～b6, c5, d4～d7)

SD- IはB(4C5)地点NR05沢跡内堆積物の下部(b5～b6)、D(6D4)地点NR05・06沢跡の下部(d4～d7)、C(3C20)

表1 新田Ⅱ遺跡分析試料の堆積物の特性(重量%)

グリッド	No.	層位	時期	堆積物の特徴	砂	シルト 粘土	強熱減量 (有機物量)
A地点(3B1) (NR02沢跡)	A1	A1		オリブ黒色シルト質細粒～極細粒砂	57.5	32.8	9.7
	A3	A3	晩期中葉	オリブ黒色シルト質中～細粒砂	70.5	20.4	9.1
	A4	B1	晩期中葉	オリブ黒色シルト質細粒砂、炭多く含む	45.9	30.3	23.8
	A5	B3	晩期中葉	黒色極細粒砂質シルト、炭多く含む	20.7	33.7	45.6
	A6	C2	晩期中葉	オリブ黒色シルト質極細粒砂	57.9	28.5	13.6
	A7	D1	晩期中葉	オリブ黒色有機質シルト質極細粒砂	64.2	17.9	17.9
	A8	D2	晩期中葉	オリブ黒色有機質シルト質極細粒砂	53.9	24.2	21.9
B地点(4C5) (NR05沢跡)	B1	1	平安	オリブ黒色シルト質細粒砂	51.0	38.4	10.6
	B2	2	縄文晩期	オリブ黒色シルト質細粒砂	53.3	33.7	13.0
	B3	4	縄文後期初頭	灰オリブ色極細粒砂質シルト	38.6	50.7	10.7
	B4	5	縄文後期初頭	黒色細粒砂質シルト、炭多く含む	30.4	41.6	28.0
	B5	7	縄文後期初頭	灰色シルト質極細粒砂	61.1	29.6	9.3
	B6	9	縄文後期初頭	黒色有機質極細粒砂質シルト、植物遺体多く含む	23.2	32.5	44.3
C地点(3C20) (NR04沢跡)	C1			オリブ黒色シルト質細粒砂	61.0	30.2	8.8
	C2		縄文後期後葉?	オリブ黒色シルト質細粒砂	61.0	30.8	8.2
	C3		後期中葉	灰オリブ色シルト質細粒砂	70.1	22.7	7.2
	C4		後期中葉	灰オリブ色シルト質細粒砂	75.0	19.9	5.1
	C5		後期前葉?	灰色シルト質細～中粒砂	78.6	17.3	4.1
D地点(6D4) (NR05沢跡)	D1	II a	平安	黒色有機質シルト質細粒砂	48.6	36.9	14.5
	D2	II a下	平安	褐灰色シルト質細粒砂	47.9	40.6	11.5
	D3	II b	縄文晩期	黒色有機質細粒砂質シルト	30.0	54.6	15.4
	D4	II b下	縄文後期初頭	オリブ黒色シルト質細粒砂、炭含む	58.9	28.2	12.9
	D5	II b下	縄文後期初頭	オリブ黒色シルト質細粒砂	56.5	33.9	9.6
	D6	II d	縄文後期初頭	オリブ黒色シルト質細粒砂	66.3	25.2	8.5
	D7	II d	縄文後期初頭	オリブ黒色有機質シルト質極細粒砂	59.8	27.4	12.8





出現し、アサが各地点から出現している。微粒炭は D(6D4) の II b 下層 (d4) で 3277mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> と多量に含まれ、他の層準や他地点でも 215 ~ 1368mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> と比較的多い。

#### SD- II (a4 ~ a8)

SD- II は A(3B1) 地点 NR02 沢跡内堆積物の下部 (a4 ~ a8) が相当する。SD- II の花粉組成は、SD- I と類似するがクリが増加傾向を示すこと、時期が異なることから区別した。本帯下部ではコナラ亜属とトチノキが高率で出現し、上部でクリが増加し高率を占める。上部の a5 では花粉の保存が悪いためクリ型とした花粉がクリ属の大半を占める。クリ型を含めたクリの頻度は下部で 13%、上部では 46% と高率である。トチノキは下部では 37% であるが、上部では減少して低率になる。他にクルミ属やクマシデ属-アサダ属、ケヤキ属型、カツラ属、カエデ属、トネリコ属などが出現する。微粒炭は、下部では 189-1050 mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> であるが、上部では 4736 ~ 5234 mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> と夥しい量の炭が含まれる。

#### SD- III (a4 ~ a8)

SD- III は D(6D4) 地点 NR05 沢跡内堆積物の中部 (d2 ~ d3)、B(4C5) 地点 NR05 沢跡の上部 (b2)、A(3B1) 地点 NR02 沢跡の上部 (a1 ~ a3) が相当する。本帯ではコナラ亜属が高率で出現し、ケヤキ属型を伴う。ケヤキ属型は特に D(6D4) 地点で比較的多く占める。また、前期まで高率で出現していたクリは低率になる。他にサワグルミ属、ハンノキ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属などが出現し、トチノキは 4 ~ 11% を占める。草本ではイネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科などが出現し、D(6D4) 地点からはアサ型が検出される。微粒炭は 310 ~ 764 mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> と幾分多い。

#### SD- IV (d1)

SD- IV は D(6D4) 地点 NR05・06 沢跡内堆積物の上部 (d1) と B(4C5) 地点 NR05 沢跡の上部 (b1) が相当する。コナラ亜属が比較的高率を占め、クリが高率ないし比較的高率で出現する。ケヤキ属型は減少し低率になる。他にクマシデ属-アサダ属、ブナ、スギの頻度が幾分高くなるが、全体に占める樹木花粉の頻度は低くなる。クリは 5C 地点では 38%、D(6D4) で 15% を占める。草本ではイネ科の野生型とイネ型、カヤツリグサ科、ヨモギ属、タンポポ亜科が比較的多く占め、アサやソバ属などが出現する。微粒炭は 426 ~ 694 mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> と比較的多く含まれる。

#### SD- V (c1)

SD- V は C(3C20) 地点 NR04 沢跡内堆積物の上部 (c1) が相当する。針葉樹のスギが高率に出現し、マツ属複雑維管束亜属を比較的高率で伴うことにより特徴づけられる。他にクリが 11% を占めるが、他の分類群は低率で、コナラ亜属やトチノキ、カエデ属などが出現している。草本ではイネ科の野生型やヨモギ属が幾分多く占め、イネ型、アブラナ科などが出現している。微粒炭は 1293 mm<sup>2</sup>/cm<sup>3</sup> と多く含まれる。

### (4) 考 察

各地点の堆積物の考古遺物編年に基づくと、周囲の植生は下位より A ~ E の 5 時期に区分される。A ~ E 期は花粉化石群帯の SD- I ~ V 帯にそれぞれ対応する。

- A 期：クリ林とトチノキ林期（縄文後期初頭頃）
- B 期：クリ林の拡大とトチノキ林期（縄文晩期中葉頃）
- C 期：コナラ亜属とケヤキを主とする落葉広葉樹林期（縄文晩期頃）
- D 期：落葉広葉樹林の縮小及びコナラ亜属とクリ林期（平安時代）
- E 期：スギが優勢な林期（中世頃）
- A 期：クリ林とトチノキ林期（縄文後期初頭頃）

この期の堆積物は、NR05 沢跡 B(4C5) 地点、NR05 沢跡 D(6D4) 地点、NR04 沢跡 C(3C20) 地点で確認され、土器形式編年からは縄文後期初頭頃と推定される。各分析地点と陸域までの距離は、NR05・06 沢跡は低地の東端にあり約 10m、C(3C20) は低地の中央付近であるため約 20～30m である。また、花粉化石群は河川堆積物のため飛来花粉と流水により上流域から搬入された花粉から構成される。

花粉化石群の組成は、コナラ亜属やケヤキなどの風媒花粉よりもクリやトチノキの虫媒花粉の頻度が高い。クリとクリ型を含む頻度は、D(6D4) で 24～52%、B(4C5) で 23～36%、C(3C20) で 38% と各地点とも高率である。また、トチノキは D(6D4) や C(3C20) 下部で 32～33% と高率を占める。クリ花粉は、クリ林の周囲に落葉広葉樹林が広がっている地点においては、樹木花粉比率がクリ純林内で 30% 以上、林内に約 25m 以上入った中央部で約 60% 以上を占め、クリ林から離れると急減し、風下側の樹冠縁から約 20 m で 5% 以下、約 200 m では 1% 以下とクリ花粉の散布範囲が狭いことが明らかになっている（吉川，2011）。さらに、空中浮遊花粉と落下花粉がクリ林から約 15m 以内で急減すること、虫媒種のトチノキの飛散範囲はクリより狭く樹冠縁から約 10m 以内で急減することがわかっている（未公表）。つまり、A 期では風媒花粉よりも虫媒花粉が優勢であることから、沢の側はコナラ亜属やケヤキなどの風媒種の樹木は稀で、沢筋にトチノキが分布しその内陸側にクリ林が広がっていたと考えられる。さらに、上流の沢沿いにコナラ亜属などの風媒種の樹木が分布していた場合にはクリ花粉の頻度が過小に表現されるが、この期では頻度が 30% を超える層準が多いため上流域の沢沿いにもクリが優勢な林が広がっていた可能性が推測される。また、クリ林の内陸側にはコナラ亜属を主としケヤキやニレ属、クワ科、クロウメモドキ科（ケンボナシ属の根材出土）、カエデ属、ウコギ科などからなる落葉広葉樹林が分布し、林縁にはニワトコ属、川沿いにはオニグルミも分布していた。一方、アサ花粉が僅かではあるが各地点から検出されていることから、周辺でアサの栽培が行われていたと推測される。アサ花粉は風媒種で散布範囲が広いことから、仮にアサ畑が分析地点の風上にある場合は数 100m 以上離れた所（未公表）、風下の場合は場所を限定できないが近傍にあった可能性もある。

クリ林は、縄文早期後葉に新潟県中越地方の卯ノ木泥炭層遺跡（吉川，2012）や宮城県里浜貝塚（吉川・吉川，2003）などの遺跡で形成され、縄文前期や中期には関東から東北地方の各地の集落の周辺で広く形成されていた。おそらく早期にはクリの木を積極的に保護し、前期以降には居住地の周囲を切り開いてクリを播く、あるいは植栽してクリ林を形成し維持管理していた可能性も推測される。

堅果類ではクリとトチノキが多く、オニグルミが少量出土している。クリやトチノキは果皮の破片や割り痕跡のある果皮、種子の破片などの利用痕跡のある遺体が多く、少なくとも縄文後期初頭にはすでにトチノキが利用されていたと考えられる。トチノキは、縄文中期後半以降に関東から東北地方の丘陵や台地の谷筋から斜面を中心にクリ林の縮小に伴って拡大する遺跡が多くみられ（吉川，2008）、近野遺跡（青森県埋蔵文化財調査センター，2006）や三内丸山(9) 遺跡（青森県埋蔵文化財調査センター，2008）では縄文中期中葉頃のトチノキ種子片集積遺構が検出されている。

B 期：クリ林の拡大とトチノキ林期（縄文晩期中葉頃）

この時期の堆積物は NR02 沢跡 A(3B1) 地点で確認され、土器型式編年からは縄文晩期中葉と推定される。分析地点から陸域までの距離は約 20m である。

花粉化石群の組成は A 期とほぼ同様で、クリとトチノキが高率を占め、コナラ亜属が比較的高率で出現する。A 期の縄文後期から大きな変化がなく同様な植生が継続していた可能性もある。しかし、東京都東村山市下宅部遺跡（未公表）のようにクリ林が縄文後期に縮小したが縄文晩期に再び形成された事例もあることから、A 期と同様な植生が継続して分布していたとは限らない。また、クリが増

加傾向を示すことから A 期と区分した。但し、周辺のクリ林やトチノキ、コナラ亜属を主とする落葉広葉樹林の分布状況については A 期とおおむね同様である。一方、B 期の堆積物の上部の B1 と B3 層には夥しい量の微粒炭が含まれ、B3 層でクリ花粉が 46% と高頻度になる。最上部の B1 層は乾陸化し花粉化石の残りが悪いいため花粉組成がはっきりしないが、B1 ～ B3 層が堆積した頃には縄文後期以降においてこの付近で最も規模の大きなクリ林が形成された可能性がある。なお、縄文晩期層からは利用痕跡が認められるオニグルミ内果皮やトチノキ種子片が多く出土している。

C 期：コナラ亜属とケヤキを主とする落葉広葉樹林期（縄文晩期頃）

この時期の堆積物は NR05 沢跡 B(4C5) 地点、NR05 沢跡 D(6D4) 地点、NR02 沢跡 A(3B1) 地点で確認され、土器形式編年からは縄文晩期頃と推定される。

C 期には、縄文晩期中葉に形成されたクリ林が縮小して疎らになり、コナラ亜属やケヤキ、カエデ属を主とする落葉広葉樹林へと変化した。一方でトチノキは沢の側に分布していたようである。B 期と C 期で周辺の植生が大きく変化しているが、その変遷が分かる花粉組成は得られていない。また、B 期上部の B1 層に含まれる夥しい微粒炭がクリ林の縮小と関係しているかどうかについては、花粉化石が稀なため明らかでない。

D 期：落葉広葉樹林の縮小とコナラ亜属とクリ林期（平安時代）

この時期の堆積物は NR05 沢跡 B(4C5) 地点と NR05 沢跡 D(6D4) 地点で確認され、土器形式編年に基づき平安時代と推定されている。

周辺の植生は、コナラ亜属やクリ、クマシデ属－アサダ属、ケヤキ、カエデ属、ウコギ科、トチノキ、サワグルミ属などの植物相からなる落葉広葉樹林が形成されていた。B(4C5) 地点ではクリが 38% と高率で出現することから、B(4C5) 地点の近傍の東側の斜面にクリ個体があったことは確かで、クリ林であった可能性もある。一方で、イネ型花粉が出現し、抽水植物のオモダカ属やサジオモダカ属を伴うことから、周辺で水田稲作が行われていたと考えられる。また、周辺の乾陸地ではソバやアサの栽培も行われていたと推測される。

E 期：スギが優勢な林期（中世頃）

この時期の堆積物は、NR04 沢跡 C(3C20) 地点で確認され、晩期中葉の土器が包含されているものの花粉組成からは中世頃の比較的新しい堆積物と推定される。

この期には周辺の森林植生が大きく変化する。つまり、コナラ亜属を主とする落葉広葉樹林は縮小し、針葉樹のスギやマツ属複雑管束亜属が優勢な植生へと変化した。またクリはスギ林の縁の沢側に生えていたようである。東北地方におけるスギ林の拡大は地点により異なり、東北地方の日本海側より太平洋側で遅れる。また、岩手山南東麓春子谷地湿原（標高 460m）（吉田・吉木，2008）や仙台平野北部の沼向遺跡（吉川，2010）では十和田 a テフラ降灰頃、岩手県南部の一関市巖美町本寺地区では 14 世紀頃以降である（平塚ほか，2013）。したがって、本遺跡におけるスギ林の拡大も中世頃である可能性が高い。一方、イネ型花粉が出現していることから、周辺では水田稲作を行っていたようである。



## 引用文献

- 青森県埋蔵文化財調査センター, 編. 2006. 近野遺跡Ⅸ－県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－. 青森県埋蔵文化財調査報告書第418集. 476pp. 青森県教育委員会. 青森.
- 青森県埋蔵文化財調査センター, 編. 2008. 三内丸山(9)遺跡Ⅱ－東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－. 青森県埋蔵文化財調査報告書第448集. 90pp. 青森県教育委員会. 青森.
- 平塚 明・島田直明・吉木岳哉・吉川昌伸. 2013. 一関市巖美町本寺地区磐井川左岸の旧河道における花粉分析. 「骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告書(自然)骨寺村荘園遺跡村落景観調査研究自然関係調査平成23年度業務報告書」(一関市博物館骨寺村荘園遺跡村落調査研究自然調査研究班 編):21-34.
- 吉田明弘・吉木岳哉. 岩手山南東麓春子谷地湿原の花粉分析からみた約13,000年前以降の植生変遷と気候変化. 地理学評論, 81:228-237.
- 吉川昌伸. 2008. 東北地方の縄文時代中期から後期の植生とトチノキ林の形成. 環境文化史研究1号:27-35.
- 吉川昌伸. 2010. 沼向遺跡平成14年度(第19次調査)花粉分析. 「沼向遺跡第4～34次調査 第9分冊」(仙台市教育委員会編):197-204.
- 吉川昌伸. 2011. クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況. 植生史研究, 18:65-76.
- 吉川昌伸. 2012. 卯ノ木泥炭層遺跡の花粉化石群. 日本学術振興会科学研究費補助金基礎研究B 研究成果報告書「新潟県卯ノ木泥炭層遺跡の発掘調査による縄文文化形成期の古環境と生業の研究」(研究代表者:谷口康浩):199-210, 國學院大學文学部考古学研究室.
- 吉川昌伸・吉川純子. 2003. 里浜貝塚西畑北地点における縄文時代前期の植物化石群. 「里浜貝塚 平成13・14年発掘調査概報」(鳴瀬町教育委員会編):39-53.

## 2 花粉分析

表2 A 地点 (3B1) より出現した花粉化石の一覧表

	和名	学名	A1	A3	B1	B3	C2	D1	D2
			a1	a3	a4	a5	a6	a7	a8
樹木									
	トウヒ属	<i>Picea</i>	-	-	-	1	1	-	1
	マツ属複雑管束亜属	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	-	-	-	1	2	1	1
	マツ属 (不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	1	-	-	-	-	-	-
	コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	-	-	1	1	-	-
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L.fil.)D.Don</i>	-	-	-	1	3	4	3
	ノグルミ属	<i>Platycarya</i>	-	-	-	-	1	-	-
	サワグルミ属	<i>Pterocarya</i>	1	1	-	-	-	2	-
	クルミ属	<i>Juglans</i>	-	1	-	3	16	9	3
	サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya - Juglans</i>	2	-	-	-	-	-	-
	クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	1	-	-	2	11	5	2
	カバノキ属	<i>Betula</i>	2	-	-	-	2	-	2
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	7	5	2	8	4	-	2
	ブナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	2	-	-	-	1	-	-
	イヌブナ	<i>Fagus japonica Maxim.</i>	1	-	-	-	-	-	-
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	52	13	2	54	62	62	30
	コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	-	-	-	-	3	-	-
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	-	1	-	3	115	38	13
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	1	4	7	84	-	-	-
	シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	-	1	1
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	-	2	-	1	2	3	-
	ケヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	7	4	2	17	19	11	4
	ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	6	2	-	-	2	-	-
	エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis - Apananthe</i>	-	-	-	-	1	-	-
	クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	-	-	-	1	-
	カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	-	-	-	-	2	3	-
	コクサギ属	<i>Orixa</i>	-	-	-	-	1	-	-
	キハダ属	<i>Phellodendron</i>	-	-	-	-	1	1	-
	モチノキ属	<i>Ilex</i>	-	-	-	1	-	-	-
	カエデ属	<i>Acer</i>	4	2	1	1	1	2	2
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	7	1	1	11	45	26	38
	クロウメモドキ科	<i>Rhamnaceae</i>	-	-	-	-	1	-	-
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	3	-	-	1	1	2	-
	ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	3	1	-	-	1	1	-
	トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	-	-	-	7	13	-
	ガマズミ属	<i>Viburnum</i>	-	-	-	-	-	-	1
草本									
	イネ科 (野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	6	3	1	7	-	1	1
	カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	-	-	-	-	2	1	-
	アサ-カナムグラ属	<i>Cannabis sativa - Humulus</i>	1	1	-	-	-	-	1
	アカザ科	<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	-	1	-	-	-
	カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	4	3	4	5	1	-	-
	他のキンポウゲ科	<i>other Ranunculaceae</i>	-	-	-	-	-	1	-
	マメ科	<i>Leguminosae</i>	-	-	-	-	-	-	1
	セリ科	<i>Umbelliferae</i>	2	-	1	6	1	-	-
	ヘクソカズラ属	<i>Paederia</i>	-	-	-	-	-	-	1
	ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	20	9	4	6	2	5	-
	他のキク亜科	<i>other Tubuliflorae</i>	9	1	1	2	-	-	1
	タンポポ亜科	<i>Liguliflorae</i>	2	1	-	2	-	-	-
シダ植物									
	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	2	1	-	2	3	-	-
	他のシダ植物胞子	<i>other Pteridophyta</i>	6	5	2	10	9	5	2
樹木花粉									
	樹木花粉	<i>Arboreal pollen</i>	100	37	15	190	306	185	103
草本花粉									
	草本花粉	<i>Nonarboreal pollen</i>	45	18	11	29	6	8	5
シダ植物胞子									
	シダ植物胞子	<i>Fern spores</i>	8	6	2	12	12	5	2
花粉・胞子数									
	花粉・胞子数	<i>Pollen and Spores</i>	153	61	28	231	324	198	110
不明花粉									
	不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	32	6	5	6	10	3	7
樹木花粉量 (粒/cm <sup>3</sup> )									
	樹木花粉量 (粒/cm <sup>3</sup> )		259	254	870	6841	13207	1984	1203
微粒炭量 (mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )									
	微粒炭量 (mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )		694	775	5234	4736	404	1050	189

表3 B地点(4C5)より出現した花粉化石の一覧表

	和名	学名	1	2	3	4	5
			c1	c2	c3	c4	c5
樹木							
	マツ属複雑管束亜属	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	42	-	-	-	-
	マツ属(不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	4	-	-	-	-
	コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	1	-	-	-	-
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L.fil.)D.Don</i>	155	1	-	-	-
	イチイ科-ヒノキ科-イヌガヤ科	<i>Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae</i>					
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis type</i>	4	-	-	-	-
	ヤナギ属	<i>Salix</i>	1	-	-	-	-
	サワグルミ属	<i>Pterocarya</i>	-	-	-	-	3
	クルミ属	<i>Juglans</i>	1	-	-	1	4
	サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya - Juglans</i>	-	1	-	1	5
	クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	-	-	-	-	2
	カバノキ属	<i>Betula</i>	1	-	-	-	-
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	4	2	-	-	3
	ブナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	-	-	-	-	2
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	9	7	1	14	59
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	28	-	-	1	133
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	-	1	1	12	1
	シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	1
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	1	-	-	-	3
	ケヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	2	6	-	4	9
	カエデ属	<i>Acer</i>	1	-	-	3	4
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	7	2	1	20	115
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	-	2	1	2	4
	マタタビ属	<i>Actinidia</i>	1	-	-	-	-
	ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	-	-	-	2	1
	スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	-	-	-	-	1
草本							
	イネ科(イネ型)	<i>Gramineae (Oryza type)</i>	25	-	-	-	-
	イネ科(野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	43	3	-	4	4
	カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	10	2	-	1	-
	アサ	<i>Cannabis sativa L.</i>	-	-	-	1	-
	カナムグラ属	<i>Humulus</i>	-	-	-	-	1
	アサ-カナムグラ属	<i>Cannabis sativa - Humulus</i>	1	-	-	-	2
	クワ科-イラクサ科	<i>Moraceae - Urticaceae</i>	1	-	-	-	-
	ギンギン属	<i>Rumex</i>	1	-	-	-	-
	アカザ科	<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	-	-	1
	カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	3	-	-	-	-
	他のキンポウゲ科	<i>other Ranunculaceae</i>	1	1	-	-	-
	アブラナ科	<i>Cruciferae</i>	2	4	-	-	-
	セリ科	<i>Umbelliferae</i>	4	-	-	-	-
	ヘクソカズラ属	<i>Paederia</i>	-	-	-	-	-
	ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	40	5	-	2	5
	他のキク亜科	<i>other Tubuliflorae</i>	4	2	1	1	1
	タンポポ亜科	<i>Liguliflorae</i>	18	2	-	-	-
シダ植物							
	ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	1	-	-	1	-
	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	1	-	-	3	4
	他のシダ植物胞子	<i>other Pteridophyta</i>	43	-	-	3	-
他のバリノモルフ							
	鞭虫(寄生虫卵)	<i>Trichuris (egg)</i>	1	-	-	-	-
樹木花粉							
	樹木花粉	<i>Arboreal pollen</i>	262	22	4	60	350
草本花粉							
	草本花粉	<i>Nonarboreal pollen</i>	154	19	1	9	14
シダ植物胞子							
	シダ植物胞子	<i>Fern spores</i>	45	0	0	7	4
花粉・胞子数							
	花粉・胞子数	<i>Pollen and Spores</i>	461	41	5	76	368
不明花粉							
	不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	16	16	2	1	2
樹木花粉量(粒/cm <sup>3</sup> )							
	樹木花粉量(粒/cm <sup>3</sup> )		3470	112	14	296	2624
微粒炭量(mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )							
	微粒炭量(mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )		1293	475	127	338	488



## 2 花粉分析

表4 C地点(3C20)より出現した花粉化石の一覧表

	和名	学名	c1	c2	c3	c4	c5
樹木							
	マツ属複雑管束亜属	<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	42	-	-	-	-
	マツ属(不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	4	-	-	-	-
	コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	1	-	-	-	-
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L.fil.)D.Don</i>	155	1	-	-	-
	イチイ科-ヒノキ科-イヌガヤ科	<i>Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae</i>					
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis type</i>	4	-	-	-	-
	ヤナギ属	<i>Salix</i>	1	-	-	-	-
	サワグルミ属	<i>Pterocarya</i>	-	-	-	-	3
	クルミ属	<i>Juglans</i>	1	-	-	1	4
	サワグルミ属-クルミ属	<i>Pterocarya - Juglans</i>	-	1	-	1	5
	クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	-	-	-	-	2
	カバノキ属	<i>Betula</i>	1	-	-	-	-
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	4	2	-	-	3
	ブナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	-	-	-	-	2
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	9	7	1	14	59
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	28	-	-	1	133
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	-	1	1	12	1
	シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	-	-	-	-	1
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	1	-	-	-	3
	ケヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	2	6	-	4	9
	カエデ属	<i>Acer</i>	1	-	-	3	4
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	7	2	1	20	115
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	-	2	1	2	4
	マタタビ属	<i>Actinidia</i>	1	-	-	-	-
	ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	-	-	-	2	1
	スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	-	-	-	-	1
草本							
	イネ科(イネ型)	<i>Gramineae (Oryza type)</i>	25	-	-	-	-
	イネ科(野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	43	3	-	4	4
	カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	10	2	-	1	-
	アサ	<i>Cannabis sativa L.</i>	-	-	-	1	-
	カナムグラ属	<i>Humulus</i>	-	-	-	-	1
	アサ-カナムグラ属	<i>Cannabis sativa - Humulus</i>	1	-	-	-	2
	クワ科-イラクサ科	<i>Moraceae - Urticaceae</i>	1	-	-	-	-
	ギシギシ属	<i>Rumex</i>	1	-	-	-	-
	アカザ科	<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	-	-	1
	カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	3	-	-	-	-
	他のキンポウゲ科	<i>other Ranunculaceae</i>	1	1	-	-	-
	アブラナ科	<i>Cruciferae</i>	2	4	-	-	-
	セリ科	<i>Umbelliferae</i>	4	-	-	-	-
	ヘクソカズラ属	<i>Paederia</i>	-	-	-	-	-
	ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	40	5	-	2	5
	他のキク亜科	<i>other Tubuliflorae</i>	4	2	1	1	1
	タンポポ科	<i>Liguliflorae</i>	18	2	-	-	-
シダ植物							
	ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	1	-	-	1	-
	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	1	-	-	3	4
	他のシダ植物孢子	<i>other Pteridophyta</i>	43	-	-	3	-
他のバリノモルフ							
	鞭虫(寄生虫卵)	<i>Trichuris (egg)</i>	1	-	-	-	-
樹木花粉							
	樹木花粉	<i>Arboreal pollen</i>	262	22	4	60	350
草本花粉							
	草本花粉	<i>Nonarboreal pollen</i>	154	19	1	9	14
シダ植物孢子							
	シダ植物孢子	<i>Fern spores</i>	45	0	0	7	4
花粉・孢子数							
	花粉・孢子数	<i>Pollen and Spores</i>	461	41	5	76	368
不明花粉							
	不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	16	16	2	1	2
樹木花粉量(粒/cm <sup>3</sup> )							
	樹木花粉量(粒/cm <sup>3</sup> )		3470	112	14	296	2624
微粒炭量(mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )							
	微粒炭量(mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )		1293	475	127	338	488

表5 D地点(6D4)より出現した花粉化石の一覧表

			II a	II a 下	II b	II b 下	II b 下	II d	II d
			d1	d2	d3	d4	d5	d6	d7
樹木									
	マキ属	<i>Podocarpus</i>	-	-	-	1	-	-	-
	トウヒ属	<i>Picea</i>	-	1	-	1	-	-	-
	マツ属単維管束亜属	<i>Pinus subgen. Haploxyton</i>	-	3	2	1	-	2	-
	マツ属複維管束亜属	<i>Pinus subgen. Diploxyton</i>	1	5	2	3	2	4	2
	マツ属(不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	1	1	-	-	1	1	-
	スギ	<i>Cryptomeria japonica (L.fil.)D.Don</i>	5	6	1	-	2	5	2
	イチイ科-ヒノキ科-イヌガヤ科	<i>Taxaceae - Cupressaceae - Cephalotaxaceae</i>	-	-	-	-	-	2	-
	ヒノキ型	<i>Chamaecyparis type</i>	-	-	-	-	-	2	-
	ヤナギ属	<i>Salix</i>	2	1	1	-	-	1	2
	サワグルミ属	<i>Pterocarya</i>	5	9	3	2	-	2	1
	クルミ属	<i>Juglans</i>	1	1	2	4	3	13	12
	クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	11	2	6	1	3	4	1
	カバノキ属	<i>Betula</i>	-	1	1	1	2	1	1
	ハンノキ属	<i>Alnus</i>	8	15	17	6	16	4	3
	ブナ	<i>Fagus crenata Blume</i>	12	4	1	3	-	3	3
	イヌブナ	<i>Fagus japonica Maxim.</i>	1	-	-	-	-	-	1
	コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	45	37	102	61	94	86	66
	コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	1	-	1	-	-	1	2
	クリ	<i>Castanea crenata Sieb. et Zucc.</i>	20	6	3	8	168	88	138
	クリ型	<i>Castanea crenata type</i>	1	-	3	34	47	1	-
	シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	2	-	-	-	1	1	2
	ニレ属	<i>Ulmus</i>	2	5	10	3	3	2	4
	ケヤキ属型	<i>Zelkova type</i>	9	33	46	15	12	16	9
	エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis - Apananthe</i>	-	-	3	-	-	-	-
	クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	-	-	-	-	2
	カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	2	-	-	-	-	-	-
	モクレン属	<i>Magnolia</i>	-	1	-	-	-	-	-
	キハダ属	<i>Phellodendron</i>	-	-	-	-	-	-	1
	ユズリハ属	<i>Daphniphyllum</i>	-	-	-	-	-	-	1
	スルデ	<i>Rhus javanica var. roxburghii</i>	-	-	-	-	2	-	-
	ニシキギ属	<i>Euonymus</i>	-	-	-	-	-	-	1
	カエデ属	<i>Acer</i>	4	6	6	3	5	1	2
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata Blume</i>	6	10	10	22	42	53	120
	シナノキ属	<i>Tilia</i>	1	10	2	-	-	1	-
	ウコギ科	<i>Araliaceae</i>	4	1	1	1	5	1	-
	イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	1	-	-	-	1	-	-
	トネリコ属	<i>Fraxinus</i>	-	3	5	7	4	3	3
草本									
	ミクリ属	<i>Sparganium</i>	-	-	1	-	-	-	-
	サジオモダカ属	<i>Alisma</i>	2	-	-	-	-	-	-
	オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	1	-	-	-	-	-	-
	イネ科(イネ型)	<i>Gramineae (Oryza type)</i>	44	-	-	-	-	-	-
	イネ科(野生型)	<i>Gramineae (Wild type)</i>	54	1	39	15	21	5	8
	カヤツリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	60	24	13	4	12	9	7
	ホシクサ属	<i>Eriocaulon</i>	1	-	-	-	-	-	-
	ギボウシ属	<i>Hosta</i>	-	-	-	-	1	-	-
	アサ	<i>Cannabis sativa L.</i>	-	1	-	-	-	-	-
	アサ-カナムグラ属	<i>Cannabis sativa - Humulus</i>	-	-	-	-	-	-	1
	クワ科-イラクサ科	<i>Moraceae - Urticaceae</i>	-	-	-	-	1	1	2
	イヌタデ属	<i>Persicaria</i>	-	-	-	1	-	1	-
	アカザ科	<i>Chenopodiaceae</i>	1	-	1	-	-	-	-
	カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	-	-	5	4	23	1	-
	他のキンポウゲ科	<i>other Ranunculaceae</i>	-	2	2	5	13	1	1
	ユキノシタ科	<i>Saxifragaceae</i>	-	-	-	-	-	1	-
	他のバラ科	<i>other Rosaceae</i>	1	-	-	-	-	-	2
	マメ科	<i>Leguminosae</i>	1	-	-	-	-	-	1
	ツリフネソウ属	<i>Impatiens</i>	2	-	-	-	-	-	1
	ミソハギ属	<i>Lythrum</i>	-	-	-	-	1	-	-
	セリ科	<i>Umbelliferae</i>	1	-	1	-	1	1	-
	ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	33	9	42	8	23	7	4
	他のキク亜科	<i>other Tubuliflorae</i>	4	3	16	1	7	1	1
	タンポポ亜科	<i>Liguliflorae</i>	1	-	-	1	-	-	-
シダ植物									
	ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	1	-	-	-	-	-	-
	ゼンマイ属	<i>Osmunda</i>	2	4	17	2	3	-	1
	他のシダ植物胞子	<i>other Pteridophyta</i>	47	32	16	12	24	8	7
樹木花粉		<i>Arboreal pollen</i>	145	161	228	177	413	296	379
草本花粉		<i>Nonarboreal pollen</i>	206	40	120	39	103	28	28
シダ植物胞子		<i>Fern spores</i>	50	36	33	14	27	8	8
花粉・胞子数		<i>Pollen and Spores</i>	401	237	381	230	543	332	415
不明花粉		<i>Unknown pollen</i>	17	14	2	16	7	7	9
樹木花粉量 ( $\times 10^3$ 粒/cm <sup>3</sup> )			4.1	4.1	14.2	12.0	11.8	18.4	99.0
微粒炭量 (mm <sup>2</sup> /cm <sup>3</sup> )			1068	310	764	3277	215	231	1368



図版1 新田Ⅱ遺跡から出現した花粉化石の顕微鏡写真

1-2: コナラ亜属, d7, AFR.MY 2150. 3-4: ケヤキ型, d7, AFR.MY 2151. 5-6: コクサギ属, a6, AFR.MY 2155. 7-9: トチノキ, d7, AFR.MY 2152. 10-11: クリ, d7, AFR.MY 2153. 12-14: キハダ属, a6, AFR.MY 2156. 15-16: ソバ属, b1, AFR.MY 2154. 17-18: サジオモダカ属, d1, AFR.MY 2147. 19: アサ, c4, AFR.MY 2149. 20: アサ, b6, AFR.MY 2144.

スケール = 10  $\mu$  m



## 3 種実同定

吉川純子(古代の森研究舎)

## (1) はじめに

新田Ⅱ遺跡は遠野市綾織町の猿ヶ石川左岸の河岸段丘上及び新田沢により開削された谷底平野に立地する。本遺跡の埋没した沢跡には縄文時代後期初頭及び晩期後半の遺物包含層(捨て場)が形成されており、木材や種実などの大型植物化石が比較的良好に保存されていた。そこで当時の植物利用状況及び古環境を把握する目的でこれら大型植物化石の調査をおこなった。同定に充てた種実等の試料は水洗選別済みの縄文時代～現代のクリ 69 試料、種実 165 試料、葉 12 試料である。これら試料は肉眼及び実体顕微鏡で観察同定した。

## (2) 同定結果

新田Ⅱ遺跡から出土した堅果類可食部の時期別出土状態別数を表 1 に、堅果可食部以外の種実試料の時期別集計を表 2,3 にまとめた。クリ試料の試料毎同定結果は表 4,5 に、葉化石の同定結果は表 6 に、種実試料の試料毎同定結果は表 7～15 に一覧表で示した。また 2 軸以上の計測が可能なクリ果皮計測値は表 16 に一覧表として掲載した。クリ試料ではクリを含む 6 分類群を確認した。葉試料では葉の他に果皮など 14 分類群が確認された。種実試料は木本 49 分類群、草本 14 分類群を出土した。以下に特筆すべき分類群の形態記載をおこなう。

オニグルミ：完形、動物による食痕のあるもの、半分で割痕が残るもの、破片、炭化破片を出土した。割痕はほとんどが内果皮上下端についている。

クリ：葉、総苞(いが)、果皮、炭化子葉を出土した。いがは落下したものがあまり移動せずに堆積したと見られ、針状突起が塊となった状態であり基盤は腐敗して残っていない。果実は厚さがある完形と剥かれた果皮で潰れた状態や破片を出土し、果実側面剥きや縦半分割りなど果実の大きさが計測可能なものが多数確認された。炭化した子葉は三角形で縦方向にしわがあり内部は緻密で固く、乾燥した子葉が少酸素状態で炭化したと考えられる。

コナラ：殻斗、幼果、果実、葉を出土した。殻斗は椀型～円錐形で細かい三角形の鱗片が密に付き鱗片の表面は平である。果実は長楕円形で基部のへそは果実径の 2 分の 1 程度で底が円い。先端が潰れたり縦半分の果皮が目立つことから加工された可能性がある。

ミズナラ：殻斗、幼果を出土した。殻斗は椀型で殻斗内部の湾曲は縁で真っ直ぐたつ。鱗片の中央が突出しているため殻斗の表面がごつごつしている。

ヤマフジ：葉を出土した。現在のフジ属のうちヤマフジの分布はおもに近畿以西とされているが、出土した葉の形状は基部がまるく広く先端に向かって徐々に細くなっており、フジのような葉面の波打がなく平滑であることからヤマフジと同定した。

表 1 新田Ⅱ遺跡における利用堅果(クリ、トチノキ、オニグルミ)可食部の状況別出土個数

時期	クリ果実				トチノキ種子			オニグルミ内果皮				
	完形(個)	完形欠け(個)	破片重量(g)	破片の完形相当個数	完形(個)	破片重量(g)	破片の完形相当個数	完形(個)	割痕半分(個)	動物食痕(個)	破片重量(g)	破片の完形相当個数
縄文時代後期初頭	1	34	616.5	292.2	54	1212.7	135.1	11	31	17	62.9	6.2
縄文時代後期初頭～後期中葉	-	9	170.9	81.0	61	1740.9	184.7	9	29	14	227.2	22.2
縄文時代後期中葉	-	-	5.7	2.7	17	280.5	29.8	5	5	3	19.4	1.9
縄文時代中期後葉～後期初頭	-	2	11.8	5.6	2	70.9	7.5	21	30	17	62.8	6.1
縄文時代晩期後半	1	4	62	29.4	27	221.6	38.0	15	340	17	939.9	220.0
縄文時代晩期後半～平安時代	1	-	3	1.4	51	16235.4	1722.1	1	4	2	15.4	1.5
平安時代	1	1	3.8	1.8	3	1.9	0.2	-	-	-	-	-
平安時代中期～現代	-	2	1.7	0.8	56	377.4	40.0	2	3	4.5	16.6	1.6

3 種実同定

表2 新田Ⅱ遺跡における堅果可食部以外の大型植物化石時期別出土個数(1)

分類群	出土部位/時期	縄文時代									縄文晩期 後半～ 平安	平安中期 ～ 現代
		中期 後葉	中期後葉 ～ 後期 初頭	後期 初頭	後期初頭 ～ 後期 中葉	後期 中葉	後期中葉 ～ 晩期 後半	晩期 後半	晩期	縄文 時代		
木本												
クロマツ	球果	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
カバノキ属	葉	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
ケヤマハンノキ近 似種	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
サワシバ	果実	-	10	99	8	4	-	164	-	-	1	-
イヌシデ	果実	-	-	5	1	-	-	5	-	-	-	-
アサダ	果実	-	2	34	23	2	-	56	-	-	6	1
	苞	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ブナ	殻斗	-	2	7	-	1	-	3	-	-	8	-
	殻斗破片	-	1	12	2	-	-	20	-	-	13	-
	殻斗破片炭化	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	1	-	-	-	6	-	-	2	-
	果皮破片	-	1	4	1	-	-	2	-	-	5	-
	葉	-	-	-	-	-	-	20+	-	-	-	-
クリ(可食部以外)	不熟果	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
	総苞破片(棘)	-	-	-	-	-	-	多数	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
コナラ	殻斗	1	25	61	-	-	-	18	-	-	3	-
	殻斗破片	-	-	9	1	-	-	9	-	-	2	-
	幼果	1	6	24	1	-	-	14	-	-	2	-
	幼果破片	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-
	果皮破片	-	1	15	2	-	-	10	-	-	2	1
	果実先端潰れ	-	2	4	-	-	-	4	-	-	2	-
	果実縦半分	-	1	-	-	-	-	5	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	20+	-	-	-	-
ミズナラ	殻斗	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	殻斗破片	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1
	幼果破片	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	31	9	-	-	36	-	-	11	-
	幼果	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	芽	-	4	11	-	1	-	30	-	-	-	-
ケヤキ	果実	-	-	3	-	-	-	12	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	10+	-	-	-	-
エノキ属	内果皮	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-
	内果皮破片	-	3	5	1	-	-	1	-	-	-	-
クワ属	種子	1	8	301	-	10	-	17	-	-	-	-
ホオノキ	種子	-	2	2	-	-	-	2	-	-	1	-
	種子破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
コブシ	種子	-	-	4	-	-	-	2	-	-	-	-
	種子破片	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ミヤマザクラ	核	-	3	9	1	-	-	16	-	-	-	-
モモ	核風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
サクラ属	核	-	-	24	-	-	-	4	-	-	-	-
	核半分	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

表3 新田Ⅱ遺跡における堅果可食部以外の大型植物化石時期別出土個数(2)

分類群	出土部位/時期	縄文時代									縄文晩期 後半～ 平安	平安中期 ～ 現代
		中期 後葉	中期後葉 ～ 後期 初頭	後期 初頭	後期初頭 ～ 後期 中葉	後期 中葉	後期中葉 ～ 晩期 後半	晩期 後半	晩期	縄文 時代		
木本												
ヤマフジ	小葉	-	-	-	-	-	-	10+	-	-	-	-
フジ属	芽	-	8	141	1	-	-	19	-	-	-	-
	さや完形	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	さや破片	-	8	40	-	-	-	-	-	-	7	-
サンショウ	葉柄基部	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ	種子	-	3	14	-	-	-	13	-	-	-	-
	種子破片	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
ニガキ	種子破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ハウチワカエデ近 似種	種子	-	3	16	10	-	-	18	-	-	-	-
ハウチワカエデま たはオオモミジ	葉	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
イタヤカエデ	果実	-	4	17	-	-	-	12	-	-	-	-
	種子	-	-	6	2	-	-	3	-	-	-	-
	葉	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
クロビイタヤ近 似種	果実	-	2	1	5	-	-	27	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ミツデカエデ	果実	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-
トチノキ (可食部以外)	果皮破片	-	-	6	-	-	-	9	-	-	-	-
	不熟果	1	20	80	4	-	-	28	1	-	9	1
	不熟果破片	2	19	61	3	2	-	20	-	6	2	7
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
	不熟種子	3	13	27	5	1	-	21	-	-	5	6
ケンボナシ属	不熟種子破片	1	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-
	内果皮	-	-	7	-	-	-	2	-	-	-	-
クマヤナギ属	葉	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	内果皮	-	1	2	-	-	-	2	-	-	-	-
ヤマブドウ	種子	-	1	12	-	-	-	1	-	-	-	-
ノブドウ	種子	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-
サルナシ	種子	-	-	22	-	-	-	1	-	-	-	-
マタタビ	種子	-	2	21	-	-	-	5	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	8	29	6	-	-	17	-	-	-	-
	種子破片	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	15	37	1	-	1	42	-	-	1	-
	内果皮破片	-	5	2	-	-	-	16	-	-	-	-
クマノミズキ	内果皮	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ヤチダモ	果実	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コシアブラ	果実	-	1	15	-	2	-	4	-	-	-	-
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
タラノキ	内果皮	-	2	57	1	1	-	10	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮	3	8	38	2	1	-	1	-	-	12	8
	内果皮破片	-	9	40	1	-	-	4	-	-	25	11
ムラサキシキブ属	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カンボク	内果皮	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	262	1	8	-	13	-	-	-	-
広葉樹	芽	-	11	33	1	-	-	103	-	-	-	-
草本												
ユリ科	種子	-	3	5	1	-	-	3	-	-	-	-
カヤツリグサ属	果実	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
アサ	果実半分	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズヒキ	果実	-	1	2	-	-	-	12	-	-	-	-
ミソソバ	果実	-	-	3	-	-	-	202	-	-	-	-
サデクサ	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ近 似種	果実	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	4	-	-	-	12	-	-	-	-
ミズタマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ	種子	-	-	11	-	-	-	18	-	-	-	-
スマレ属	種子	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
キランソウ属	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	果実	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	-



トチノキ：果皮、不熟果、種子、不熟種子、炭化子葉など多くの状態で出土した。果皮は表面がざらつき不規則な斑点があり壁は粗い柵状である。種子の上半分は黒色光沢の微細な指紋状模様がある種皮で覆われ、種子の下半分は光沢がない平滑で褐色のへそがある。食用として利用する際に複雑なく抜き工程が必要とされる。このときに一度乾燥させてから皮付きのまま粗く割って水さらしする方法があり、こうした過程で放棄された場合に種皮がめくれ上がることなく破片の状態で大量に堆積すると考えられる。

アサ：果実は楕円形2面型で基部に盤状でやや薄い褐色のへそが斜めにつき、表面はやや光沢がある明灰褐色で脈状の模様が確認できることが多い。本遺跡では2個のみで少数の出土であったが種子に油脂分を多く含むため周辺で利用していたと考えられる。

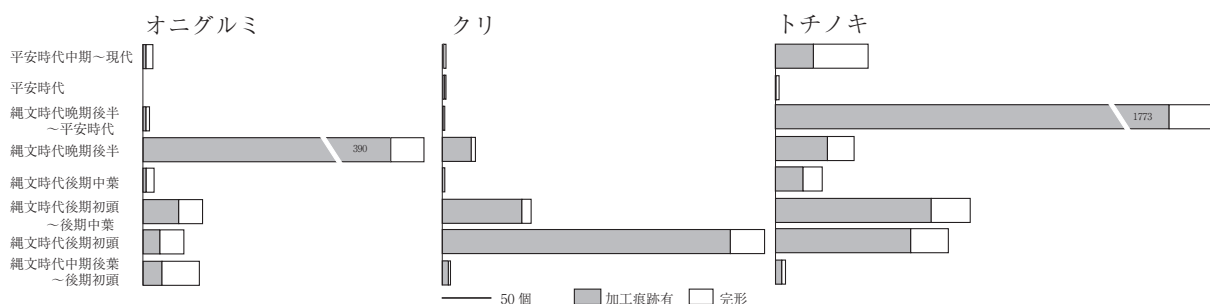


図1 新田Ⅱ遺跡から出土した堅果類の状態別出土個数

(3) 当時の植物利用と周辺的环境

本遺跡の縄文時代における堅果類の残存状態別出土個数を図1に示した。割り痕跡のある果皮や炭化した果皮、果皮の破片は加工痕跡有として重量から相当する完形個数に換算し、完形種実は白抜きで示し、利用されていない種実を示している。換算に用いた数値は本遺跡から出土した完形種実の平均湿重(オニグルミは10.22g、クリは2.11g、トチノキは9.43g)を用いた。また、利用痕跡のある堅果類のみについて時期別の出土比率を図2に示した。縄文時代中期後葉～後期初頭にかけては利用されていないオニグルミがやや多いが、全体の出土個数が大変少ない。縄文後期初頭では利用後のクリとトチノキが多く、縄文後期中葉～後期中葉にはクリよりもややトチノキが多く廃棄されている。縄文後期中葉ではトチノキが多いが、この試料も出土個数が少ない。縄文晩期後半では利用後のオニグルミがまとまって廃棄されていた。縄文晩期後半～平安ではほとんどが利用されたトチノキで占められている。平安時代ではクリが優先して見えるが、出土個数が極端に少なくクリが過大評価されている。平安中期～現代では出土個数は少ないがトチノキの比率が多い。出土個数が極端に少ない縄文中期後葉～後期初頭と平安時代の試料を除いて比較すると、後期初頭頃はクリが多く廃棄されていたがトチノキの比率が徐々に高くなっていき、縄文晩期後半だけオニグルミが極端に突出した。縄文時代のトチノキ利用についてはすでに中期から食料としての利用が本格

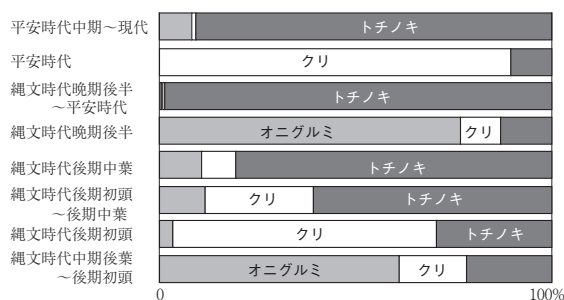


図2 新田Ⅱ遺跡から出土した利用堅果類の比率

化したと考えられており(吉川ほか 2005)、本遺跡でも食料として普通に利用されていたと考えられる。盛岡市の戸仲遺跡では縄文時代後期中頃から晩期中頃にかけての住居跡で炭化したトチノキが出土し、軽米町上野場3遺跡の縄文時代後期後葉の住居跡からも炭化したトチノキが出土している(高瀬 2006)ことから、縄文後期以降は岩手県内でトチノキを普通に利用していた傾向がうかがえる。また、本遺跡では果実の形状をとどめるように剥かれたクリ果皮が大量に確認された。縄文時代後期～晩期にかけて新潟県青田遺跡(新潟県教育委員会 2004)、野地遺跡(新潟県教育委員会 2009)や石川県米泉遺跡(南木 1989)など日本海側の低地遺跡ではこのように果実の形状をとどめたまま剥かれたクリ果皮が大量に発見されているが、太平洋側ではあまり類例がなかった。青田遺跡のクリ果皮集積層は低湿地に建てられた掘立柱建物から直接廃棄されており建物との関係性が非常に高い。当初は定住集落と考えられたが、木柱の年輪年代の検討でこれら建物の使用はせいぜい10年間と比較的短期である可能性が示唆されている。本遺跡のクリ果皮は側面割りや縦割りが多く形状をとどめる剥き方であるが、付近に同時期の定住型集落は確認されていない。本遺跡周囲は沢の移動が激しく短期の作業場などが削剥されている可能性も考えられ、クリの剥き方と生活形態の関連性は今後検討する意味があるかもしれない。おもな堅果類以外の利用痕跡がある種実、少量であるがコナラに加工痕が認められ、当時利用していた可能性がある。また利用痕はないが縄文後期初頭の試料からは利用植物であるアサが検出された。花粉分析結果では縄文後期初頭から平安時代にかけて断続的にアサ花粉が確認されていることから、沢周囲では継続的にアサの栽培が行われていたと考えられる。

本遺跡では縄文時代後期初頭～晩期後半にかけておもに落葉広葉樹の果実種子が多く堆積しており、晩期後半には葉化石の保存状態が良好なことから、これらが沢の周囲に生育していたと考えられる。完熟種実以外に未熟種実や葉、芽などがともに堆積していたのはアサダ、ブナ、クリ、コナラ、ミズナラ、ケヤキ、サクラ属、フジ属、カエデ属、トチノキ、ケンポナシ属であり、さらにケンポナシ属とトネリコ属(果実はヤチダモ)は根材が確認されたことから、これらは沢のごく付近に生育していた可能性がある。後期初頭の花粉分析結果では風媒花よりもクリやトチノキなどの虫媒花花粉が卓越する傾向にあり、沢のごく付近にこれらが生育していたことが示唆され、これと呼応するように後期初頭のトチノキ不熟果や不熟種子など可食部以外の部位が多く出土している。葉の化石は晩期後半が中心であることから、この時期には激しい水流がなく停滞する淀みが存在し、そこに落葉が整然と堆積したと考えられる。沢内部の特に水分が多い場所にはオニグルミ、トチノキ、ヤチダモ、草本のミズソバ、ツリフネソウが分布し、そして沢に至る斜面に高木のサワシバ、イヌシデ、アサダ、ブナ、コナラ、ミヤマザクラ、イタヤカエデなどのカエデ属、ミズキといった落葉広葉樹が林分を形成し、中低木のサンショウ、ミツバウツギ、ニワトコや蔓植物のフジ属、ヤマブドウ、サルナシ、マタタビなどが生育していたと考えられる。縄文晩期頃の花粉分析結果ではクリとトチノキが高率を占め、これらの林分が継続していたと考えられ、トチノキ不熟果などが変わらず出土し、クリも保存の良いが葉を出土した。平安時代には落葉広葉樹を中心として利用されたクリやトチノキなども出土するが、種実の出土数が激減する。沢周辺には落葉広葉樹林が成立していたとみられるがモモ核等風化された種実もあり周辺に耕作地が増加した可能性が考えられる。

## 引用文献

- 高瀬克範. 2006. 東北日本先史時代における栽培植物利用の変遷と特質. 平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(若手研究B)研究成果報告書.
- 新潟県教育委員会, 編. 2004. 第V章8 植物遺体. 「日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書V 青田遺跡 本文・観察表編」, 221-229. 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団.

3 種実同定

新潟県教育委員会, 編. 2009. 第V章8 植物遺体. 「日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXII 野地遺跡」, 105-115. 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団.

南木陸彦. 1989. 米泉遺跡の大型植物化石. 「金沢市米泉遺跡」石川県埋蔵文化財センター編. 279-296. 石川県教育委員会.

吉川昌伸・吉川純子. 2005. 縄文時代中・後期の環境変化. 日本考古学協会 2005年度福島大会シンポジウム資料集. 日本考古学協会 2005年度福島大会実行委員会.

表4 新田II遺跡クリ試料同定結果(1)

		時期	縄文時代中期後葉									
		層位	砂礫6層		IV層最下部				IV層下部			IV層
		地点	4B15	4B14・15	4B14・15	4B23・24	4B25北側中央ベルト	4C9	5C1	4D2	4C5	4B10
分類群	出土状況	遺構	NR06	NR06	NR06	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR05	NR06
クリ	完形果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形～半分果皮剥痕跡		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	半分果皮剥痕跡		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片		4	-	-	-	-	1	-	-	1	2
	果皮4分の1以下破片		3	-	500+	15	5	6	-	1	8	1
コナラ	果皮先端裂け		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片		1	5	-	-	-	-	-	2	-	-
ブナ	殻斗破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片		3	-	1	58	-	-	-	-	-	-
	炭化種皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		時期	縄文時代後期初頭									
		層位	IV層最下部		IV層下部				IV層?			
		地点	3C24	3C13	3C24メインベルト	3C24	3C25メインベルト	3B19	3C12	3B12	4C24	3C7
分類群	出土状況	遺構	NR04	NR04	NR04	NR04	NR04	NR04・05	NR03	-	NR04	NR03
クリ	完形果実		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	不熟果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形～半分果皮剥痕跡		-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
	半分果皮剥痕跡		-	46	1	-	-	-	-	-	1	-
	果皮4分の1以上破片		-	5	-	-	3	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以下破片		500+	117	58	500+	9	-	9	1	500+	3
コナラ	果皮先端裂け		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片		-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
ブナ	殻斗破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片		-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		時期	縄文時代後期初頭～後期中葉				縄文時代晩期後半					
		層位	III層下部		砂礫4層		IIb層最下層		IIb層下		IIb5層	
		地点	3C19	3B24	2D4メイ	3B3	2B15	2B20	3A23	3B2	3B1	3B3
分類群	出土状況	遺構	ベルト	ベルト	NR02	-	-	-	-	-	ベルト	-
クリ	完形果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形～半分果皮剥痕跡		4	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	半分果皮剥痕跡		21	-	1	-	1	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片		-	1	-	-	-	-	-	9	9	2
	果皮4分の1以下破片		500+	-	6	5	-	4	8	108	24	21
コナラ	果皮先端裂け		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブナ	殻斗破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片		2	-	-	-	-	-	-	1	1	3
	炭化種皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



表 5 新田Ⅱ遺跡クリ試料同定結果 (2)

		時期	縄文時代晩期後半									
		層位	Ⅱb5層					Ⅱb5層?	Ⅱb4層	Ⅱb3~4間砂層		Ⅱb3層
		地点	3B6	3B7	3B11	3C19	2B20	3B16	3B11	3B1	3B2	3B1
分類群	出土状況	遺構	ベルト	-	ベルト	NR04	-	ベルト	ベルト	-	-	-
クリ	完形果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形~半分果皮剥痕跡		1	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	半分果皮剥痕跡		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	果皮4分の1以上破片		-	-	-	-	-	-	1	-	2	5
	果皮4分の1以下破片		6	19	3	2	1	-	1	4	34	36
コナラ	果皮先端裂け		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片		-	-	-	-	2	-	-	-	-	6
ブナ	殻斗破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片		-	6	-	-	1	1	-	-	-	-
	炭化種皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		時期	縄文時代晩期後半						縄文時代晩期後半~平安時代					
		層位	Ⅱb3層			Ⅱb層			砂礫3層		砂礫2層	西端8層	西端6層	
		地点	3B1	3B6	3B11	2B20	2A25	2C15	3B3	2B14・15	2A17	2D16	2D17	2D22
分類群	出土状況	遺構	ベルト	ベルト	ベルト	-	-	NR03下部	-	-	-	NR01	NR01下部	NR01下部
クリ	完形果実		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	不熟果実		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	完形~半分果皮剥痕跡		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	半分果皮剥痕跡		-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
	果皮4分の1以下破片		4	7	22	16	12	2	11	9	-	1	12	-
コナラ	果皮先端裂け		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片		-	2	2	6	3	-	-	-	-	1	-	4
ブナ	殻斗破片		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片		-	-	12	24	-	-	-	-	-	2	1	-
	炭化種皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮破片		-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		時期	平安時代					平安時代中期~現代					
		層位	泥炭層	埋土上部泥炭	埋土上位黒泥炭層		埋土上位砂層	砂礫1層					
		地点	3F17	3F12	2E7	2E18	3F22	3F	2F10	2F8	2C9	2B1	2B12
分類群	出土状況	遺構	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	-	-	-	-
クリ	完形果実		-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	不熟果実		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	完形~半分果皮剥痕跡		-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
	半分果皮剥痕跡		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	果皮4分の1以上破片		1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮4分の1以下破片		2	2	-	6	-	3	-	-	-	3	-
コナラ	果皮先端裂け		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ブナ	殻斗破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	種皮破片		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	炭化種皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮破片		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 6 新田Ⅱ遺跡から出土した葉化石の種類

試料番号	種 類					
1	ケヤキ					
3A	ブナ	コナラ	クリ	ケヤキ		
3B	イタヤカエデ					
3C	カバノキ属	コナラ	サクラ属	ケヤキ		ケヤマハンノキ
3D	ヤマフジ(葉)	アサダ?				
3E	イタヤカエデ	ハウチワカエデまたは オオモミジ				
3F	ブナ	クリ	コナラ	ケヤキ	アサダ(果苞)	ケンボナシ属
3H	クリ、いがの刺状突起					
11	フジ属、果皮(さや)					
12	ケヤキ					







表9 新田II遺跡種実試料同定結果(3)

※()内は破片個数

時期	縄文時代後期初頭					縄文時代後期初頭～後期中葉					縄文時代後期中葉			縄文時代後期中葉～晩期後半			
	3D8	3D17	3C23・24(4C3・4?)	4C5	沢跡	南側WEトレンチ	3B24	4E22	5E13	6F11	3C17	3C19	3D12	3C16	5C3	2C23	
遺構	NR04				SX01		NR04	トレンチ		NR4.5と07の間		凹地		ベルト砂		NR03	
層位	IV層	IV層	下部W3	崩落土	底面付近	包含層下砂層	最下層	下部泥炭層	上部黒泥炭層	泥炭層	III層	下部	III層上部	III層	砂礫3層		
分類群	出土部位/袋番号																
标本	(12)15	(12)17	92	119	133	(12)18	(12)19	81	127	130	132	87	90	(12)16	86	(12)29	32
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分割痕	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	内果皮半分食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮割痕炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	(2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮炭化破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サワシバ	果実	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	3	-	1	-	-
イヌシデ	果実	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサダ	果実	-	-	-	-	-	-	5	-	18	-	-	2	-	-	-	-
フナ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)	-	-	1	-	-	-	-
	殻斗炭化	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-
クリ	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-
コナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実先端潰れ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実縦半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)	-	-	-	-	-	-	-
ミズナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	(5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	(9)	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ケヤキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-
ホオノキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミヤマザクラ	核	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
モモ	核風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サクラ属	核	-	-	-	-	-	-	(5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フジ属	芽	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	さや破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニガキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハウチワカエデ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	5	1	4	-	-	-	-	-	-	-
イタヤカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロビイタヤ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツデカエデ	果実	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	果実	3(13)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	1	-	(2)	-	-	-	-	-	(6)	-	-	-
	炭化種皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	-	-	-	-	-	-	(1)	1	3(2)	-	-	(2)	-	-	-	-
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟種子	-	-	-	-	-	-	-	1	4(1)	-	1	-	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケンボナン属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマヤナギ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サルナシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マタビ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤチダモ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コシアブラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タラノキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
ハウウンボク	内果皮	-	-	-	1	(1)	-	(1)	2	-	-	-	1	-	-	-	-
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	8	-	-	-	-
広葉樹	芽	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本																	
ユリ科	種子	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
アサ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズヒキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミノソバ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サデクサ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエダデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミスタマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スミレ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



表 11 新田Ⅱ遺跡種実試料同定結果 (5)

※ ( ) 内は破片個数

分類群	時期	縄文時代晩期後半													
		3B1		3B1	3B2	3B6	3B6	3B7	3B11	3B16	2B15	2B20	2B20	3B1	3B1
		II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b3層	II b3層	II b3層	II b3層
	地点	ベルト	ベルト			ベルト		ベルト	ベルト			NR03		ベルト	
	層位	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b5層	II b3層	II b3層	II b3層	II b3層	
	出土部位/袋番号	62	63,64	65	70	71	72	76,77	79	21	25,26	27,28	57,58	60	
木本															
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮半分割痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮半分食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮割痕炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮半分風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	内果皮炭化破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
サワシバ	果実	-	31	2	-	7	6	17	28	-	-	17	6	2	
イヌシデ	果実	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	
アサダ	果実	-	17	1	-	1	-	5	8	-	-	8	2	1	
ブナ	殻斗	-	-	-	-	(4)	-	(1)	-	-	-	-	2(3)	-	
	殻斗炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	果実	-	2(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	
クリ	果皮破片	-	(1)	(3)	-	-	-	(4)	-	(1)	(2)	-	(5)	-	
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
コナラ	殻斗	-	3(2)	1	-	1(1)	-	-	(2)	-	-	4	-	-	
	幼果	-	3	-	-	1(1)	-	1	1	-	-	1	1(1)	-	
	果実先端潰れ	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	果実縦半分	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	果実	-	(3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	
ミズナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
コナラ属	果皮破片	-	(18)	-	-	(1)	-	-	-	-	-	(4)	(1)	-	
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	芽	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ケヤキ	果実	-	5	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	
エノキ属	内果皮	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クワ属	種子	-	1	3	-	-	-	4	2	-	-	2	-	-	
ホオノキ	種子	-	-	-	-	-	-	(1)	1	-	-	1	-	-	
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
ミヤマザクラ	核	-	3	-	-	-	-	3	2	-	-	2	1	-	
モモ	核風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サクラ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	1	-	
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
フジ属	芽	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	
	さや破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
キハダ	種子	-	1	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	
ニガキ	種子	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハウチワカエデ近似種	種子	-	4	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1	2	
イタヤカエデ	果実	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
	種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
クロビイタヤ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	7	1	-	-	17	-	-	
	種子	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
ミツデカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
トチノキ	果実	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	種子	-	-	-	-	-	-	(8)	-	-	-	(93)	-	-	
	炭化種皮	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	(1)	-	-	
	不熟果	-	6(2)	1	-	-	1	-	(1)	-	-	(12)	2(1)	-	
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	不熟種子	-	3	2	-	-	-	-	2	-	-	2	3	-	
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ケンボナン属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
クマヤナギ属	内果皮	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤマブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ノブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サルナシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マタタビ	種子	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	
ミツバウツギ	種子	-	2	-	-	-	1	4	-	-	-	2	-	-	
ミズキ	内果皮	-	4(3)	-	(1)	-	-	2(2)	(2)	-	-	(1)	-	-	
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤチダモ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
モチノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
コシアブラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
タラノキ	内果皮	-	4	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	
ハクウンボク	内果皮	-	-	-	-	(1)	-	-	(1)	-	-	-	-	-	
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	2	-	-	
広葉樹	芽	1	2	-	-	-	2	5	20	1	-	39	1	-	
草本															
ユリ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	
カヤツリグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アサ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ミズヒキ	果実	-	-	-	-	-	-	3	9	-	-	-	-	-	
ミノソバ	果実	-	-	1	-	-	-	34	158	-	-	7	-	-	
サデクサ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
イスタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	3	-	-	
ミズタマツウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スマレ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツリフネソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	2	-	-	
不明	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	

3 種実同定

表 12 新田Ⅱ遺跡種実試料同定結果 (6)

※ ( ) 内は破片個数

分類群	時期	縄文時代晩期後半												
		3B3	3B6	3B6 ペルト	3B11 ペルト	2B15	3A23 ペルト	2D16 NR01	3B1 II b層 c-d間 砂層	2C15 NR03	2D2 NR02	2B14・15	2D18 NR02	3C12 NR03
本	地点	II b3層	II b3層	II b3層	II b3層	II b2層	II b1層	II b層	II b層 c-d間 砂層	下部	メイン15 層	埋土	II b層?	
分類群	出土部位/袋番号	66	67	68,69	75	20	55	36	61	31	33	19	39	84
木本														
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分割痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮割痕炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮炭化破片	-	-	-	(2)	-	(6)	-	-	-	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サワシバ	果実	-	-	7	10	-	-	-	2	-	-	-	-	1
イヌシデ	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサダ	果実	-	-	4	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-
ブナ	殻斗	-	-	1(4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	殻斗炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ	果皮破片	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ	殻斗	-	-	4	1(2)	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	幼果	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実先端潰れ	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実縦半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	2	(1)	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	芽	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケヤキ	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属	内果皮	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ属	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホオノキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミヤマザクラ	核	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	核風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サクラ属	核	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フジ属	芽	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	さや破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ	種子	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ニガキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハウチワカエデ近似種	種子	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イタヤカエデ	果実	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-
	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロビイタヤ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツデカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	(3)	(2)	(1)	-	-	-	-	-	-	-	(2)
	炭化種皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	-	1	3(7)	7(2)	-	-	-	1	-	1	-	-	-
	炭化不熟果	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟種子	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケンボナシ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマヤナギ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマブドウ	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サルナシ	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マタタビ	種子	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	-	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	-	12(1)	9(2)	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ	内果皮	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤチダモ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コシアブラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タラノキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮	1	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	(1)	-
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広葉樹	芽	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本														
ユリ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズヒキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミノソバ	果実	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サデクサ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズタマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スマレ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ	種子	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	果実	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



表 13 新田Ⅱ遺跡種実試料同定結果 (7)

※ ( ) 内は破片個数

分類群	層位	出土部位/袋番号	時期										
			縄文時代晩期		縄文時代		縄文時代晩期後半～平安時代						
			2A19	1E1南側西端	2D16	2D17	2D21	2D21	2D11	2D12	2D22	2E12	3F8
			トレンチ内		NR01	NR01 下部	NR01 下部	NR01	NR01	NR01	NR01 下部	NR01	NR01
			IIa層下部泥炭層	崩落土	西端8層泥炭下部	西端8層泥炭層	西端7層砂層	西端6層砂質下部	西端6層砂層	西端6層砂層	泥炭層		
			7	3	37	38	41	40	34	35	42	44	99
木本													
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分割痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮割痕炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮炭化破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
サワシバ	果実	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
イヌシデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサダ	果実	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ブナ	殻斗	-	-	1(2)	2	1(1)	-	(4)	1	3	-	-	1
	殻斗炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	-	-	-	1(4)	-	-	-	-	-
クリ	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ	殻斗	-	-	-	-	2	(2)	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	果実先端潰れ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実縦半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	-	-	-	(1)	3	-	-	-	-
ミズナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	(3)	(3)	(2)	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケヤキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホオノキ	種子	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミヤマザクラ	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	核風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サクラ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フジ属	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	さや破片	-	-	-	-	-	-	-	(7)	-	-	-	-
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニガキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハウチワカエデ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イタヤカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロビイタヤ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツデカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	(4)	-	-	-	-	-
	炭化種皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	1	(6)	3(1)	-	-	-	1	1	-	-	-	-
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-
	不熟種子	-	-	1(1)	1	1	-	-	-	(1)	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケンボナシ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマヤナギ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サルナシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マタタビ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤチダモ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コシアブラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タラノキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮	-	-	4(3)	2	1	(5)	-	1(2)	1(2)	(3)	-	-
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広葉樹	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本													
ユリ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズヒキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミンソバ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サデクサ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イスタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズタマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スマレ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3 種実同定

表 14 新田Ⅱ遺跡種実試料同定結果 (8)

※ () 内は破片個数

分類群	層位	縄文時代晩期後半～平安時代																									
		3F12		3F13		3F18		3F19		3F23		3F24		3G3		3F1		2E2		2F19		2F8		2F19		2F20	
		NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01	NR01
本本	出土部位/袋番号	100	101	102	103	104	105	106	98	43	46	45	47	48													
		泥炭層		泥炭層		泥炭層		泥炭層		上部黒泥炭層	埋土上位	砂礫2層		砂礫2層													
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮半分割痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮半分食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮割痕炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮半分風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	内果皮炭化破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ツノハシノバミ	果実	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-													
サワシバ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
イヌシデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
アサダ	果実	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ブナ	殻斗	(2)	-	-	-	(1)	-	-	(1)	-	-	(1)	-	-													
	殻斗炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	果実	-	-	-	-	-	-	-	1(1)	-	-	-	-	-													
クリ	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
コナラ	殻斗	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	幼果	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	果実先端潰れ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-													
	果実縦半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	果実	1(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミズナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	(1)	-	(2)	-	-	-													
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ケヤキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
エノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
クワ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ホオノキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミヤマザクラ	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
モモ	核風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
サクラ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
フジ属	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	さや破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
サンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
キハダ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ニガキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ハウチワカエデ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
イタヤカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
クロビイタヤ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミツデカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
トチノキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	炭化種皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	(1)													
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	不熟種子	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-													
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ケンボナシ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
クマヤナギ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ヤマブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ノブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
サルナシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
マタタビ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミツバウツギ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ヤチダモ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
モチノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
コシアブラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
タラノキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ハクウンボク	内果皮	1(5)	-	(1)	(1)	(1)	(2)	1	-	1	-	-	-	-													
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
広葉樹	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
草本		-----																									
ユリ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
カヤツリグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
アサ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミズヒキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミソソバ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
サデクサ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
イヌタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ミズタマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
スミレ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
ツリフネソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
不明	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													

表 15 新田Ⅱ遺跡種実試料同定結果 (9)

※ ( ) 内は破片個数

時期		平安時代中期～現代											
地点		1D25	1E10	1A10	1E19	2A17	2A21	2B1	2B6	2B7	2B12	2G3	2G10
		NR01	NR01										
分類群	層位	砂礫1層		砂礫1層		砂礫1層		砂礫1層		砂礫1層		砂礫1層	
本表	出土部位/袋番号	2	4	1	5	6	9	11,12	15	16	18	49	50
クロマツ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ	球果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オニグルミ	内果皮完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮完形食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分割痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分食痕	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮割痕炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮半分風化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	内果皮炭化破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツノハシバミ	果実	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	(2)	-
サワシバ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌシダ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサダ	果実	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ブナ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	殻斗炭化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果皮破片	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実先端潰れ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実縦半分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ミズナラ	殻斗	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属	果皮破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	幼果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケヤキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホオノキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コブシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミヤマザクラ	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モモ	核風化	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サクラ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キイチゴ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フジ属	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	さや破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	葉柄基部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サンショウ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キハダ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニガキ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハウチワカエデ近似種	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イタヤカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クロビイタヤ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツデカエデ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	炭化種皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟果	(4)	-	-	(3)	-	-	1	-	-	-	-	-
	炭化不熟果	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不熟種子	1	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
	炭化子葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ケンボナシ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマヤナギ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマブドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ノドウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サルナシ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マタタビ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミツバウツギ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クマノミズキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサギ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤチダモ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コシアブラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウド	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タラノキ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハクウンボク	内果皮	(4)	1(1)	-	-	-	1	2(1)	3(5)	1	-	-	-
カンボク	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニワトコ	内果皮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広葉樹	芽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
蕨類													
ユリ科	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アサ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カナムグラ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズヒキ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミソバ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サデクサ	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イヌタデ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズタマソウ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スマレ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナス属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツリフネソウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 16 新田Ⅱ遺跡から出土したクリの計測値

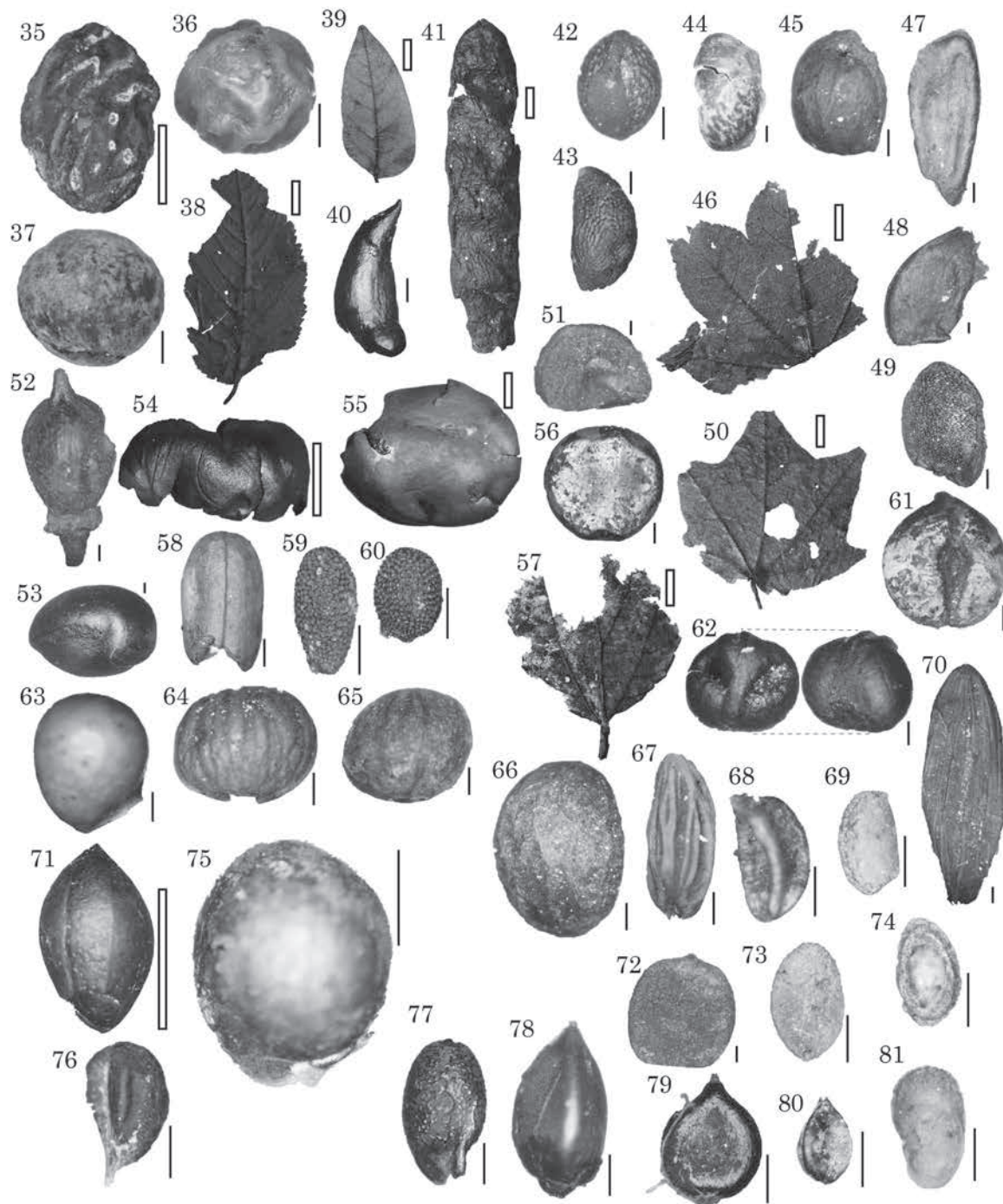
時期	層位	地点	状況	高さ	幅	厚さ	
平安時代	埋土上位 黒泥炭層	2E7(NR03)	完形	20.6	18.7	11.7	
平安時代	埋土上位 黒泥炭層	3F22(NR01)	完形	28.3	24.4	13.5	
平安時代中期～現代	砂礫1層	2F8	完形果皮剥痕跡	基部欠損	22.1	23.2	-
平安時代中期～現代	砂礫1層	2G9	完形果皮剥痕跡	上部欠損	23.5	22.0	8.8
縄文時代晩期後半～平安時代	砂礫2層	2A17	完形	18.3	20.5	11.2	
縄文時代晩期後半	Ⅱb層	2A25	不熟完形	19.4	18.0	10.5	
縄文時代晩期後半	Ⅱb3層	3B1	完形果皮剥痕跡	上部欠損	36.4	41.7	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	36.1	24.7	23.5
縄文時代晩期後半	Ⅱb5層	3B1ベルト	完形果皮剥痕跡	上部欠損	31.4	33.4	15.7
縄文時代晩期後半	Ⅱb5層	3B6ベルト	完形果皮剥痕跡	上部欠損	27.1	27.1	14.8
縄文時代後期初頭～後期中葉	Ⅲ層下部	3C19ベルト	縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	23.3	18.0	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	29.4	20.8	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	26.4	21.0	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	27.2	22.5	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	28.3	21.8	-
			完形果皮剥痕跡	基部欠損	23.8	26.7	-
			完形果皮剥痕跡		23.7	24.9	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	41.0	32.0	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	32.6	19.4	19.8
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	34.8	22.6	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	41.0	22.8	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	37.0	21.7	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	25.5	15.7	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.2	27.6	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	29.5	31.5	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	27.4	28.8	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	26.3	30.6	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	24.7	25.8	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.8	24.4	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	29.6	33.4	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	29.0	35.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	27.4	36.2	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層	3C24(NR04)	完形	16.4	19.8	10.2	
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	31.1	17.4	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	24.9	32.7	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.7	25.1	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	22.7	19.6	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	26.1	28.1	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	23.3	21.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	27.0	23.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	31.7	29.1	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	23.0	19.3	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	17.1	21.3	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層	4C24(NR04)	完形果皮剥痕跡	横欠損	25.9	29.6	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層下部	3C13(NR04)	縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	22.1	28.7	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	28.2	13.4	-
			縦半分剥痕跡	幅ほぼ半分	36.4	23.2	-
縄文時代後期初頭	Ⅳ層最下部	3C24(NR04)	片面のみ残剥痕跡	基部欠損	20.8	24.8	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	20.4	19.2	-
			片面のみ残剥痕跡	基部欠損	25.0	23.8	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	23.0	29.6	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	20.0	21.2	-
			片面のみ残剥痕跡	上部欠損	23.0	25.3	-
縄文時代中期後葉～後期初頭	Ⅳ層下部	4C9(NR05)	片面のみ残剥痕跡		22.0	24.0	-
縄文時代中期後葉～後期初頭	Ⅳ層下部	5C1(NR05)	完形果皮剥痕跡	上部欠損	18.3	21.4	12.6





図版1 新田II遺跡出土種実と葉 (1)

1. スギ、果実序 (33) 2. オニグルミ、内果皮割痕 (8) 3. カバノキ属、葉 (3D) 4. ケヤマハンノキ近似種、葉 (3C) 5. ツノハシバミ、果実 (6) 6. サワシバ、果実 (13) 7. イヌシダ、果実 (134) 8. アサダ、果実 (13) 9. アサダ、苞 (3F) 10. アサダ、葉 (3D) 11. ブナ、果実 (29) 12. ブナ、殻斗 (37) 13. ブナ、葉 (3F) 14. クリ、総苞 (3H) 15. クリ、完形果実 (1) 16. クリ、炭化子葉 (29) 17. クリ、幼果 (13) 18. クリ、葉 (3F) 19-22. クリ、剥き果皮 (47,50,50,66) 23. コナラ、殻斗 (10) 24. コナラ、幼果 (10) 25. コナラ、果実先端欠 (10) 26. コナラ、葉 (3A) 27. コナラ属、芽 (29) 28. ミズナラ、殻斗 (10) 29. クワ属、種子 (13) 30. ケヤキ、果実 (29) 31. ケヤキ、葉 (29) 32. エノキ属、内果皮 (10) 33. コブシ、種子 (134) 34. ホノノキ、種子 (10) (スケールは、実線は1mm、白抜きは1cm)



図版 2 新田II遺跡出土種実と葉 (2)

35. モモ、風化核 (1) 36. ミヤマザクラ、核 (10) 37. サクラ属、核 (134) 38. サクラ属、葉 (3C) 39. ヤマフジ、葉 (3D) 40,41. フジ属 (40. 芽 (29) 41. 果実 (11)) 42. サンショウ、内果皮 (114) 43. キハダ、種子 (29) 44. ニガキ、種子 (64) 45,46. ハウチワカエデまたはオオモミジ (45. 果実 (10) 46. 葉 (3E)) 47. ミツデカエデ、果実 (134) 48 - 50. イタヤカエデ (48. 果実 (10) 49. 種子 (64) 50. 葉 (3B)) 51. クロビイタヤ近似種、果実 (10) 52 - 55. トチノキ (52. 不塾果実 (10) 53. 不塾種子 (69) 54. 種皮剥き片 (69) 55. 種皮半分剥き (69)) 56,57. ケンボナシ属 (56. 種子 (114) 57. 葉 (3F)) 58. クマヤナギ属、内果皮 (29) 59. サルナシ、種子 (134) 60. マタタビ、種子 (134) 61. ヤマブドウ、種子 (114) 62. ノブドウ、種子 (114) 63. ミツバウツギ、種子 (10) 64. ミズキ、内果皮 (10) 65. クマノミズキ、内果皮 (134) 66. クサギ、果実 (69) 67. モチノキ属、内果皮 (134) 68. コシアブラ、果実 (13) 69. タラノキ、内果皮 (13) 70. ヤチダモ、果実 (10) 71. ハクウンボク、内果皮 (37) 72. カンボク、内果皮 (10) 73. ニワトコ属、内果皮 (13) 74. ムラサキシキブ属、内果皮 (134) 75. アサ、果実 (134) 76. ミズタマソウ属、果実 (27) 77. ツリフネソウ、種子 (27) 78. ミゾソバ、果実 (27) 79. サナエタデ近似種、果実 (27) 80. イヌタデ属、果実 (13) 81. キランソウ属、果実 (134) (スケールは、実線は 1mm、白抜きは 1cm)



## 4 樹種同定

吉川純子(古代の森研究舎)

## (1) はじめに

新田Ⅱ遺跡は遠野市綾織町の猿ヶ石川左岸の河岸段丘上及び新田沢により開削された谷底平野に立地する。本遺跡の埋没した沢跡には縄文時代後期初頭及び晩期後半の遺物包含層(捨て場)が形成されており、木材や種実などの大型植物化石が比較的良好に保存されていた。そこで当時の古環境を把握する目的でこれら木材の樹種同定をおこなった。分析に充てた試料は縄文時代後期初頭から平安時代の自然木48点及び縄文時代後期中葉出土の櫛状木製品1点である。木材試料からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面の切片を切り取り、封入材ガムクロラールでプレパラートに固定して生物顕微鏡で観察同定した。

## (2) 同定結果

木材化石および木製品計49点の同定結果を表1に示す。同定された分類群はトネリコ属11点、コナラ属コナラ節7点、ケンボナシ属6点、イヌシデ属クマシデ節とカエデ属が4点ずつ、ヤナギ属とナシ亜科が3点ずつ、ニレ属、カツラ、トチノキが2点ずつ、オニグルミ、アサダ、クリ、サクラ属、ミズキがそれぞれ1点ずつであった。以下に木材解剖学的形態記載をおこなう。

オニグルミ(*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam.): やや大きめの道管が単独ないし2,3個放射方向に複合して散在し、晩材部でやや径を減じる散孔材。軸方向柔細胞はターミナル状や網状につながる。道管は単穿孔でチロースがある。放射組織は1-3細胞幅で同性。

ヤナギ属(*Salix*): 年輪内に放射方向に数個連結した中程度の道管が均一に分布する散孔材で晩材部で柔組織が密になるため年輪界は明瞭な散孔材。放射組織は単列で異性、道管放射組織間壁孔はやや大きいふるい型である。

イヌシデ属クマシデ節(*Carpinus* sect. *Distegocarpus*): 単独ないし放射方向に数個複合した中程度の道管がまばらに分布する散孔材で年輪界が波状にたわむ。道管は単穿孔と段数の少ない階段穿孔がまれに見られる。放射組織は異性で、1~3列で10細胞高以下のものと、まれにゆるい集合放射組織がある。

アサダ(*Ostrya japonica* Sarg.): 中程度の道管が数個放射方向に複合して年輪内に均一に分布する散孔材。道管は単穿孔で道管内にらせん肥厚がある。放射組織は異性で1-4細胞幅である。

クリ(*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.): 年輪はじめに大きい道管が花弁状に配列し、急に径が減じて火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔、放射組織は1~2列でほぼ同性である。

コナラ属コナラ節(*Quercus* sect. *Prinus*): 年輪のはじめに大きい道管が数個配列し、その後急に径を減じて薄壁のやや角張った管孔が波状に配列する環孔材、道管は単穿孔。放射細胞は単列と大変大きく長い広放射組織があり放射組織は同性である。

ニレ属(*Ulmus*): 年輪はじめに大型で丸い道管が単独で数列並び、晩材部では小型で薄壁の角張った管孔が多数集合して斜めないし接線方向に帯状に連なる環孔材。道管の穿孔板は単一で小道管内壁にらせん肥厚がある。木部柔組織は周囲状で晩材部では小道管の周囲を囲んで帯状となる。放射組織は同性で1-8細胞幅で放射細胞の縁にしばしば大型の結晶がある。

カツラ(*Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.): 角張った小道管が年輪内に均一かつ密に分布する散孔材で晩材部はやや道管径が小さく繊維状仮道管が小さいので年輪界はやや明瞭である。道管の穿孔板は段数が多い階段状で放射組織は異性で1~2細胞幅で細長い。

表1 新田Ⅱ遺跡から出土した木材の樹種

試料番号	時期	遺構	地点	層位	状況	備考	樹種
138	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	カエデ属
140	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	ヤナギ属
141	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	トネリコ属
144	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	トネリコ属
146	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	カツラ
148	平安時代か	NR01	2D区	-	-	-	トネリコ属
162	平安時代か	NR01	3F12~19	-	大木	-	アサダ
163	平安時代か	NR01	3F区	泥炭層	大木	-	トネリコ属
2	縄文時代晩期後半	旧河道	2A25~2B5	砂礫3層	株	-	クマシデ節
3	縄文時代晩期後半	旧河道	2A25~2B5	砂礫3層	株	-	クマシデ節
13	縄文時代晩期後半	旧河道	2B14	砂礫3層	株	-	トネリコ属
15	縄文時代晩期後半	旧河道	2B14	砂礫3層	-	-	カエデ属
21	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.1	クマシデ節
22	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.2	トネリコ属 根材
23	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.3	トネリコ属 根材
24	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.4	トネリコ属 根材
25	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.5	トネリコ属 根材
26	縄文時代晩期後半	-	3B1	II b3層	-	No.6	トネリコ属 根材
29	縄文時代晩期後半	-	3B2・7	II b5層	-	No.7	ニレ属
30	縄文時代晩期後半	-	3B7	II b5層	-	No.8	トチノキ
120	縄文時代晩期後半	NR02	2D4	-	流木	No.1	ナシ亜科
124	縄文時代晩期後半	NR02	2D9	-	流木	No.2	カツラ
128	縄文時代晩期後半	NR02	2D9	-	流木	No.3	ナシ亜科
132	縄文時代晩期後半	NR02	2D15	-	流木	No.4	コナラ節
126	縄文時代晩期後半	NR03	2C20	-	流木	No.3	コナラ節
123	縄文時代晩期後半	NR03	2C15	-	流木	No.2	トネリコ属
119	縄文時代晩期後半	NR03	2C15	-	流木	No.1	コナラ節
134	縄文時代晩期後半	NR03	3C11	-	流木	No.5	トチノキ
135	縄文時代晩期後半	NR03	3C11	-	流木	No.6	カエデ属
6001	縄文時代後期中葉	NR04	3D12・13	砂礫4層直上	建築部材	年代測定試料	サクラ属
40	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W2	ケンボナシ属
42	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W5	コナラ節
150	縄文時代後期初頭	NR04	3C22	IV層	-	1	ヤナギ属
151	縄文時代後期初頭	NR04	3C22	IV層	-	2	ヤナギ属
155	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W6	ニレ属
157	縄文時代後期初頭	NR04	3C22・23,4C2・3	IV層	-	W8	カエデ属
37	縄文時代後期初頭	-	3B13付近	IV層	-	No.3	クマシデ節
38	縄文時代後期初頭	-	3B13付近	IV層	-	No.4	ナシ亜科
39	縄文時代後期初頭	-	3B13付近	IV層	-	No.5	コナラ節
生材1	縄文時代後期初頭	-	西区3D7	IV層	-	-	コナラ節
生材2	縄文時代後期初頭	-	西区3D7	IV層	-	-	コナラ節
生材3	縄文時代後期初頭	-	西区3D7	IV層	-	-	ミズキ
67	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	23	ケンボナシ属 根材
69	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	25	ケンボナシ属 根材
79	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	35	ケンボナシ属 根材
96	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	47	オニグルミ
102	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	1本樹木	54	ケンボナシ属
108	縄文時代後期初頭	SX01	-	IV層下部	-	60	ケンボナシ属
27	縄文時代後期初頭	NR05	4B23・24	IV層下部	-	-	クリ

ナシ亜科 (Maloideae)：単独ないし数個不規則に複合したやや小さい管孔が年輪内にほぼ均一に分布する散孔材。道管は単穿孔で道管側壁は交互壁孔、放射組織はほぼ同性だが縁辺の細胞が大きくなることもあり、幅は1-2細胞幅。

サクラ属 (Prunus)：中程度の道管が数個放射方向や斜め塊状に連結して年輪内にまばらに分布し晩材部でやや径が小さくなる散孔材。道管内には顕著ならせん肥厚が見られ単穿孔で、放射組織は異性で単列のものと3~5細胞幅のものがある。

カエデ属 (Acer)：年輪内に小さい管孔単独ないし数個複合してほぼ均一に散在する散孔材で年輪界は比較的明瞭、木繊維の壁厚の違いで横断面に波状の模様ができる。放射組織は同性で1-4細胞幅で道管は単穿孔で道管内にらせん肥厚がある。



トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)：やや小さい道管が単独ないし数個放射方向に複合して散布する散孔材で、年輪界付近で道管径がやや小さくなる。道管は単穿孔でらせん肥厚があり、道管放射組織間はやや大きいふるい状、放射組織は単列同性で、しばしば層階状配列で波状の様相が現れる。  
 ケンボナシ属 (*Hovenia*)：大きな道管が年輪はじめに2,3列分布し、その後径を減じながら小道管が放射方向に数個結合してまばらに分布する環孔材。道管は単穿孔で放射組織は異性で1～4細胞幅、道管放射組織間壁孔は小さいふるい状である。：

ミズキ (*Cornus controversa* Hemsl. ex Prain)：やや小さい管孔がほとんど径の増減が無く、単独ないし2,3個複合して年輪内にほぼ均一に散布する散孔材。年輪はじめでやや管孔が多い傾向にある。道管は階段穿孔で階段数は大変多い。放射組織は2,3細胞幅で異性、多列の平伏細胞の上下に方形細胞の単列部が長く伸びる。

トネリコ属 (*Fraxinus*)：大きな道管が年輪はじめに2,3列分布し、その後径を減じながら壁の厚い小道管が放射方向に数個結合してまばらに分布する環孔材。道管は単穿孔で放射組織は同性、道管放射組織間壁孔はやや大きいふるい状である。

### (3) 木材化石から見た沢と周囲の環境

新田Ⅱ遺跡から出土した樹種を時期別に集計し表2にまとめた。縄文時代後期初頭にはケンボナシ属が最も多く確認され、半分が根材であることから当時の沢付近にケンボナシ属が生育していたと考えられる。オニグルミは湿潤な場所に適応して生育するがケンボナシ属は普通の山林に生育することが多い。またコナラ節もやや多く、クマシデ節、クリ、カエデ属などで構成される落葉広葉樹林がごく付近に分布していたと考えられる。縄文時代後期中葉の建築部材はサクラ属であり、樹種を選んで利用したと考えられる。縄文時代晩期後半にはトネリコ属が多く確認され、7点中5点が根材であったことや晩期後半は葉化石の保存が良好であり激しい水流がないと推測されていることから沢内部にトネリコ属が生育していたと考えられる。トネリコ属についてはヤチダモの果実も検出されており、沢に生育して

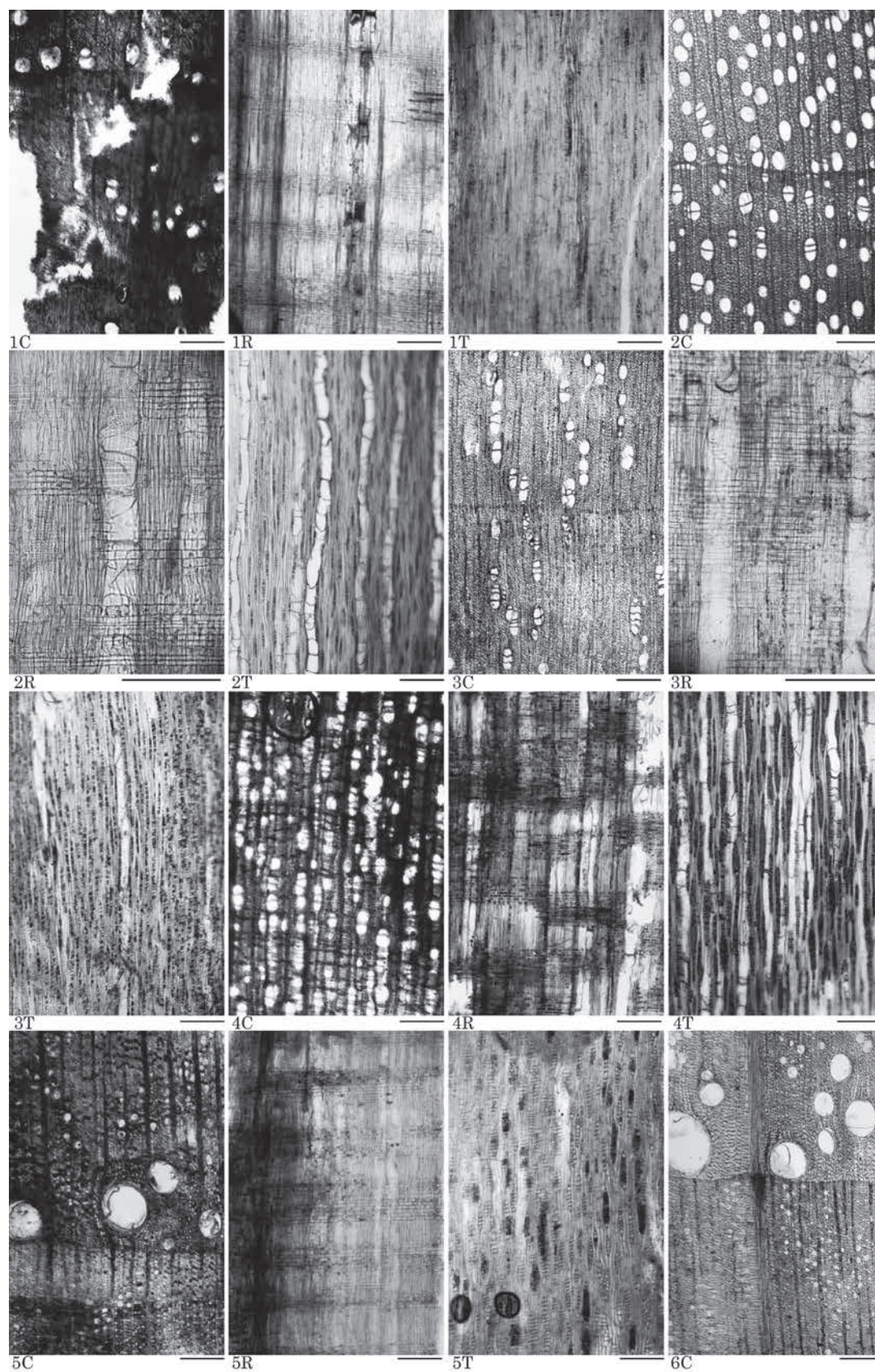
表2 時期別出土樹種

時期	樹種	個数
平安時代か	トネリコ属	4
	ヤナギ属	1
	アサダ	1
	カエデ属	1
	カツラ	1
縄文時代晩期後半	トネリコ属	根材 5
	トネリコ属	2
	クマシデ節	3
	コナラ節	3
	ナシ亜科	2
	トチノキ	2
	カエデ属	2
	カツラ	1
	ニレ属	1
縄文時代後期中葉	サクラ属	榿 1
縄文時代後期初頭	ケンボナシ属	3
	ケンボナシ属	根材 3
	コナラ節	4
	ヤナギ属	2
	オニグルミ	1
	クマシデ節	1
	クリ	1
	ナシ亜科	1
	ニレ属	1
	カエデ属	1
	ミズキ	1

いたのはヤチダモの可能性が高い。後期初頭同様クマシデ属とコナラ節、カエデ属、ニレ属といった落葉広葉樹が確認されているが、湿地に適応して生育するトチノキも検出され、ヤチダモもどちらかといえはやや停滞する湿地のような環境に適応して生育することから、後期初頭よりも地下水位が高い湿地に近い環境に変化した可能性がある。平安時代と考えられる層位では、樹種はあまり変化せず、縄文時代晩期後半同様トネリコ属が多くカツラなどの湿地に適応した種類と落葉広葉樹林を構成するアサダやカエデ属が確認されたことから、環境はあまり変化していなかったと考えられる。



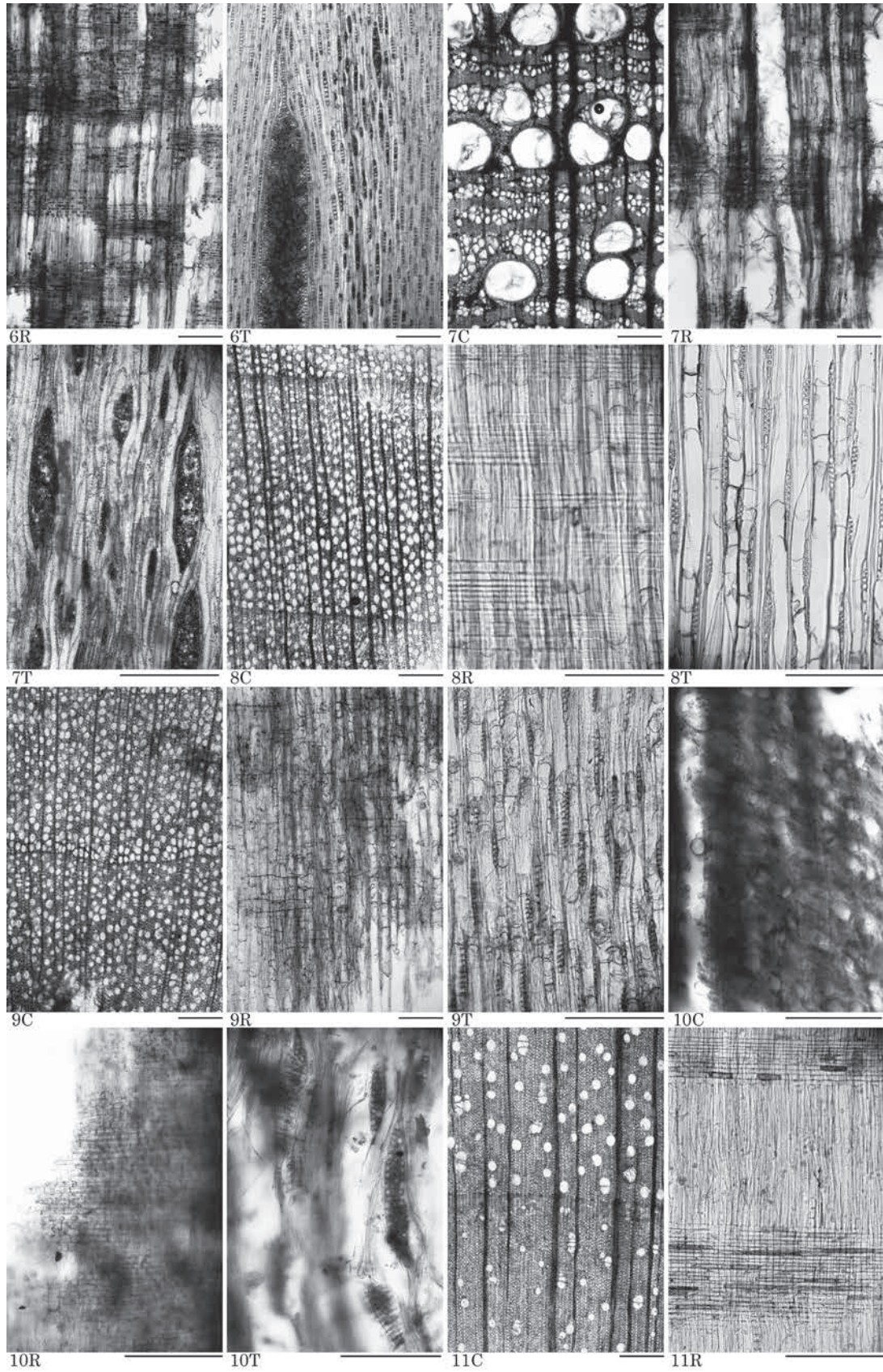
図1 新田Ⅱ遺跡出土木材



図版1 新田Ⅱ遺跡出土木材の顕微鏡写真(1)

1. オニグルミ (No.96) 2. ヤナギ属 (No.150) 3. クマシデ節 (No.2) 4. アサダ (No.162) 5. クリ (No.27) 6. コナラ節 (No.119) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm

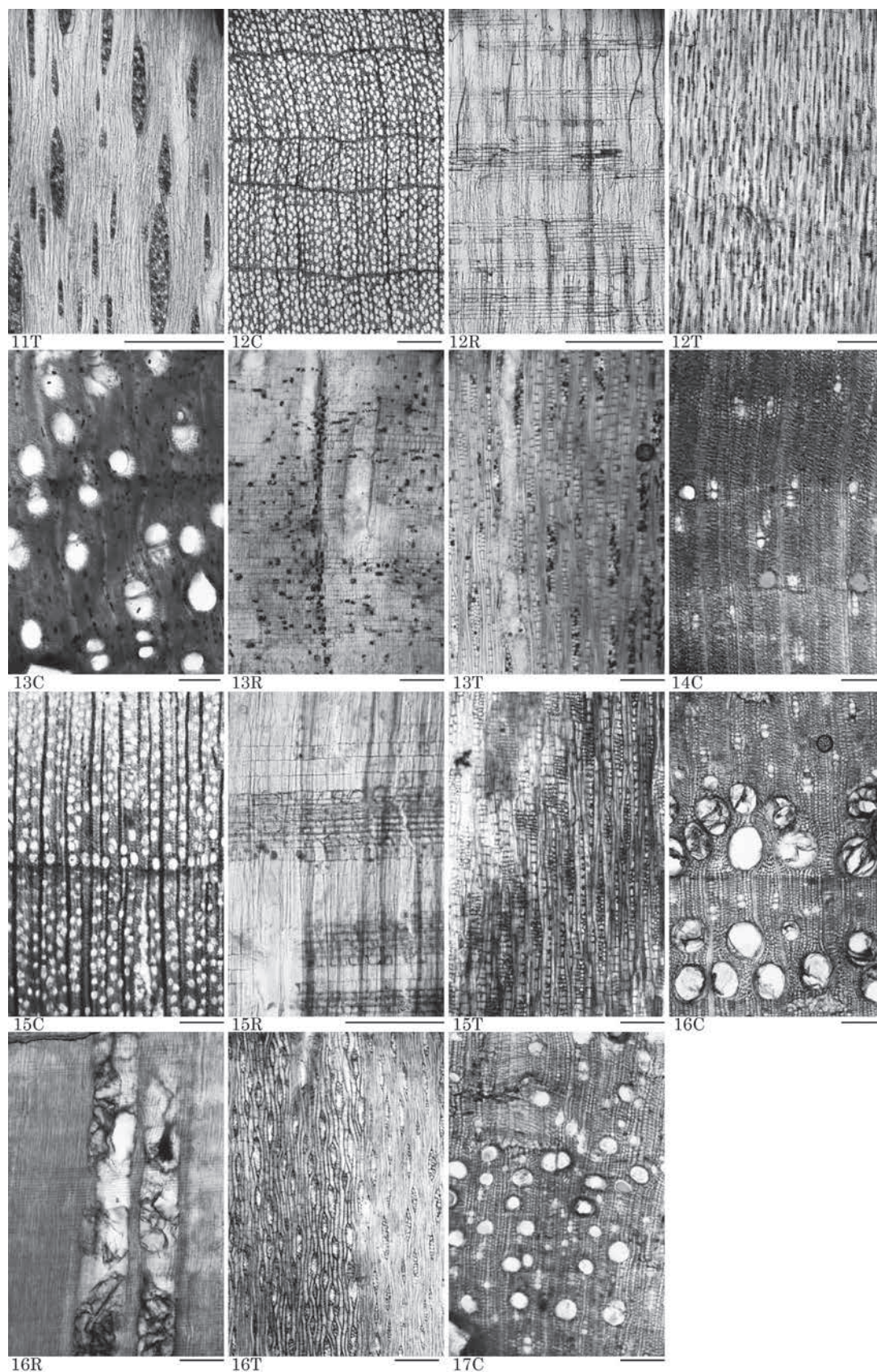




図版 2 新田Ⅱ遺跡出土木材の顕微鏡写真 (2)

6. コナラ節 (No.119) 7. ニレ属 (No.155) 8. カツラ (No.124) 9. ナシ亜属 (No.38) 10. サクラ属 (No.6001 權) 11. カエデ属 (No.157) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm





図版3 新田Ⅱ遺跡出土木材の顕微鏡写真(3)

11. カエデ属 (No.157) 12. トチノキ (No.30) 13. ケンボナシ属 (No.108) 14. ケンボナシ属根材 (No.40) 15. ミズキ (生材 3) 16. トネリコ属 (No.141) 17. トネリコ属根材 (No.25) C: 横断面 R: 放射断面 T: 接線断面、スケールは 0.1mm



## 5 昆虫同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

## (1) はじめに

新田Ⅱ遺跡(岩手県遠野市綾織町下綾織に所在)は、縄文時代前期・中期の集落跡とされ、新田沢によって形成された平坦地が水場や作業場として利用されていたとされている。埋没沢の堆積物では植物遺体と共に昆虫遺体が検出された。そこで、出土した昆虫遺体の同定を行い、当時の環境に関する情報を得ることにした。

## (2) 試料

縄文時代後期初頭～晩期後半の埋没沢中から洗い出しによって得られた昆虫遺体 13 試料(試料番号 1～13)である。1 試料中に複数片の破片、総数 38 片であり、破片ごとに枝番号(分析番号)を付して管理する。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

## (3) 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡にて観察し、形態的特徴から種類・部位を同定する。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を水入りの管瓶で保管する。なお、同定・解析は、松本浩一氏(東京農業大学)の協力を得た。

## (4) 結果

同定結果を表 1 に示す。試料番号 4 の 1 片(分析番号 4-2)は広葉樹の葉の破片である。それ以外は昆虫綱(Insecta)の破片であるが、試料番号 1 の 2 片(分析番号 1-3・4)が種類不明の腹板の可能性がある破片、試料番号 12 の 1 片(分析番号 12-2)が種類・部位不明破片である。以下、種類ごとに記す。

表 1 昆虫同定結果

試料番号	出土地点	層位	時代	分析番号	綱名	目名	科名	種名	部位・状態	備考
1	2A25・堅果類集中	Ⅱ b5 層	縄文時代晩期後半	1-1	昆虫綱	カメシ目	キンカメシ科	アカスジキンカメシ	前胸背板	
				1-2	昆虫綱	カメシ目	キンカメシ科	アカスジキンカメシ	腹板背板	
				1-3	昆虫綱	不明	不明	不明	腹板の一部?	1-1 と同一個体か?
				1-4	昆虫綱	不明	不明	不明	腹板の一部?	
2	2B5	Ⅱ b5 層	縄文時代晩期後半	2	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	キタカブリ	前胸背板	
3	2B10	Ⅱ b 層最下層	縄文時代晩期後半	3-1	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタゴミムシ類の一種	左前翅基部	
3	2B10	Ⅱ b 層最下層	縄文時代晩期後半	3-2	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタゴミムシ類の一種	前翅の一部	3-1 と同一個体か?
4	2B15 トチ集中	Ⅱ b3 層	縄文時代晩期後半	4-1	昆虫綱	カメシ目	不明	カメシ目の一種	腹板の一部?	
				4-2	双子葉植物綱	不明	不明	不明	広葉樹の葉の一部	
5	3A17	Ⅱ b 層下部層・泥炭層	縄文時代晩期後半	5	昆虫綱	コウチュウ目	ハムシ科	コガタリハムシ	右前翅基部	
6	3B1・トチノキ集中	Ⅱ b3 層	縄文時代晩期後半	6	昆虫綱	カメシ目	不明	カメシ目の一種	腹板の一部?	
7	3B1 ベルト	Ⅱ b5 層(19 層)	縄文時代晩期後半	7	昆虫綱	カメシ目	キンカメシ科	アカスジキンカメシ	小楯板	
8	3B11 ベルト	Ⅱ b3 層	縄文時代晩期後半	8-1	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	中胸腹板右片	
				8-2	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオオサムシ	右前翅基部	
				8-3	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	中胸腹板の一部	
				8-4	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	腹部の一部	
				8-5	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	腹部の一部	
				8-6	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	上翅の一部	
				8-7	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオオサムシ	上翅の一部	
				8-8	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	上翅の一部	
				8-9	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	中胸側板	
				8-10	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	コガネムシ科の一種	前翅の一部	
				8-11	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	コガネムシ科の一種	腹部?	
9	3B11 ベルト トチノキ集中	Ⅱ b5 層	縄文時代晩期後半	9-1	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオゴミムシ属の一種	頭部	
				9-2	昆虫綱	コウチュウ目	ハネカクシ科	クシヒゲハネカクシ属の一種	右前翅	
				9-3	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	アオカナブン	腹部の一部	
				9-4	昆虫綱	コウチュウ目	ハネカクシ科	クシヒゲハネカクシ属の一種	右前翅	
				9-5	昆虫綱	カメシ目	キンカメシ科	アカスジキンカメシ	腹部の一部	
10	3C24(NR04)	IV 層	縄文時代後期初頭～中葉	10-1	昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アオゴミムシ属の一種	右前翅	
				10-2	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	コガネムシ科の一種	前胸の一部	
11	3C24(NR04)	IV 層	縄文時代後期初頭～中葉	11	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	センテコガネ	右後脚	
12	4C9(NR05)	10 層(IV 層下部)	縄文時代後期初頭	12-1	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目の一種	腹部の一部	
				12-2	昆虫綱	不明	不明	不明	不明	
				12-3	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目の一種	腹部の一部	
				12-4	昆虫綱	コウチュウ目	不明	コウチュウ目の一種	腹部の一部	
13	4C24(NR04)	IV 層	縄文時代後期初頭	13-1	昆虫綱	コウチュウ目	コガネムシ科	コガネムシ科の一種	脚の一部	
				13-2	昆虫綱	コウチュウ目	ハムシ科	コガタリハムシ	右前翅	
				13-3	昆虫綱	ハチ目	アリ科	クロオオアリ	頭部の一部	

### <コウチュウ目 (Coleoptera) >

オサムシ科 (Carabidae) では、キタカブリ (*Damaster blaptoides viridipennis*) の前胸背板、ヒラタゴミムシ類の一種の左前翅基部・前翅の一部、アオオサムシ (*Carabus insulicola*) の右前翅基部・上翅の一部、アオゴミムシ属 (*Chlaenius*) の一種の頭部・右前翅が確認される。

ハネカクシ科 (Staphylinidae) では、クシヒゲハネカクシ属 (*Velleius*) の一種の右前翅が確認される。

コガネムシ科 (Scarabaeidae) では、アオカナブン (*Rhomborhina unicolor*) の上翅の一部・中胸腹板右片・中胸腹板の一部・中胸側板・腹部の一部、センチコガネ (*Geotrupes laevistriatus*) の右後脚、コガネムシ科の一種の前翅の一部・前胸の一部・腹部の可能性のある破片・脚の一部が確認される。

ハムシ科 (Chrysomelidae) では、コガタルリハムシ (*Gastrophysa atrocyanea*) の右前翅基部・右前翅が確認される。

また、種不明として、コウチュウ目の一種の腹部の一部が確認される。

### <ハチ目 (Hymenoptera) >

アリ科 (Formicidae) のクロオオアリ (*Camponotus japonicus*) の頭部の一部が確認される。

### <カメムシ目 (Hemiptera) >

キンカメムシ科 (Scutelleridae) のアカスジキンカメムシの小楯板・前胸背板・腹部背板・腹部の一部が確認される。また、種不明として、カメムシ目の一種の腹板の一部の可能性のある破片が確認される。

## (5) 考 察

本遺跡から出土した 38 片の昆虫遺体を分析し、内 1 片 (4-2) は広葉樹の葉の一部であった。残りの 37 片の内訳は、コウチュウ目 27 片、カメムシ目 6 片、ハチ目 1 片、不明 4 片であった。コウチュウ目ではオサムシ科のキタカブリの前胸背が見いだされ特筆される。これは現在では東北地方北部に固有の大型肉食コウチュウで、幼虫・成虫ともに陸生巻貝を捕食し、自然度の高い森林に生息する。また、同じオサムシ科のアオオサムシも見いだされたが、これは比較的湿度の高い林床部でミミズなどの土壌動物を捕食することが知られている。これら 2 種は、後翅が退化し飛翔による移動ができず、分布域が限定されることでも知られている。出土点数ではコガネムシ科のアオカナブンが最も多いが、これらはコナラ・クヌギなどの樹液に集合する。またハネカクシ科のクシヒゲハネカクシ属の一種も成虫が樹液に集合する種であり、幼虫はスズメバチ類の巣に寄生することが知られている。コガネムシ科のセンチコガネは森林や雑木林の野生動物の糞に集合することが知られており、本種も森林に対する依存度が高い。オサムシ科のヒラタゴミムシ類の一種およびアオゴミムシ属の一種は森林の林床部・林縁部また湿度の高い草地などに生息する。ハムシ科のコガタルリハムシはギシギシ類を寄主とし、林縁部から草地に生息する。カメムシ目ではキンカメムシ科のアカスジキンカメムシが見いだされた。これはスギ・キブシ・ヤシャブシの果実や種子を吸汁することが知られている。ハチ目ではアリ科のクロオオアリが見いだされ、これは草地・荒地の乾燥した地中に営巣し、植物の種子や昆虫遺体などを収集する。

これら出土昆虫はほとんどが生息場所を森林に依存するものであり、特に陸貝類を捕食するキタカブリ、クヌギ・コナラを主とする雑木林に生息するアオカナブンやクシヒゲハネカクシなどが多く見出された。また、少数ではあるがアオゴミムシ類やクロオオアリなどの林縁部および草地環境に生息する種も見られた。これらのことから、当時の遺跡周辺はコナラ・クヌギを主体とする比較的湿度の高い、野生動物などが生息する雑木林が広い面積を占めていたものと推定される。林内にはスズメバチの営巣可能な大径の枯れ木などが点在していたものと考えられ、林床にはキブシなどの広葉樹があり、林縁部にはギシギシ類などを主体とした草地環境も存在したと思われる。

図版1 昆虫遺体



- 1-1. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ前胸背板 (2A25)
- 1-3. 昆虫網腹板の一部? (2A25)
- 2. コウチュウ目オサムシ科キタカブリ前胸背板 (2B5)
- 3-2. コウチュウ目オサムシ科ヒラタゴミシ類の一種右前翅の一部 (2B10)
- 4-2. 広葉樹の葉の一部 (2B15トチ集中)
- 6. カメムシ目不明カメムシ目の一種腹板の一部? (3B1・トチノキ集中)
- 8-1. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン中胸腹板右片 (3B11ベルト)
- 8-3. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン中胸腹板の一部 (3B11ベルト)
- 8-5. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン腹部の一部 (3B11ベルト)
- 8-7. コウチュウ目オサムシ科アオサムシ上翅の一部 (3B11ベルト)
- 8-9. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン中胸側板 (3B11ベルト)
- 8-11. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種腹部? (3B11ベルト)
- 9-2. コウチュウ目ハネカクシ科クシヒゲハネカクシ属の一種右前翅 (3B11ベルト)
- 9-4. コウチュウ目ハネカクシ科クシヒゲハネカクシ属の一種右前翅 (3B11ベルト)
- 10-1. コウチュウ目オサムシ科アオゴミシ属の一種右前翅 (3C24(NR04))
- 11. コウチュウ目コガネムシ科センテコガネ右後脚 (3C24(NR04))
- 12-2. 昆虫網部位不明破片 (4C9(NR05))
- 12-4. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9(NR05))
- 13-2. コウチュウ目ハムシ科コガタルリハムシ右前翅 (4C24(NR04))

- 1-2. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ腹部背板 (2A25)
- 1-4. 昆虫網腹板の一部? (2A25)
- 3-1. コウチュウ目オサムシ科ヒラタゴミシ類の一種左前翅基部 (2B10)
- 4-1. カメムシ目不明カメムシ目の一種腹板の一部? (2B15トチ集中)
- 5. コウチュウ目ハムシ科コガタルリハムシ右前翅基部 (3A17)
- 7. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ小楯板 (3B1ベルト)
- 8-2. コウチュウ目オサムシ科アオサムシ右前翅基部 (3B11ベルト)
- 8-4. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン腹部の一部 (3B11ベルト)
- 8-6. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン上翅の一部 (3B11ベルト)
- 8-8. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン上翅の一部 (3B11ベルト)
- 8-10. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種前翅の一部 (3B11ベルト)
- 9-1. コウチュウ目オサムシ科アオゴミシ属の一種頭部 (3B11ベルト)
- 9-3. コウチュウ目コガネムシ科アオカナブン腹部の一部 (3B11ベルト)
- 9-5. カメムシ目キンカメムシ科アカスジキンカメムシ腹部の一部 (3B11ベルト)
- 10-2. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種前胸の一部 (3C24(NR04))
- 12-1. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9(NR05))
- 12-3. コウチュウ目不明コウチュウ目の一種腹部の一部 (4C9(NR05))
- 13-1. コウチュウ目コガネムシ科コガネムシ科の一種脚の一部 (4C24(NR04))
- 13-3. ハチ目アリ科クロオアリ頭部の一部 (4C24(NR04))



## Ⅶ 調査のまとめ

### 1 西区流路の変遷について

今回の調査で西区から確認された流路について、前章までに確認した各項目をまとめると、新田Ⅱ第1期～第7期の計7時期の変遷に区分される。

#### 新田Ⅱ第1期（縄文前期初頭～中期後葉）

流路位置は、西区東端のNR06 沢跡で、東斜面裾部に設定したセクションS・8層から、T o - C u テフラ二次堆積層が確認された。堆積土中からは、植物質繊維を多量に含む第Ⅰ群土器や隆沈線文の第Ⅱ群土器、磨消縄文の第Ⅲ群土器が少量認められた。

#### 新田Ⅱ第2期（縄文中期後葉～後期初頭）

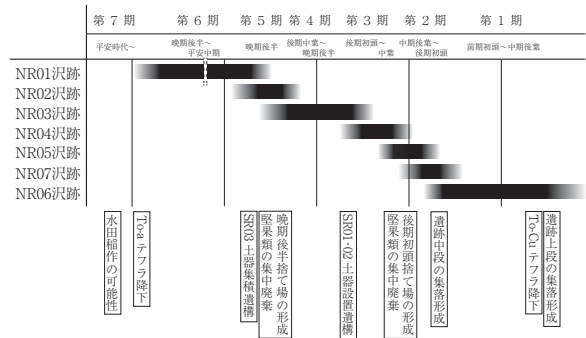
流路位置は、西区東側のNR05 及び07 沢跡。堆積土中からは、第Ⅲ群土器や第Ⅳ群土器が多量に認められた。NR07 沢跡・4C9・10（Ⅳ層下部）からは、堅果類及び樹木が多量に堆積して出土した。堅果類は、トチノキ殻・オニグルミ殻が中心である。NR05 沢跡・4B23～24（Ⅳ層下部）からは、主にトチノキ殻が集中して出土しており、人為的な皮剥き作業の残渣と考えられる。花粉分析から、該期はクリ林とトチノキ林期と捉えられ、沢筋にトチノキが分布しその内陸側にクリ林が広がっていたと考えられる。また、上流側にはクリが優勢な林が広がっていた可能性が推測される。

#### 新田Ⅱ第3期（縄文後期初頭～後期中葉）

流路位置は、西区中央のNR04 沢跡。最も流路の変化が著しかった時期で、東西に10～30mほど移動を繰り返していたと考えられる。NR04 古の時期は下刻するほどではなく動いていたが、NR04 の時期には直径60～80cm大の巨礫を巻き込みながら、部分的に1.5m以上の深みを形成するなど水流が増加したと見られる。堆積土中からは、第Ⅴ群土器及び第Ⅵ群土器を中心として出土し、NR03 古の時期に流路が移行し始めた3C17・18 沢岸には、SR01・02 土器設置遺構が構築された。3D12・13 河底砂礫層上面からは、建築部材の一部と見られる先端が二又に分かれた棒状の木製品1点が認められた。植生環境は、第2期を継続している。

#### 新田Ⅱ第4期（縄文後期中葉～晩期後半）

流路位置は、西区西側のNR03 沢跡。これまでの流路と異なり、北方向を中心とし現新田沢に近くなる。南側はこれ以降の流路で確認できないが、北側は残存が良好な状態で確認された。NR03 古の時期は第3期と同様であるが、NR03 の時期になると第Ⅷ群土器や第Ⅸ群土器が大量に廃棄され、Ⅱ b3～5層中に多量に確認される。特にⅨ群A類の大洞C2式段階に相当する土器群は、沢右岸に粗製深鉢を大量に廃棄している。また、他にトチノキ殻・オニグルミ殻を中心とする堅果類や石器製作時のチップなどを出土しており、沢岸が「作業の場」や「廃棄の場」として利用されたことを示している。加えて、粘土焼土ブロックや礫群を確認しており、付随するモノ送りの儀礼的な行為がなされた可能性がある。花粉分析から、植生環境はクリ林の拡大とトチノキ林期と捉えられ、コナラ亜属も比較的高率で出現する。縄文後期以降では、この付近で最も規模の大きなクリ林が形成されていた可能性がある。



第138図 古新田沢の変遷模式図



### 新田Ⅱ第5期（縄文晩期後半）

流路位置は、西区西側の NR02・03 沢跡。NR03 から NR02 に本流が移行し、NR03 が湿地化→埋没となる時期にあたる。出土遺物は、第4期に続きⅨ群A類の大洞C2式段階に相当する土器群で、Ⅱb1～2層中から多量に出土した。また、ほぼ同時期の内陸側である6C21～7C21からSR03土器設置遺構が確認された。遺構は、Ⅸ群B類の大洞A1式段階に相当する土器群で構成されており、小形の鉢や壺を中心とする器種に限定して規格的整一性を有している。出土状況から、儀礼的行為を示唆する遺構であると考えられる。花粉分析から、該期の植生はコナラ亜属とケヤキを主とする落葉広葉樹林期と捉えられる。晩期中葉に形成されたクリ林が疎らとなり、コナラ亜属やケヤキ、カエデ属を主とする落葉広葉樹林へと変化したと見られる。これら植生変化と、堆積土中に確認される夥しい炭化物、上述の儀礼的行為などがどう結びつくかは想像の域を出ない。

### 新田Ⅱ第6期（縄文晩期後半～平安時代中期）

流路位置は、西区西端の NR01・02 沢跡。現新田沢の東10m程度にあり、流路方向はほぼ同一となる。流路内の2D区や3F区からは多量の流木が確認されており、水流が増加したことが分かる。特に3F区には長さ10mを超えるトネリコ属の大木が認められており、上部にT o - aテフラを堆積していることから、平安時代中期と考えられる。また、流路東側に広がる平坦部では、水田耕作が行われていたと考えられ、水路に使用したと見られる溝跡が縦横に確認されている。後世の耕作により面的には出土していないが、各セクションから部分的に確認できる。平安時代の遺物も少量出土しており、椀形を呈する坏器形から10世紀前半に位置付けられ、テフラ降下時期とも合致する。花粉分析から該期の植生は、落葉広葉樹林の縮小及びコナラ亜属とクリ林期（平安時代）と捉えられる。西区東側からは、クリを高率で確認しており、東斜面にはクリ林が広がっていた可能性がある。また、イネ型花粉やソバ、アサが見つかったことから水田耕作が裏付けられ、栽培の可能性もある。

### 新田Ⅱ第7期（平安時代中期～現代）

流路位置は、NR01 沢跡から現新田沢。流路の大部分は、市道部分から現新田沢となり、流路方向も同一である。底面変化はほとんどなく平坦で、現新田沢下層まで続いている。出土遺物は、後期中葉～晩期後半までが混在しており、前流路を破壊して後の流路が作られている。花粉分析から植生は、スギが優勢な林期と捉えられる。コナラ亜属を主とする落葉広葉樹林は縮小し、針葉樹のスギやマツ属複雑管束亜属が優勢な植生へと変化している。クリは、スギ林の縁の沢側に生えていたと考えられる。

## 2 西区土器集積遺構について

西区東端の6C25～7C21・Ⅱb層上面から、土器集積遺構を1箇所確認した。集積は、1.5×1.2mの狭い範囲にある。出土した遺物は大半がその場で割れた状態にあり、西方向の斜面下位にやや流れているものの元位置を留めていると考えられる。これらは、出土した状況から破損品を廃棄したものではなく、完形品を地面に並べて置いたものと推察される。中には、鉢の中に壺を入れ子にした出土状況を示す例も認められる。推測の域を出ないが、出土状況から液体・固体の供物を入れた器であろう。

出土した土器はすべて、晩期後葉のⅨ群B類大洞A1式段階に相当する土器群に比定されることから、その一括性が指摘できる。このうち、復元できた器種組成は深鉢2点・鉢9点・台付浅鉢1点・壺8点の計20点で、各々の器種内でもサイズが小形で規格的である。器形も整一性が高く、特に鉢・壺は整っている。上述した入れ子の個体は、31鉢に48壺が入った状態で出土したものである。

本遺跡で確認した完形土器を集積した遺構の出土事例として、青森県東津軽郡外ヶ浜町（旧平館村）今津遺跡（青森県教委 1986）や秋田県横手市増田町（旧平鹿郡増田町）平鹿遺跡（秋田県教委 1983）、岩手県北上市九年橋遺跡（北上市教委 1977～80・84～87・90）がある。

今津遺跡では、晩期中葉大洞 C 2 式期の遺物密集ブロック（捨て場）がほとんど 1 ブロック検出され、遺物ごとの破損率から完形土器が相当数存在したとしている。個体数は明らかでないが、器種は深鉢、鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、壺、注口、その他（香炉、ミニチュア）と多岐に亘る。報告者の岡田康博氏は、遺物密集ブロック（捨て場）は人間による廃棄行為・行動の所産、結果であることはいまでもないとしながら、完形土器を廃棄対象とすることについて、廃棄行為に思惟的・祭祀的行為が伴うことを指摘している。

平鹿遺跡では、晩期後葉大洞 A 式期の SX009 捨て場が検出され、多量の土器や石器、土製品、石製品が出土した。中でも、勾玉・小玉・耳栓など装飾品類が 664 個まとめて確認されている。このような捨て場的出土状況の中で、捨て場のゾーンから若干南に位置する SX006 土器一括廃棄遺構から、8 個体の完形土器が一括して廃棄された状態で検出された。器種は、深鉢 3 点、台付鉢 1 点、壺 4 点である。また、SX005 土器一括廃棄遺構からは、大洞 C 2 式期の 13 個体の完形土器や土器破片、石鏃、小形の独鈷石、有溝半球状石製品が一括廃棄された状態で出土している。このような捨て場の在り方について、報告者の小玉準氏は、「平鹿遺跡は、個々の人間にせよ、あるいは人間が日常生活において製作、使用したところの様々な道具類にせよ、すでに生命を失ったものや不要になったものの集積地であると見るべきで、その中に構築された石囲炉と配石が、それらに対する祭祀行為の所産であるならば、人間の埋葬儀礼も諸遺物の廃棄行為も同一の観念の下に行われ、一脈通じるものがあつたと考える鈴木克彦の論は正鵠を得たものである」としている。

九年橋遺跡では、第 3 次・第 4 次調査の結果、延べ 252m<sup>2</sup>の調査区から完形・略完形の土器が 512 個体（1 m<sup>2</sup>あたり約 2.0 個体）出土し、そのうち 186 個体（1 m<sup>2</sup>あたり約 0.7 個体）が全く欠損のない良好な状態で出土した。報告者の藤村東男氏は、このような夥しい遺物の出土状況を、小林達雄の土器廃棄パターンに当てはめ、「住居址以外の斜面、溝、ピットなどのごく限られた範囲内から大量の完形もしくは完形に近い土器が多数の破片とともに出土するとされるパターン D（平和台パターン）に該当するものと思われる」としながらも、資料の集成と個々の遺跡の特殊性を確認することが必要としている。

3 遺跡の出土状況と今回の土器集積遺構を比べると、類似点が多く、特に平鹿遺跡 SX006 土器一括廃棄遺構の出土状況は完形土器を地面に並べて置いた手法や壺や鉢の組成割合が高いところが似通っている点が多い。このような遺物出土状況には、縄文人の行動が色濃く反映されており、読み取れる情報も多いが、意識的部分を推察することは難しいと感じた。

現地で指導頂いた小林克氏から、壺及び鉢が入れ子状態で集められていること、入れ子であることに関わって壺・鉢の大きさがより小形に、規格的に揃っていることは平鹿遺跡と相違する特徴であることをご教授頂いた。ここで記して感謝申し上げます。

### 3 出土堅果類について

今回の調査では、計 7 時期の古新田沢から、オニグルミ・トチノキ・クリなどの堅果類が多量に出土した。確認された資料は、その出土状況から住居や貯蔵穴に備蓄されたものではなく、すでに食料として利用され、廃棄されたものである。従って、食用する中身の子葉部分が残存することは稀であり、大半が内果皮や果皮、種皮などの殻のみの状態で出土している。

出土した植物遺存体の中で、最も多く確認され、縄文人が主な植物質食料としたであろうオニグルミ・トチノキ・クリの利用について考えると、オニグルミ・クリについては生食可能であるのに対し、トチノキの実（種子）はあく抜き工程を経ないと食料にすることができない。

トチノキの実のあく抜きについて、名久井文明氏は民俗例を援用しながら、①トチを粉砕する「発酵系あく抜き」方式、②トチを粉砕する「水晒し系あく抜き」方式、③トチを粉砕する「はな（澱粉）取り系あく抜き」方式、④トチの剥き身を使う「灰汁合わせ系あく抜き」方式の4つのあく抜き方式に類別している（名久井 2006）。①～③はトチノキを種皮ごと粉砕して作業するのに対し、④は口歯や道具を用いて剥き身を大きく取り出すことで異なる。今回の調査では、1/2 未満の細片がトチノキ総量の 92.9% を占めた。1/2 以上残存した破片は 3.8% であることから、出土したトチノキ種皮の大半は粉砕するあく抜き作業によって産出されたと考えられる。ただし、大破片も少数であるが存在するため、利用の仕方によっての相違の可能性がある。推定時期により、作業手法に変化が現れることも考慮したが、大きな違いは認められなかった。

また、名久井氏は民俗例からあく抜きに使用する灰汁については、「木灰を用いたのは、「あく抜き」効果を促進させる目的だったと理解される」とし、「灰汁を使うことは、これを使わない諸例に照らすと「あく抜き」のための必須条件ではない」と指摘している（前掲）。これに照らせば、沢の流水を利用して、アルカリ中和を行わない①～③の方式が採用された可能性もある。

オニグルミは、生食可能な食料であるが、堅い内果皮（核）に覆われており、中身の子葉部分を取り出すには、直接または間接打撃により殻を割る作業を伴う。合計 4359.6 g 出土し、層位別に見ると II b 層 2275.5 g、III 層 130.3 g、IV 層 1455.3 g と晩期後半包含層である II b 層からの出土が半数以上を占める。出土層位ごとに破損の割合を見ると、いずれも頂部や底部の破損の割合が高く、打撃箇所を意識して作業を行っていることが確認された。また、V 出土遺物でも触れたが、出土した個体中に、炭化したクルミの殻を確認した。生食可能なクルミを加熱する行為については不明だが、現代でもクルミを割りやすくするために熱することがあるという。これから、縫合面が剥離しやすくして、作業軽減を図った可能性がある。

クリも生食可能で、果皮が薄いことから口歯で簡単に剥ぐことができる。ただ、果皮内にムシが侵入しやすく、備蓄するためには民俗例から茹でてムシ殺しを施した後に、乾燥させて保存する作業を伴う。合計 1,783.5 g 出土し、層位別に見ると II b 層 71.4 g、III 層 177.5 g、IV 層 1,508.2 g と後期初頭包含層出土が 84.5% を占める。晩期の利用数量が著しく少ないのは、利用自体が少ないというよりはむしろ廃棄場所が異なることが影響していると考えられ、遺跡内に直接持ち込まれたことを示している。

今回の調査では、植物利用の痕跡として、オニグルミ・トチノキ・クリなど遺物の残渣の集積は確認されたが、これらの植物質食料の加工作業を行う明確な施設は検出されなかった。佐々木由香氏によれば、「水場遺構」がさす範囲は3つのレベルにおおまかに分けられる（佐々木 2000）。①構築物（施設）や遺物の有機的な関係が捉えられる空間レベルで出土したもの、②水を利用するために作られた構築物（施設）レベルで出土したもの、③水を利用するために使用された遺物のレベルで出土したもの（遺物の残渣状況から①または②のレベルの「水場遺構」が想定されるもの）である。

調査で出土した堅果類の残渣は、「施設ではないが、水を利用した行動の結果形成された」ものであり、間接的ではあるが水場施設の範囲に捉えられる。そして、これらが集中して確認された西区は、古新田沢の流水を利用した水場空間であり、集落の中でも低地を利用した「水場遺構」が存在したことを物語っている。



## 4 総括

今回の調査は、平成 23・24 年の足掛け 2 ヶ年、約 7 ヶ月間行った。検出した遺構は、竪穴住居跡 1 棟、土坑 1 基、焼土遺構 1 基、土器集積遺構 1 基、土器設置遺構 2 基、溝跡 9 条、ピット 2 個、沢跡 7 期、礫群 3 基、堅果類集中範囲多数である。また、出土した遺物は、縄文土器大コンテナ 145 箱、土製品 95 点、石器 4,985 点（うち製品 297 点）、石製品 5 点、木製品 1 点、昆虫 13 試料、動物遺存体（焼骨）22.0g、植物遺存体（オニグルミ 4,539g・トチノキ 21,475g・クリ 1,783.5g・植物葉 16 試料・樹木 48 点）、平安時代の土器中コンテナ 1 箱、近現代の陶磁器ビニール 1 袋、鉄製品 6 点である。

東区の調査は、平成 21 年度調査で確認されていた遺跡中段の縄文時代中期後葉の集落の一部であり、今回の調査で集落の西端が確認された。

また、西区の調査は、遺跡西端の低地部分に古新田沢の水を利用した水場遺構を確認することができた。ただし、住居などこの低地を利用した居住域は調査範囲内では認められなかった。今回の調査と並行して、西側に隣接する深沢野 I 遺跡の調査が一部行われ、晩期後半の竪穴住居跡 1 棟を検出している。調査地点は、両遺跡の間にある谷底に立地しており、隣接する集落の低地利用が推定される。

## 引用・参考文献

- 青森県教委 2004『岩渡小谷（4）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 371 集  
 青森市教委 2003「縄文人の台所・水さらし場遺構を考える」平成 14 年度縄文講座資料  
 稲村晃嗣 2008「門前式土器」『総覧 縄文土器』p.p.536-543  
 岩埋文セ 2011『新田Ⅱ遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 572 集  
 岩埋文セ 2012『川目 A 遺跡第 5 次』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 589 集  
 青森県教委 1986『今津遺跡・間沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 95 集  
 秋田県教委 1983『平鹿遺跡』秋田県文化財調査報告書第 101 集  
 北上市教委 1978『九年橋遺跡第 4 次』文化財調査報告第 23 集  
 北上市教委 1979『九年橋遺跡第 5 次』文化財調査報告第 25 集  
 栗島義明 2008「縄文時代のトチの実利用とその加工（Ⅰ）－民俗資料と考古資料との比較研究－」『環境史と人類』第 2 冊 明治大学学術フロンティア  
 小林圭一 1999「東北地方 後期（瘤付土器）」『縄文土器』10 p.p.149-177 縄文時代文化研究会  
 小林圭一 2008「瘤付土器」『総覧 縄文土器』p.p.568-577  
 佐々木由香 2000「縄文時代の「水場遺構」に関する基礎的研究」『古代』第 108 号 p.p.93-127  
 佐々木由香・工藤雄一郎・百原新 2007「東京都下宅部遺跡の大型植物遺体から見た縄文時代後半期の植物資源利用」『植生史研究』第 15 巻第 1 号 p.p.35-50  
 鈴木克彦 2008「宝ヶ峯式・手稲式土器」『総覧 縄文土器』p.p.552-559  
 遠野市教委 2002『新田Ⅱ遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第 13 集  
 中野幸大 2008「大木 7 a～8 b 式土器」『総覧 縄文土器』p.p.352-359  
 名久井文明 2004「乾燥堅果類備蓄の歴史的展開」『日本考古学』No.17 p.p.1-24  
 名久井文明 2006「トチ食料化の起源 - 民俗例からの遡源的考察 -」『日本考古学』No.22 p.p.71-93  
 新潟県朝日村教委 2002『元屋敷遺跡Ⅱ（上段）』朝日村文化財報告書第 22 集  
 新潟県教委 2004『青田遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 133 集  
 新潟県教委 2009『野地遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 196 集  
 新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教委 2002「川辺の縄文集落」『よみがえる青田遺跡』資料集  
 福島県立博物館 1988『三貫地貝塚』福島県立博物館調査報告第 17 集  
 藤沼邦彦・関根達人 2008「亀ヶ岡式土器（亀ヶ岡式系土器群）」『総覧 縄文土器』p.p.682-693  
 本間宏 2008「南境式・綱取式土器」『総覧 縄文土器』p.p.544-551  
 森幸彦 2008「大木 9・10 式土器」『総覧 縄文土器』p.p.360-367



# 写 真 图 版



遺跡遠景（北上空から）



西区近景（西から）





西区・NR03 沢跡堆積状況（南西から）



西区・北端セクションA断面（南東から）





NR03 (2B15) II b層下部クルミ殻集中(北西から)



NR03 (2B20) II b層下部トチ殻集中(南から)





S R 03 土器設置遺構 (南西から)



S R 03 出土土器集合写真





S I 07 西半全景 (東から)

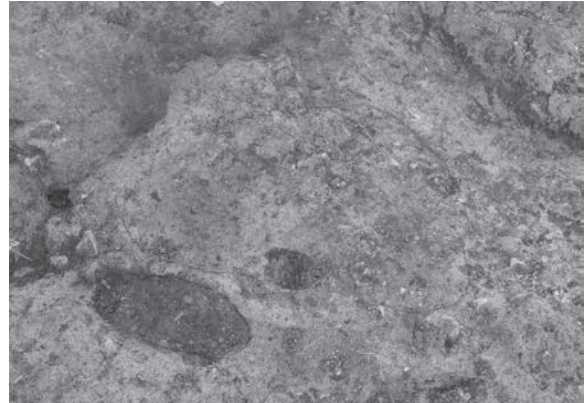


S I 07 西半全景 (西から)





炉2検出（南東から）



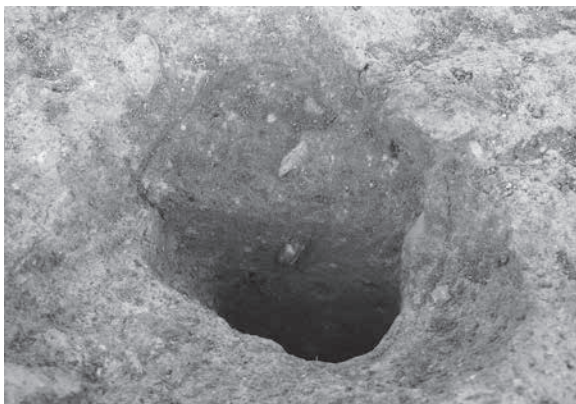
炉3検出（東から）



炉4検出（北から）



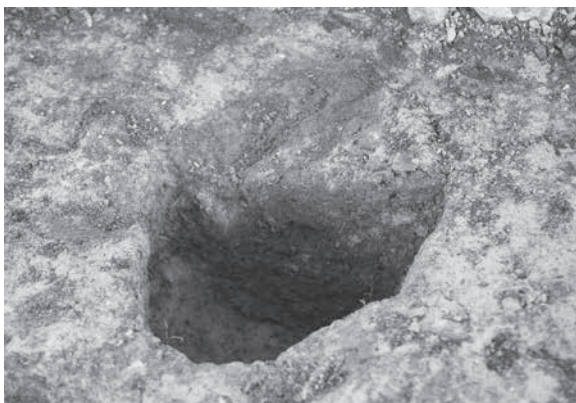
炉4断面（東から）



P 1 断面（南から）



P 2 断面（南から）



P 4 断面（西から）

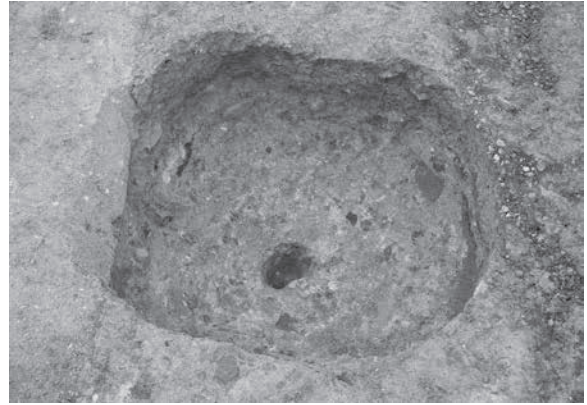


P 5 断面（南から）





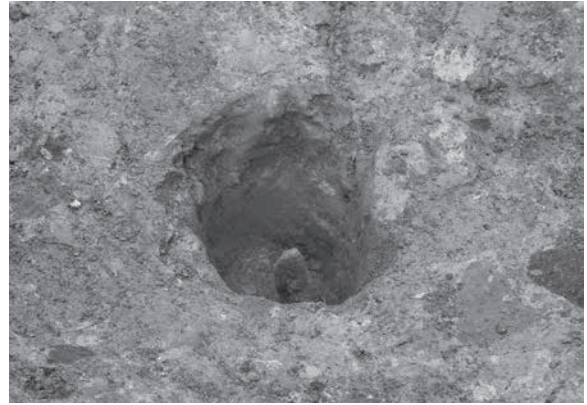
S K 101 完掘 (西から)



S K 101 完掘 (南から)



S K 101 断面 (西から)



S K 101 底面副穴 (西から)



北西部 37G 区包含層着手前 (南から)



北西部 37G 区包含層断面 (北西から)



北西部 37G 区小ピット群 (北から)



北東部隣接地遺物包含層





着手前の現道（南東から）



碎石盛土除去作業（北から）



現道部分南半検出（北から）



現道部分北半検出（北から）



現道部分北端検出（南から）



S I 07 検出（東から）



東区住居跡精査風景（西から）



東区実測作業風景（北から）





西区航空写真（直上・上が北）



西区全景（北西から）





セクションA断面（南東から）



セクションB断面（北東から）





セクションB裏側断面（南西から）



セクションB・C断面（南東から）





セクションD断面（東から）



セクションE 3C区断面（南から）





セクションE 2C区断面(南から)



セクションE 4C区断面(南から)





セクションF断面 (北東から)



セクションG 5B区断面 (西から)



セクションG 5C区断面 (西から)





セクションH断面（南西から）



セクションI断面（東から）





セクションJ断面（南東から）



セクションK断面（南から）





セクションL断面（北西から）



セクションM断面（南から）



セクションN断面（南から）



セクションO断面（北東から）



セクションO裏側断面（西から）





セクションP断面（北から）



セクションQ裏側断面（北から）





セクションR断面（南から）



セクションS断面（南から）





NR06 (4B10) 礫群 (北西から)



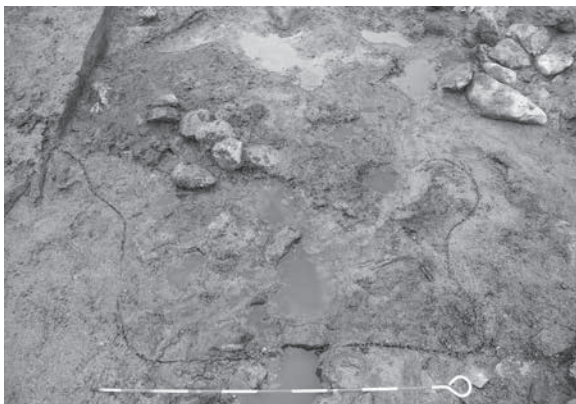
NR06 (5B18) 礫群 (北から)



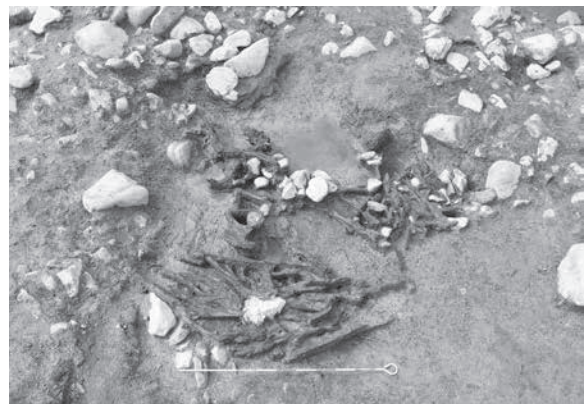
NR06 (4B14・15) IV層下部堅果類集中 (西から)



NR06 (4B14・15) IV層下部堅果類集中 (北から拡大)



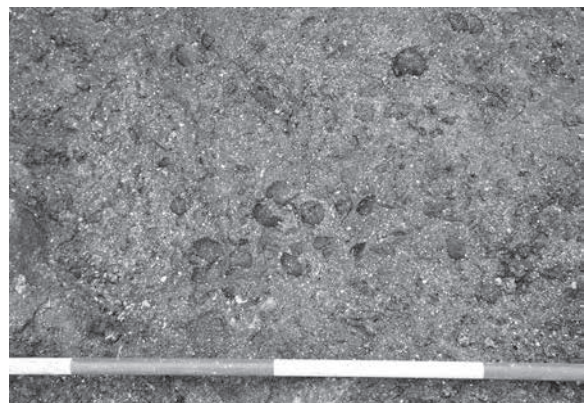
NR05(4C9) IV層下部堅果類集中 (東から)



NR05 (4C9) IV層下部樹木集中 (南から)

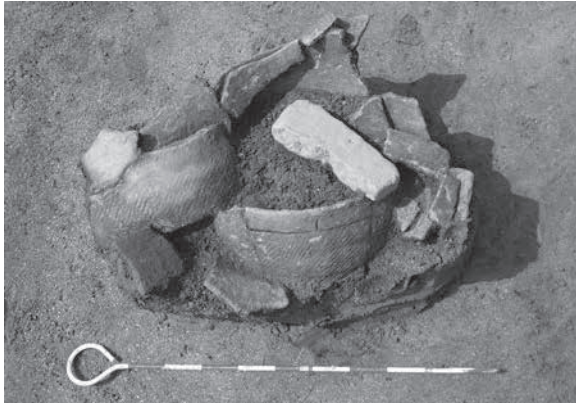


NR07 (4B23・24) IV層下部堅果類集中 (西から)



NR07 (4B23・24) IV層下部堅果類集中 (北から拡大)

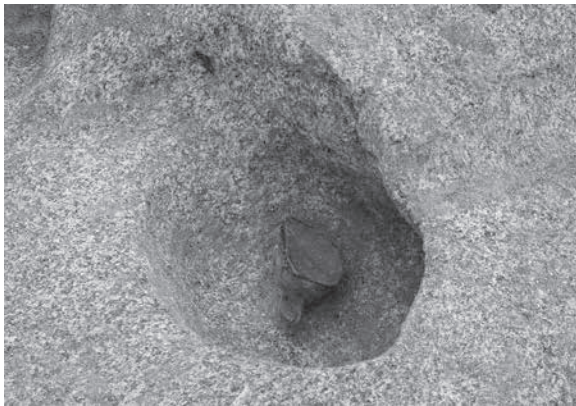




NR06 (4B20) IV層下部土器出土状況 (南から)



NR07 (4B24) IV層下部土器出土状況 (北から)



P101 (7C11) 完掘 (北西から)



5B ~ C 区地山面検出 (北西から)



NR05 (5C 区) 沢床面検出 (北西から)



NR05 (6D 区) 沢床面検出 (南東から)

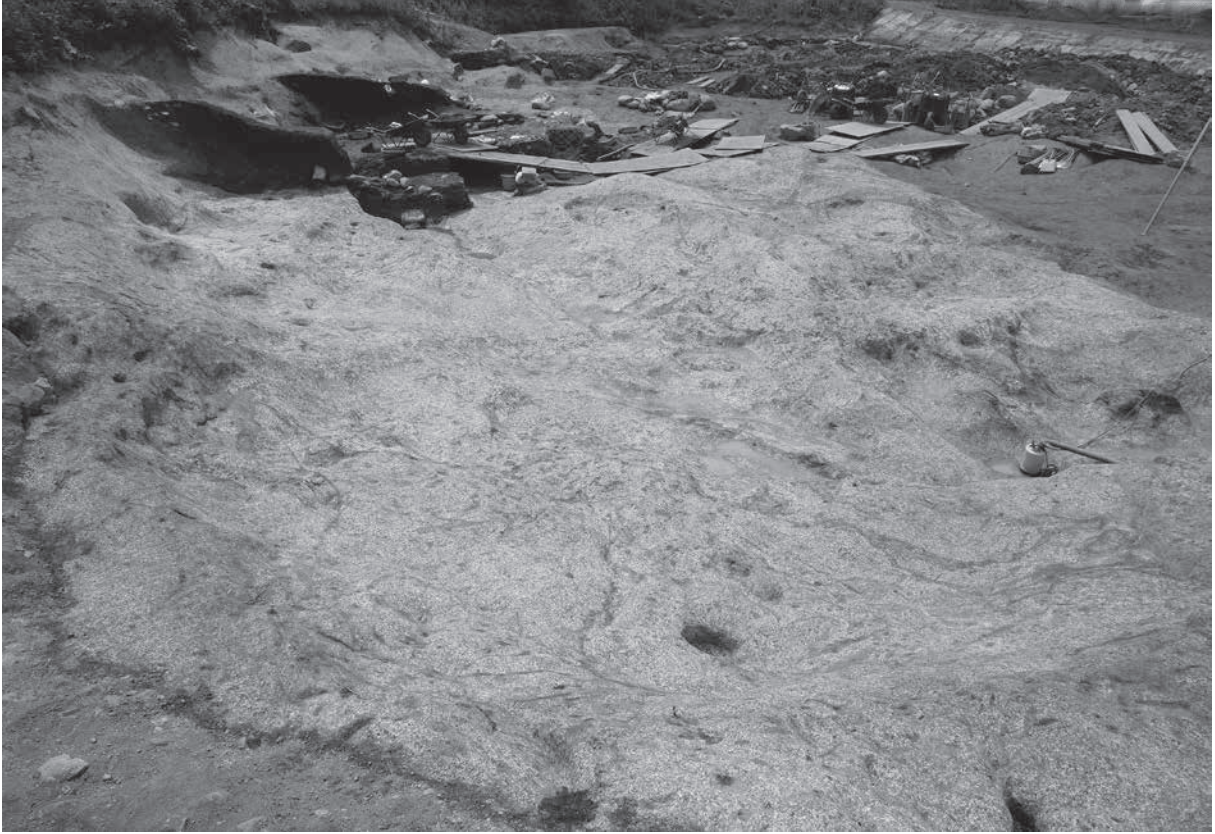


NR05 (4C9) 樹木集中精査風景



NR05 (3B 区) 砂礫層掘削風景





6C～D区地山面完掘(北から)



4B～C区地山面完掘(南東から)





NR04 (3B区) 沢底砂礫層検出 (北から)



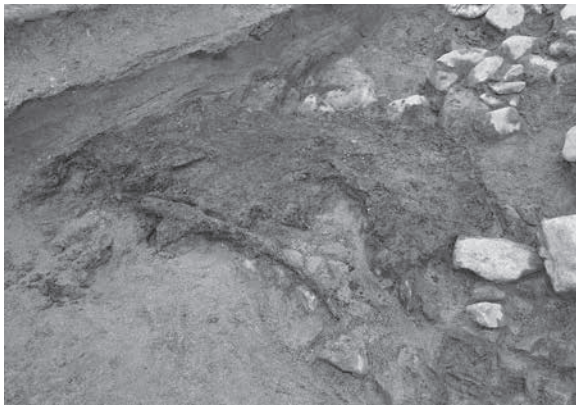
NR04 (2C区) 沢底砂礫層検出 (南から)



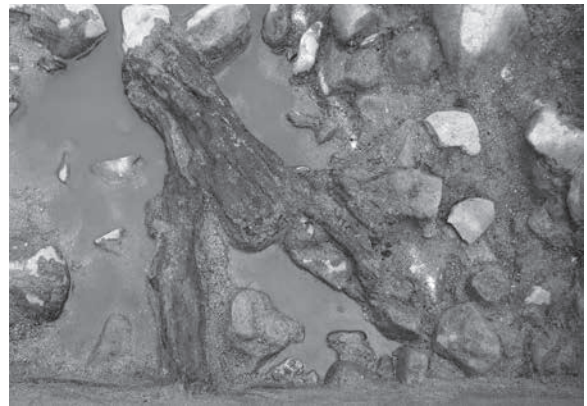
NR04 (3C区) 沢底砂礫層検出 (南から)



NR03～04 (3～4D区) 地山面検出 (南東から)



NR04 (3C24) 植物葉・堅果類集中 (南西から)



NR04 (3C19) 樹木検出 (南から)



NR04 (3D13・14) 沢底砂礫層直上建築部材出土 (南から)



NR04 (2D5) III層中土器出土 (南から)





NR04 (3C12) Ⅲ層土器出土 (南から)



NR04 (3C12) Ⅳ層土器出土 (西から)



NR04 (3D5) Ⅲ層土器出土 (西から)



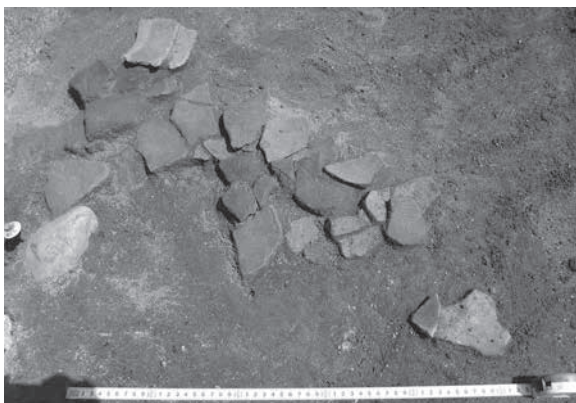
NR04 (3D11) Ⅲ層下位土器出土 (北から)



NR04 (3D12) Ⅲ層土器出土 (西から)



NR04 (3D15) Ⅲ層中～下位土器出土 (北から)



NR04 (4C6) Ⅲ層土器出土 (北から)



NR04 (4C6) Ⅲ～Ⅳ層土器製品出土 (北から)

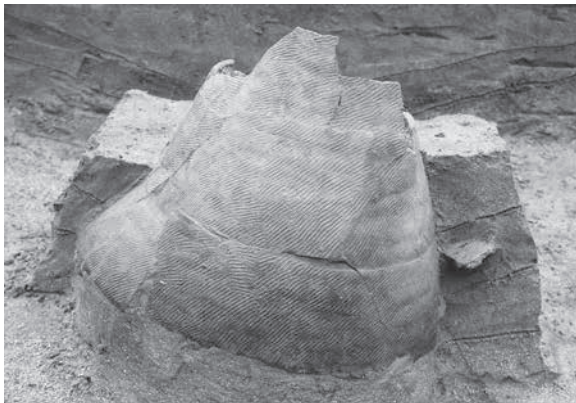




SR01 検出 (北から)



SR01 内部断面 (北から)



SR01 外部断面 (北から)



SR02 土器検出 (西から)



NR03・04 地山面完掘 (北から)



4E ~ G 区地山面完掘 (南東から)



2 ~ 3D 区地山面完掘 (南から)



3D 区作業風景





4～6・E～G区地山面完掘（南東から）

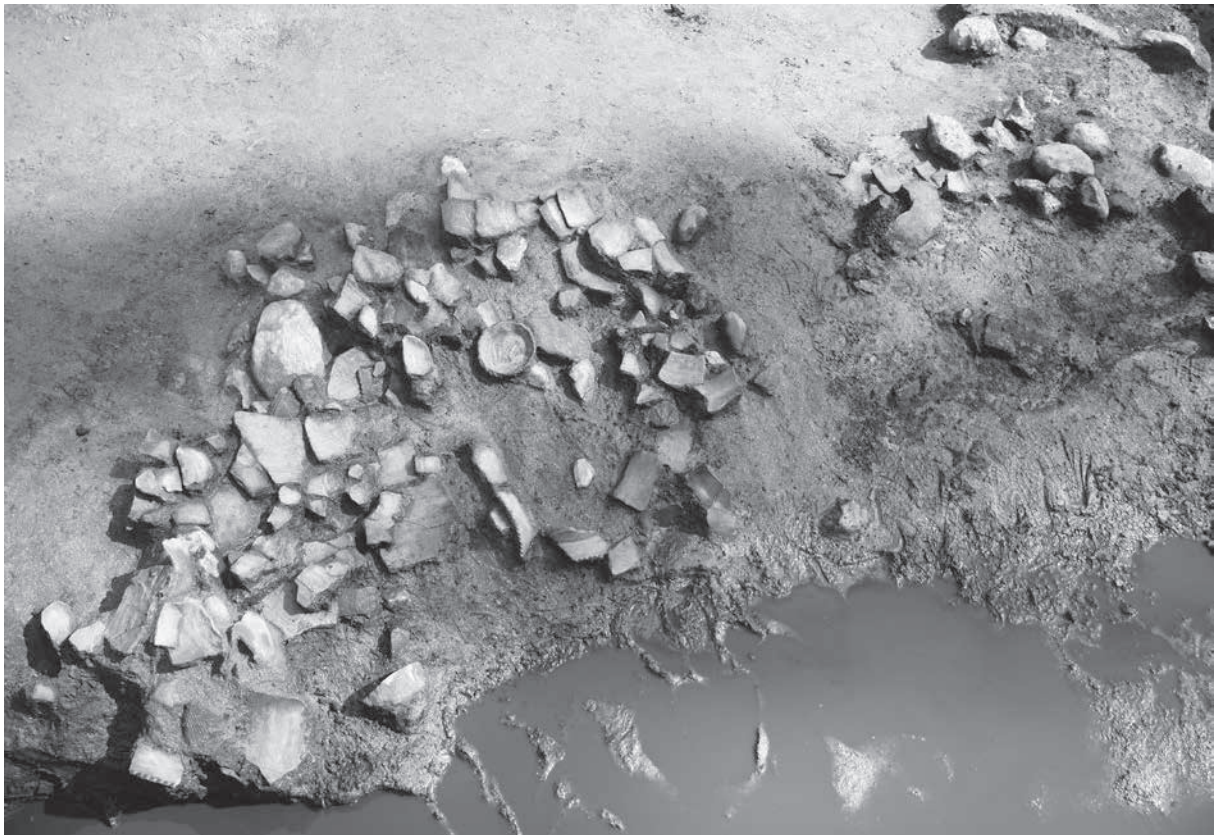


4～6・E～G区地山面完掘（北西から）





NR03 (2B20) II b 層下部堅果類集中 (南東から)



NR03 (3B2・3) II b4 層土器出土 (北西から)

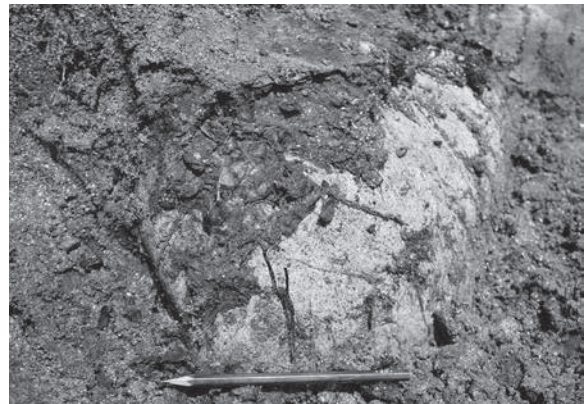




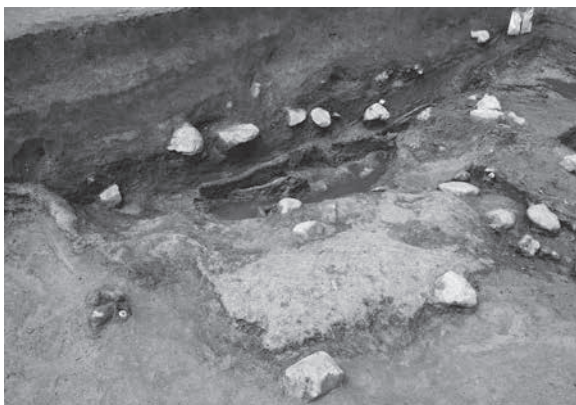
NR03 (3B7) II b4 層土器出土 (北西から)



NR03 (2B15) II b 層下部トチ殻集中 (北西から)



NR03 (3B16) II b5 層中トチ殻集中 (南西から)

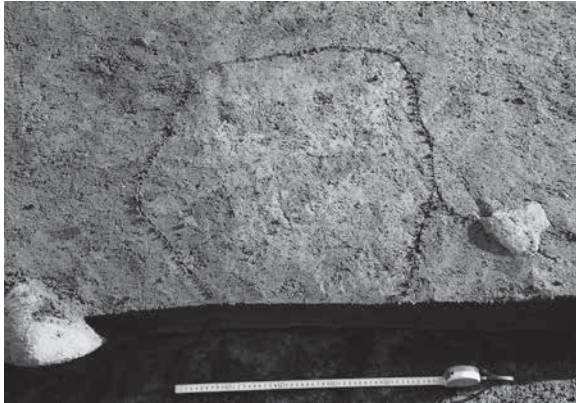


NR03 (3B6・7) II b3-4 層間粘土焼土ブロック検出 (東から)

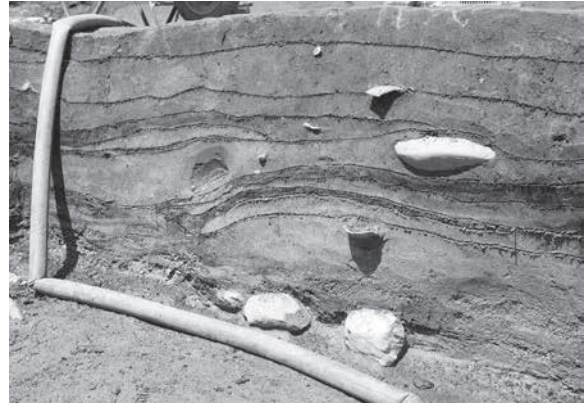


NR03 II b4 層中焼土ブロック検出 (南西から)





NR03(3B2) II b2層中SF01検出(北から)



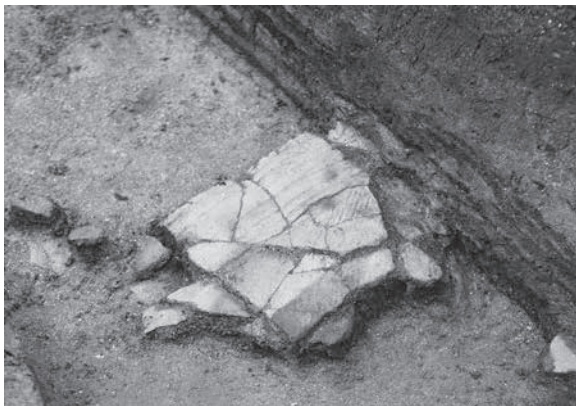
セクションC断面(南から拡大)



NR03(3B2) II b2層土器出土(南から)



NR03(2A25~2B5) II b層下部樹木出土(北東から)



NR03(3B3) II b層下部土器出土(南東から)



NR03(3A23) II b層下部土器出土(東から)



NR03(3A23) II b層下部土器出土(東から)



NR03(3A24) II b層下部土器出土(北から)





NR02 (2D区) 樹木出土 (南から)



NR01 (2D区) 樹木出土 (南東から)



NR01 (3F区) 樹木出土 (南から)



NR01 (3F区) To-a テフラ検出 (北から)



NR01 (2E区) トレンチ断面 (北西から)



NR01 (3G区) トレンチ断面 (北西から)



4E～G区地山面完掘 (南から)



1D～F区地山面完掘 (南から)





NR01～04 (2～4D区) 地山面完掘 (北から)



NR01～04 (1～3・E～G区) 地山面完掘 (南から)





2 面目検出（北から）



1 面目検出（西から）



入れ子で出土した土器（南西から）



作業風景





SD01 完掘 (西から)



SD01 東端完掘 (東から)



SD02 完掘 (南から)



SD01 断面 (東から)



SD02 断面 (南から)





SD03 完掘(南から)



SD03 南端東壁石組検出(西から)



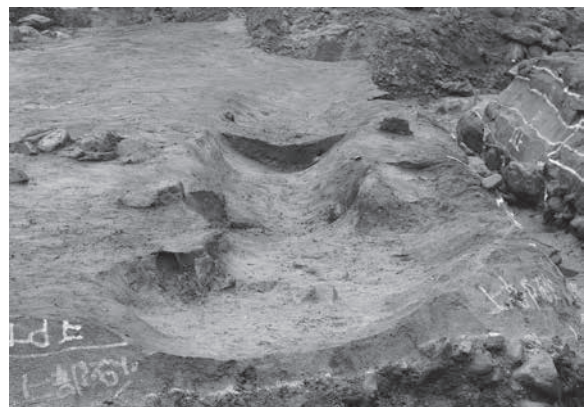
SD03 北端断面(南から)



SD04 完掘(南から)



SD04 断面(南から)



SD10 完掘(東から)





SD06 完掘(北西から)



SD06 断面(北西から)



SD07・08 断面(北から)



SD07・08 (北西から)



SD09・6D 区完掘(東から)



SD09・6C 区完掘(西から)





NR03 (2B区) II b層下部作業風景



NR03 (3B区) II b層下部作業風景



降雪時の作業



西区作業風景



花粉分析サンプル採取 (古代の森研究舎吉川氏)



新田沢下流域 (調査地点付近)



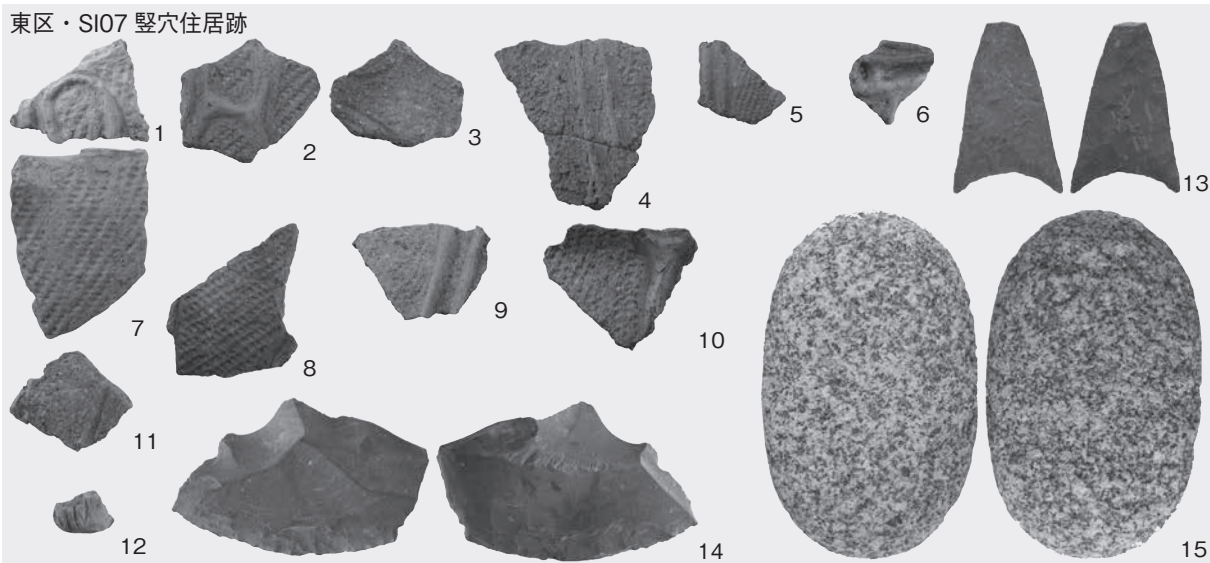
新田沢中流域 (ダム下流付近)



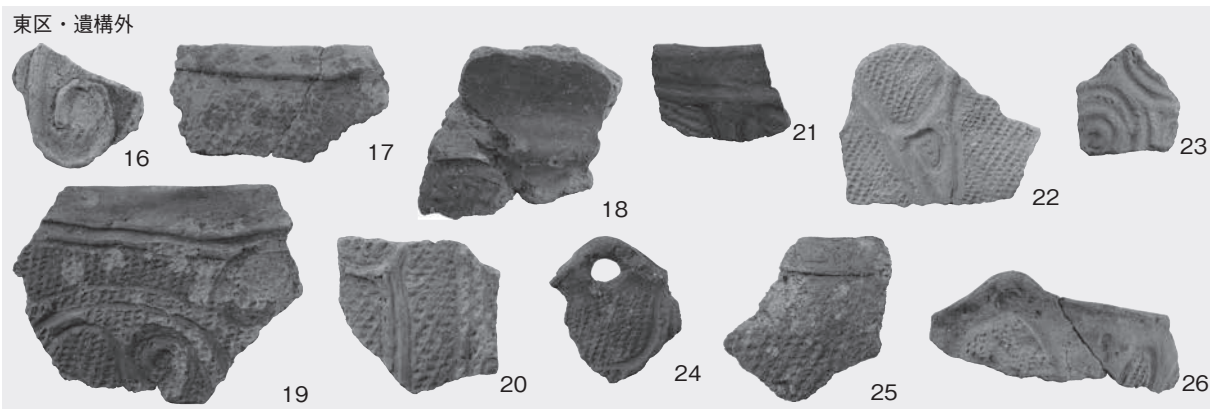
新田沢上流域 (新田橋付近)



東区・SI07 竪穴住居跡



東区・遺構外



西区・SR01



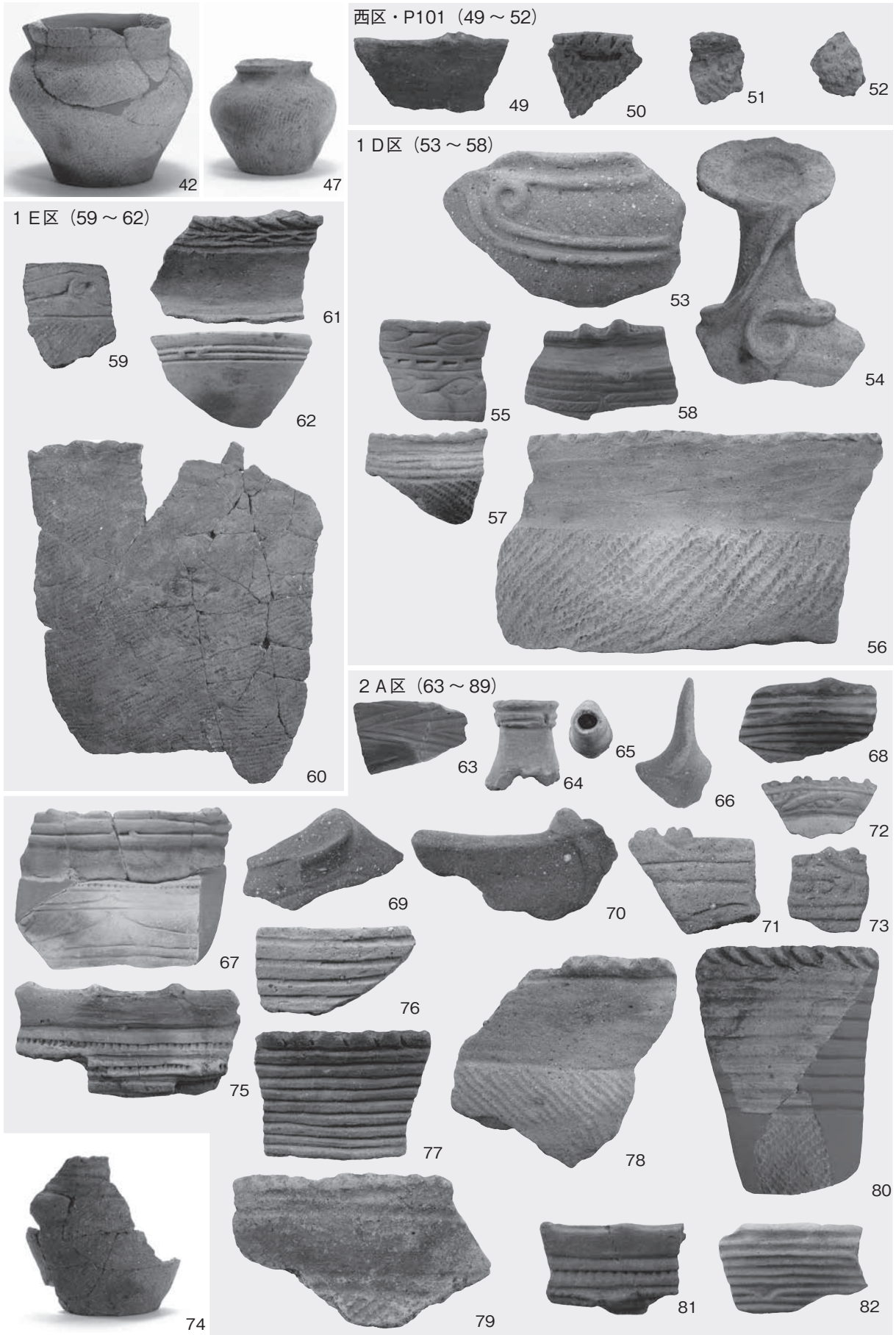
西区・SR02



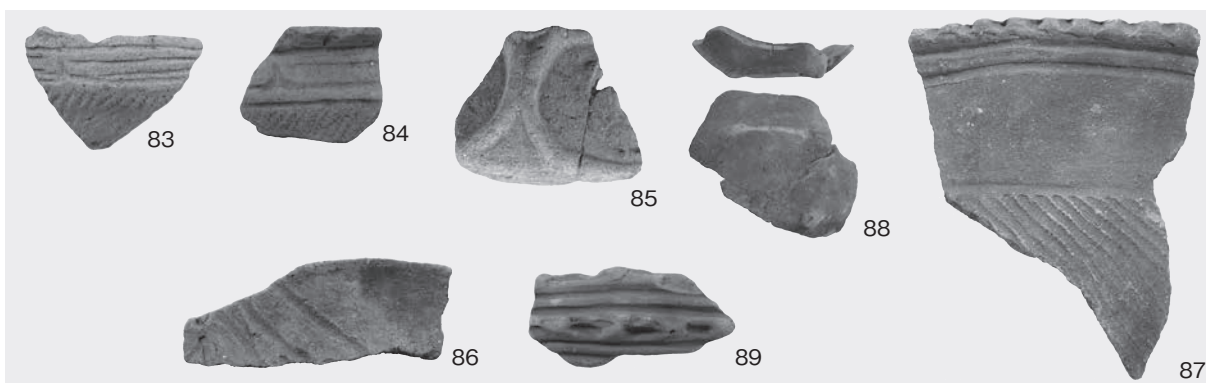
西区・SR03 (29 ~ 48)



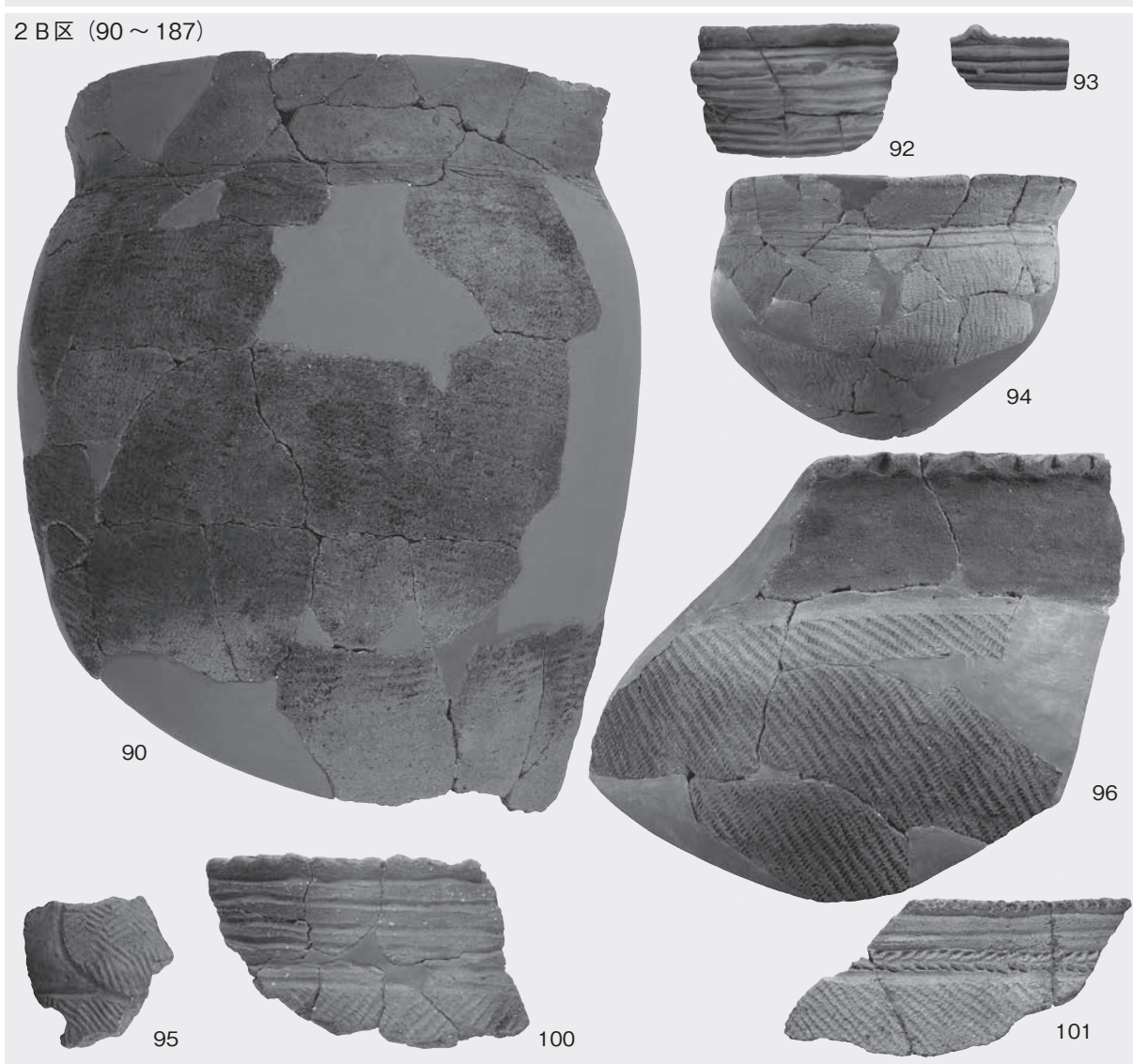


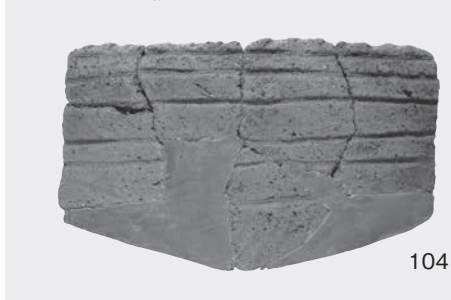
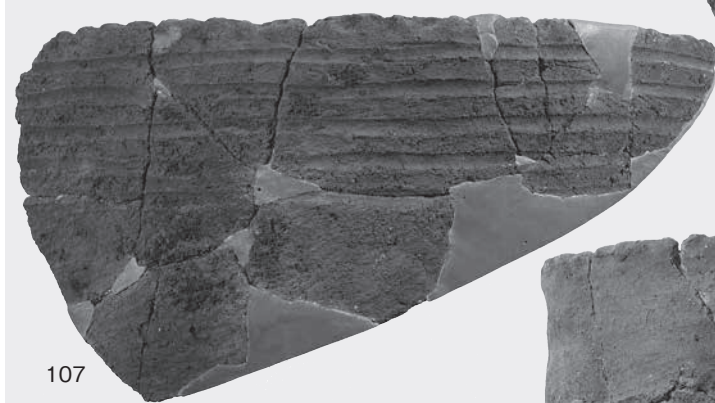
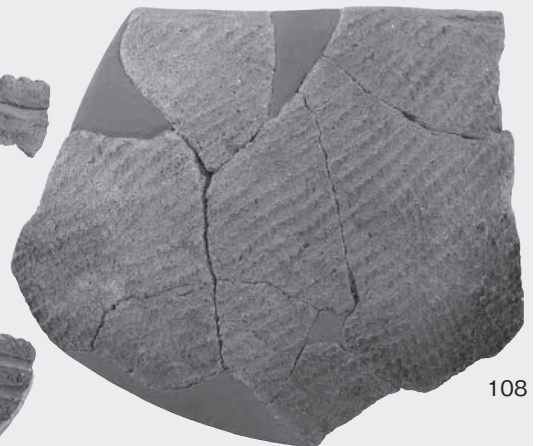
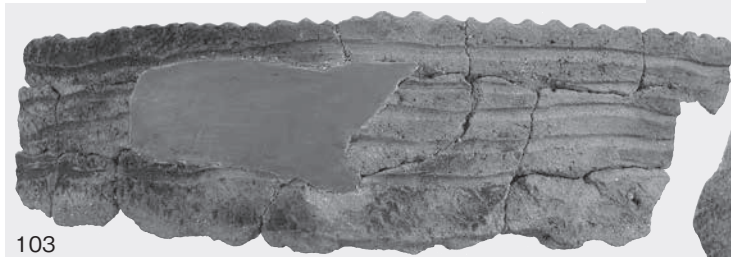
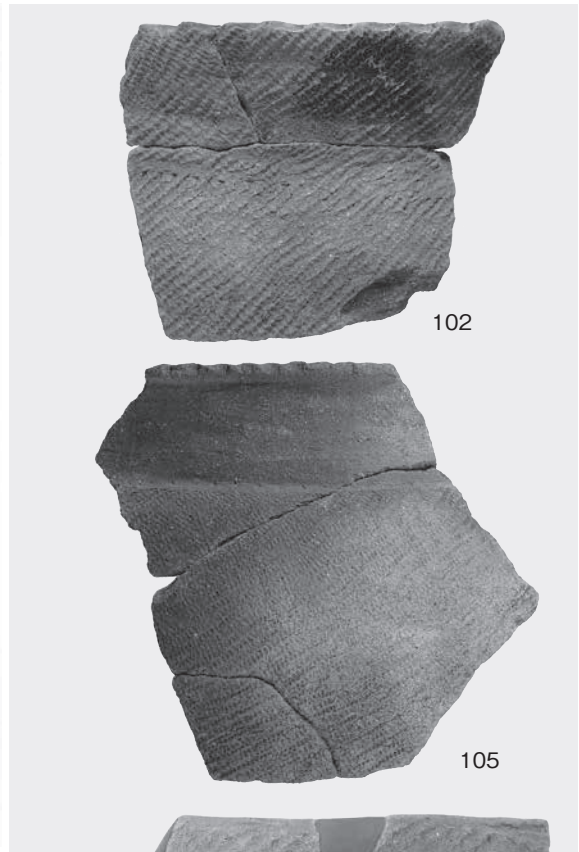




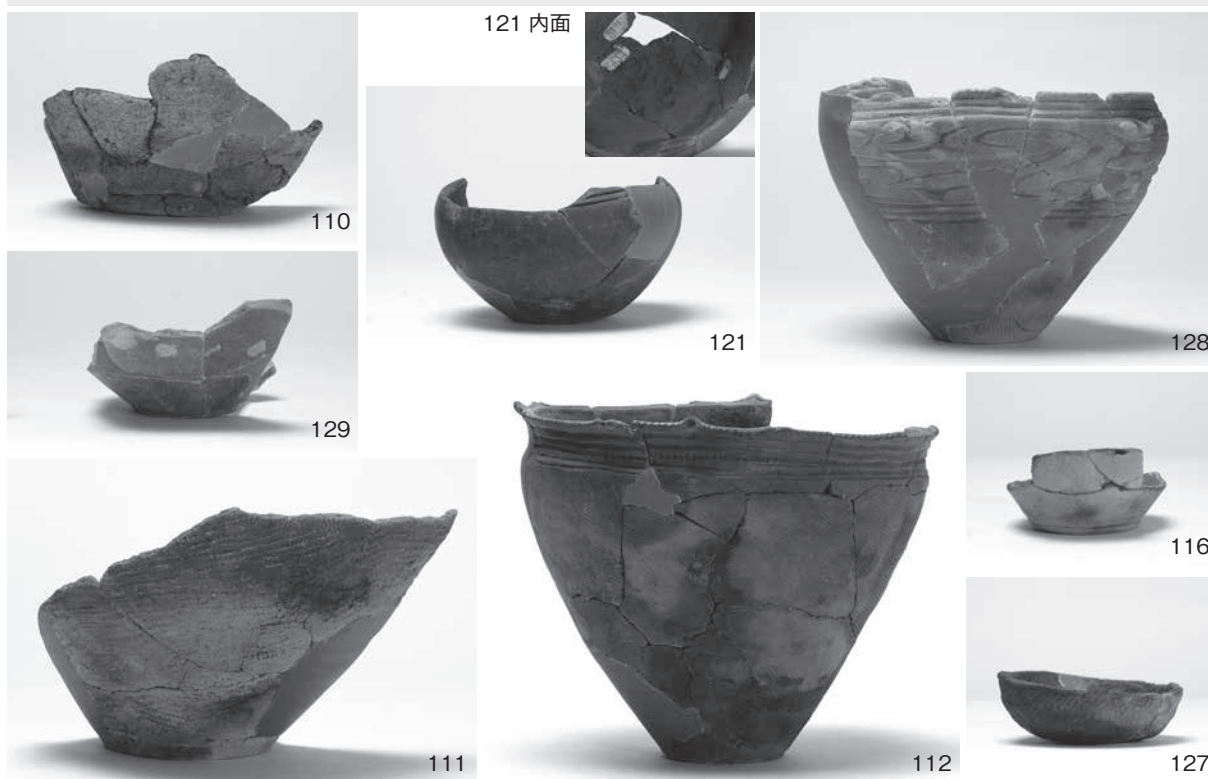


2 B区 (90 ~ 187)

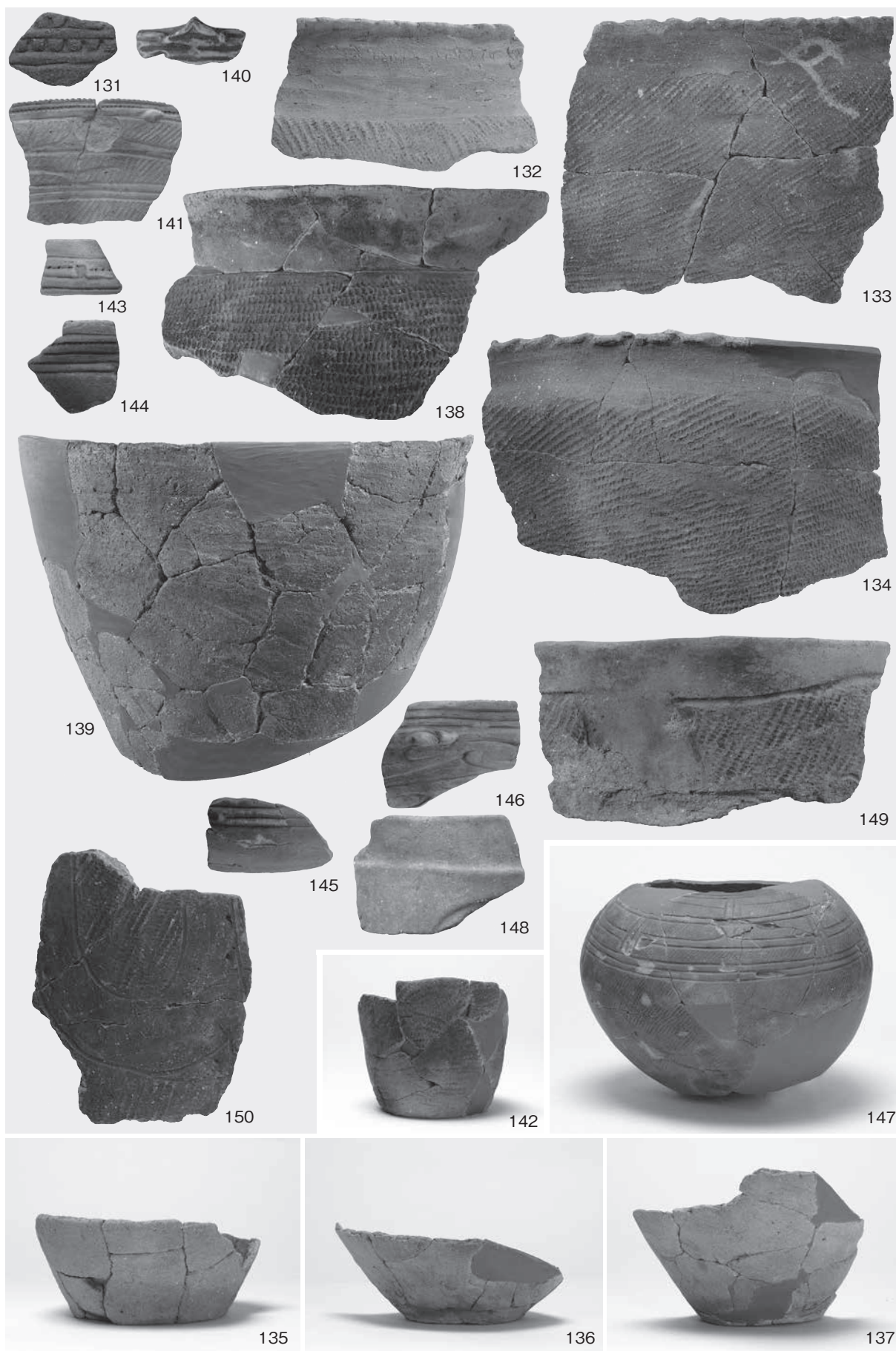




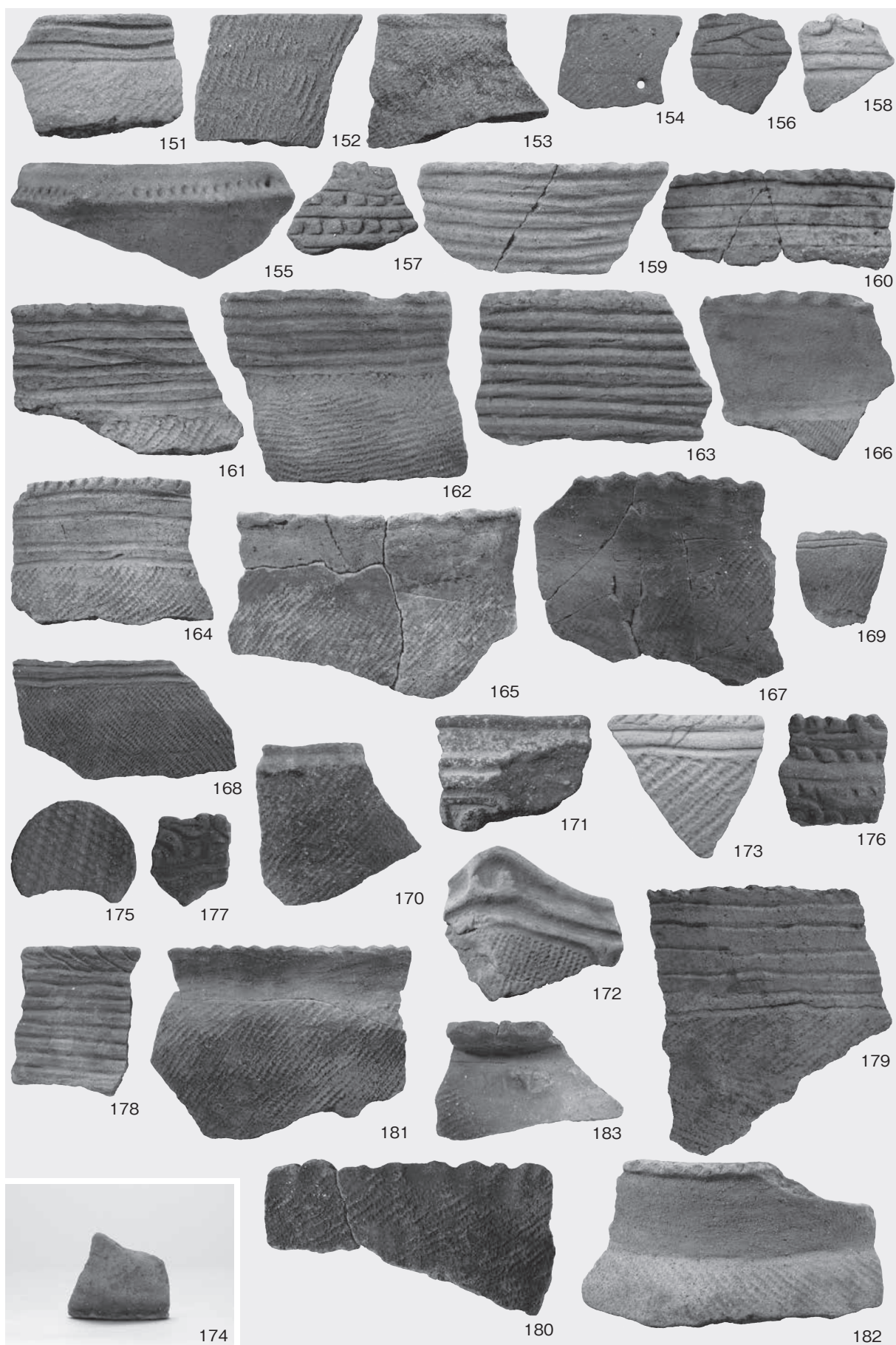




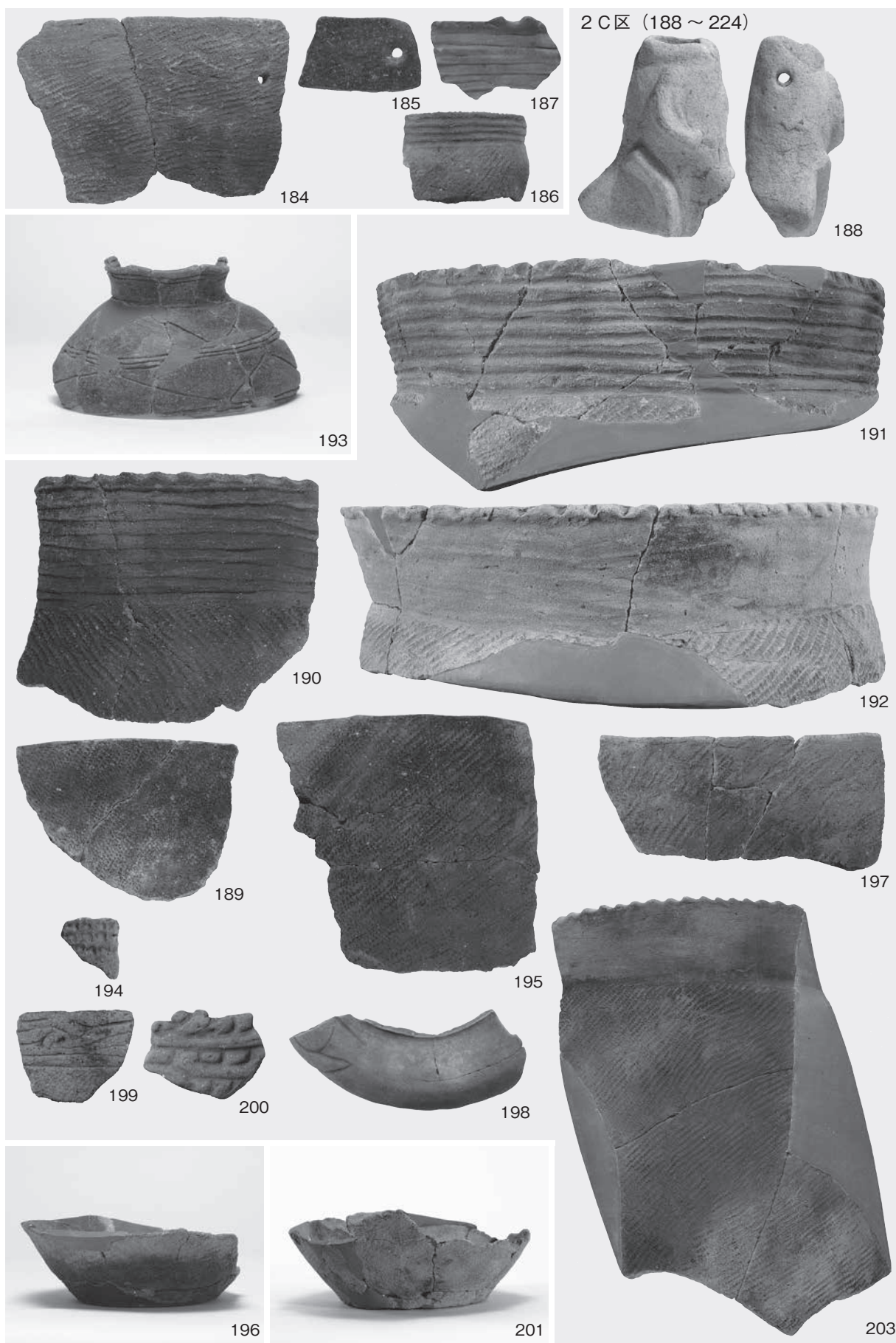




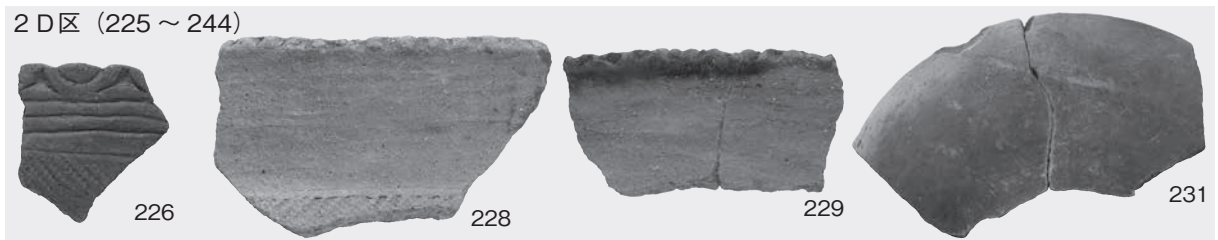
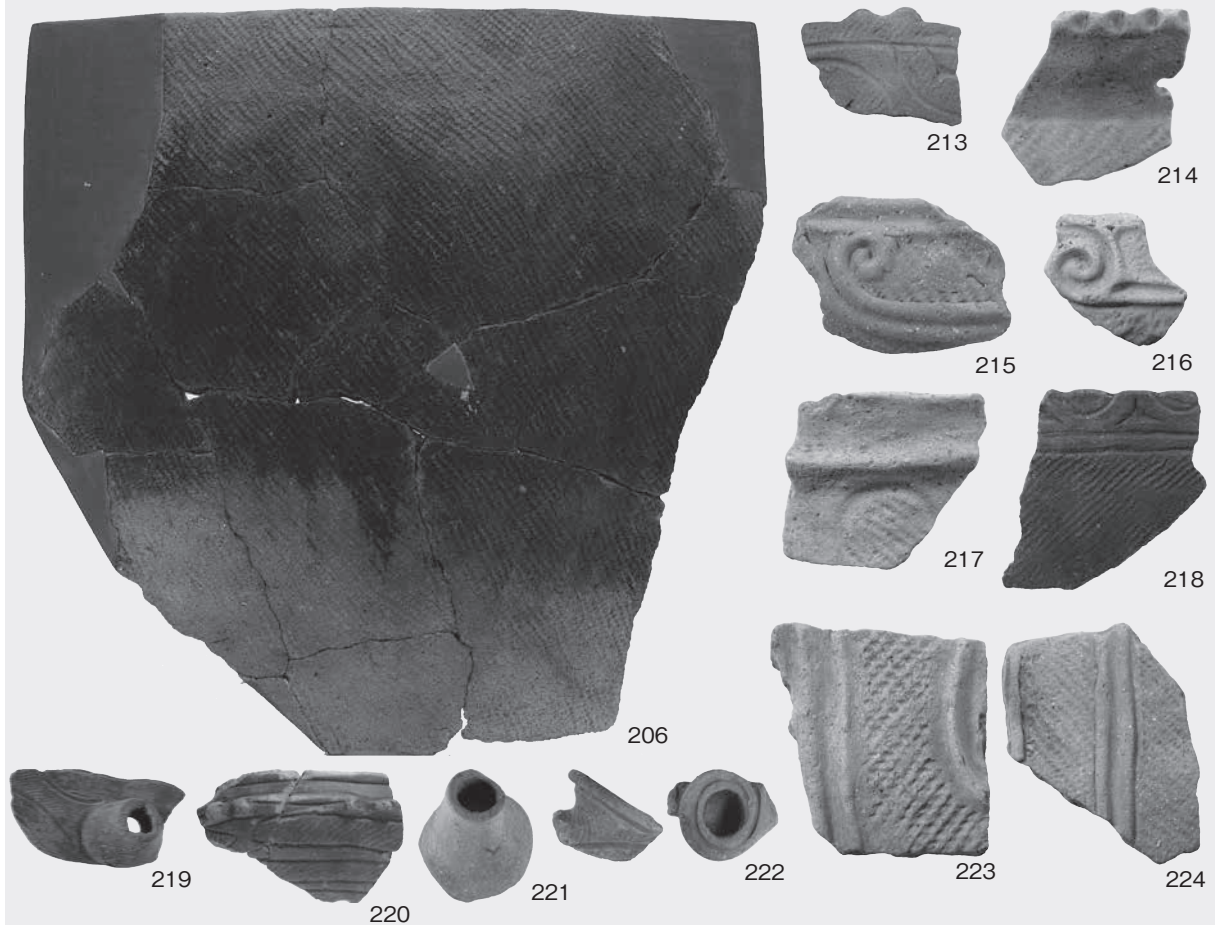
写真图版 43 西区·2B区(4)

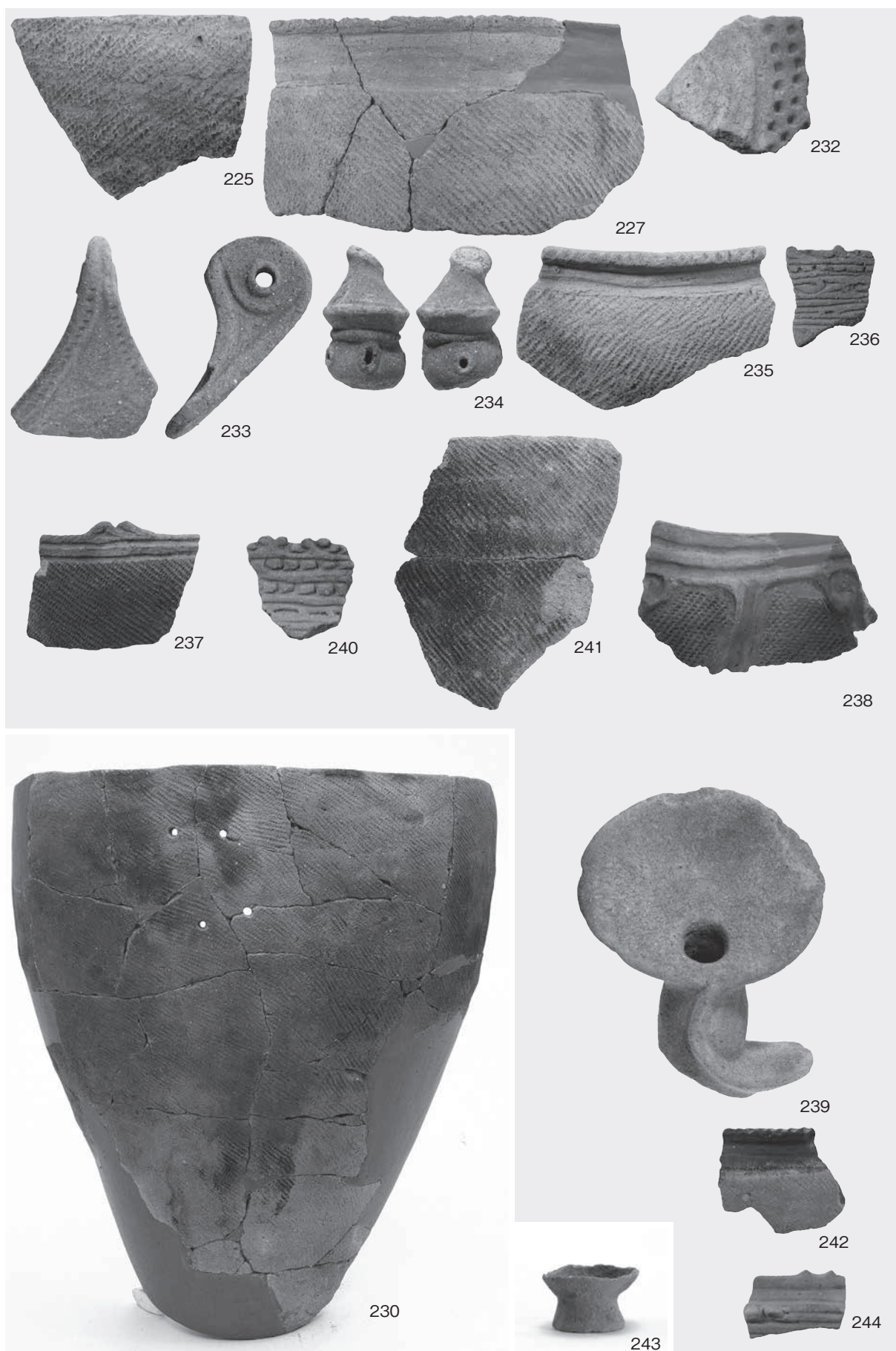






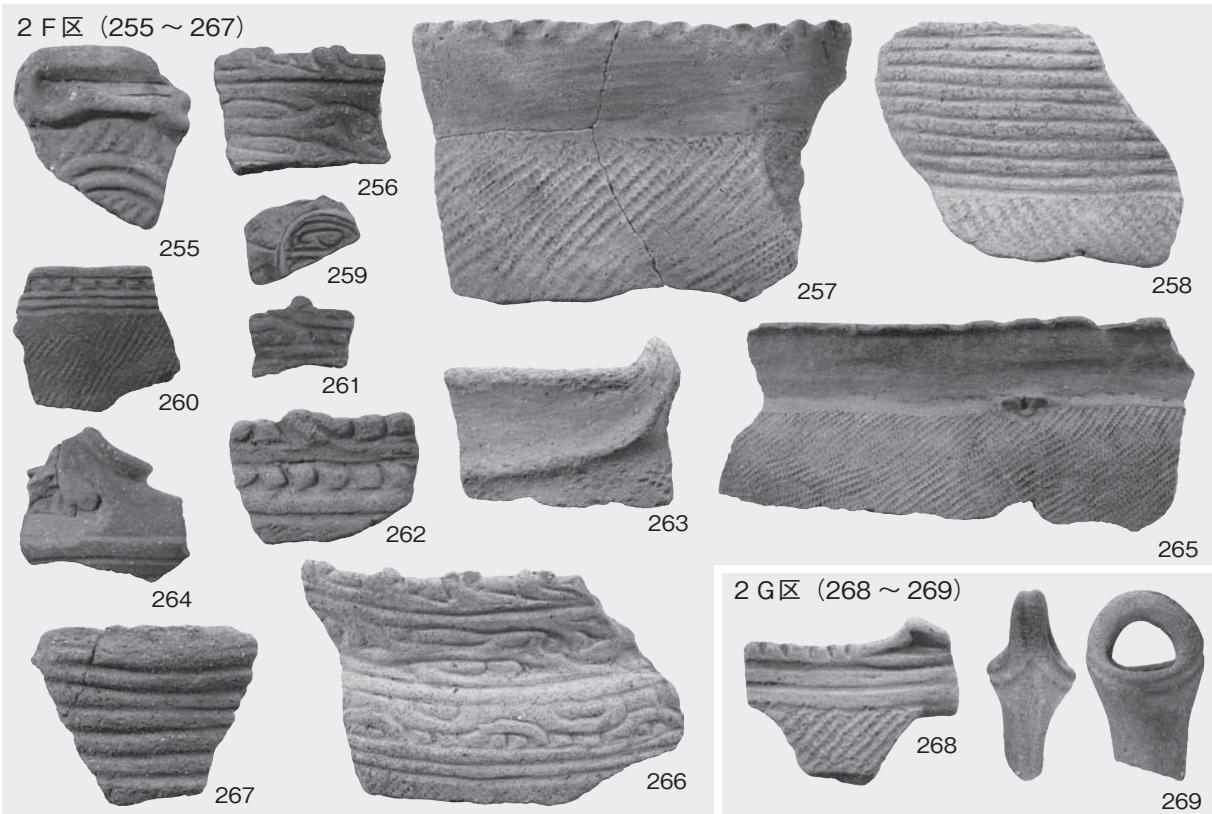
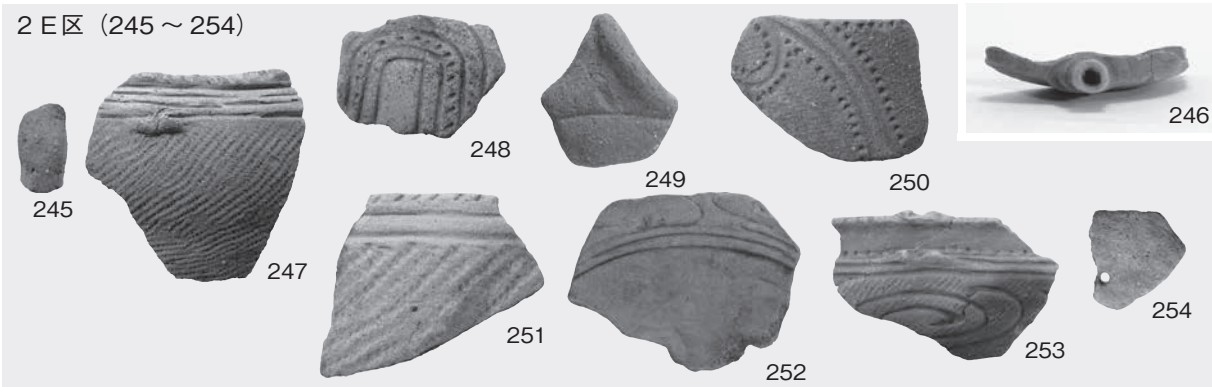




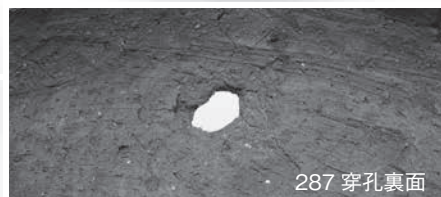
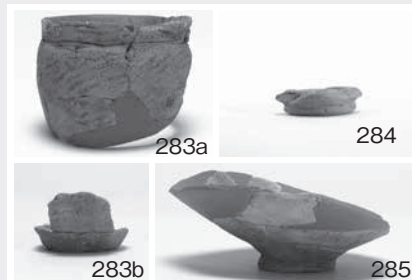
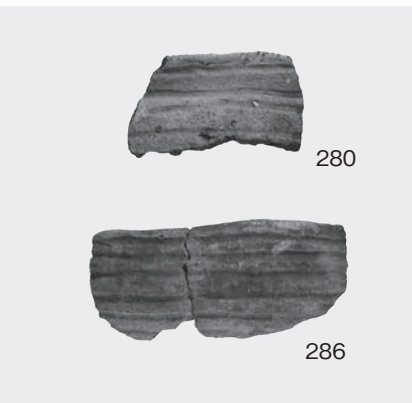


写真图版 47 西区·2D区(2)



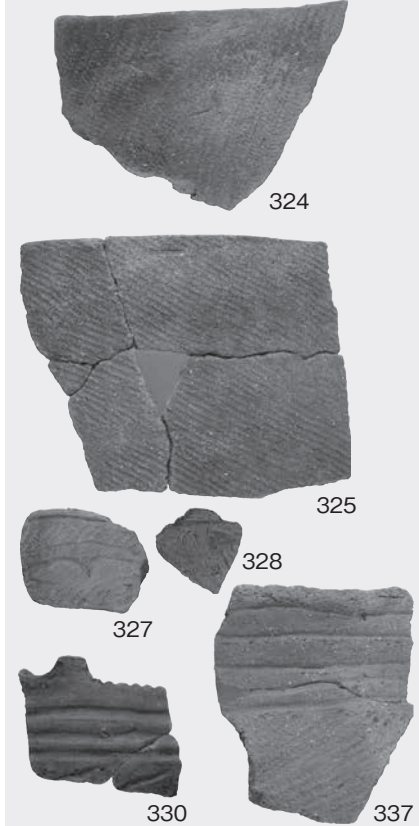
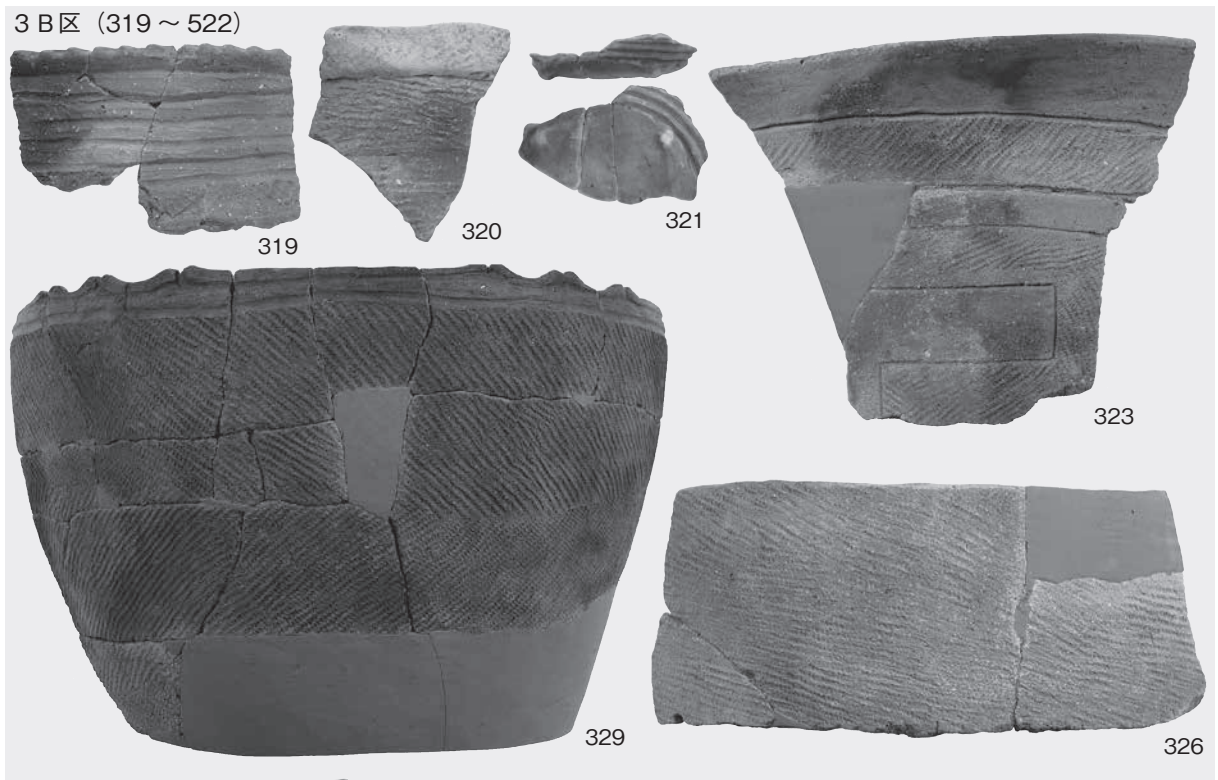




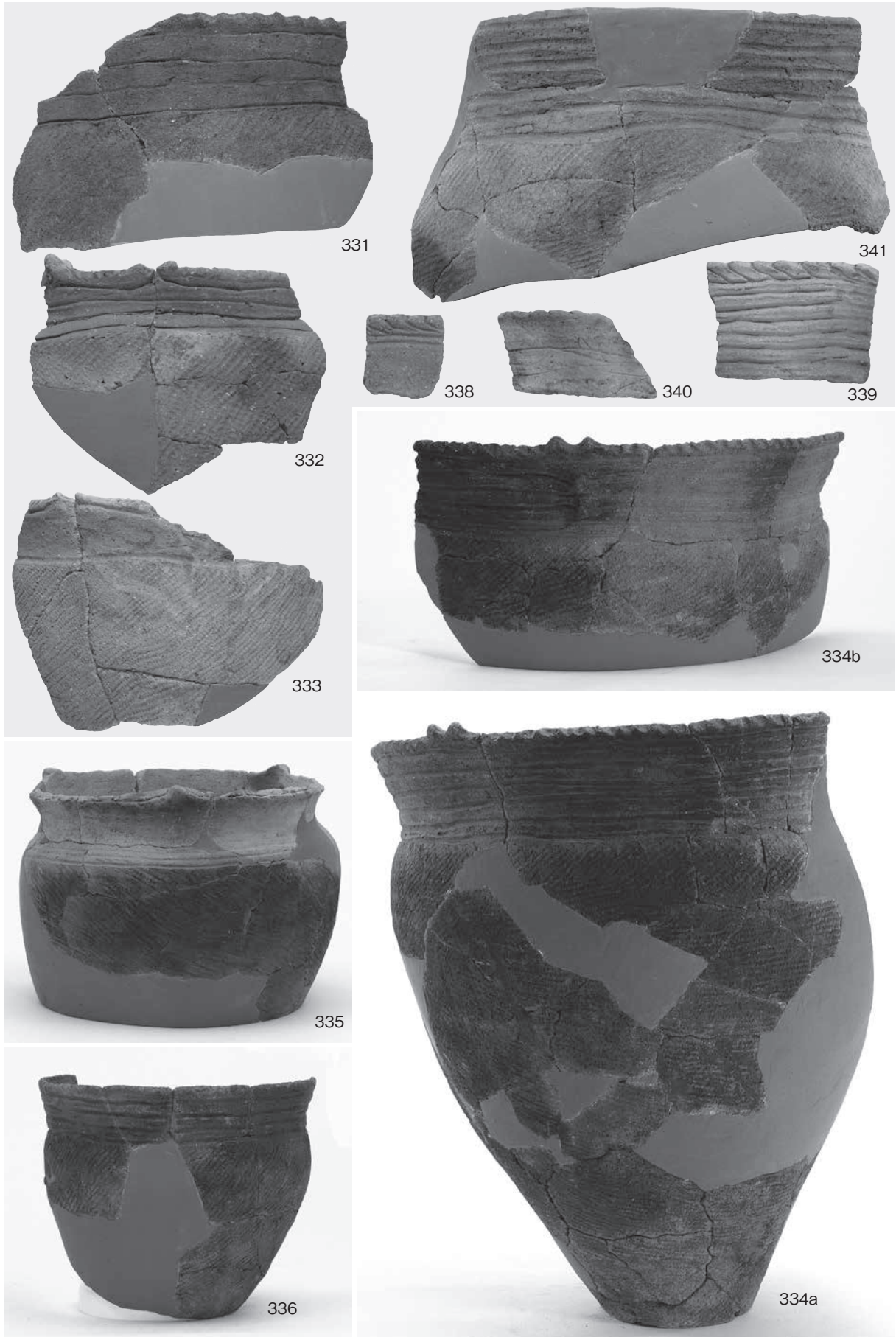


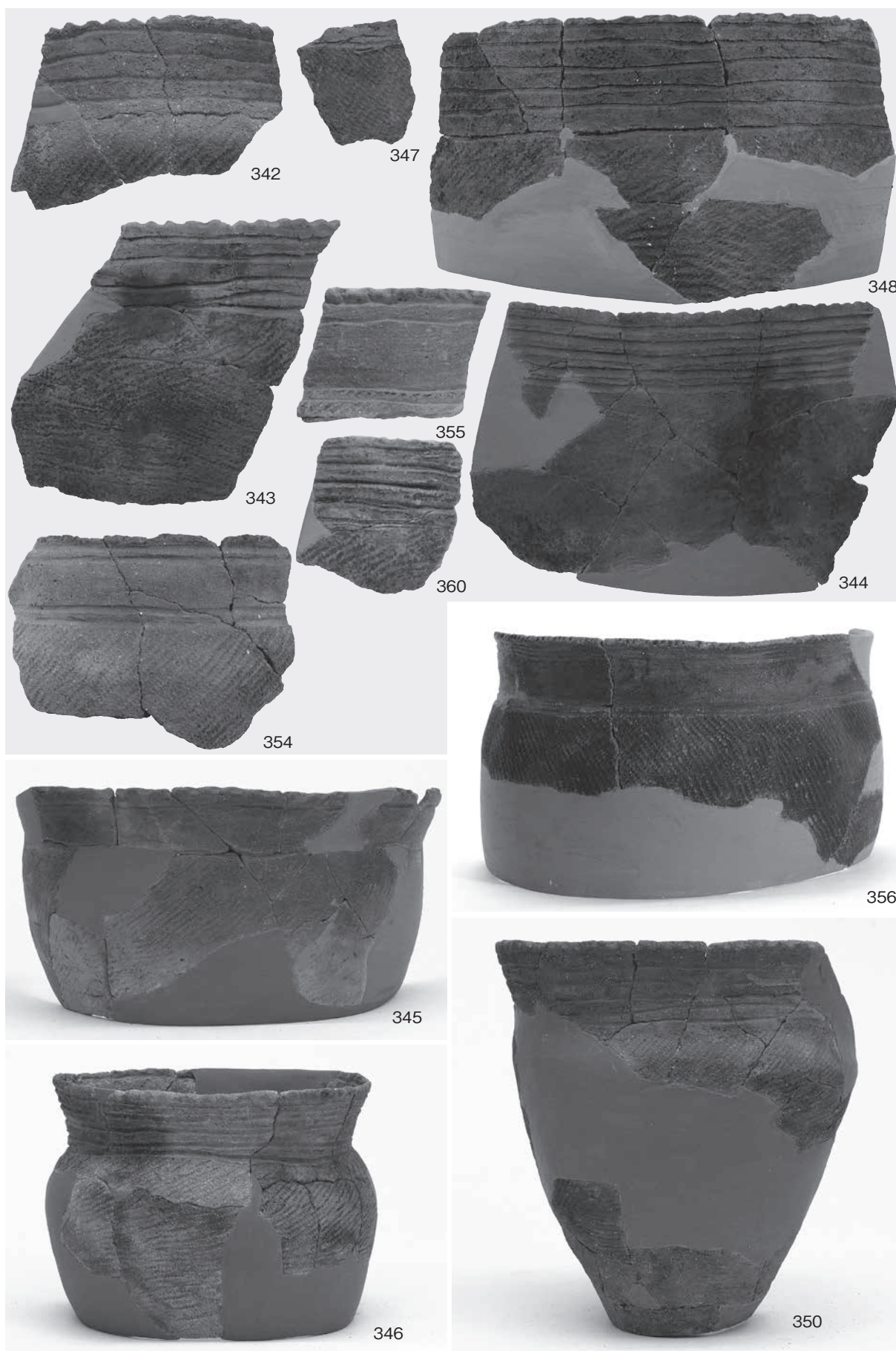




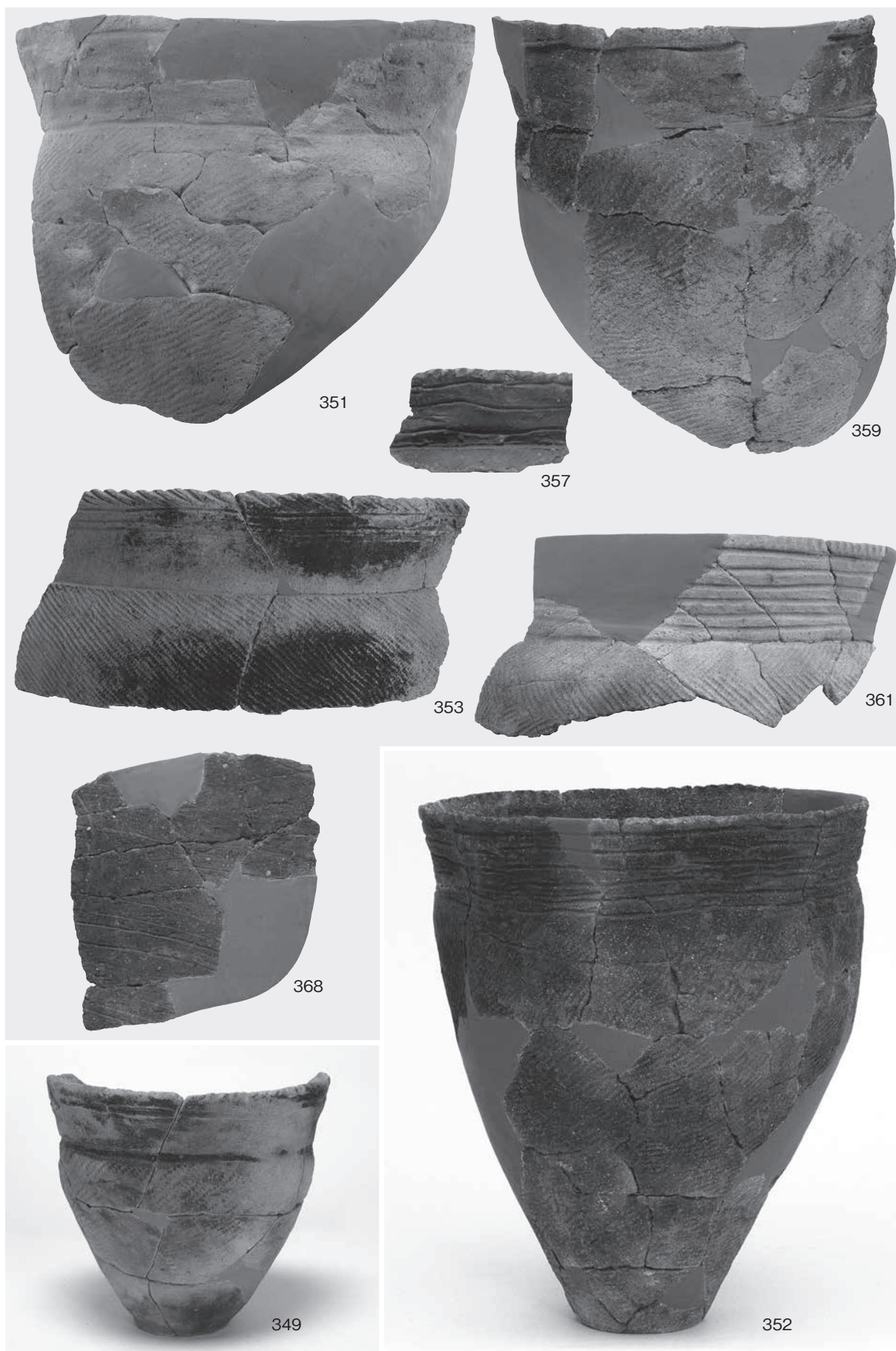




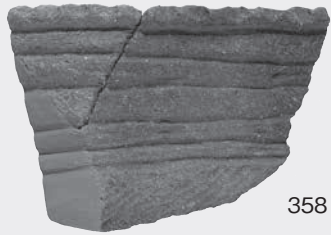
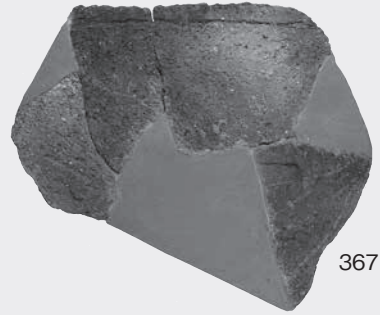
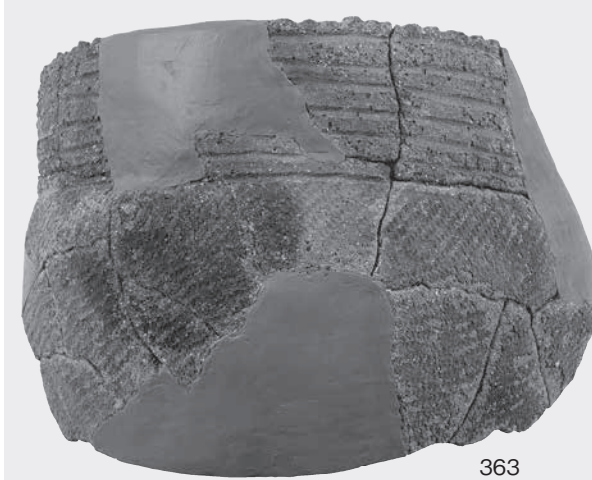
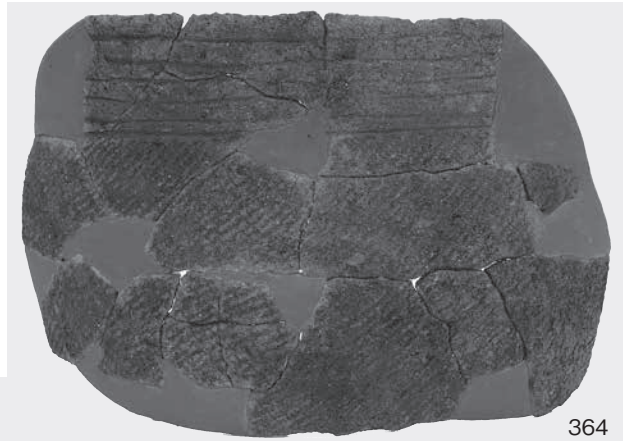


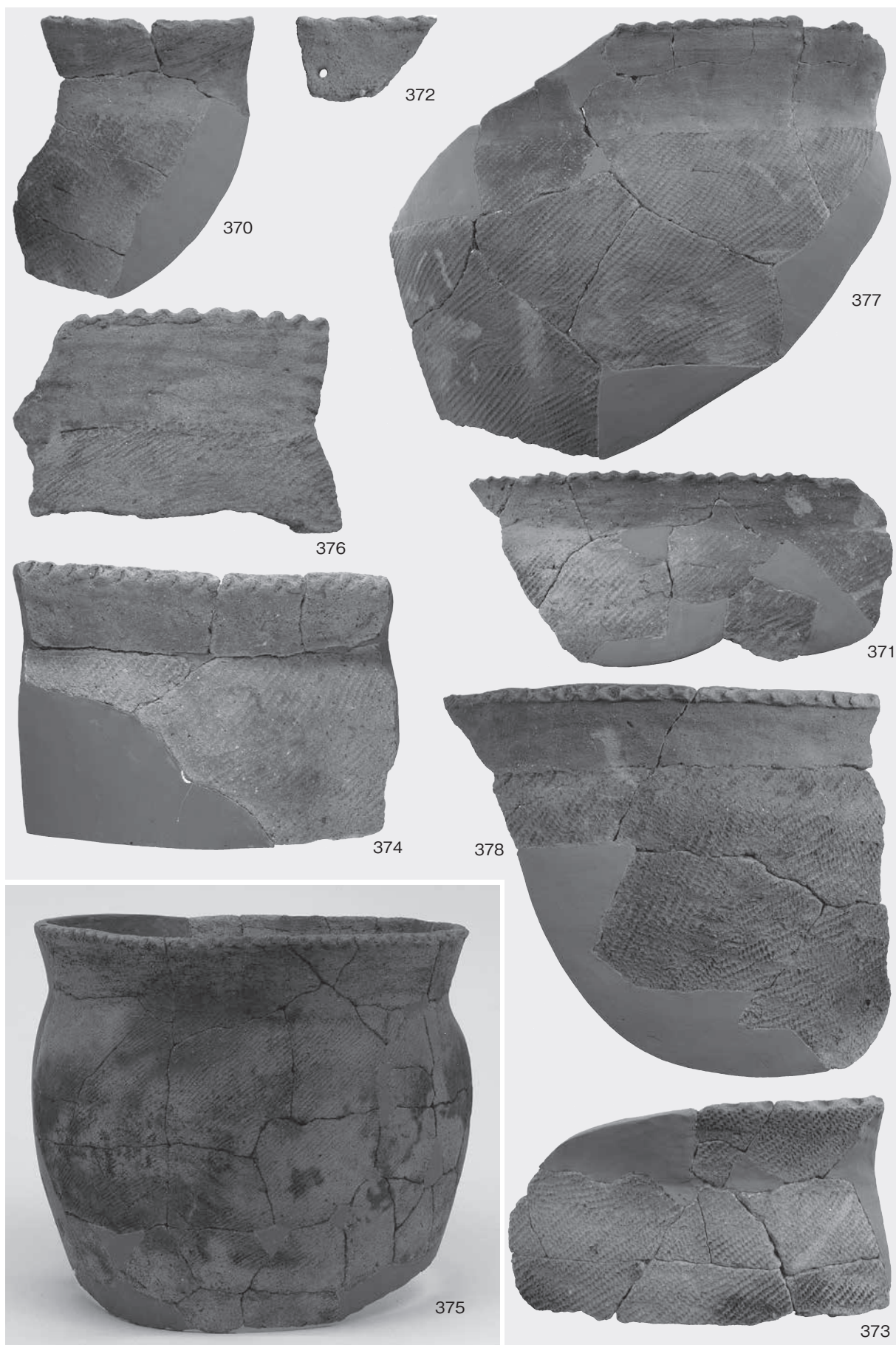




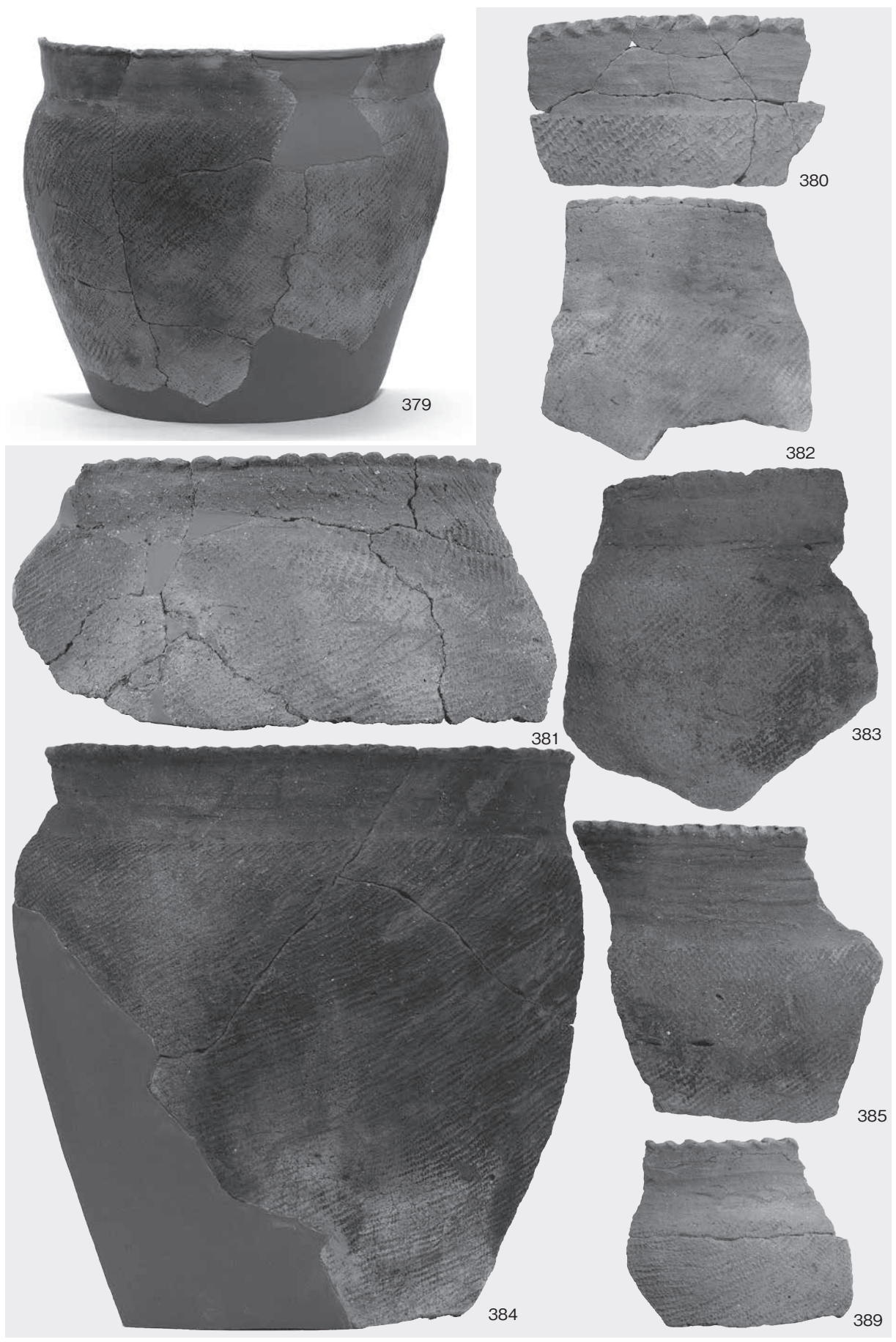








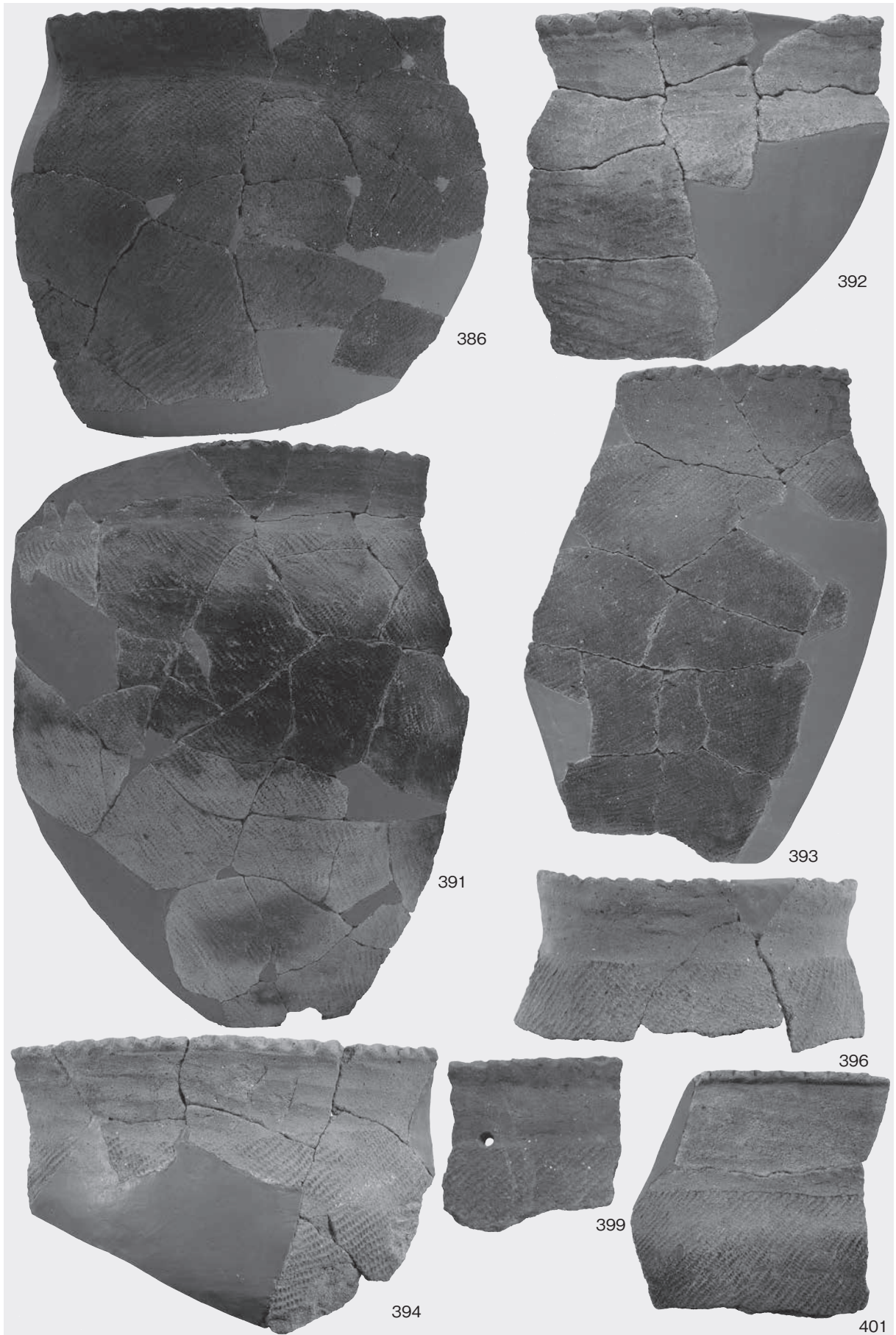




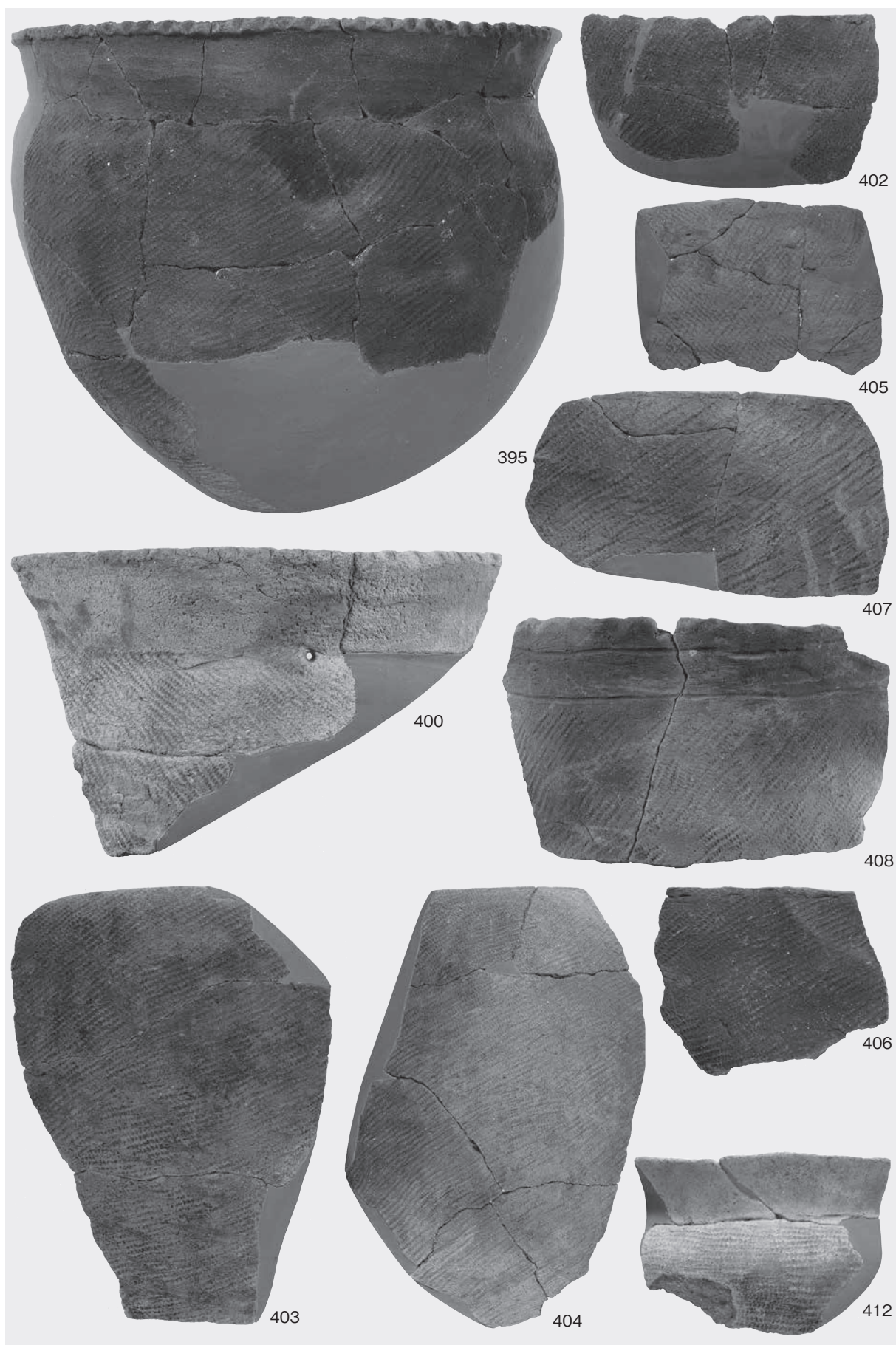
写真图版 57 西区·3B区(7)



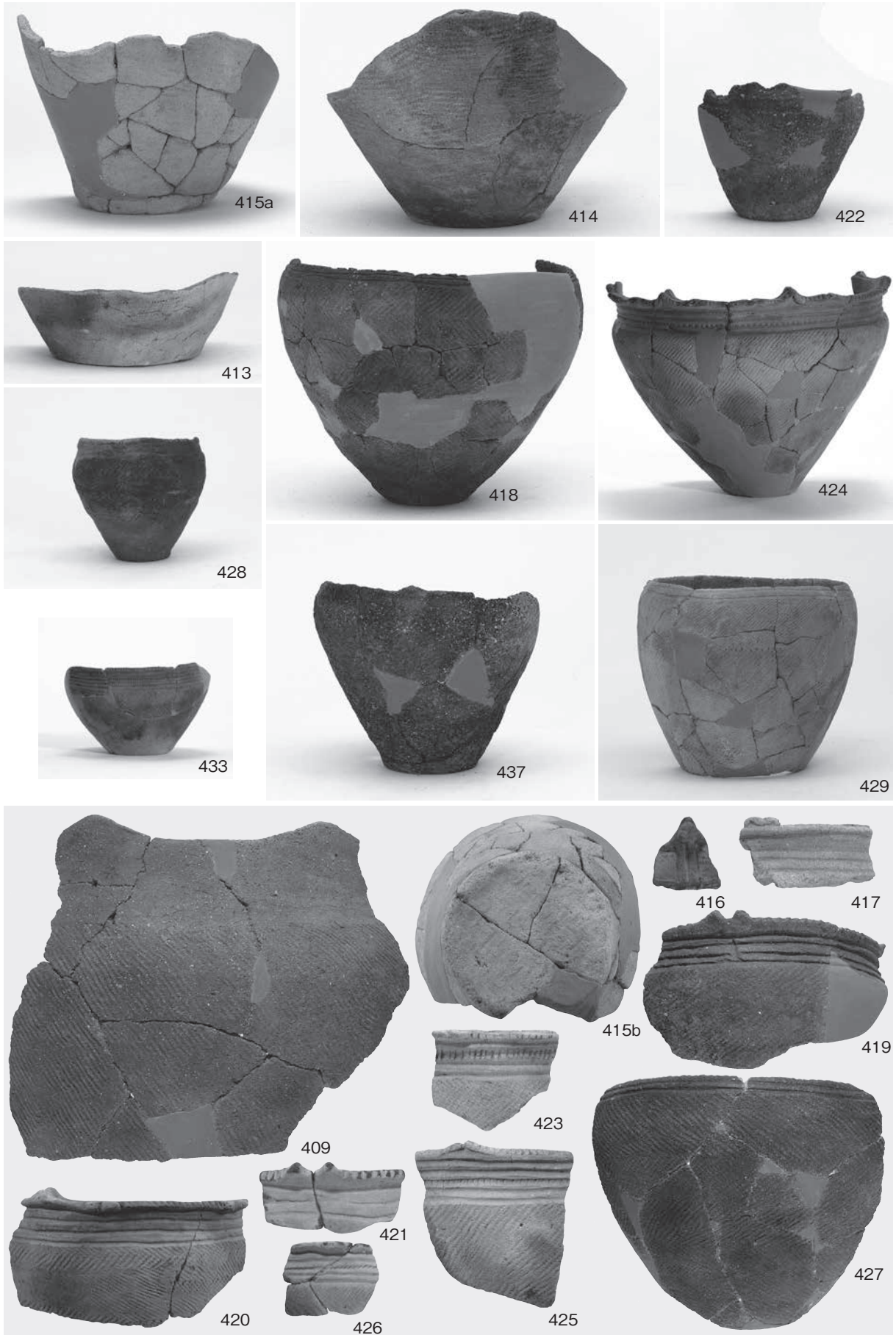


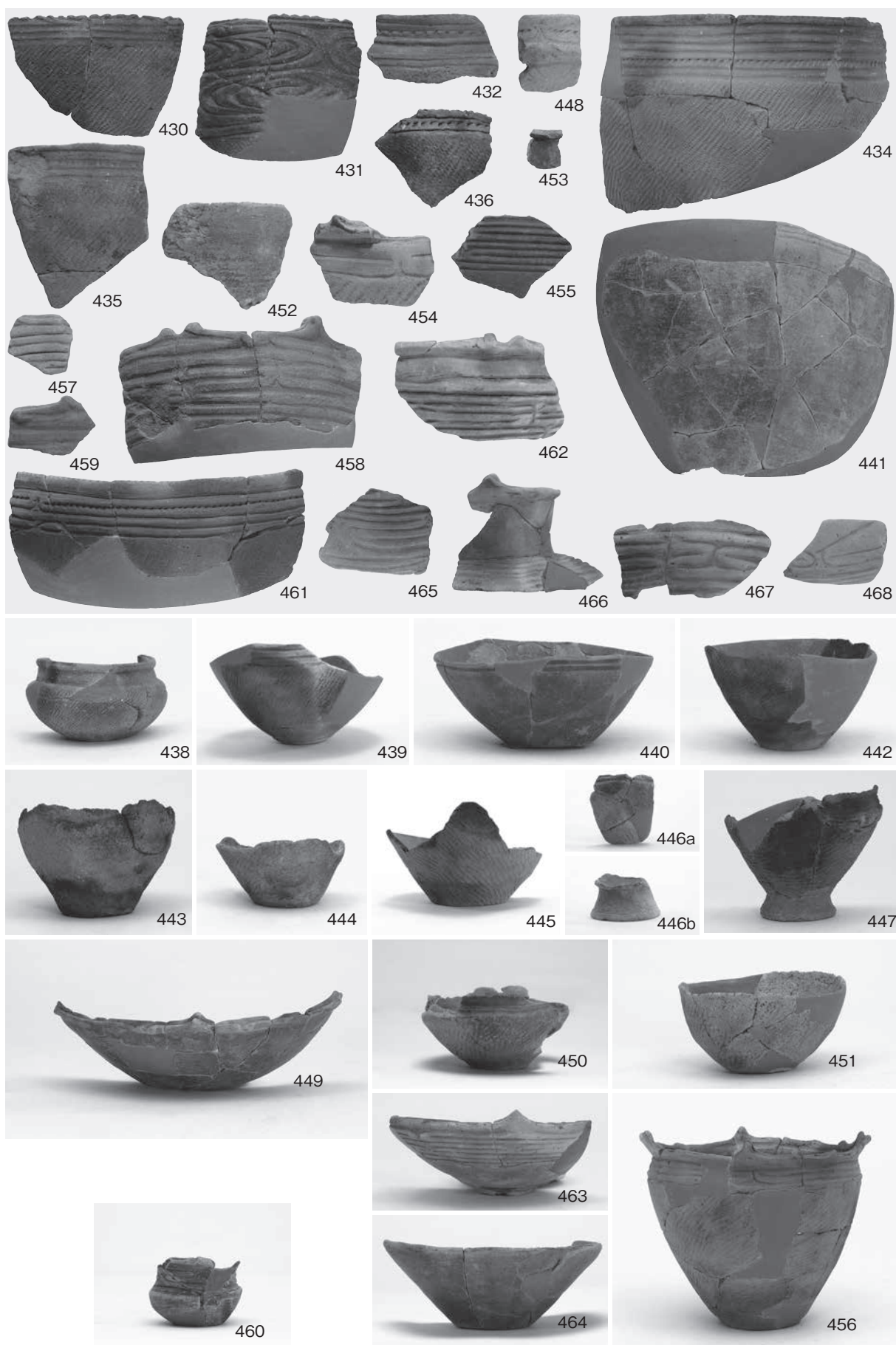




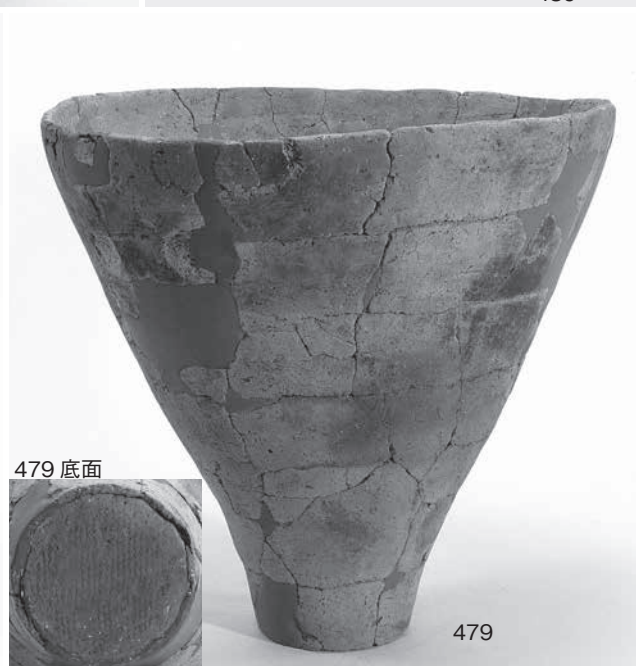
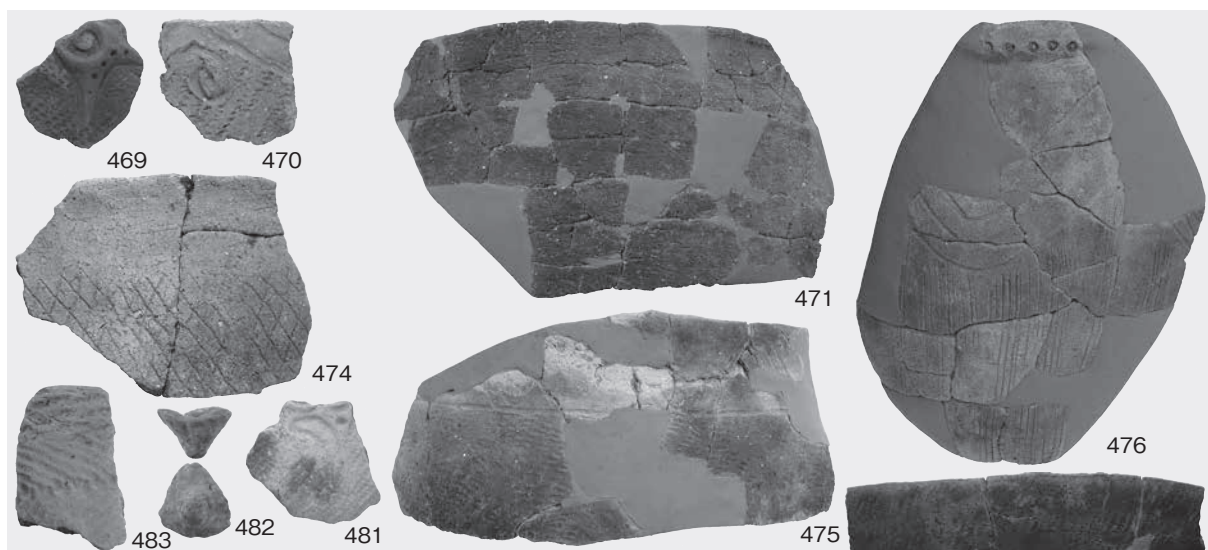




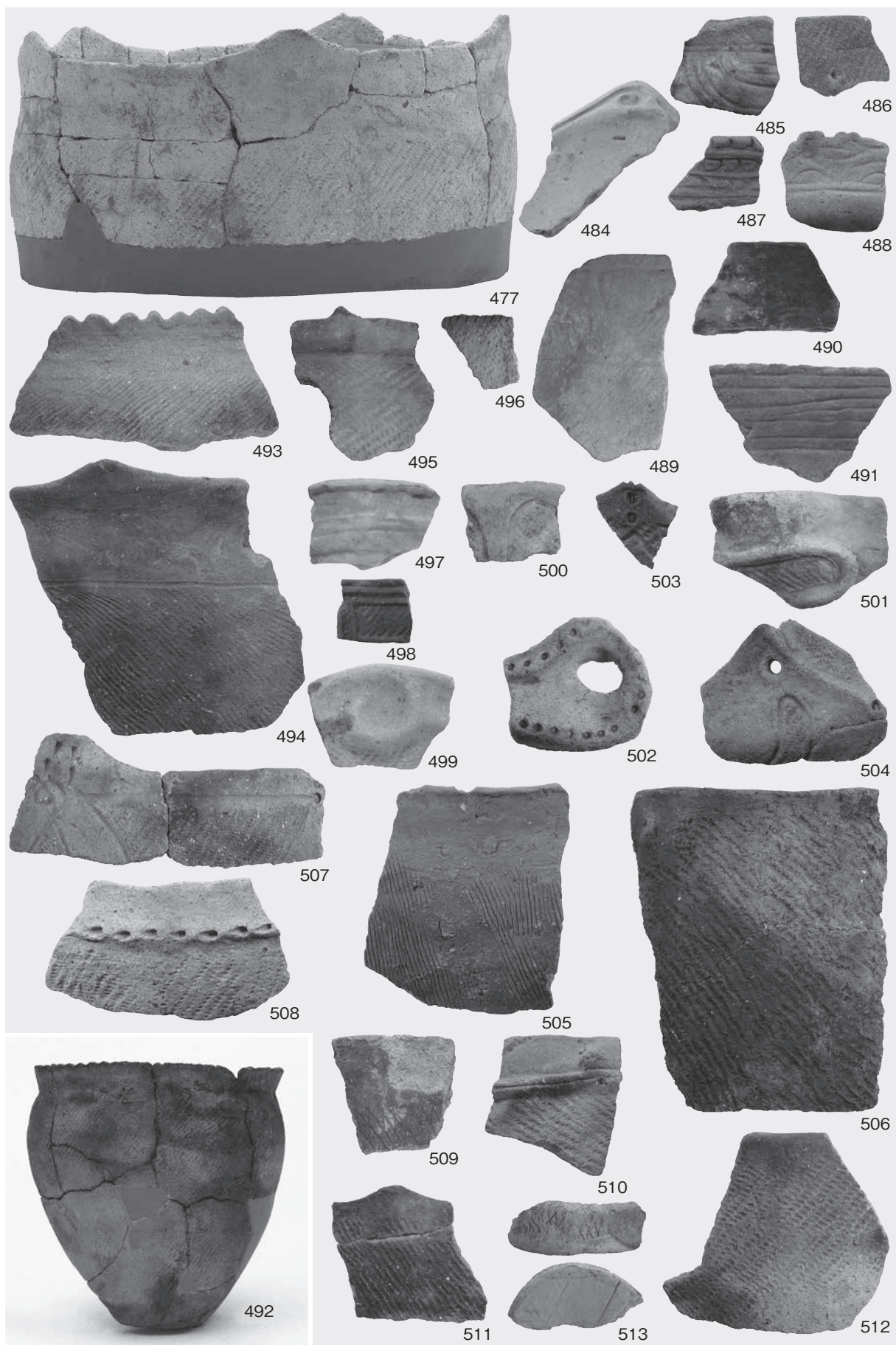


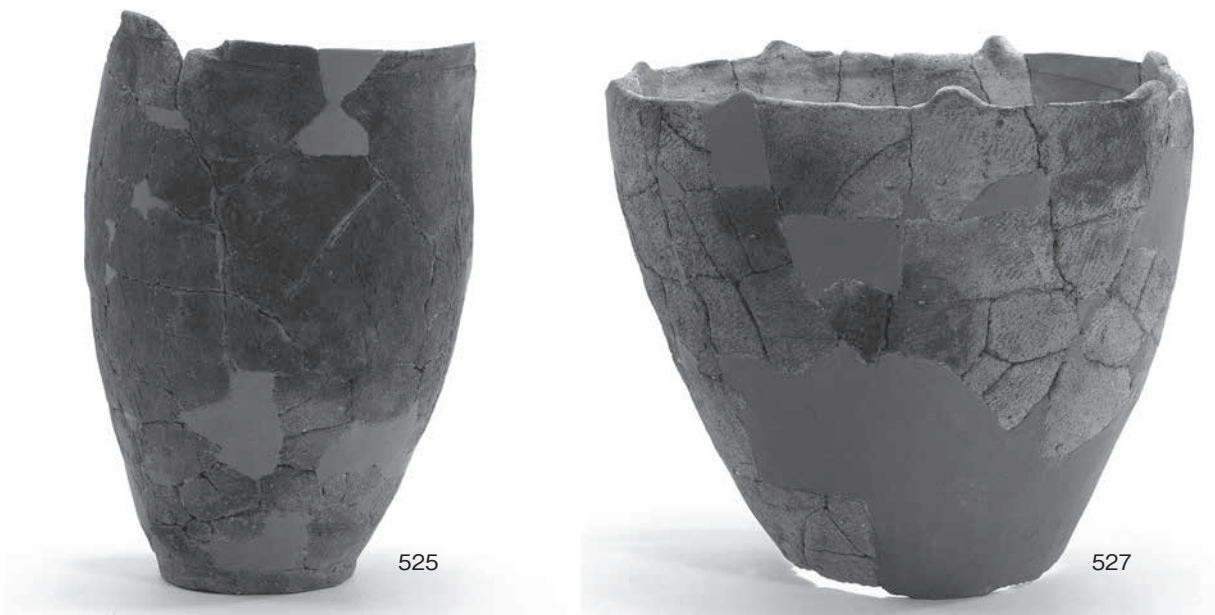
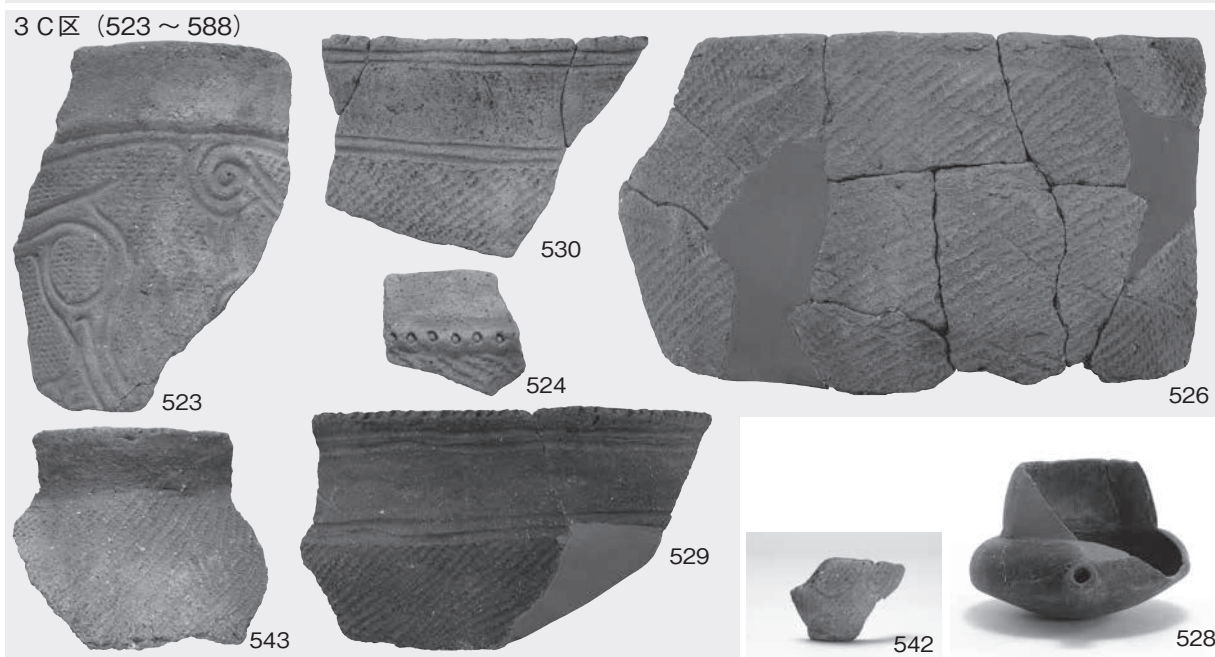
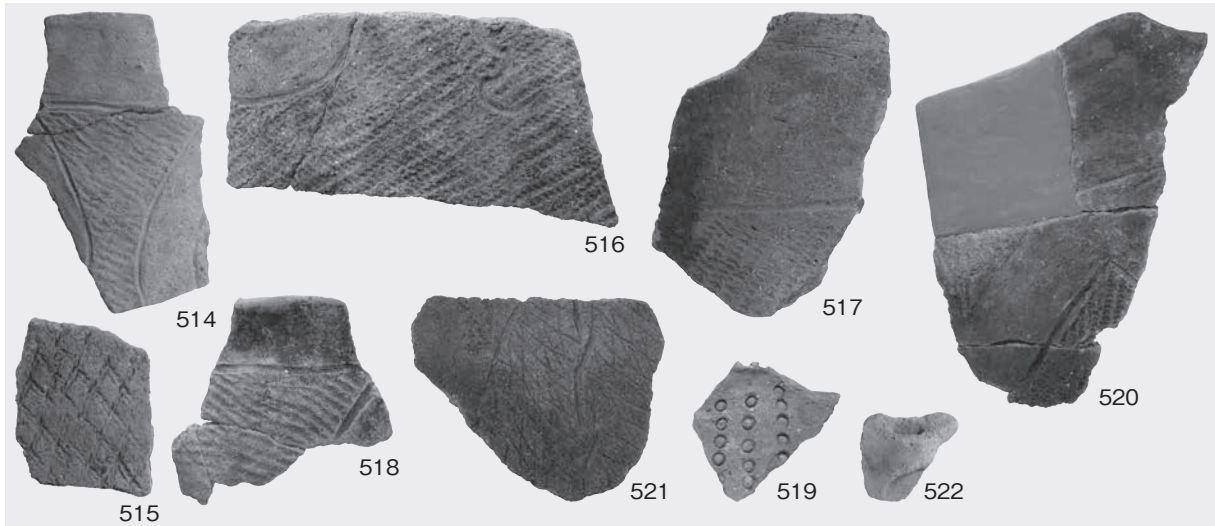




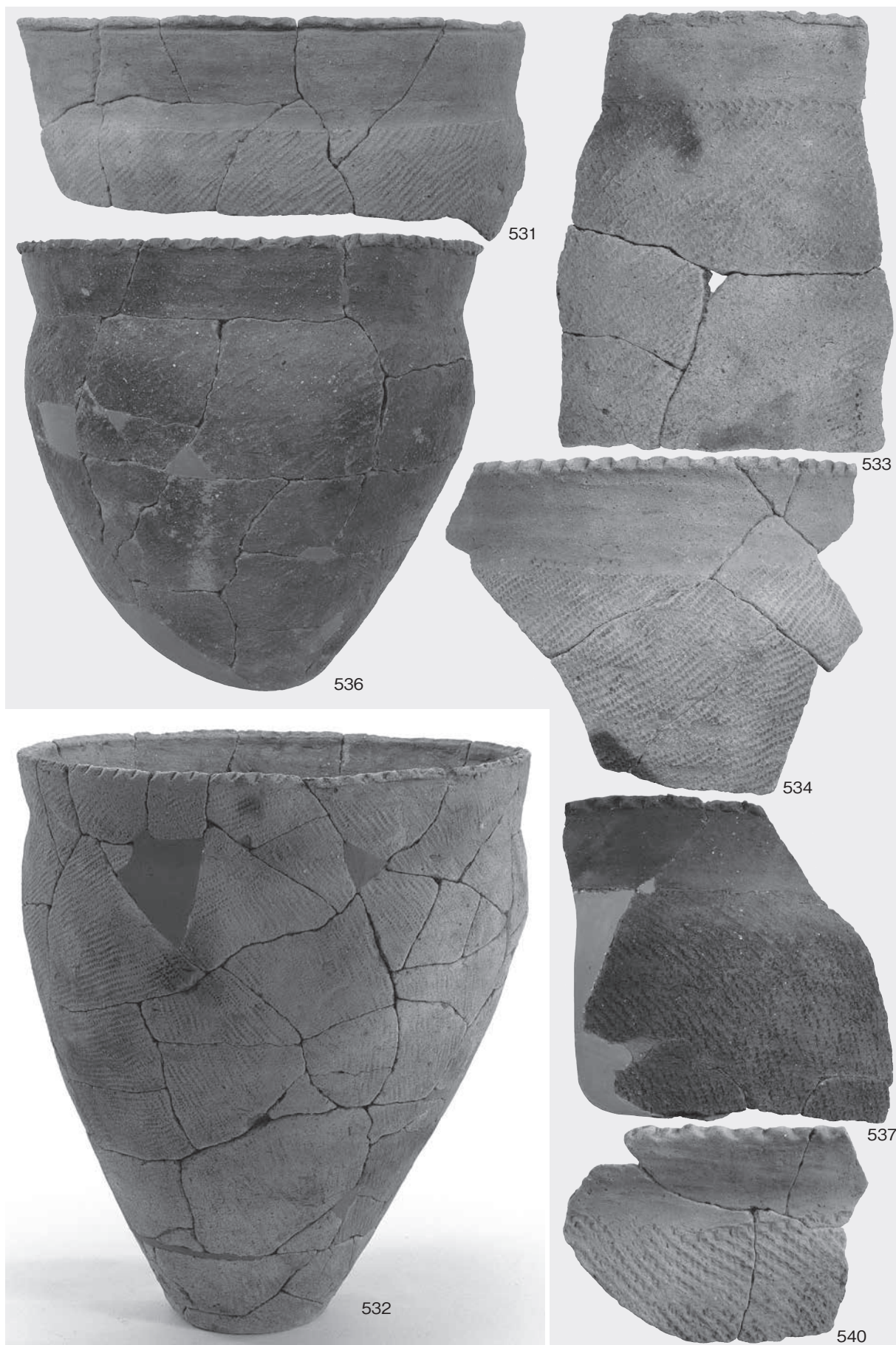




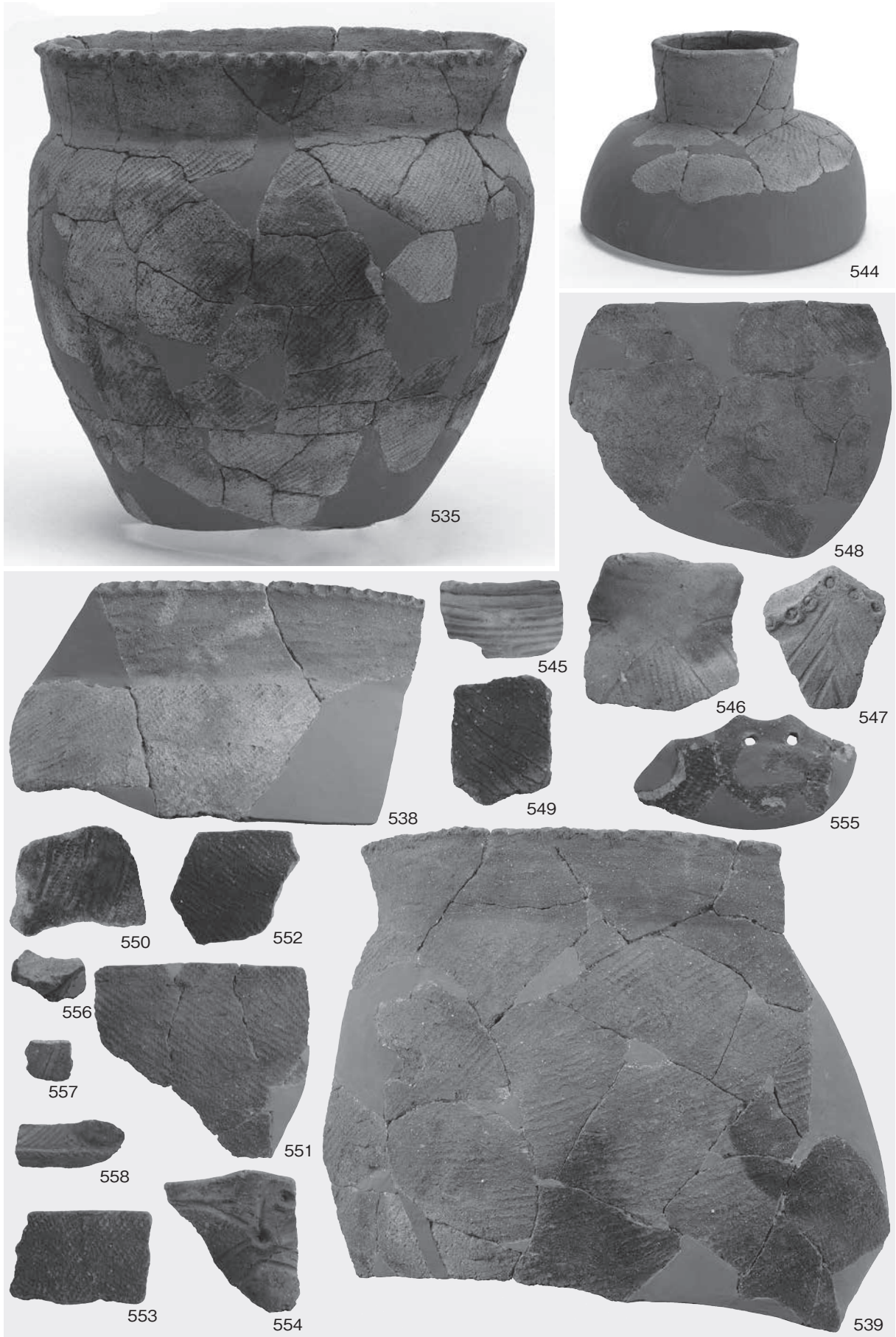


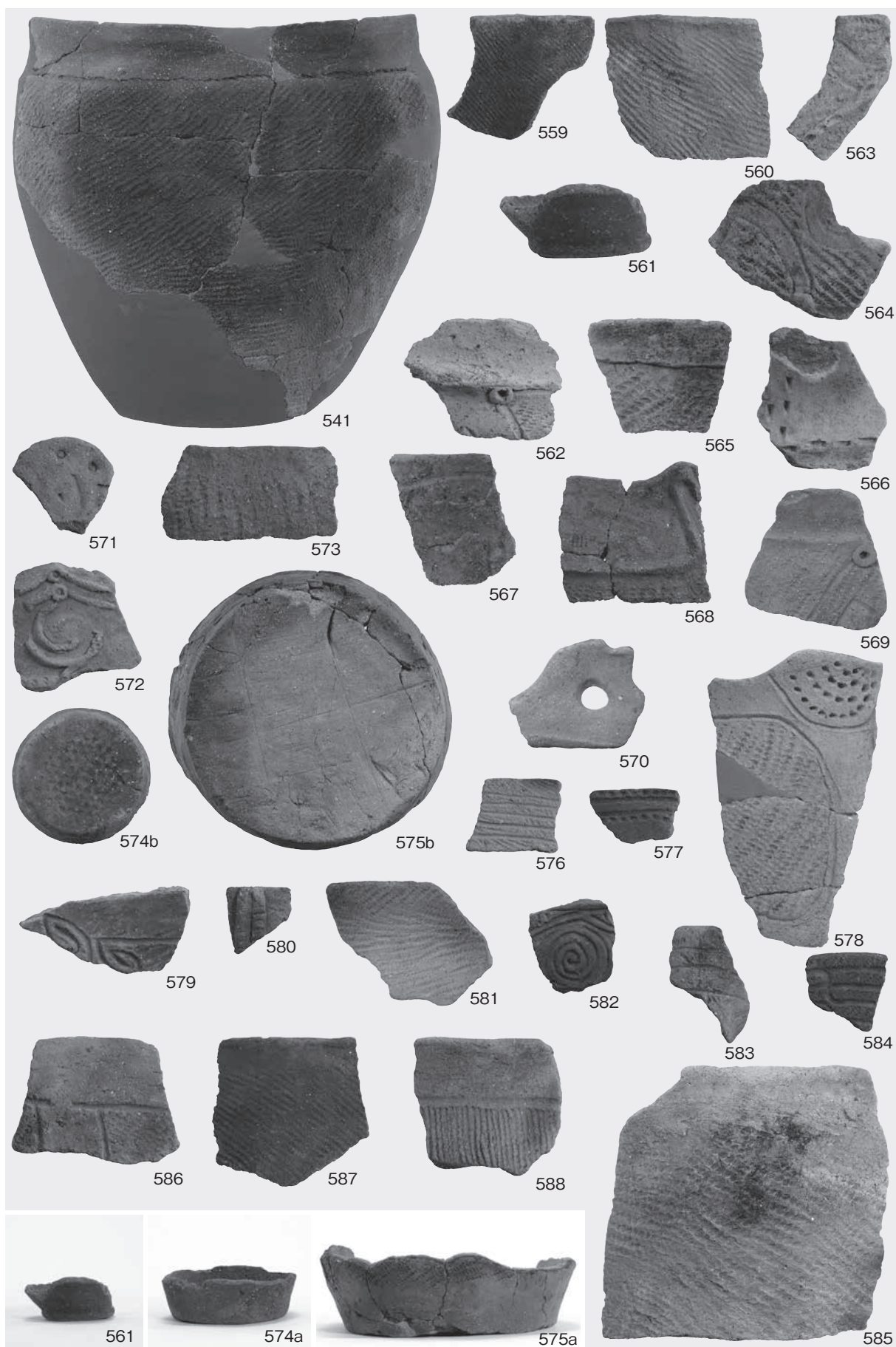






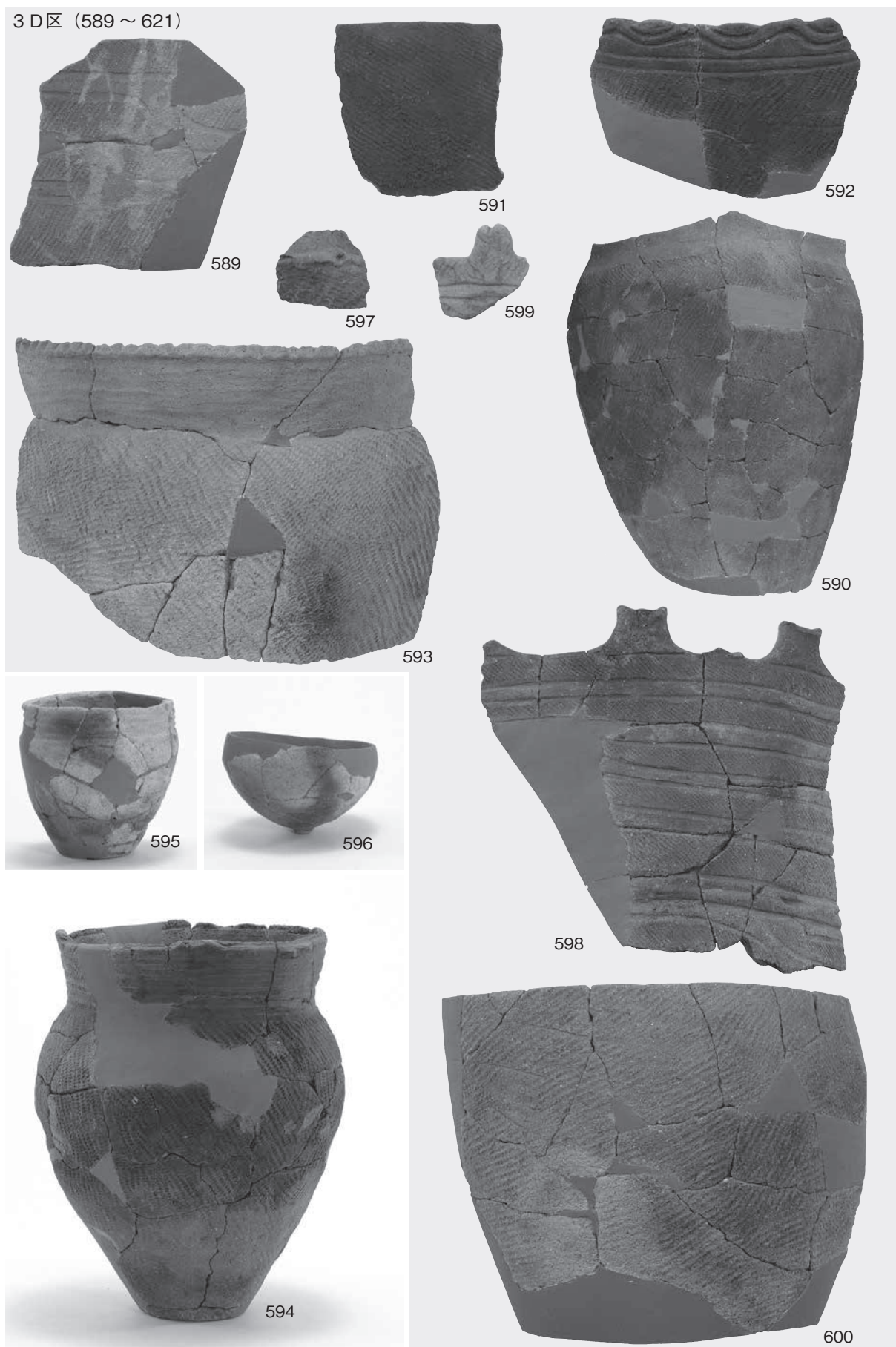




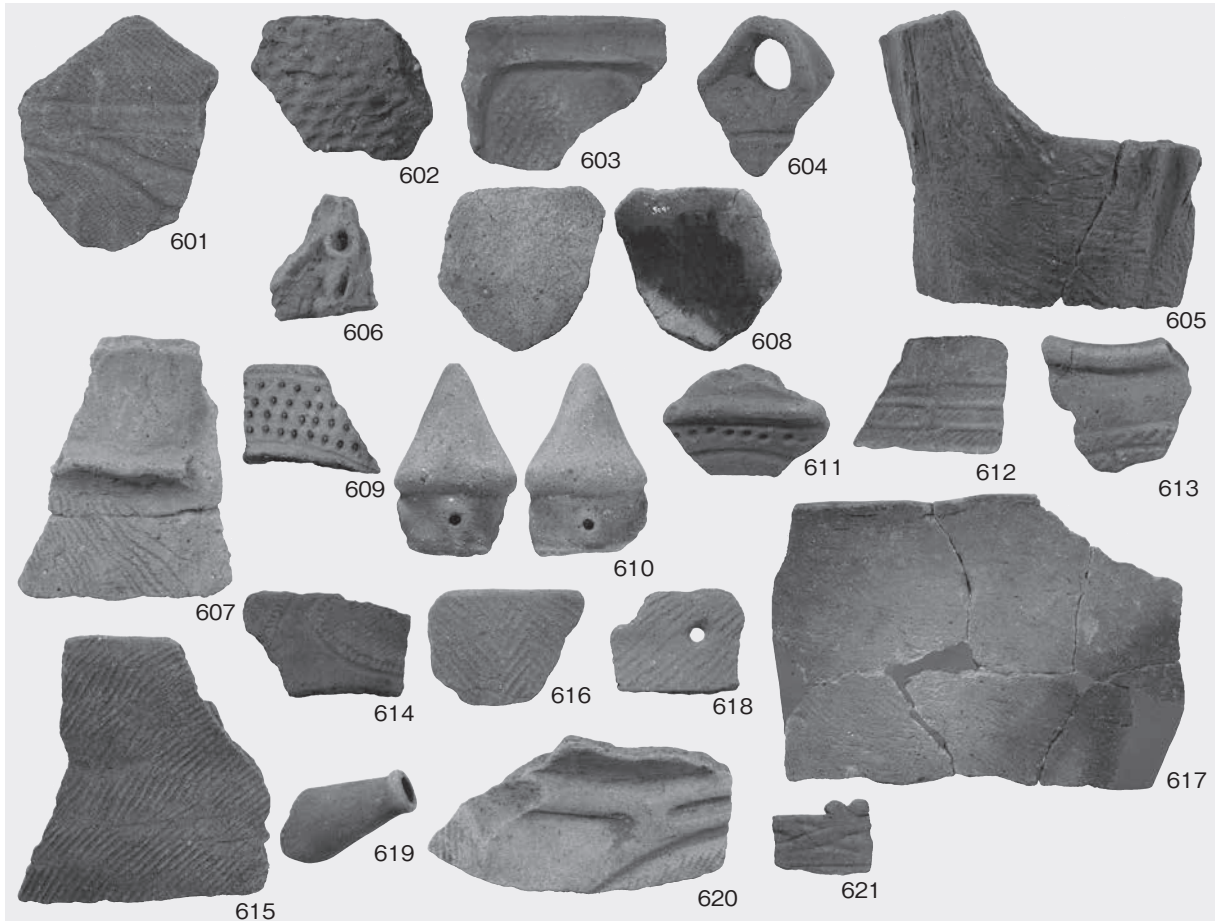




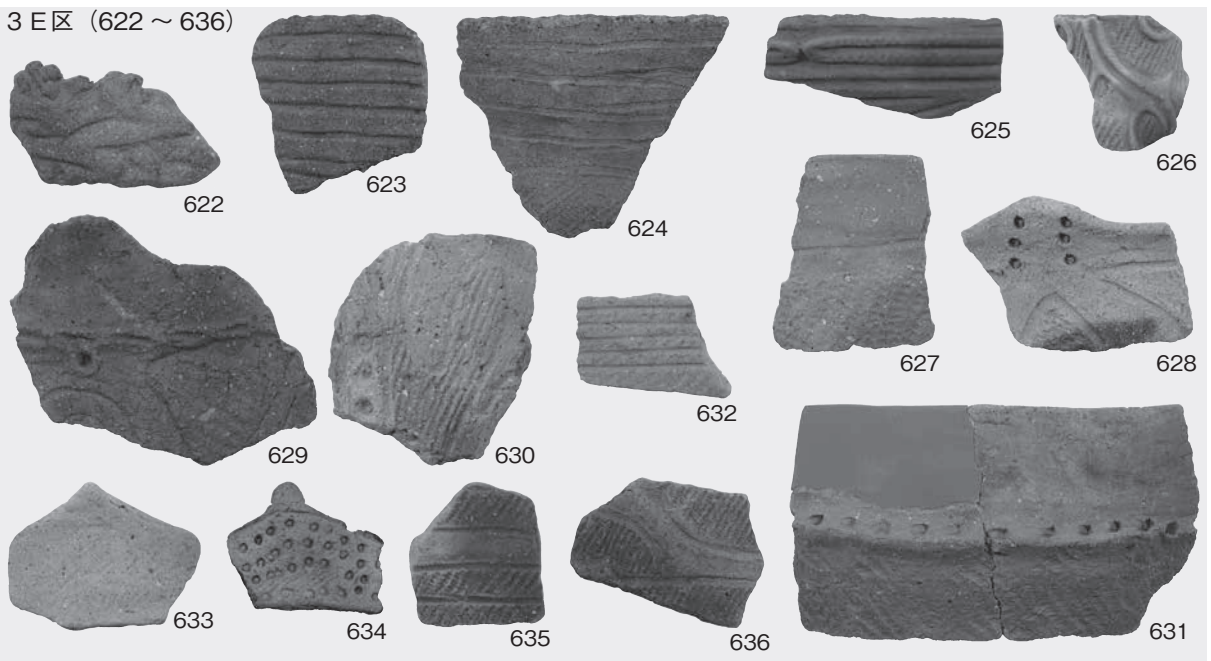
3 D区 (589 ~ 621)



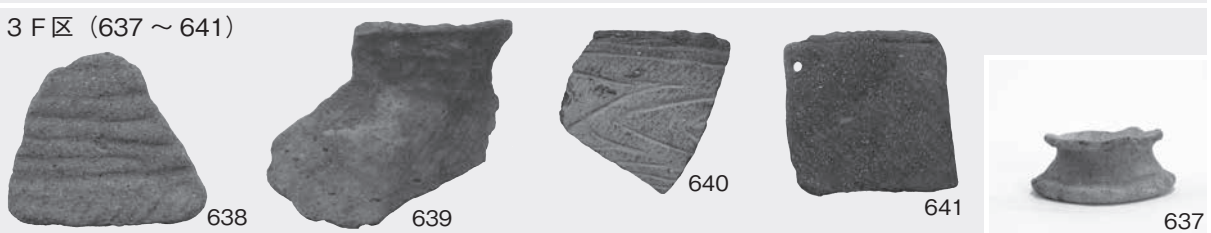




3 E 区 (622 ~ 636)



3 F 区 (637 ~ 641)



3 G区 (642 ~ 645)



642



643

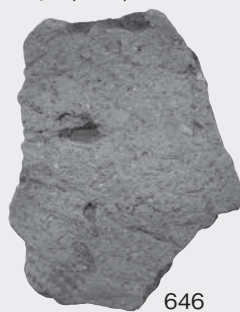


644



645

4 A区 (646)



646

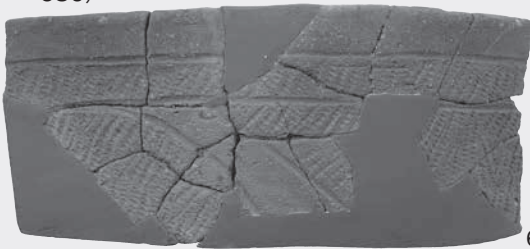
4 B区 (647 ~ 680)



647



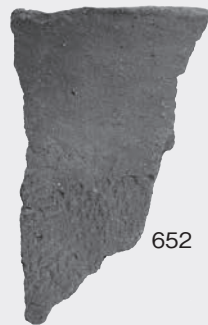
654



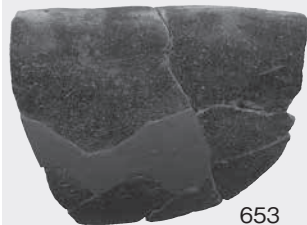
648



649



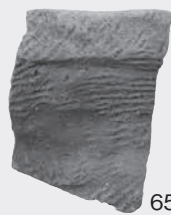
652



653



657



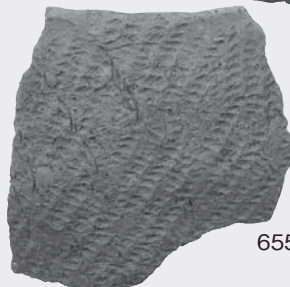
658



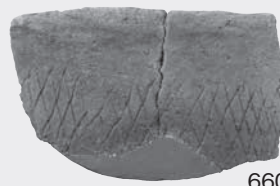
650



651



655



660

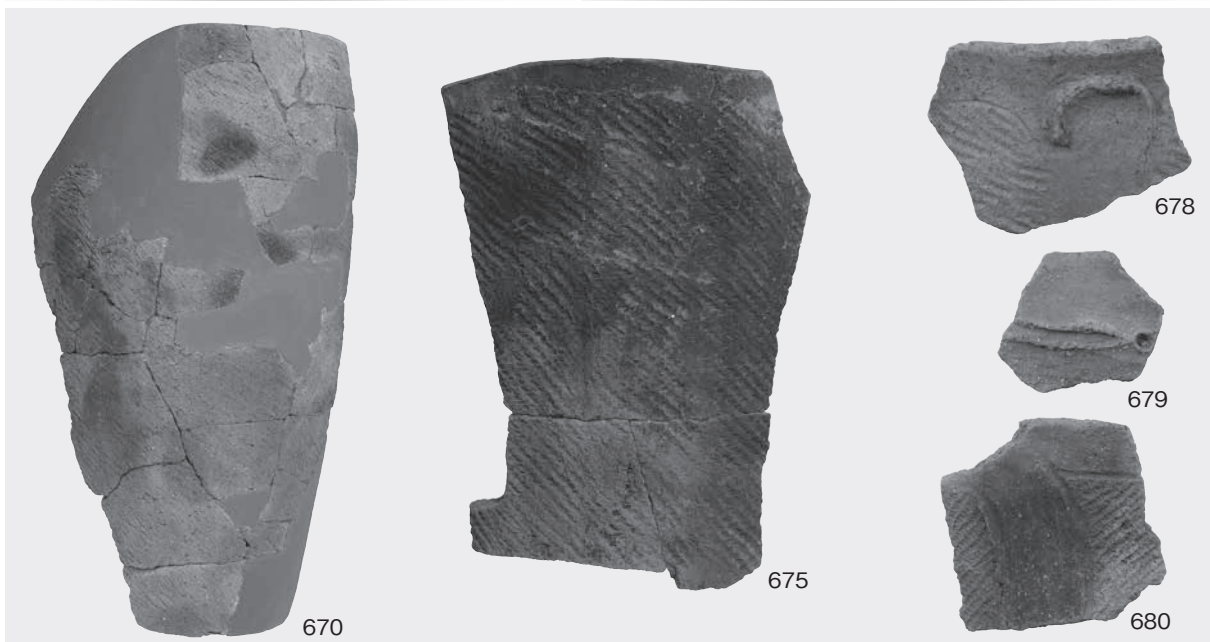


659

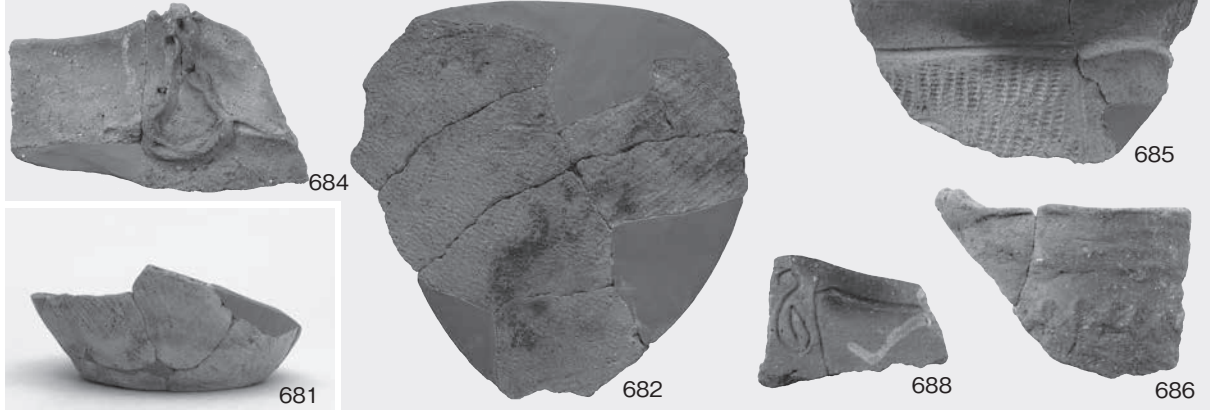


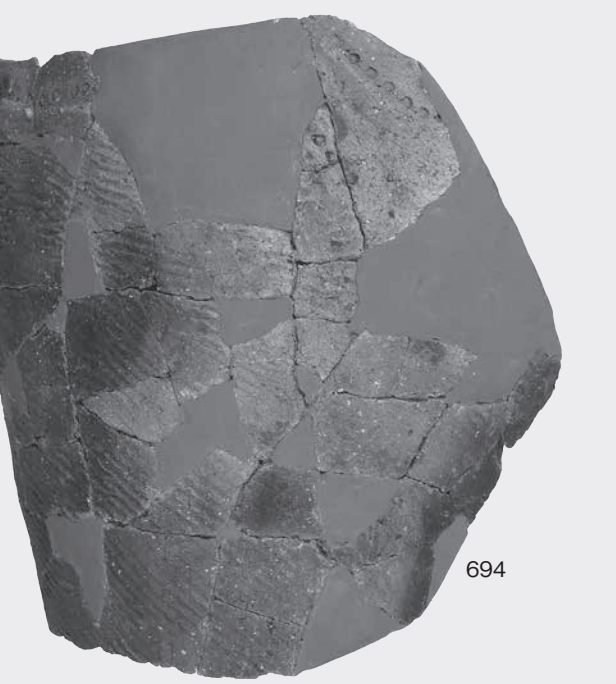
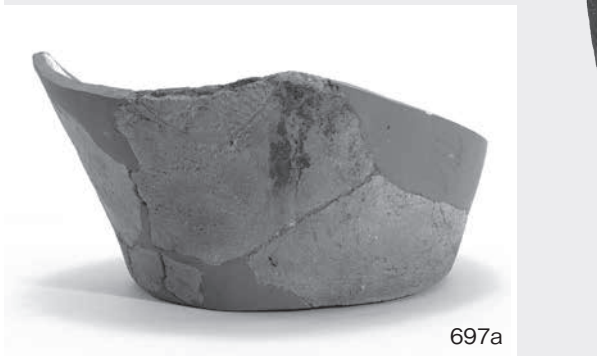
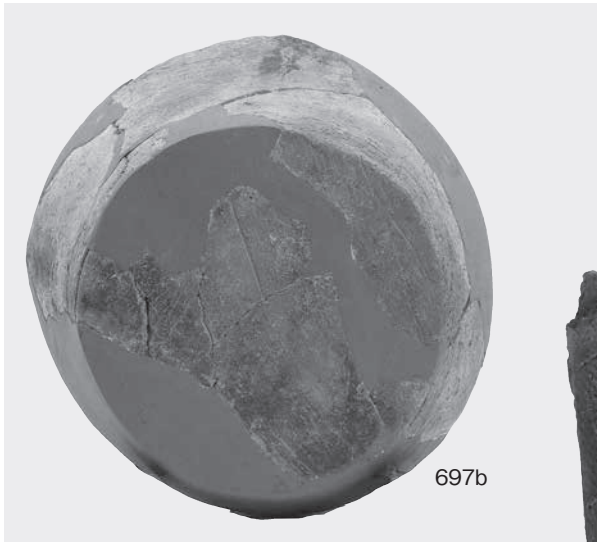




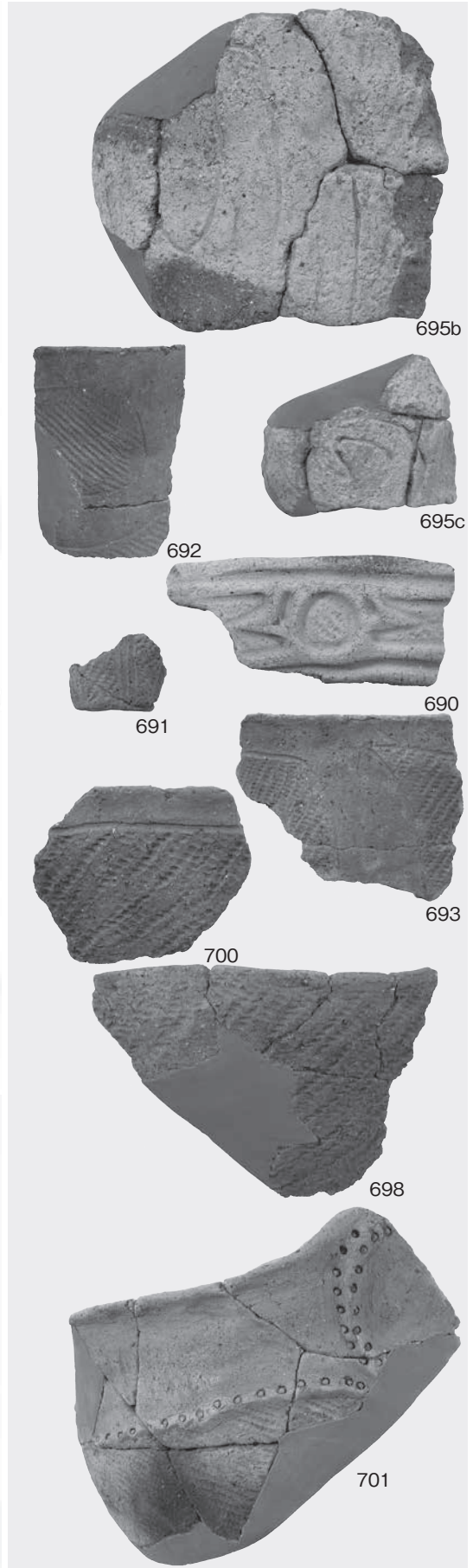


4 C区 (681 ~ 719)

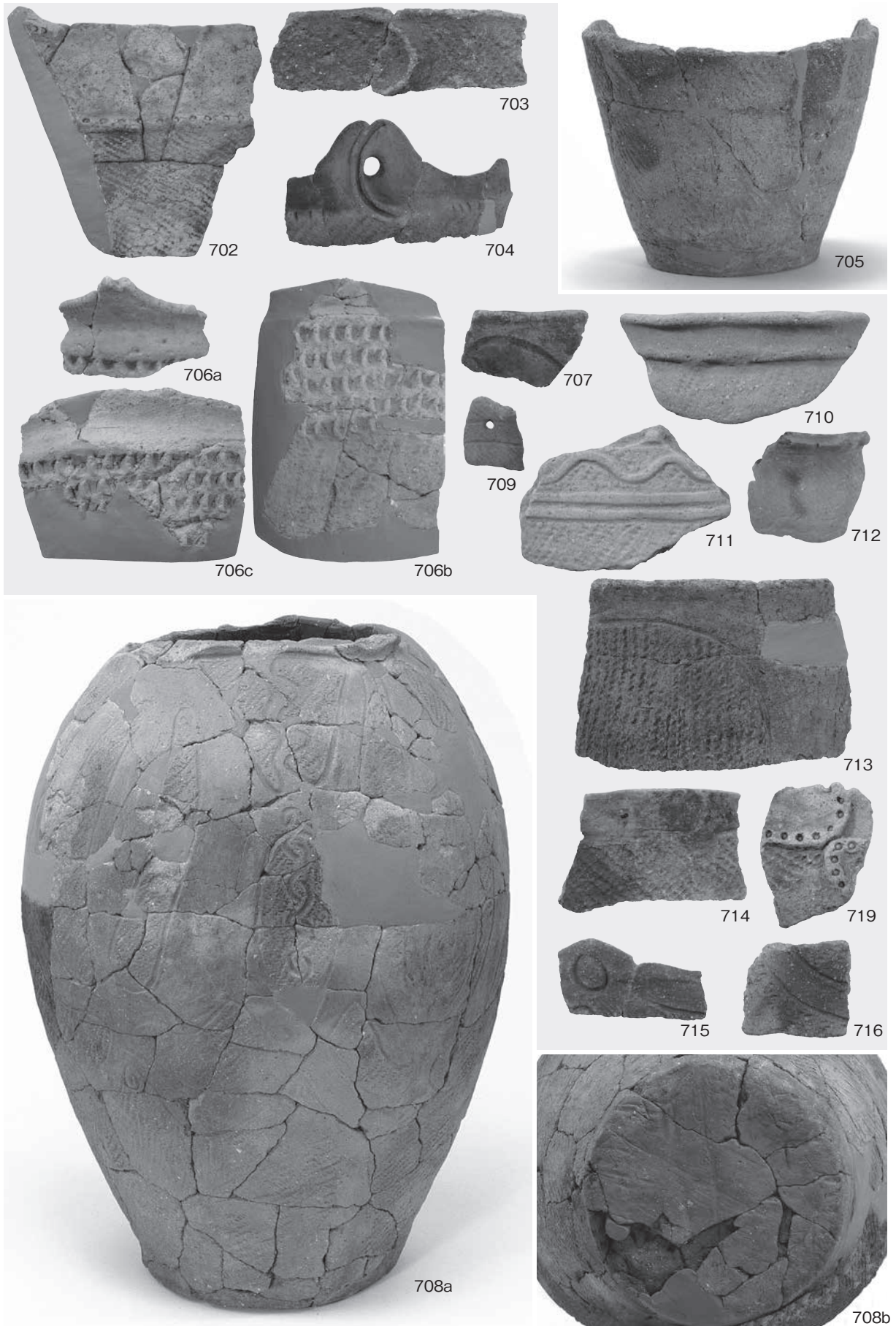






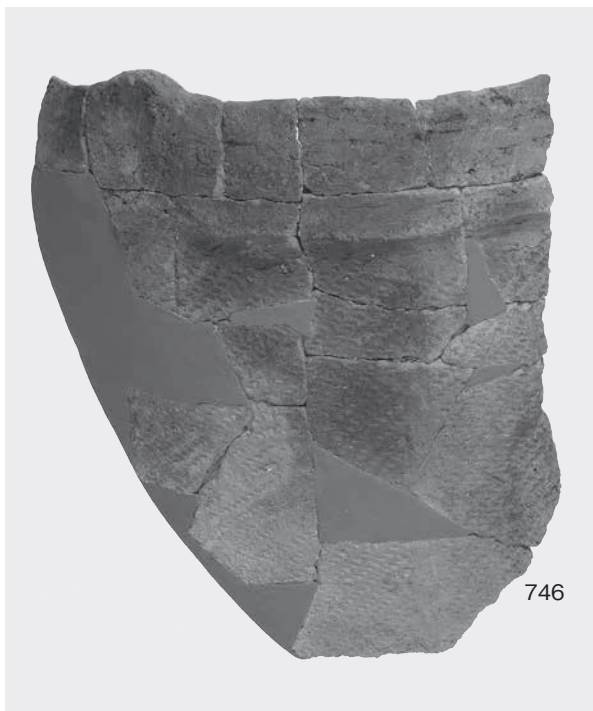
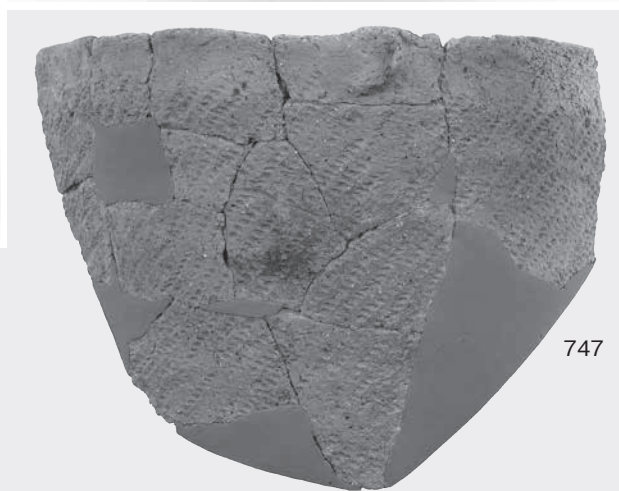




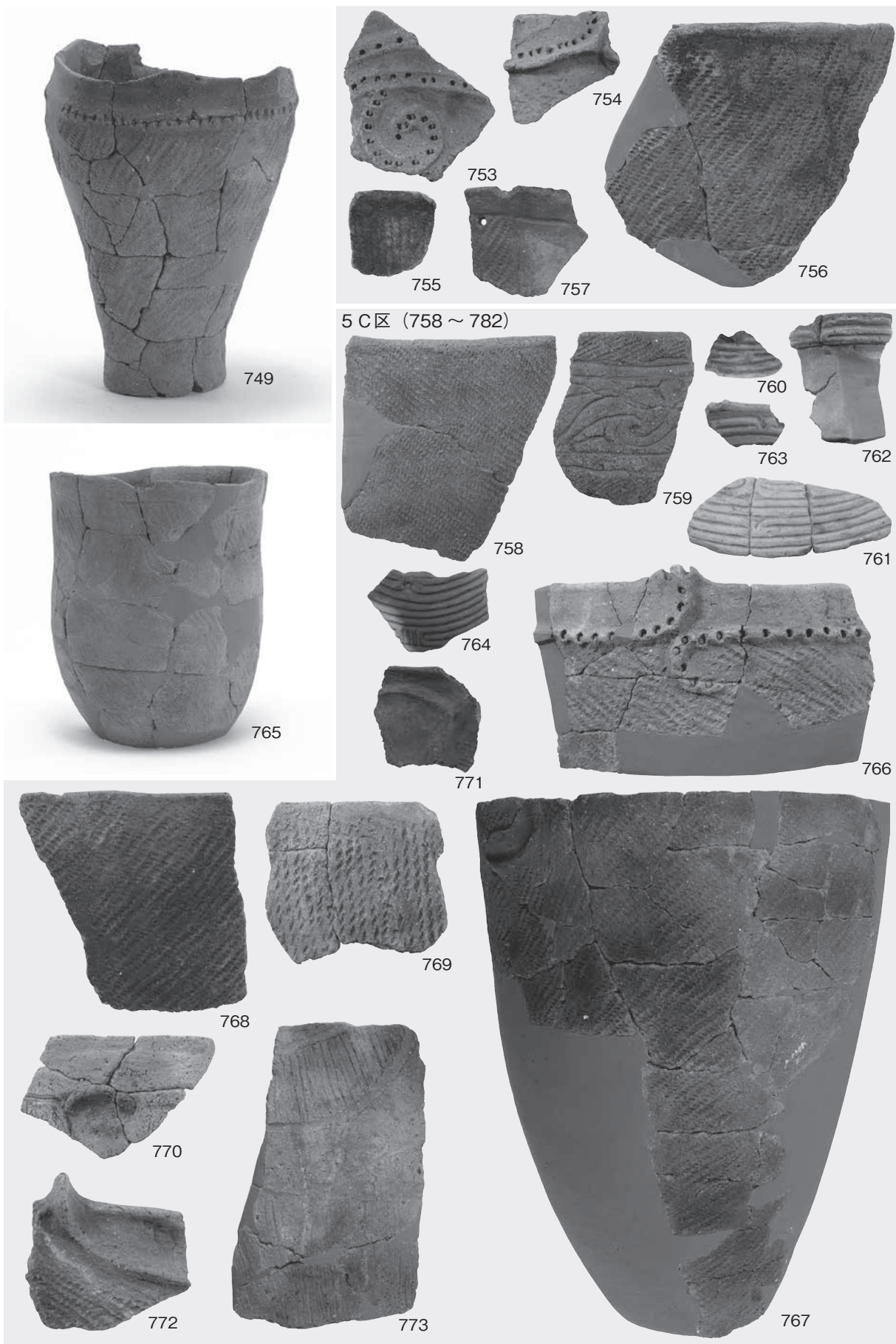




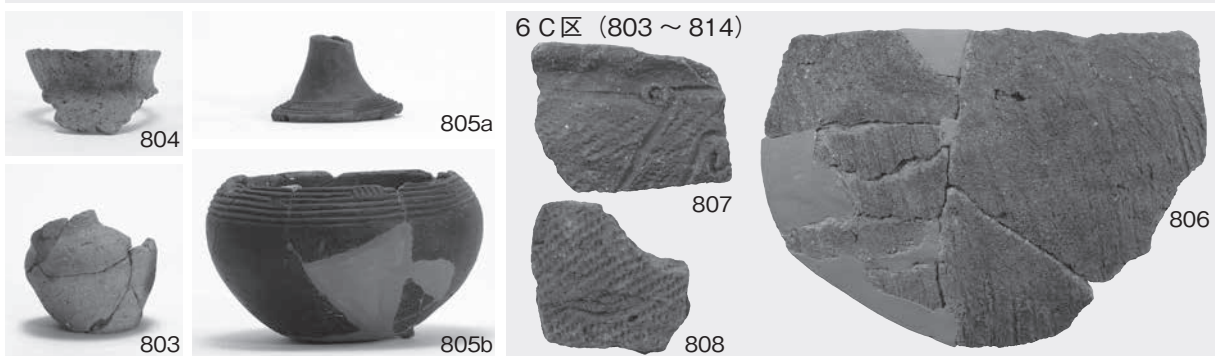
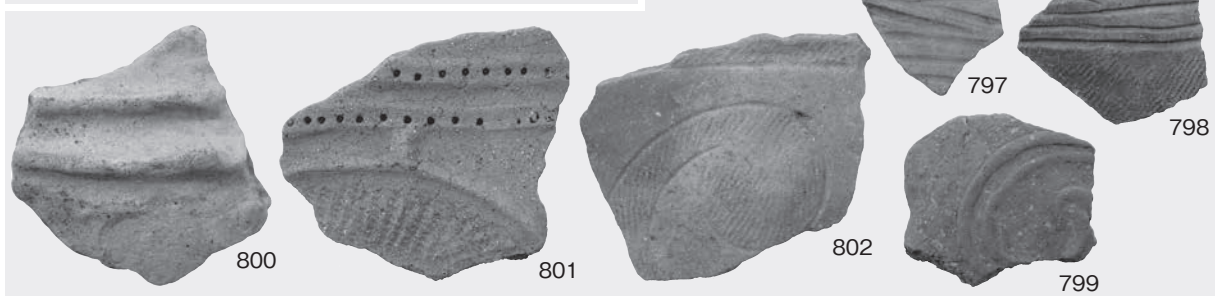
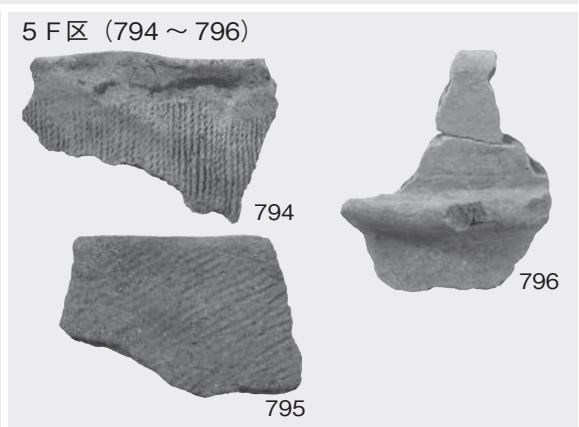
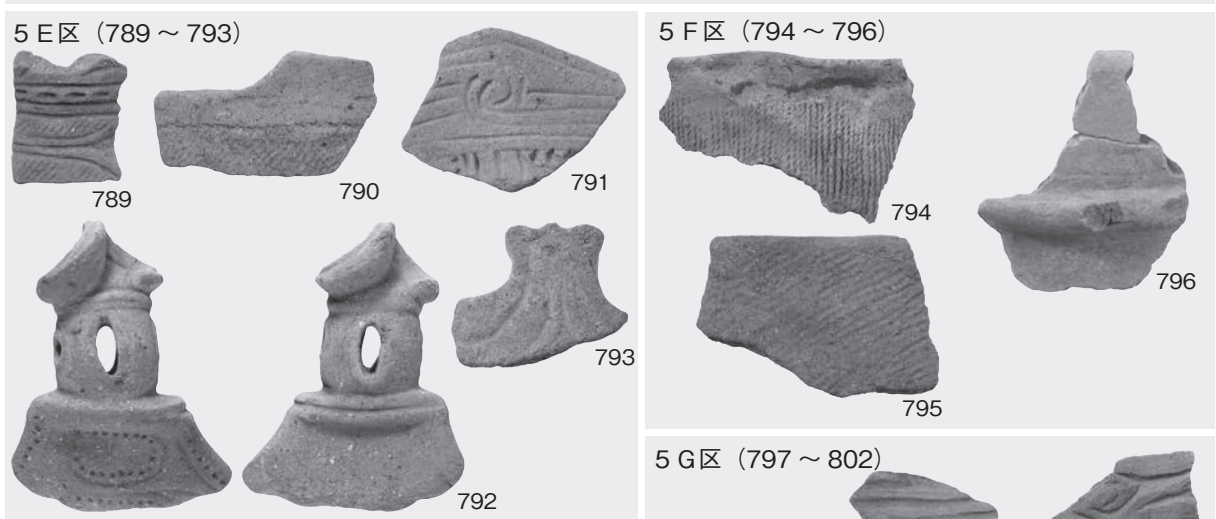
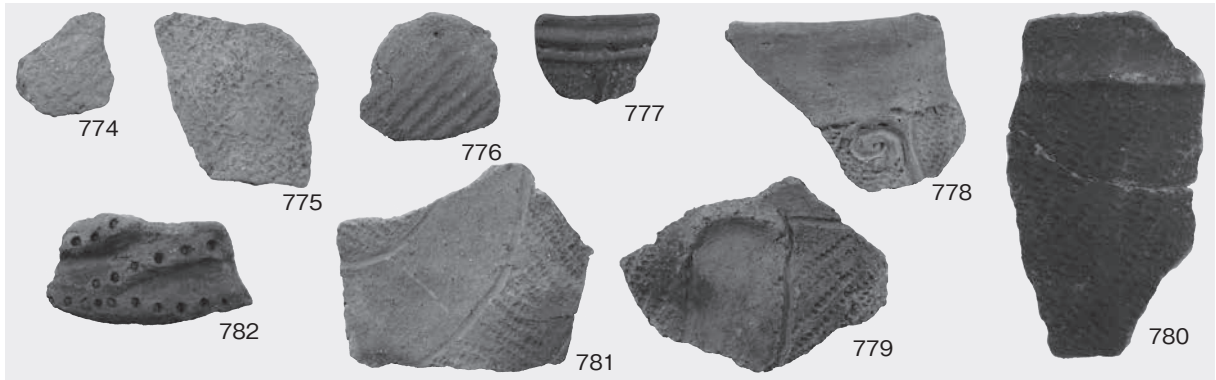




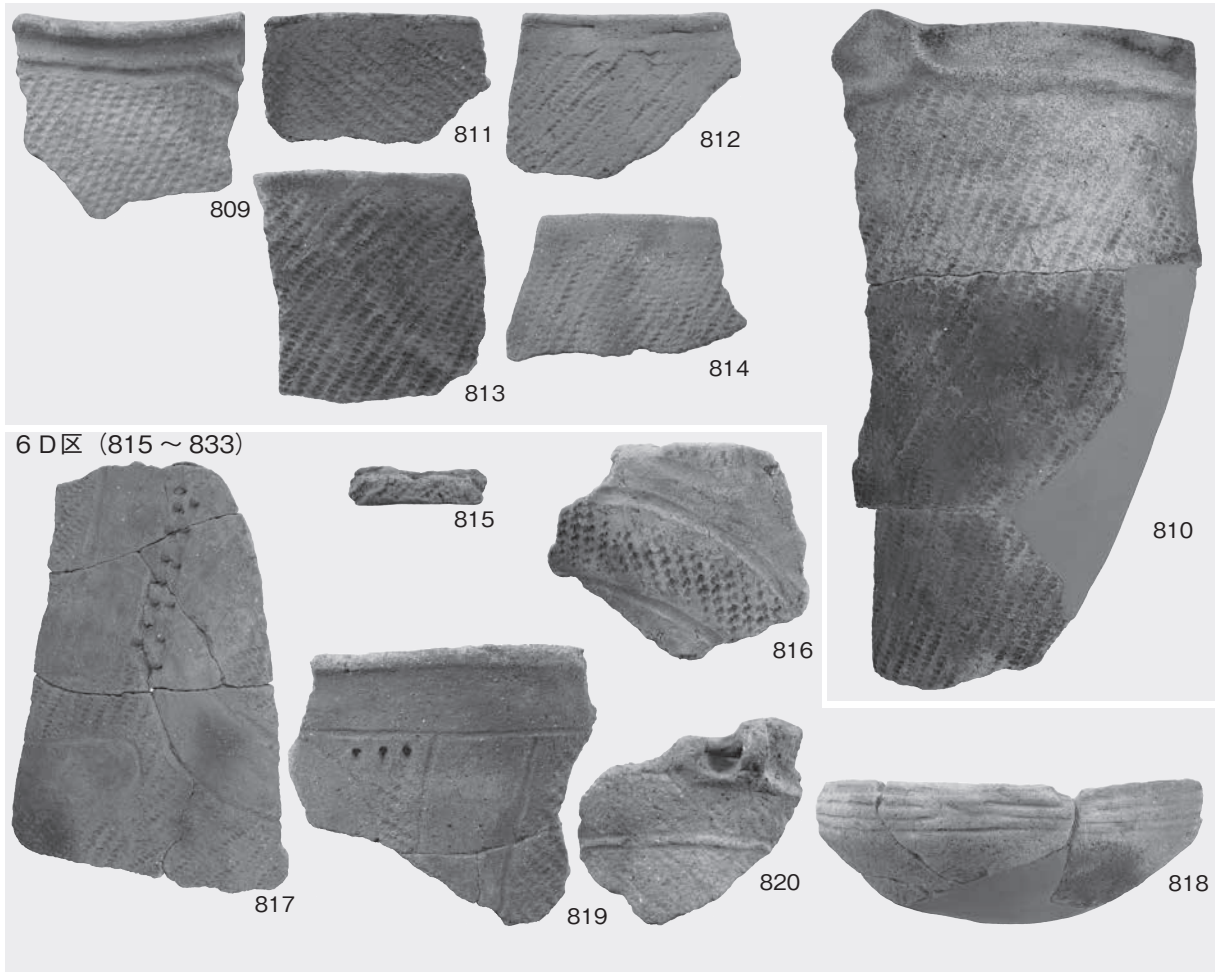




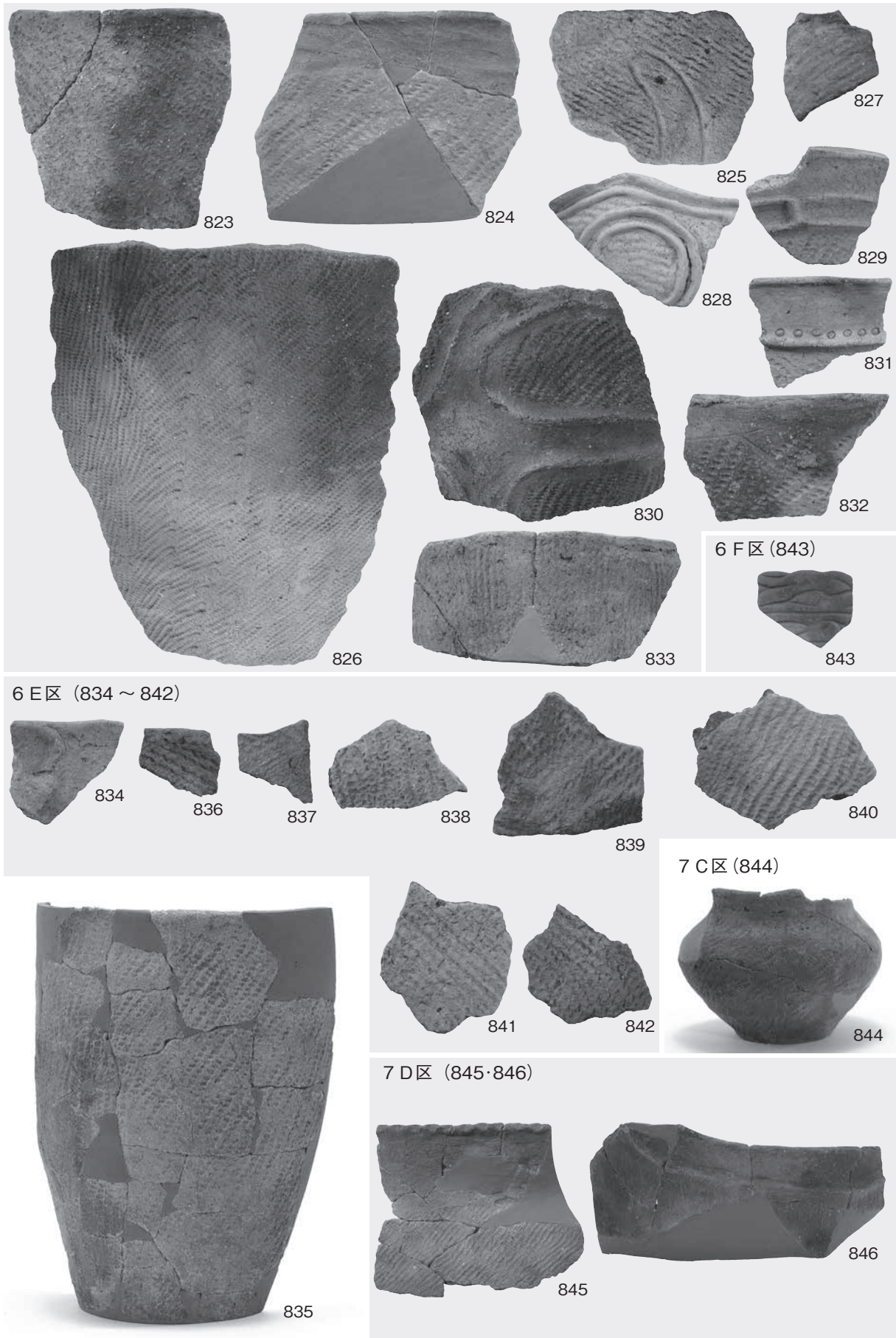
写真図版 79 西区・5 B区 (3)・5 C区 (1)



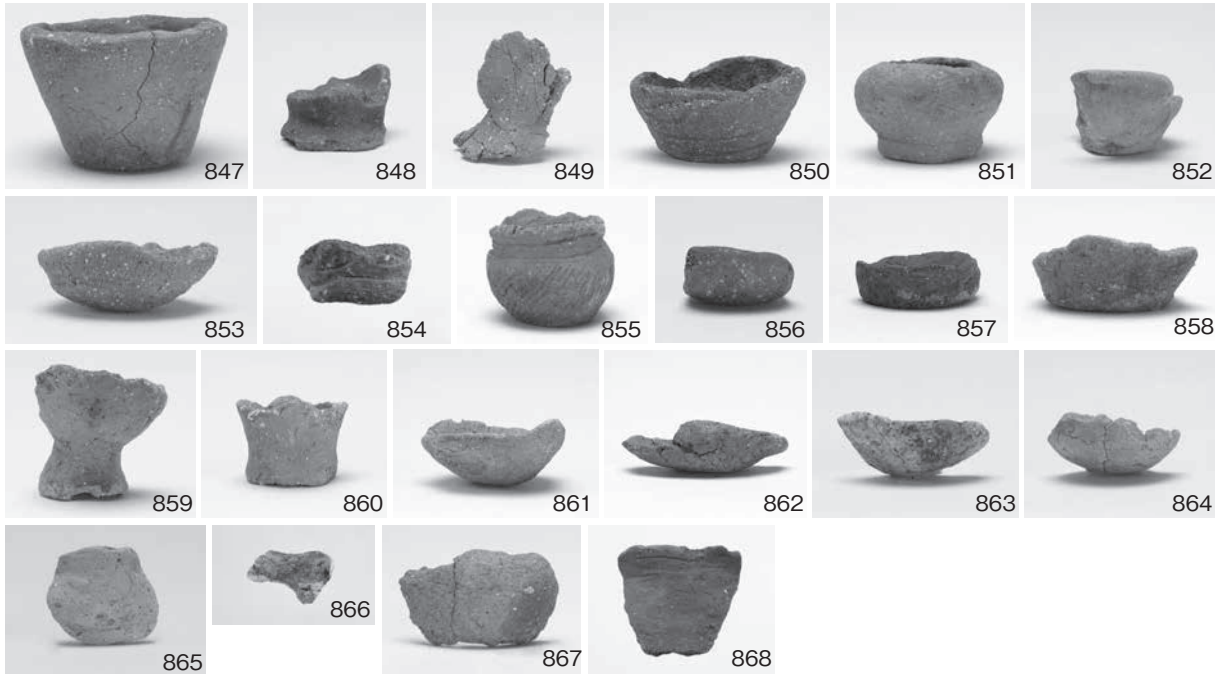




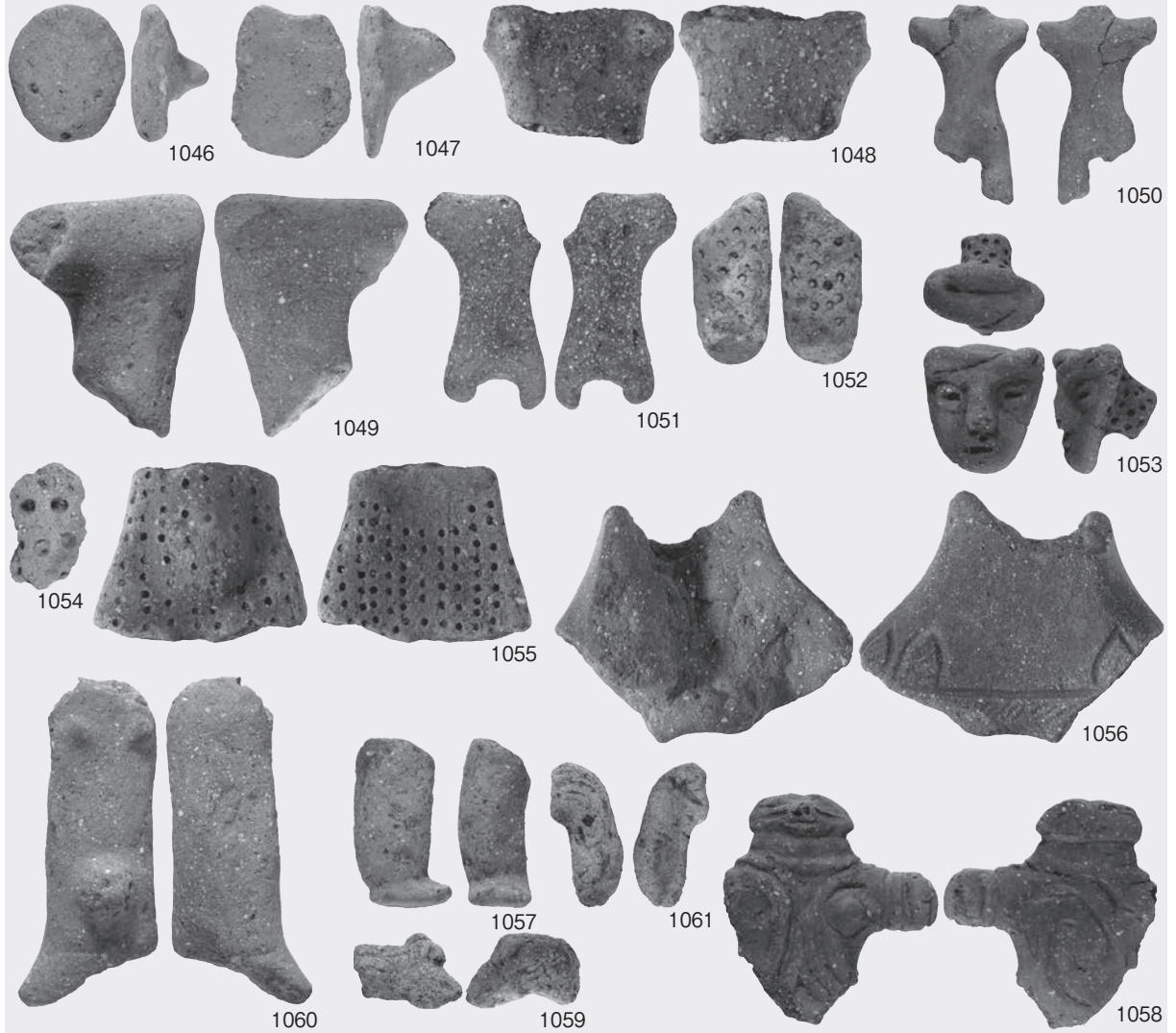




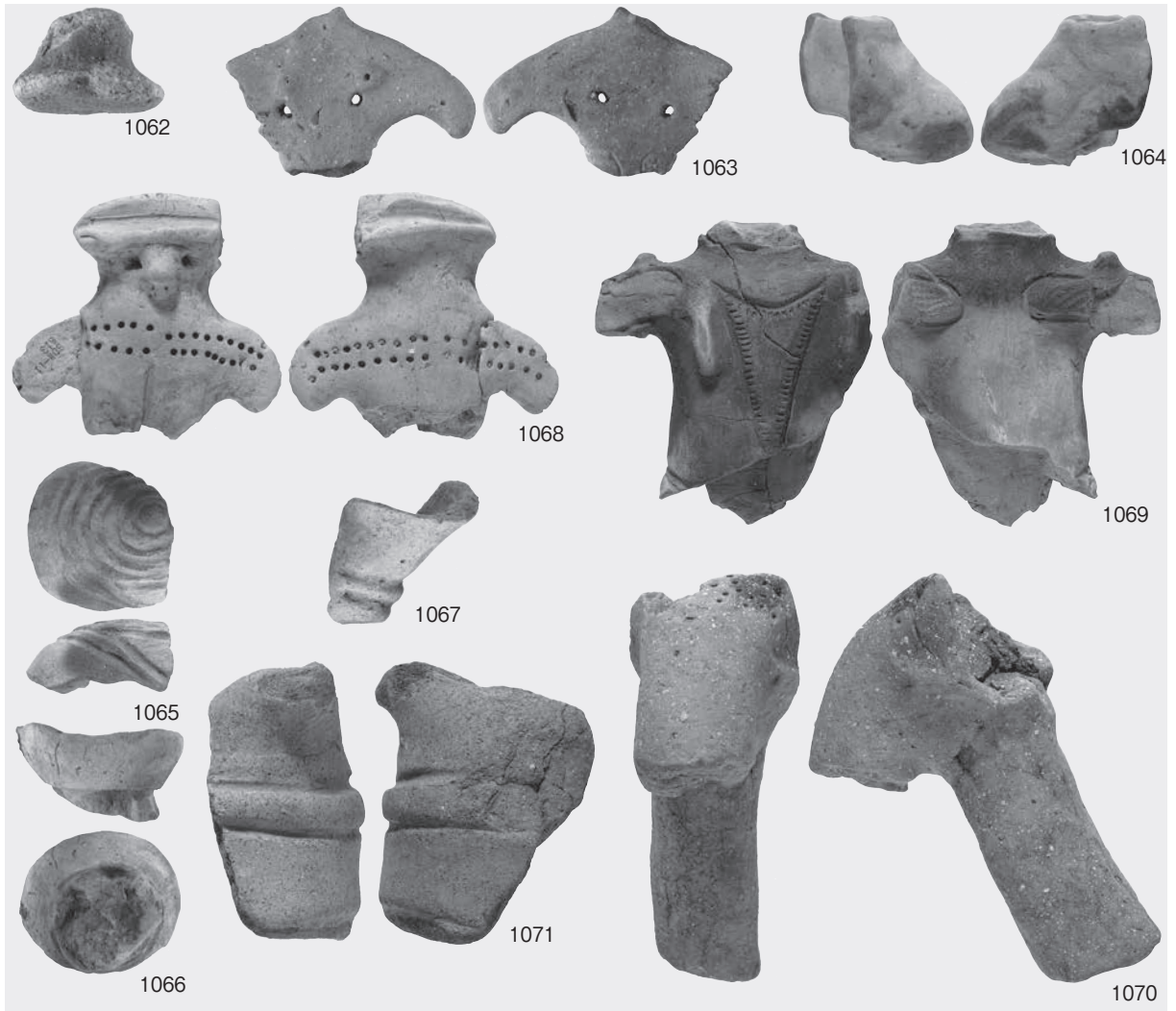
西区・ミニチュア土器 (847 ~ 868)



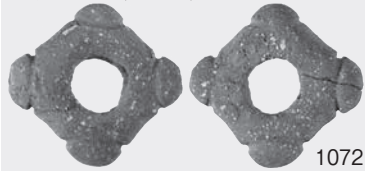
土偶 (1046 ~ 1071)







土製垂飾 (1072)



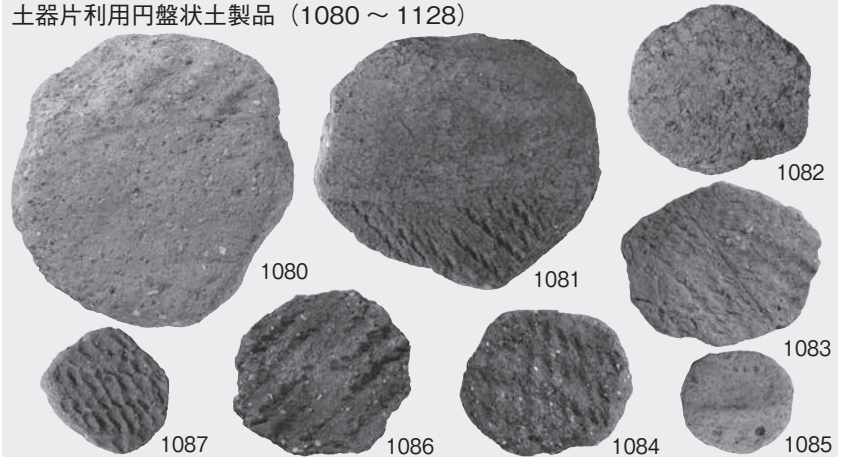
土製耳飾 (1073 ~ 1075)



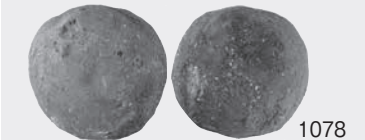
土版 (1076・1077)



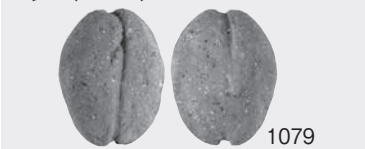
土器片利用円盤状土製品 (1080 ~ 1128)



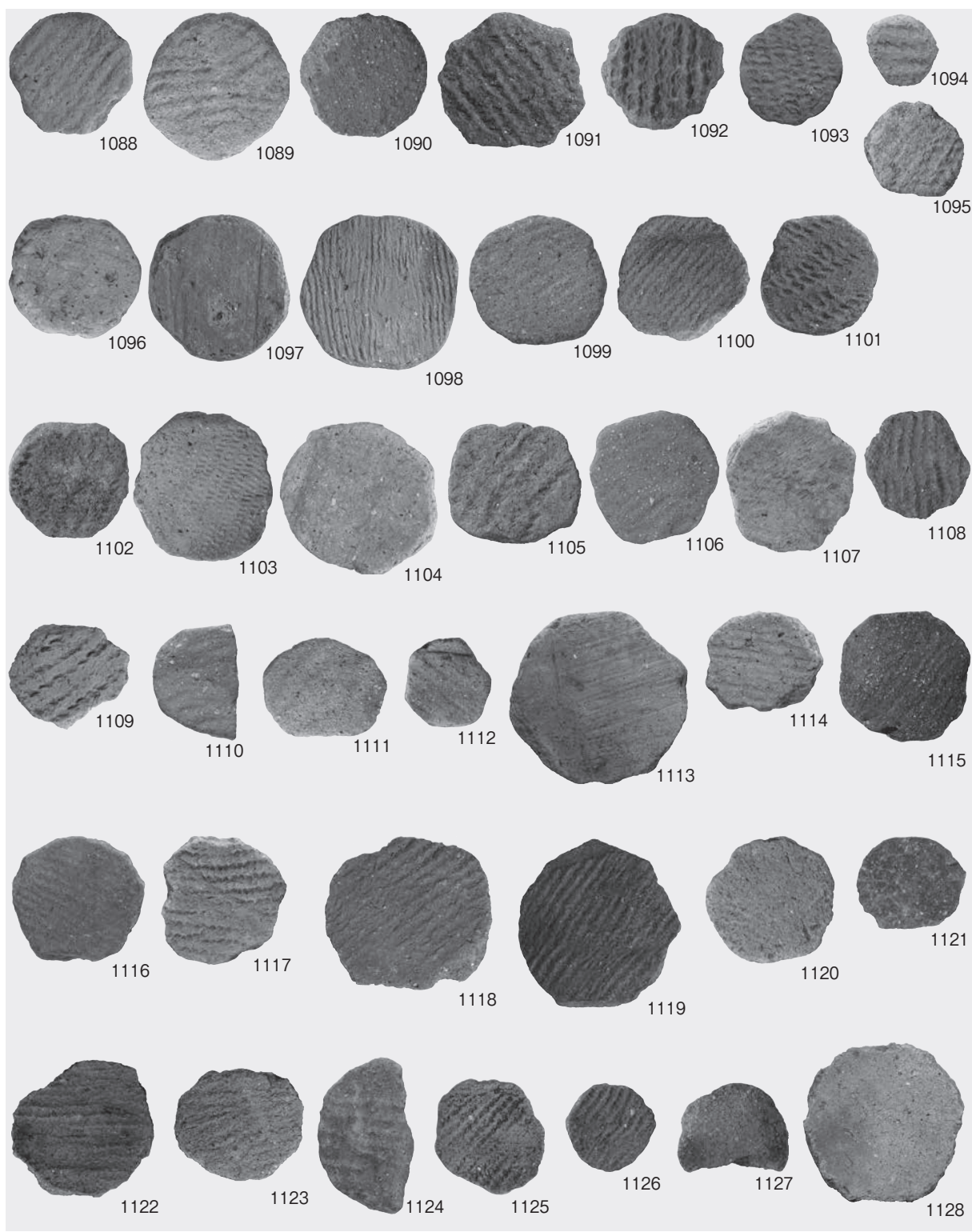
球状土製品 (1078)



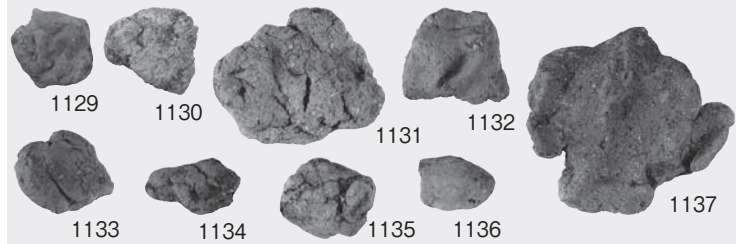
土錘 (1079)





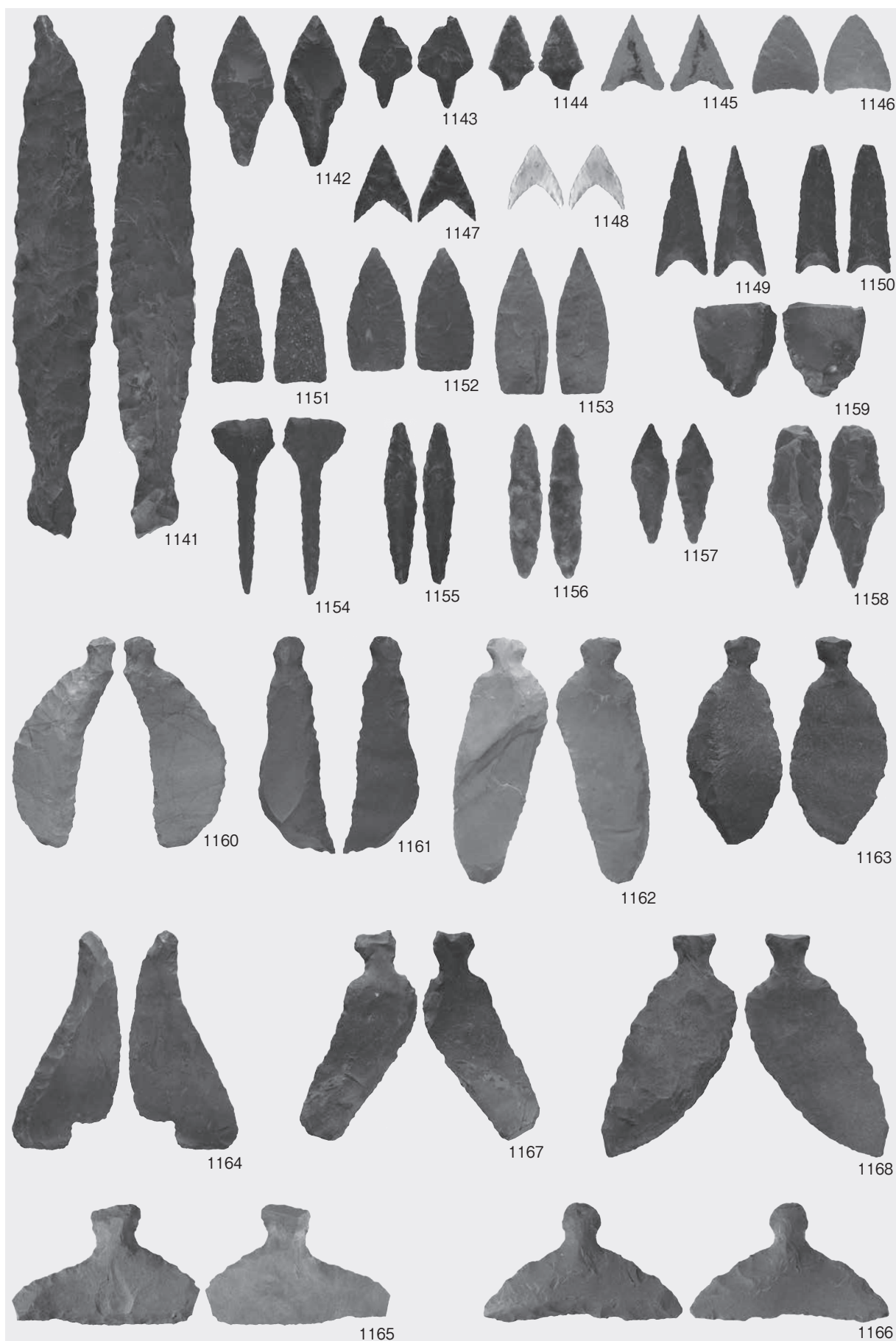


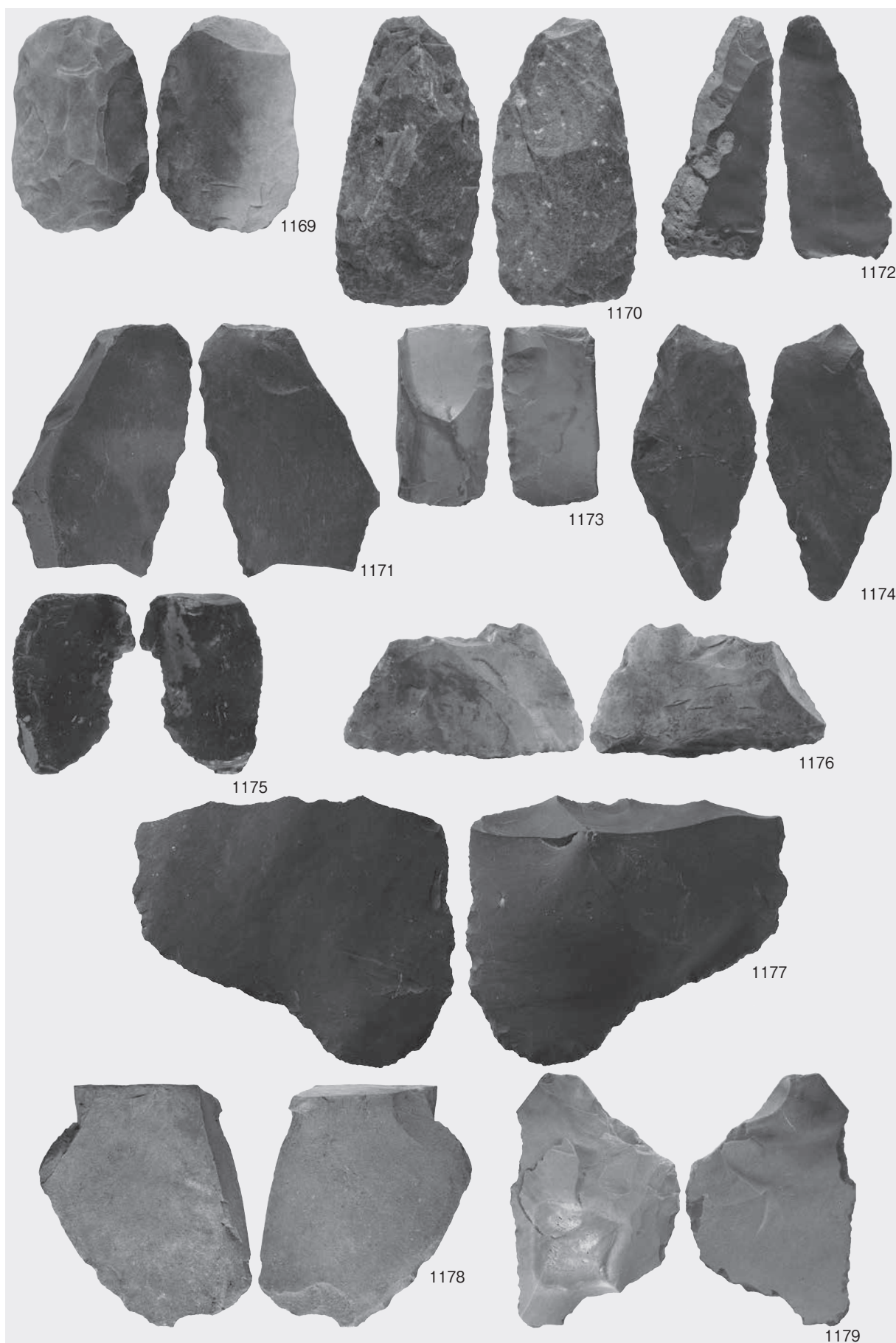
烧成粘土塊 (1129 ~ 1137)



不明土製品 (1138 ~ 1140)

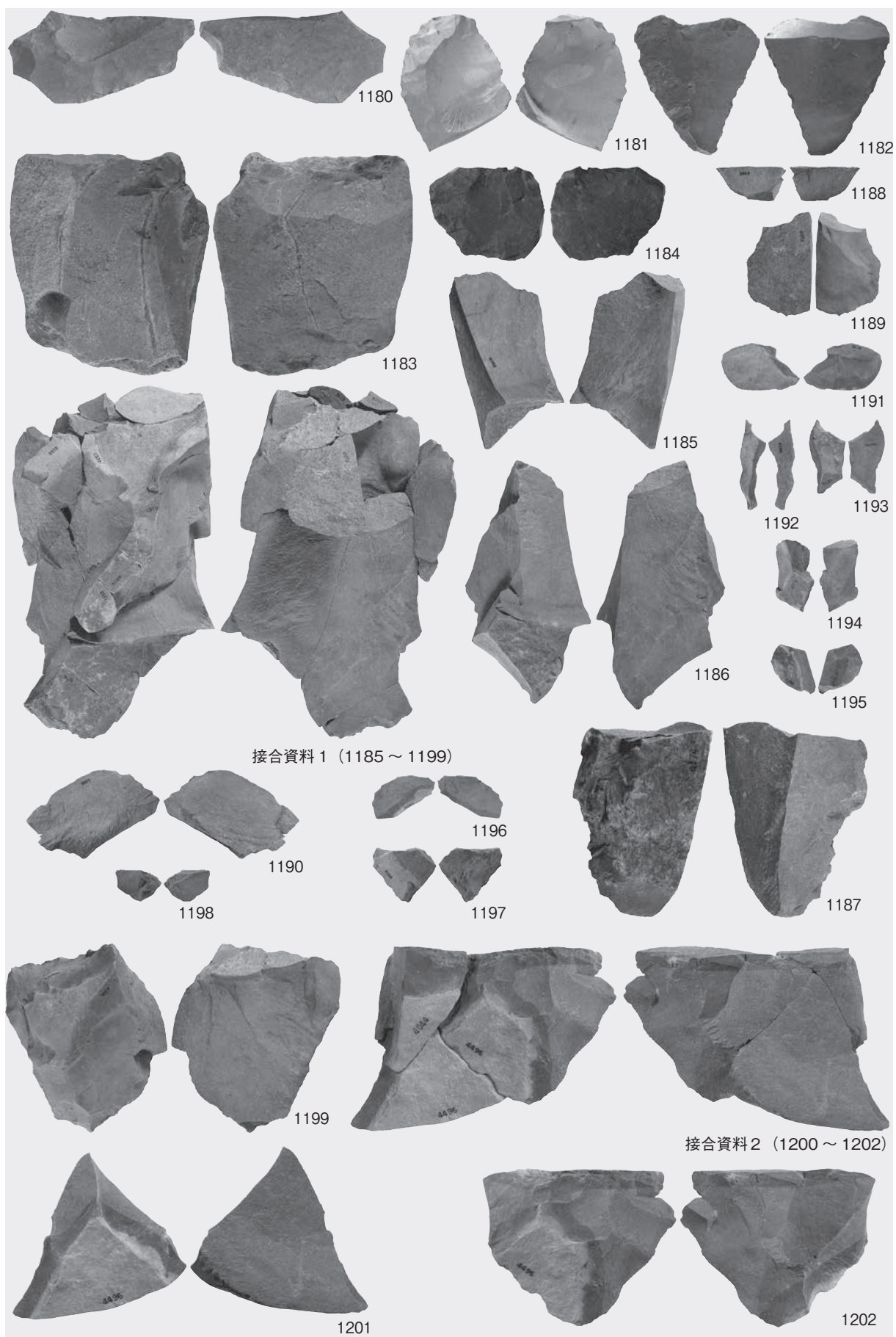




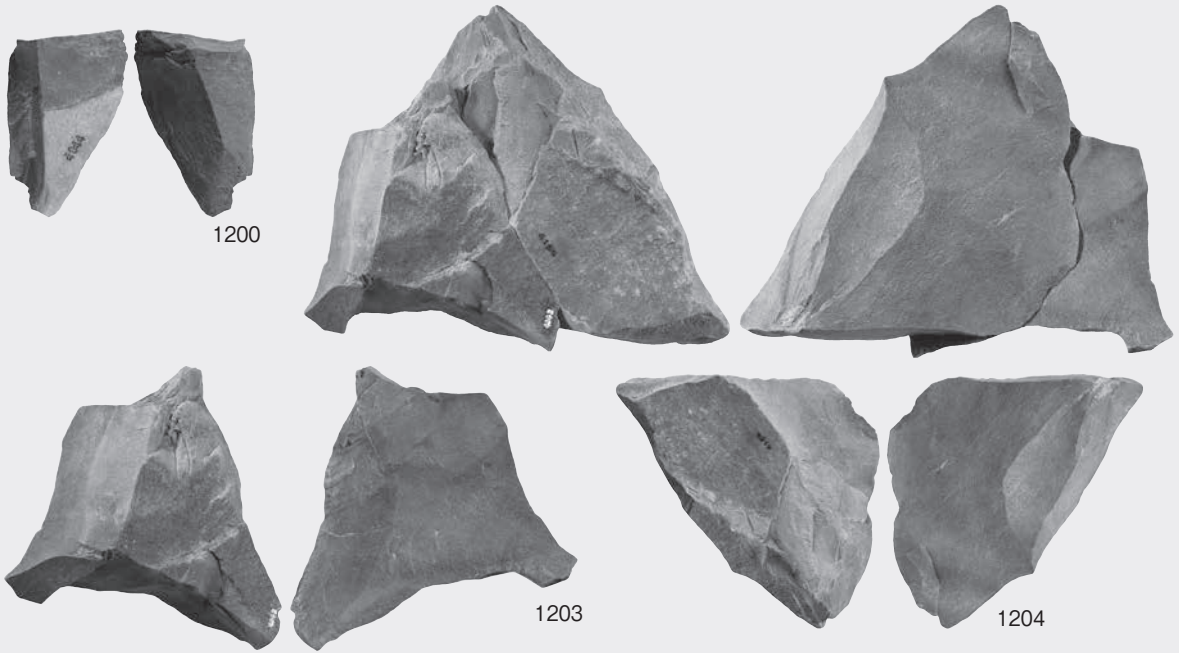


写真图版 87 出土石器 (2)

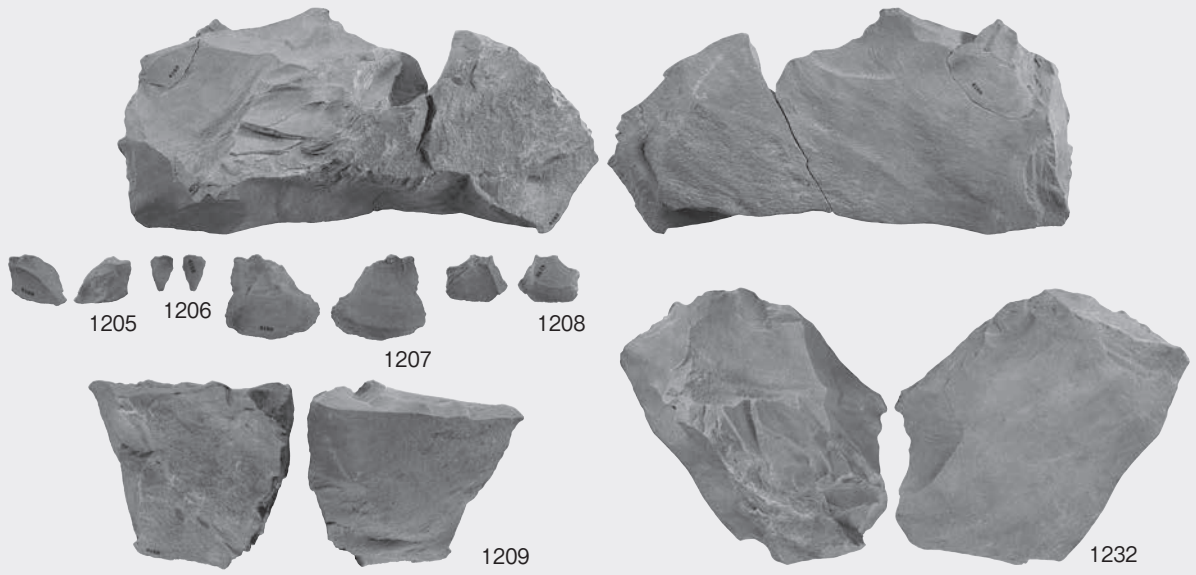




接合資料3 (1203・1204)



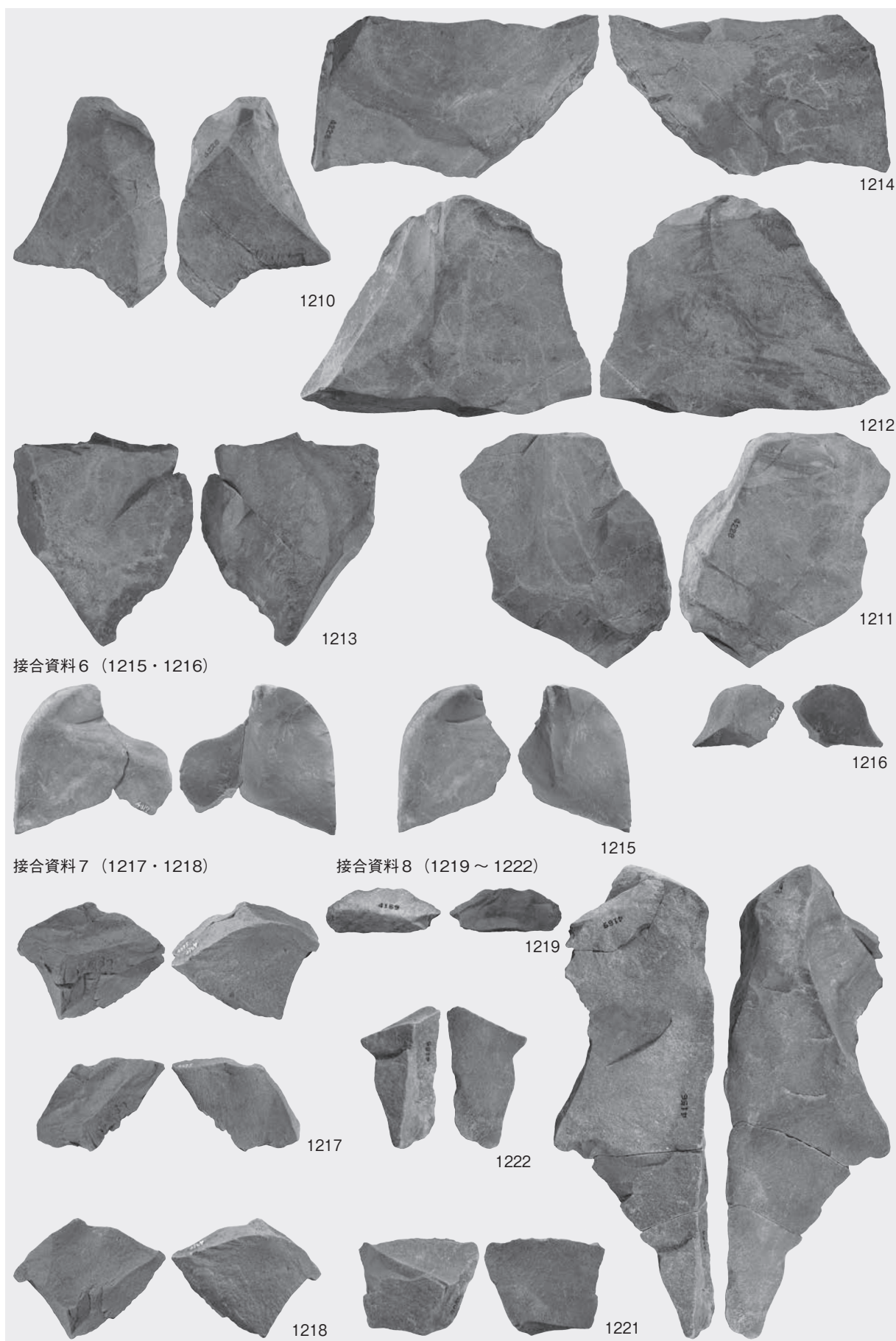
接合資料4 (1205 ~ 1209・1232)



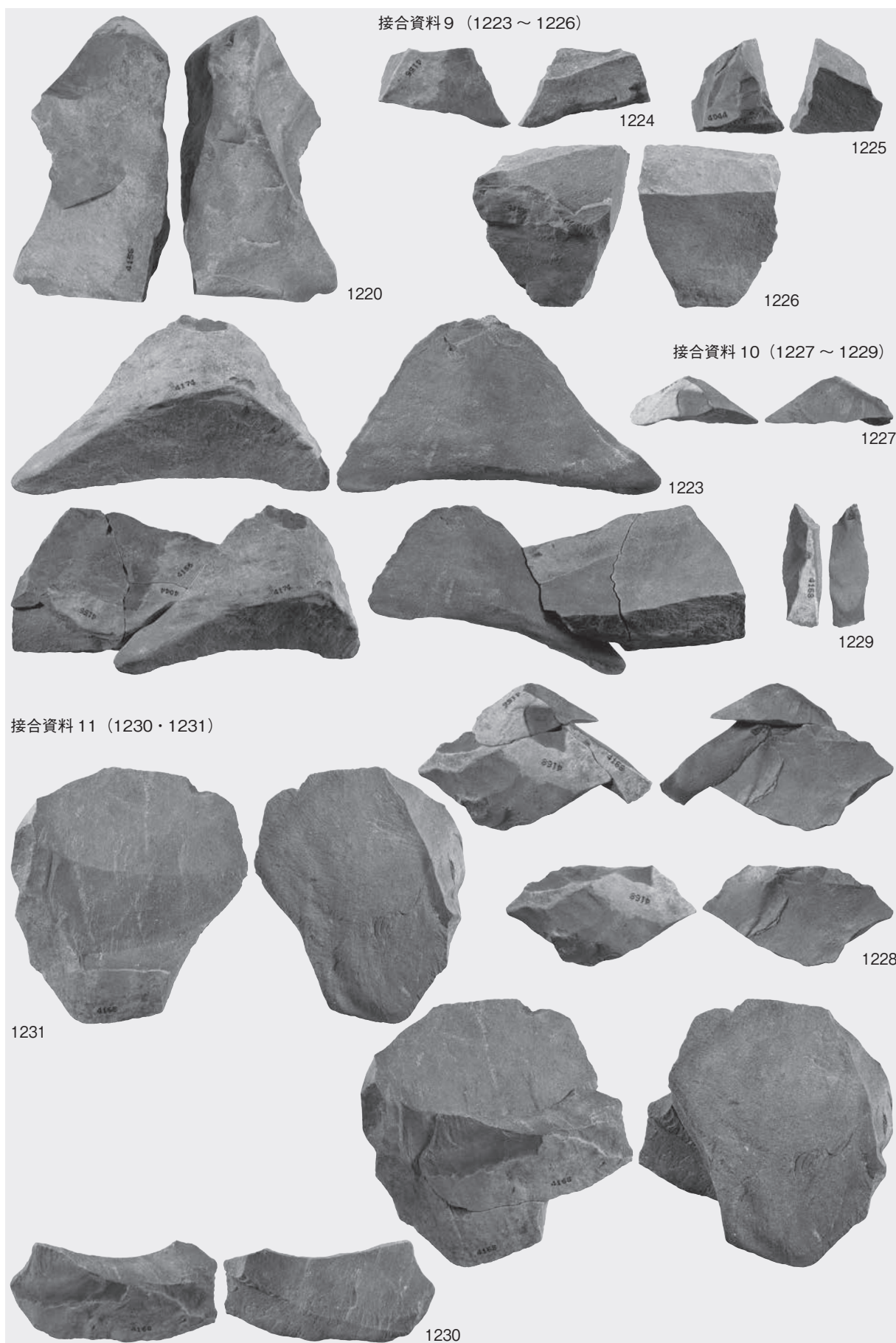
接合資料5 (1210 ~ 1214)

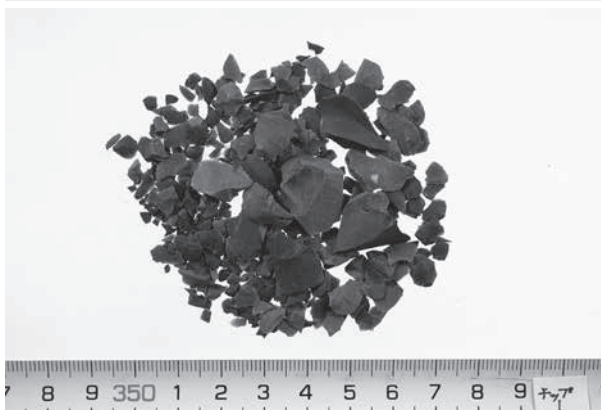
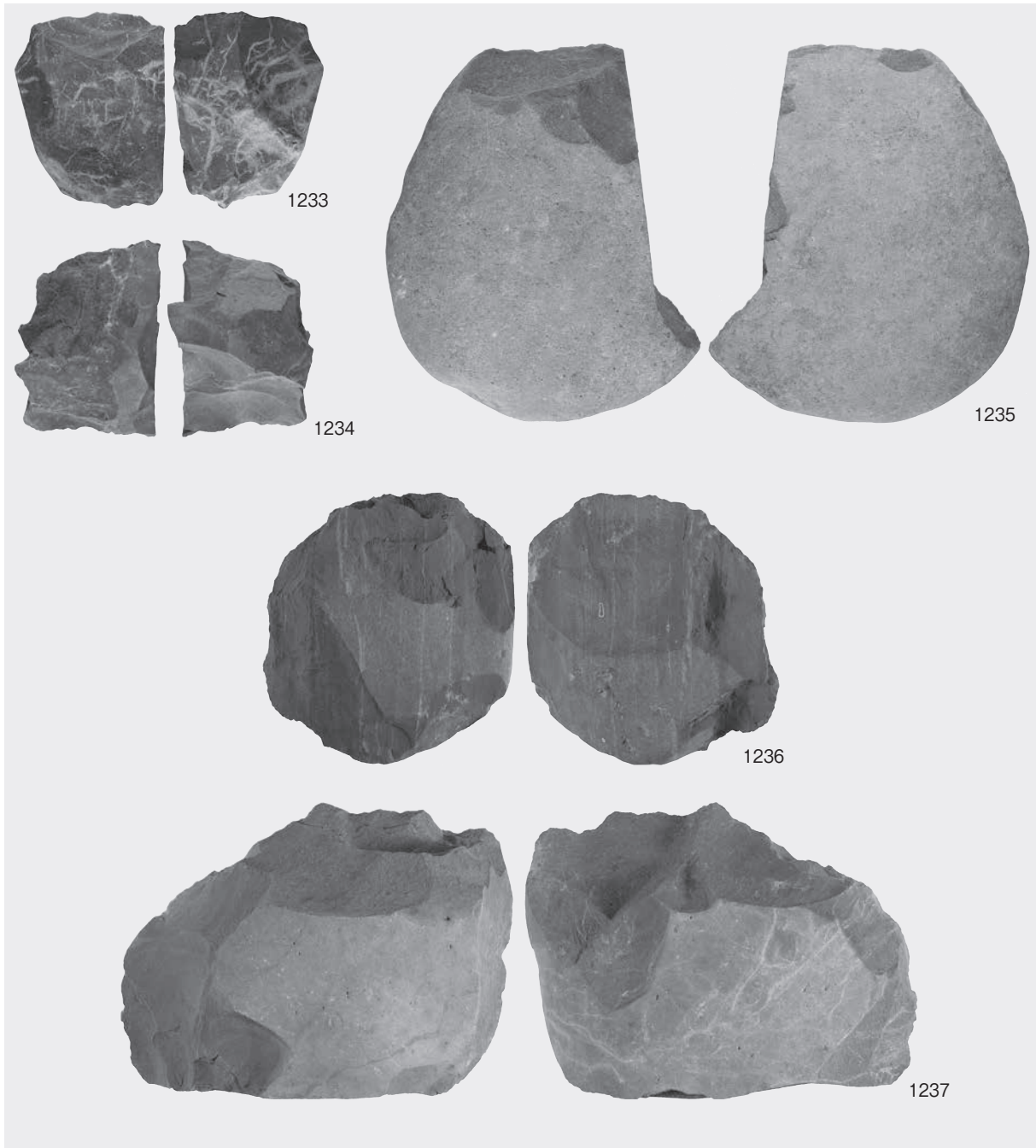




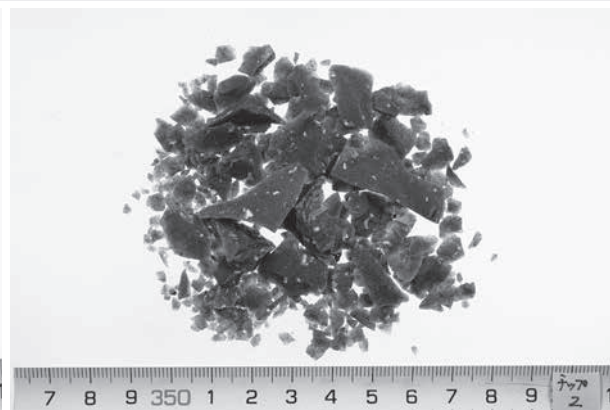




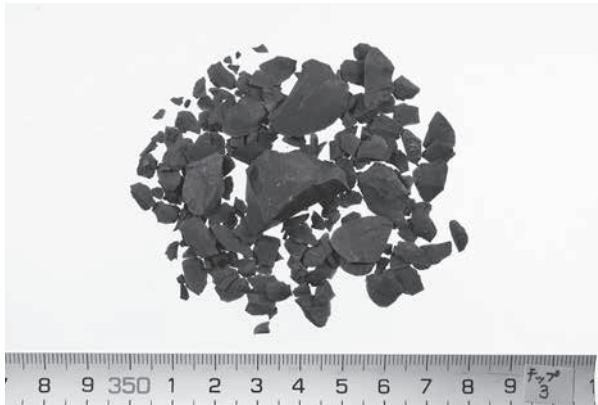




1238 チップ1 (頁岩)



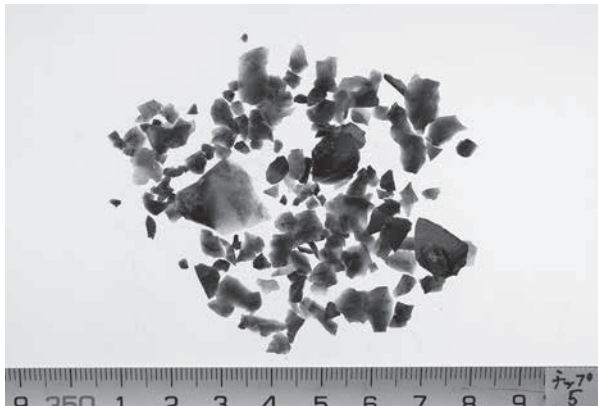
1239 チップ2 (頁岩)



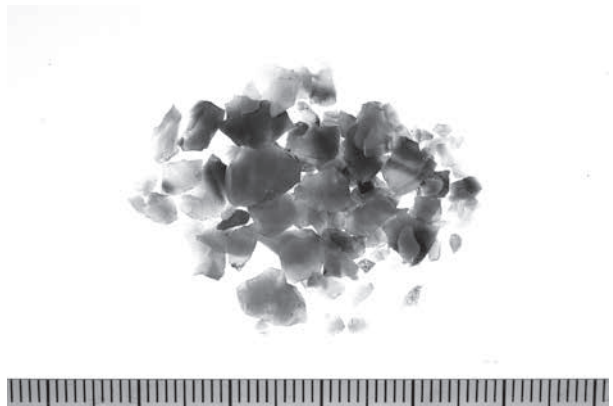
1240 チップ3 (頁岩)



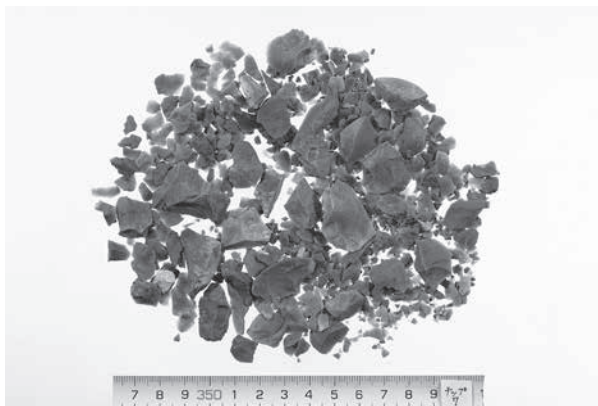
1241 チップ4 (珪質頁岩)



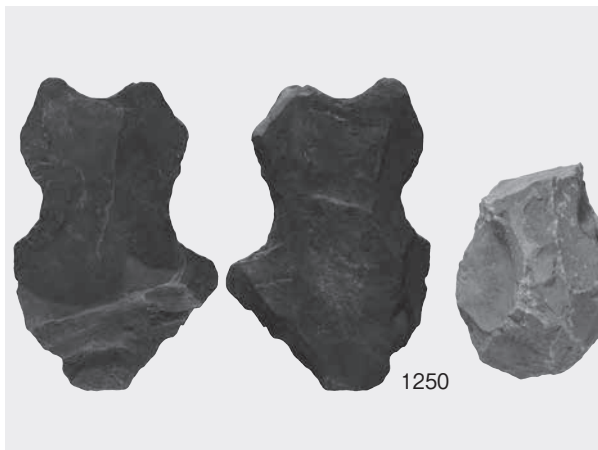
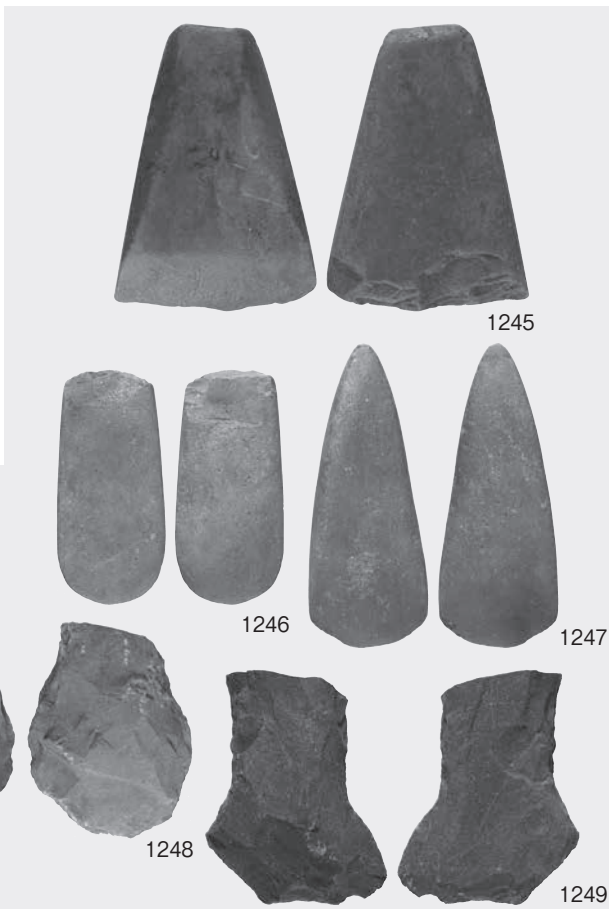
1242 チップ5・6 (頁岩)



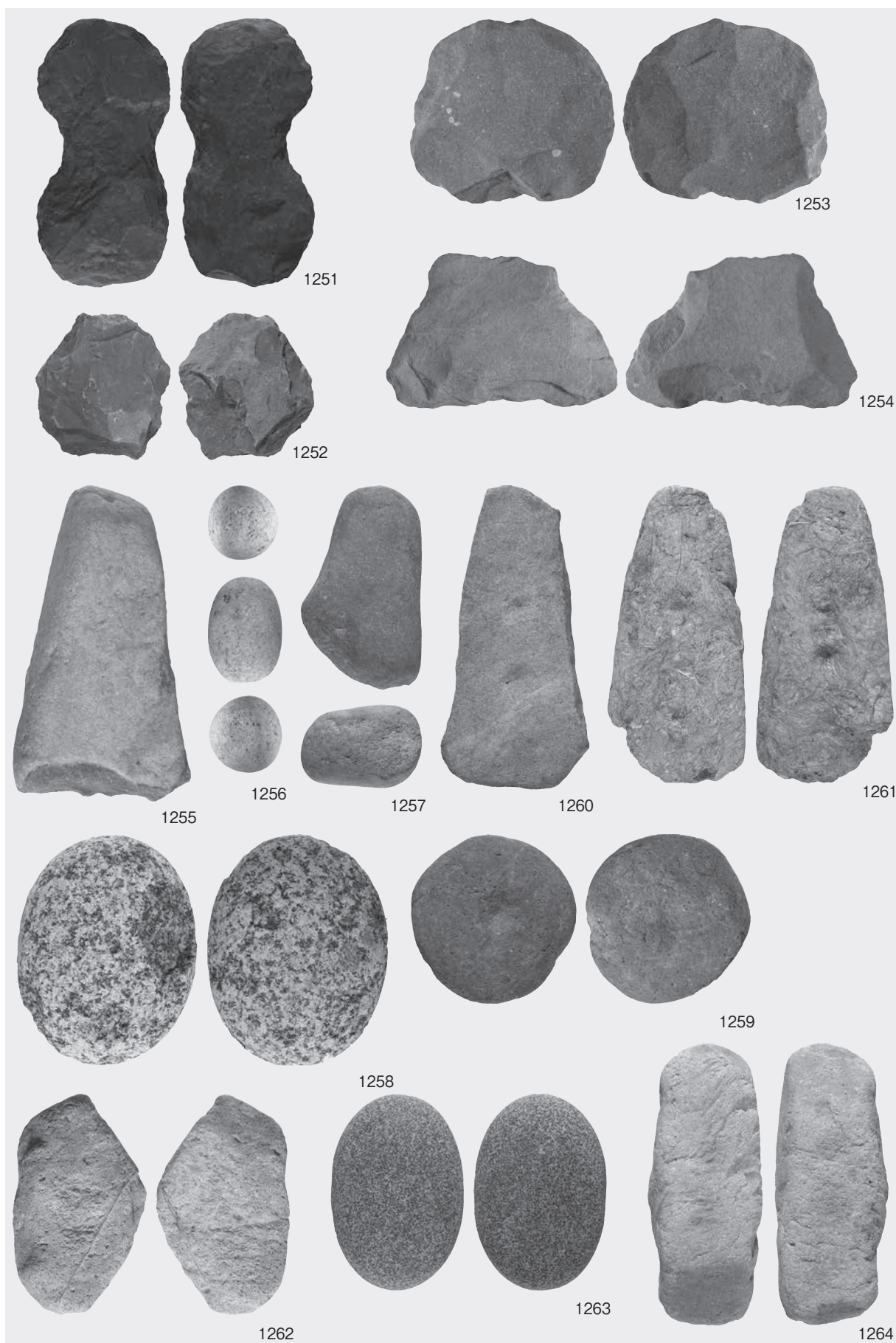
1243 チップ8 (頁岩)



1244 チップ7 (頁岩)







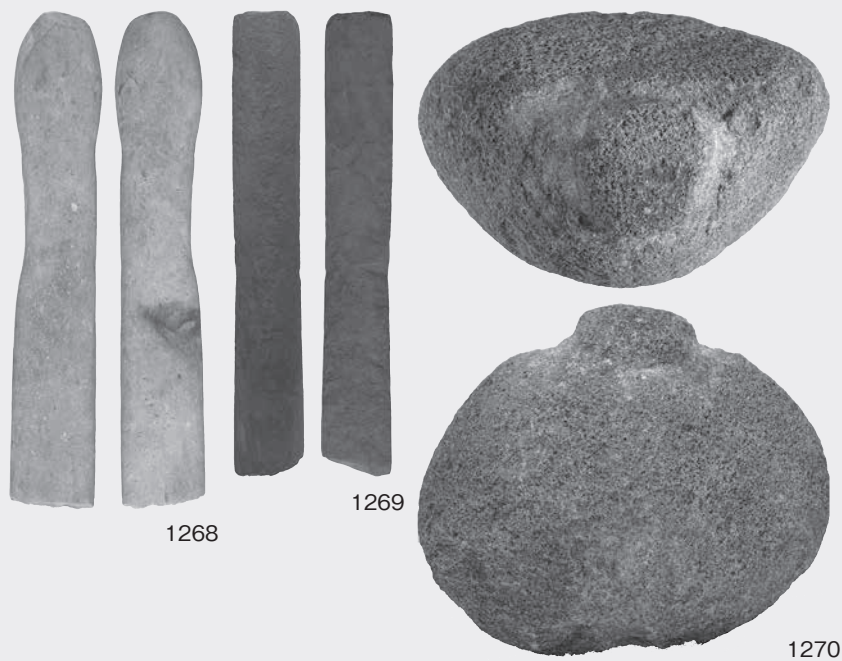


木製品 (1271)



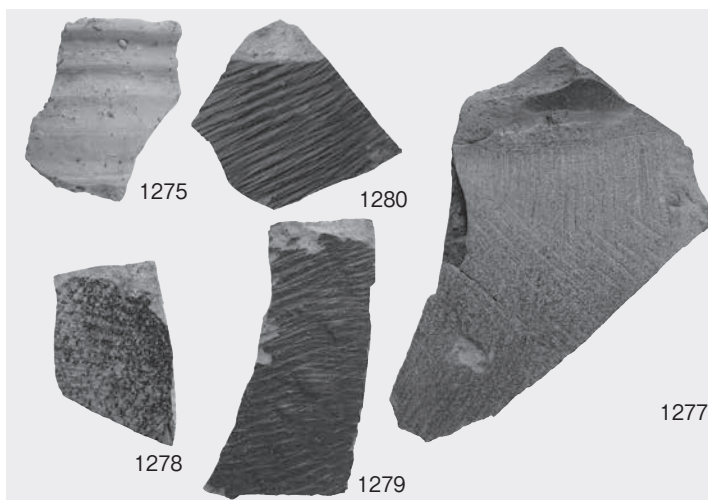
1271 (1/10)

石製品 (1268 ~ 1270)

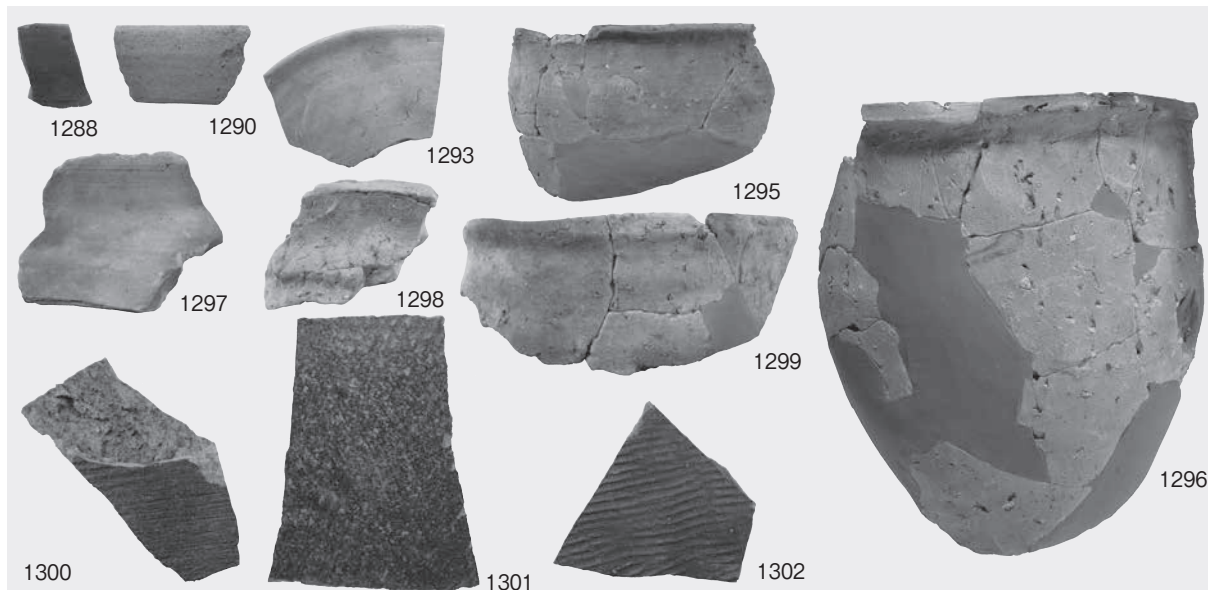
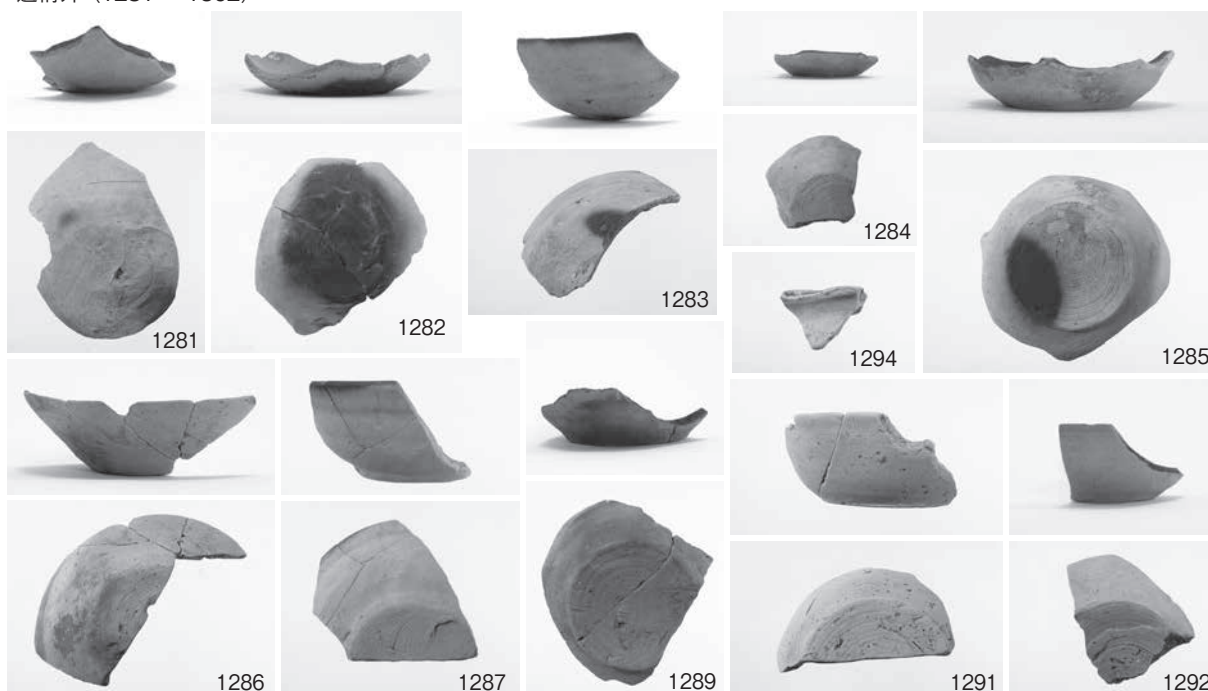




遺構内 (1272 ~ 1280)



遺構外 (1281 ~ 1302)







1303 昆虫試料 1



1304 昆虫試料 2



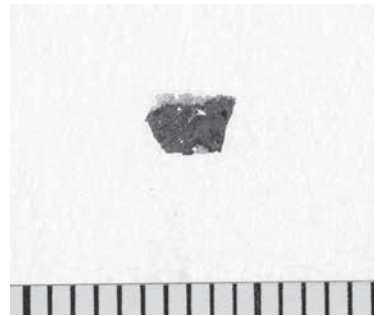
1305 昆虫試料 3



1306 昆虫試料 4 (葉含む)



1307 昆虫試料 5



1308 昆虫試料 6



1309 昆虫試料 7



1310 昆虫試料 8



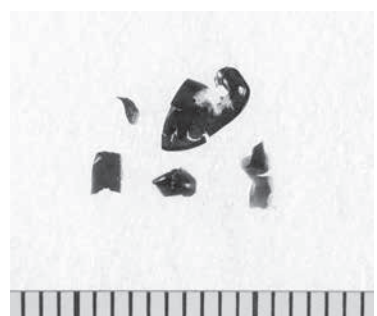
1311 昆虫試料 9



1312 昆虫試料 10



1313 昆虫試料 11



1314 昆虫試料 12



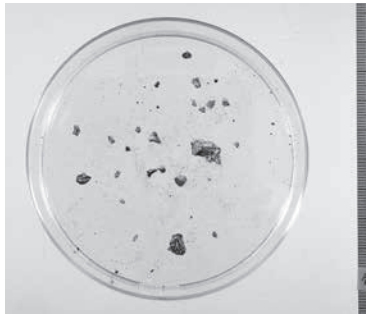
1315 昆虫試料 13



1316 焼骨試料 1



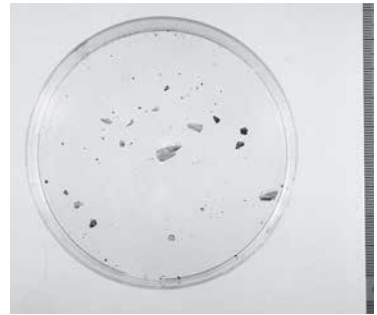
1317 焼骨試料 2



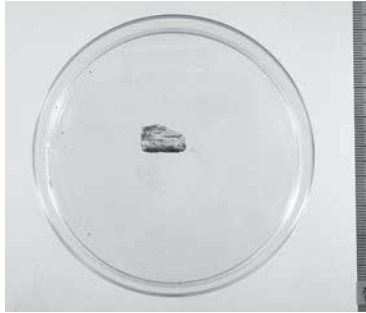
1318 焼骨試料 3



1319 焼骨試料 4



1320 焼骨試料 5



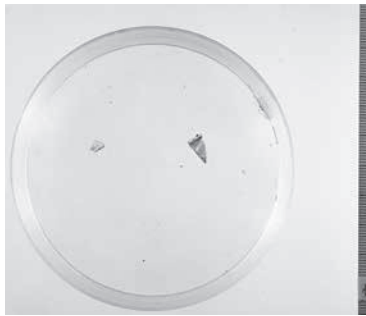
1321 焼骨試料 6



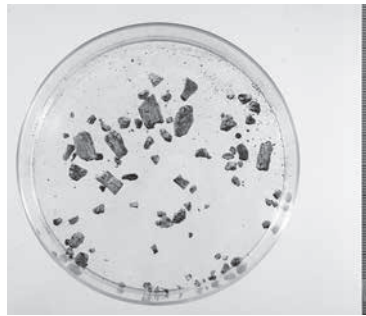
1322 焼骨試料 7



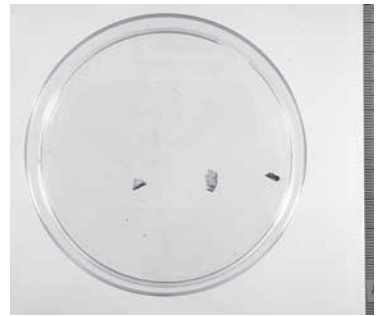
1323 焼骨試料 8



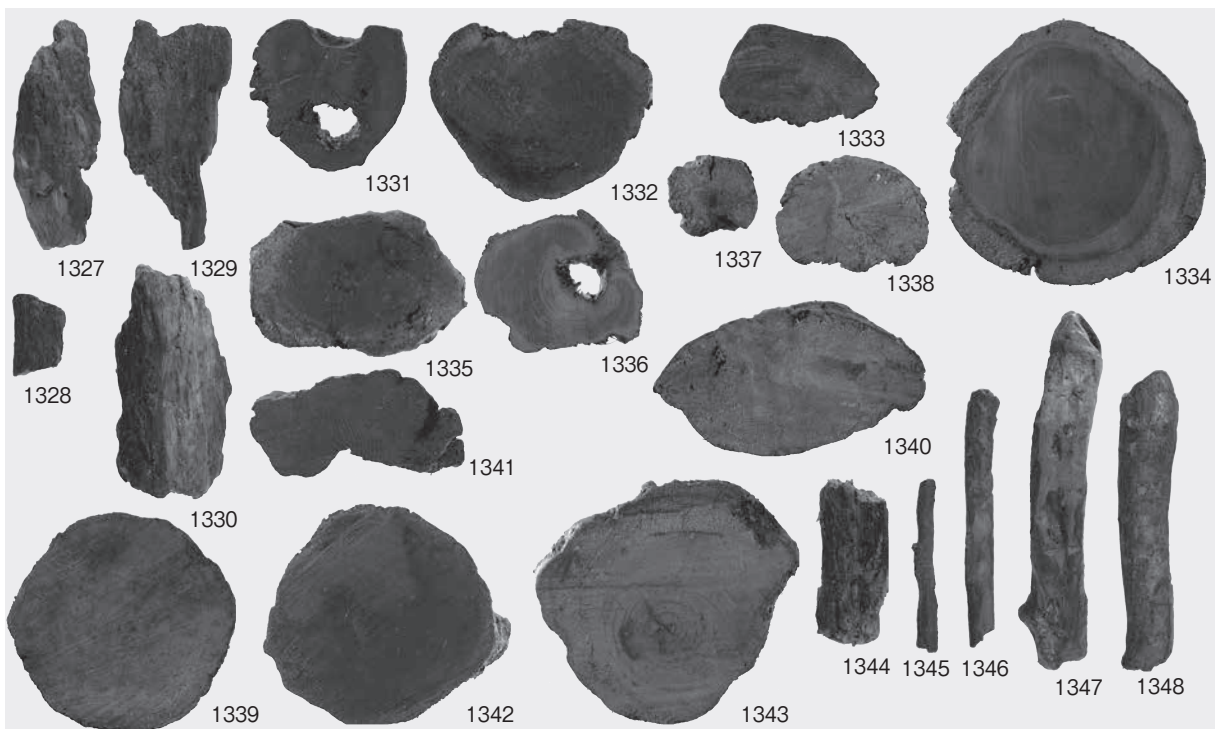
1324 焼骨試料 9

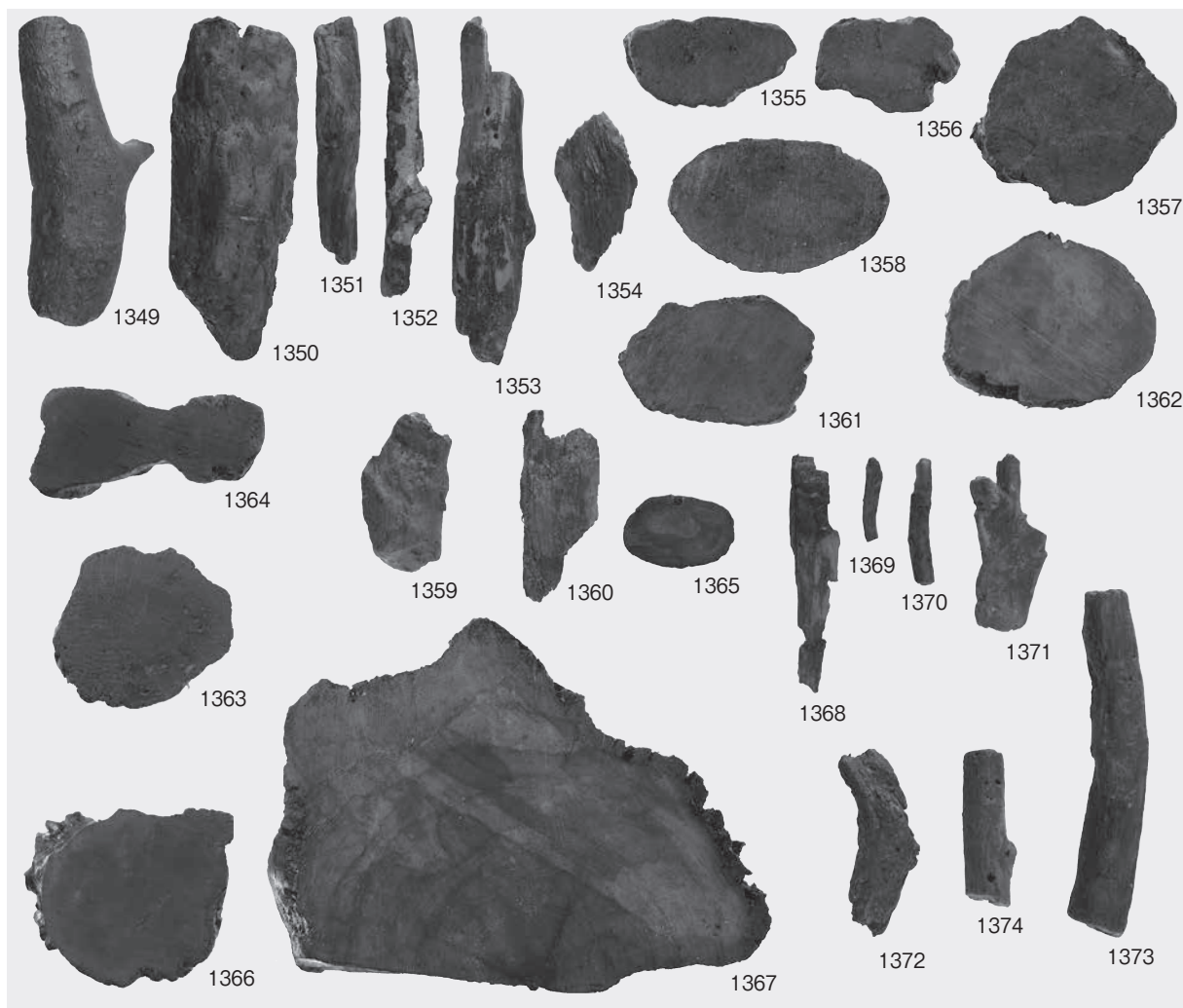


1325 焼骨試料 10

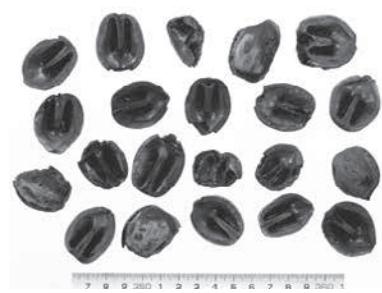


1326 焼骨試料 11





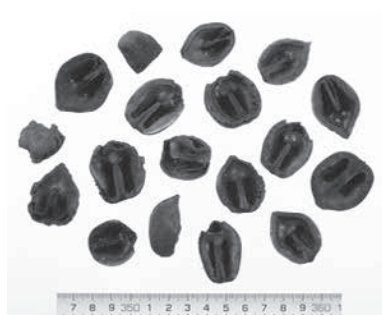
1375 オニグルミ 1



1376 オニグルミ 2



1377 オニグルミ 3



1378 オニグルミ 4

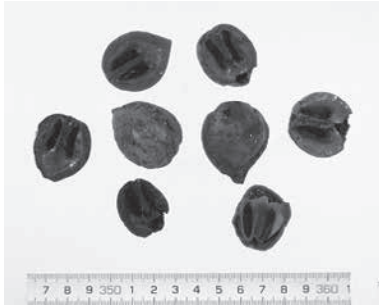


1379 オニグルミ 5



1380 オニグルミ 6





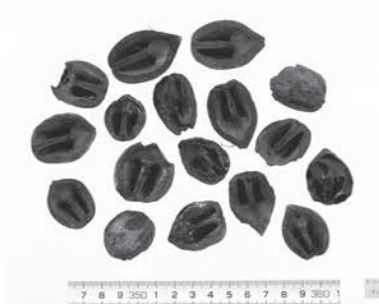
1381 オニグルミ 7



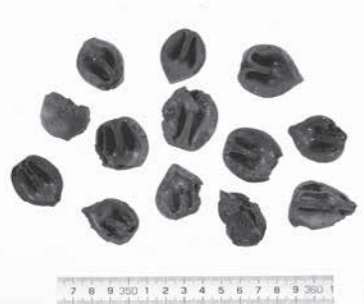
1382 オニグルミ 8



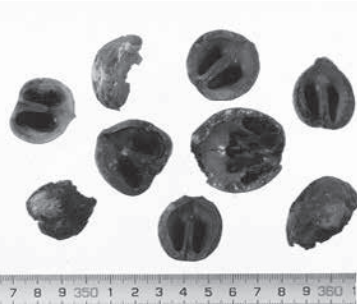
1383 オニグルミ 9



1384 オニグルミ 10



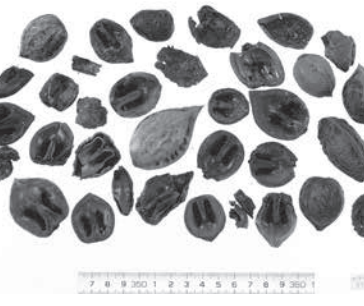
1385 オニグルミ 11



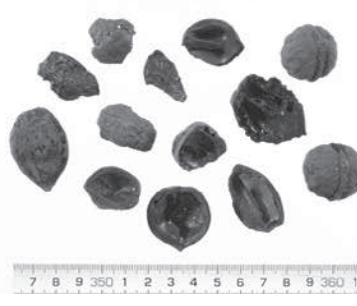
1386 オニグルミ 12



1387 オニグルミ 13



1388 オニグルミ 14



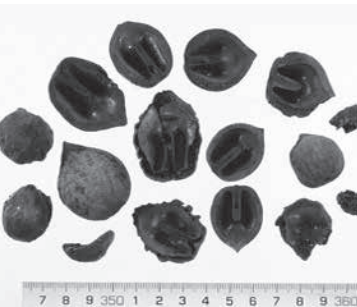
1389 オニグルミ 15



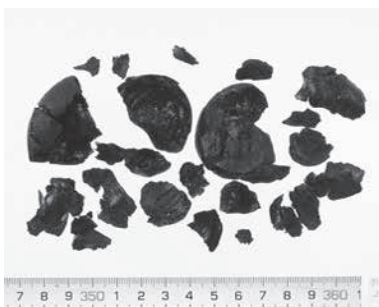
1390 オニグルミ 16



1391 オニグルミ 17



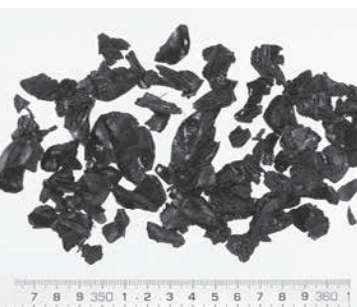
1392 オニグルミ 18



1393 クリ 1



1394 クリ 2



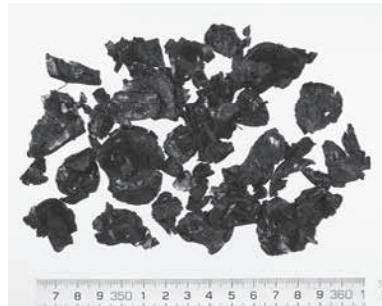
1395 クリ 3



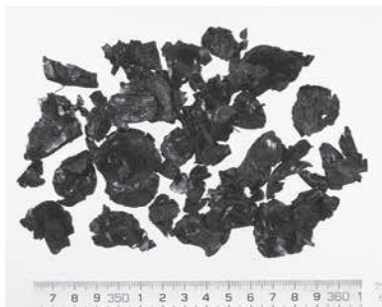
1396 クリ 4



1397 クリ 5



1397 クリ 5



1398 クリ 6



1399 トチノキ 1



1400 トチノキ 2



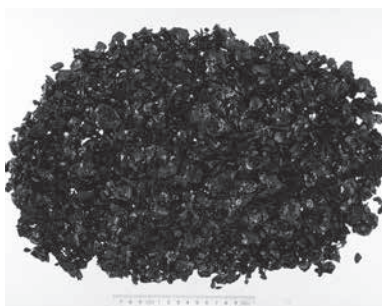
1401 トチノキ 3



1402 トチノキ 4



1403 トチノキ 5



1404 トチノキ 6



1405 トチノキ 7



1406 トチノキ 8



1407 トチノキ 9



1408 トチノキ 10



1409 トチノキ 11





1410 トチノキ 12



1411 トチノキ 13



1412 トチノキ 14



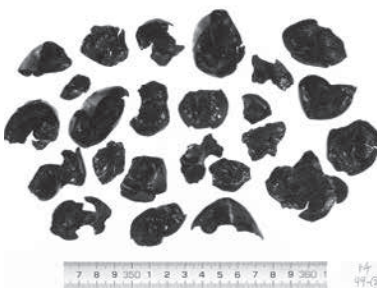
1399 トチノキ 1 発芽孔



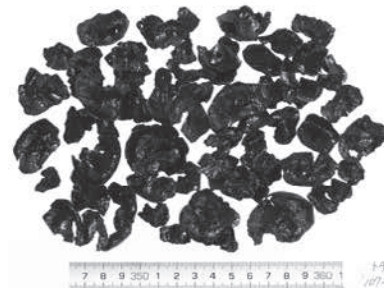
1400 トチノキ 2 発芽孔



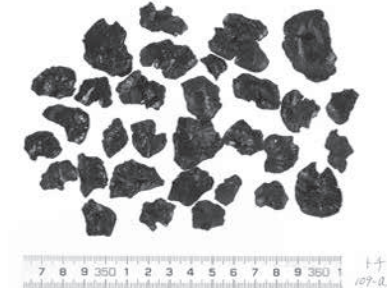
1402 トチノキ 4 発芽孔



1403 トチノキ 5 発芽孔



1404 トチノキ 6 発芽孔



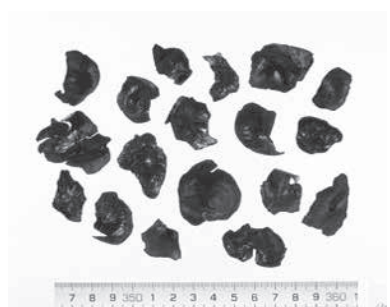
1405 トチノキ 7 発芽孔



1406 トチノキ 8 発芽孔



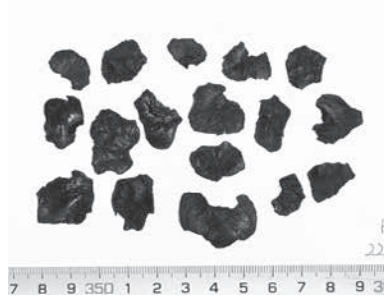
1407 トチノキ 9 発芽孔



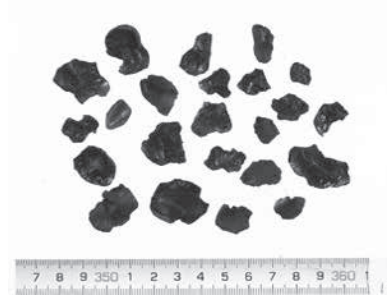
1408 トチノキ 10 発芽孔



1409 トチノキ 11 発芽孔



1410 トチノキ 12 発芽孔

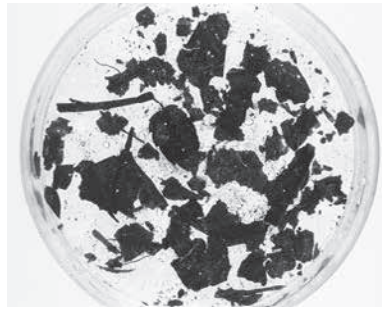


1411 トチノキ 13 発芽孔

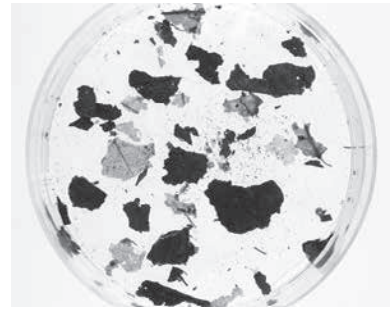




1412 トチノキ 14 発芽孔



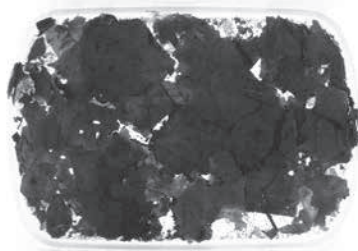
1413 植物葉 1



1414 植物葉 2



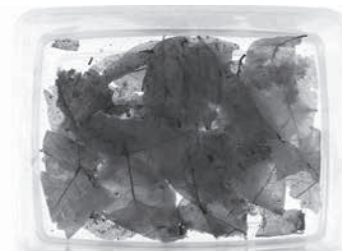
1415 植物葉 3 (1)



1415 植物葉 3 (2)



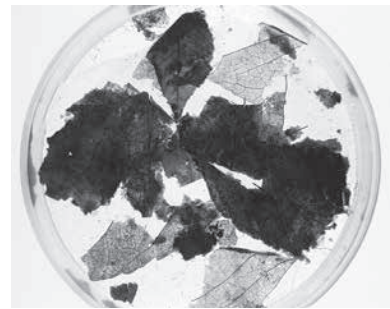
1415 植物葉 3 (3)



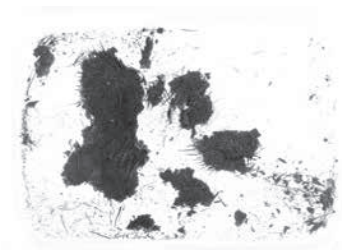
1415 植物葉 3 (4)



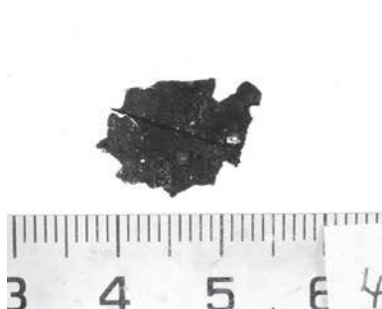
1415 植物葉 3 (5)



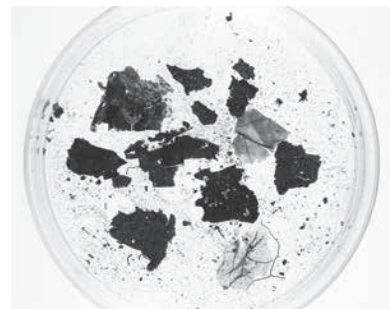
1415 植物葉 3 (6)



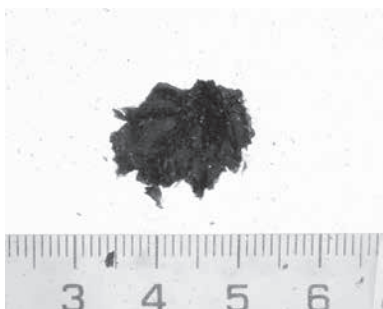
1415 植物葉 3 (7)



1416 植物葉 4



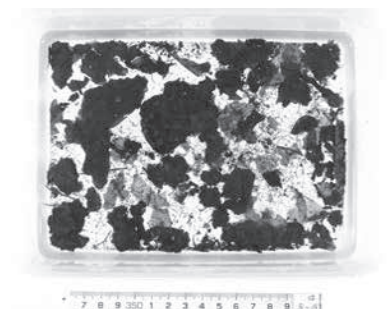
1417 植物葉 5



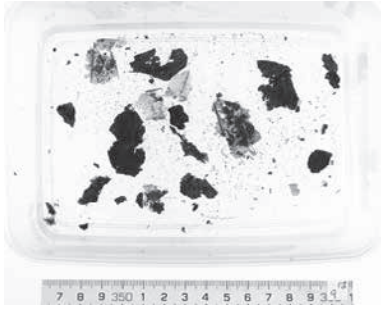
1418 植物葉 6



1419 植物葉 7



1420 植物葉 8



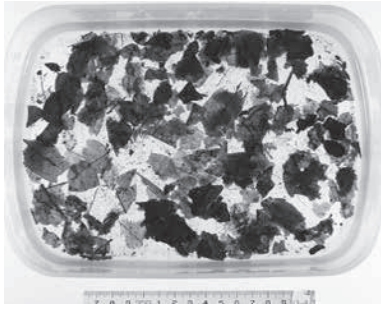
1421 植物葉 9



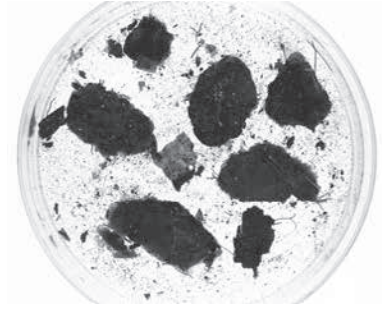
1422 植物葉 10



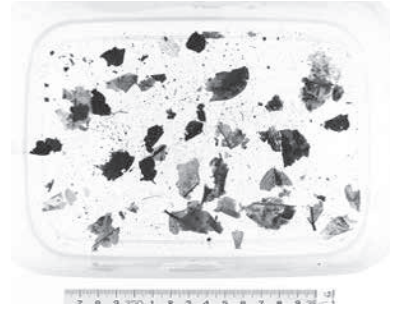
1423 植物葉 11



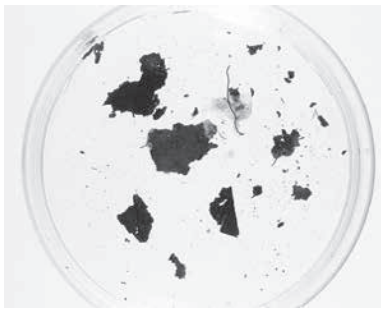
1424 植物葉 12



1425 植物葉 13



1426 植物葉 14



1427 植物葉 15



1428 菌類 1



1429 菌類 2



1430 菌類 3



1431 菌類 4



1432 菌類 5



1433 菌類 6

## 報告書抄録

ふりがな	しんでんにいせきはつくつちようさほうこくしよ								
書名	新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書								
副書名	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査								
巻次									
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 622 集								
編著者名	北田 勲								
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター								
所在地	〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地 TEL(019)638-9001								
発行年月日	2014 年 2 月 24 日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
しんでんにいせき 新田Ⅱ遺跡	いわてけんとおのし 岩手県遠野市 あやおりちょうしもあやおり 綾織町下綾織 31 地割 147-1 地内ほか	03208	MF53-0391	39 度 19 分 03 秒	141 度 27 分 56 秒	2011.10.04 ~ 2011.12.07  2012.04.10 ~ 2011.08.30	921㎡  3,225㎡	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）に係る発掘調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
新田Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	1 棟	縄文土器（前期初頭・中期中葉～末葉・後期初頭～中葉・晩期中葉～末葉）		前期初頭～晩期末葉の新田沢の変遷が確認され、沢岸から捨て場や堅果類（クルミ・トチノキ・クリ）の集中範囲が多数認められた。堅果類は、地下水位が高いため腐食を免れ、瑞々しい状態で出土した。		
			土坑	1 基	土製品（土偶・垂飾・耳飾・土版・球状・土錘・円盤・焼成粘土塊）				
			焼土遺構	1 基	石器（剥片石器・礫石器）				
			土器集積遺構	1 基	石製品（石棒）				
			土器設置遺構	2 基	昆虫・焼骨・堅果類・木葉・樹木				
			礫群	2 基					
			沢跡	5 期					
			柱穴状ピット	13 個					
			堅果類集中範囲	多数					
		平安時代	溝跡	3 条	土師器坏・甕				
			沢跡	1 期	須恵器大甕				
		平安以降 時期不明	溝跡	6 条	陶磁器（近現代）				
			沢跡	1 期	金属製品（蹄鉄・釘）				
要 約	<p>新田Ⅱ遺跡は、過去の調査で、遺跡の最も標高の高い部分は縄文前期の集落跡、中段部分は縄文中期の集落跡が営まれていたことが確認されており、なかでも縄文前期の集落跡は「綾織新田遺跡」として平成 14 年に国史跡に登録され、著名な遺跡として周知されている。今回の調査区は、遺跡内で最も西側の標高 240～245 m の谷部分に位置しており、現在の新田沢沿いの平坦地にある。</p> <p>ここから、縄文時代前期初頭～現代までの新田沢の変遷が確認され、7 時期に大別できることが分かった。特に縄文時代後期初頭、後期中葉、晩期後半には、沢岸が捨て場・作業場として利用されていた痕跡が見出された。</p> <p>捨て場からは、多量の土器の他に堅果類を中心とする植物遺存体が多く出土した。堅果類の大半は、オニグルミやトチノキ、クリであり、剥かれた殻が集中して確認されている。これらの遺物は、当時の食料環境が推定できる良好な資料である。</p> <p>また、平安時代や平安時代以降の遺構も確認され、長期間の人間活動の痕跡の一端が明らかとなった。</p>								



---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 622 集

**新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書**

東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）関連遺跡発掘調査

印刷 平成 26 年 2 月 19 日

発行 平成 26 年 2 月 24 日

編集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地  
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
〒 020-0066 岩手県盛岡市上田四丁目 2-2  
電話 (019) 624-3195

(公財) 岩手県文化振興事業団  
〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号  
電話 (019) 654-2235

印刷 川口印刷工業株式会社  
〒 020-0841 岩手県盛岡市羽場 10-1-2  
電話 (019) 632-2211